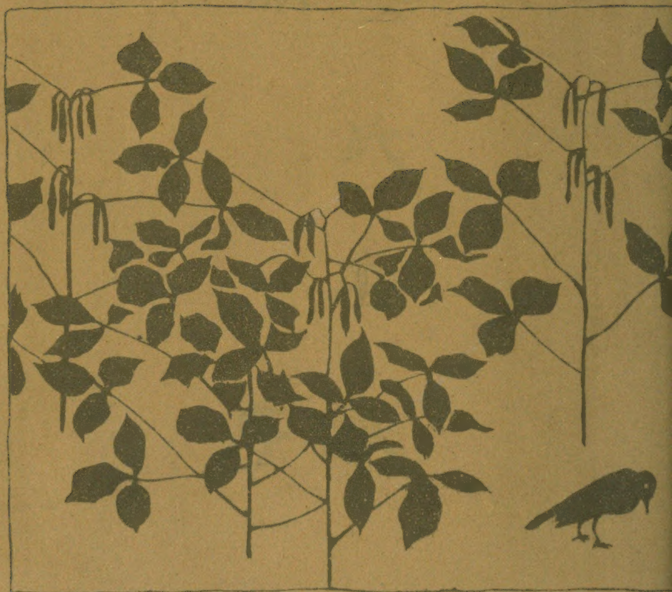




晏氏春秋　全

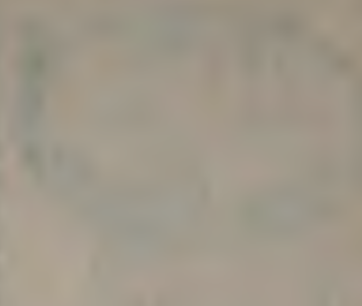
新序　全


LIBRARY
MAR 2 1970
UNIVERSITY OF TORONTO

例言

一晏子春秋及び新序の各全部を收めて本書一卷とす。

一二書共に和刻の流布板本を底本とし、晏子春秋集解、新序纂註の類を參考して訓讀略註せり。



目次

晏子春秋

新序

──（目 次 終）──

晏子春秋解題

第一　晏子春秋の由來

晏子春秋は、齊の晏平仲の行事を集錄したる者にして、（史記の本傳索隱の注に自著となすも非）其の著者明かならずと雖も、史記管晏列傳に、晏子春秋の名始めて見はれ、漢書藝文志にも晏子八篇を錄したれば、其の古書なると疑ふべからず。然るに年歳を經るに隨つて、篇章の順序を錯亂し、或は妄に之を分割して、大に眞本の面目を損す。清朝に至りて、孫星衍等之を校訂して、始めて舊觀に復することを得たり。日本見在書目にも旣に之を著錄したれば、早く我邦に渡來せしこと明かなり。近時富山房の漢文大系を發行するや、余に其の校訂を求む、乃ち孫本に本づき、更に顧廣圻の校訂を參照して、之を授く、篇目分れて七卷八篇となす。

第二　晏嬰の傳

晏嬰字は仲、謚を平といふ、故に又晏平仲ともいふ、齊國東萊夷維の人、其の父晏桓子(名は弱)は齊の大夫にして、齊の靈公二十六年卽ち魯の襄公十七年に沒したること左傳に見ゆ。(管仲の沒年を距ること九十年)晏嬰其後を繼ぎて、靈公、莊公、景公に臣事し、最も景公の信任を得、其の四十八年卽ち魯の定公の十年に沒す、十七年より十年までを數ふれば五十六年間なり、故に其年壽八十歲內外なるべきか、今其の著るしき行事を錄すること左の如し。

其一、崔杼の亂。莊公多く力士を養ひて、小人朝に盈し、又其の大夫崔杼の妻に通ず。杼乃ち賈擧等と計りて之を弑す、晏嬰亂を聞いて來る。家臣某其の出處進退を問ふ、晏子曰く、人君もし國家の爲に死するときは、臣下も亦之に殉ずること理の當然なりと雖も、之に反して唯だ自業自得の結果死するときは、平素其の私恩を蒙

る昵近の人に非ざる以上は、之が爲に命を捨つるに及ばずとて、莊公の尸に近より、之を股に枕せしめ、哭泣の禮を盡して去る。人ありて崔杼に之を殺すことを勸めしかど、杼聽かずして曰く、國民の信頼せる晏子を殺すは、民心を失ふの本なりと。我邦人より之を觀るときは、晏子の處置は、管仲が公子糾に殉死せず、又豫讓が范氏中行氏の爲に仇を報ぜずして、獨り智伯の爲に死を惜まざりしことと與に、道德上頗る非難すべきことの如しと雖も、是れ彼我國體の異なると、時勢の如何によりて生じたる事なれば、一律に論ずるを要せざるなり。されば晏子は決して生を愛し義を捨つる者に非ず、故に崔杼が更に國人を劫かして「必ず崔氏に同意すべく、もし之に背くときは上帝の天罰を蒙るも異存なし」といふ誓約書を徴取せし時、晏子は毅然として之を却け、其の誓文を變更して曰く「嬰もし君に忠ならず社稷の不利を圖る場合には、上帝の天罰を蒙むるも異存なし」といふ文書を認めて之を交附したり。（左傳襄公二十五年を見よ）

其二、謙遜家。　晏嬰は大夫の重位に在りと雖も、身を持すること極めて謙譲、常に弊車に乘じ駑馬に駕す、其の居宅も極めてせまくるしき町家なりしかば、景公賜ふに高爽なる土地を以てす、嬰辭して曰く「先臣以來の舊宅にて、是れすら寸功なき臣にとりては、贅澤といふべし。　且つ臣等の如き者は、かゝる町家に居住すれば、朝夕の買物にも極めて便利なり」と。　公笑つて曰く「其の言の如くんば、子は物價の貴賤をも知れるべし、願くは余に語れ」と。　晏子曰く「踊（刖罪者の使用する履）貴くして屨（常人の穿つもの）賤し」と。　當時景公妄に人を刑せしかば、晏子は此機會を利用して、之を諷したるなり。（左傳昭公三年）又かつて、景公は其女を晏子に嫁せしめんとして、内諭せしに、晏子は之を固辭したり。（本書卷五内篇雜上第五を見よ）

其三、先見家。　當時齊の大夫陳氏、私かに簒奪の志ありて、私恩を民に施す乃ち公定の枡よりも大量を容るゝ枡を製し、人民に貸し出すときには、私製を用ひ、之を收むるときは公定による。　又樹木魚介の類などを賣收して、原價にて之を人民に齎

りさけ、病疾貧困のものあれば、之が賑恤を怠らず、故に人民は皆な公室を怨んで、陳氏を德とす。　晏子之を知りて、國家の久しからずして陳氏の手に歸すること知り、機に乘じて數〻忠言苦諫せしも、大廈の傾くは、一木の支ふる所に非ず、其の沒後數十年にして、齊は遂に田氏に亡さるゝに至れり。（左傳昭公三年を見よ）

其四、節儉家。　晏嬰は節儉力行を以て諸侯に著る。　食は肉を重ねず、妻は帛を衣ず、三十年間常に古ぼけたる狐裘を着し、祭祀來賓の時に供するの肉も、申し譯ばかりに、皿の中に盛らるゝのみ、（禮記禮器篇）かくして餘財あれば、盡く散じて貧窮に賑恤す、其の餘澤を蒙りて生活をつなぎし者、三百餘家の多きに上れりといふ。

其五、同情家。　晏子かつて晉に之く、途に弊ぶれたる冠を着け、裘を裏反へにして、馬の飼草を負ひ路傍に休息する者に遭ふ。　其狀如何にも哀なりしかば、其の姓名を聞く。　其人曰く、余は越石父といふ者にして、人の臣僕たりと。　晏子は同情にたへかね、其馬車の左驂を其主人に贈りて、越石父の身を贖ひ、之を伴ひて家に歸る。

すでに至るや、晏子は越石父に對して、一言の挨拶をも陳べず、奥深く入りて、全く之を忘れたりしかば、越石父は怒り去らんとす。晏子驚いて其故を問ふ。答へて曰く、吾聞く君子は己を知らざるに屈して、己を知るに伸ぶと、嚮に余が奴隷たりしは、其の主未だ余を知らざるなり、君同情を以て余が身を贖ひ給へば、余を知れるなり。余を知れる君より、かゝる無禮を受くるは、誠に意外の事なり、其の同情も受くるに及ばずと。晏子卽ち之を延き入れて、上客となせり（史記の本傳及び本書内篇雜上）又かつて車を駕して、外出せし時、其の御者の妻、窃かに門間より其夫の樣子如何にと窺ひしに、御者は大蓋を擁し、駟馬に策ち、意氣揚揚たり。既にして歸宅の後、妻は離別を求めしかば、夫も突然の事とて且驚き且怪み、其の理由を尋ねしに、妻對へて曰く、晏子は長六尺に滿たざる小男のみ、然るに齊國の堂々たる宰相として、其名諸國に知らる。妾今朝其の容貌を視るに、謙遜なる態度を持して、少しも得意の姿なし。今子は八尺の偉大なる體格を持ちながら、他人の臣僕となりて、自ら滿足せら

るゝは、傍目よりも見るも、吾ながら恥かしき心地す、不甲斐なき事にあらずやと。其後御者の態度、全く異なりしかば、晏子怪しんで其故を知り、之を推薦して大夫となしたり。（史記本傳及び本書卷五內篇雜上、なほ晏子の矮少なりしことは、本書卷六內篇雜下を見よ）

其他善行美事頗る多しと雖も、今唯だ廣く人口に膾炙したる者を錄するのみ。是れに由りて之を觀れば、其忠信廉潔、眞に欽すべし。故に晏子自ら曰く「一心以て百君に事ふべく、三心以て一君に事ふべからず」（本書卷四內篇問下）と。又孔子晏子を稱して「善ク人ト交ル、久クシテ人之ヲ敬ス」（論語公冶長第五）といひしは、宜なるかな。

小柳司氣太

新序解題

本書の著者劉向の傳、學術、著作等に關しては、既に說苑解題中に縷述せるを以て今敢て之を贅せず。 單に本書の大要を解說すること左の如し。

本書の卷數は、隋書經籍志、唐書藝文志に於て、並に三十卷錄一卷と稱す、然るに次第に殘缺し、曾鞏更に之を校正して十卷となす、雜事五卷、刺奢一卷、節士二卷、善謀二卷卽ち是れなり。 戰國秦漢時代の史實を、前述の事類によりて彙集したる者にして、其體裁は說苑と略ぼ同じ。 葉大慶の考古質疑に、其誤謬を指摘し、又同一の事實にして、說苑と相反するが如き缺點(例すれば新序に、舟人古乘と趙簡子との談話をば說苑に固桑と晉平公との談話となし、新序に、楚共王が筦蘇に爵祿を授けたることをも、說苑に、楚文王が筦饒に與へたることにするが如き)あるも、其の大歸は之を孔子に本づけて粹然たり。要するに董仲舒揚雄の二氏と鼎立して、一代の儒宗となすに足る。

其の我邦に渡來せる時代に關しては、桂湖村氏の漢籍解題に「令集解十九に之を引用せるを見れば、龜山朝以前に在るは明なり」と斷ぜり。註釋本には武井驥の新序纂註十卷あり。

小柳司氣太

莊公奮乎勇力不顧于行義。勇力之士。無忌于國。貴戚不薦善。逼邇不引過。故晏子見公。公曰。古者亦有徒以勇力立于世者乎。晏子對曰。嬰聞之。輕死以行禮。謂之勇。誅

晏子春秋卷一

諫上第一

莊公、勇力を奮ひて行義を顧みず。勇力の士、國に忌む(一)ことなく、貴戚善を薦めず、逼邇(二)過(三)を引かず。故に晏子公に見ゆ。公曰く、古者も亦徒だ勇力を以て世に立てる者あるかと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、死を輕んじて以て禮を行ふ、之を勇と謂ひ、暴を誅して彊を避けず、之を力と謂ふと。故に勇力の立つや、以て其禮義を行ふなり。湯・武兵を用ひて、而も逆と爲さず、國を幷せて、而も貪と爲さざるは、仁義の理あればなり。暴を誅して彊を避けず、罪を替てて(四)衆を避けざるは、勇力の行なり。古の勇力を爲せる者は、禮義を行はんとてなり。今上は仁義の理するなく、下は罪を替て暴を誅するの行なく、而も徒に勇力を

暴不ㇾ避ㇾ彊。謂二之力一。故勇力之立也。以行二其禮義一也。湯武用ㇾ兵而不ㇾ爲ㇾ逆。并ㇾ國而不ㇾ爲ㇾ貪。仁義之理也。誅ㇾ暴不ㇾ避ㇾ彊。替ㇾ罪不ㇾ避ㇾ衆。勇力之行也。古之爲二勇力一者行二禮義一也。今上無二仁義之理一。下無二替ㇾ罪誅ㇾ暴之行一。而徒以二勇力一立二于世一。則諸侯行ㇾ之以國危。匹夫行ㇾ之以家殘。昔夏之衰也。有二椎侈大戲一。殷之衰也。有二費仲惡來一。足走二千里一。手裂二兕虎一。任ㇾ之以ㇾ力。凌二轢天下一。威二戮無罪一。崇二尙勇力一。不ㇾ顧二義理一。是以桀紂以滅。殷夏以衰。今公自奮二乎勇力一。不ㇾ顧二乎行義一。勇力之士。無ㇾ忌二于國一。身立二威强一。行本二淫暴一。貴戚不ㇾ薦ㇾ善。逼邇不ㇾ引ㇾ過。反二聖王之德一而循二滅君之行一。用ㇾ此存者。嬰未ㇾ聞ㇾ有也。

以て世に立たば、則ち諸侯之を行ひて以て國危く、匹夫之を行ひて以て家殘ふ。昔夏の衰ふるや、椎侈・大戲あり(五)、殷の衰ふるや、費仲・惡來あり。足千里を走り、手兕虎を裂く。之に任ずるに力を以てし、天下を凌轢し、無罪を威戮し、勇力を崇尙して、義理を顧みず。是を以て、桀紂以て滅び、殷夏以て衰ふ。今公自ら勇力を奮ひて、行義を顧みず。勇力の士國に忌むことなく、身威强を立て、行ひ淫暴を本とし、貴戚善を薦めず、逼邇過を引かず。聖王の德に反して、滅君の行に循ふ。此を用ひて存する者は、嬰未だ有ることを聞かざるなりと。

（一）憚り愼むことなきなり　（二）近臣　（三）過失をなして責を負はざるなり　（四）勇力の大なるを懼れずして、罪ある者を罰するなり　（五）勇力者の名

景公飲ㇾ酒。酣曰。今日願與ニ諸大夫一爲ニ樂飲一。請無ㇾ爲ㇾ禮。晏子蹴然改ㇾ容曰。君之言過矣。羣臣固欲ニ君之無ㇾ禮也。力多足ニ以勝ニ其長一。勇多足ニ以弑ㇾ君。而禮不ㇾ使也。禽獸以ㇾ力爲ㇾ政。彊者犯ㇾ弱。故日易ㇾ主。今君去ㇾ禮。則是禽獸也。羣臣以ㇾ力爲ㇾ政。彊者犯ㇾ弱。而日易ㇾ主。君將安立

景公酒を飲み、酣にして曰く、今日願はくは、諸大夫と樂飲を爲さん。請ふ、禮を爲すことなかれと。晏子(一)蹴然として容を改めて曰く、君の言過てり。羣臣は固より君の禮なきを欲するなり。力多くは以て其長に勝つに足り、勇多くは以て君を弑するに足る。而して禮使はざるなり。禽獸は力を以て政を爲し、彊なる者弱を犯す。故に日に主を易ふ。今君禮を去らば、則ち是れ禽獸なり。羣臣力を以て政を爲し、彊なる者弱を犯して、日に主を易へば、君將た安にか立たん。凡そ人の禽獸より貴き所以の者は、禮あるを以てなり。故に詩(二)に曰く、人にして禮なくんば、胡ぞ遄に死せざると。禮は無かるべからざるなりと。公、湎して聽かず。少間ありて、公出でしかども晏子起たず、公、入りしかども起たず。交(三)擧すれば則ち先づ飲む。公怒りて色變ず。抑手疾視して曰く、嚮者夫子の寡人に教へしは、無禮の不可なることなり。寡人出入するに起たず、交擧すれば則ち先づ飲むは禮かと。晏子席を避け、再拜稽首して請ひて曰く、嬰故へて君と言ひて、

矣。凡人之所三以貴二于禽獸一者。以レ有レ禮也。故詩曰。人而無レ禮。胡不二遄死一。禮不レ可レ無也。公湎而不レ聽。少間公出。晏子不レ起。公入不レ起。交擧則先飮。公怒色變。抑手疾視曰。嚮者夫子之敎二寡人一。無禮之不可也。寡人出入不レ起。交擧則先飮禮也。晏子避レ席。再拜稽首而請曰。嬰敢與レ君言。而忘レ之乎。臣以致二無禮之實一也。君若欲レ無レ禮。此是也。公曰。若レ是孤之罪也。夫子就レ席。寡人聞レ命矣。觴三行。遂罷レ酒。蓋是後也。飾レ法修レ理。以治二國政一。而百姓肅也。

之を忘れんや。臣は以て無禮の實を致せるなり。君若し禮なからんを欲せば、此れ是れなりと。公曰く、是の若きは孤の罪なり。夫子席に就け。寡人命を聞かんと。觴三行して、遂に酒を罷む。蓋し是の後より、法を飾へ理を修め、以て國政を治めて、百姓肅めり。

(一) 不安の貌　(二) 詩經鄘風相鼠篇　(三) 君臣の互に盃をあぐること

景公飮レ酒醒。三日而後發。晏子見曰。君病レ酒乎。公曰。然。晏子曰。古之飮レ酒也。足二

景公酒を飲みて醒ひ、(一)三日にして後に發す。(二)晏子見て曰く、君酒を病むかと。公曰く、然りと。晏子曰く、古の酒を飲むは、以て氣を通じ好を合するに足るのみ。故に男は羣樂して以て事を妨げず、女は羣樂して以て功を妨げず。男女羣樂するは、(三)周觴五獻、之を過ぐる者は誅す。君身ら之を服す。故に外に怨治

以通レ氣合レ好而已矣。故男不二羣樂以妨一レ事。女不二羣樂以妨一レ功。男女羣樂者。周觴五獻。過レ之者誅。君身服レ之。故外無二怨治一。內無二亂行一。今一日飲レ酒。而三日寢レ之。國治怨二乎外一。左右亂二乎內一。以二刑罰一自防者。勸二乎爲一レ非。以二賞譽一自勸者。惰二乎爲一レ善。上離二德行一。民輕二賞罰一。失下所二以爲一レ國矣。願君節レ之也。

なく、内に亂行なし。今一日酒を飲みて、三日之に寢す。國治外に(四)怨み、左右内に亂る。(五)刑罰を以て自ら防ぐ者は、非を爲すに勸み、賞譽を以て自ら勸む者は、善を爲すに惰る。上德行を亂れ、民賞罰を輕んじ、國を爲むる所以を失ふ。願はくは、君之を節せよと。

(一) 宿醉、ふつかゑい (二) 目を覺ますこと (三) 杯を五たび順に廻して飲むこと (四) 怨の誤なるべし (五) 刑罰のために惡をなさざりしものは、はげみて之をなすにいたること

景公飲レ酒。七日七夜不レ止。弦章諫曰。君欲レ飲レ酒。七日七夜。章願君廢レ酒也。不レ然

景公酒を飲み、七日七夜止まず。弦章諫めて曰く、君、酒を飲まんと欲すること七日七夜、章願はくは、君酒を廢せよ。然らずんば章に死を賜らんことをと。晏子入りて見ゆ。公曰く、章吾を諫めて曰く、願はくは君の酒を廢せんことを。然らずんば章に死を賜へと。是の如くにして之を聽かば、則ち(一)臣が制を爲すなり。

章賜死。晏子入見。公曰。章諫吾曰。願君之廢酒也。不然章賜死。如是而聽之。則臣爲制也。不聽。又愛其死。晏子曰。幸矣。章遇君也。今章遇桀紂者。章死久矣。於是公遂廢酒。

聴かず、又其死を愛むと。晏子曰く、幸なり、章が君に遇ひしこと。今章が桀(一)紂に遇はば、章死すること久しからんと。是に於て公遂に酒を廢せり。

㊀臣が君を支配するにいたるなり　㊁これを聴き入れずは、自殺せん。彼を殺すはまた惜しとなり

景公之時。霖雨十有七日。公飲酒日夜相繼。晏子請發粟于民。三請不見許。公命柏遽巡國致能歌者。晏子聞之不說。遂分家粟于氓。致任器于陌。徒行見公

景公の時、霖雨十有七日。公、酒を飲むこと日夜相繼げり。晏子、粟(一)を民に發せんことを請ふ。三たび請ひしかども許されず。公、柏遽に命じて、國を巡り能く歌ふ者を致けり。晏子之を聞きて説ばず。遂に家粟を氓に分ち、任(二)器を陌に致さしむ。徒行して公に見えて曰く、十有七日(三)なり。懐寶(四)、郷に數千あり。饑氓、里に數家あり。百姓老弱、凍寒に短褐を得ず、饑餓に糟糠を得ず。敝撤(六)走く無く、四顧告ぐるなし。而して君郵(五)へず。日夜酒を飲み、國に令し、樂を致して已まず。馬は府粟(七)を食し、狗は芻豢に饜き、三保(八)の妾、倶に粱肉に足る。狗馬保

日。十有七日矣。懷寶鄕有二數十一。饑氓里有二數家一。百姓老弱。凍寒不レ得二短褐一。饑餓不レ得二糟糠一。敝撤無レ走。四顧無レ告。而君不レ卹。日夜飮レ酒。令二國致レ樂不一レ已。馬食二府粟一。狗饜二芻豢一。三保之妾。俱足二粱肉一。狗馬保妾。不二已厚一乎。民氓百姓。不二亦薄一乎。故里窮而無レ告。無レ樂レ有レ上矣。饑餓而無レ告。無レ樂レ有レ君矣。嬰奉二數之筴一。以隨二百官之吏一。民饑餓窮約而無レ告。使下上淫レ酒失レ本而不上レ卹。嬰之罪大矣。再拜稽首。請レ身而去。遂走而出。公追レ之。兼二于塗一而不レ能レ逮。令三趣レ駕追二晏子一。其家不レ及下粟米盡二于氓一。任器存中于陌上。公驅及二之康内一。

妾、已だ厚からずや。民氓百姓、亦薄からずや。故に里窮して告ぐることなければ、上あるを樂むことなし。饑餓して告ぐることなければ、君あるを樂むことなし。嬰、數の筴(九)を奉じ、以て百官の吏を隨ふるに、民の饑餓窮約して告ぐることなく、上をして酒に淫し、本を失ひて卹へざらしむるは、嬰が罪大なり。再拜稽首、身を請ひて去らんと。遂に走りて出づ。公之を追ひ、塗を兼して(一〇)逮ぶこと能はず。駕を趣して晏子を追はしむ。其家、粟米氓に盡き、任器陌に存するに及ばずして、公驅りて之に康内(一一)に及ぶ。

(一) 賑恤をなさんとせるなり　(二) 用にたふる器具　(三) 霖雨の日數　(四) 寶は室の誤にて破屋の意か　(五) 短き織の粗衣毛　(六) 疲れて歩行しにくきをいふ　(七) 官署の粟　(八) 三室に在る景公の妾。保は室の意　(九) 書類　(一〇) 二日路を一日にゆくこと　(一一) 往來の多きところ

公下レ車從二晏子一曰。寡人有レ罪。夫子倍棄不レ援。寡人不レ足三以有二約也。夫子不レ顧二社稷百姓一乎。願夫子之幸存二寡人一寡人請。奉二齊國之粟米財貨一委二之百姓一多寡輕重。惟夫子之令。遂拜二于塗一。晏子乃返。命レ稟巡二氓家一。有二布縷之本一。而絶レ食者。使レ有二終月之委一。絶レ本之家。使レ有二

公、車を下り晏子に從ひて曰く、寡人罪あり。夫子倍き棄てて援はず。寡人以て約することあるに足らずとも、夫子、社稷百姓を顧みざらんや。願はくは、夫子の幸に寡人を存せんことを。寡人請ふ、齊國の粟米財貨を奉じて、之を百姓に委せんことを。多寡輕重は、惟だ夫子の令のまゝなりと。遂に塗に拜す。晏子乃ち返り、稟(二)に命じて氓家を巡せしめ、布縷の本(一)ありて食を絶つ者をば、終月の委(三)あらしむ。本を絶つの家は、朞年の食あらしめ、委積なきの氓は、之に薪橑を與へ、以て霖雨を畢ふるに足らしむ。伯(四)に令して氓家を巡せしめ、室の饗ぐこと能はざる者は、之に金を予へ、氓の用寡く財乏しき者を巡求して、死(五)三日にして畢る。後るゝ者は、令を用ひざるの罪の若し。公出でて舍し、肉を損し酒を撤し、馬は府粟を食はず、狗は飦(六)肉を食はず、辟拂(七)齊(八)を嗛(九)し、酒徒賜を減ず。三日にして吏畢を告げ、貧氓萬七千家、粟を用ふること九千七萬鍾、薪橑萬三千乘、懷寶二千七百家、金三千を上ぐ。公然して後内に就き退食し、琴瑟張らず、鐘

菲年之食。無二委積一之氓。與二之薪檫。使レ足三以畢二霖雨一。令レ伯巡二氓家一。室不レ能レ禦者。予二之金。巡二求氓寡レ用財乏者一。死三日而畢。後者若二不レ用レ令之罪一。公出舍。損レ肉撤レ酒。馬不レ食二府粟一。狗不レ食二飦肉一。辟拂嗛レ齊。酒徒減レ賜。三日吏告レ畢。上二貧氓萬七千家。用レ粟九千七萬鍾。薪檫萬三十乘。懷寶二千七百家。金三千一。公然後就レ内退食。琴瑟不レ張。鐘鼓不レ陳。晏子請下左右與レ可レ令二歌舞一。足丙以留乙思慮甲者上退レ之。辟拂三千。謝二于下陳一。人待三。士待四。出二之關外一也。

鼓陳ねず。晏子、左右と歌舞せしめて、以て思慮(一〇)を留むるに足るべき者とを請ひて、之を退く。辟拂三十、(一一)下陳に謝し、人(一二)は待つこと三、士は待つこと四、之を關外に出せり。

(一)倉廩を司る役人　(二)資本　(三)畜　(四)官名　(五)衍文か　(六)飦は、ほしじし　(七)樂人　(八)資なり、俸祿　(九)減なり　(一〇)樂なり、心たのしみ　(一一)堂の下　(一二)人は庶人。待つこと三とは、三日間の猶豫を與へて去らしめしなり

晏子朝。杜扃望羊待二于朝一。晏子曰。君奚故不レ朝。對曰。君夜發不レ可二

晏子朝す。杜扃望羊(一)として朝に待つ。晏子曰く、君奚の故に朝せざると。對へて曰く、君夜發(二)、以て朝すべからずと。晏子曰く、何の故ぞと。對へて曰く、梁丘據扃、歌人虞(三)を入れ齊音を變ず。晏子朝より退き、宗祝(四)に命じて、禮を修めて

以朝。晏子曰。何故。對曰。梁丘據扃。入歌人虞。變齊音。晏子退朝。命宗祝。修禮而拘虞。公聞之而怒曰。何故而拘虞。晏子曰。以新樂淫君。公曰。諸侯之事。百官之政。寡人願以請子。酒醴之味。金石之聲。願夫子無與焉。夫樂何夫必攻哉。對曰。夫樂亡而禮從之。禮亡而政從之。政亡而國從之。國衰臣懼。君之逆政之行。有歌紂作北里幽厲之聲。顧夫淫以鄙而偕亡。君奚輕變夫故哉。公曰不幸有社稷之業。不擇言而出之。請受命矣。

虞を拘へしむ。公之を聞きて怒りて曰く、何の故に虞を拘ふると。晏子曰く、新樂君を淫するを以てなりと。公曰く、諸侯の事、百官の政、寡人願はくは以て子に請はん。酒醴の味、金石の聲、願はくは夫子與ることなかれ。夫れ樂何ぞ夫れ必ず攻めんやと。對へて曰く、夫れ樂亡びて禮之に從ふ。禮亡びて政之に從ふ。政亡びて國之に從ふ。國衰へば、臣懼らくは、君の逆政の行はれ、紂が作りし北里と(五)幽・厲の聲を歌ふことあらんことを。(六)願ふに夫れ淫にして以て鄙、而して偕に亡ぶ。君奚ぞ夫の故を變ずることを輕んずると。公曰く、不幸にして社(七)稷の業あり。言を擇ばずして之を出せり。請ふ、命を受けんと。

(一) 望洋に同じ、あてなきさま　(二) 夜寝ざるをいふ　(三) 人名　(四) 官名　(五) 樂の名　(六) 周の二人暴政をなし、王の名　(七) 國家の事に忙しとなり

景公燕賞二于國內一。萬鍾者三。千鍾者五。令三出而職計莫二之從一。公怒令レ免二職計一。令三出而士師莫二之從一。公不レ悅。晏子見。公謂二晏子一曰。寡人聞。君レ國者。愛レ人則能利レ之。惡レ人則能疏レ之。今寡人愛レ人不レ能利。惡レ人不レ能疏。失二君道一矣。晏子曰。嬰聞レ之。君正臣從。謂二之順一。君僻

景公燕(一)して國內に賞す。萬鍾の者三、千鍾の者五。令三たび出でて職計(二)之に從ふこと莫し。公怒りて職計を免ぜしむ。令三たび出でて、士師之に從ふこと莫し。公悅ばず。晏子見ゆ。公、晏子に謂ひて曰く、寡人聞く、國に君たる者、人を愛すれば則ち能く之を利し、人を惡めば則ち能く之を疏んずと。今寡人人を愛して利すること能はず。人を惡んで疏んずること能はず。君道を失せりと。晏子曰く、嬰之を聞く、君正しく臣從ふ、之を順と謂ひ、君僻に臣從ふ、之を逆と謂ふ。今君、讒諛の民を賞して、吏をして必ず從はしめば、則ち是れ君をして其道を失ひ、臣をして其守を失はしむるなり。先王の愛を立てしは、以て善を勸むるなり。其の惡を立てしは、以て暴を禁ずるなり。昔者三代(三)の興るや、國に利ある者は之を愛し、國に害ある者は之を惡む。故に愛する所を明にして賢良衆く、惡む所を明にして邪僻滅す。是の以に天下治平、百姓和集す。其の衰ふるに及んでや、行簡易に安んじ、身逸樂に安んじ、己れに順なる者は之を愛し、己れに

臣從。謂ニ之逆一。今君賞ニ讒諛之民一。而令ニ吏必從一。則是使下君失ニ其道一。臣失中其守上也。先王之立レ愛。以勸レ善也。其立レ惡以禁レ暴也。昔者三代之興也。利ニ于國一者愛レ之。害ニ于國一者惡レ之。故明所レ愛而賢良衆。明レ所レ惡而邪僻滅。是以天下治平。百姓和集。及ニ其衰一也。行安ニ簡易一。身安ニ逸樂一。順ニ于己一者愛レ之。逆ニ于己一者惡レ之。故明レ所レ爲而邪僻繁。明レ所レ惡而賢良滅。離ニ散百姓一。危ニ覆社稷一。君上不レ度ニ聖王之興一。而下不レ觀ニ惰君之衰一。臣懼君之逆政之行。有司不ニ敢爭一。以覆ニ社稷一危ニ宗廟一。公曰。寡人不レ知也。請從ニ士師之策一。國內之祿。所レ收者三也。

逆なる者は之を惡む。故に爲す所を明にして邪僻繁く、惡む所を明にして賢良滅し、百姓を離散し、社稷を危覆す。君、上は聖王の興るを度らず、下は惰君の衰ふるを觀ず。臣懼らくは、君の逆政の行はれ、有司敢て爭はず、以て社稷を覆し、宗廟を危くせんことをと。公曰く、寡人知らざるなり。請ふ、士師の策に從はんと。國內の祿收むる所の者三なり。

(一)宴なり　(二)會計のことを掌るもの　(三)夏殷周　(四)訟獄を掌る官の長　(五)上書

景公信ニ用讒佞一。賞ニ無功一。罰ニ不辜一。晏子諫

景公、讒佞を信用し、無功を賞し、不辜を罰す。晏子諫めて曰く、臣聞く、明君は聖人を望みて其教を信ず。讒佞に聽きて以て誅賞することを聞かずと。今

曰。臣聞。明君望二聖人一而信二其教一。不レ聞下聽二讒佞一以誅賞上。今與二左右一相悅頌也。曰。比二死者一勉爲レ樂乎。吾安能爲レ仁。而愈黯民一耳矣。故內寵之妾。迫二奪于國一。外寵之臣。矯二奪于鄙一。執法之吏。並二苛百姓一。民愁苦約病。而姦驅尤佚。隱レ情奄レ惡。蔽二諂其上一。故雖レ有二至聖大賢一。豈能勝二

左右と相悅頌するや、曰く、死するときに比るまで、勉めて樂を爲さんか。吾れ安んぞ能く仁を爲して黯民に愈らんと。故に內寵の妾、國に迫奪し、外寵の臣、鄙に矯奪し、執法の吏、百姓を並苛し、民愁苦約病して、姦驅尤佚、情を隱し惡を奄ひ、其上に蔽諂す。故に至聖大賢ありと雖も、豈に能く若き讒に勝らんや。是を以てに忠臣の常に災傷あるなり。臣聞く、古者の士、與に之を得べく、與に之を失ふべからず。與に之を進むべく、與に之を退くべからずと。臣請ふ、之を逃れんと。遂に馬に鞭ちて出づ。公、韓子休をして之を追はしむ。曰く、孤不仁敎に順ふ能はず、以て此極に至る。夫子休せよ。國焉にか往かん。寡人將に而の後に從はんとすと。晏子遂に馬に鞭ちて返る。其僕曰く、嚮の去る、何ぞ速にして、今の返る、又何ぞ速なると。晏子曰く、子が知る所に非ざるなり。公の言至れりと。

(一) ほめこぶるなり (二) 庶民をいふ (三) 苛酷に取扱ふなり、苛は、苛に同じ

若讒哉。是以忠臣之常有二災傷一也。臣聞。古者之士。可二與得レ之。不レ可二與失レ之。可二與進レ之。不レ可二與退レ之。臣請逃レ之矣。遂鞭レ馬而出。公使二韓子休追レ之。曰。孤不仁不レ能レ順レ教。以至二此極一。夫子休國焉而往。寡人將レ從二而後一。晏子遂鞭レ馬而返。其僕曰。嚮之去何速。今之返又何速。晏子曰。非二子之所レ知也。公之言至矣。

翟王子羨。臣二于景公一以二重駕一。公觀レ之而不レ說也。嬖人嬰子欲レ觀レ之。公曰。及二晏子寢レ病也。居二囿中臺上一以觀レ之。嬰子悅レ之。因爲レ之請曰。厚祿レ之。公許諾。晏子起レ病而見レ公。公曰。翟王子羨之駕。寡人甚說レ

翟王の子羨、景公に臣たるに(一)重駕を以てす。公之を觀て說ばざるなり。嬖人(二)嬰子之を觀んと欲す。君曰く、晏子の病に寢ぬるに及ばんと。(三)囿中の臺上に居りて以て之を觀る。嬰子之を悅び、因りて之が爲に請ひて曰く、厚く之を祿せよと。公、許諾す。晏子病より起ちて公に見ゆ。公曰く、翟王子羨が駕、寡人甚だ之を說ぶ。請ふ、之を示さしめんかと。晏子曰く、駕御の事、臣、職なしと。公曰く、寡人一に之を樂む。是れ之を祿するに萬鍾を以てせんと欲す。其れ足らんかと。對へて曰く、昔者(四)衞士東野が駕や、公之を說べども嬰子說ばざれば、公因りて說ばず。遂に觀ず。今翟王子羨が駕や、公、說ばざるも嬰子說べば、公因りて之を悅び、爲に請へば公之を許す。則ち是れ婦人(五)制を爲すなり。且つ人

之。請使二之示一乎。晏子曰。駕御之事。臣無レ職焉。公曰。寡人一樂レ之。是欲三祿レ之以二萬鍾一。其足乎。對曰。昔衛士東野之駕也。公說レ之。嬰子不レ說。公因不レ說。遂不レ觀。今翟王子羨之駕也。公不レ說。嬰子說。公因悅レ之。爲請公許レ之。則是婦人爲レ制也。且不レ樂レ治レ人。而樂レ治レ馬。不三厚祿二賢人一。而厚祿二御夫一。昔者先君桓公之地。狹二于今一。修二法治一。廣二政教一。以霸二諸侯一。今君一諸侯無二能親一也。歲凶年饑。道途死者相望也。

を治むることを樂まずして、馬を治むることを樂む。厚く賢人を祿せずして、厚く御夫を祿す。昔者先君桓公の地、今より狹し。法治を修め、政教を廣め、以て諸侯に霸たり。今君一諸侯に能く親むなし。歲凶に年饑ゑて、道途に死する者相望む。

㊀ 車乘の、馬十六頭を駕せる者 ㊁ 景公の妾 ㊂ その時に觀んといふ意にて、晏子をおそるゝなり、㊃ 衛國の士 ㊄ 主君を制御する意

君不二此憂恥一。而惟圖二耳目之樂一。不レ修二先王之功烈一。而惟飾二駕御之

君此を憂恥せずして、惟だ耳目の樂を圖り、先王の功烈を修めずして、惟だ駕御の伎を飾るは、則ち公は民を顧みずして國を忘るゝや甚し。且つ詩に曰く、(一)載ち驂し。載ち駟す。君子の誡むる所なりと。夫れ八を駕するは、(二)固より制に非

佚。則公不顧民。而忘國甚矣。且詩曰。載驂載駟。君子所誡。夫駕八固非制也。今又重此。其爲非制也。不滋甚乎。且君苟美樂之。國必衆爲之。田獵則不便。道行致遠則不可。然而用馬數倍。此非御下之道也。淫于耳目。不當民務。此聖王之所禁也。君苟美樂之。諸侯

ざるなり。今又此を重ぬ。其の非制たるや、滋す甚しからずや。且つ君苟くも之を美樂せば、國必ず衆く之を爲さん。田獵すれば則ち不便、道行致遠は則ち不可、然り而して馬を用ふること數倍、此れ下を御するの道に非ざるなり。耳目に淫して民務に當らず。此れ聖王の禁ずる所なり。君苟くも之を美樂せば、諸侯必ず我に效ふ或らん。君、厚德善政の以て諸侯に被するなくして、之に易ふるに僻を以てす。此れ民を子とし、名を彰し遠きを致し、鄰國を親むの道に非ざるなり。且つ賢良廢滅し、孤寡振はれず、而るに嬖妾に聽き、以て御夫を祿し、以て怨を蓄ふるは、民と讎と爲るの道なり。詩に曰く、(三)哲夫城を成し、哲婦城を傾くと。今君成城の求を思はずして、惟だ傾城を之れ務む。國の亡ぶること日に至らん。君それ之を圖れと。公曰く、善しと。遂に復た觀ず。乃ち翟王子羨を罷め歸して、嬖人嬰子を疏ぜり。

(一) 詩經小雅采菽篇　(二) 誡を詩經には、屆につくり、いたるとよむ。驂はそへうま、駟はよつうま。即ち、諸侯

必或レ效レ我。君無三厚德善政以被二諸侯一。而易レ之以レ僻。此非下所二以子レ民。彰レ名致レ遠。親二鄰國一之道上也。且賢良廢滅。孤寡不レ振。而聽二嬖妾一。以祿二御夫一以蓄レ怨。與レ民爲レ讎之道也。詩曰。哲夫成レ城。哲婦傾レ城。今君不レ思二成城之求一。而惟傾城之務。國之亡日至矣。君其圖レ之。公曰。善。遂不二復觀一。乃罷二歸翟王子羨一。而疏二嬖人嬰子一。

朝觀のつとめのために威儀を正して來るをいふ　㈢ 八馬　㈣ 賑なり、救なり　㈤ 詩經大雅瞻仰篇　㈥ 男子は外を治めて國家の主たり、この故に才智あるときは、よく國を成立す。婦人は内に在りて、只衣食のことを主る、可不可なきを以て善しとす、もし才智あるときは、君を惑し政を亂り、遂に國を傾くるにいたるとなり

景公有二男子五人一。所レ使レ傅レ之者。皆有二車百乘一者也。晏子爲レ一焉。公召二其傅一曰。勉レ之。將下以二而所レ傅爲上レ子。及二晏子一。晏子辭曰。君命二其臣一。據二其肩一以盡二其力一。臣敢不レ勉。

景公、男子五人あり。之に傅せしむる所の者、皆車百乘を有する者なり。晏子も一たり。公、其傅を召して曰く、之を勉めよ。將に而が傅たる所を以て、㈠子と爲さんとすと。晏子に及ぶ。晏子辭して曰く、君其臣に命じ、其肩に據りて以て其力を盡さしむ。臣敢て勉めざらんや。今有の家、㈡此れ一國の權臣なり。人人其命を以て之を命じて曰く、將に而が傅たる所を以て子と爲さんすと。此れ樹を離し黨を別ち、國を傾くるの道なり。嬰敢て命を受けず。願はくは君之を圖れと。

㈠ 太子　㈡ 今車百乘を有するの家

乎。今有之家。此一國之權臣也。人人以二君命一命レ之曰。將下以二而所レ傳僞上子。此離レ樹別レ黨、傾レ國之道也。嬰不下敢受上レ命。願君圖レ之。

淳于人納二女于景公一。生二孺子荼一。景公愛レ之。諸臣謀欲下廢二公子陽生一而立上レ荼。公以告二晏子一。晏子曰。不可也。夫以レ賤匹レ貴。國之害也。置レ大立レ少。亂之本。夫陽生而長。國人戴レ之。君其勿レ易。夫服位有レ等。故賤不レ陵レ貴。立レ子有レ禮。故孼不レ

淳于の人、女を景公に納れ、孺子荼を生む。景公之を愛す。諸臣謀りて、公子(一)陽生を廢して荼を立てんと欲す。公以て晏子に告ぐ。晏子曰く、不可なり。夫れ賤を以て貴に匹するは、國の害なり。(二)大を置きて少を立つるは、亂の本なり。夫れ(三)陽生にして長せば、國人之を戴かん。君其れ易ふること勿れ。夫れ服位等あり。故に賤は貴を陵がず。子を立つること禮あり、故に(四)孼は宗を亂さず。願はくは君荼に敎ふるに禮を以てして、邪に陷ること勿く、之を導くに義を以てして、利に湛むこと勿れ。長少其道を行ひ、宗孼其倫を得ん。夫れ陽生は、敢て荼をして粱肉の味に饜き、金石の聲を玩ばしむるなくして、患あらんや。長を廢して少を立つるは、以て下を敎ふべからず。孼を尊び宗を卑くするは、以て愛する所を利すべからず。長少等なく、宗孼別なきは、是れ賤を設け姦を樹つるの本なり。

亂宗。願君教荼以禮。而勿陷于邪。導之以義。而勿湛于利。長少行其道。宗孼得其倫。夫陽生敢毋使荼孼粱肉之味。玩金石之聲。而有患乎。廢長立少。不可以教下。尊孼卑宗。不可以利所愛。長少無等。宗孼無別。是設賊樹姦之本也。君其圖之。古之明君。非不知繁樂也。以爲樂淫則衰。非不知立愛也。以爲義失則憂。是故制樂以節。立子以道。若夫恃讒諛以事君者。不足以責信。今君用讒人之謀。聽亂夫之言。廢長立少。臣恐後人之有因君之過。以資其邪。廢少而立長。以成其利者。君其

君其れ之を圖れ。古の明君、樂を繁くするを知らざるに非ざるなり。以爲へらく、淫を樂しめば則ち衰ふと。愛を立つるを知らざるに非ざるなり。以爲へらく、義失すれば則ち憂ふと。是の故に、樂を制するに節を以てし、子を立つるに道を以てす。若し夫れ讒諛を恃んで以て君に事ふる者は、以て信を責むるに足らず。今君讒人の謀を用ひて、亂夫の言を聽き、長を廢し少を立てば、臣は恐る、後人の、君の過に因りて、以て其邪を資くることあらんことを。少を廢して長を立つるは、以て其利を成す者なり。君其れ之を圖れと。公聽かず。景公歿す。田氏、君の荼を殺して陽生を立て、陽生を殺して簡公を立て、簡公を殺して齊國を取れり。

㊀國の名　㊁大は長子、少は小子　㊂長子の名　㊃孼は庶子をいひ、宗は嫡子をいふ

圖之。公不聽。景公沒。田氏殺君荼立陽生。殺陽生立簡公。殺簡公而取齊國。

景公疥且瘧。朞年不已。召會譴梁丘據晏子而問焉曰。寡人之病病矣。使史固與祝佗巡山川宗廟。犧牲珪璧莫不備具。數其常多先君桓公。桓公一則寡人再。病不已滋甚。予欲殺二子者。以說于上帝。其可乎。會譴梁丘據曰。可。晏子不

景公疥(一)して且つ瘧(二)す。朞年(三)にして已えず。會譴・梁丘據・晏子を召して問ひて曰く、寡人の病病(四)なり。史固と祝佗とをして、山川宗廟を巡らしむ。犧牲珪璧(五)、備具せざる莫し。數其れ常に先君桓公より多し。桓公一なれば、則ち寡人は再なり。病已えざること滋す甚し。予二子者を殺して、以て上帝に說かんと欲す。其れ可ならんかと。會譴・梁丘據曰く、可なりと。晏子對へず。公曰く、晏子は何如と。晏子曰く、君は祝(六)を以て益ありと爲すかと。公曰く、然りと。若し益ありと以爲はば、則ち詛(七)も亦損あらん。君、輔を疏んじて拂(八)を遠ざく。忠臣擁塞して諫言出でず。臣之を聞く、近臣默し、遠臣瘖(九)し、衆口金を鑠す。今聊攝より以東、姑尤より以西は、此れ其人民衆し。百姓の咎怨誹謗、君を上帝に詛する者多し。

㊀ ひぜん、しつ　㊁ 間歇熱、おこり　㊂ 一年　㊃ 病の重きをいふ　㊄ 美玉なり　㊅ 神によからんたと

對。公曰。晏子何如。晏子曰。君以ㇾ祝爲ㇾ有ㇾ益乎。公曰。然。若以二爲有一ㇾ益。則詛亦有ㇾ損也。君疏ㇾ輔而遠ㇾ拂。忠臣擁塞。諫言不ㇾ出。臣聞ㇾ之。近臣默。遠臣瘖。衆口鑠ㇾ金。今自二聊攝一以東。姑尤以西者。此其人民衆矣。百姓之咎怨誹謗。詛二君于上帝一者多矣。一國詛。兩人祝。雖二善祝者一。不ㇾ能ㇾ勝也。且夫祝直二言情一。則謗二吾君一也。隱二匿過一。則欺二上帝一也。上帝神則不ㇾ可ㇾ欺。上帝不ㇾ神。祝亦無ㇾ益。願君察ㇾ之也。不ㇾ然刑二無罪一。夏商

をいのるなり　⑦福ある人に禍あらんことを祈るなり　⑧弼と通ず、君主をたすくる賢士　⑨瘂なり、口をつむぎていはぬなり

一國詛して兩人祝す。善く祝する者と雖も、勝ふる能はざるなり。且つ夫れ祝、情を直言すれば、則ち吾君を謗るなり。過を隱匿すれば、則ち上帝を欺くなり。上帝神ならば則ち欺くべからず。上帝神ならざれば、祝も亦益なし。願はくは君之を察せよ。然らずして無罪を刑するは、夏商の滅びたる所以なりと。公曰く、善く余が惑を解けり。冠を加へよと。會譴に命じて、齊國の政を治むること毋く、梁丘據に賓客の事を治むる事毋からしめ、兼ねて之を晏子に屬す。晏子辭す。命を得ず。相を受けて退き、政を把ること(二)改月にして、君の病(三)悛えた

所以滅也。公曰。善解余惑。加冠。命會譴毋治齊國之政。梁丘據毋治賓客之事。乘屬之于晏子。晏子辭。不得命。受相退。把政改月。而君病悛。公曰。昔吾先君桓公以管子爲有力。邑狐與穀。以共宗廟之鮮。賜其忠臣。則是多忠臣者。子今忠臣也。寡人請賜子州款。辭曰。管子有一美。嬰不如也。有一惡。嬰不忍爲也。其宗廟之養鮮也。終辭而不受。

り。公曰く、昔吾先君桓公、管子を以て力ありと爲し、狐と穀とを邑にして、以て宗廟の鮮(三)に共(四)す。其忠臣に賜へば、則ち是れ忠臣なる者多し。子は今の忠臣なり。寡人請ふ、子に州款(五)を賜はんと。辭して曰く、管子一美あり、嬰如かざるなり。一惡あり、嬰爲すに忍びざるなり。其宗廟の養は鮮なりと。終に辭して受けず。

(一)一月を經てなり　(二)癒なり　(三)鮮肉　(四)供なり　(五)地名

景公遊于麥丘。問其封人曰。年幾何矣。對曰。鄙人之年八十五矣。

景公、麥丘に遊ぶ。其封人(一)に問ひて曰く、年幾何ぞや。對へて曰く、鄙人の年八十五と。公曰く、壽なるかな。子其れ我を祝せよと。封人曰く、君の年をして胡(二)より長じ、國家に宜しからしめんと。公曰く、善いかな。子其れ之を復せよ

公曰。壽哉。子其祝レ我。封人曰。使下君之年長二于胡一宜中國家上。公曰。善哉。子其復レ之。曰。使三君之嗣壽皆若二鄙臣之年一。公曰。善哉。子其復レ之。封人曰。使二君無レ得二罪于民一。公曰。誠有三鄙民得二罪于君一則可。安有下君得二罪于民一者上乎。晏子諫曰。君過矣。彼疏者有レ罪。戚者治レ之。賤者有レ罪。貴者治レ之。君得二罪于民一。誰將治ノ之。敢問桀紂君誅乎。民誅乎。公曰。寡人固也。于レ是賜二封人麥丘一以爲ノ邑。

と。曰く、君の嗣をして壽なること、皆鄙臣の年の若くならしめんと。公曰く、善いかな。子其れ之を復せよと。封人曰く、君をして罪を民に得ること無からしめんと。公曰く、誠に鄙民の罪を君に得ることあらば、則ち可なり。安ぞ君の罪を民に得る者あらんやと。晏子諫めて曰く、君過てり。彼の疏者罪あれば、戚(三)者之を治む。賤者罪あれば、貴者之を治む。君、罪を民に得ば、誰か將た之を治めん。敢て問ふ、桀紂は君誅するか、民誅するかと。公曰く、寡人固なりと。是に于て封人に麥丘を賜ひて、以て邑(四)と爲さしめたり。

(一) 國境を守る人 (二) 長壽なりし齊の先君胡公靜をいふ (三) 戚は近なり (四) 領地

楚巫微導二裔款一以見二景公一。侍坐三日。景

楚(一)の巫微、裔(二)款に導りて以て景公に見え、侍坐すること三日。景公之を說ぶ。楚巫曰く、公は明(三)神の主、帝王の君なり。公、位に卽きて有(四)七年、事未だ大に濟

公說之。楚巫曰。公明神主之。帝王之君也。公卽位有七年矣。事未大濟者。明神未至也。請致五帝以明君德。景公再拜稽首。楚巫曰。請巡國郊。以觀帝位。至于牛山。而不敢登。曰。五帝之位。在于國之南。齊而後登之。公命百官。供齊具于楚巫之所。齋款視事。晏子聞之。而見于公曰。公令楚巫齊牛山乎。公曰。然。致五帝以明寡人之德。神將降

らざる者は、明神未だ至らざるなり。請ふ、五帝を致して以て君の德を明にせんと。景公再拜稽首す。楚巫曰く、請ふ、國郊を巡して以て帝位を觀んと。牛山に至りて敢て登らず。曰く、五帝の位、國の南に在り。齊して後に之に登らんと。公、百官に命じて、齊具を楚巫の所に供し、齋款、事を視る。晏子之を聞きて公に見えて曰く、公は楚巫をして牛山に齊せしむるかと。公曰く、然り。五帝を致して以て寡人の德を明にせば、神將に福を寡人に降さんとす。其れ濟る所あらんかと。晏子曰く、君の言過てり。古の王者、德厚くして以て世を安んずるに足り、行廣くして以て衆を容るゝに足り、諸侯之を戴きて以て君長と爲し、百姓之に歸して以て父母と爲す。

(一)楚國の巫をつとむる者といふもの　(二)人名　(三)本文に明神主之とあるは、神明之主の誤　(四)又　(五)五方の神　(六)齋戒也

福于寡人。其有レ所レ濟乎。晏子曰。君之言過矣。古之王者。德厚足二以安一レ世。行廣足二以容一レ衆。諸侯戴レ之。以爲二君長一。百姓歸レ之。以爲二父母一。

是故天地四時。和而不レ失。星辰日月。順而不レ亂。德厚行廣。配レ天象レ時。然後爲二帝王之君。神明之主一。古者不二慢レ行而繁一レ祭。不二輕レ身而恃一レ巫。今政亂而行僻。而求二五帝之明德一也。棄レ賢而用レ巫。而求二帝王之在一レ身也。夫民不二苟德一。福不二

是の故に天地四時、和して失せず、星辰日月、順にして亂れず。德厚く行廣く、天に配し時に象る。然る後に帝王の君、神明の主と爲る。古者行を慢にして祭を繁くせず。身を輕んじて巫を恃まず。今政亂れて行僻す。而して五帝の明德を求むるなり。賢を棄てて巫を用ふ。而して帝王の身に在らんことを求むるなり。夫れ民苟くも德とせず、福苟くも降らず。君の帝王たること、亦難からずや。惜しいかな、君位の高くして論ずる所の卑きことと。公曰く、齋款、楚巫を以て寡人に命じて曰く、試嘗に見て觀せよと。寡人見て之を說び、其道を信じ其言を行ふ。今夫子之を譏る。請ふ、楚巫を逐ひて齋款を拘へんと。晏子曰く、楚巫出すべからずと。公曰く、何の故ぞと。對へて曰く、楚巫出では、諸侯必ず之を受くる或らん。公、之を信じて以て內に過たば不知、出して以て諸侯に外に

苟降。君之帝王。不二亦難一乎。惜夫君位之高。所レ論之卑也。公曰。裔款以二楚巫一。命二寡人一曰。試嘗見而觀焉。寡人見而説レ之。信二其道一。行二其言一。今夫子譏レ之。請逐二楚巫一而拘二裔款一。晏子曰。楚巫不レ可レ出。公曰。何故。對曰。楚巫出。諸侯必或レ受レ之。公信レ之以過二于内一不知。出以易二諸侯于外一不仁。請東二楚巫一而拘二裔款一。公曰。諾。故曰。送二楚巫于東一而拘二裔款于國一也。

易るは不仁。請ふ、楚巫を東せしめて、裔款を拘へんと。公曰く、諾と。故に曰く、楚巫を東に送りて、裔款を國に拘ふと。

㊀ みだりに君を徳とせずとなり　㊁ 諸侯をして代りて僞せしむるをいふ

齊大旱逾レ時。景公召二羣臣一問曰。天不レ雨久矣。民且有二饑色一。吾使二人卜一云。祟在二高山廣水一。寡人欲下少二賦斂一以祠中靈山上。可乎。羣臣莫レ對。晏

齊大に旱して時を逾ゆ。景公、羣臣を召して問ひて曰く、天雨らざること久し。民且つ饑色あり。吾れ人をして卜せしむれば、云ふ、祟、高山廣水に在りと。寡人賦斂を少くして、以て靈山(一)を祠らんと欲す、可ならんかと。羣臣對ふる莫し。晏子進みて曰く、不可なり。此を祠るとも益なし。夫れ靈山は、固より石を以て身と爲し、草木を以て髮と爲す。天久しく雨らずば、髮將に焦げんとし、身將に熱せんとせん。彼獨り雨を欲せざらんや。之を祠るとも益なからんと。公

子進曰。不可。祠此無益也。夫靈山固以石爲身。以草木爲髮。天久不雨。髮將焦。身將熱。彼獨不欲雨乎。祠之無益。公曰。不然。君欲祠可伯可乎。晏子曰。不可。河伯以水爲國。以魚鼈爲民。天久不雨。泉將下。百川竭。國將亡。民將滅矣。彼獨不欲雨乎。祠之何益。景公曰。今爲之奈何。晏子曰。君誠避宮殿暴露。與靈山河伯共憂。其幸而雨乎。于是景公出野居。暴露三日。天果大雨。民盡得種時。景公曰。善哉。晏子之言。可無用乎。其維有德。

曰く、然らずんば、吾れ河伯(三)を祠らんと欲す、可ならんかと。晏子曰く、不可なり。河伯は水を以て國と爲し、魚鼈を以て民と爲す。天久しく雨らずんば、泉將に下らんとし、百川竭きて、國將に亡びんとし、民將に滅びんとせん。彼獨り雨を欲せざらんや。之を祠るとも何の益あらんと。景公曰く、今之を爲すこと奈何と。晏子曰く、君誠に宮殿を避けて暴露し、靈山、河伯と憂を共にせば、其れ幸にして雨らんかと。是に于て、景公野に出でて居り、暴露すること三日、天果して大に雨り、民盡く種時(四)を得たり。景公曰く、善いかな、晏子の言。用ふるなかるべけんや。其れ維れ德ありと。

(一) 龜卜によりて吉凶を占ふなり　(二) 山靈にて山の神　(三) 河の神　(四) 穀物の種を蒔く時

景公將ㇾ觀二于淄上一與二晏子一閒立。公喟然歎曰。嗚呼。使ㇾ國可三長保而傳二于子孫一豈不ㇾ樂哉。晏子對曰。嬰聞。明王不二徒立一百姓不二虛至一今君以ㇾ政亂ㇾ國。以ㇾ行棄ㇾ民久矣。而聲俗保ㇾ之。不二亦難一乎。嬰聞ㇾ之。能長保ㇾ國者。能終ㇾ善者也。諸侯並立。能終ㇾ善者爲ㇾ長。列士並學。能終ㇾ善

景公將に淄上に觀ばんとす。晏子と閒立す。公喟然として歎じて曰く、嗚呼國をして長く保ちて、子孫に傳ふ可からしめば、豈に樂しからざらんやと。晏子對へて曰く、嬰聞く明王は徒に立たず、百姓は虛しく至らずと。今君、政を以て國を亂り、行を以て民を棄つること久し。而るに聲して之を保たんと欲す、亦難からずや。嬰之を聞く、能く長く國を保つ者は、能く善を終ふる者なり。諸侯並び立ちて能く善を終ふる者は長となり。列士並び學びて、能く善を終ふる者は師となる。昔先君桓公、其の賢に任じて德を貴くる時に方り、亡國は恃んで以て存し、危國は仰いで以て安し。是の以に民は其政を樂んで、世は其德行を高しとす。遠征暴勞する者疾まず。海內を驅り、天子に朝せしめて、諸侯怨みず。是時に當りて、盛君の行も進むるに能はず。其の卒するに及びて、德に衰怠して、身を樂ましむるに并し、婦侍に溺れて、謀、豎刁に因る。是の以に、民は其政を苦んで、世は其行を非る。故に身は胡宮に死して擧せず、蟲出でて收らず。是時に當

者爲レ師。昔先君桓公。其方ニ任レ賢而贊レ德之時。亡國恃以存。危國仰以安。是以民樂ニ其政一。而世高ニ其德行一。遠征暴勞者不レ疾。驅ニ海內一使朝ニ天子一。而諸侯不レ怨。當ニ是時一。盛君之行。不レ能レ進焉。及ニ其卒一而衰ニ怠于德一。而幷ニ于樂レ身。溺ニ于婦侍一。而謀因ニ豎刁一。是以民苦ニ其政一。而世非ニ其行一。故身死ニ乎胡宮一而不レ擧。蟲出而不レ收。當ニ是時一也。桀紂之卒。不レ能レ惡焉。詩曰。靡レ不レ有レ初。鮮ニ克有一レ終。不レ能レ終レ善者。不レ遂ニ其君一。今君臨レ民若ニ寇讎一。見レ善若レ避レ熱。亂レ政而危レ賢。必逆ニ于衆一。肆ニ欲于民一。而誅ニ虐于下一。恐及ニ于身一。嬰之年老。不レ能レ待ニ于君使一矣。行不レ能レ革。則持レ節以沒レ世耳。

りて、桀、紂の卒も惡しきこと能はず。詩(五)に曰く、初(六)あらざる靡し、克く終あること鮮しと。善を終ふる能はざる者は、其君を遂げしめず。今君、民に臨むこと寇讎の若く、善を見れば、熱を避くるが若く、政を亂して賢を危くす。必ず衆に逆ひ、欲を民に肆にして、下を誅虐し、恐らくは身に及ばん。嬰の年老いて君の使を待つこと能はず。行革むる能はずんば、則ち節を持して、以て世を沒せんのみと。

(一) 淄水のほとり (二) 上に出でずとなり (三) 桓公の德を慕りしをいふ (四) 人名 (五) 詩經大雅蕩篇 (六) 天衆民を生じて、賦する所の命、みな善なるべきに、その間に邪辟の性あれば、一樣なること能はず、蓋しその命を賦する初は、不善あることなし、然れどもその氣質をうくること同じからざるに因りて善道を以て自ら終ふるものすらなしとなり

景公遊二于牛山一。北臨二其國城一而流レ涕曰。若何滂滂。去レ此而死乎。艾孔梁丘據。皆從而泣。晏子獨笑二于旁一。公刷レ涕而顧二晏子一曰。寡人今日游悲。孔與レ據。皆從二寡人一而涕泣。子之獨笑何也。晏子對曰。使二賢者常守一レ之。則太公桓公將二常守一レ之矣。使二勇者常守一レ之。則莊公靈公將二常守一レ之矣。數君者將レ守レ之。則吾君安得二此位一而立焉。以二其迭處一レ之迭去一レ之。至二于君一也。而獨爲レ之流涕。是不仁也。不仁之君見レ一。諂諛之臣見レ二。此臣之

景公、牛山に遊び、北のかた其國城に臨みて涕を流して曰く、若何ぞ滂滂たるや。此を去つて死せんかと。艾孔・梁丘據、皆從ひて泣く。晏子獨り旁に笑ふ。公、涕を刷ひて晏子を顧みて曰く、寡人今日の游や悲し。孔と據と皆寡人に從ひて涕泣す。子の獨り笑ふは何ぞやと。晏子對へて曰く、賢者をして常に之を守らしめば、則ち太公・桓公將に常に之を守らんとす。勇者をして常に之を守らしめば、則ち莊公・靈公將に常に之を守らんとす。數君の者、將に之を守らんとす。則ち吾君安ぞ此位を得て立たん。其の迭に之に處り、迭に之を去るを以て、君に至れるなり。而るに獨り之が爲に流涕す。是れ不仁なり。不仁の君は一を見、諂諛の臣は二を見る。此れ臣が獨り竊に笑ひし所以なりと。

㊀ 水流の盛に流るるをいふ　㊁ 身の生きんことを欲して他を顧みざるをいふ　㊂ 貳心

所二以獨竊笑一也。

景公出遊二于公阜一。北面望二睹齊國一曰。嗚呼。使二古而無一レ死何如。晏子曰、昔者上帝以二人之死一爲レ善。仁者息焉。不仁者伏焉。若使二古而無一レ死。丁公大公將有二齊國一。桓襄文武將二皆相一レ之。君將下戴レ笠衣レ褐。執二銚耨一。以蹲二行畎畝之中一上。孰暇レ患レ死。公忿然

景公出でて公阜に遊び、北面して齊國を望睹して曰く、嗚呼古よりして死なからしめば何如と。晏子曰く、昔者上帝、人の死を以て善と爲す。仁者は息し、不仁者は伏す。若し古よりして、死なからしめば、丁公・大公將に齊國を有せんとし、桓・襄・文・武、將に皆之に相たらんとせん。君將に笠を戴き褐を衣、銚耨を執りて、以て畎畝の中に蹲行せんとす。孰ぞ死を患ふるに暇あらんやと。公忿然として色を作して説ばず。幾何もなくして、梁丘據六馬に御して來る。公曰く、是れ誰ぞやと。晏子曰く、據なりと。公曰く、何如と。曰く、大暑にして疾く馳す。甚しき者は馬死し、薄き者は馬傷す。據に非ざれば孰れか敢て之を爲さんと。公曰く、據は我と和する者かと。晏子曰く、此れ所謂同なり。所謂和は、君甘なれば則ち臣酸に、君淡なれば則ち臣鹹なり。今據や、甘なる者も亦甘なれば、所謂同なり。安んぞ和たるを得んと。公忿然として色を作して悦ばず。幾

作色不說。無幾何而梁丘據御六馬而來。公曰。是誰也。晏子曰。據也。公曰。何如。曰。大暑而疾馳。甚者馬死。薄者馬傷。非據孰敢爲之。公曰。據與我和者夫。晏子曰。此所謂同也。所謂和者。君甘則臣酸。君淡則臣鹹。今據也甘者亦甘。所謂同也。安得爲和。公忿然作色。

何もなくして日暮る。公、西面して、彗星を望睹し、伯常騫を召し、之を禳去せしむ。晏子曰く、不可なり。此れ天教なり。日月の氣、風雨時ならず。彗星(七)の出づる、天、民の亂るゝが爲に之を見すなり。故に之に妖祥を詔げ、以て不敬を戒む。今君若し文(八)を設けて諫を受け、聖賢の人に謁せば、彗星を去らずと雖も、將に自ら亡びんとせん。今君、酒を嗜みて樂に幷し、政、飾(九)せずして小人に寛く、讒を近づけ優(一〇)を好み、文を惡みて聖賢人を疏んず。何の暇か彗に在らん、茀(一一)又將に見れんとせんと。公忿然として色を作して悅ばず。晏子卒するに及び、公出でて背きて立ちて曰く、嗚呼。昔者夫子に從ひて公阜に遊べり。夫子一日にして三たび我を責めたり。今誰か寡人を責めんやと。

(一) 地名　(二) 仁者は泰然として死を待ち、小人は生をむさぼり、死を欲せずして死物のために死すことをいふ、息は休息の意　(三) みな齊の君主の名　(四) これも齊の君主の名　(五) すきへは　(六) 田圃　(七) 神に祈りてはらひのぞかしむること　(八) 學問　(九) 整ふること　(一〇) 俳優、藝人　(一一) 星の名、ほうき星

不レ悦。無二幾何一日暮。公西面望二睹彗星一。召二伯常騫一。使レ禳二去之一。晏子曰。不可。此天教也。日月之氣。風雨不レ時。彗星之出。天爲二民之亂一見レ之。故詔二之妖祥一。以戒二不敬一。今君若設レ文而受レ諫。謁二聖賢人一。雖レ不レ去二彗星一將二自亡一。今君嗜レ酒而并二于樂一。政不レ飾而寬二于小人一。近レ讒好レ優惡レ文而疏二聖賢人一。何暇在レ彗。茀又將レ見矣。公忿然作レ色不レ悦。及二晏子卒一。公出背而立曰。嗚呼。昔者從二夫子一而游二公阜一。夫子一日而三責レ我。今誰責二寡人一哉。

景公出二遊寒塗一。睹二死胔一。默然不レ問。晏子諫曰。昔吾先君桓公出遊。睹二饑者一。與二之食一。睹二疾者一。與二之財一。使令不レ勞レ力。籍斂不レ費レ民。先君將レ遊。百姓皆悦曰。君當幸遊二吾鄉一乎。今君

景公、寒塗に出遊し、死胔を睹て默然として、問はず。晏子諫めて曰く、昔吾が先君桓公（一）出遊するに、饑者（二）を睹れば之に食を與へ、疾者を睹れば之に財を與ふ。（三）使令力を勞せず。（四）籍斂民を費さず。先君將に遊ばんとすれば、百姓皆悦びて曰く、君當に幸に吾鄉に遊ぶべきかと。今君寒塗に游べば、四十里に據るの賦、財を殫して以て斂に奉ずるに足らず。力を盡して役に周き能はず。民氓饑寒凍餒し、死胔相望む。而して君問はず。君道を失せり。財屈き、力竭き、下は以て上に親むことなく、上は以て下を親むことなく、驕泰奢侈なり。上下交々離れ、君臣親なし。此れ三代の衰へし所以なり。今君之を行ふ。嬰は公族の危く、以て異

游二于寒塗一。據二四十里一之氓、殫レ財不レ足二以奉一レ斂。盡レ力不レ能レ周レ役。民氓饑寒凍餒。死胔相望。而君不レ問。失二君道一矣。財屈力竭。下無二以親一レ上。驕泰奢侈。上無二以親一レ下。上下交離。君臣無レ親。此三代之所二以衰一也。今君行レ之。嬰懼二公族之危一。以爲二異姓之福一也。公曰。然。爲レ上而忘レ下。厚二籍斂一而忘レ民。吾罪大矣。于レ是斂二死胔一。發二粟于民一。據二四十里一之民。不レ服レ政其年。公三月不二出游一。

姓の福を爲さんことを懼るゝなりと。公曰く、然り。上と爲りて下を忘れ、籍斂を厚くして民を忘る。吾罪大なりと。是に于て死胔を斂め、粟を民に發す。四十里に據るの民、政に服せざること其年(六)、公三月出遊せず。

(一)地名　(二)死屍　(三)民を使ふに勞せずとなり　(四)賦稅を收むること　(五)匱憊せしをいふ　(六)其年に同じ、一年

景公之時。雨レ雪三日而不レ霽。公被二狐白之裘一。坐二堂側陛一。晏子入見。立有レ間。公曰。

景公の時、雪を雨すこと三日にして霽れず。公、狐白(一)の裘を被、堂の側陛(二)に坐す。晏子入見し、立つこと間あり。公曰く、恠なるかな。雪を雨すこと三日にして、天寒からずと。晏子對へて曰く、天は寒からざらんやと。公笑ふ。晏子曰く、嬰聞く、古への賢君は飽きて、人の饑を知り、溫にして人の寒を知り、逸(三)

怪哉。雨ㇾ雪三日。而天不ㇾ寒。晏子對曰。天不ㇾ寒乎。公笑。晏子曰。嬰聞。古之賢君。飽而知二人之饑一。溫而知二人之寒一。逸而知二人之勞一。今君不ㇾ知也。公曰。善。寡人聞ㇾ命矣。乃令三出ㇾ裘發ㇾ粟與二饑寒一。令下所ㇾ睹二于塗一者。無ㇾ問二其鄕一。所ㇾ睹二于里一者。無ㇾ問二其家一。循ㇾ國計數。無ㇾ言二其名一。士既事者兼ㇾ月。疾有兼上歲。孔子聞ㇾ之曰。晏子能明二其所ㇾ欲。景公能行二其所ㇾ善也。

にして人の勞を知ると。今君知らざるなりと。公曰く、善し。寡人命を聞けりと。乃ち裘を出し粟を發し、饑寒に與へしめ、塗に睹る所の者、其鄕を問ふことなく、里に睹る所の者、其家を問ふことなく、國を循りて計數し、其名を言ふことなく、士の既に事ふる者月を兼ね、(四)疾む者歲を兼ねしむと。(五)孔子之を聞きて曰く、晏子は能く其の欲する所を明にし、景公は能く其の善みする所を行ふと。

(一) 白き狐の腋下の皮にて製したる高價の毛皮　(二) 段なり　(三) 安なり　(四) 二ケ月分を與へしをいふ　(五) 二ケ年なり

景公之時。熒惑守二于虛一。朞年不ㇾ去。公異ㇾ之。召二晏子一而問曰。吾聞ㇾ之。

景公の時、熒惑(一)虛(二)を守り、朞年にして去らず。公之を異む。晏子を召して問ひて曰く、吾れ之を聞く、人の善を行ふ者は、天之を賞し、不善を行ふ者は、天之を殃すと。熒惑は天罰なり。今虛に留る。其れ孰れか(三)之に當らんと。晏子

人行善者。天賞之。行不善者。天殃之。熒惑天罰也。今留虛。其孰當之。晏子曰。齊當之。公不悅曰。天下大國十二。皆曰諸侯。齊獨何以當。晏子曰。虛齊野也。且天之下殃。固于富彊。爲善不用。出政不行。賢人使遠。讒人反昌。百姓疾怨。自爲祈祥。錄錄彊食。進死何傷。是

曰く、齊之に當らんと。公悅ばずして曰く、天下の大國十二、皆諸侯と曰ふ。齊獨り何を以て當るかと。晏子曰く、虛は齊の野なり。且つ天の殃を下すこと、固より富彊に于てす。善を爲して用ひられず、政を出して行はれず。賢人遠きに使はれ、讒人反つて昌に、百姓疾怨し、自ら爲に祥を祈り、錄錄(四)として彊食す。死に進むも何ぞ傷まん。是の以に列舍(五)次なく、變星芒あり。熒惑回逆し、孽星(六)旁に在り、賢を有して用ひずんば、安んぞ亡びざるを得んと。公曰く、去るべきかと。對へて曰く、致すべき者は去るべし。致すべからざる者は、去るべからずと。公曰く、寡人之を爲すこと若何と。對へて曰く、盍ぞ冤聚(七)の獄を去りて田に反らしめ、百官の財を散じ、之を民に施し、孤寡を振して、老人を敬せざる。夫れ是の若き者は、百惡去るべし。何ぞ獨り是の孛のみならんやと。公曰く、善しと。之を行ふこと三月にして、熒惑遷れり。

(一) 禍をあたへ又兵亂をおこす星　(二) 齊國の分野　(三) この禍にあたるとなり　(四) 力なきなり　(五) 二十八

以列舍無次。變星有芒。熒惑回逆。孽星在旁。有賢不用。安得不亡。公曰。可去乎。對曰。可致者可去。不可致者。不可去。公曰。寡人爲之若何。對曰。盡去冤聚之獄。使反田矣。散百官之財。施之民矣。振孤寡而敬老人矣。夫若是者。百惡可去。何獨是孽乎。公曰。善。行之三月。而熒惑遷。

宿の列次 ㈥禍をなす星 ㈦無事にてありながら囚はれ居る罪人

景公舉兵。將伐宋。師過泰山。公夢見二丈夫立而怒。其怒甚盛。公恐覺。辟門召占夢者。至。公曰。今夕吾夢二丈夫立而怒。不知其所言。其怒甚盛。吾猶識其狀。識其聲。占夢

景公兵を擧げ、將に宋を伐たんとす。師（一）、泰山を過る。公夢に見る。二丈夫立ちて怒る。其怒甚だ盛なり。公恐れて覺め、門を辟き占夢者を召して至らしむ。公曰く、今夕吾れ二丈夫の立ちて怒るを夢む。其の言ふ所を知らず。其の怒る甚だ盛なり。吾れ猶ほ其狀を識り、其聲を識ると。占夢者曰く、師、泰山を過りて事を用ひず。故に泰山の神怒れるなり。請ふ、趣（二）に祝史を召して、泰山を祠らば則ち可ならんと。公曰く、諾と。明日晏子朝見す。公、之に告ぐること、占夢の言の如くす。公曰く、占夢者の言に曰く、師、泰山を過りて（三）事を用ひず。故に泰山の神怒れるなりと。今人をして祝史を召して之を祠らしむと。晏子俯する

こと間あり。對へて曰く、占夢者は識らざるなり。此れ泰山の神に非らず。是れ宋の先湯と伊尹となり。

(一)軍關　(二)神祇を掌る官　(三)祭りて禮をつくさずと也　(四)宋の祖先の殷の湯王とその相の伊尹となり

者曰。師過二泰山一而不レ用レ事。故泰山之神怒也。請趣召二祝史一祠二乎泰山一則可。公曰。諾。明日晏子朝見。公告レ之。如二占夢之言一也。公曰。占夢者之言曰。師過二泰山一而不レ用レ事。故泰山之神怒也。今使下人召二祝史一祠上レ之。晏子俯有レ間。對曰。占夢者不レ識也。此非二泰山之神一。是宋之先湯與二伊尹一也。公疑以爲二泰山神一。晏子曰。公疑レ之。則嬰請言二湯伊尹之狀一也。湯質皙而長顏以髯。兌上豐下。倨身而揚聲。公曰。然。是已。伊尹黑而短。

公は疑ひて以て泰山の神と爲せりと。晏子曰く、公之を疑はば、則ち嬰請ふ、湯・伊尹の狀を言はん。湯は質皙にして長顏以て髯あり。兌上豐下、倨身にして揚聲と。公曰く、然り。是れのみと。伊尹は黑くして短く、蓬にして髯あり。豐上兌下、僂身にして下聲と。公曰く、然り。是れのみ。今若何と。晏子曰く、夫れ湯・太甲・武丁・祖乙は、天下の盛君なり。宜しく後なかるべからず。今惟り宋あるのみ。而るに公之を伐つ。故に湯・伊尹怒る。請ふ、師を散じ以て宋を平げ

蓬而髯〔三〕豐上兌下〔一〕。僂身而下聲〔四〕。公曰。然。是已。今若何。晏子曰。夫湯太甲武丁祖乙〔五〕、天下之盛君也。不レ宜レ無レ後。今惟宋耳。而公伐レ之。故湯伊尹怒。請散レ師以平レ宋〔六〕。景公不レ用。終伐レ宋。晏子曰。伐二無罪之國一以怒二明神一。不二易行以續蓄一。進レ師以近レ過。非二嬰所一レ知也。師若果進。軍必有レ殃。軍進再舍。鼓毀將レ殪。公乃辭二乎晏子一。散レ師不レ果レ伐レ宋。

よと。景公用ひず。終に宋を伐つ。晏子曰く、無罪の國を伐ち、以て明神を怒らし、易行して以て續蓄せず〔七〕。師を進めて以て過に近づくは、嬰が知る所に非ざるなり。師若し果して進まば、軍必ず殃あらんと。軍進みて再舍す。鼓毀れ將に殪れんとす。公乃ち晏子に辭し、師を散じて宋を伐つを果さず。

〔一〕上の鋭く下の豐かなるをいふ。兌は鋭也　〔二〕體の曲りて聲の高きをいふ。倨は曲也　〔三〕蓬髮なるをいふ　〔四〕體の曲りて聲の低き也　〔五〕殷の君にて宋の祖先　〔六〕宋の人心を平にせよと也　〔七〕行を改めて從事を續けて行はずと也

景公畋二于署梁一。十有八日而不レ返。晏子自レ國往見レ公。比レ至。衣冠不レ

景公、署梁〔一〕に畋〔二〕す。十有八日にして返らず。晏子、國より往きて公に見ゆ。至る比、衣冠正しからず。衣冠を革めず。游を望みて馳す。公、晏子を望見し、下りて急帶〔三〕して曰く、夫子何爲れぞ遽なる。國家、故あることなからんやと。晏

正。不革衣冠。望游而馳、公望見晏子。下而急帶曰、夫子何爲遽。國家無有故乎。晏子對曰、不亦急也。雖然嬰願有復也。國人皆以爲安野而不安國、好獸而惡民。毋乃不可乎。公曰、何哉。吾爲夫婦獄訟之不正乎。則泰士子牛存矣。爲社稷宗廟之不享乎。則泰祝子

子對へて曰く、亦急ならざるなり。然りと雖も、嬰願はくは復すことあらん。國人、皆以爲へらく、野に安んじて國に安んぜず。獸を好みて民を惡むと。乃ち不可なること毋からんやと。公曰く、何ぞや。吾れを夫婦の獄訟を正さずと爲すか、則ち泰士子牛存す。社稷宗廟を享せずと爲すか、則ち泰祝子游存す。諸侯賓客に之に應ずること莫しと爲すか、則ち行人子羽存す。田野辟けず、倉庫實たずと爲すか、則ち申田存す。國家の有餘暇に足らずと爲すか、則ち吾子存す。寡人の吾子ある、猶ほ心の四支あるがごとし。心に四支あり、故に心佚するを得。今寡人に吾子あり。故に寡人佚するを得。豈に不可ならんやと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、君の言と異なり。乃ち心の四支ありて、心の佚することを得るが若くは、四支をして心無からしむるを得べし。十有八日、亦久しからずやと。公是に于て畋を罷めて歸れり。

(一) 地名　(二) 田に同じ、狩る也　(三) 車より下りて急に帶をしむるをいふ　(四) 安逸也

游存矣。爲諸侯賓客莫之應乎。則行人子羽存矣。爲田野之不辟倉庫之不實。則申田存焉。爲國家之有餘不足聘乎。則吾子存矣。寡人之有吾子。猶心之有四支。心有四支。故心得佚焉。今寡人有吾子。故寡人得佚焉。豈不可哉。晏子對曰。嬰聞之。與君言異。若乃心之有四支。而心得佚焉。可得令四支無心。十有八日。不亦久乎。公于是罷畋而歸。

景公射鳥。野人駭之。公怒令吏誅之。晏子曰。野人不知也。臣聞。賞無功。謂之亂。罪不知。謂之虐。兩者先王之禁也。以飛鳥犯先王之禁。不可。今君不明先王之制。而無仁義之心。是以從欲而輕誅。夫鳥獸固人之養也。野人駭之。不亦宜乎。公曰。善。自今已後。弛鳥獸之禁。無以苛民也。

景公鳥を射る。野人之を駭す。公怒つて、吏をして之を誅せしむ。晏子曰く、野人は知らざるなり。臣聞く、功なきを賞す、之を亂と謂ひ、知らざるを罪す、之を虐と謂ふと。兩の者は先王の禁なり。飛鳥を以て先王の禁を犯すは不可なり。今君先王の制を明にせずして、仁義の心なし。是の以に、欲を從にして誅を輕んず。夫れ鳥獸は固より人の養なり。野人之を駭す。亦宜べならずやと。公曰く、善し。今より已後、鳥獸の禁を弛め、以て民を苛すること無からんと。

● 賢也

景公使三圉人養二所レ愛馬一。暴死。公怒令下人操レ刀解中養レ馬者上。是時晏子侍レ前。左右執レ刀而進。晏子止而問二于公一曰。堯舜支二解人一。從二何軀一始。公矍然曰。從二寡人一始。遂不二支解一。公曰。以屬レ獄。晏子曰。此不レ知二其罪一而死。臣爲レ君數レ之。使レ知二其罪一。然後致二之獄一。公曰。可。晏子數レ之曰。爾

景公、圉人をして愛する所の馬を養はしむ。暴に死す。公怒り、人をして刀を操り、馬を養ふ者を解かしむ。是時晏子前に侍す。左右刀を執りて進む。晏子止めて公に問ひて曰く、堯・舜の人を支解するとき、何の軀より始めたるかと。公矍然として曰く、寡人より始むと。遂に支解せず。公曰く、以て獄に屬せんと。晏子曰く、此れ其罪を知らずして死す。臣、君の爲に之を數めて、其罪を知らしめ、然る後に之を獄に致さんと。公曰く、可なりと。晏子之を數めて曰く、爾が罪三あり。公、汝をして馬を養はしむ。而るに之を殺せり。死に當る罪の一なり。又公の最も善みする所の馬を殺せり。死に當る罪の二なり。公をして、一馬の故を以て人を殺さしむ。百姓之を聞かば、必ず吾君を怨みん。諸侯之を聞かば、必ず吾國を輕んぜん。汝、公の馬を殺して、怨をして百姓に積み、兵をして鄰國より弱からしむ。汝、死に當る罪の三なり。今以て獄に屬すと。公喟然として歎じて曰く、夫子之を釋せ。夫子之を釋せ。吾仁を傷ふこと勿れと。

罪有レ三。公使二汝養一レ馬。而殺レ之。當レ死罪一也。又殺下公之所二最善一馬上。當レ死罪二也。使下公以二一馬之故一而殺中人。百姓聞レ之。必怨二吾君一。諸侯聞レ之。必輕二吾國一。汝殺二公馬一。使下怨積二于百姓一。兵弱中于鄰國上。汝當レ死罪三也。今以屬レ獄。公喟然嘆曰。夫子釋レ之。夫子釋レ之。勿レ傷二吾仁一也。

(一) うま飼　(二) 驚視の貌　(三) 此一句脱落あるべし、解すべからず

景公藉重而獄多。拘者滿レ圄。怨者滿レ朝。晏子諫レ公。不レ聽。公謂二晏子一曰。夫獄國之重官也。願託二之夫子一。晏子對曰。君將レ使三嬰勑二其功一乎。

諫下第二

景公、藉(一)重くして獄多く、拘者圄(二)に滿ち、怨者朝に滿つ。晏子、公を諫む。聽かず。公、晏子に謂ひて曰く、夫れ獄(三)は國の重官なり。願はくは之を夫子に託せんと。晏子對へて曰く、君、將に嬰をして其功(四)を勑(五)せしめんとするか。則ち嬰に壹妾あり。書を能くす。以て之を治むるに足る。君將に嬰をして其意(六)を勑せしめんとするか。夫れ民は其家室の生を殘ひて、以て暴上の僻に奉ずることを欲する者なし。則ち君、吏をして比(七)して之を焚かしめんのみと。景公悅ばずして曰く、

則嬰有壹妾。能書。足以治之矣。君將使嬰勅其意乎。夫民無欲殘其家室之生。以奉暴上之僻者。則君使吏比而焚之而已矣。景公不悅曰。勅其功則使一妾。勅其意則比焚。如是夫子無所謂能治國乎。晏子曰。嬰聞與君異。今夫胡貉戎狄之畜狗也。多者十有余。寡者五六。然不相害傷。今束雞豚妾投之。其折骨決皮可立待也。且夫上正其治。下審其論。則貴賤不相踰越。今君舉千鍾爵祿。而妾投之于左右。左右爭之。甚于胡狗。而公不知也。

其功を勅するには則ち一妾を使ひ、其意を勅するには則ち比焚す。是の如くば夫子の所謂能く國を治むること無きかと。晏子曰く、嬰が聞きしこと、君と異なり、今夫れ胡貉(八)戎狄の狗を蓄ふや、多き者は十有余、寡き者は五六。然れども相害傷せず、今雞豚を束ね、妾に之を投ぜば、其の骨を折り皮を決せんこと、立ちどころに待つべきなり。且つ夫れ上は其治を正し、下、其論を審にせば、則ち貴賤相踰越せず。今君千鍾の爵祿を舉げて、妾に之を左右に投ず。左右の之を爭ふこと胡狗より甚し。而して公知らざるなり。

(一) 賦稅也 (二) 獄、ひとや (三) 獄官 (四) 事業 (五) 減也、注意なり (六) 人民の意志 (七) 人民と一所に火あぶりの刑に處する也 (八) 貉に同じ、蠻人

寸之管無レ當。天下不レ能レ足之以レ粟。今齊國丈夫耕。女子織。夜以接レ日。不レ足三以奉レ上。而君側皆雕文刻鏤之觀。此無レ當之管也。而君終不レ知。五尺童子。操二寸之煙一天下不レ能レ足以レ薪。今君之左右。皆操レ煙之徒。而君総不レ知。鐘鼓成レ肆。干戚成レ舞。雖レ禹不レ能レ禁二民之觀一。且夫飾二民之欲一。而嚴二其德一。禁二其心一。聖人所レ難也。而況奪二其財一而饑レ之。勞二其力一而疲レ之。常致二其苦一。而嚴聽二其獄一。痛誅二其罪一。非二嬰所一レ知也。

寸の管に當(一)なくんば、天下之を足らしむるに粟を以てすること能はず。今齊國は丈夫耕し女子織り、夜以て日に接げども、以て上に奉ずるに足らず。而して君側は皆雕文刻鏤の觀、此れ當なきの管なり。而して君終に知らず。五尺(二)の童子、寸の煙を操らば、天下足らしむるに薪を以てする能はず。今君の左右は、皆煙を操るの徒、而して君終に知らず。鐘鼓肆(三)を成し、干戚(四)舞を成せば、禹と雖も民の觀を禁ずる能はず。且つ夫れ民の欲を飾(五)へて其德を嚴にし、其心を禁ずるは、聖人の難とする所なり。而るを況んや、其財を奪ひて之を饑ゑしめ、其力を勞して之を疲らし、常に其苦を致して、嚴に其獄を聽き、痛く其罪を誅す。嬰が知る所に非ざるなりと。

(一) 底 (二) 一尺は二歳半 (三) 列なり (四) たてとをの、舞に用ふるもの。 (五) 整ふなり

景公有㆓所㆑愛槐㆒。令㆓吏謹守㆑之。植㆑木縣㆑之。下㆑令曰。犯㆑槐者刑。傷㆑之者死。有㆓不㆑聞㆑令。醉而犯㆑之者㆒。公聞㆑之曰。是先犯㆓我令㆒。使㆓吏拘㆑之。且加㆑罪焉。其子往辭㆓晏子之家㆒。託曰。負郭之民。賤妾請有㆑道㆓于相國㆒。不㆑勝㆓其欲㆒。願得㆑充㆓數乎下陳㆒。晏子聞㆑之笑曰。嬰其淫㆓于色㆒乎。何爲老

景公愛する所の槐あり。吏をして謹みて之を守らしむ。木を植て、之に縣け令を下して曰く、槐を犯す者は刑せん。之を傷ふ者は死せしめんと。令を聞かず、醉ひて之を犯す者あり。公之を聞きて曰く、是れ先づ我令を犯すと。吏をして之を拘へしめ、且つ罪を加へんとす。其子往きて、晏子の家に辭し、託して曰く、負郭の民、賤妾請ふ、相國に道ふことあらん。其欲に勝へず。願はくは、數に下陳に充つることを得んと。晏子之を聞きて笑ひて曰く、嬰其れ色に淫せんや。何爲れぞ老いて奔る。然りと雖も、是れ必ず故あらん。之を内れしめよと。女子門に入る。晏子之を望見して曰く、怪なるかな。深憂ありと。進んで問うて曰く、憂ふる所は何ぞやと。對へて曰く、君槐を樹ゑて令を縣く。之を犯す者は刑し、之を傷ふ者は死せしむ。妾が父は、不仁にして令を聞かず。醉ひて之を犯せり。吏將に罪を加へんとす。妾之を聞く、明君の國に蒞み、政を立つるや、祿を損せず、刑を益さず。又私意を以て公法を害せず、禽獸の爲に人民を傷は

而見犇。雖然是必有故。令內之。女子入門。晏子望見之曰。怪哉。有深憂。進而問焉曰。所憂何也。對曰。君樹愧縣令。犯之者刑。傷之者死。妾父不仁。不聞令。醉而犯之。吏將加罪焉。妾聞之。明君蒞國立政。不損祿。不益刑。又不以私意害公法。不爲禽獸傷人民。不爲艸木傷禽獸。不爲野艸傷禾苗。吾君欲以樹木之故。殺妾父。孤妾身。此令行于民。而法于國矣。雖然妾聞之。勇士不以衆彊凌孤弱。明惠之君。不拂是以行

ず、艸木の爲に禽獸を傷はず、野艸の爲に禾苗を傷はずと。吾君、樹木の故を以て、妾が父を殺し、妾が身を孤にせんと欲す。此令、民に行はれて國に法す。然りと雖も妾之を聞く、勇士は、衆強(六)を以て孤弱を凌がず。明惠の君は、是に拂り(七)て以て其の欲する所を行はず。此れ之を譬ふるに、猶ほ自ら魚鼈を治むる者のごとし。其の腥臊(八)なる者を去るのみ。賑墨(九)の人(一〇)と庾肆(一一)に比居すれば、人をして危坐(一二)せしむと。今君、令を民に出す、苟も國に法るべくして、善後世に益せば、則ち父の死も亦當れり(一三)。妾之が爲に收めらるゝも亦宜なり。

(一) その女子也　(二) 貢は背也、郭は城の外郭なり。都城に近き地　(三) 色欲　(四) 下婢　(五) 奔に同し、淫のためにはしるをいふ　(六) 人多くして勢のつよき也　(七) そむく也　(八) なまぐさきこと、不正なるをいふ　(九) 賑は昧の誤、物事の道理に暗きなり　(一〇) 衆人　(一一) 庾はこめぐら。庾肆は市場　(一二) 恐れて不安の念を懐かしむと也　(一三) よくあてはまることなり

其所レ欲。此譬レ之。猶下自治二魚鼈一者上也。去二其腥臊者一而已。昧墨與レ人。比二居庾肆一而敎二人危坐一。今君出二令于民一。苟可レ法二于國一而善益二于後世一。則父死亦當矣。妾爲レ之收亦宜矣。

甚乎今之令不レ然。以二樹木之故一。罪二法妾父一。妾恐其傷二察吏之法一。而害二明君之義一也。鄰國聞レ之。皆謂三吾君愛レ樹而賤二レ人。其可乎。願相國察二妾言一。以裁二犯レ禁者一。晏子曰。甚矣。吾將三爲レ子言二之于君一。使二人送一レ之歸。明日早朝。而復二于公一曰。

甚しきかな。今の令は然らず。樹木の故を以て、妾が父を罪法す。妾恐らくは、其の察吏の法を傷りて、明君の義を害せんことを。鄰國之を聞かば、皆吾君を樹を愛して人を賤むと謂はん。其れ可ならんや。願はくは相國、妾が言を察して以て禁を犯せる者と裁せよと。晏子曰く、甚し。吾れ將に子が爲に之を君に言はんとすと。人をして之を送りて歸らしむ。明日早に朝して、公に復して曰く、嬰之を聞く、民の財力を窮めて、以て嗜欲に供す。之を暴と謂ふ。玩好を崇びて、威厳君に擬す。之を逆と謂ふ。不辜を刑殺す。之を賊と謂ふ。此三者は、國を守るの大殃なり。今君、民の財力を窮めて、以て飲食の具を厚くし、鐘鼓の樂を繁くし、宮室の觀を極め、暴の大なる者を行ひ、玩好を崇びて、愛槐の令を縣く、乘りて過ぐる者は馳し、歩して過ぐる者は趨し、威厳、君に擬す。逆の明なる者

嬰聞レ之。窮二民財力一、以供二嗜欲一。謂二之暴一。崇二玩好一。威嚴擬二乎君一。謂二之逆一。刑二殺不辜一。謂二之賊一。此三者守レ國之大殃。今君窮二民財力一。以羨二飲食之具一。繁二鐘鼓之樂一。極二宮室之觀一。行二暴之大者一。崇二玩好一。縣二愛槐之令一。載過者馳。步過者趨。威嚴擬二乎君一。逆之明者也。犯レ槐者刑。傷レ槐者死。殺不レ稱。賊レ民之深者。君享レ國。德行未レ見二于衆一。而三辟著二于國一。嬰恐其不レ可二以蒞レ國子一レ民也。公曰。微三大夫教二寡人一。幾有二大罪一以累二社稷一。今子大夫教レ之。社稷之福。寡人受レ命矣。晏子出。公令下趣罷二守レ槐之役一。拔二置レ縣之木一。廢二傷レ槐之法一。出中犯レ槐之囚上。

なり。槐を犯す者は刑し、槐を傷ふ者は死せしむ。殺、稱はず(四)。民を賊するの深き者なり。君、國を享けて、德行未だ衆に見れず。而して三辟(五)、國に著る。嬰恐らくは、其れ以て國に蒞み民を子とすべからざることをと。公曰く、大夫の寡人に教ふる微りせば(六)、幾ど大罪ありて以て社稷を累さん。今子大夫之を教へしは、社稷の福なり。寡人命を受くと。晏子出づ。公趣に槐を守るの役を罷め、(七)縣を置くの木を拔き、槐を傷るの法を廢し、槐を犯すの囚を出さしめたり。

(一) 早朝也 (二) 罪なき人 (三) わざはひ (四) あてはまらず (五) 罪 (六) 無なり (七) 懸に同じ、制札

景公樹レ竹。令二

景公竹を樹ゑ、吏をして謹みて之を守らしむ。公出でて之を過る。竹を斬る者

吏謹守之。公出過之。有斬竹者焉。公以車逐得而拘之。將加罪焉。晏子入見曰。公亦聞吾先君丁公乎。公曰。何如。晏子曰。丁公伐曲沃勝之。止其財出其民。公日自涖之。有輿死人以出者。公怪之。令吏視之。則其中金與玉焉。吏請殺其人收其金玉。公曰。以兵降城。以衆圍財不仁。且吾聞之。人君者寬惠慈衆。不身傳誅。命捨之。公曰。善。晏子退。公令出斬竹之囚。

あり。公、車を以て逐ひ得て之を拘へたり。將に罪を加へんとす。晏子入見して曰く、公も亦吾先君丁公を聞けるかと。公曰く、何如と。晏子曰く、丁公、曲沃を伐ちて之に勝ち、其財を止め、其民を出せり。公日に自ら之に涖む。死人を輿して以て出づる者あり。公之を怪み、吏をして之を視しむ。則ち其中は金と玉となり。吏、其人を殺し、其金玉を收めんと請ふ。公曰く、兵を以て城を降し、衆を以て財を圍むは不仁なり。且つ吾れ之を聞く、人君は寬惠にして衆を慈む。身ら誅を傳にせずと。命じて之を捨さしめたりと。公曰く、善しと。晏子退く。公、竹を斬るの囚を出さしめたり。

㊀ 專也　㊁ 斂也

景公令兵摶

景公、兵をして摶治せしむ。臘氷月の間に當りて寒し。民に凍餒多くして功成

治。當二臘氷月之間一而寒。民多二凍餒一而功不レ成。公怒曰。爲レ我殺二其二人一。晏子曰。諾。少爲レ間。晏子曰。昔者先君莊公之伐二于晉一也。其役殺二兵四人一。今令而弑二兵二人一。是師之半也。公曰。諾。是寡人之過也。令止レ之。

らず。公怒りて曰く、我が爲に其二人を殺せと。晏子曰く、諾と。少しく間を爲す。晏子曰く、昔者先君莊公の晉を伐つや、其役に兵四人を殺せり。今令して兵二人を殺さしむ。是れ師の半なりと。公曰く、諾。是れ寡人の過なりと。令して之を止めしめたり。

㈠ 土にて瓦をつくる也　㈡ 夏曆の十二月

晏子使二于魯一。比二其返一也。景公使三國人起二大臺之役一。歲寒不レ已。凍餒之者。鄉有焉。國人望二晏子一。晏子至。已復レ

晏子、魯に使す。其の返る比、景公、國人をして大臺の役を起さしむ。歲寒くして已めず。凍餒の者鄉に有り。國人、晏子を望む。晏子至る。已にして事を復す。公廼ち坐して酒を飲みて樂む。晏子曰く、君若し臣に賜はば、臣請ふ、之を歌はんと。歌ひて曰く、庶民の言に曰く、凍水洗ふ。我れ之を若何。太上靡(一)散す、我れ之を若何と。歌ひ終り、喟然として歎じて涕を流す。公就きて之を

事。公迺坐飲酒樂。晏子曰。君若賜臣。臣請歌之。歌曰。庶民之言曰。凍水洗。我若之何。太上靡散。我若之何。歌終。喟然歎而流涕。公就止之曰。夫子曷爲至此。殆爲大臺之役夫。寡人將速罷之。晏子再拜。出而不言。遂如大臺。執扑鞭其不務者曰。吾細人也。皆有蓋廬。以避燥濕。君爲壹臺。而不速成。何爲。國人皆曰。晏子助天爲虐。晏子歸未至。而君出令趣罷役。車馳而人趨。仲尼聞之。喟然歎曰。古之善爲人臣者。聲名

止めて曰く、夫子曷爲れぞ此に至る。殆ど大臺の役の爲か。寡人將に速に之を罷めんとすと。晏子再拜し、出でて言はず。遂に大臺に如く。扑を執り、其の務めざる者を鞭ちて曰く、吾は細人なり、(二)皆蓋廬(三)あり、以て燥濕を避く。君、壹臺を爲りて速に成らず。何を爲ると。國人皆曰く、晏子は、天を助けて虐を爲すと。晏子歸りて未だ至らず。而して君、令を出して趣に役を罷めしむ。車馳せて人趨る。仲尼之を聞き、喟然として嘆じて曰く、古の善く人臣たる者は、聲名之を君に歸し、禍災之を身に歸す。入りては則ち其君の不善を切磋し、出でては則ち其君の德義を高譽す。是の以に、惰君に事ふと雖も、能く衣裳を垂れ諸侯を朝せしむ。敢て其功に伐らす、此道に當れる者は、其れ晏子是れかと。

(一) 太上は君、靡散は亂れて行はれざることをいふ　(二) 小人也、國人也　(三) 家屋

歸ニ之君一。禍災歸ニ之身一。入則切ニ磋其君之不善一。出則高ニ譽其君之德義一。是以雖ㇾ事ニ惰君一。能使下垂ニ衣裳一朝中諸侯上。不ㇾ敢伐ニ其功一。當ニ此道一者。其晏子是耶。

景公爲ニ長床一。將欲ㇾ美ㇾ之。有ニ風雨作一。公與ニ晏子一入坐。飲ㇾ酒致ニ堂上之樂一。酒酣晏子作ㇾ歌曰。穗乎不ㇾ得ㇾ穫。秋風至兮殫零落。風雨之弗ㇾ殺也。大上之靡弊也。歌終。顧而流ㇾ涕。張躬而舞。公就ニ晏子一而止ㇾ之曰。今日夫子爲ㇾ賜而誡ニ于寡人一。是寡人之罪。遂廢ㇾ酒罷ㇾ役。不ㇾ果ㇾ成ニ長床一。

景公、長床(一)を爲り、將に之を美にせんと欲す。風雨の作るあり。公、晏子と入りて坐し、酒を飲み、堂上の樂を致す。酒酣にして晏子歌を作りて曰く、穗か、穫ることを得ず。秋風至りて、殫く零落す。風雨の殺せざるなり。大上の靡弊(二)なりと。歌に終り、顧みて涕を流し、張躬して舞ふ。公、晏子に就きて之を止めて曰く、今日夫子賜を爲して寡人を誡む。是れ寡人の罪なりと。遂に酒を廢し役を罷め、長床を成すことを果さず。

(一) 齊の臺の名　(二) 敗れ亂るゝをいふ

景公築ニ路寢一

景公、路寢(一)の臺を築き、三年にして未だ息まず。又長床の役を爲し、二年にし

之臺。三年未息。又爲長庲之役。二年未息。又爲鄒之長塗。晏子諫曰。百姓之力勤矣。公不息乎。公曰。塗將成矣。請成而息之。對曰。明君不屈民財者。不得其利。不窮民力者。不得其樂。昔者楚靈王作頃宮。三年未息也。又爲章華之臺。五年又不息也。乾溪之役八年。百姓之力不足而息也。靈王死于乾溪。而民不與君歸。今君不遵明君之義。

て未だ息まず。又鄒の長途を爲る。晏子諫めて曰く、百姓の力勤めたり。公、息めざるかと。公曰く、塗將に成らんとす。請ふ、成りて之を息めんと。對へて曰く、明君の民財を屈さざる者は、其利を得ざればなり。民力を窮せざる者は、其樂を得ざればなり。昔者楚の靈王、頃宮を作る。三年にして未だ息まざるなり。又章華の臺を爲る、五年にして又息まざるなり。乾溪の役八年、百姓の力足らずして息む。靈王、乾溪に死して、民は君と歸らず。今君、明君の義に遵はずして靈王の跡に循ふ。嬰は、君に民を暴ふの行ありて、長庲の樂を嗜まんことを惧るゝなり。之を息むるに若かずと。公曰く、善し。夫子に非ざれば、寡人罪を百姓に得ることの深きを知らざるなりと。是に于て、餘財を委壞すること勿く、斬板を收むること勿くして之を去らしめたり。

(一) 正堂　(二) 積みて役だたなくする也　(三) 土を積むに用ふる板

而循二靈王之跡一。嬰懼下君有二暴レ民之行一。而不上レ睹二長庲之樂一也。不レ若レ息レ之。公曰。善。非二夫子一者。寡人不レ知下得二罪于百姓一深上也。于レ是令下勿レ委二壞餘財一。勿レ收二斬板一而去上レ之。

景公春夏游獵。又起二大臺之役一。晏子諫曰。春夏起レ役。且游獵奪二民農時一。國家空虛不可。景公曰。吾聞。相賢者國治。臣忠者主逸。吾年無レ幾矣。欲下遂二吾所レ樂。卒中吾所上レ好。子其息矣。晏子曰。昔文王不三敢盤二游于田一。故國昌而民安。楚

景公、春夏に游獵し、又大臺の役を起す。晏子諫めて曰く、春夏に役を起し、且つ游獵す。民の農時を奪ひて、國家の空虛なるは不可なりと。景公曰く、吾れ聞く、相賢なるときは國治り、臣忠なるときは主逸(一)すと。吾れ年幾もなし。吾が樂む所を遂(二)して、吾が好む所を卒へんと欲す。子其れ息せよと。晏子曰く、昔文王敢て田(三)に盤游せず。故に國昌にして民安し。楚の靈王、乾谿の役を廢せず、章華の臺を起て、而して民之に叛けり。今君革めず、將に社稷を危うして、諸侯の爲に笑はれんとす。臣聞く、忠は死を避けず、諫は罪を遂けずと。君、臣に聽かずんば、臣將に逝かんとすと。景公曰く、唯唯、將に之を弛(四)罷せんとすと。未だ幾ならざるに、韋冏を朝し、役を解きて歸れり。

(一) 安也 (二) 成也 (三) 狩也 (四) ゆるめやめる也

靈王不廢乾谿之役。起章華之臺。而民叛之。今君不革、將危社稷。而爲諸侯笑。臣聞。忠不避死。諫不避罪。君不聽臣。臣將遊矣。景公曰。唯唯。將弛罷之。未幾朝韋閣。解役而歸。

景公獵休。坐地而食。晏子後至。左右滅葭而席。公不說曰。寡人不席而坐地。二三子莫席。而子獨搴艸而坐之。何也。晏子對曰。吾聞。介冑坐陣不席。獄訟不席。尸坐堂上不席。三者皆憂也。故不敢以憂侍坐。公曰。諾。令人下席曰。大夫皆席。寡人亦席矣。

景公、休に獵し、地に坐して食す。晏子後れて至り、左右葭を滅して席す。公説ばずして曰く、寡人席せずして地に坐す。二三子席すること莫くして、子獨り艸を搴きて之に坐するは何ぞやと。晏子對へて曰く、吾れ聞く、介冑して陣に坐するに席せず。獄訟に席せず。尸、堂上に坐するに席せず。三つの者は皆憂なり。故に敢て憂を以て侍坐せずと。公曰く、諾と。人をして席を下さしめて曰く、大夫皆席せよ。寡人も亦席せんと。

(一) 擷に同じ、ぬきてそろへる也　(二) 甲冑を身に帶ぶる也

景公出獵。上

景公出獵す。山に上りて虎を見、澤に下りて蛇を見る。歸りて晏子を召して

山見虎。下澤見蛇。歸召晏子而問之曰。今日寡人出獵。上山則見虎。下澤則見蛇。殆所謂不祥也。晏子對曰。國有三不祥。是不與焉。夫有賢而不知。一不祥。知而不用。二不祥。用而不任。三不祥也。所謂不祥。乃若此者。今上山見虎。虎之室也。下澤見蛇。蛇之穴也。如虎之室。如蛇之穴而見之。曷爲不祥也。

之を問ひて曰く、今日寡人出獵す。山に上れば則ち虎を見、澤に下れば則ち蛇を見たり。殆ど所謂不祥なりと。晏子對へて曰く、國に三不祥あり。是れ與らず。夫れ賢ありて知らざるは一不祥なり。知りて用ひざるは二不祥なり。用ひて任ぜざるは三不祥なり。所謂不祥とは、乃ち此の若き者なり。今山に上りて虎を見しは、虎の室なり。澤に下りて蛇を見しは、蛇の穴なり。虎の室に如き、蛇の穴に如きて之を見る、曷爲れぞ不祥ならんと。

〇 室、棲む所

景公爲臺。臺成。又欲爲鐘。晏子諫曰。君國者。不樂民之哀。君不勝

景公、臺を爲る。臺成る。又鐘を爲らんと欲す。晏子諫めて曰く、國に君たる者、民の哀を樂まず。君は欲に勝たず。既に臺を築き、今復た鐘を爲る。是れ民に重斂するなり。民必ず哀まん。夫れ民の哀を斂めて、以て樂と爲すは不

欲。既築レ臺矣。今復爲レ鐘。是重二斂于民一。民必哀矣。夫斂二民之哀一。而以爲レ樂不祥。非下所二以君七國者上。公乃止。

祥なり。國に君たる所以の者にあらずと。公乃ち止めたり。

（一）租税を重くする也

景公泰呂成。謂二晏子一曰。吾欲下與二夫子一燕上。對曰。未レ祀二先君一而以燕。非レ禮也。公曰。何以レ禮爲。對曰。夫禮者民之紀。紀亂則民失。亂レ紀失レ民。危道也。公曰。善。乃以祀焉。

景公の泰呂成る。晏子に謂つて曰く、吾れ夫子と燕せんと欲すと。對へて曰く、未だ先君を祀らずして以て燕す、禮に非ざるなりと。公曰く、何ぞ禮を以て爲さんと。對へて曰く、夫れ禮は民の紀、紀亂るれば則ち民失す。紀を亂し民を失ふは、危道なりと。公曰く、善しと。乃ち以て祀れり。

（一）樂器　（二）法

景公爲レ履。黄金之綦。飾以レ銀。連以レ珠。良

景公、履を爲る。黄金の綦、飾るに銀を以てし、連ぬるに珠を以てす。良玉の絢、其の長さ尺、氷月之を服けて以て朝を聽く。晏子朝す。公之を迎ふるに、

玉之絇。其長尺。氷月服レ之。以聽レ朝。晏子朝。公迎レ之。履重僅能擧レ之。問曰。天寒乎。晏子曰。君奚問二天之寒一也。古聖人製二衣服一也。冬輕而暖。夏輕而淸。今君之履。氷月服レ之。是重寒也。履重不レ節。是過レ任也。失二生之情一矣。故魯工不レ知二寒溫之節。輕重之量一。以害二正生一。其罪一也。作レ服不レ常。以笑二諸侯一。其罪二也。用レ財無レ功。以怨二百姓一。其罪三也。請拘而使二

履重くして僅に能く之を擧ぐ。問ひて曰く、天寒きかと。晏子曰く、君奚ぞ天の寒きを問ふ。古聖人の衣服を製するや、冬は輕くして暖に、夏は輕くして淸し。(三)今君の履、氷月之を服するは、是れ重寒なり。履重くして節ならず。是れ任に過ぐるなり。生の情(四)を失す。故に魯工は、寒溫の節、輕重の量を知らず、以て正生を害す。其罪一なり。服を作りて常ならず、以て諸侯に笑はる。其罪二なり。財を用ひて功なく、以て百姓に怨みらる。其罪三なり。請ふ、拘へて、吏をして之を度らしめんと。公苦(五)に之を釋さんことを請ふ。晏子曰く、不可なり。嬰之を聞く、身を苦めて善を爲す者は、其賞厚く、身を苦めて非を爲す者は、其罪重しと。公對へず。晏子出づ。吏をして魯工を拘へしめ、人をして之を境に送らしめ、入ることを得ざらしむ。公、履を撤して復た服けず。

(一) 履を結ぶひも　(二) 舊暦十二月　(三) 淸に作るべきに似たり　(四) 情實　(五) 切實也、懇切

吏度レ之。公苦請レ釋レ之。晏子曰。不可。嬰聞レ之。苦レ身爲レ善者。其賞厚。苦レ身爲レ非者。其罪重。公不レ對。晏子出。令三吏拘二昝工一。令三人遂二之境一。令レ不レ得レ入。公撤レ履。不二復服一也。

景公問二晏子一曰。吾欲下服二聖王之服一居中聖王之室上。如レ此則諸侯其至乎。晏子對曰。法二其節儉一。則可。法二其服一居二其室一。無レ益也。三王不レ同レ服而王。非三以レ服致二諸侯一也。誠二于愛レ民。果二于行レ善。天下懷二其德一而歸二其義一。若二其衣服一。節儉而衆悦

景公、晏子に問ひて曰く、吾れ聖王の服を服し、聖王の室に居らんと欲す。此の如くば、則ち諸侯其れ至らんかと。(一)晏子對へて曰く、其節儉に法らば則ち可、其服に法り其室に居らんは益なきなり。三王は服を同じうせずして王たり。服を以て諸侯を致しゝに非ざるなり。民を愛するに誠に、善を行ふに果ならば、天下は其德に懷きて其義に歸せん。其衣服の若きは、節儉にして衆悦ばん。夫れ冠は、以て敬を修むるに足りて、其飾を務めず。衣は、以て形を掩ひ寒を禦ぐに足りて、其美を務めず。衣、(二)隅眦の削を務めず。冠、(三)觚羸の理なく、(四)身服、雜綵せず。(五)首服、鏤刻せず。且つ古者嘗て(六)紩衣攣領して、天下に王たる者あり。其義、生を好みて殺を惡み、上を節して下を羨す。天下、其服に朝せずして、共に其義に歸す。古者嘗て(七)橧巣窟穴に處りて、惡まざるあり。予へて取らず。天下、其室

也。夫冠足以修敬。不務其飾。衣足以掩形禦寒。不務其美。衣不務于隅肶之削。冠無觚羸之理。身服不雜綵。首服不鑯刻。且古者嘗有紩衣攣領而王天下者。其義好生而惡殺。節上而羨下。天下不朝其服。而共歸其義。古者嘗有處櫓巢窟穴。而不惡。予而不取。天下不朝其室。而共歸其仁。及三代。作服爲益益也。首服足以修敬而不重也。身服足以行潔而不害于動作。服之輕重。便於身。用財之費。順于民。其不爲櫓巢者。以避風也。其不爲穴者。以避濕也。

に朝せずして、共に其仁に歸せり。三代に及びて、服を作りて益益を爲す。首服は以て敬を修むるに足りて、重からざるなり。身服は以て潔を行ふに足りて、動作に害せず。服の輕重は身に便に、財を用ふるの費は民に順なり。其の櫓巢を爲らざるものは、以て風を避くるなり。其の穴を爲らざる者は、以て濕を避くるなり。

(一) 歸服也 (二) 隅眥の誤か。衣の隅の斜なるを裁ち切りて美しくすること (三) 羸は、贏の誤か、觚は方にて、贏は圓なり、冠に方圓の模樣なきをいふ (四) 身に服するもの (五) 首に服くる飾 (六) 粗服にて、紩衣は縫ひ方のあらきもの。攣領は、襟のつなぎとめたるもの (七) 薪を集めてつくれる巣居

是故明堂之

是の故に、(一)明堂の制は、下にして潤濕及ぶ能はざるなり。上にして寒暑入る能

制。下之潤濕不レ能レ及也。上之寒暑不レ能レ入也。土事不レ文。木事不レ鏤。示二民之節一也。及二其哀一也。衣服之侈。過レ足三以敬一。宮室之美。過レ避二潤濕一。用レ力甚多。用レ財甚費。與レ民爲レ讎。今君欲レ法二聖王之服一。不レ法二其制一。法二其節儉一也。則雖レ未レ成レ治。庶其有レ益也。今君窮二臺榭之高一。極二汙池之深一。而不レ止。務二乎刻鏤之巧。文章之觀一。而不レ厭。則亦與レ民而讎矣。若二臣之慮一。恐二國之危而公不平一也。公乃願レ致二諸侯一。不二亦難一乎。公之言過矣。

はざるなり。土事文らず、木事鏤まず。民に節を示すなり。其の哀ふるに及びて、衣服の侈、以て敬するに足るに過ぎ、宮室の美、潤濕を避くるに過ぐ。力を用ふること甚だ多く、財を用ふること甚だ費ゆ。民と讎を爲す。今君、聖王の服に法らんと欲し、其制に法らずして、其節儉に法らば、則ち未だ治を成さずと雖も、庶はくは其れ益あらん。今君、臺榭の高きを窮め、汙地の深きを極めて止まず。刻鏤の巧、文章の觀を務めて厭かずんば、則ち亦民と讎するなり。臣が慮の若きは、國の危くして、公の不平ならんことを恐るゝなり。公の乃ち諸侯を致さんと願ふは、亦難からずや。公の言過てりと。

㊀ 聖王の政治をとる所

景公爲西曲潢。其深滅軌。高三仞。横木龍蛇。立木鳥獸。公衣黼黻之衣。素繡之裳。一衣而五綵具焉。帶珠玉而冠且。被髮亂首。南面而立傲然。晏子見。公曰。昔仲父之霸何如。晏子抑首而不對。公又曰。昔管文仲之霸何如。晏子對曰。臣聞之。唯翟人與龍蛇比。今君

景公、西の曲潢を爲る。其の深き軌を滅し、高さ三仞。横木は龍蛇、立木は鳥獸。公、黼黻の衣、素繡の裳を衣、一衣して五綵具る。珠玉を帶にして冠且し、被髮亂首、南面して立ち、傲然たり。晏子見ゆ。公曰く、昔仲父の霸は何如と。晏子抑首して對へず。公又曰く、昔管文仲の霸は何如と。晏子對へて曰く、臣之を聞く、唯だ翟人と龍蛇と比すと。今君、木を横へて龍蛇とし、木を立てて鳥獸とす。亦室一就す。何の暇か霸に在らんや。且つ公は、宮室の美に伐り、衣服の麗に矜り、一衣して五綵具る。珠玉を帶びて亂首被髮、亦室一容す。萬乘の君にして、心を邪に一にす。君の魂魄亡ぶ。誰を以て與に霸を圖らんやと。公、堂を下り、晏子に就きて曰く、梁丘據・裔款、室の成るを以て寡人に告ぐ。是の以に、竊に此服を襲ねて、據と笑を爲し、又夫子をして及ばしめたり。寡人請ふ、室を改め服を易へて、敬みて命を聽かんことを。其れ可ならんかと。晏子曰く、夫れ二子、君と勞するに邪を以てせり。公安ぞ道を知るを得んや。且つ木を伐

横木龍蛇。立木鳥獸。亦室一就矣。何暇在闘哉。且公伐宮室之美。矜衣服之麗。一衣而五綵具焉。帶珠玉。而亂首被髮。亦室一容矣。萬乘之君。而一心于邪。君之魂魄亡矣。以誰與圖闘哉。公下堂就晏子曰。梁丘據裔款。以室之成告寡人。是以竊襲此服。與據爲笑。又使夫子及寡人請改室易服。而敬聽命。其可乎。晏子曰。夫二子勞君以邪。公安得知道哉。且伐木不自其根。則孽又生也。公何不去二子者。毋使耳目淫焉。

るに、其根よりせざれば、則ち孽又生ず。公何ぞ二子者を去らざる。耳目をして淫せしむる勿れと。

㊀曲れる池　㊁車の右輪と左輪との間　㊂池の欄木の彫文也　㊃黼と黻との縫ひとりをしたる衣裳。黼は、半黑半白の斧の形をぬひとりにしたるもの。黻は、半青半黑の弓字の形をぬひとりをしたるもの　㊄白の上に五色のぬひとりをしたるもの　㊅且は貝の誤にて、貝の飾ある冠とし、一說に組の誤にて冠のひもなりと　㊆翠人は水邊にすむが故也

景公爲巨冠長衣。以聽朝。疾視矜立。日晏不罷。晏子進曰。聖人之服。中悅而不

景公、巨冠長衣を爲りて以て朝を聽く。疾視矜立、日晏れて罷めず。晏子進みて曰く、聖人の服は、中悅にして驕ならず。以て衆を導くべし、其動作悅順にして逆ならず。以て生を奉ずべし。是の以に、下皆其服に法りて、民卒ひて其容を學ぶ。今君の服、驕華以て衆民を導くべからず。疾視矜立、以て生を奉ずべ

駔。可ニ以導一レ衆。其動作悅順而不レ逆。可ニ以奉一レ生。是以下皆法ニ其服一。而民爭學ニ其容一。今君之服。駔華不レ可三以導ニ衆民一。疾視矜立。不レ可ニ以奉一レ生。日晏矣。君不レ若脫レ服就レ燕。公曰。寡人受レ命。退レ朝遂去ニ衣冠一。不ニ復服一。

からず。日晏し。君若かず、服を脫して燕に就かんにはと。公曰く、寡人命を受くと。朝を退き、遂に衣冠を去りて復た服せず。

(一) 身體に心地よくして麤ならざるをいふ。駔は、麤の通字 (二) 輕くして道にかなふをいふ

晏子朝。復ニ於景公一曰。朝居嚴乎。公曰。嚴居レ朝則曷害三於治ニ國家一哉。晏子對曰。朝居嚴則下無レ言。下無レ言則上無レ聞矣。下無レ言則吾謂ニ之瘖一。上無レ聞則吾謂ニ之聾一。

晏子朝し、景公に復して曰く、(一)朝居嚴なるかと。公曰く、嚴に朝に居らば、則ち曷ぞ國家を治むるに害あらんやと。晏子對へて曰く、朝居嚴なれば、則ち下言ふこと無し。下言ふこと無ければ、則ち上聞くことなし。下の言ふことなき、則ち吾れ之を瘖(二)と謂ふ。上の聞くことなき、則ち吾れ之を聾(三)と謂ふ。聾瘖は、國家を害するに非ずして如何ぞや。且つ升鼓(四)の微を合せて、以て倉廩を滿し、疏縷の絺(五)を合せて以て帷幕を成す。大山の高きは一石に非ざるなり。卑を累ねて然して後高し。天下は、一士の言を用ふるに非ざるなり。固より受けて用ひざる

聾瘖非レ害二國家一而如何也。且合二升鼓之微一。以滿二倉廩一。合二疏縷之緣一。以成二帷幕一。大山之高。非二一石一也。累レ卑然後高。天下者非レ用二一士之言一也。固有レ受而不レ用。惡有二拒而不レ受者一哉。

有り。悪(いづくん)ぞ拒(こば)みて受けざる者あらんやと。

(一) 朝に居るに、威儀の甚しくして、忠諫しがたきをいふ (二) 口言はざるをいふ (三) 耳聞かざるをいふ (四) 量目の名にて、斗に同じ (五) つかさ、あしぎぬ

景公登二路寢之臺一。不レ能レ終而息二乎階一。忿然而作レ色。不レ悅曰。孰爲二高臺一。病レ人之甚也。晏子曰。君欲レ節二于身一而勿レ高。使二人高一レ之而勿レ罪也。今高。從レ之以罪。卑亦從以

景公、路寢(ろしん)の臺(だい)に登り、終(一)ふる能(あた)はずして陛(二)(へい)に息し、忿然(ふんぜん)として色を作し、悅(よろこ)ばずして曰く、孰(たれ)か高臺を爲(つく)り、人を病(や)ましむるの甚しきやと。晏子曰く、君、身に節(せつ)せんと欲せば、高くすること勿(なか)れ。人をして之を高からしめて罪(つみ)すること勿れ。今高し、之に從ひて以て罪す。卑(いやし)くば亦從ひて以て罪せん。敢て問ふ、人を使(つか)ふこと此(かく)の如くにして可(か)ならんかと。古者(いにしへ)の宮室(きうしつ)を爲(つく)るや、以て生に便ずるに足りて、以て奢侈(しやし)を爲さざるなり。故に身に節に、民に調なり。夏(か)の衰(おとろ)ふるに及びてや、其王桀(わうけつ)、德行を背棄(はいき)して、(四)璿室(えいしつ)玉門を爲(つく)る。殷(いん)の衰ふるや、其王紂(わうちう)、

罪。敢問。使レ人如レ此可乎。古者之爲二宮室一也。足三以便二生。不三以爲二奢侈一也。故節二于身一。謂二于民一。及二夏之衰一也。其王桀背二棄德行一。爲二璿室玉門一。殷之衰也。其王紂作二爲傾室靈臺一。卑狹者有レ罪。高大者有レ賞。是以身及焉。今君高亦有レ罪。卑亦有レ罪。甚二于夏殷之王一。民力殫乏矣。而不レ免二于罪一。嬰恐。國之流失。而公不レ得レ享也。公曰。善。寡人自知レ誠。費レ財勞レ民。以爲レ無レ功。又從而怨レ之。是寡人之罪也。非二夫子之敎一。豈得レ守二社稷一哉。遂下再拜。不レ果レ登レ臺。

傾室靈臺を作爲し、卑狹なる者罪あり。高大なる者賞あり。是の以に身及べり。今君、高きも亦罪あり、卑きも亦罪あり。夏殷の王より甚しく、民力殫乏す。而して罪に免れず。嬰恐らくは、國の流失して公の享くるを得ざらんことをと。公曰く、善し。寡人自ら誠を知る。財を費し民を勞し、以て功なきを爲す。又從ひて之を怨む。是れ寡人の罪なり。夫子の敎に非ざれば、豈に社稷(五)を守ることを得んやと。遂に下りて再拜し、臺に登ることを果さず。

(一) 登り盡す能はずしてと也 (二) 階也 (三) 謂の誤なりと。謂は和也 (四) 美玉 (五) 國家

景公與二晏子一。登レ寢而望レ國。公愀然而歎

景公と晏子と、寢に登りて國(一)を望む。公愀然(二)として歎じて曰く、後嗣をして世世に此を有せしむるは、豈に不可ならんやと。晏子曰く、臣聞く、明君は、必ず

曰。使二後嗣世世有一レ此。豈不可哉。晏子曰。臣聞。明君必務レ正二其治一。以レ事利レ民。然後子孫享レ之。詩云。武王豈不レ事。貽二厥孫謀一。以燕二翼子一。今君處二佚怠逆政害一レ民有レ日矣。而猶出二若言一。不二亦甚一乎。公曰。然則後世孰將レ把二齊國一。對曰。服牛死。夫婦笑。非二骨肉之親一也。爲二其利之大一

其治を正すを務め、事を以て民を利し、然して後子孫之を享くと。(三)詩に云ふ、(四)武王豈に事とせざらんや。厥の孫謀を貽し、以て子を燕翼すと。今君、佚怠に處り、逆政の民を害すること日あり。而るに猶ほ若の言を出す、亦甚しからずやと。公曰く、然らば則ち後世孰れか將に齊國を把らんとすると。對へて曰く、服牛(五)死して夫婦笑ふ(六)。骨肉の親に非ざるなり。其利の大なるが爲なり。齊國を把る者を知らんと欲せば、則ち其れ之を利する者かと。公曰く、然らば何を以て易へんと(七)。對へて曰く、之を移すに善政を以てせよ。今公の牛馬、(八)欄牢に老い、服するに勝へざるなり。車、巨戶に蠹して、乘るに勝へざるなり。衣裘襦袴、戚に朽弊して、衣るに勝へざるなり。醯醢腐りて、沽るに勝へざるなり。酒醴餒して、飲むに勝へざるなり。府粟鬱して食ふに勝へず。又厚く百姓に藉斂(九)して、以て陵民に分たず。夫れ財を藏めて用ひざるは凶なり。財苟くも守を失はば、下其れ報環り至る。其次財を昧りて之れ守を失ひ、委みて以て人に分たざる者は、百姓必ず進

也。欲知把齊國者。則其利之者邪。公曰。然何以易。對曰。移之以善政。今公之牛馬。老於欄牢。不勝服也。車蠹於巨戶。不勝乘也。衣裘襦袴。朽於藏。不勝衣也。醯醢腐。不勝沽也。酒醴酸。不勝飲也。府粟鬱。而不勝食。又厚藉斂於百姓。而不以分餒民。夫藏財而不用凶也。財苟失守。下其報環至。其次昧財之失守。委而不以分人者。百姓必進自分也。故君人者。與其請於人。不如請於己也。

みて自ら分たん。故に人に君たる者は、其の人に請ふよりは、如かず、己れに請はんにはと。

(一)國都　(二)憂ふる貌　(三)詩經大雅　(四)武王が子孫のために謀をのこし、以て子孫をたすくるを事とせりと也　(五)羅に服する牛　(六)哭の誤か　(七)代りて齊國をとる者とならんと也　(八)牛馬を飼ひおくところ　(九)賦稅する也

景公成路寢之臺。逢於何遭喪。遇晏子於途。再拜乎馬前。晏子下車。挹之曰。子

景公、路寢の臺を成す。逢於何、喪に遭ふ。晏子に途に遇ひ、馬前に再拜す。晏子、車を下り、之を挹[一]して曰く、[二]子は何を以て嬰に命ずると。對へて曰く、於何の母死す。兆[三]は、路寢の臺の牖[四]下に在り。願はくは、命を請ひて骨を合せんと。晏子曰く、嘻難いかな。然りと雖も、嬰は將に子が爲に之を復さんとす。適ゝ爲

何以命嬰也。對曰。於何之母死。兆在路寢之臺牖下。願請命合骨。晏子曰。嘻難哉。雖然嬰將爲子復之。適爲不得。子將若何。對曰。夫君子則有以。如我者儕小人。吾將左手擁格。右手梱心。立餓枯槁而死。以告四方之士。曰。於何不能葬其母者也。晏子曰。諾。遂入見公曰。有逢於何者。母死。兆在路寢。當如之何。願請合骨。公作色不悅曰。古之

に得ずんば、子將に若何せんとすると。對へて曰く、夫の君子は則ち以てするあらん。我者儕小人の如きは、吾れ將に左手に格を擁し、右手に心を梱きて、立餓枯槁して死し、以て四方の士に告げんとすと。曰く、於何は其母を葬ること能はざる者なりと。晏子曰く、諾と。遂に入りて公に見えて曰く、逢於何といふ者あり。母死す。兆は路寢に在り。當に之を如何すべき。合骨せんと願請すと。公色を作し、悅ばずして曰く、古より今に及ぶまで、子も亦嘗て人主の宮に葬らんと請ふ者を聞けるかと。晏子對へて曰く、古の□君、其の室宮節にして、生民の居を侵さず、臺榭儉にして、死人の墓を殘はず。故に未だ嘗て諸〻の人主の宮に葬らんと請ふ者を聞かざるなり。

㈠ 揖也、禮をなす也 ㈡ 何の用事かといふ意 ㈢ 臺墉、はか ㈣ 牆下にて、かきねの下 ㈤ 輅也、柩車 ㈥ 胸をたゝく也

及レ今。子亦嘗聞下請レ葬二人王之宮者上乎。晏子對曰。古之□君。其室宮節。不レ侵二生民之居一。臺樹儉。不レ殘二死人之墓一。故未下嘗聞中諸請レ葬二人生之宮一者上也。

今君侈爲二宮室一。奪二人之居一。廣爲二臺榭一。殘二人之墓一。是生者愁憂。不レ得二安處一。死者離易。不レ得レ合レ骨。豐樂侈遊。兼二傲生死一。非二人君之行一也。遂レ欲滿レ求。不レ顧二細民一。非二存之道一。且嬰聞レ之。生者不レ得レ安。命レ之曰レ蓄レ憂。死者不レ得レ葬。命レ之曰レ蓄レ哀。

今君侈りて宮室を爲り、人の居を奪ひて、廣く臺榭を爲り、人の墓を殘ふ。是れ生者愁憂して、安處するを得ず、死者離易して、骨を合するを得ず。豐樂侈遊、生死に兼傲す、人君の行に非ざるなり。欲を遂げ求を滿して、細民を顧みざるは、存の道に非ず。且つ嬰之を聞く、生者の安を得ざる、之を命けて憂を蓄ふと曰ひ、死者の葬るを得ざる、之を命けて哀を蓄ふと曰ふ。憂を蓄ふる者は怨み、哀を蓄ふる者は危し。君、如かず、之を許さんにはと。公曰く、諾と。晏子出づ。梁丘據曰く、昔より今に及ぶまで、未だ嘗て公宮に葬らんと求むる者を聞かざるなり。若何ぞ之を許せると。公曰く、人の居を削り、人の墓を殘ひ、人の喪を凌ぎて、其葬を禁ず。是れ生者に於て施すなく、死者に於て禮なし。詩に云ふ、穀きては則ち室を異にし、死しては則ち穴を同じくすと。吾れ敢て許

蓄ㇾ憂者怨。蓄ㇾ哀者危。君不ㇾ如許ㇾ之。公曰。諾。晏子出。梁丘晏曰。自ㇾ昔及ㇾ今。未下嘗聞中求ㇾ葬二公宮一者上也。若何許ㇾ之。公曰。削二人之居一。殘二人之喪一。淩二人之悲一。而禁二其葬一。是於二生者一無ㇾ施。於二死者一無ㇾ禮。詩云。穀則異ㇾ室。死則同ㇾ穴。吾敢不ㇾ許乎。逢於何。遂葬二其母路寢之牖下一。解ㇾ衰去ㇾ絰。布衣縢履。玄冠茈武。踊而不ㇾ哭。躃而不ㇾ拜。已乃涕洟而去。

さざらんやと。逢於何遂に其の母を路寢の牖下に葬り、衰(三)を解き絰(四)を去り、布衣縢履(五)、玄冠茈武(六)、踊して哭せず、躃(七)して拜せず。已にして乃ち涕洟して去れり。

(一) 詩經國風王風大車篇　(二) たとひ生きては、よく内外の別を守り、ねやを同じくすることを得ずとも、死して後は願はくは墓穴を同じうせんと也　(三) 喪服　(四) 喪服の時に、首及び腰にまきつくる麻の帶　(五) 麻にてあみたるくつ　(六) 冠の下を卷く紫色のもの　(七) 胸をうつこと

景公之嬖妾嬰子死。公守ㇾ之。三日不ㇾ食。膚著二于席一不ㇾ去。左右以復。而君無ㇾ聽焉。晏子入復曰。有二術客一。與ㇾ醫

景公の嬖妾嬰子死す。公之を守りて、三日食はず。膚席に著きて去らず。左右以て復せども、君聽くことなし。晏子入りて復して曰く、術客あり。醫と俱に言ひて曰く、嬰子病死すと聞く。之を治めんと願請すと。公喜びて遽に起ちて曰く、病猶ほ爲むべきかと。晏子曰く、客の道ふや、良醫と以爲へるなり。請ふ、之を嘗試みよ。君請ふ、屏潔(一)沐浴飮食し、病者の宮を間にせよ。彼れ亦將に鬼神(二)の

俱言曰。聞二嬰子病死一。願二請治レ之。公喜遽起曰。病猶可レ爲乎。晏子曰。客之道也。以二爲良醫一也。請嘗二試之一。君請屛潔沐浴飮食。間二病者之宮一。彼亦將レ有二鬼神之事一焉。公曰。諾。屛而沐浴。晏子令二棺人入斂一。已斂。而復曰。醫不レ能レ治レ病。已斂矣。不三敢不二以聞一。公作レ色不レ說曰。夫子以レ醫命二寡人一。而不レ使レ視。將レ斂而不二以聞一。吾之爲レ君。名而已矣。晏子曰。君獨不レ知二死者之不一レ可二以生一邪。嬰聞レ之。君正臣從。謂二之順一。君僻臣從。謂二之逆一。今君不レ道レ順而行レ僻。從レ邪者邇。導レ害者遠。讒諛萌通。而賢良廢滅。是以諂諛繁二於間一。邪行交二於國一也。

事あらんとすと。公曰く、諾と。屛きて沐浴す。晏子、棺人をして入りて斂めしむ。已に斂めて復して曰く、醫病を治むる能はず。已に斂む。敢て以て聞せずんばあらずと。公、色を作し說ばずして曰く、夫子、醫を以て寡人に命じて視しめず。將に斂めんとして以て聞せず。吾れの君たる、名のみと。晏子曰く、君獨り死者の以て生すべからざるを知らざるか。嬰之を聞く、君正しく臣從ふ、之を順と謂ひ、君僻にして臣從ふ、之を逆と謂ふと。今君、順に道らずして僻を行ふ。邪に從ふ者は邇づき、害に導く者は遠ざかる。讒諛萌通して、賢良廢滅す。是の以に、諂諛間に繁く、邪行國に交るなり。

㊀ 方術をなす者　㊁ 一室に退きて潔齋をなす也　㊂ 鬼神に祈請する也

昔吾先君桓公。用二管仲一而霸。嬖二乎豎刁一而滅。今君薄二於賢人之禮一。而厚二嬖妾之哀一。且古之王。畜レ私不レ傷レ行。斂レ死不レ失レ愛。送レ死不レ失レ哀。行傷則溺レ己。愛失則傷レ生。哀失則害レ性。是故聖王節レ之也。即畢レ斂不レ留二生事一。棺槨衣衾、不三以害二生養一。哭泣處レ哀。不三以害二生道一。今朽レ尸

昔吾が先君桓公、管仲を用ひて霸たり。豎刁（一）を嬖して滅びたり。今君、賢人の禮に薄くして、嬖妾の哀に厚し。且つ古の王、私を畜ひて行を傷らず、死を斂めて愛を失はず、死を送りて哀を失はず。行傷るゝときは則ち己れを溺し、愛失ふときは則ち生を傷ひ、哀失ふときは則ち性を害す。是の故に聖王は之を節するなり。即ち斂を畢へて生事を留めず。棺槨衣衾、以て生養を害せず。哭泣哀に處して、以て生道を害せず。今尸を朽ちしめて以て生を留め、愛を廣くして以て行を傷り、哀を修めて以て性を害す、君の失なり。故に諸侯の賓客、吾國に入るを慙ぢ、本朝（二）の臣、其職を守るを慙づ。君の行を崇べば、以て民を導くべからず。君の欲に從へば、以て國を持すべからず。且つ嬰之を聞く、朽ちて斂めざる、之を僇尸と謂ひ、臭して收めざる、之を陳胔（四）と謂ふと。明王の性に反し、百姓の誹（三）を行ひ、而して嬖妾を僇に內る、此れ之を不可と爲すと。公曰く、寡人識らず。請ふ、夫子に因りて之を爲さんと。晏子復して曰く、國の士大夫諸侯、四

以留レ生。廣レ愛以傷レ行。修レ哀以害レ性。君之失矣。故諸侯之賓客。慙レ入二吾國一。本朝之臣。慙レ守二其職一。崇二君之行一。不レ可二以導一レ民。從二君之欲一。不レ可二以持一レ國。且嬰聞レ之。朽而不レ殮。謂二之僇尸一。臭而不レ收。謂之陳胔。反二明王之性一。行二百姓之誹一。而內二嬖妾於僇胔一。此之爲二不可一。公曰。寡人不レ識。請因二夫子一而爲レ之。晏子復曰。國之士大夫諸侯。四隣賓客。皆在レ外。君其哭而節レ之。仲尼聞レ之曰。星之昭昭。不レ若二月之曀曀一。小事之成。不レ若二大事之廢一。君子之非。賢二於小人之是一也。其晏子之謂歟。

隣の賓客、皆外に在り。君其れ哭して之を節せよと。仲尼之を聞きて曰く、星の昭昭たるは、月の曀曀たるに若かず。小事の成るは、大事の廢するに若かず。君子の非は、小人の是に賢るとは、其れ晏子の謂かと。

(一) 愛也　(二) わがこの朝廷の臣也　(三) 罪人の死骸　(四) 腐敗したる死骸　(五) 曇りて暗き也

梁丘據死。景公召二晏子一而告レ之曰。據忠且愛レ我。我欲下豐二厚其葬一高中大其壟上。晏子

梁丘據死す。景公、晏子を召し、之に告げて曰く、據は忠にして且つ我を愛せり。我れ其の葬を豐厚にし、其の壟(一)を高大にせんと欲すと。晏子曰く、敢て據の忠と君を愛せし者とを問ふ。得て聞くべきかと。公曰く、吾れ玩好を喜ぶことあり。有司未だ我に具ふる能はざるなり。則ち據は其の有する所を以て我に共

曰。敢問下據之忠與中愛二於君一者上可二得聞一乎。公曰。吾有レ喜二於玩好一。有司未レ能二我具一也。則據以二其所レ有共レ我。是以知二其忠一也。每レ有二風雨一。暮夜求二必存レ吾。是以知二其愛一也。晏子曰。嬰對則爲レ罪。不レ對則無二以事レ君。敢不レ對乎。嬰聞レ之。臣專二其君一。謂二之不忠一。子專二其父一。謂二之不孝一。妻專二其夫一。謂二之嫉一。事レ君之道。導二親於父兄一。有レ禮二於羣臣一。有レ惠二於百姓一。有レ信二於諸侯一。

せり。是の以に其忠を知るなり。風雨ある毎に、暮夜必ず吾を存せんことを求む。是の以に其の愛せるを知るなりと。晏子曰く、嬰對ふれば則ち罪と爲る(二)。對へざれば則ち以て君に事ふるなし。敢て對へざらんや。嬰之を聞く、臣、其君を專にする、之を不忠と謂ひ、子、其父を專にする、之を不孝と謂ひ、妻、其夫を專にする、之を嫉と謂ふ。君に事ふるの道は、導くこと父兄よりも親く、羣臣に禮あり、百姓に惠あり。諸侯に信ある、之を忠と謂ふ。子たるの道は、以て其兄弟を鍾愛し、諸父に施行し、衆子に慈惠あり、朋友に識信(三)ある、之を孝と謂ふ。妻たるの道は、其衆妾をして、皆歡忻を其夫に得しむ、之を不嫉と謂ふ。今四(四)封の民は、皆君の臣なり。而るに維だ據のみ力を盡して以て君を愛す(五)。

(一) 高く土をもりたる墓　(二) 怒りて罰らせるゝをいふ　(三) 識は誠に作るべきが如し　(四) 四方の封域の内、國内　(五) この後に脫文あらん

謂二之忠一。爲レ子之道。以鍾二愛其兄弟一。施二行於諸父一。慈二惠於衆子一。誠二信於朋友一。謂二之孝一。爲レ妻之道。使三其衆妾皆得二歡忻於其夫一。謂二之不嫉一。今四封之民。皆君之臣也。而維擄盡レ力以愛レ君。

景公走狗死。公令下外共二之棺一。內給中之祭上。晏子聞レ之諫。公曰。亦細物也。特以與二左右一爲レ笑耳。晏子曰。君過矣。夫厚二藉斂一。不二以反レ民。棄レ貨財一而笑二左右一。傲二細民之憂一。而崇二左右之笑一。則國亦無レ望已。且夫孤老凍餒。而死狗有レ祭。鰥寡

景公の走狗(一)死す。公、外は之に棺を共し、內は之に祭を給せしむ。晏子之を聞きて諫む。公曰く、亦細物(二)なり。特に以て左右と笑を爲せるのみと。晏子曰く、君過てり。夫れ藉斂を厚くして、以て民に反さず、貨財を棄てて左右に笑はしむ。細民の憂に傲りて、左右の笑を崇ばば、則ち國亦望むなきのみ。且つ夫れ孤老凍餒して、死狗の祭らるゝあり、鰥寡恤まずして、死狗に棺あり。(三)行辟此の如し。百姓之を聞かば、必ず吾君を怨みん。諸侯之を聞かば、必ず吾國を輕んぜん。怨、百姓に聚りて、權、諸侯に輕からん。而して乃ち以て細物と爲す。君其れ之を圖れと。公曰く、善しと。(四)庖を趣して狗を治め、以て朝屬を會せり。

(一)獵犬　(二)つまらぬ小　(三)邪を行ふこと　(四)庖人をせきたてて狗屍ををさめしめし也

不レ恤。而死狗有レ棺。行辟若レ此。百姓聞レ之。必怨二吾君一。諸侯聞レ之。必輕二吾國一。怨二聚於百姓一。而權輕二於諸侯一。而乃以爲二細物一。君其圖レ之。公曰。善。趣レ庖治レ狗。以會二朝屬一。

公孫接田開彊古治子事二景公一。以二勇力一搏レ虎聞。晏子過而趨。三子者不レ起。晏子入見レ公曰。臣聞。明君之蓄二勇力之士一也。上有二君臣之義一。下有二長率之倫一。內可三以禁二暴。外可二以威一レ敵。上利二其功一。下服二其勇一。故尊二其位一。重二其祿一。今君之

公孫接・田開彊・古冶子、景公に事ふ。勇力の虎を搏つを以て聞ゆ。晏子過りて趨る。三子者起たず。晏子入りて公に見えて曰く、臣聞く、明君の勇力の士を蓄ふるや、上に君臣の義あり、下に長率(一)の倫あり。內は以て暴を禁ずべく、外は以て敵を威れしむべく、上は其功を利し、下は其勇に服す。故に其位を尊くして、其祿を重んずと。今君の、勇力の士を蓄ふるや、上に君臣の義なく、下に長率の倫なし。內は以て暴を禁せず、外は敵を威れしむべからず。此れ國を危うするの器なり。若かず、之を去らんにはと。公曰く、三子者は、之を搏つとも恐らくは得ざらん。之を刺すとも恐らくは中らざらんと。晏子曰く、此れ皆力攻(二)勍敵の人なり。長幼の禮なしと。因りて公に請ひ、人をして少く之に二桃を餽らしめて曰く、三子何ぞ功を計りて桃を食はざると。公孫接、天を仰ぎて歎じて

蓄二勇力之士一也。上無二君臣之義一。下無二長率之倫一。内不二以禁一レ暴。外不レ可レ威レ敵。此危レ國之器也。不レ若去レ之。公曰。三子者。搏レ之恐不レ得。刺レ之恐不レ中也。晏子曰。此皆力攻勍敵之人也。無二長幼之禮一。因請二公使三人少餽二之二桃一。曰。三子何不レ計レ功而食レ桃。公孫接仰レ天。而歎曰。晏子智人也。夫使三公之計二吾功一者。不レ受レ桃是無レ勇也。士衆而桃寡。何不レ計レ功而食レ桃矣。

曰く、晏子は智人なり。夫れ公をして吾功を計らしむる者なり。桃を受けざるは、是れ勇なきなり。士衆くして桃寡し。何ぞ功を計りて桃を食はざらんや。

㊀ 長と卒となり、率は卒の意　㊁ 勁に同じ

接一搏レ猏而再搏二乳虎一。若二接之功一。可二以食一レ桃。而無二與レ人同一矣。援レ桃而起。田開彊曰。吾伏レ兵而卻二三軍一者再。若二開彊之功一。亦可二以食一レ桃。

接一たび猏を搏ち、而して再び乳虎を搏つ、接の功の若きは、以て桃を食ふべし。而して人と同じきことなしと。桃を援きて起つ。田開彊曰く、吾れ兵を伏して三軍を卻けしこと再びなり。開彊が功の若きは、亦以て桃を食ふべし。而して人と同じきことなしと。桃を援きて起つ。古冶子曰く、吾れ嘗て君に從ひて河を濟る。黿、左驂を銜へて以て砥柱の流に入る。是の時に當りて冶少しく游ぐこと能はず。潛行して流に逆ふこと百歩、流に順ふこと九里、黿を得て之を殺し、左

而無ニ與レ人同一矣。援レ桃而起。古冶子曰。吾嘗從レ君濟ニ於河一。黿銜ニ左驂一以入ニ砥柱之流一。當ニ是時一也。冶少不レ能レ游。潛行逆レ流百步。順レ流九里。得レ黿而殺レ之。左操ニ驂尾一。右挈ニ黿頭一。鶴躍而出レ津。人皆曰。河伯也。若冶視レ之。則大黿之首。若ニ冶之功一。亦可ニ以食レ桃。而無ニ與レ人同一矣。二子何不レ反レ桃。抽レ劍而起。公孫接田開疆曰。吾勇不ニ子若一。功不ニ子逮一。取レ桃不レ讓是

に驂尾を操り、右に黿頭を挈げ、鶴躍して津に出づ。人皆曰く、(三)河伯なりと。(四)冶より之を視れば、則ち大黿の首なり。冶が功の若き、亦以て桃を食ふべし。而して人と同じきことなし。二子何ぞ桃を反さざると。劍を抽きて起つ。公孫接・田開疆曰く、吾が勇は子に若かず。功は子に逮ばず。桃を取りて讓らざるは是れ貪なり。然り而して死せざるは勇なきなりと。皆其桃を反し、(五)領を挈して死せり。古冶子曰く、二子之に死せり。冶獨り之に生くるは不仁なり。人を恥ぢしむるに言を以てして、其聲に夸るは不義なり。行ふ所を恨みて死せざるは勇なし。然りと雖も二子桃を同じうして節す。冶は其桃を專にして宜し。亦其桃を反さんと。領を挈して死せり。使者復して曰く、已に死せりと。公之を殮むるに服を以てし、之を葬るに士禮を以てせり。

(一) 三讒の冢　(二) 山の名　(三) 河の神　(四) 原文の若冶の二字疑ふべし、暫く私意を以て譯す　(五) 首を切る也

貪也。然而不死無勇也。皆反其桃。挈領而死。古冶子曰。二子死之。冶獨生之不仁。恥人以言。而夸其聲不義。恨乎所行不死。無勇。雖然二子同桃而節。冶專其桃而宜。亦反其桃。挈領而死。使者復曰。已死矣。公殮之以服。葬之以士禮焉。

景公登射。晏子修禮而侍。公曰。選射之禮。寡人厭之矣。吾欲得夫勇力士。與之圖國。晏子對曰。君子無禮。是庶人也。庶人無禮。是禽獸也。夫勇多則殺其君。力多則殺其長。然而不敢者。維禮之謂也。禮者所以御民也。轡者所以御馬也。無禮而能治國家者。嬰未之聞也。景公曰。善。迺飾射更席。以為上客。終日問禮。

景公登射（一）す。晏子禮を修めて侍す。公曰く、選射の禮、寡人之を厭ふ。吾れ夫の勇力の士を得て、之と國を圖らんと欲すと。晏子對へて曰く、君子禮なければ是れ庶人なり。庶人禮なければ是れ禽獸なり。夫れ勇多ければ則ち其君を殺す。力多ければ則ち其長を殺す。然り而して敢てせざる者は、維だ禮の謂なり。禮は民を御する所以なり。轡は馬を御する所以なり。禮なくして能く國家を治むる者は、嬰未だ之を聞かざるなりと。景公曰く、善しと。迺ち射を飾り席を更めて以て上客となし、終日禮を問へり。

（一）射禮を行ふこと

莊公問晏子曰。威當世而服天下。時耶。晏子對曰。行也。公曰。何行。對曰。能愛邦內之民者。能服境外之不善。重士民之死力者。能禁暴國之邪。逆聽賃賢者。能威諸侯。安仁義而樂利世者。能服天下。

卷二

問上第三

莊公、晏子に問ひて曰く、當世を威れしめて天下を服する、時かと。晏子對へて曰く、行なりと。公曰く、何をか行ふと。對へて曰く、能く邦內の民を愛する者は、能く境外の不善を服す。士民の死力を重んずる者は、能く暴國の邪を禁ず。逆聽して賢に賃する者は、能く諸侯を威れしむ。仁義に安んじて世を利するを樂む者は、能く天下を服す。邦內の民を愛する能はざる者は、境外の不善を服する能はず。士民の死力を輕んずる者ば、暴國の邪を禁ずる能はず。諫に逆愎し、賢者の言に傲り、諸侯を威れしむる能はず、仁義に倍きて名實を貪る者は、當世を威れしめて、天下を服する能はざる者なり。此れ其道なりと。已にして公用ひず。晏子退きて窮處す。公、勇力の士に任じて、臣僕の死を輕んじ、兵を用

不能愛邦內之民者。不能服境外之不善。輕士民之死力者。不能禁暴國之邪。逆復諫。傲賢者之言。不能威諸侯。倍仁義而貪名實者。不能威當世而服天下者。此其道也。已而公不用。晏子退而窮處。公任勇力之士。而輕臣僕之死。用兵無休。國罷民害。朞年百姓大亂。而身及崔氏禍。君子曰。盡忠不豫交。不用不懷祿。其晏子可謂廉矣。

ふること休むことなし。國罷れ民害す。朞年にして百姓大に亂れて、身、崔氏が禍に及べり。君子曰く、忠を盡して交に豫らず、用ひられずとも、祿を懷はずと。其れ晏子は廉と謂ふべし。

(一) 死を以て盡さんとする心 (二) 逆は中の誤、賞は任の誤。卽ち中正の言を聽きて賢者に任ずる者はの意 (三) 高ぶりて用ひざる也 (四) 背に同じ (五) 難儀なる境に立つ也 (六) 一年 (七) 君子之を許して曰くと也 (八) 交を君に結びておこたらずと也

莊公將伐晉。問于晏子。晏子對曰。不可。君得合而欲多。養欲而意驕。得合而欲

莊公將に晉を伐たんとし晏子に問ふ。晏子對へて曰く、不可なり。君、合ふことを得て欲多く、欲を養ひて意驕る。合ふことを得て欲多き者は危く、欲を養ひて意驕る者は困む。今君、勇力の士に任じて以て明主を伐つ。若し濟らずんば國の福なり。不德にして功あらば、憂必ず君に及ばんと。公色を作して說ば

多者危。養欲而意驕者困。今君任勇力之士。以伐明主。若不濟國之福也。不德而有功。憂必及君。公作色不說。晏子辭不爲臣。退而窮處。堂下生蓼藿。門外生荊棘。莊公終任勇力之士。西伐晉。取朝歌。及太行孟門茲於兌。朞而民散。身滅於崔氏。崔氏朞逐羣公。及慶氏亡。

ず。晏子辭して臣たらず、退きて窮處す。堂下に蓼藿を生じ、門外に荊棘を生ず。莊公終に勇力の士に任じ、西のかた晉を伐ち、朝歌を取り、太行・孟門・茲於兌に及ぶ。朞にして民散じ、身は崔氏に滅され、崔氏の朞、羣公を逐ひ、慶氏に及びて亡びたり。

㊀思ひのまゝになるをいふ ㊁留の誤 ㊂退きて身を修め獨善むが故也 ㊃亂の誤

景公舉兵欲伐魯。問於晏子。晏子對曰。不可。魯公好義而民戴之。好義者安。見戴者和。伯禽之治存焉。故

景公、兵を舉げて魯を伐たんと欲し、晏子に問ふ。晏子對へて曰く、不可なり。魯公は義を好みて民之を戴く。義を好む者は安く、戴かるゝ者は和す。伯禽の治存せり、故に攻むべからず。義を攻むる者は不祥なり。安を危くする者は必ず困む。且つ嬰之を聞く、人を伐つ者は、德以て其國を安んずるに足り、政以て其民を和するに足り、國安く民和して、然して後以て兵を舉げて暴を征すべしと。

不レ可レ攻。攻レ義者不祥。危レ安者必困。且嬰聞レ之。伐レ人者德足三以安二其國一。政足三以和二其民一。國安民和。然後可二以擧レ兵而征一レ暴。今君好レ酒而辟德。無二以安一レ國。厚二藉斂一。意二使令一。無二以和一レ民。德無二以安一レ之則危。政無二以和一レ之則亂。未レ免二乎危亂之理一。而欲レ伐二安和之國一。不可。不レ若三修レ政而待二其君之亂一也。其君離レ上怨二其下一。然後伐レ之。則義厚而利多。義厚則敵寡。利多則民歡。公曰。善。遂不レ果レ伐レ魯。

今君、酒を好みて辟德なり、以て國を安んずるなし。藉斂を厚くし、使令を意にし、以て民を和するなし。德以て之を安んずることなければ則ち危く、政以て之を和することなければ則ち亂る。未だ危亂の理を免れずして、安和の國を伐たんと欲するは不可なり。政を修めて、其君の亂るゝを待たんに若かざるなり。其君離れ、上其下を怨む、然して後之を伐たば、則ち義厚くして利多し。義厚ければ則ち敵寡く、利多ければ則ち民歡ぶと。公曰く、善しと。遂に魯を伐つことを果さず。

(一) 魯公の祖先にて賢明なる人　(二) 邪僻の德　(三) 勝手に人民を使役する也　(四) 人民の離叛するをいふ

景公伐レ虆勝レ

景公、虆を伐ちて之に勝つ。晏子に問ひて曰く、吾れ虆に賞せんと欲す、何如

之。問二晏子一曰。吾欲レ賞二於萊一。何如。對曰。臣聞レ之。以レ謀勝レ國者。益二臣之祿一。以二民力一勝レ國者。益二民之利一。故上有二羨獲一。下有二加利一。君上享二其名一。臣下利二其實一。故用レ智者不レ偷レ業。用レ力者不二傷苦一。此古之善伐者也。公曰。善。於レ是破レ萊之臣。東邑之卒。皆有二加利一。是上獨擅レ名利下流也。

と。對へて曰く、臣之を聞く、謀を以て國に勝つ者は、臣の祿を益し、民力を以て國に勝つ者は、民の利を益すと。故に上に羨獲(二)あり、下に加利あり。君上其名を享け、臣下其實を利す。故に智を用ふる者は業を偸せず。力を用ふる者は傷苦せず。此れ古人の善く伐てる者なりと。公曰く、善しと。是に於て萊を破りし臣、東邑の卒、皆加利あり。是れ上獨り名を擅にして利下に流るゝなり。

㊀地名　㊁有りあまる獲もの

景公外傲二諸侯一。內輕二百姓一。好二勇力一。崇レ樂以從二嗜欲一。諸侯不レ說。百姓不レ親。公患レ之。

景公、外は諸侯に傲り、內は百姓を輕んじ、勇力を好み、樂を崇びて以て嗜欲に從ふ。諸侯說ばず、百姓親まず。公之を患へ、晏子に問ひて曰く、古の聖王、其行若何と。晏子對へて曰く、其行は公正にして邪なし、故に讒人入ることを得ず。阿黨(一)せず、私邑せず、故に羣徒の卒容るゝことを得ず。身を薄うして民

問二於晏子一曰。古之聖王。其行若何。晏子對曰。其行公正而無レ邪。故讒人不レ得レ入。不二阿黨一。不二私色一。故羣徒之卒。不レ得レ容。薄レ身厚レ民。故聚斂之人不レ得レ行。不レ侵二大國之地一。不レ耗二小國之民一。故諸侯皆欲二其尊一。不三劫レ人以二甲兵一。不三威レ人以二衆彊一。故天下皆欲二其彊一。德行教訓。加二於

に厚うす、故に聚斂の人行ふことを得ず。大國の地を侵さず、小國の民を耗さず、故に諸侯皆其の尊からんことを欲す。人を劫すに甲兵を以てせず、人を威すに（一）衆彊を以てせず、故に天下皆其の彊からんことを欲す。德行教訓、諸侯に加はり、慈愛利澤、百姓に加はる、故に海內の之に歸すること流水の若し。今衰世、人に君たる者、辟邪阿黨、故に讒諂羣徒の卒繁し。身の養を厚うして民を薄視す、故に聚斂の人行はる。大國の地を侵し、小國の民を耗す、故に諸侯其の尊からんことを欲せず。人を劫すに兵甲を以てし、人を威すに衆彊を以てす、故に天下其の强からんことを欲せず。災害諸侯に加はり、勞苦百姓に施す、故に讎敵進み伐ちて、天下救はず、（三）貴戚離散し、百姓與せずと。公曰く、然らば則ち何若と。對へて曰く、請ふ、辭を卑うし幣を重うして、以て諸侯に說き、罪を輕うし功を省みて、以て百姓に謝せば其れ可ならんかと。公曰く、諾と。是に於て辭を卑うし幣を重くして諸侯附き、罪を輕くし功を省みて百姓親めり。故に小國入朝

諸侯。慈愛利澤。加于百姓。故海内歸之若流水。今衰世君人者。辟邪阿黨。故讒諂羣徒之卒繁。厚身養薄視民。故聚斂之人行。侯大國之地。耗小國之民。故諸侯不欲其尊。劫人以兵甲。威人以衆彊。故天下不欲其强。災害加於諸侯。勞苦施於百姓。故讎敵進伐。天下不救。貴戚離散。百姓不與。公曰。然則何若。對曰。請卑辭重幣。以說于諸侯。輕罪省功。以謝於百姓。其可乎。公曰。諾。於是卑辭重幣。而諸侯附。輕罪省功。而百姓親。故小國入朝。燕魯共貢。墨子聞之曰。晏子知道。道在爲人。而失爲己。爲人者重。自爲者輕。景公自爲。而小國不爲與。在爲人而諸侯爲役。則道在爲人。而行在反己矣。故晏子知道矣。

し、燕魯貢を共せり。(四)墨子之を聞きて曰く、晏子は道を知る。道は人の爲にするに在り、而して己が爲にするに失ふ。人の爲にする者は重んぜられ、自ら爲にする者は輕んぜらる。景公自ら爲にして、小國與と爲らず。(五)人の爲にするに在りて諸侯役と爲る。(六)則ち道は人の爲にするに在りて、行は己れに反するに在り。(七)故に晏子は道を知ると。

㈠ おもねり諂ひて派をつくる也　㈡ 數多くして勢つよき也　㈢ 身分高き親戚の人々　㈣ 供に同じ　㈤ 身方　㈥ 人の爲にするときは、諸侯皆從ひて、我爲に使役せらるゝと也　㈦ 私利をはからざるをいふ

景公問晏子

景公、晏子に問ひて曰く、吾れ善く齊國の政を治めて、以て霸王の諸侯を干

曰。吾欲下善治二齊國之政一以干中霸王之諸侯上。晏子作レ色對曰。官未レ具也。臣數以聞。而君不二肯聽一也。故臣聞。仲尼居處惰倦。廉隅不レ正。則季次原憲侍。氣鬱而疾。志意不レ通。則仲由卜商侍。德不レ盛。行不レ厚。則顏回騫雍侍。今君之朝臣萬人。兵車千乘。不善政之所レ失二于下一。

さんと欲すと。晏子色を作して對へて曰く、官未だ具らざるなり。臣數ば以て聞すれども、而も君肯て聽かざるなり。故に臣聞く、仲尼は、居處惰倦、廉隅正しからざるときは、則ち季次•原憲侍し、氣鬱して疾み、志意通ぜざるときは、則ち仲由•卜商侍し、德盛ならず行厚からざるときは、則ち顏回•騫雍侍せりと。今君の朝臣萬人、兵車千乘、不善政の下に失ふ所、下民に隕墜する者衆し。未だ能く士の敢て以て聞する者あらず。臣故に曰く、官未だ具らざるなりと。公曰く、寡人今夫子に從ひて齊國の政を善くせんと欲す、可ならんかと。對へて曰く、嬰聞く、國に具官ありて、然して後其政善くすべしと。公色を作し悅ばずして曰く、齊國小なりと雖も、則ち官具らずと謂ふべけんやと。對へて曰く、此れ臣の復す所に非ざるなり。昔吾が先君桓公、身體惰懈、辭令給せざるときは則ち隰朋暱侍し、右左過多く、獄訟中らざるときは則ち弦寗暱侍し、田野修らず、民氓安からざるときは則ち寗戚暱侍す、軍吏怠り、戎士偸するときは則ち

賈二墜下民一者衆矣。未レ有二能士敢以聞者一。臣故曰。官未レ具也。公曰。寡人今欲下從二夫子一而善中齊國之政上可乎。對曰。嬰聞。國有二具官一然後其政可レ善。公作レ色不レ悅曰。齊國雖レ小。則可レ謂二官不一レ具。對曰。此非二臣之所一レ復也。昔吾先君桓公。身體惰懈。辭令不レ給。則隰朋暱侍。左右多レ過。獄訟不レ中。則弦甯暱侍。田野不レ修。民氓不レ安。則甯戚暱侍。軍吏怠。戎士偸。則王子成甫暱侍。居處佚怠。左右懾畏。繁二乎樂一省二乎治一。則東郭牙暱侍。德義不レ中。信行衰微。則管子暱侍。先君能以二人之長一。續二其短一。以二人之厚一。補二其薄一。是以辭令窮遠而不レ逆。兵加二於有罪一而不レ頓。是故諸侯朝二其德一。而天子致二其胙一。今君之過失多矣。未レ有二一士以聞一也。故曰。官不レ具。公曰。善。

王子成甫暱侍し、居處佚怠し、左右懾畏し、樂を繁くし治に省くときは則ち東郭牙暱侍す。德義中らず信行衰微するときは則ち管子暱侍せり。先君能く人の長を以て其短を續ぎ、人の厚を以て其薄を補へり。是の故に辭令窮遠にして逆せず、兵、有罪に加りて頓(五)せず。是の故に諸侯其德に朝して、天子其胙(六)を致せり。今君の過失多し。未だ一士の以て聞するあらざるなり。故に曰く、官具らずと。公曰く、善しと。

(一)これに適任せる臣下あらずと也　(二)身體の姿勢の正しからざる也　(三)おつる也、下民の身上におちくること　(四)十分ならざるをいふ　(五)敗也　(六)神に供へたる肉を分配するもの

景公問二晏子一曰。昔吾先君桓公有二管仲夷吾一。保二乂齊國一。能遂二武功一。而立二文德一。糺二合兄弟一。撫二存翌州一。吳越受レ令。荊楚惛憂。莫レ不二賓服一。勤二于周室一。天子加レ德。先君昭レ功。管子之力也。今寡人亦欲レ存二齊國之政於夫子一。夫子以佐二佑寡人一。彰二先君之功烈一。而繼二管子之業一。晏子

景公、晏子に問ひて曰く、昔吾が先君桓公に管仲夷吾あり。齊國を保乂し(一)、能く武功を遂げて文德を立つ。兄弟を糺合し、翌州を撫存す(二)。吳越令を受け、荊楚惛憂して(三)賓服せざる莫し。周室に勤めて天子德を加ふ。先君の功を昭にせしは管子の力なり。今寡人も亦齊國の政を夫子に存せんと欲す。夫子以て寡人を佐佑し(四)、先君の功烈を彰して、管子の業を繼げと。晏子對へて曰く、昔吾が先君桓公、能く賢を任用し、國に什伍ありて(五)、治、細民に徧し。貴、賤を凌がず。富、貧に傲らず。功、遺罷せず。佞(六)、吐愚せず。擧事に私せず。聽獄阿せず(七)。內妾に羨食なく(八)、外臣に羨祿なく、鰥寡に饑色なし。飮食の辟(九)を以て民の財を害せず、宮室の侈を以て人の力を勞せず。節(一〇)に民に取りて普く之を施す。府(一一)に藏なく、倉に粟なく、上に驕行なく、下に諂德なし。是の以に管子は、能く齊國を以て難に免れしめ、而して吾が先君を以て天子に參せしむ。今君、先君の功烈を彰して、管子の業に繼がんと欲せば、則ち多辟を以て百姓を傷ふことなく、嗜欲玩好を

對曰。昔吾先君桓公。能任ニ用賢一。國有ニ什伍一。治徧ニ細民一。貴不レ淩レ賤。富不レ傲レ貧。功不ニ遺罷一。佞不ニ吐愚一。擧事不レ私。聽獄不レ阿。內妾無ニ羨食一。外臣無ニ羨祿一。鰥寡無ニ饑色一。不下以ニ飲食之辟一。害中民之財上。不下以ニ宮室之侈一。勞中人之力上。節ニ取於民一。而普施レ之。府無レ藏。倉無レ粟。上無ニ驕行一。下無ニ諂德一。是以管子。能以ニ齊國一免ニ於難一。而以ニ吾先君一。參ニ乎天子一。今君欲下彰ニ先君之功烈一。而繼中管子之業上。則無下以ニ多辟一傷中百姓上。無下以ニ嗜欲玩好一怨中諸侯上。臣孰不三承レ善盡レ力以順ニ君意一。今疏ニ遠賢人一。而任ニ讒諛一。使ニ民若レ不レ勝。藉斂若レ不レ得。厚取ニ於民一。而薄ニ其施一。多求ニ於諸侯一。而輕ニ其禮一。府藏朽蠹。而禮悖ニ於諸侯一。菽粟藏深。而怨積ニ於百姓一。君臣交惡。而政刑無レ常。臣恐國之危失。而公不レ得レ享也。又惡能彰ニ先君之功烈一。而繼ニ管子之業一乎。

以て諸侯を怨むことなくば、臣孰れか善を承け力を盡して、以て君の意に順はざらん。今賢人を疏遠して讒諛に任じ、民を使ふこと勝へ(一二)ざるが若く、藉斂することを得ざるが若し。厚く民に取りて其施を薄くし、多く諸侯に求めて其禮を輕くす。府藏朽蠹(一三)して、禮、諸侯に悖り、菽粟藏深して、怨、百姓に積む。君臣交〻惡みて政刑常なし。臣は恐る、國の危失して、公の享くることを得ざらんことを。又惡ぞ能く先君の功烈を彰して、管子の業を繼がんやと。

(一)尚め保つ也　(二)いたはりいつくしむ也　(三)來り從ふ也　(四)たすくる也　(五)組合　(六)賴才ある惡人の愚人の進路を妨げずと也　(七)私也　(八)あり餘る食　(九)害也　(一〇)程よく　(一一)たからぐら　(一二)漸廢せずとしてもつと烈しく使役せんとするをいふ　(一三)くさり蟲ばむ

景公問二晏子一。莒與レ魯孰先亡。對曰、以レ臣觀レ之也。莒之細人變而不レ化。貪而好レ假。高レ勇而賤レ仁。士武以疾忿。急以速竭。是以上不レ能レ養二其下一。下不レ能レ事二其上一。上下不レ能二相收一。則政之大體失矣。故以二臣之觀一也。莒其先亡。公曰。魯何如。對曰。魯之君臣。猶好レ爲レ義。下之妥妥

景公、晏子に問ふ、莒と魯と孰れか先づ亡びんと。對へて曰く、臣を以て之を觀るに、莒の細人變じて化せず、貪にして假を好み、勇を高びて仁を賤む。士は武にして以て疾忿し、急にして以て速竭す。是の以に上は其下を養ふこと能はず、下は其上に事ふること能はず。上下相收むること能はず。則ち政の大體失す。故に臣の觀を以てすれば、莒は其れ先つ亡びんと。公曰く、魯は何如と。對へて曰く、魯の君臣は猶ほ義を爲すを好む。下の妥妥たるや、奄然として聞くこと寡し。是の以に上は能く其下を養ひ、下は能く其上に事へ、上下相收む。政の大體存す。故に魯は猶ほ長く守るべし。然れども其れ亦一あり。彼の鄒・滕、雉犇して其地に出づるも、猶ほ公侯と稱す。大の小に事へ、弱の強に事ふること久し。彼れ周は殷の樹國なり。魯は齊に近くして殷に親し。變小の國を以て、而も隣に服せずして以て遠く魯を望む、國を滅すの道なり。齊は其れ魯と莒とを有せんかと。公曰く、魯と莒との事、寡人既に之を聞くことを得たり。寡人の德も亦薄し。然し

也。倦然寡聞。是以上能養其下。下能事其上。上下相收。政之大體存矣。故晉猶可長守。然其亦有一焉。彼鄒滕雉奔而出其地。猶稱公侯。大之事小。弱之事強。久矣。彼周者殷之樹國也。晉近齊而親殷。以變小國而不服於隣。以遠望晉滅國之道也。齊其有晉與莒乎。公曰。晉與莒之事。寡人既得聞之矣。寡人之德亦薄。然後世孰踐有齊國者。對曰。田無宇之後爲幾。公曰。何故也。對曰。公量小。私量大。以施于民。其與

て後世孰れか齊國を踐有する者ぞと。對へて曰く、田無宇(一一)の後だ幾しと爲すと。公曰く、何の故ぞと。對へて曰く、公量(一二)小に私量大なり。以て民に施す。其の士と交るや、財を用ふること筐篋(一三)の藏なく、國人其子を負攜(一四)して、之に歸すること、水の下に流るゝが若し。夫れ先づ人に利を與へて、後に其難を辭するは、亦寡からずや。若し苟も辭すること勿く、從ひて之を撫せば、亦幾からずやと。

㈠ 小人にて、庶民をいふ ㈡ 表面は變ずれども同化せずと也 ㈢ 假は大なり。滿假の意にて、滿心して尊大に構ふること。おごりたかぶる也 ㈣ 直に怒る也 ㈤ 直い弱のつくるをいふ ㈥ 綏緩に同じ、おだやかにして安んずるなり ㈦ 深く藏して聞えざるをいふ ㈧ 鄒滕は、其國小にして、雉の一たび飛ばゝ即ち其境を出づるが如きなるものもと也 ㈨ 殷より樹てられたる國の意 ㈩ 偏小に同じ、小なる也 (一一) 田野の祖先 (一二) 官の量を小にして、民に恩を施すをいふ (一三) 細長くして四角なる箱、儀の貯をいふ (一四) 或はいひ或は手をひきてたすくるをいふ

士交也。用レ財無二僅饒之藏一。國人負二携其子一而歸レ之若二水之流下一也。夫先與二人利一而後辭二其難一。不二亦寡一乎。若苟勿レ辭也。從而撫レ之。不二亦幾一乎。

景公問二於晏子一曰。治レ國何患。晏子對曰。患二夫社鼠一。公曰。何謂也。對曰。夫社束レ木而塗レ之。鼠因往託焉。熏レ之則恐レ燒二其木一。灌レ之則恐レ敗二其塗一。此鼠所三以不二可レ得レ殺者。以レ社故也。夫國亦有焉。人主左右是也。內則蔽二善惡于君上一。外

景公、晏子に問ひて曰く、國を治むるに何をか患ふと。晏子對へて曰く、夫の社鼠を患ふと。公曰く、何の謂ぞやと。對へて曰く、夫れ社は木を束ねて之を塗る。鼠因りて往きて託す。之を熏ずるときは則ち其木を燒かんことを恐れ、之に灌ぐときは則ち其塗を敗らんことを恐る。此れ鼠をば殺すことを得べからざる所以の者は、社を以ての故なり。夫れ國にも亦あり。人主の左右是れなり。內には則ち善惡を君上に蔽ひ、外には則ち權重を百姓に賣る。之を誅せざれば則ち亂れ、之を誅すれば則ち人主の爲に案ぜらる。腹に據りて之を有す。此れ亦國の社鼠なり。人の酒を酤る者あり。器を爲ること甚だ潔清、表を置くこと甚だ長し。而して酒酸けれども售れず。之を里人に其故を問ふ。里人云ふ公が狗の猛なる、人、器を挈げて入り、且つ公の酒を酤はんとすれば、狗迎へて之を噬む。此れ酒の

則實ニ權重於百姓一。不レ誅レ之則亂。誅レ之則爲ニ人主一所レ案ジ據レ腹而有レ之。此亦國之社鼠也。人有ニ酤レ酒者一。爲レ器甚潔清。置レ表甚長。而酒酸不レ售。問ニ之里人其故一。里人云。公狗之猛。人挈レ器而入。且酤ニ公酒一。狗迎而噬レ之。此酒所ニ以酸而不レ售也。夫國亦有ニ猛狗一。用レ事者是也。有ニ道術一之士。欲レ干ニ萬乘之主一。而用レ事者。迎而齕レ之。此亦國之猛狗也。左右爲ニ社鼠一。用レ事者爲ニ猛狗一。主安得レ無レ壅。國安得レ無レ患乎。

酸くなりて售れざる所以なり。夫れ國にも亦猛狗あり。事を用ふる者(三)是れなり。(四)道術ある士、萬乘の主に干めんと欲す。而るに事を用ふる者迎へて之を齕む。此れ亦國の猛狗なり。左右社鼠たり、事を用ふる者猛狗たらば、主安んぞ壅なきを得んや、主安んぞ患なきを得んやと。

(一)いぶして驅除せんとする也　(二)目じるしとなるもの、かんばん　(三)局に當りて政を執るもの　(四)各種治國の術を學べるもの

景公問ニ于晏子一曰。寡人意氣衰。身病甚。今吾欲丁具ニ珪璋犧牲一。令ニ祝

景公、晏子に問ひて曰く、寡人意氣衰へ、身病むこと甚し。今吾れ珪璋犧牲(一)を具へ、祝宗(二)をして之を上帝宗廟に薦めしめんと欲す。意者に、禮以て福を干むべきかと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、古者先君の福を干むるや、政必ず

宗禱之乎。上帝宗廟。意者禮可以干福乎。晏子對曰。嬰聞之。古者先君之干福也。政必合乎民。行必順乎神。節宮室。不敢大。斬伐無偪山林。節飲食。無多畋漁。以無偪川澤。祝宗用事。辭罪而不敢有所求也。是以神民倶順。而山川納祿。今君政反乎民。而行悖乎神。

民に合ひ、行必ず神に順ひ、宮室を節にして敢て大にせず、斬伐山林に偪ることなく、飲食を節にして、畋漁(三)を多くすることなく、以て川澤に偪ることなし。祝宗事を用ひ、罪を辭して敢へて求むる所あらざるなり。是の以に、神民倶に順にして、山川祿(四)を納むと。今君、政は民に反し、行は神に悖り、宮室を大にし、斬伐を多くして、以て山林に偪り、飲食を羨し、畋漁を多くして、以て川澤に偪る。是の以に、民神倶に怨みて、山川祿を收む(五)。司過(六)罪を薦めて、祝宗福を祈む。意者に逆なるかと。公曰く、寡人、夫子に非ずんば、此を聞く所なし。請ふ、心を革め行を易へんと。是に于て公阜の遊を廢し、海食の獄を止め、斬伐する者時を以てし、畋漁する者數あり。居處飲食、食之を節にして羨すこと勿く、祝宗事を用ふるや、罪を辭して敢て求むる所あらざるなり。故に隣國之を忌み、百姓之を親む。晏子沒して後衰へたり。

(一)美石にて、神に供ふる也　(二)祭祀を司る人　(三)狩獵と漁業　(四)與へてをさめいるゝなり　(五)奪ひとる

大二宮室一。多二斬伐一。以偪二山林一。羨二飲食一。多二畋漁一。以偪二川澤一。是以民神俱怨。而山川收レ祿。司過薦レ罪。而祝宗祈レ福。意者逆乎。公曰、寡人非二天子一。無レ所レ聞レ此。請革レ心易レ行。于レ是廢二公阜之遊一。止二海食之獻一。斬伐者以レ時。畋漁者有レ數。居處飲食。節レ之勿レ羨。祝宗用レ事。辭レ罪而不二敢有レ所レ求也。故鄰國忌レ之。百姓親レ之。晏子沒而後衰。

也　㊅ 刑罰を司る官

景公問二晏子一曰。古之盛君。其行何如。晏子對曰。薄二于身一而厚二于民一。約二于身一而廣二于世一。其處レ上也。足二以明レ政行レ敎。不三以威二天下一。其取レ財也。權二有無一。均二貧富一。不三以養二嗜欲一。誅不レ避レ

景公、晏子に問ひて曰く、古への盛君、其行何如と。晏子對へて曰く、身に薄くして民に厚く、身に約して世に廣くす。其の上に處るや、以て政を明にし敎を行ふに足り、以て天下を威せず。其の財を取るや、有無を權り貧富を均しくし、以て嗜欲を養はず。誅は貴を避けず、賞は賤を遺さず。樂に淫せず、哀に遁れず。智を盡し民を導きて伐らず。力を歲事に勞して責めず。政を爲すに相利するを尙ぶ、故に下以て相害せず。敎を行ふに相愛するを尙ぶ、故に民以て相惡んで名を爲さず。刑罰、法に當り、廢罪、民に順ふ。是の以に賢者上に處りて華しからず、不肖者下に處りて怨みず。四海の内、社稷の中、粒食の民、意を一にし

貴。賞不遺賤。不淫于樂。不通于哀。盡智導民而不伐焉。勞力歲事而不責焉。爲政尙相利。故下不以相害。行教尙相愛。故民不以相惡爲名。刑罰中於法。廢罪順於民。是以賢者處上而不華。不肖者處下而不怨。四海之內。社稷之中。粒食之民。一意同欲。若夫私家之政。生有遺教。此盛君之行也。公不圖。晏子曰。臣聞。問道者更正。聞道者更容。今君稅斂重。故民心離。市賈悖。故商旅絕。玩好充。故家貨殫。積邪在於上。蓄怨藏於民。嗜欲備於側。毀非滿於國。而公不圖。公曰。善。于是令玩好不御。公市不豫。宮室不飾。業土不成。止役輕稅。上下行之。而百姓相親。

欲を同じうすること、夫の私家の政の若くにして、生きながらにして遺教(三)あるは、此れ盛君の行なりと。公圖らず。晏子曰く、臣聞く、道を問ふ者は正を更め、道を聞く者は容(四)を更むと。今君の稅斂重し。故に民心離れ、市賈悖る。故に商旅絕え、玩好充つ。故に家貨殫く。積邪上に在り、蓄怨民に藏し、嗜欲側に備り、毀非國に滿つ。而も公圖らずと。公曰く、善しと。是に于て玩好御せず、公市豫(五)せず、宮室飾らず、業土成らず、役を止め稅を輕からしむ。上下之を行ひて百姓相親めり。

(一) 處置の誤か。人を進退處置すること (二) 殫に同じ (三) 後世にのこる教 (四) 心の誤 (五) 掛値

景公問二晏子一曰。謀必得。事必成。有レ術乎。晏子對曰。有。公曰。其術如何。晏子曰。謀度二於義一者必得。事因二于民一者必成。公曰。奚謂也。對曰。其謀也。左右無レ所レ繫。上下無レ所レ縻。其聲不レ悖。其實不レ逆。謀於上一不レ違レ天。謀二於下一不レ違レ民。以レ此謀者必得矣。事大則利厚。事小則利薄。

景公、晏子に問ひて曰く、謀は必ず得、事は必ず成る、術あるかと。晏子對へて曰く、有りと。公曰く、其術は如何と。晏子曰く、謀の義に度る者は必ず得、事の民に因る者は必ず成ると。公曰く、奚の謂ぞやと。對へて曰く、其謀たるや、左右繫る所なく、上下縻る所なく、其聲悖らず、其實逆はず、上に謀りて天に違はず、下に謀りて民に違はず。此を以て謀る者は必ず得。事大なれば則ち利厚く、事小なれば則ち利薄し。事の大小を稱り、利の輕重を權り、國に義ありて民を勞すれば加利あり。此を以て、事を擧ふ者は必ず成る。夫れ人を逃して謀らば、成ると雖も安からず。民に傲りて事を擧へば、成ると雖も榮えず。故に臣聞く、義謀の法と民事の本とを以てなりと。故に義に及んで謀り、民に信ぜられて動かば、未だ存せざる者を聞かざるなり。昔三代の興るや、謀は必ず其義を度り、事は必ず民に因れり。其の衰ふるに及びてや、謀を建つるに義に及ばず、事を興して民を傷れり。故に義を度り民に因るは、事を謀るの術なりと。公曰く、寡人

稱ニ事之大小一。權ニ利之輕重一。國有レ義務レ民有ニ如利一。以レ此擧レ事者必成矣。夫逃レ人而謀。雖レ成不レ安。傲レ民擧レ事。雖レ成不レ榮。故臣聞。義謀之法。以ニ民事之本一也故及レ義而謀。信レ民而動。未レ聞ニ不レ存者一也。昔三代之興也。謀必度ニ其義一。事必因ニ于民一。及ニ其衰一也。建レ謀不レ及レ義。興レ事傷レ民。故度レ義因レ民。謀レ事之術也。公曰。寡人不敏。聞レ善不レ行。其危如何。對曰。上君全レ善。其次出入焉。其次結レ邪而羞レ問。全善之君能制。出入之君時問。雖ニ日危一。尚可ニ以沒レ身。羞問之君。不レ能レ保ニ其身一。今君雖レ危。尚可レ沒ニ其身一也。

不敏、善を聞きて行はず。其の危きこと如何と。對へて曰く、上君は善を全うす。其次は出入す(三)。其次は邪を結んで問ふを羞づ。全善の君は能く制す。出入の君は時に問ふ。日に危しと雖も、尚ほ以て身を沒すべし(四)。羞問の君は、其身を保つこと能はず。今君危しと雖も、尚ほ其身を沒すべきなりと。

(一) 加の誤　(二) 義の誤か　(三) 時に出入する意　(四) 天命を全うするをいふ

景公問ニ晏子一曰。蒞レ國治レ民。善爲ニ國家一者何如。晏子對曰。擧レ賢以臨レ

景公、晏子に問ひて曰く、國に蒞み民を治め、善く國家を爲むるには何如と。晏子對へて曰く、賢を擧げて以て國に臨み、能を官にして以て民を救む、則ち其道なり。賢を擧げ能を官にすれば、則ち民、君に與すと。公曰く、賢能ありと雖

國官レ能以敎レ民。則其道也。與レ賢官レ能。則民與レ君矣。公曰。雖レ有二賢能一。吾庸知乎。晏子對曰。賢而隱。庸爲レ賢乎。吾君亦不レ務二乎是一。故不レ知也。公曰。請二問求レ賢。對曰。觀レ之以二其游一。說レ之以二其行一。君無下以二靡曼辯辭一定中其行上。無下以二毀譽非議一定中其身上。如レ此則不三爲レ行以揚レ聲。不三掩レ欲以禁レ君。故通則視二其所レ擧。窮則視二其所レ不レ爲。富則視二其所レ不レ取。夫上士雖レ進而易レ退也。其次易レ進易レ退也。其下易レ進難レ退也。以二此數物者一取レ人。其可乎。

も、吾れ庸ぞ知らんやと。晏子對へて曰く、賢にして隱るゝは、庸ぞ賢と爲さんや。吾君も亦是に務めず。故に知らざるなりと。公曰く、賢を求めんことを請ひ問ふと。對へて曰く、之を觀るに其游(一)を以てし、之を說くに其行を以てす。君は靡曼(二)辯辭を以て其行を定むること無かれ。毀譽非議を以て其身を定むることなかれ。此の如くなれば則ち行を僞(三)りて以て聲を揚げず、欲を掩ひて以て君を禁(四)さず。故に通(五)ずれば則ち其の擧ぐる所を視、窮すれば則ち其の爲さざる所を視、富めば則ち其の取らざる所を視る。夫れ上士は、進み難くして退き易きなり。其次は、進み易く退き易し。其下は進み易く退き難し。此の數物の者を以て人を取らば、其れ可ならんかと。

(一) 朋友也　(二) 柔弱なること。一說に美色なりともいふ　(三) 僞也　(四) 受の誤、蔽也　(五) 榮達するをいふ

景公問ニ晏子一曰。爲レ君身尊民安。爲レ臣事治身榮。難乎易乎。晏子對曰。易。公曰。何若。對曰。爲レ君節レ養。其餘以顧レ民。則君尊而民安。爲レ臣忠信。而無レ踰ニ職業一。則事治而身榮。公又問。爲レ臣何行則危。爲レ臣何行則廢。晏子對曰。爲レ君厚ニ藉斂一。而託ニ之爲レ民。進ニ讒諛一。而託ニ之用レ賢。

景公、晏子に問ひて曰く、君と爲りて身尊く民安く、臣と爲りて事治り身榮ゆ、難きか易きかと。晏子對へて曰く、易しと。公曰く、何若と。對へて曰く、君と爲りて養を節にして、其餘以て民を顧れば、則ち君尊くして民安し。臣と爲りて忠信にして職業を踰ゆることなければ、則ち事治りて身榮ゆと。公又問ふ、君と爲りて何を行はば則ち危く、臣と爲りて何を行はば則ち廢せんと。晏子對へて曰く、君と爲りて藉斂を厚くして、之を民の爲にするに託し(一)、讒諛を進め、之を賢を用ふるに託し、公正を遠ざけ、之を不順に託す。君此三者を行へば則ち危し。臣と爲りて比周(二)して以て進まんことを求め、職業を踰えて下を防ぎ、利を隱して多きを求め、君に從ひ、過を陳ぜずして親を求む。人臣此三者を行へば則ち廢す。故に明君は邪を以て民に觀さず。則を守りて虧かず。法儀を立てて犯さず。苟も民に求むる所ありとも、身を以て之を害せず。是の故に、刑政下に安く、民心上に固し。故に察士(三)は、比周して進まず、苟もして求むるこ

遠ニ公正ニ而託ニ之不順ニ。君行ニ此三者ー則危。爲ニ臣比周以求レ進。諭ニ職業ー防レ下。隱レ利而求レ多。從レ君不レ陳レ過而求レ親。人臣行ニ此三者ー則廢。故明君不ニ以レ邪觀ヒ民。守レ則而不レ虧。立ニ法儀ー而不レ犯。苟有レ所レ求ニ於民ー。而不ニ以レ身害ヒ之。是故刑政安ニ於下ー。民心固ニ於上ー。故察士不ニ比周而進ー。不レ爲ニ苟而求ー。言無ニ陰陽ー。行無ニ内外ー。順則進。否則退。不ニ與レ上行ヒ邪。是以進不レ失レ廉。退不レ失レ行也。

とを爲さず。言に陰陽なく、行に内外なく、順なれば則ち進み、否らざれば則ち退く。上と邪を行はず。是の以に、進みて廉を失はず、退きて行を失はざるなりと。

(一) かこつくる也、僞りて係かなす也　(二) 親みて黨をつくる也　(三) 理に明なる士

景公問ニ晏子ー曰、寡人持ニ不仁ー。其無レ義耳也。不レ然北面與ニ夫子ー而義。晏子對曰。嬰人臣也。公曷爲出ニ若言ー。公

景公、晏子に問ひて曰く、寡人、不仁を持す。其れ義なきのみ。然らずんば、(一)北面して夫子と義せんと。晏子對へて曰く、嬰は(二)人臣なり。公曷爲れぞ若き言を出すと。公曰く、請ふ、終へ問はん、天下の存亡する所以はと。晏子曰く、(三)緩密にして學を(四)麁苴すること能はざる者は(五)詘す。身は以て人を用ふることなく、而して又人の爲に用ひられざる者は卑し。善人をば(六)賊むこと能はず、惡人をば疎

曰。請終問。天下之所二以存一亡一。晏子曰。纔密不レ能レ蔗二苴學一者詘。身無二以用上人。而又不三為二人用一者卑。善人不レ能レ戚。悪人不レ能レ疎者危。交二游朋友一。從無三以悦二於人一。又不レ能レ悦レ人者窮。事レ君要レ利。大者不レ得。小者不レ為者餒。修レ道立レ義。大不レ能レ專。小不レ能レ附者滅。此足三以觀二存亡一矣。

んずること能はざる者は危し。朋友に交游し、從と以て人に悦ばるゝことなし、又人を悦ばすこと能はざる者は窮す。君に事へて利を要め、大なる者をば得ず、小なる者をば爲さざる者は餒う。道を修め義を立て、大、專なること能はず、小、附くこと能はざる者は滅す。此れ以て存亡を觀るに足ると。

㈠この問に誤あらん ㈡臣下となるをいふ ㈢緻密なることを行ふ能はざるをいふ ㈣粗大也 ㈤屈に同じ ㈥親也

景公問二晏子一曰。君子常行曷若。晏子對曰。衣冠不中。不三敢以入上朝。所レ言不義。不二

景公、晏子に問ひて曰く、君子の常行は曷若と。晏子對へて曰く、衣冠不中㈠なれば、敢て以て朝に入らず。言ふ所不義なれば、敢て以て君を要せず㈡。己れを行ふこと不順なるは、敢て以てせず。事を治むるに不公なれば、敢て以て衆に蒞まず。衣冠に不中なし、故に朝に奇僻の服なし。言ふ所不義なし、故に下は

敢以要君。行已不順。不敢以治事。不公。不敢以蒞衆。衣冠無不中。故朝無奇僻之服。所言無不義。故下無偽上之報。身行順。治事公。故國無阿黨之義。三者君子之常行者也。

上を偽るの報なし。身行ふこと順に、事を治むること公なり。故に國に阿黨の義なし。三者は君子の常に行ふ者なりと。

㊀中正ならざるをいふ　㊁強ひて求めざる也

景公問晏子曰。賢君之治國者何。晏子對曰。其政任賢。其行愛民。其取下節。其自養儉。在上不犯下。在治不傲窮。從邪害民者有罪。進善舉過者有賞。其政刻

景公、晏子に問ひて曰く、賢君の國を治むること何んと。晏子對へて曰く、其政は賢に任じ、其行は民を愛し、其の下に取ること節に、其の自ら養ふこと儉に、上に在りて下を犯さず、治に在りて窮に傲らず、邪に從ひ民を害する者は罪あり、善を進め過を擧ぐる者は賞あり。其の政、上を刻くして下を饒にし、過を赦して窮を救ふ。喜に因りて以て賞を加へず、怒に因りて以て罰を加へず。欲を從にして以て民を勞せず。怒を修めて國を危くせず。上に驕行なく、下に諂德なく、上に私議なく、下に竊權なく、上に朽蠹の藏なく、下に凍餒の民

上而饒下。赦過而救窮。不因喜以加賞。不因怒以加罰。不從欲以勞民。不修怒而危國。上無驕行。下無諂德。上無私議。下無竊權。上無朽蠹之藏。下無凍餒之民。不事驕行而尚司。其民安樂而尚親。賢君之治國若此。

なく、驕行を事とせずして司を尙び、其民安樂にして親を尙ぶ。賢者の國を治むること此の若しと。

（一）謗也　（二）朽ち、蟲ばむまでしまひおくもの

景公問晏子曰。明王之教民何若。晏子對曰。明其教令。而先之以行義。養民不苛。而防之以刑辟。所求于下者。不務於上。所禁於民者。不行於身。守于民財。無

景公、晏子に問ひて曰く、明王の民を教ふること何若と。晏子對へて曰く、其教令を明にして、之を先んずるに義を行ふを以てし、民を養ふこと苛ならずして、之を防ぐに刑辟を以てし、下に求むる所の者、上に務めず、民に禁ずる所の者、身に行はず。民財を守りて、（一）之を虧くに利を以てすることなく、儀法を立て、之を犯すに邪を以てせず。苟も民に求むる所、身を以て之を害せず。故に下の其教に（二）勸從するや、事を稱りて以て民を任じ、（三）中聽して以て邪を禁じ、之を窮するに勞を以てせず、之を害するに實を以てせず。苟も民に禁ずる所、事を以て之に

斷之以利。立于儀法。不犯之以邪。苟所求于民。不以身害之。故下之勸從其教也。稱事以任民。中聽以禁邪。不窮之以勞。不害之以實。苟所禁于民。不以事逆之。故下不敢犯其上也。古者百里而異習。千里而殊俗。故明王修道一民同俗。上愛民爲法。下相親爲義。是以天下不相遺。此明王教民之理也。

逆はず。故に下敢て其上を犯さざるなり。古者百里にして習を異にし、千里にして俗を殊にせり。故に明王は道を修め民を一にし俗を同じうす。上は民を愛するを法と爲し、下は相親むを義と爲す。是の以に天下相遺てず。此れ明王、民を教ふるの理なりと。

㈠私利のために之を斷かしむることなくと也　㈡はげみ從ふ也　㈢中正の言をきゝ用ふること

景公問於晏子曰。忠臣之事君也何若。晏子對曰。有難不死。出亡不送。公不悅

景公、晏子に問ひて曰く、忠臣の君に事ふること何若と。晏子對へて曰く、難ありて死せず、出亡して送らずと。公悅ばずして曰く、君、地を裂きて之を封じ、爵を疏ちて之を貴くす。君に難ありて死せず、出亡して送らず、忠と謂ふべけんやと。對へて曰く、言ひて用ひらるれば、終身難なし。臣奚ぞ死せん。謀り

曰。君裂レ地而封レ之、疏レ爵而貴レ之。君有レ難不レ死。出亡不レ送。可レ謂レ忠乎。對曰。言而見レ用。終身無レ難。臣奚死焉。謀而見レ從。終身不レ出。臣奚送焉。若言不レ用。有レ難而死レ之。是妄死也。謀而不レ從。出亡而送レ之。是詐僞也。故忠臣也者。能納二善於君一。不レ能三與レ君陷二於難一。

て從はるれば、終身出でず、臣奚ぞ送らん。若し言用ひられず、難ありて之に死せば、是れ妄死なり。謀りて從はれず、出亡して之を送らば、是れ詐僞なり。故に忠臣なる者は、能く善を君に納れ、君と難に陷ること能はずと。

● 君の出亡する也

景公問二晏子一曰。忠臣之行何如。對曰。不レ掩二君過一。諫二乎前一。不レ華二乎外一。選レ賢進レ能。不レ私二乎內一。稱レ身就レ位。計レ能定レ祿。睹レ賢不レ居二其上一。受レ祿不レ

景公、晏子に問ひて曰く、忠臣の行何如と。對へて曰く、君の過を掩はず。前に諫めて外に華しくせず。賢を選び能を進めて、內に私せず。身を稱りて位に就き、能を計りて祿を定め、賢を睹て其上に居らず。祿を受くること其量に過ぎず。居を權りて以て行を爲さず。位を稱りて以て忠を爲さず。賢を掩ひて以て長を隱さず。下を刻して以て上に諛はず。君在れば太子に事へず。國危ければ諸侯に交らず。順なれば則ち進み、否らざれば則ち退き、君と邪を行はずと。

過二其量一。不二權レ居以爲レ行。不二稱レ位以爲レ忠。不二揜レ賢以隱レ長。不二刻レ下以諛レ上。君在不レ事二太子一。國危不レ交二諸侯一。順則進。否則退。不三與レ君行二邪也。

(一)譯也、かまびすしく外に洩さぬ也　(二)二心の嫌を避くる也

景公問二佞人之事レ君如何。晏子對曰。意難難不レ至也。明言レ行レ之以飾レ身。僞言レ無レ欲以說レ人。嚴二其交一以見二其愛一。觀二上之所一レ欲。而微爲二之偶一。求二君逼邇一。而陰爲二之與一。內重二爵祿一。而外輕レ之。以二誣行一下二事左右一。

景公問ふ、佞人の君に事ふること如何と。晏子對へて曰く、意に難とするに、難至らざれば、明に之を行はんと言ひて以て身を飾る。僞りて欲なしと言ひて以て人を說ばす。其交を嚴にして以て其愛を見す。上の欲する所を觀て微に之が偶と爲る。君の逼邇に求めて陰に之が與と爲る。內、爵祿を重んじて外之に輕んず。誣行を以て左右に下事して、正公か而示す。僞廉を以て上の采聽を求めて、幸に以て進むことを求む。祿に傲りで以て多を求め、任を辭して以て重を求む。取るに工に、予ふるに鄙しく、新に歡し、故に慢し、財に恪に、施に薄く、貧窮を視ること識らざるが若く、利に趨ること及ばざるが若し。外交以て自ら揚げ、親に背きて以て自ら厚くす。豐義の養を積みて、矜耶の義を辭し、情に非擧

而面示二正公一。以二僞廉一求二上采聽一。而幸以求レ進。傲レ祿以求レ多。辭レ任以求レ重。工二乎取一。鄙二乎予一。歡二乎新一。慢二乎故一。悋二乎財一。薄二乎施一。覩二貧窮一若レ不レ識。趨レ利若レ不レ及。外交以自揚。背レ親以自厚。積二豐義之養一。而聲二矜卹之義一。非二譽乎情一。而言不レ行。身涉二時所一レ議。而好論二賢不肖一。有二之己一。不レ難レ非二之人一。無二之己一。不レ韓レ求二之人一。其言彊梁而信。其進敏遜而順。此佞人之行也。明君之所レ誅。愚君之所レ信也。

して、言行はず。身は時の議する所に渉りて、好んで賢不肖を論じ、之を己れに有して、之を人に非るを難んぜず。(一〇)之を己れに無くして、之を人に求むるに難んぜず。其言は彊梁にして信あり。(一一)其進は敏遜にして順なり。此れ佞人の行なり。明君の誅する所、愚君の信ずる所なりと。

(一) 心に困難と思ひながら、之を敢ひて、輕卒にする也 (二) 相手 (三) 近臣 (四) 仲間 (五) 表面にしか見する也 (六) 舊友を輕んずる也 (七) 吝也 (八) 義は、義の誤。即ち有餘の財を積みて、表面に矜卹の聲を高くすと也 (九) 心中にのみ、或は人を誹り、或は人を褒めて、これが實行を正しくせずと也 (一〇) 義に據らず、世の議に從ひて也 (一一) 意地强き也

景公問二晏子一曰。聖人之不レ得レ意何如。晏

景公、晏子に問ひて曰く、聖人の意を得ざる、何如と。晏子對へて曰く、上、事を作して天の時に反し、政に從ひて鬼神に逆ひ、藉斂は百姓を殫し、四時序

子對曰。上作ㇾ事反ニ天時ー。從ㇾ政逆ニ鬼神ー。藉歛殫ニ百姓ー。四時易ㇾ序。神祇並怨。道ㇾ忠者不ㇾ聽。薦ㇾ善者不ㇾ行。諛ㇾ過者有ㇾ賚。救ㇾ失者有ㇾ罪。故聖人伏匿隱處。不ㇾ干ニ長上ー。潔ㇾ身守ㇾ道。不ㇾ與ニ世陷ニ乎邪ー。是以卑而不ㇾ失ㇾ義。瘁而不ㇾ失ㇾ廉。此聖人之不ㇾ得ㇾ意也。聖人之得ㇾ意何如。對曰。世治政平。擧事調ニ乎天ー。藉歛和ニ乎百姓ー。樂及ニ其政ー。遠者懷ニ其德ー。四時不ㇾ失ㇾ序。風雨不ㇾ降ㇾ虐。天明ㇾ象而贊。地長育而具ㇾ物。神降ㇾ福而不ㇾ靡。民服ㇾ教而不ㇾ僞。治無ニ怨業ー。居無ニ廢民ー。此聖人之得ㇾ意也。

を易へ、神祇並び怨み、忠に道る者は聽かれず、善を薦むる者は行はれず、過に諛ふ者は賚あり、失を救ふ者は罪あり。故に聖人伏匿隱處して長上に干（一）めず、身を潔くし道を守りて、世と邪に陷らず。是の以に卑しうして義を失はず、瘁みて廉を失はず。此れ聖人の意を得ざるなりと。聖人の意を得ること何如と。對へて曰く、世治り政平しく、擧事、天に調し、藉歛、百姓に和し、樂、其政に及ぶ。遠き者は其政に懷き（二）、四時序を失はず、風雨虐を降さず、天は象を明にして贊し、地は長育して物を具へ、神は福を降して靡（三）せず、民は敎に服して僞らず。治に怨業なく、居に廢民なし。此れ聖人の意を得るなりと。

（一）進んで世に出づる也　（二）正也　（三）靡ならざるをいふ

景公問二晏子一曰。古者君レ民而不レ危。用レ國而不レ弱。惡乎失レ之。晏子對曰。嬰聞レ之。以レ邪莅レ國。以レ暴和レ民者危。修レ道以要レ利。得レ求而返レ邪者弱。古者文王修レ德不三以要二利。滅レ暴不三以順二紂。干二崇侯之暴一。而禮二梅伯之醢一。是以諸侯明二乎其行一。百姓通二乎其德一。故君レ民而不レ危。用レ國而不レ弱也。

景公、晏子に問ひて曰く、古者民に君として危からず、國を用ひて弱からず。惡ぞ之を失へると。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、邪を以て國に莅み、暴を以て民を和する者は危し。道を修めて以て利を要め、求を得て邪に返る者は弱しと。古者文王、德を修めて以て利を要めず、暴を滅して以て紂に順はず。崇侯(一)の暴を干して、梅伯(二)の醢に禮す。是の以に諸侯其行を明にし、百姓其德に通ぜり。故に民に君とし危からず、國を用ひて弱からざりしなりと。

(一) 紂王の暴臣　(二) 當時の善良なる諸侯の殺されて醢にせられし也

景公問二晏子一曰。古之莅レ國治レ民者。其任レ人何如。晏子對曰。地不レ同

景公、晏子に問ひて曰く、古の國に莅み民を治むる者、其の人に任ずること何如と。晏子對へて曰く、地は生を同じうせず、而も之に任ずるに一種を以てし、其の倶に生ぜんことを責むるは、得べからず。人は能を同じうせず、而も之に任

生。而任レ之以二一種一。責二其俱生一。不レ可レ得。人不レ同レ能。而任レ之以二一事一。不レ可レ責二偏成一。責焉無レ已。智者有レ不レ能レ給求焉無レ饜。天地有レ不レ能レ贍也。故明王之任レ人。諂諛不レ邇二乎左右一。阿黨不レ治二乎本朝一。任二人之長一。不レ強二其短一。任二人之工一。不レ強二其拙一。此任レ人之大略也。

ずるに一事を以てし、偏く成らんことを責むべからず。責めて已むことなければ、智者も給すること能はざるあり。求めて饜くことなければ、天地も贍すこと能はざるあり。故に明王の人に任ずる、諂諛を左右に邇づかしめず、阿黨を本朝に治めしめず。人の長に任じて其短を強ひず、人の工に任じて其拙を強ひす。此れ人に任ずるの大略なりと。

㊀ 足也

景公問二晏子一曰。古者離二散其民一。而隕二失其國一者。其常行何如。晏子對曰。國貧而

景公、晏子に問ひて曰く、古者其民を離散して、其國を隕失する者、其の常行何如と。晏子對へて曰く、國貧にして大を好み、智薄くして事を好み、貴賤親なく、大臣禮なし。讒諛を尚びて賢人を賤み、簡慢を樂みて百姓を玩ぶ。國に常法なく、民に經紀なし。辯を好みて忠と以爲ひ、流湎して國を忘れ、兵を好みて

好レ大。智薄而好レ專。貴賤無レ親焉。大臣無レ禮焉。尚二讒諛一。而賤二賢人一。樂二簡慢一。而玩二百姓一。國無二常法一。民無二經紀一。好レ辯以爲二忠一。流湎忘レ國。好レ兵而忘レ民。肅二于罪誅一。而慢二于慶賞一。樂二人之哀一。利二人之難一。德不レ足二以懷レ人。政不レ足二以惠レ民。賞不レ足二以勸レ善。刑不レ足二以防レ非。亡國之行也。今民聞二公令一。如二寇讎一。此古離二散其民一。隕二失其國一。所二常行一者也。

民を忘れ、罪誅に肅(三)して慶賞に慢し、人の哀を樂み、人の難を利し、德は以て人を懷くるに足らず、政は以て民を惠するに足らず、賞は以て善を勸すに足らず、刑は以て非を防ぐに足らず。亡國の行なり。今民、公令を聞くこと寇讎の如し。此れ古の其民を離散し、其國を隕失するの、常に行ひし所のものなりと。

(一)法度　(二)深く酒に親む也　(三)嚴しくする也

景公問二晏子一曰。吾欲レ和レ民親レ下。奈何。晏子對曰。君得レ臣而任二使之一。與言信。必順二

景公、晏子に問ひて曰く、吾れ民を和し下を親まんと欲す、奈何と。晏子對へて曰く、君、臣を得て之を任使(一)す、與に言ふこと信に、必ず其行を順にし、其過を赦し、大(二)に任じて多く責むることなく、邇臣をして變(三)を求むることなからしめ、嗜欲を以て其家を貧にすることなく、讒人を信じて其心を傷ることなく、家

其行。赦二其過一。任レ大無二多責一焉。使二邇臣無一レ求レ嬖焉。無下以二嗜欲一貧中其家上。無下信二讒人一傷中其心上。家不二外求一而足レ事レ君。不レ因レ人而進。則臣和矣。儉二於藉斂一。節二于貨財一。作レ工不レ歷レ時。使レ民不レ盡レ力。百官節レ適。關市省レ征。山林陂澤。不レ專二其利一。領レ民治レ民。勿レ使二煩亂一。知二其貧富一。勿レ使二凍餒一。則民親矣。公曰。善。寡人聞レ命矣。故令三諸子無二外親一。謁辟梁丘據無レ使レ受レ報。百官節適。關市省レ征。陂澤不レ禁。冤報者過。留獄者請焉。

は外に求めずして君に事ふるに足り、人に因らずして進むときは、則ち臣和す。藉斂に儉に、貨財に節に、工を作すこと時を歷ず、民を使ふこと力を盡さず。百官適を節し、關市(四)征を省き、山林陂澤、其利を專にせず。民を領し民を治むること、煩亂せしむること勿く、其貧富を知りて、凍餒せしむること勿きときは、則ち民親むと。公曰く、善し。寡人命を聞かんと。故に諸子をして外親(五)なからしめ、謁辟(六)梁丘據報(七)を受けしむることなく、百官適を節し、關市征を省き、陂澤禁ぜず。冤報(八)の者は過ぎ、留獄の者は請へり。

(一) 臣の譏か　(二) 人の譏か　(三) 關也　(四) 租稅　(五) 外人の近親也　(六) 內謁して寵を求めしものの意　(七) 判決書か、即ち、裁判に干與せしめざるをいふ　(八) ゆるして通過せしめしをいふ

景公問晏子曰。取人得賢之道何如。晏子對曰。擧之以語。考之以事。能論則尙而親之。近而勿辱。以取人。則得賢之道也。是以明君居上。寡其官而多其行。拙於文而工於事。言不中不言。行不法不爲也。

景公、晏子に問ひて曰く、人を取り賢を得るの道何如と。晏子對へて曰く、之を擧ぐるに語(一)を以てし、之を考ふるに事(二)を以てし、能く諭る時は則ち尙びて之を親み、近づけて辱むること勿く、以て人を取らば、則ち賢を得るの道なり。是の以に明君の上に居る、其官を寡くして其行を多くす。文に拙にして事に工に、言、中らざれば言はず、行、法らざれば爲さざるなりと。

(一) 言也　(二) 實績

景公問晏子曰。臣之報其君何以。晏子對曰。臣雖不知。必務報君以德。士逢有道之君。則順其令。逢無道之君。爭其不義。

景公、晏子に問ひて曰く、臣の其君に報(一)ずる、何をか以てすると。晏子對へて曰く、臣は不知と雖も、必ず君に報ゆるに德を以てすることを務む。士、有道の君に逢はば則ち其令に順ひ、無道の君に逢はば則ち其不義を爭ふ。故に君は臣を擇びて之を使ひ、臣は賤しと雖も、亦君を擇びて之に事ふることを得と。

(一) 返報する意

之君。則爭二其不義一。故君者擇レ臣而使レ之。臣雖レ賤。亦得三擇レ君而事二之。

景公問二于晏子一曰。臨レ國莅レ民。所レ患何也。晏子對曰。所レ患者三。忠臣不レ信。一患也。信臣不レ忠。二患也。君臣異レ心。三患也。是以明君居レ上。無二忠而不一レ信。無二信而不忠者一。是故君臣同レ欲。而百姓無レ怨也。

景公、晏子に問ひて曰く、國に臨み民に涖みて、患ふる所は何ぞと。晏子對へて曰く、患ふる所の者三、忠臣の信ぜられざるは一患なり。信臣の不忠なるは二患なり。君臣心を異にするは三患なり。是の以に明君の上に居るや、忠にして信ぜられざるなく、信ぜられて不忠なる者なし。是の故に、君臣欲を同じうして百姓怨なきなりと。

● 心配する所也

景公問二于晏子一曰。爲レ政何患。晏子對曰。患二善惡之不一レ分。公曰。何以

景公、晏子に問ひて曰く、政を爲すに何をか患ふと。晏子對へて曰く、善惡の分たざるを患ふと。公曰く、何を以て之を察すると。對へて曰く、審に左右を擇び、善なれば則ち百僚各ゝ其の宜しき所を得て、善惡分ると。孔子之を聞きて

察レ之、對曰。審擇ニ左右一。善則百僚各得ニ其所一レ宜而善惡分。孔子聞レ之曰、此言也信矣。善進則不善無ニ由入一矣。不善進則善無ニ由入一矣。

曰く、此言や信なり。善進まば則ち不善由つて入ることなく、不善進まば則ち善由つて入ることなしと。

(一)判定する能はざることをいふ

問下第四

景公出游。問ニ於晏子一曰。吾欲下觀ニ於轉附朝舞一。遵レ海而南至中於琅琊上。寡人何修。則夫先先王之遊。晏子再拜曰。善哉。君之問也。聞。天子

景公出游し、晏子に問ひて曰く、吾れ(一)轉附・(二)朝舞に觀び、海に遵ひて南のかた琅琊に至らんと欲す。寡人何を修めば、則ち夫れ先王の遊ならんと。晏子再拜して曰く、善いかな、君の問ひや。聞く、天子の諸侯に之くを(三)巡狩と爲し、諸侯の天子に之くを(四)述職と爲すと。故に春は耕を省て足らざる者を補ふ、之を游と謂ひ、秋は(五)實を省て足らざる者を助く、之を豫と謂ふ。夏諺に曰く、吾君遊せずんば、我れ曷を以て休せん。我君豫せずんば、我れ曷を以て助せんと。一遊一豫諸

之二諸侯一爲二巡狩一。諸侯之二天子一爲二述職一。故春省レ耕而補二不レ足者一。謂二之遊一。秋省レ實而助二不レ足者一。謂二之豫一。夏諺曰。吾君不レ遊。我曷以休。我君不レ豫。我曷以助。一遊一豫。爲二諸侯度一。今君之遊不レ然。師往而糧食。貧苦不レ補。勞者不レ息。夫從レ南歷レ時而不レ反。謂二之流一。從レ下而不レ反。謂二之連一。從レ獸而不レ歸。謂二之荒一。從レ樂而不レ歸。謂二之亡一。古者聖王。無二流連之遊。荒亡之行一。公曰。善。命レ吏計二公掌之粟一。藉二長幼貧氓之數一。吏所レ委發レ廩出レ粟。以予二貧民一者三千鍾。公所二自見一羸老者七十人。振二贍之一。然後歸也。

侯の度たり。今君の遊は然らず。師往きて糧食するに、貧苦補はず、勞者息はず。夫れ南に從ひ、時を歷て反らず、之を流と謂ひ、下に從ひて反らざる、之を連と謂ひ、獸に從ひて歸らざる、之を荒と謂ひ、樂に從ひて歸らざる、之を亡と謂ふ。古者の聖王には、(六)流連の遊、荒亡の行なしと。公曰く、善しと。吏に命じて、(七)公掌の粟を計り、長幼貧氓の數を藉し、吏に委する所、廩を發き粟を出して、以て貧民に予ふること三千鍾、公が自ら見る所の、羸老の者七十人、之を(八)振贍して然して後に歸れり。

㈠ 地名、海岸の地　㈡ 見物する也　㈢ 狩は守也、天子が諸侯の守る所即ち任地を視察すること　㈣ 諸侯が參內して己が職務に關することを言上すること　㈤ 收穫　㈥ 流連は遊樂に耽りて家に歸るを忘るゝをいふ。荒亡は狩獵飲酒に耽りて家にかへるを忘るゝをいふ　㈦ 公有の粟也　㈧ にぎはし足らしめしをいふ

景公問二於晏子一曰。昔吾先君桓公。善飲レ酒窮レ樂。食味方丈。好色無レ別。辟若レ此。何以能率二諸侯一。以朝二天子一乎。晏子對曰。昔吾先君桓公。變レ俗以レ政。下レ賢以レ身。管仲君之賊者也。知三其能足二以安レ國濟ヒ功。故迎二之于魯郊一。自御禮二之於廟一。異日君過二于康莊一。聞二寧戚歌一。止レ車而聽レ之。則賢人之風也。擧以爲二大田一。先君見レ賢不レ留。使レ能不レ怠。是以内政則民

景公、晏子に問ひて曰く、昔吾先君桓公、善く酒を飲み樂を窮め、食味方丈(一)、色を好みて別なし(二)。辟此の若し。何を以て能く諸侯を率ゐて以て天子に朝せしかと。晏子對へて曰く、昔吾先君桓公、俗を變ずるに政を以てし、賢に下るに身を以てせり。管仲は君の賊なる者なり。其の能く以て國を安んじ功を濟すに足るを知る。故に之を魯郊に迎へ(三)、自ら御して之を廟に禮せり。異日君、康莊(四)を過ぎ、寧戚の歌を聞き、車を止めて之を聽けば、則ち賢人の風なり。擧げて以て大田と爲せり。先君は、賢を見て留めず、能を使ふこと怠らず。是の以に内政は則ち民之に懐き、征伐は則ち諸侯之を畏る。今君、先君の過を聞きて、大節を明にすること能はず。桓公の霸たる、君奚をか疑ふと。

(一) 美味の食を一丈四方の室に充たしむること　(二) 女色男色を好みしをいふ　(三) 嘗て桓公を害せんとせしものなりと　(四) 市街の大通り

懐之。征伐則諸侯長之。今君聞先君之過。而不能明大節。桓公之覇也。君奚疑焉。

景公問晏子曰。昔吾先君桓公。從車三百乘。九合諸侯。一匡天下。今吾從車千乘。可以逮先君桓公之後乎。晏子對曰。桓公從車三百乘。九合諸侯。一匡天下者。左有鮑叔。右有仲父。今君左爲倡。右爲優。讒人在前。諛人在後。又焉可逮桓公之後者乎。

一　景公、晏子に問ひて曰く、昔吾先君桓公、從車三百乘、諸侯を九合し、天下を一匡せり。今吾從車千乘、以て先君桓公の後に逮ぶべきかと。晏子對へて曰く、桓公、從車三百乘、諸侯を九合し、天下を一匡せし者は、左に鮑叔あり、右に仲父あり。今君、左は倡たり、右は優たり。讒人前に在り、諛人後に在り。又焉ぞ桓公の後に逮ぶべき者ならんやと。

(一) 九は糾に通ず連合する也　(二) 管仲也　(三) 倡優は女樂俳優なり

景公問晏子。廉政而長久。其行何也。晏子對曰。其行水也。美哉水

景公、晏子に問ふ、廉政にして長久なる、其行何ぞと。晏子對へて曰く、其行は水なり。美なるかな水、清清たり。其の濁る、雩途なからず、其の清む、灑除なからず。是の以に長久なるなりと。公曰く、廉政にして遬に亡ぶ、其行何ぞと。

乎。清清。其濁不レ無二雩途一。其清不レ無二灑除一。是以長久也。公曰。廉政而遬亡。其行何也。對曰。其行石也。堅哉石乎。落落。視レ之則堅。循レ之則堅。內外皆堅。無二以爲一レ久。是以遬亡也。

對へて曰く、其行は石なり。堅いかな石、落落(四)たり。之を視れば則ち堅く、之を循せば則ち堅く、內外皆堅し。以て久しきを爲すなし。是の以に遬に亡ぶるなりと。

(一) 政は正也　(二) 汚塗也、けがしにごすをいふ　(三) 洗ひ清むること　(四) ごろ〳〵として變通なきをいふ

景公問二晏子一曰。請二問爲レ臣之道一。晏子對曰。見レ善必通。不レ私二其利一。慶レ善而不レ有二其利一。稱レ身居レ位。不レ爲二苟進一。稱レ事授レ祿。不レ爲二苟得一。體レ貴側レ賤。不レ逆二其倫一。

景公、晏子に問ひて曰く、臣たるの道を請ひ問ふと。晏子對へて曰く、善を見て必ず通じ、其利を私せず。善を慶(一)して其利を有せず。身を稱りて位に居り、苟も進むことを爲さず。事を稱りて祿を授け(二)、苟も得ることを爲さず。(三)貴に體し賤に側して、其倫に逆はず。賢不肖を居くこと、其序を亂さず。肥利の地、私邑と爲さず。賢質の士、私臣と爲さず。君其の言ふ所を用ふれば、民其の利する所を得、而も其功に伐らず。此れ臣の道なりと。

(一) 慶は薦の誤、善を薦めて、その功にはこらずと也　(二) 受の誤　(三) 貴人に近づき賤者を側におく意

居ニ賢不肖一。不レ亂ニ其序一。肥利之地。不レ爲ニ私邑一。賢質之士。不レ爲ニ私臣一。君用ニ其所レ言。民得ニ其所レ利。而不レ伐ニ其功一。此臣之道也。

景公問ニ晏子一曰。人性有ニ賢不肖一。可レ學乎。晏子對曰。詩云。高山仰止。景行行止。之者其人也。故諸侯並立。善而不レ怠者爲レ長。列士並學。終レ善者爲レ師。

景公、晏子に問ひて曰く、人性に賢不肖あり、學ぶべきかと。晏子對へて曰く、(一)詩に云ふ、(二)高山は仰ぎ、景行は行くと。之く者は其人なり。故に諸侯並び立つに、善にして怠らざる者は長と爲り、列士並び學ぶに、善を終ふる者は師と爲ると。

(一) 詩經小雅車舝篇　(二) 景行は大道也。卽ち高山の仰ぐべく、大道の行くべきに比して、賢者の學ぶべきをいふ

景公問ニ晏子一曰。富レ民安レ衆。難乎。晏子對曰。易。節レ欲則民富。中聽則民安。行ニ此兩者一而已矣。

景公、晏子に問ひて曰く、民を富し衆を安んずる、難きかと。晏子對へて曰く、易し。欲を節すれば則ち民富み、(一)中聽すれば則ち民安し。此兩者を行ふべきのみと。

(一) 獄を聽するに中正なること

景公問二晏子一曰。國如何則可レ謂レ安矣。晏子對曰。下無二諱言一。官無二怨治一。道人不レ華。窮民不レ怨。喜樂無レ羨レ賞。忿怒無レ羨レ刑。上有レ禮二於士一。下有レ恩二於民一。地博不レ兼レ小。兵強不レ劫レ弱。百姓内安二其政一。外歸二其義一。可レ謂レ安矣。

景公、晏子に問ひて曰く、國如何なれば則ち安しと謂ふべきと。晏子對へて曰く、下に諱言(一)なく、官に怨治なし。道人華(二)せず、窮民怨みず。喜樂賞を羨(三)すことなく、忿怒刑を羨すことなく、上は士に禮あり、下は民に恩あり、地博くして小を兼ねず、兵強くして弱を劫さず、百姓、内其政に安んじ、外其義に歸するは、安しと謂ふべしと。

㊀ 忌言にて、人民が憚らず君の非を諫むるを遠慮すること ㊁ 譁也、かまびしく、かれこれいふなり ㊂ 分を過ぐるをいふ

景公問二晏子一曰。當二今之時一。諸侯孰危。晏子對曰。莒其先亡乎。公曰。何故。對曰。地

景公、晏子に問ひて曰く、今の時に當りて、諸侯孰れか危きと。晏子對へて曰く、莒は其れ先づ亡びんかと。公曰く、何の故ぞと。對へて曰く、地、齊に侵され、晉に貨謁(一)す。是の以に亡びんと。

㊀ 貨財を餽りて晉に謁するをいふ。一說、謁は竭の誤にて、貨、晉に竭くといふ意なりと

佞二於齊一。貨二謁于晉一。是以亡也。

晏子聘二於吳一。吳王曰。子大夫以二君命一。辱在二弊邑之地一。施二貺寡人一。寡人受レ貺矣。願有二私問一焉。晏子巡遁而對曰。嬰北方之賤臣也。得下奉二君命一以趨中於末朝上。恐辭令不レ審譏二於下吏一。懼不レ知下所二以對一者上。吳王曰。寡人聞二夫子一久矣。今乃得レ見。願終二其

晏子吳に聘す。吳王曰く、子大夫(二)、君命を以て辱くも弊邑の地に在りて、寡人に施貺す。寡人貺を受く。願はくは私問あらんと。晏子巡遁(一)して對へて曰く、嬰は北方の賤臣なり。君命を奉じて、末朝(三)に趨くことを得たり。恐らくは辭令審ならず、下吏に譏られん。懼れて對ふる所以の者を知らずと。吳王曰く、寡人、夫子を聞くこと久し。今乃ち見ることを得たり。願はくは其間を終へんと、晏子席を避けて對へて曰く、敬んで命を受けんと。吳王曰く、國如何すれば則ち處るべく、如何すれば則ち去るべきかと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、親疏其倫に處ることを得、大臣其忠を盡すことを得、民に怨治なく、國に虐刑なければ則ち處るべし。是の以に君子は不逆の君を懷ひ、治國の位に居り、親疎其倫に居ることを得ず、大臣其忠を盡すことを得ず、民に怨治多く、國に虐刑あるときは則ち去るべし。是の以に君子は暴君の祿を懷はず、亂君の位に處らず。

問。晏子避レ席對曰。敬受レ命矣。吳王曰。國如何則可レ處。如何則可レ去也。晏子對曰。嬰聞レ之。親疏得レ處ニ其倫一。大臣得レ盡ニ其忠一。民無ニ怨治一國無ニ虐刑一。則可レ處矣。是以君子懷ニ不逆之君一。居ニ治國之位一。親疏不レ得レ居ニ其倫一。大臣不レ得レ盡ニ其忠一。民多ニ怨治一。國有ニ虐刑一。則可レ去矣。是以君子不レ懷ニ暴君之祿一。不レ處ニ亂君之位一。

と。

㈠ 晏子の敬稱　㈡ 逡巡に同じ、ためらふなり　㈢ 本朝の誤ならんと、又曰く自國の謙稱と

晏子聘ニ於吳一。吳王曰。敢問。長保ニ威强一。勿レ失之道若何。晏子對曰。先レ民而後レ身。先レ施而後レ誅。强不レ暴レ弱。貴不レ凌レ賤。富不レ傲レ貧。百姓竝進。有司不レ侵。民和政平。不下以ニ

晏子吳に聘す。吳王曰く、敢へて問ふ、長く威强を保ち、失ふこと勿きの道若何と。晏子對へて曰く、民を先にして身を後にし、施を先にして誅を後にし、强、弱を暴せず、貴、賤を凌がず、富、貧に傲らず、百姓竝び進み、有司侵さざるときは、民和し政平し。威强を以て人の君を退けず、衆强を以て人の地を兼ねず。其の法を用ふる、時の爲に暴を禁ず。故に世其志に逆はず。其の兵を用ふる、衆の爲に患を屏く。故に民其勞を疾まず。此れ長く威彊を保ちて失ふこと勿きの道なり。此を失ふ者は危しと。吳王忿然色を作して悅ばず。晏子曰く、寡君の事

威強退人之君。不以衆彊兼人之地。其用法。爲時禁暴。故世不逆其志。其用兵。爲衆屏患。故民不疾其勞。此長保威彊。勿失之道也。失此者危矣。吳王忿然作色不悅。晏子曰。寡君之事畢矣。嬰無斧鑕之罪。請辭而行。遂不復見。

畢れり。嬰は斧鑕の罪なし。請ふ、辭して去らんと。遂に復た見えず。

㊀ 正也　㊁ 斧鑕は利具、その罪死に當すといふ意、なしは有りの誤

晏子使魯見昭公。昭公說曰。天下以子大夫語寡人者多矣。今得見而羨乎所聞。請私。而無爲罪。寡人聞。大國之君。蓋回曲之君也。曷以以子大夫之行。事回

晏子魯に使して昭公に見ゆ。昭公說んで曰く、天下、子大夫を以て寡人に語ぐる者多し。今見ることを得て、聞く所に羨す。請ふ私せん。而して罪と爲す無かれ。寡人聞く、大國の君は、蓋し回曲の君なりと。曷を以て子大夫の行を以て、回曲の君に事ふるかと。晏子逡循として對へて曰く、嬰不肖、嬰の族又嬰に若かず。嬰を待ちて先を祀る者五百家、故に嬰は敢て君を擇ばずと。晏子出づ。昭公人に語げて曰く、晏子は仁人なり。亡君を反し危國を安んじて、私利せず、崔杼の尸を僇し、賊亂の徒を滅して名を得ず。齊をして、外は諸侯の憂なく內

曲之君㆒乎。晏子逡循對曰。嬰不肯。嬰之族又不㆑若㆑嬰。待㆑嬰而祀㆑先者五百家。故嬰不㆓敢擇㆑君。

晏子出。昭公語㆑人曰。晏子仁人也。反㆓亡君㆒安㆓危國㆒。而不㆓私利㆒焉。僇㆓崔杼之尸㆒。滅㆓賊亂之徒㆒。不㆑得㆑名焉。使㆘齊外無㆓諸侯之憂㆒。内無㆗國家之患㆖。不㆑伐㆑功焉。鍖然不㆑滿。退託㆓於族㆒。晏子可㆑謂㆓仁人㆒矣。

は國家の患なからしめ、功に伐らず。(七)鍖然として滿たず。退きて族に託す。晏子をば仁人と謂ふべしと。

(一)聞く所を滿足せしめたりとなり (二)齊をさす (三)邪曲なるをいふ (四)逡巡に同じ、ためらふなり (五)祖先 (六)擇ぶ途なしとなり (七)自ら滿足せざるさまをいふ

晏子聘㆓于魯㆒。魯昭公問焉。吾聞㆑之。莫㆔三人而迷。今吾以㆓魯一國㆒迷。慮㆑之不㆑免㆓于亂㆒。何也。晏子對曰。君之所㆓

晏子魯に聘す。魯の昭公問ふ、吾れ之を聞く、(一)三人にして迷ふこと莫しと。今吾れ魯一國を以て迷ふ。之を慮るに、亂に免れざるは何ぞやと。晏子對へて曰く、君の尊舉して富貴にする所、入りて與に身を圖る所以、出でて與に國を圖る所以、及び左右の(二)偪邇、皆君の心に同じき者なり。(三)魯國を犒し、化して一心と爲る。魯、與に二なるなし。其れ何の暇ありて三あらん。(四)夫れ君の側に偪邇する

尊擧而富貴一。入所ニ以與圖レ身。出所ニ以與圖レ國。及左右偪邇。皆同ニ于君之心一者也。犒ニ魯國一。化而爲ニ一心一。魯無ニ有レ三。夫偪ニ邇于君之側一者。距ニ本朝之勢一。國之所ニ以治一。也。左右讒諛。相與塞レ善。行之所ニ以衰一也。士者持レ祿。游者養レ交。身之所ニ以危一也。詩曰。芃芃棫樸。薪レ之槱レ之。濟濟辟王。左右趣レ之。此言ニ古者聖人明君之使以レ善也。故外知ニ事之情一。而内得ニ心之誠一。是以不レ迷也。

者、本朝の勢を距ぐ、國の治る所以なり。(五)左右讒諛相與に善を塞ぐ、行の衰ふる所以なり。(六)士ふる者祿を持し、游ぶ者交を養ふ、身の危き所以なり。(七)詩に曰く、(八)芃芃たる棫樸、之を薪にし之を槱にす。濟濟たる辟王、左右之に趣くと。此れ古者聖人明君の、使ふに善を以てするを言へるなり。故に外は事の情を知り、而して内は心の誠を得。是の以に迷はざるなりと。

(一) 三人相議れば迷ふことなしと也　(二) 近臣　(三) 擧の誤、魯國を擧げての意　(四) 君の近臣が、君の威をかりて、本朝なる大臣を遠ざくと也　(五) 殆の誤にて、あやふき所以なりとの意　(六) 事に同じ　(七) 詩經大雅棫樸篇　(八) 芃芃は、木の盛なるさま。棫樸は、棫の木の叢生すること。槱は、木を積みてやくをいふ。濟濟は德の盛なる也。辟は王也。即ち、木材の盛なれば之を薪とし家に積むが如く、其主盛なれば賢臣來りて之を助くるをいふ

晏子聘ニ於魯一。

晏子魯に聘す。魯の昭公問ひて曰く、夫れ儼然として(一)敝邑に辱臨す、竊に甚

晉昭公問曰。夫儼然辱二臨敝邑一。竊甚嘉レ之。寡人受レ貺。請問。安レ國衆レ民如何。晏子對曰。嬰聞。傲レ大賤レ小。則國危。慢レ聽厚レ斂。則民散。事レ大養レ小。安レ國之器也。謹レ聽節レ儉。衆レ民之術也。

だ之を嘉す。寡人貺を受く。請ひ問ふ、國を安んじ民を衆くすること如何と。晏子對へて曰く、嬰聞く、大に傲り小を賤めば則ち國危く、聽を慢んじ斂を厚くすれば則ち民散ず。大に事へ小を養ふは、國を安んずる器なり。聽を謹み儉を節するは、民を衆くする術なりと。

一 自分の領地の謙稱

晏子使レ晉。晉平公饗レ之。文室既靜矣。晏以。平公問焉曰。昔吾先君得レ衆若何。晏子對曰。君饗二寡君一。施及二使臣一。御在二君側一。恐懼不レ知レ所二

晏子晉に使す。晉の平公之を饗す。文室既に靜なり。宴已み、平公問ひて曰く、昔吾が先君の衆を得しこと若何と。晏子對へて曰く、君、寡君を饗し、施いて使臣に及ぶ。御して君側に在り。恐懼對ふる所以を知らずと。平公曰く、子大夫を聞くこと數なり。今迺ち見ることを得たり。願はくは終に之を聞かんと。晏子對へて曰く、臣聞く、君子は美なる淵澤の之を容るゝが如く、衆人之に歸すること、魚の依るあるが如く、其游泳の樂を極むと。若し淵澤決竭せば、其魚

以對。平公曰。聞子大夫數矣。今適得見。願終聞之。晏子對曰。臣聞。君子如美淵澤容之。衆人歸之。如魚有依。極其游泳之奈。若淵澤決竭。其魚動流。夫往者維雨乎。不可復巳。公又問曰。請問。莊公與今孰賢。晏子曰。兩君之行不同。臣不敢不知也。公曰。王室之正也。諸侯之專制也。是以欲聞子大夫之言也。對曰。先君莊公不安靜處樂。節飲食。不好鐘鼓。好兵作武士。與同饑渴寒暑。君之強過人之量。有一過不能巳焉。是以不免于難。今君大宮室。美臺樹。以辟饑渴寒暑。畏禍敬鬼神。君之善

動流せん。夫の往く者は維れ雨か。復すべからざるのみと。公又問ひて曰く、請ひ問ふ、莊公と今と孰れか賢ると。晏子曰く、兩君の行同じからず。臣敢て知らずんばあらざるなりと。公曰く、王室の(三)不正は、諸侯の專制するなり。是の以に子大夫の言を聞かんと欲するなりと。對へて曰く、先君莊公、安靜にして樂に處らず。飲食を節し、鐘鼓を好まず。兵を好みて武士を作し、與に饑渴寒暑を同じくす。(四)君の強、人に過ぐるの量あり。(五)一過あれば已むこと能はず。是の以に難に免れず。今君は宮室を大にし、臺樹を美にし、以て饑渴寒暑を辟け、禍を畏れて鬼神を敬す。君の善は以て(六)身を沒するに足り、以て子孫に及ぶに足らずと。

(一) 宮の名　(二) 原文晏は宴の誤、以は已の誤にて、宴やみ也　(三) 原文「之正は」不正の誤　(四) 勢力の人に過ぐるをいふ　(五) 一の過失も容るゝ能はずと也　(六) 天命を全うするをいふ

足二以沒一レ身。不レ足三以及二子孫一矣。

晏子使二于晉一。晉平公問曰。吾子之君。德行高下如何。晏子對以二小善一。公曰。否。吾非レ問二小善一。問二子之君德行高下一也。晏子蹵然曰。諸侯之交。紹而相見。辭之有レ所レ隱也。君之命質レ臣。無レ所レ隱。嬰之君無レ稱焉。平公蹵然而辭送。再拜而反曰。殆哉吾過。誰曰二齊君不肖一。直稱之士。正在二本朝一也。

晏子晉に使す。晉の平公問ひて曰く、吾子の君、德行高下如何と。晏子對ふるに小善を以てす。公曰く、否、吾れ小善を問ふに非ず。子の君の德行の高下を問へるなりと。晏子蹵然(一)として曰く、諸侯の交り、紹にして相見ゆ。辭の隱す所あるなり。君の命、臣に質すときは隱す所なし。嬰の君、稱すべきなしと。平公蹵然として辭して送り、再拜して反りて曰く、殆いかな、吾れ過てり。誰れか齊君を不肖なりと曰ふ。直稱(二)の士、正に本朝に在るなりと。

(一)恐れて安んぜざる貌 (二)直言の士

晏子聘二于晉一。叔向從レ之宴。相與語。叔向

晏子晉に聘す。叔向之に從ひて宴す。相與に語る。叔向曰く、齊は其れ何如と。對へて曰く、此れ季世なり。吾れ知らず。齊は其れ田氏(一)と爲らんかと。叔向

曰。齊其何如。對曰。此季世也。吾弗レ知。齊其爲二田氏一乎。叔向曰。何謂也。晏子曰。公曰。公棄二其民一而歸二于田氏一。齊舊四量。豆區釜鍾。四升爲レ豆。各自二其四一以登二於釜一。釜十則鍾。田氏三量。皆登レ一焉。鍾乃巨矣。以二家量一貸。以二公量一收レ之。山木如レ市。弗レ加二于山一。魚鹽蜃蛤。弗レ加二于

曰く、何の謂ぞやと。晏子曰く、子曰く、公は其民を棄てて田氏に歸すと。齊は舊と四量なり。豆區釜鍾、四升を豆と爲す。各其の四を自ひて以て釜に登す。釜十なれば則ち鍾なり。田氏三量、皆一を登す。鍾は乃ち巨なり。家量を以て貸し、公量を以て之を收む。山木の市に如く、山より加へず。魚鹽蜃蛤、海より加へず。民其力を參にして、二、公に入り、而して其一を衣食す。公の積朽蠹して、老少凍餒し、國都の市、屨賤しくして踊貴し、民人痛疾して、之を燠休する或り。昔者殷人誅殺當らず。民を僇すること時なし。文王慈惠衆を服し、無主を收郵す。是の故に天下之に歸せり。私與なし。維れ德に之れ授く。今公室驕暴にして、田氏慈惠、其の之を愛すること父母の如く、之に歸すること流水の如し。民を獲ることなからんとすとも、將た焉に避けん。箕伯・直柄・虞遂・伯戲、其れ胡公大姬を相けて、已に齊に在りと。叔向曰く、吾が公は公室なりと雖も、季世なり。

海。民、參二其力一。二入二于公一。而衣二食其一一。公積朽蠹。而老少凍餒。國都之市。屨賤而踊貴。民人痛疾。或燠二休之一。昔者殷人誅殺不レ當。僇レ民無レ時。文王慈惠服レ衆。收二卹無主一。是故天下歸レ之。無二私與一。維德之授。今公室驕暴。而田氏慈惠。其愛レ之如二父母一。而歸レ之如二流水一。無レ獲レ民。將焉避。箕伯。直柄。虞遂。伯戲。其相二胡公大姬一。已在レ齊矣。叔向曰。雖二吾公公室一。季世也。

(一) 齊の大夫の、後に齊を得しもの (二) 自は用也。四豆を一區、四區を一釜、十釜を一鍾となすをいふ (三) 四に一を加へて、五豆を一區、五區を一釜、十釜を一升となすをいふ (四) 貸すには其量を多くし、受取るには、その量を少くするをいふ (五) 山にある材木と市場の材木との、其の價に高低なきをいふ (六) 國は國の誤か (七) 屨は普通の人のはくもの。踊は刖刑を受けたるもののはくもの。卽ち刑者の普通のものより多きをいふ (八) 燠は煖也。卽ち、田氏が温き息をかけて人民を愛し、私恩を賣るをいふ (九) 鰥寡孤獨の如き、頼るべき人のなき者を收めてあはれむをいふ (一〇) この四人は、陳氏の祖先。胡公大姬は、始めて陳に封ぜられたる人。卽ち陳氏の祖先の鬼が陳氏を保護して齊に居るをいふ

戎馬不レ駕。卿無二軍行一。公乘無レ人。卒列無レ長。庶民罷弊。宮室滋侈。道殣相望。而女

(一)戎馬駕せず、卿軍行なく、(二)公乘人なく、(三)卒列長なく、庶民罷弊し、宮室滋す侈り、(四)道殣相望む。而して女富溢す尤し。(五)民は公命を聞きて寇讎を逃るゝが如く、(六)欒郤・胥原・孤續・慶伯、降りて皂隷に在り。(七)政、家門に在り。(八)民依る所なし。而して君日に悛めず。樂を以て憂を慆す。(九)公室の卑しき、其れ何の日か之れ有ら

富溢尤。民聞ニ公命一。如レ逃ニ寇讎一。欒郤。胥原。孤續。慶伯。降在ニ皁隷一。政在ニ家門一。民無レ所レ依。而君日不レ悛。以レ樂慆レ憂。公室之卑。其何日之有。讒鼎之銘曰。昧且丕顯。後世猶怠。況日不レ悛。其能久乎。晏子曰。然則子將ニ若何一。叔向曰。人事畢矣。待レ天而已矣。晉之公族盡矣。肸聞レ之。公室將レ卑。其宗族枝葉先落。則公從レ之。肸之宗十一族。維羊舌氏在而已。肸又無レ子。公室無レ度。幸而得レ死。豈其獲レ祀焉。

ん。讒鼎(一〇)の銘に曰く、昧旦(一一)丕に顯なりとも、後世猶ほ怠らんと。況んや日に悛めず、其れ能く久しからんやと。晏子曰く、然らば則ち子將に若何せんとすると。叔向曰く、人事畢れり。天を待つのみ。晉の公族盡きたり。肸(一二)之を聞く、公室將に卑しからんとす。其宗族枝葉先づ落ち、則ち公之に從はんと。肸の宗十一族、維だ羊舌氏(一三)在るのみ。肸又子なし。公室度なし。幸にして死するを得ず。豈に其れ祀るを獲んやと。

(一) 軍馬の役にたゝぬをいふ (二) 出陣の準備なきをいふ (三) 公の聚ゝに來る遊説の人なき從 (四) 道路に餓死するもの (五) 女色を以て君寵を得、富貴となれるもの也 (六) みな名門の舊臣 (七) 微賤の官 (八) 大夫の政権をほしいまゝにするをいふ (九) 憂とせずして月日を過す也 (一〇) 鼎の名 (一一) 毎旦早朝に起きて勤むるも、後世に至りて怠惰となる也 (一二) 叔向の名 (一三) 叔向の姓

叔向問二晏子一曰。齊國之治衰矣。今子何若。晏子對曰。嬰聞。事二明君一者。竭二心力一以沒二其身一。行不レ逮則退。不三以レ誣持二祿。事二惰君一者。優二游其身一。以沒二其世一。力不能則去。不三以レ諛持二危。且嬰聞。君子之事レ君也。進不レ失レ忠。退不レ失レ行。不三苟合以隱二忠。可レ謂レ不レ失レ忠。不三持レ利以傷二廉。可レ謂レ不レ失レ行。叔向曰。善哉。詩有レ之。曰。進退維谷。其此之謂歟。

叔向、晏子に問ひて曰く、齊國の治衰へたり。今子何若と。晏子對へて曰く、嬰聞く、明君に事ふる者は、心力を竭して以て其身を沒し、行逮ばざれば則ち退き、誣を以て祿を持せず。惰君に事ふる者は、其身を優游して以て其世を沒す。力能はざれば則ち去り、諛を以て危を持せずと。且つ嬰聞く、君子の君に事ふるや、進んで忠を失はず、退いて行を失はずと。苟合して以て忠を隱さず、忠を失はずと謂ふべし。利を持して以て廉を傷らず、行を失はずと謂ふべしと。叔向曰く、善いかな。詩に之れあり。(一)曰く、進退維れ谷ると。其れ此を之れ謂ふかと。

(一) 詩經大雅桑柔篇

叔向問二晏子一曰。正士之義。邪人之行。何

叔向、晏子に問ひて曰く、正士の義、邪人の行、何如と。晏子對へて曰く、正士は、(一)勢に處り衆に臨み、阿私して國に行はず。(二)養を足して忘れず。故に通ずれ

如。晏子對曰。正士處レ勢臨レ衆。不三阿私行二於國一。足レ養而不レ忘。故通則事レ上。使レ卹二其下一。窮則教レ下。使レ順二其上一。事レ君盡レ禮。行レ忠不レ正二爵祿一。不レ用則去而不レ議。其交レ友也。論レ身義行。不レ爲二苟戚一。不レ同則疏而不レ悱。不レ毀。進二於君一。不三以レ刻レ民尊二於國一。故用二於上一則民安。行二於下一則君尊。

ば則ち上に事へて、其下を卹ましめ、窮すれば則ち下を教へて、其上に順はしめ、君に事ふるに禮を盡し、忠を行ひ、爵祿を正しうせず。用ひられざれば則ち去りて議せず。其の友に交るや、論身義行、苟も戚むことを爲さず。同じからざれば、則ち疏んじて悱せず、毀せず。君に進むるに、民を刻するを以て國に尊ばれず。故に上に用ひらるゝときは則ち民安く、下に行ふときは則ち君尊し。故に衆を得て上其身を疑はず。君に用ひられて行に悖らず。是の以に進んで喪亡せず、退きて身を危くせず。此れ正士の行なり。邪人は則ち然らず、上に用ひらるれば則ち民を虐し、下に行はるれば則ち上に逆ふ。君に事ふるに苟も進みて忠に道らず、友に交るに苟も合して行に道らず。諛行を持して以て祿を正し、姦邪に比づきて以て厚く養ふ。爵祿に矜りて以て人に臨み、禮貌に夸りて以て華す。上に任ぜざれば則ち輕議し、友に篤からざれば則ち好んで誹る。故に上に用ひらるれば則ち民憂へ、下に行はるれば則ち君危し。是の以に、其の君に事ふる、

故得衆上不疑其身。用于君不悖于行。是以進不喪亡。退不危身。此正士之行也。邪人則不然。用於上則虐民。行於下則逆上。事君苟進不道忠。交友苟合不道行。持諛行以正祿。比姦邪以厚養。矜爵祿以臨人。夸禮貌以華。不任於上則輕議。不篤于友則好誹。故用于上則民憂。行於下則君危。是以其事君近於罪。其交友近於患。其得上辟于辱。其爲生償于刑。故用於上則誅。行于下則弑。是故交通則辱。生患則危。此邪人之行也。

罪に近く、其の友に交る、患に近し。其の上を得る、辱に辟し、其の生たる、刑に償る。故に上に用ひらるれば則ち誅せられ、下に行へば則ち弑せらる。是の故に交通すれば則ち辱められ、生患なれば則ち危し。此れ邪人の行なりと。

(一) 權勢ある地位にありて衆に臨むとも、私を國に行はずと也 (二) 衣食足るとも、その貧時を忘れずと也 (三) 丐の誤、丐は、救也、求めずの意 (四) 誹の誤、そしらず也 (五) 亡は、已の誤、即ち已れを喪はず也 (六) 丐の誤、もとめ也

叔向問晏子曰。事君之倫。徒處之義。奚如。晏子對曰。事君之倫。知

叔向、晏子に問ひて曰く、(一)君に事ふるの倫、(二)徒處の義奚如と。晏子對へて曰く、君に事ふるの倫、知慮以て國を安んずるに足り、譽厚以て民を導くに足り、和柔以て衆を懷くるに足る。上に廉にして以て名を爲さず、民に倍きて以て行を

慮足二以安一レ國。譽厚足二以導一レ民。和柔足二以懷一レ衆。不二廉レ上以爲一レ名。不二倍レ民以爲一レ行。上也、潔二于治一レ己。不二飾レ過以求一レ先。不二讒諛以求一レ進。不レ阿二久私一。不レ誣レ所レ能。次也。盡レ力守レ職不レ怠。奉レ官從レ上不二敢隋一。畏レ上故不レ苟。忌レ罪故不レ辟。下也。三者事レ君之倫也、及二夫大賢一則徒處與レ有レ事。無レ

爲さざるは上なり。己れを治むるに潔く、過を飾りて以て先を求めず、讒諛して以て進を求めず、久私(三)に阿らず、能くする所を誣ひざるは次なり。力を盡して職を守りて怠らず、官を奉じ上に從ひて敢て隋(四)らず。上を畏るゝが故に苟もせず、罪を忌むが故に辟せざるは下なり。三者は君に事ふるの倫なり。夫の大賢に及びては、則ち徒處と事あると擇ぶことなきなり。時に隨ひて宜しき者なり。所謂君子といふ者あり。能く以て上を補ふに足らず、退處して上に順はず、唐園(五)を治め、菲履を考ち(六)、上令に共恤し(七)、鄕里に弟長し、言に夸らず、行に愧ちざるは君子なり。上を以て本と爲さず、民を以て憂と爲さず、內は其家を恤へず、外は其身を顧みず、游びて夸言愧行し、自ら饑寒に勸めて醜儕(八)に及ばず、之を命けて狂僻の民と曰ふ。明上の禁ずる所なり。進んで上に及ぶこと能はず、退きて徒處すること能はず、富利の門に作窮し(九)、志を畎畝の業に畢へ、窮通、行に常處(一〇)の慮なく、心に佚し(一一)、利通能はず、窮業成らず、之を命けて處封(一二)の民と曰ふ。明

擇也。隨レ時宜者也。有ニ所レ謂君子者一。能不レ足ニ以補一レ上。退處不レ順レ上。治ニ唐園一。考ニ菲履一。共ニ恤上令一。弟ニ長鄕里一。不レ夸レ言。不レ愧レ行。君子也。不ニ以レ上爲一レ本。不ニ以レ民爲一レ憂。內不レ恤ニ其家一。外不レ顧ニ其身一。游夸言愧行。自勤ニ于饑寒一不レ及ニ醜儕一。命レ之曰ニ狂僻之民一。明上之所レ禁也。進也不レ能レ及レ上。退也不レ能ニ徒處一。作ニ窮于富利之門一。畢ニ志于畎畝之業一。窮通行無ニ常處之慮一。佚ニ于心一。利通不レ能。窮業不レ成。命レ之曰ニ處封之民一。明上之所レ誅也。有レ智不レ足レ補レ君。

上の誅する所なり。智ありて君を補ふに足らず。能ありて以て民を勞ふに足らず、(一三)愈身徒處する、之を傲上と謂ふ。苟も進みて道る所を擇ばず、苟も得て惡む所を知らず、之を亂賊と謂ふ。身以て君に與ふることなく、能以て民を勞することなく、徒處の義を飾り、輕上の名を揚ぐ、之を亂國と謂ふ。明君上に在れば、三者罪を免れずと。叔向曰く、賢不肖は性か、吾れ問ふある每に而も未だ嘗て自得せざるなりと。(一四)

(一) 倫は類にて、種類也。即ち臣の君に事ふる種類 (二) 官に仕へざるときの道 (三) 一說に久は所の誤にて、私する所に阿らずなりと (四) 僑に通ず (五) 園の名。麻枲を植うるところ (六) 擘なり、麻枲をうちて、履をつくるをいふ (七) 恭に通ず (八) 同類也 (九) 作は訴の誤にて、窮を富家に訴ふるをいふ (一〇) 常操也 (一一) 利達の時に察しても、これに乘ずること能はざるをいふ (一二) 處は安、封は厚也。即ち厚きに安んずる民にて、己れをのみ利せんとする民の意 (一三) 愉身に同じ。一身の安逸を貪るをいふ (一四) 自得せずんばあらざるなりの誤なるならん。即ち、本文自得の上に不字を脫せるならん

有レ能不レ足二以勞一レ民。愈身徒處。謂二之傲一レ上。苟進不レ擇レ所レ道。苟得不レ知レ所レ惡。謂二之亂賊一。身無二以與一レ君。能無二以勞一レ民。飾二徒處之義一。揚二輕上之名一。謂二之亂國一。明君在レ上。三者不レ免レ罪。叔向曰賢不肖性夫。吾毎レ有レ問。而未二嘗自得一也。

叔向問二晏子一曰。世亂不レ遵レ道。上僻不レ用レ義。正行則民遺。曲行則道廢。正行而遺レ民乎。與二持レ民而遺一レ道乎。此二者之于レ行如何。晏子對曰。嬰聞レ之。卑而不レ失レ尊。曲而不レ失レ正者。以レ民爲レ本也。苟持レ民矣。安遺レ道。苟遺レ民矣。安有二正行一焉。

叔向、晏子に問ひて曰く、世亂れて道に遵はず、上僻にして義を用ひず、正しく行へば則ち民遺し、曲りて行へば則ち道廢す。正しく行ひて民を遺すると、民を持して道を遺すると、此二者の行に于ける如何と。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、卑にして尊を失はず、曲にして正を失はざる者は、民を以て本とすればなりと。苟も民を持せば、安ぞ道を遺せん。苟も民を遺せば、安ぞ正行あらんと。

● 棄也

叔向問二晏子一曰。意孰爲レ高。行孰爲レ厚。對

叔向、晏子に問ひて曰く、意孰れか高しと爲し、行孰れか厚しと爲すと。對へて曰く、意は民を愛するより高きは莫く、行は民を樂むより厚きは莫しと。又問ひ

曰。意莫レ高二于愛一レ民。行莫レ厚二於樂一レ民。又問曰。意孰爲レ下。行孰爲レ賤。對曰。意莫レ下二於刻一レ民。行莫レ賤二于害一レ身也。

て曰く、意孰か下と爲し、行孰れか賤しと爲すと。對へて曰く、意は民を刻むるより下なるは莫く、行は身を害するより賤しきは莫しと。

（一）一說に德の誤

叔向問二晏子一曰。嗇吝愛之于レ行何如。晏子對曰嗇者君子之道。吝愛者小人之行也。叔向曰。何謂也。晏子曰。稱二財多寡一而節二用之一。富無二金藏一。貧不二假貸一。謂二之嗇一。積多不レ能レ分レ人。而厚自養。謂二之吝一。不レ能レ分レ人。又不レ能二自養一。謂二之愛一。故夫嗇者君子之道。吝

叔向、晏子に問ひて曰く、嗇と吝愛との行に于ける何如と。晏子對へて曰く、嗇は君子の道、吝愛は小人の行なりと。叔向曰く、何の謂ぞやと。晏子曰く、財の多寡を稱りて之を節用し、富みて金藏（一）なく、貧にして假貸せず（二）、之を嗇と謂ひ、積多くして人に分つこと能はず、而して厚く自ら養ふ、之を吝と謂ひ、人に分つこと能はず、又自ら養ふこと能はず、之を愛と謂ふ。故に夫の嗇は君子の道、吝愛は小人の行なりと。

（一）財を貯へずして、他に分つをいふ　（二）他より財を借らざるをいふ

愛者小人之行也。

叔向問二晏子一曰。君子之大義何若。晏子對曰。君子之大義。和調而不レ緣。溪盎而不レ苛。莊敬而不レ狡。和柔而不レ銓。刻廉而不レ劌。行精而不下以明二汚一。齊尙而不下以遺二罷一。富貴不レ傲レ物。貧窮不レ易レ行。尊レ賢而不レ退二不肖一。此君子之大義也。

叔向、晏子に問ひて曰く、君子の大義は何若と。晏子對へて曰く、君子の大義は、(一)和調にして緣せず、(二)溪盎にして苛ならず、(三)莊敬にして狡ならず、和柔にして(四)銓せず、(五)刻廉にして劌せず、(六)行精にして以て汚を明さず、(七)齊尙にして以て罷を遺てず、富貴にして物に傲らず、貧窮にして行を易へず、賢を尊んで不肖を退けず。此れ君子の大義なりと。

(一) 和すれども徒に同ぜざるをいふ (二) 察すること深刻なれども、他に對して苛刻ならずと也 (三) 莊敬なれども、こせつかずと也。狡は急也 (四) 卑屈ならざるをいふ (五) 深刻にしてかどあれども、爲に他を害せずと也 (六) 精は潔白也。明さずとは表面にあらはして辱めざるをいふ (七) 自らは潔くして勤勉なれども、爲に遲鈍なる者をすてずと也

叔向問二晏子一曰。進不レ能レ事レ上。退不レ能レ爲レ

叔向、晏子に問ひて曰く、進んで上に事ふること能はず、退きて家を[illegible]すこと能はず、世に傲り業を樂み、(一)枯槁名を爲し、其の守る所を疑はざる者は、能く其

家。傲レ世樂レ業。枯槁爲レ名。不レ疑ニ其所ヒ守者。可レ謂三能行ニ其道一乎。晏子對曰。嬰聞。古之能行レ道者。世可ニ以正一則正。不レ可ニ以正一則曲。其正也。不レ失ニ上下之倫一。其曲也。不レ失ニ仁義之理一。道用與レ世樂レ業。不レ用有所ニ依歸一。不ニ以レ傲レ上華ヒ世。不下以ニ枯槁一爲も名。故道者世之所ニ以治一。而身之所ニ

道を行ふと謂ふべきかと。晏子對へて曰く、嬰聞く、古への能く道を行ふ者は、世以て正しくすべきことは則ち正しくし、以て正しくすべからざるときは則ち曲す。其の正すや、上下の倫を失はず、其の曲するや、仁義の理を失はず。道用ひらるれば世と業を樂み、用ひられざれば依歸する所あり。上に傲るを以て世に華せず、枯槁を以て名と爲さずと。故に道は世の治る所以にして、身の安んずる所以なり。今、上に事へざるを以て道と爲し、家を顧みざるを以て行と爲し、枯槁を以て名と爲す。世之を行はば則ち亂れ、身之を行はば則ち危し。且つ天の地に與ける、而して上下衰あり。明主始めて立ち、而して國に居りて制を爲す。政教錯りて民行倫あり。今、上に事へざるを以て道と爲さば、天地の衰に反す。家を顧みざるを以て行と爲さば、先聖の道に倍く。枯槁を以て名と爲さば、則ち世、政教の途を塞がん。明上あれば以て下と爲るべく、亂世に遭へば以て亂を治むべからず。若き道を說く、之を惑と謂ふ。若き道を行ふ、之を狂と謂ふ。

以安一也。今以レ不レ事レ上爲レ道。以レ不レ顧レ家爲レ行。以二枯槁一爲レ名。世行レ之則亂。身行レ之則危。且天之與レ地。而上下有レ衰矣。明主始立。而居レ國爲レ制矣。政教錯。而民行有レ倫矣。今以レ不レ事レ上爲レ道。反二天地之衰一矣。以レ不レ顧レ家爲レ行。倍二先聖之道一矣。以二枯槁一爲レ名。則世塞二政教之途一矣。有二明上一可二以爲一レ下。遭二亂世一不レ可二以治一レ亂。說二若道一謂二之惑一。行二若道一謂二之狂一。惑者狂者。木石之樸也。而道義未レ戴焉。

惑者狂者は、木石の樸なり。而して道義未だ戴せずと。

(一) 世を遁れて自ら槁るを名譽となす也　(二) 世にあらはして、自ら利せずと也　(三) 等級也　(四) 未だ切りみかかれざるをいふ　(五) 世に行はれざる意

叔向問二晏子一曰。何若則可レ謂レ榮矣。晏子對曰。事レ親孝無レ悔二往行一。事レ君忠無レ悔二往辭一。和二於兄弟一。信二於朋友一。不レ諂レ過。不レ責レ得。言不二相坐一。行

叔向、晏子に問ひて曰く、何若なる、則ち榮と謂ふべきと。晏子對へて曰く、親に事ふること孝にして、往行を悔ゆるなく、君に事ふること忠にして、往辭を悔ゆるなく、兄弟に和に、朋友に信に、過に諂はず、得るに責めず、言相坐せず、行相反せず、上に在りて民を治むれば、以て君を尊くするに足り、下に在りて涖修すれば、以て人を變ずるに足り、身咎むる所なく、行刱るゝ所なき、榮と謂ふべしと。

不二相反一。在レ上治レ民。足二以尊一レ君。在レ下蒞修。足二以變一レ人。身無レ所レ咎。行無レ所レ創。可レ謂レ榮矣。

(一) 差の誤にて、たがはず也　(二) 下にのぞみて、身を修むるをいふ　(三) 德也

叔向問二晏子一曰。人何以則可レ謂レ保二其身一。晏子對曰。詩曰。既明且哲。以保二其身一。夙夜匪レ懈。以事二一人一。不二庶幾一。不二要幸一。先二其難一乎而後レ幸。得レ之時其所也。失レ之非二其罪一也。可レ謂レ保二其身一矣。

叔向、晏子に問ひて曰く、人何を以てせば則ち其身を保つと謂ふべきかと。晏子對へて曰く、詩に(一)曰く、既に明且つ哲、以て其身を保つ。夙夜懈るに匪らず、以て一人(二)に事ふと。庶幾せず、要幸(三)せず、其の難きを先にし、而して幸を後にす。之を得ること(四)、時れ其所なり。之を失ふこと、其罪に非ざるなり。其身を保つと謂ふべしと。

(一) 詩經大雅烝民篇　(二) 天子也　(三) 僥倖をもとめざるをいふ　(四) 爵祿を得て其身を全うすること

曾氏問二晏子一曰。古者嘗有下上不レ諫レ上。下

曾氏、晏子に問ひて曰く、古者嘗て上、上を諫めず、下、民を顧みず、山林に退處して、以て行義を成せる者ありやと。晏子對へて曰く、其身を察するに能な

不レ顧レ民。退二處山林一。以成二行義一者上也。晏子對曰。察二其身一無レ能也。而託二乎不レ欲レ諫レ上。謂二之誕意一也。上惛亂德義不レ行。而邪辟朋黨。賢人不レ用。士亦不下易二其行一。而從レ邪以求レ進。故有レ隱有二不隱一。其行レ法士也。迺夫議レ上則不レ取也。夫上不レ諫レ上。下不レ顧レ民。退二處山谷一。嬰不レ識下其何以爲中成二行義一者上也。

きなり。而して上を諫むるを欲せざるに託す。之を誕意と謂ふ。上惛亂して德義行はれず、而して邪辟朋黨し、賢人用ひられず、士も亦其行を易へて、邪に從ひて以て進まんことを求めず。故に隱あり、不隱あり。其の法を行ふは士なり。迺ち夫の上を議するは、則ち取らざるなり。夫れ上、上を諫めず、下、民を顧みず、山谷に退處するは、嬰、其の何を以て行義を成す者たるを識らざるなりと。

㊀ 君を詐る心あるをいふ

梁丘據問二晏子一曰。子事二三君一。不レ同レ心。而子俱順焉。仁人固多レ心乎。晏子對曰。嬰

梁丘據、晏子に問ひて曰く、子、三君に事ふ、君、心を同じうせず、而して子俱に順なり。仁人は固より心多きかと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、愛に順ひて懈らざれば、以て百姓を使ふべし。强暴不忠なれば、以て一人を使ふべからず。一心以て百君に事ふべく、二心以て一君に事ふべからずと。仲尼之を聞

聞レ之。順レ愛不レ解。可三以使二百姓一。強暴不忠。不レ可三以使二一人一。一心可三以事二百君一。二心不レ可三以事二一君一。仲尼聞レ之曰。小子識レ之。晏子以二一心一事二百君一者也。

きて曰く、(一)小子之を識せ。晏子は、一心を以て百君に事ふる者なりと。

(一) 弟子どもの意

栢常騫去レ周之レ齊。見二晏子一曰。騫周室之賤吏也。不レ量二其不肖一。願レ事二君子一。敢問。正道直行。則不レ容二于世一。隱道危行。則不レ忍。道亦無レ滅。身亦無レ廢者何若。晏子對曰。善哉。問レ事レ君

(一)栢常騫、周を去りて齊に之く。晏子を見て曰く、騫は周室の賤吏なり。其不肖を量らず、君子に事へんことを願ふ。敢て問ふ、正道直行は、則ち世に容れられず、(二)隱道危行は則ち忍びず。道も亦滅することなく、身も亦廢することなきには何若と。晏子對へて曰く、善いかな、君に事ふるを問ふこと。嬰之を聞く、(三)一を執りて法据なれば、則ち取られざるなり。輕進苟合は、則ち信ぜられざるなり。(四)直易無諱なるは、則ち速に傷るゝなり。(五)新始利を好めば、則ち(六)敝なきなりと。且つ嬰聞く、世を養ふの君子は、(七)重きに從ひて進むを爲さず、(八)輕きに從ひて退くを爲さず、行を省みて伐らず、利を讓りて夸らず。物を陳ねて專にすること

乎。嬰聞レ之。執レ二法裾則不レ取也。輕進苟合。則不レ信也。直易無諱。則速傷也。新始好レ利。則無レ斂也。且嬰聞。養レ世之君子。從レ重不レ爲レ進。從レ輕不レ爲レ退。省レ行而不レ伐。讓レ利而不レ夸。陳レ物而勿レ專。見レ象而勿レ強。道不レ滅。身不レ廢矣。

勿く。(九)象を見して強ふること勿れと。(一〇)道滅びず、身廢せずと。

(一)周の吏 (二)陳道は、道に遵ふをいひ、危行は詭行にて、行を詭るをいふ (三)二は一の誤か。一を執るは、固く一を執りて屈せざるをいふ。法裾は、孔子家語に踞倨とあり、簡略にして不恭なるをいふ。取られざるは、用ひられざるをいふ (四)直情にして憚るなきをいふ (五)めづらしきを好み、利を見て事をなすをいふ (六)斂ならざるなきなりの誤、本文の斂の上に不を加ふ (七)輕の誤 (八)重の誤 (九)法也。即ち堪へざる法を示して、これを強ふるなかれと也 (一〇)これを守れば、道滅びず、身廢せずと也

晏子臣二於莊公一。公不レ悅。飮レ酒令レ召二晏子一。晏子至入レ門。公令二樂人奏一レ歌。曰。已哉已哉。寡人不レ能レ說也。爾何來爲。晏子入坐。樂人三奏。然後知二其謂一レ己也。遂起北面坐レ地。公曰。夫子從レ席。曷爲坐地。晏子對

卷三上

雜上第五

晏子、(一)莊公に臣たり。公悅ばず。酒を飮み晏子を召さしむ。晏子至りて門に入る。公、樂人に歌を奏せしむ。曰く、(二)已んぬるかな。已んぬるかな。寡人說ぶこと能はざるなり。爾何ぞ來るを爲すと。晏子入りて坐す。樂人三たび奏す、然して後其の(三)己れを謂ふを知るや、遂に起ちて北面して地に坐す。公曰く、夫子席に從へ。曷爲れぞ地に坐すると。晏子對へて曰く、嬰聞く、(四)訟夫は地に坐すと、今嬰將に君と訟せんとす。敢て地に坐すること毋からんや。嬰之を聞く、衆にして義なく、彊にして禮なく、勇を好みて賢を惡む者は、禍必ず其身に及ぶと。公の若き者の謂なり。且つ嬰の言用ひられず。願はくは身を請ひて去らんと。遂に趨りて歸り、其家に(五)管鑰せる者は、之を公に納れ、財の外に在る者は、之を

曰。嬰聞。訟夫坐レ地。今嬰將ニ與レ君訟。敢毋レ坐レ地乎。嬰聞レ之。衆而無レ義。彊而無レ禮。好レ勇而惡レ賢者。禍必及ニ其身一。若レ公者之謂矣。且嬰言不レ用。願請レ身去。遂鹵而歸。晉ニ鑰其家一者。納ニ之公。財在レ外者。斥ニ之市一。曰。君子有レ力ニ於民一。則進ニ爵祿一。不レ辭ニ貴富一。無レ力ニ于民一。而旅食不レ惡ニ貧賤一。遂徒行而東。耕ニ於海濱一。居數年。果有ニ崔杼之難一。

市に斥けり。(六)曰く、君子、民に力あれば則ち爵祿を進め、貴富を辭せず。民に力なければ、旅食して貧賤を惡まずと。遂に徒行して東し、海濱に耕す。居ること數年、果して崔杼の難あり。(七)

(一)齊の莊公　(二)歌を發するをやめよと也　(三)樂人が、晏子自身のことをいひて歌へるを知れりと也　(四)訴へごとをなす人　(五)鍵をかけてしまひおきたるもの　(六)市にさらして、人のなすまゝにせるなり　(七)崔杼が莊公を弑せしをいふ。左傳に詳なり

晏子爲ニ莊公臣一。言大用。毎レ朝賜レ爵益レ邑。俄而不レ用。毎レ朝致ニ邑與ニ爵。爵邑盡。退レ朝

晏子、莊公の臣と爲り、言大に用ひられ、朝する毎に爵を賜ひ邑を益す。俄にして用ひられず、朝する毎に邑と爵とを致す。爵邑盡く。朝より退きて乘し、喟(一)然として歎じ、終にして笑ふ。其僕曰く、何ぞ歎笑の相從ふことの數々なると。晏子曰く、吾が歎ずるは、吾君の難に免れざるを哀み、吾が笑ふは、吾が自得(二)

而乘。噴然而歎。終而笑。其僕曰。何歎笑相從數也。晏子曰。吾歎也。哀吾君不免於難。吾笑也。喜吾自得也。吾亦無死矣。崔杼果弑莊公。晏子立崔杼之門。從者曰。死乎。晏子曰。獨吾君也乎哉。吾死也。曰。行乎。曰。獨吾罪也乎哉。吾亡也。曰。歸乎。曰。吾君死。安歸。君民者。

を喜べるなり。吾も亦死なからんと。崔杼果して莊公を弑せり。晏子、崔杼の門に立つ。從者曰く、死なんかと(三)。晏子曰く、獨り(四)吾君ならんや。吾れ死なんやと。曰く、行らんかと。曰く、獨り吾罪ならんや。吾れ亡せんやと。曰く、歸らんかと。曰く、吾君死せり。安に歸らん。民に君たる者、豈に以て民を陵がんや。社稷を是れ主とす。君に臣たる者、豈に其口實(五)の爲ならんや。社稷を是れ養ふ。故に君、社稷の爲に死すれば則ち之に死す。社稷の爲に亡すれば之に亡す。若し君、己が爲に死して、己が爲に亡すれば、其私暱(六)に非ずんば、孰れか能く之に任ぜん。且つ人、君ありて之を弑す、吾れ焉ぞ之に死するを得ん。而して焉ぞ之に亡するを得ん。將た庸何ぞ歸らんと。門啓きて入る。崔子曰く、子何ぞ死せざる。子何ぞ死せざると。晏子曰く、禍の始め吾れ在らざるなり。禍の終り吾れ知らざるなり。吾れ何爲れぞ死せん。且つ吾れ之を聞く、亡を以て(七)行と爲す者は、以て君を存するに足らず、死を以て義と爲す者は、以て功を立つるに足らず

豈以陵レ民。社稷是主。臣レ君者。豈爲二其口實一。社稷是養。故君爲二社稷一死則死レ之。爲二社稷一亡則亡レ之。若君爲レ己死。而爲レ己亡。非二其私暱一。孰能任レ之。且人有レ君。而弑レ之。吾焉得レ死レ之。而焉得レ亡レ之。將庸何歸。門啓而入。崔子曰。子何不レ死。子何不レ死。晏子曰。禍始吾不レ在也。禍終吾不レ知也。吾何爲死。且吾聞レ之。以レ亡爲レ行者。不レ足二以存一レ君。以レ死爲レ義者。不レ足二以立一レ功。嬰豈其婢子也哉。其縊而從レ之也。遂袒免坐。枕二君尸一而哭。興三踊而出。人謂二崔子一。必殺レ之。子崔曰。民之望也。舍レ之得レ民。

と。嬰は豈其れ婢子ならんや。其れ縊して之に從はんやと。遂に袒免(八)して坐し、君の尸を枕せしめて哭す。興つて三たび踊(九)して出づ。人、崔子に謂ふ、必ず之を殺せと。崔子曰く、民の望(一〇)なり。之を舍きて民を得んと。

(一) 喟然に同じ、大息也 (二) 得寵也 (三) 天命を終ふるを得ざらんと也 (四) 吾が君の時にわれにのみ厚くしたるにあらず。故に死せずともよしとす (五) 誰を得んが爲めならんやと也 (六) 私に親近せられたるもの (七) 普行也 (八) 喪服也 (九) 喪式の時に身をもだえて悲むをいふ (一〇) 人望あるもの

崔杼既弑二莊公一。而立二景公一。杼與二崔封一相レ之。劫二諸將軍大夫及顯士

崔杼既に莊公を弑して、景公を立つ。杼と崔封と之に相たり。諸將軍大夫及び顯士(一)・庶人(二)を大宮の坎上(三)に劫し、盟はざるを得る者なからしむ。壇を爲ること三仞(四)、其下に陷し(五)、甲干を以て其内外を列環す。盟ふ者皆劍を脱して入る。

庶人於大宮之坎上。令無得不盟者。爲壇三仞。埳其下。以甲千。列環其内外。盟者皆脱劍而入。維晏子不肯。崔杼許之。有敢不盟者。戟拘其頸。劍承其心。令自盟曰。不與崔慶而與公室者。受其不祥。言不疾。指不至血者死。所殺七人。次及晏子。晏子奉栝血。仰天嘆曰。嗚呼崔子。爲無道而弑其君。不與公室而與崔慶者。受此不祥。俛而飲血。

維だ晏子肯ぜず。崔杼之を許す。敢て盟はざる者あれば、戟其頸を拘し、劍其心に承つ。自ら盟はしめて曰く、崔慶に與せずして公室に與する者は、其不祥(七)を受けんと。言、疾からず。(八)指、血に至らざる者は死す。(九)殺す所七人、次に晏子に及ぶ。晏子栝血(六)を奉げ、天を仰ぎて嘆じて曰く、嗚呼崔子、無道を爲して其君を弑す。公室に與せずして崔慶に與する者は、此不祥を受けんと。俛して血を飲む。崔杼、晏子に謂つて曰く、子、子が言を變せば、則ち齊國は、吾れ子と之を共にせん。子、子が言を變ぜずんば、戟既に脰(一〇)に在り、劍既に心に在り。維だ子之を圖れと。晏子曰く、吾を劫すに刃を以てして、其志を失ふは勇に非ざるなり。吾を回らすに利を以てして、其君に倍くは義に非ざるなり。

㊀すぐれたる士 ㊁祖先の廟 ㊂坎は穴にて犧牲を殺し、誓をなすところ ㊃穴をつくり ㊄よろひと栝 ㊅當也 ㊆神の禍 ㊇はやく誓はぬ也 ㊈犧牲の血を指にて口にぬらざるもの ㊉頸

崔杼謂二晏子一曰。子變二子言一。則齊國吾與レ子共レ之。子不レ變二子言一。戟既在レ脰。劍既在レ心。維子圖レ之也。晏子曰。劫レ吾以レ刃。而失二其志一非レ勇也。回レ吾以レ利。而保二其君一非レ義。崔子。子獨不二爲レ天討一乎。詩云。莫莫葛藟。施二於條枚一。愷悌君子。求レ福不レ回。今嬰且可二以回而求一レ福乎。曲刃鉤レ之。直兵推レ之。嬰不レ革矣。崔杼將レ殺レ之。或曰。不可。子以二子之君無道一而殺レ之。今其臣有道之士也。又從而殺レ之。不レ可二以爲一レ

崔子、子獨り天の爲に討たれざらんや。詩に云ふ。(一)莫莫たる葛藟、條枚に施へたり。愷悌の君子、福を求めて回ならずと。今嬰且つ(二)回を以て福を求むべけんや。(三)曲刃之を鉤し、(四)直兵之を推すとも、嬰革めずと。崔杼將に之を殺さんとす。或曰く、不可なり。子、子の君の無道なるを以て之を殺す。今其臣は有道の士なり。又從ひて之を殺さば、以て教と爲すべからずと。崔子遂に之を舍せり。晏子曰く、大夫の若きは、大不仁を爲して小仁を爲す。焉ぞ中ることあらんやと。趨り出で、(五)綏を援きて乘る。其僕將に馳せんとす。晏子其手を撫して曰く、之を徐にせよ。疾きは必ずしも生きず。徐なるは必ずしも死せず。鹿、野に生じ、命、厨に縣る。嬰の命繫ることありと。之を按じ、節を成して後去る。(六)詩に云ふ。(七)彼の己の子、命に舍きて渝らずと。晏子の謂なり。

教矣。崔子遂舍レ之。晏子曰。若二大夫一。爲二大不仁一。而爲二小仁一。焉有レ中乎。趨出援レ綏而乘。其僕將レ馳。晏子撫二其手一曰。徐レ之。疾不二必生一。徐不二必死一。鹿生二於野一。命懸二于厨一。嬰命有レ繫矣。按レ之成レ節而後去。詩云。彼己之子。舍レ命不レ渝。晏子之謂也。

(一) 詩經大雅旱麓篇 (二) 莫莫は盛なる貌。葛虆はつるくさ。條枚は技。愷悌は樂易なり。回は邪也。即ち葛虆の莫莫として盛なれば、おのづから木にはへつくを以て、愷悌の君子の德盛なれば、おのづから福を得るをいへるなり (三) 曲れるやいば (四) まつすぐなる武器 (五) 車中に吊せるひも (六) 詩經國風鄭風羔裘篇 (七) 己の子は大夫をさす。即ちその天にうけたる命の理に身をおきて、死生の難にあひても、其みさはかはることなしと也

景公使二晏子一。爲二東阿宰一。三年。毀聞二於國一。景公不レ說。召免レ之。晏子謝曰。嬰知二嬰之過一矣。請復治レ阿。三年而譽必聞二於國一。景公不レ忍。復使レ治レ阿。三年而譽聞二于國一。景

景公、晏子をして東阿の宰たらしむ。三年、毀國に聞ゆ。景公說ばず。召して之を免ず。晏子謝して曰く、嬰、嬰の過を知る。請ふ、復び阿を治めん。三年にして譽必ず國に聞えんと。景公忍びず、復た阿を治めしむ。三年にして譽國に聞ゆ。景公說び、召して之を賞す。景公其故を問ふ。對へて曰く、昔者嬰の阿を治むるや、蹊徑(一)を築き、門閭(二)の政を急にせり、而して淫民之を惡めり。儉力孝弟を擧げ、偸窳(三)を罰せり。而して惰民之を惡めり。獄を決して避けず。貴強(四)之を惡めり。左右の求むる所、法なれば則ち予へ、法に非ざれば否らず、而して左右之

公說。召而賞之。景公問其故。對曰。昔者嬰之治阿也。築蹊徑。急門閭之政。而淫民惡之。擧儉力孝弟。罰偸窳。而惰民惡之。決獄不避。貴強惡之。左右所求法則予。非法則否。而左右惡之。事貴人。體不過禮。而貴人惡之。是以三邪毀乎外。二讒毀乎內。三年而毀聞乎君也。今臣謹更之。不築蹊徑。而緩門閭之政。而淫民說。不擧儉力孝弟。不罰偸窳。而惰民說。決獄阿貴強。而貴強說。左右所求言諾。而左右說。事貴人。體過禮。而貴人說。是三邪譽乎外。二讒譽乎內。三年而譽聞乎君也。昔者嬰之

を惡めり。貴人に事へて、體禮を過さず、而して貴人之を惡めり。是の以に三邪外に毀り、二讒內に毀り、三年にして毀の君に聞えしなり。今臣謹みて之を更め、蹊徑を築かずして、門閭の政を緩くせり。而して淫民說べり。儉力孝弟を擧げず、偸窳を罰せず。而して惰民說べり。決獄、貴強に阿せり、而して貴強說べり。左右の求むる所言諾せり、而して左右說べり。貴人に事ふるに、體、禮に過せり。而して貴人說べり。是れ三邪外に譽め、二讒內に譽む。三年にして譽の君に聞えしなり。昔者嬰が當に誅すべき所以の者は、宜しく賞すべし。今當に賞すべき所以の者は、宜しく誅すべし。是の故に敢へて受けずと。景公、晏子の賢を知り、廼ち任ずるに國政を以てせり。三年にして齊大に興れり。

(一) 道路をつくる也　(二) 淫人の出入を取締るといふ　(三) 怠惰の民　(四) 貴くして勢力あるもの

所㆓以當㆒㆑誅者宜㆑賞。今所㆓以當㆒㆑賞者宜㆑誅。是故不㆓敢受㆒。景公知㆓晏子賢㆒。迺任以㆓國政㆒。三年而齊大興。

景公與㆓晏子㆒。立㆓于曲潢之上㆒。晏子稱曰。衣莫㆑若㆑新。人莫㆑若㆑故。公曰。衣之新也信善矣。人之故。相㆓知情㆒。晏子歸負戴。使㆔人辭㆓于公㆒曰。嬰故老耄無㆑能也。請毋㆑服㆓壯者之事㆒。公自治㆑國。身弱㆓于高國㆒。百姓大亂。公恐復召㆓晏子㆒。諸侯忌㆓其威㆒。而高國服㆓其政㆒。田疇墾辟。蠶桑豢牧之處不㆑足。絲蠶㆓於燕㆒。

景公、晏子と、(一)曲潢の上に立つ。晏子稱して曰く、衣は新に若くは莫く、人は故に若くは莫しと。公曰く、衣の新なるや信に善し。人の故は情を相知ると。(二)晏子歸りて負戴し、人をして公に辭せしめて曰く、嬰は故にして老耄、能なきなり。請ふ、壯者の事に服する毋らんと。公自ら國を治め、身は高・國に弱めさせられ、百姓大に亂る。公恐れて復た晏子を召す。諸侯其威を忌み。而して高・國其政に服し、田疇墾辟し、蠶桑豢牧の處足らず。絲を燕に蠶し、馬を魯に牧して共貢入朝す。墨子之を聞きて曰く、晏子道を知り、景公窮を知ると。

(一) 曲池也 (二) 舊き友は、わが眞情を知れるが故によろしからずと也 (三) 荷物を荷ひて去るをいふ (四) 齊の大夫高氏・國氏

牧ニ馬于晉一。其貫入朝。晏子聞レ之曰。晏子知レ道。景公知レ窮矣。

景公之時饑。晏子請ニ爲レ民發一レ粟。公不レ許。當レ爲ニ路寢之臺一。晏子令下吏重ニ其賃一。遠ニ其兆一。徐ニ其日一而不上レ趨。三年臺成而民振。故上悅ニ乎游一。民足ニ乎食一。君子曰。政則晏子欲ニ發レ粟與一レ民而已。若使レ不レ可レ得。則依レ物而偶ニ於政一。

景公の時饑す。晏子、民の爲に粟を發せんと請ふ。公許さず。路寢の臺を爲るに當りて、晏子、吏をして、其賃を重くし、其兆(一)を遠くし、其日を徐にして趨にせざらしむ。三年にして臺成りて民振ふ。故に上、游を悅び、民、食に足れり。君子曰く、政は則ち晏子粟を發して民に與へんと欲するのみ。若し得べからざらしめば、則ち物(二)に依りて政に偶すと。

(一) 其地を相して遠方ならしめし也 (二) 路寢の臺をつくるに託して、民の衣食の資を給する政をなしゝをほめていへるなり

景公登ニ東門防一。民單服然後上。公曰。此

景公、東門の防(一)に登る。民、單服して然して後に上る。公曰く、此れ大に牛馬の蹄を傷る。夫れ何ぞ六尺(二)を下さざるやと。晏子對へて曰く、昔者吾が先君桓公は

大傷二牛馬蹄一矣。夫何不レ下二六尺一哉。晏子對曰。昔者吾先君桓公。明君也。而管仲賢相也。夫以二賢相一佐二明君一。而東門防全也。古者不レ爲。殆有レ爲也。蚤歲溜水至入二廣門一。卽下二六尺一耳。嚮者防下二六尺一。則無レ齊矣。夫古之重レ變二古常一。此之謂也。

明君なり。而して管仲は賢相なり。夫れ賢相を以て明君を佐けて、東門の防全きなり。古者爲さざるは、殆と爲にすることあらんと。蚤歲溜水至りて廣門に入る卽ち六尺を下るのみ。嚮者防、六尺を下さば則ち齊なからん。夫れ古の古常を變ずるを重んずるは、此れの謂なり。

(一) 堤防也 (二) 低くする也 (三) 古へよりのしきたり

景公遊二於壽宮一。睹二長年負レ薪者一。而有二饑色一。公悲レ之。喟然歎曰。令二吏養一レ之。晏子曰。臣聞レ之。樂レ賢而哀二不肖一。守レ

景公、壽宮に遊び、長年、薪を負ふ者を睹る。饑色あり。公之を悲み、喟然として歎じて曰く、吏をして之を養はしめよと。晏子曰く、臣之を聞く、賢を樂んで不肖を哀むは、國を守るの本なり。今君、老を愛して、恩逮ばざる所なし。國を治むるの本なりと。公笑ひて喜色あり。晏子曰く、聖王は賢を見て以て賢を樂み、不肖を見て以て不肖を哀む。今請ふ、老弱の養はれざると、鰥寡の室な

國之本也。今君愛老。而恩無所不逮。治國之本也。公笑有喜色。晏子曰。聖王見賢以樂賢。見不肖以哀不肖。今請求老弱之不養。鰥寡無室者。論而共秩焉。公曰。諾。于是老弱有養。鰥寡有室。

き者とを求め、論じて秩を共せんと。公曰く、諾と。是に于て老弱養あり、鰥寡室あり。

(一) 供に同じ

景公探雀鷇。鷇弱。反之。晏子聞之。不待時而入。見景公。公汗出惕然。晏子曰。君何爲者也。公曰。吾探雀鷇。鷇弱。故反之。晏子逡巡北面。再拜而賀曰。吾君有聖

景公、雀鷇(一)を探る。鷇弱し(二)、之を反す。晏子之を聞き、時を待たずして入り、景公に見ゆ。公、汗出でて惕然たり。晏子曰く、君何を爲る者ぞと。公曰く、吾雀鷇を探りしに、鷇弱し。故に之を反せりと。晏子逡巡北面し、再拜して賀して曰く、吾君、聖王の道ありと。公曰く、寡人、雀鷇を探りて鷇弱し。故に之を反せり。其の聖王の道に當れる者は何ぞやと。晏子對へて曰く、君、雀鷇を探る。鷇弱くして之を反せり。是れ幼を長ずるなり。吾君仁愛、曾ち禽獸に之れ加はる。而るを況んや人に于てをや。此れ聖王の道なりと。

王之道一矣。公曰。寡人探二雀鷇一。鷇弱。故反レ之。其當二聖王之道一者何也。晏子對曰。君探二雀鷇一。鷇弱反レ之。是長レ幼也。吾君仁愛。曾禽獸之加焉。而況于レ人乎。此聖王之道也。

〔一〕雀のひな 〔二〕幼弱なり

景公睹下嬰兒有下乞二於塗一者上。公曰。是無レ歸矣。晏子對曰。君存。何爲無レ歸。使二吏養一レ之。可二立而以聞一。

景公正晝被髪。乘二六馬一。御二婦人一以出。正閨刖跪。繫二其馬一而反レ之曰。爾非二吾君一也。公慙而不レ朝。

景公、嬰兒の塗に乞ふ者あるを睹る。公曰く、是れ歸するなからんと。晏子對へて曰く、君存す、何爲れぞ歸することなからん。吏をして之を養はしめ、立ちて以て聞すべしと。

〔一〕歸るところなからんと也

景公、正晝被髪して六馬に乘り、婦人を御として以て出づ。正閨刖跪、其馬を繫ぎて之を反して曰く、爾は吾君に非ざるなりと。公慙ぢて朝せず。晏子裔欵を睹て問ひて曰く、君、何の故に朝せざると。對へて曰く、昔者、君、正晝被髪して六馬に乘り、婦人を御として以て出づ、正閨刖跪、其馬を繫ぎて之を反して曰く、爾は吾君に非ざるなりと。公慙ぢて反り、出づるを果さず。是の以に朝

晏子睹ニ裔款一而問曰。君何故不レ朝。對曰。昔者君正晝被髮。乘ニ六馬一。御ニ婦人一以出。正閨刖跪。繫ニ其馬一而反レ之曰。爾非ニ吾君一也。公慙而出・反・不レ果。是以不レ朝。晏子入見ニ景公一曰。昔者寡人有レ罪。被髮乘ニ六馬一以出。正閨刖跪。繫レ馬而反レ之曰。爾非ニ吾君一也。寡人以ニ天子大夫之

せずと。晏子入りて景公に見ゆ。曰く、昔者寡人罪あり。被髮㈠して六馬に乘りて以て出づ。正閨刖跪、馬を繋ぎて之を反して曰く、爾は吾君に非ざるなりと。寡人、天子大夫の賜を以て、百姓を率ゐて以て宗廟を守ることを得。今刖跪に戮㈡せられて、以て社稷を辱む。吾れ猶ほ以て諸侯に齊しかるべけんやと。晏子對へて曰く、君惡むこと勿れ。臣聞く、下に直辭なければ上に隱君あり、民に諱言多ければ君に驕行あり。古者明君上に在れば、下に直辭多く、君上善を好んで民に諱言なしと。今君に失行あり、刖跪辭を直くして之を禁ず。是れ君の福なり。故に臣來り慶せり。請ふ、之を賞して以て君の善を好むを明にせん。之を禮して以て君の諫を受くるを明にせんと。公笑ひて曰く、可ならんかと。晏子曰く、可なりと。是に於て刖跪をして資㈢を倍して、征なく、時に朝して事なからしめたり。

㈠髮を正さず冠せざる也　㈡はづかしめられしをいふ　㈢祿を倍しその上租税を免除するをいふ

賜一。得下率二百姓一以守中宗廟上。今見レ戮二於刖跪一以辱二社稷一。吾猶可三以齊二于諸侯一乎。晏子對曰。君勿レ惡焉。臣聞。下無二直辭一。上有二隱君一。民多二諱言一。君有二驕行一。古者明君在レ上。下多二直辭一。君上好レ善。民無二諱言一。今君有二失行一。刖跪直レ辭禁レ之。是君之福也。故臣來慶。請賞レ之。以明二君之好レ善。禮レ之以明二君之受レ諫。公笑曰。可乎。晏子曰。可。於レ是令二刖跪倍レ資無レ征。時朝無レ事也。

景公飲レ酒。夜移二于晏子。前驅欵レ門曰。君至。晏子被二玄端一。立二于門一曰。諸侯得レ微レ有レ故乎。國家得レ微レ有レ事乎。君何爲非レ時而夜辱。公曰。酒醴之味。金石之聲。願與二夫子一樂レ之。晏子對曰。夫布二薦席一。陳二簠簋一者

景公酒を飲む。夜、晏子に移る。前驅門を欵きて曰く、君至ると。晏子玄端（一）を被り、門に立ちて曰く、諸侯故あること微きを得（二）んや。國家事あること微きを得んや。君、何爲れぞ時に非ずして夜辱（三）くすると。公曰く、酒醴（四）の味、金石（五）の聲、願はくは夫子と之を樂まんと。晏子對へて曰く、夫れ薦席を布き、簠簋（六）を陳ぬる者は人あり。臣は敢て與らずと。公曰く、司馬穰苴の家に移らんと。前驅門を欵きて曰く、君至ると。穰苴介冑（七）し、戟を操りて門に立ちて曰く、諸侯兵あること微きを得んや。大臣叛する者あること微きを得んや。君何爲れぞ時に非ずして夜辱くすると。公曰く、酒醴の味、金石の聲、願はくは將軍と之を樂まんと。穰苴對へて曰く、夫れ薦席を布き、簠簋を陳ぬる者は人あり。臣敢へ

有レ人。臣不二敢與一焉。公曰。移二於司馬穰苴之家一。前驅款レ門曰。君至。穰苴介冑。操レ戟立二於門一曰。諸侯得レ微レ有レ兵乎。大臣得レ微レ有二叛者一乎。君何爲非レ時而夜辱。公曰。酒醴之味。金石之聲。願與二將軍一樂レ之。穰苴對曰。夫布二薦席一。陳二簠簋一者有レ人。臣不二敢與一焉。公曰。移二於梁丘據之家一。前驅款レ門曰。君至。梁丘據左操レ瑟右挈レ竽。行歌而出。公曰。樂哉今夕吾飲也。微二此二子者一。何以治二吾國一。微二此一臣者一。何以樂二吾身一。君子曰。聖賢之君皆有二益友一。無二偸樂之臣一。景公弗レ能レ及。故兩二用之一。僅得レ不レ亡。

て與らずと。公曰く、梁丘據の家に移らんと。前驅門を款きて曰く、君至ると。梁丘據、左に瑟(八)を操り、右に竽(九)を挈げ、行く〲歌ひて出づ。公曰く、樂しいかな、今夕吾れ飲むこと。此二子の者微りせば、何を以て吾國を治めん。此一臣の者微かりせば、何を以て吾身を樂まんと。君子曰く、聖賢の君、皆益友ありて偸(一〇)樂の臣なし、景公及ぶこと能はず。故に之を兩用し、僅に亡びざるを得たりと。

(一)禮服の名　(二)無也　(三)臣下の家に來るの榮を辱くする意　(四)あまざけ　(五)音樂の聲　(六)神を祭るに簠簋などを盛る器。簠は外四角、內圓く、簋は外圓く內四角　(七)甲冑を身におびしなり　(八)樂器　(九)樂器　(一〇)徒に樂を貪るなり

晏子侍二于景一

晏子、景公に侍す。朝寒し。公曰く、請ふ、暖食(一)を進めよと。晏子對へて曰く、

公朝寒。公曰。請進煖食。晏子對曰。嬰非君奉餽之臣也。敢辭。公曰。請進服裘。對曰。嬰非君茵席之臣也。敢辭。公曰。然夫子之於寡人。何爲者也。對曰。嬰社稷之臣也。公曰。何謂社稷之臣。對曰。夫社稷之臣。能立社稷。別上下之義。使當其理。制百官之序。使得其宜。作爲辭令。可分布於四方。自是之後。君不以禮。不見晏子。

嬰は君の奉餽(二)の臣に非ざるなり。敢て辭すと。公曰く、請ふ、服裘を進めよと。對へて曰く、嬰は君の茵席の臣に非ざるなり。敢へて辭すと。公曰く、然らば夫子の寡人に於ける、何(三)する者ぞと。對へて曰く、嬰は社稷(四)の臣なりと。公曰く、何をか社稷の臣と謂ふと。對へて曰く、夫れ社稷の臣は、能く社稷を立て上下の義を別ち、其理に當らしむ。百官の序を制して、其宜しきを得しむ。辭令を作爲して、四方に分布すべくすと。是より後、君、禮を以てせずして晏子を見ず。

(一) われに進めよと也 (二) 食膳を奉る役をなすものにあらずと也 (三) 衣席を供する臣にあらずと也 (四) 國家を引受けてその安危に任ずる臣

晏子飲景公酒。令器必新。家老曰。財不

晏子、景公に酒を飲し、器をして必ず新ならしむ。家老曰く、財足らず、請ふ、氓(一)に斂めしめんと。晏子曰く、止めよ。夫れ樂は上下之を同じうす。故に

足。請斂二于氓一。晏子曰。止。夫樂者上下同レ之。故天子與二天下一。諸侯與二境內一。大夫以下各與二其僚一。無レ有二獨樂一。今上樂二其樂一。下傷二其費一。是獨樂者也。不可。

天子は天下と與にし、諸侯は境內を與にし、大夫以下各其僚と與にす。獨り樂むことあるなし。今上其樂を樂みて、下其費を傷る。是れ獨り樂むなり。不可なりと。

（一）とりたてること

晏子飮二景公酒一。日莫。公呼レ具レ火。晏子辭曰。詩云。側弁之俄。言レ失レ德也。屢舞僛僛。言レ失レ容也。既醉以レ酒。既飽以レ德。既醉而出。並受二其福一。

晏子、景公に酒を飮し、日（一）莫る。公、火を具せよと呼ぶ。晏子辭して曰く、（二）詩に云ふ、（三）側める弁の俄けるとは、德を失へるを言へるなり。屢〻舞うて（四）僛僛たりとは、容を失へるを言へるなり。既に醉ふに酒を以てし、既に飽くに德を以てす。（五）既に醉ひて出されぬれば並に其福を受くとは、賓主の禮なり。（六）醉ひて出でざるは、是れ德を伐ふと謂とは、賓の罪なり。嬰は已に其日（七）をトせり、未だ其夜をトせずと。公曰く、善しと。酒を擧げて之を祭り、再拜して出でて曰く、豈に我

賓主之禮也。醉而不レ出。是謂レ伐レ德。賓之罪也。嬰已卜二其日一。未レ卜二其夜一。公曰。善。擧レ酒祭レ之。再拜而出曰。豈過レ我哉。吾託二國于晏子一也。以二其家貨一。養二寡人一。不レ欲二其淫侈一也。而況與二寡人一謀レ國乎。

を過たんや。吾れ國を晏子に託するや。其家貨を以て寡人を養ふも、其淫侈を欲せざるなり。而るを況んや寡人と國を謀るをやと。

㊀ 暮の古字 ㊁ 詩經小雅賓之初筵篇 ㊂ 醉ひて冠れる弁冠のゆがめるをいふ ㊃ 傞傞とは舞ひてやまざるをいふ ㊄ 賓がもし醉へる時にして、乃ち其席を退出すれば、其身も禮儀を失はず。主人もとがむべきことなきによりて、並に譽の福をうくと也 ㊅ すでに醉ひぬれども、禮節をわすれ、出で去らずして上にいふが如きにいたれるは、これ自らその威儀の德をそこなふと也 ㊆ 晝を宴をなすによき時として卜して行へるにて、夜を卜せずと也

晉平公欲レ伐レ齊。使二范昭往觀一焉。景公觴レ之。飮レ酒醉。范昭曰。請君之棄レ罇。公曰。酌二寡人之罇一。進二之於客一。范昭飮レ之。晏子曰。徹レ罇更レ之。罇

晉の平公、齊を伐たんと欲す。范昭をして往いて觀しむ。景公之に觴す。酒を飲みて醉ふ、范昭曰く、請ふ、君の罇を棄てんことをと。公曰く、寡人の罇に酌みて之を客に進めよと。范昭之を飲む。晏子曰く、罇を徹して之を更へよと。罇觶(一)具る。范昭佯り醉ひ、悦ばずして起ちて舞ひ、(二)太師に謂ひて曰く、能く我が爲に成周の樂を調せんか。吾れ子が爲に之れ舞はんと。太師曰く、(三)冥臣習はずと。范昭趨して出づ。景公、晏子に謂つて曰く、晉は大國なり。使人來り、將に吾政

觶具矣。范昭佯醉。不ㇾ悅而起舞。謂二太師一曰。能爲ㇾ我調二成周之樂一乎。吾爲ㇾ子舞ㇾ之。太師曰。冥臣不ㇾ習。范昭趨而出。景公謂二晏子一曰。晉大國也。使人來將ㇾ觀二吾政一。今子怒二大國之使者一。將奈何。晏子曰。夫范昭之爲ㇾ人也。非二陋而不一ㇾ知ㇾ禮也。且欲ㇾ試二吾君臣一。故絕ㇾ之也。景公謂二

を觀んとす。今子、大國の使者を怒らす、將た奈何と。晏子曰く、夫れ范昭の人と爲りや、陋にして禮を知らざるに非ざるなり。且つ吾君臣を試みんと欲す、故に之を絕てるなりと。景公、太師に謂つて曰く、子は何の以に、齊の爲に成周の樂を調せざりしかと。太師對へて曰く、夫れ成周の樂は、天子の樂なり。之を調すれば、必ず人主之を舞ふ。今范昭は人臣なり。天子の樂を舞はんと欲す。臣故に爲さざりしなりと。范昭歸り、以て平公に報じて曰く、齊は未だ伐つべからざるなり。臣其君を試みんと欲せり。而るに晏子之を識れり。臣其禮を犯さんと欲せり。而るに太師之を知れりと。仲尼之を聞きて曰く、夫れ[四]樽俎の間を出でずして、千里の外を知るとは、其れ晏子の謂なり。折衝すと謂ふべし。而して太師其れ與ると。

(一) 三升入の酒杯の名なり (二) 音樂を司るもの (三) 物事の道理に暗き臣の意にて謙辭 (四) 樽は樽、俎はまないた、犧牲をのする器、平和の交際に用ひるもの。樽俎の間に折衝すとは兵力を用ひずして、平和の間に國威を張るをいふ

太師一曰。子何以不三爲レ客調二成周之樂一乎。太師對曰。夫成周之樂。天子之樂也。調レ之。必人主舞レ之。今范昭人臣。欲レ舞二天子之樂一。臣故不レ爲也。范昭歸以報二平公一曰。齊未レ可レ伐也。臣欲レ試二其君一。而晏子識レ之。臣欲レ犯二其禮一。而太師知レ之。仲尼聞レ之曰。夫不レ出二於尊俎之間一。而知二千里之外一。其晏子之謂也。可レ謂二折衝一矣。而太師其與焉。

景公伐レ魯。傅レ許。得二東門無澤一。公問焉。魯之年穀何如。對。陰氷厥陽氷厚五寸。不レ知。以告二晏子一。晏子對曰。君子也。問二年穀一。而對以レ氷禮也。陰氷厥陽氷厚五寸者。寒溫節。節則刑政平。平則上下和。和則年穀熟。年充衆和。而伐レ之。臣恐罷レ民弊レ兵。不レ成二君之意一。請禮レ魯。以息二吾怨一。遣二其執一。以明二吾德一。公曰。善。迺不レ伐レ魯。

景公、魯を伐ち、許に傅り(一)、東門無澤(二)を得たり。公問ふ、魯の年穀何如と。對ふ、陰氷厥陽氷厚きこと五寸なりと。知らず。以て晏子に告ぐ。晏子對へて曰く、君子なり。年穀を問ひて、對ふるに氷を以てするは禮なり。陰氷厥陽、氷厚きこと五寸とは、寒溫節あるなり。節あれば則ち刑政平し。平しければ則ち上下和す。和すれば則ち年穀熟す。年充ち衆和す、而るに之を伐つ。臣恐らくは民を罷し、兵を弊し、君の意を成さざらんことを。請ふ、魯に禮して、以て吾怨を息め、其執(三)を遣して、以て吾德を明にせんことをと。公曰く、善しと。迺ち魯を伐たず。

(一) 迫なり　(二) 東門は姓、無澤はその名　(三) 捕へたるもの

景公予二魯君地一。山陰數百社。使二晏子致一レ之。魯使二子叔昭伯受一レ地。不二盡受一也。晏子曰。寡君獻レ地忠廉也。曷爲不二盡受一。子叔昭伯曰。臣受二命於君一。曰。諸侯相見。交讓爭處二其卑一。禮之文也。交委レ多爭受レ少。行之實也。禮成二文于前一。行成二章於後一。交之所二以長久一也。且吾聞。君子

景公、魯君に地を予ふ。(一)山陰數百社、晏子をして之を致らしむ。魯、子叔昭伯をして地を受けしむ。盡く受けざるなり。晏子曰く、寡君の地を獻ずるは、忠廉なり。曷爲れぞ盡く受けざると。子叔昭伯曰く、臣、命を君より受く。曰く、諸侯相見え、交〻讓り、爭ひて其卑に處るは、禮の文なり。交〻多を委てて爭ひて少を受くるは、行の實なり。禮、文を前に成し、行、章を後に成す、交の長久なる所以なりと。且つ吾れ聞く、君子は人の歡を盡さず、人の忠を竭さずと。吾れ是の以に盡く受けざるなりと。晏子歸りて公に報ず。(二)公喜び笑ひて曰く、魯君猶ほ是の若きかと。晏子曰く、臣聞く、大國は名を貪り、小國は實を貪る。此れ諸侯の通患なりと。今魯は、卑に處りて尊を貪らず、實を辭して多きを貪らず、廉を行ひて苟も得ることを爲さず、義に道りて苟も合ふことを爲さず、人の歡を盡さず、人の忠を竭さず、以て其の君に交るの道を全くす。義、世俗に殊なり。國、公患を免れんと。公曰く、寡人、魯君を説ぶ、故に之に地を予へ

不レ盡二人之歡一。不レ竭二人之忠一。吾是以不二盡受一也。晏子歸報レ公。公喜笑曰。魯君猶若レ是乎。晏子曰。臣聞。大國貪二于名一。小國貪二于實一。此諸侯之通患也。今魯處レ卑而不レ貪二乎尊一。辭レ實而不レ貪二乎多一。行レ廉不レ爲二苟得一。道レ義不レ爲二苟合一。不レ盡二人之歡一。不レ竭二人之忠一。以全二其交一。君之道一。義殊二乎世俗一。國免二於公患一。公曰。寡人說二魯君一。故予二之地一。今行果若レ此。吾將レ使二人賀一レ之。晏子曰。不。君以レ驩予二之地一。而賀二其辭一。則交不レ親。而地不レ爲レ德矣。公曰。善。於レ是重二魯之幣一。毋レ比二諸侯一。厚二其禮一。毋レ比二賓客一。君子於レ魯。而後明二行レ廉辭レ地之可レ爲二重名一也。

ぬ。今行果して此の若くんば、吾れ將に人をして之を賀せしめんとすと。晏子曰く、不らず。君、驩を以て之に地を予へ、而して其辭を賀するは、則ち交親まずして地德たらず(三)と。公曰く、善しと。是に於て魯の幣を重くして、諸侯に比すること毋く、其禮を厚くして、賓客に比すること毋し。君子魯に於て、而る後に廉を行ひ地を辭するの重名たるべきを明にせり。

(一) 二十五家を社といふ。卽ち泰山の南方なる數百社の土地也 (二) 全部取り盡さずと也 (三) 地を與へても其德をなさずと也

公遊二於紀一。得レ金。乃發視レ之。中有二月書一。曰。

公、紀に遊びて金を得たり。乃ち發いて之を視れば、中に月書(一)あり。曰く、魚を食ふに反す(二)こと無かれ。駑馬に乗ること勿れと。公曰く、善いかな。(三)若の言を知

食魚無反。勿乘駑馬。公曰。善哉。知苦言。食魚無反。則惡其鱢也。勿乘駑馬。惡其取道不遠也。晏子對曰。不然。食魚無反。毋盡民力乎。勿乘駑馬。則無置不肖於側乎。公曰。紀有書。何以亡也。晏子對曰。有以亡也。嬰聞之。君子有道。懸之閭。紀有此言。注之。其不亡何待乎。

れり。魚を食ふに反すことなかれとは、則ち其鱢きを惡めばなり。駑馬に乘ること勿れとは、其の道を取ること遠からざるを惡めばなりと。晏子對へて曰く、然らず。魚を食ふに反すことなかれとは、民力を盡すこと毋きか。駑馬に乘ること勿れとは、則ち不肖を側に置くことなきかと。公曰く、紀に書あり。何の以に亡びたると。晏子對へて曰く、乃ち以て亡ぶることありしなり。嬰之を聞く、君子道あれば、之を閭に懸くと。紀に此言ありて、之を注す、其れ亡びずして何をか待たんと。

㊀ 丹の疑か。丹書は、朱書きせるもの ㊁ 裏まで食ふことなかれと也 ㊂ 苦は、若の誤にて、此くのごとき言の意か

魯昭公棄國走齊。齊公問焉曰。君何年

魯の昭公、國を棄て齊に走る。齊公問ひて曰く、君何ぞ年の少くして、國を棄つるの蚤き。奚に道りて此に至れるかと。昭公對へて曰く、吾の少き時、人の我

之少。而棄レ國之蚤。奚道至二於此一乎。昭公對、曰、吾之少時。人多二愛レ我者一。吾體不レ能レ親。人多二諫レ我者一。吾志不レ能レ用。是則內無レ拂。而外無レ補。補拂無二一人一。諂二諛我一者甚衆。譬レ之猶二秋蓬一也。孤二其根一而美二其葉一。秋風一至。根且拔矣。景公辨二其言一。以語二晏子一曰。使三是人反二其國一。豈不レ爲二古之賢君一乎。晏子對曰。不レ然。夫愚者多レ悔。不肖者自賢。溺者不レ問レ墜。迷者不レ問レ路。溺而後問レ墜。迷而後問レ路。譬レ之。猶下臨レ難而遽鑄レ兵。噎而遽掘上レ井。雖レ速亦無レ及已。

を愛する者多し。吾體親むこと能はず。人の我を諫むる者多し。吾志用ふること能はず。是れ則ち內拂(一)くることなくして外補ふことなし。補拂一人なく、我に諂諛する者甚だ衆し。之を譬ふるに、猶ほ秋蓬のごときなり。其根を孤にして其葉を美にすとも、秋風一たび至らば、根且つ拔けんと。景公其言を辨なりとして、以て晏子に語げて曰く、是人をして其國に反らしめば、豈に古への賢君たらざらんやと。晏子對へて曰く、然らず。夫れ愚者は悔多く、不肖者は自ら賢なりとし、溺るゝ者は墜つるを問はず、迷ふ者は路を問はず。溺れて後に墜つるを問ひ、迷ひて後に路を問ふ、之を譬ふれば、猶ほ難に臨みて遽に兵を鑄、噎びて遽に井を掘るがごとし。速かなりと雖も亦及ぶことなきのみと。

(一) 音ヒツ、弼に同じ、たすく

晏子使レ魯。仲尼命二門弟子一。往觀。子貢反報曰。孰謂三晏子習二于禮一乎。夫禮曰。登レ階不レ歷。堂上不レ趨。授レ玉不レ跪。今晏子皆反レ此。孰謂下晏子習二于禮一者上。晏子既已有レ事二于魯君一。退見二仲尼一。仲尼曰。夫禮登レ階不レ歷。堂上不レ趨。授レ玉不レ跪。夫子反レ此乎。晏子曰。嬰聞。兩楹之間。君臣

晏子、魯に使す。仲尼、門弟子に命じ、往きて觀しむ。子貢反り報じて曰く、孰れか晏子を禮を習ふと謂ふか。夫れ禮に曰く、階に登るに歷せず、(一)堂上に趨せ(二)ず、玉を授くるに跪せず(三)と。今晏子皆此に反せり。孰れか晏子を禮に習へる者と謂ふと。晏子既已に魯君に事あり。退きて仲尼を見る。仲尼曰く、夫れ禮に、階を登るに歷せず、堂上に趨せず、玉を授くるに跪せずとあり。夫子此に反せるかと。晏子曰く、嬰聞く、兩楹(四)の間は、君臣位あり。君其一を行き、臣其二を行くと。君の來ること遬なり。是の以に階を登るに歷し、堂上に趨し、以て位に及べるなり。君の玉を授くること卑し。故に跪して以て之に下れり。且つ吾れ之を聞く、大なる者は閑(五)を踰えず、小なる者は出入して可なりと。晏子出づ。仲尼之を送るに賓客の禮を以てせり。不計(六)の義は、維だ晏子能く之を行ふと爲す。

(一) 歷階にて、段ごとに歩を止めずしてのぼるをいふ　(二) 小足にてはやく走るにて、貴人の前を過ぐるときの禮

(三) 兩膝を地におちつけて尻を足のかゝとにおく　(四) 堂の上なる圓き大なる二つの柱の間　(五) 法也、則也　(六)

豫期せざる義也

有位焉。君行其一。臣行其二。君之來遬。是以登階歷。堂上趨以及位也。君授玉卑。故跪以下之。且吾聞之。大者不踰閑。小者出入可也。晏子出。仲尼送之。以賓客之禮。不計之義。維晏子爲能行之。

晏子之魯。朝食進餽膳有豚焉。晏子曰。去其二肩。晝者進膳。則豚肩不具。侍者曰。膳豚肩亡。晏子曰。釋之矣。侍者曰。我能得其人。晏子曰。止。吾聞之。量功而不量力。則民盡。藏餘不分。則民盜。子教我所以改之。無教我求其人也。

晏子魯に之く。朝食に餽を進む。膳に豚あり。晏子曰く、其二肩を去れと。晝者膳を進む。則ち豚肩具せず。侍者曰く、膳に豚肩亡しと。晏子曰く、之を釋て(一)よと。侍者曰く、我れ能く其人を得たりと。晏子曰く、止めよ。吾れ之を聞く、功を量りて力を量らざれば則ち民盡く。餘を藏めて分たざれば則ち民盜むと。子、我に之を改むる所以を教へよ。我に其人を求むるを教ふること無かれと。

(一) その罪をゆるせと也

曾子將行。晏子送之曰。君子贈人以軒。

曾子將に行かんとす。晏子之を送りて曰く、君子人に贈るに軒を以てするは、(二)言を以てするに若かず。吾れ請ふ、言を以てせんか、軒を以てせんかと。曾子曰

不若以言。吾請以言之。以軒乎。曾子曰。請以言。晏子曰。今夫車輪。山之直木也。良匠揉之。其圓中規。雖有槁暴。不復嬴矣。故君子愼隱揉。和氏之璧。井里之困也。良工修之。則爲存國之寶。故君子愼所修。今夫蘭本三年而成。湛之苦酒。則君子不近。庶人不佩。湛之縻醢。而賈匹馬矣。非蘭本美也。所蕩然也。願子之求所湛。嬰聞之。君子居必擇居。游必就士。擇居所以求士。求士所以辟患也。嬰聞。汨常移質。習俗移性。不可不愼也。

く、請ふ、言を以てせよと。晏子曰く、今夫れ車輪は山の直木なり。良匠之を揉め、其圓、規に中る。槁暴(二)ありと雖も、復た贏びず。故に君子は隱揉を愼む。和氏の璧は、井里の困なり。良工之を修むれば、則ち存國の寶と爲る。故に君子は修むる所を愼む。今夫れ蘭本三年にして成る。之を苦酒に湛せば、則ち君子近づかず、庶人佩びず。之を縻醢に湛すときは、匹馬に賈す。蘭本美なるに非ざるなり。蕩する所然るなり。願はくは子の湛す所を求めよ。嬰之を聞く、君子は居るに必ず居を擇み、游して必ず士に就くと。居を擇ぶは士を求むる所以、士を求むるは患を辟くる所以なり。嬰聞く、汨常は質を移し、習俗は性を移すと。愼まざるべからざるなりと。

(一) 大夫以上の乘る車　(二) 日にさらされて乾けるをいふ

晏子之レ晉。至二中牟一。睹下弊冠反裘。負レ芻息二於塗側一者上。以二爲君子一也。使二人問一焉曰。子何爲者也。對曰。我越石父者也。晏子曰。何爲至レ此。曰。吾爲レ人臣二僕於中牟一。見レ使將レ歸。晏子曰。何爲二之僕一。對曰。不レ免二凍餒之切一吾身一。是以爲レ僕也。晏子曰。爲レ僕幾何。對曰。三年矣。晏子曰。可二

晏子晉に之き、中牟に至り、弊冠(一)反裘し、芻を負ひ塗側に息へる者を睹、君子なりと以爲ひ、人をして問はしめて曰く、子は何爲る者ぞと。對へて曰く、我は越石父といふ者なりと。晏子曰く、何爲れぞ此に至ると。曰く、吾れ人の爲に中牟に臣僕たり。使はれて將に歸らんとすと。晏子曰く、何ぞ之が僕と爲れると。對へて曰く、凍餒の我身に切なるを免れず。是の以に僕と爲れるなりと。晏子曰く、僕と爲ること幾何ぞと。對へて曰く、三年なりと。晏子曰く、得て贖ふべきかと。對へて曰く、可なりと。遂に左驂(二)を解きて以て之に贈る。因りて載せて之と倶に歸り、舍に至り、辭せずして入る。越石父怒りて絶たんと請ふ。晏子人をして之に應へしめて曰く、吾れ未だ嘗て交を夫子に得ざるなり。子、僕たりし事三年、吾れ廼ち今日睹て之を贖へり。吾れの子に於ける、尙ほ未だ可ならざるか。子何ぞ我を絶つの暴なると。越石父之に對へて曰く、臣之を聞く、士は、己れを知らざるに詘(三)して己れを知るに申ぶ。故に君子は、功を以て人の身を輕んぜ

得贖乎。對曰。可。遂解左驂以贈之。因載而與之俱歸。至舍不辭而入。越石父怒而請絶。晏子使人應之曰。吾未嘗得交夫子也。子爲僕三年。吾迺今日睹而贖之。吾於子尚未可乎。子何絶我之暴也。越石父對之曰。臣聞之。士者詘乎不知己。而申乎知己。故君子不以功輕人之身。不爲彼功詘身之理。吾三年爲人臣僕。而莫吾知也。

ず、彼の功の爲に身の理を詘せずと。吾れ三年、人の臣僕と爲れり。而して吾を知ること莫きなり。

㈠やぶれたる冠をかぶり、裘のうらを上にして着しないふ　㈡左のそへうま　㈢屈に同じ

今子贖我。吾以子爲知我矣。嚮者子乘不我辭也。吾以子爲忘。今又不辭而入。是與臣我者同矣。我猶且爲臣。請鬻於世。晏子出見之曰。嚮者見客之容。而今

今子、我を贖ふ、吾れ子を以て我を知ると爲せり。嚮者に子乘りて我に辭せざるや、吾れ子を以て忘ると爲せり。今又辭せずして入れり。是れ我を臣とする者と同じ。我れ猶ほ且つ臣と爲らば、請ふ、世に鬻がんと。晏子出でて之を見て曰く、嚮者に客の容を見る、而して今や客の意を見たり。嬰之を聞く、行を省る者は其過を引かず、實を察する者は其辭を譏らずと。嬰は以て辭して棄つるなかるべきか。嬰誠に之を革めんと。廼ち糞灑して席を改めしめ、尊醮して之を禮せり。越石父曰く、吾れ之を聞く、至恭は途を修めず、尊禮は擯を受けずと。

也見二客之意一。嬰聞レ之。省レ行者不レ引二其過一。察レ實者不レ譏二其辭一。嬰可二以辭而無ヒ棄乎。嬰誠革レ之。廼令二糞灑改ヒ席。尊醮而禮レ之。越石父曰。吾聞レ之。至恭不レ修レ途。尊禮不レ受レ擯。夫子禮レ之。僕不二敢當一也。晏子遂以爲二上客一。君子曰。俗人之有レ功則德。德則驕。晏子有レ功。免二人于厄一。而反詘二下之一。其去レ俗遠矣。此全功之道也。

夫子之を禮す、僕敢て當らざるなりと。晏子遂に以て上客と爲せり。君子曰く、俗人の功あれば則ち德とす。德とすれば則ち驕る。晏子功あり。人を厄に免れしめて、反つて之に詘下す、其の俗を去ること亦遠し。此れ全功の道なりと。

(一)掃ひ清むる也　(二)酒宴をなす也

晏子爲二齊相一。出。其御之妻從二門間一而闚。其夫爲二相御一。擁二大蓋一。策二駟馬一。意氣揚揚。甚自得也。既歸。其妻請レ去。

晏子、齊の相と爲る。出づ。其御の妻、門間よりして闚ふ。其夫、相の御と爲りて、大蓋(一)を擁し、駟馬に策ち、意氣揚揚、甚だ自得す。既にして歸る。其妻去らんと請ふ。夫其故を問ふ。其妻曰く、晏子、長六尺に滿たず。身、齊國に相として、名、諸侯に顯る。今者妾其出づるを觀るに、志念深し。常に以て自ら下る者あり。今子、長八尺、廼ち人の僕御と爲る。然るに子の意、自ら以て足れり

夫問二其故一。其妻曰。晏子長不レ滿二六尺一。身相二齊國一。名顯二諸侯一。今者妾觀二其出一。志念深矣。常有二以自下一者。今子長八尺。迺爲二人僕御一。然子意。自以爲レ足。妾是以求レ去也。其後夫自抑損。晏子怪而問レ之。御以レ實對。晏子薦以爲二大夫一。

と爲す。妾是の以に去らんことを求めしなりと。其後夫自ら抑損す。晏子怪みて之を問ふ。御、實を以て對ふ。晏子薦めて以て大夫と爲せり。

㈠ 車の上をおほふさか

燕之游士。有二泯子午者一。南見二晏子於齊一。言有二文章一。術有二條理一。巨可二以補一レ國。細可二以益二晏子一者三百篇。睹二晏子一。恐愼而不レ能レ言。晏子假レ之以二悲色一。開レ之以二禮貌一。然

燕の游士に、泯子午といふ者あり。南のかた晏子に齊に見ゆ。言、文章あり、術、條理あり。巨、以て國を補ふべく、細、以て晏子を益すべき者三百篇。晏子を睹、恐愼して言ふ能はず。晏子之に假すに悲色を以てし、之を開くに禮貌を以てして、然して後に能く其復（二）を盡せり。客退く。晏子、席を直くして坐し、朝を廢して時を移せり。側に在る者曰く、鄕者に燕客夫子に侍す、胡爲れぞ憂へしかと。晏子曰く、燕は萬乘の國なり。齊は千里の塗なり。泯子午、萬乘の國を以て說くに足らずと爲し、千里の塗を以て遠しとするに足らずと爲す、則ち是れ千

後能盡二其復一也。客退。晏子直レ席而坐。廢レ朝移レ時。在レ側者曰。嚮者燕客侍二夫子一。胡爲憂也。晏子曰。燕萬乘之國也。齊千里之塗也。泯子午以二萬乘之國一。爲レ不レ足レ說。以二千里之塗一。爲レ不レ足レ遠。則是千萬人之上也。且猶不レ能レ殫二其言於我一。況乎齊人之懷レ善。而死者乎。吾所二以不一レ得レ睹者。豈不レ多矣。然吾失レ此。何之有也。

萬人の上なり。且つ猶ほ其言を我に殫す能はず、況んや齊人の善を懷いて死する者をや。吾れ睹ることを得ざる所以の者、豈に多からざらんや。然らば吾の此を失ふこと、何ぞ之れ有らんと。

● 申しのぶる也

齊有二北郭騷一者。結二罘罔一。捆二蒲葦一。織レ屨以養二其母一。猶不レ足。踵レ門見二晏子一曰。竊說二先生之義一。願乞下所二以養一レ母者上。

齊に北郭騷といふ者あり。罘罔を結び、蒲葦を捆ち、屨を織りて以て其母を養へども、猶ほ足らず。門に踵り、晏子に見えて曰く、竊に先生の義を說ぶ。願はくは母を養ふ所以の者を乞はんと。晏子、人をして倉粟府金を分ちて、之に遺らしむ。金を辭して粟を受く。間あり。晏子、景公に疑はれ出奔す。北郭騷の門を過りて辭す。北郭騷沐浴して晏子に見えて曰く、夫子將に焉に適くと。

晏子使下人分二倉粟府金一而遺レ之。辭レ金受レ粟。有レ間。晏子見レ疑二于景公一。出奔。過二北郭騷之門一而辭。北郭騷沐浴而見二晏子一曰。夫子將焉適。晏子曰。見レ疑二于齊君一。將二出奔一。北郭騷曰。夫子勉レ之矣。晏子上レ車。太息而歎曰。嬰之亡。豈不レ宜哉。亦不レ知レ士甚矣。晏子行。北郭子召二其友一而告レ之曰。吾說二晏子之義一。而嘗乞下所二以養一レ母者上焉。吾聞レ之。養二其親一者。身伉二其難一。今晏子見レ疑。吾將以レ身死白レ之。著二衣冠一。令二其友操レ劍奉而從一。造二于君庭一。求二復者一曰。晏子天下之賢者也。今去二齊國一。齊必侵矣。

晏子曰く、齊君に疑はれ、將に出奔せんとすと。北郭騷曰く、夫子之を勉めよと。晏子、車に上り太息して歎じて曰く、嬰が亡する、豈に宜ならずや。亦士を知らざること甚しと。晏子行る。北郭子其友を召びて之に告げて曰く、吾れ晏子の義を說びて、嘗て母を養ふ所以の者を乞へり。吾れ之を聞く、其親を養ふ者は、身其難に伉すと。今晏子疑はる。吾れ將に身を以て死し、之を白にせんとすと。衣冠を著け、其友をして劍を操りて、奉じて從はしむ。君の庭に造り、復者（一）を求めて曰く、晏子は天下の賢者なり。今齊國を去らば、齊は必ず侵されん。

（一）取り次ぎの者

方見國之必侵。不若死。請以頭託。白晏子也。因謂其友曰。盛吾頭于笥中。奉以退。託而自刎。其友因奉託而謂復者曰。此北郭子爲國故死。吾將爲北郭子死。又退而自刎。景公聞之大駭。乘馹而自追晏子。及之國郊。請而反之。晏子不得已而反。聞北郭子之以死白己也。大息嘆曰。嬰之亡。豈不宜哉。亦愈不知士甚矣。

方に國の必ず侵さるゝを見るは、死するに若かず。請ふ、頭を以て託して、晏子を白にせんと。因りて其友に謂つて曰く、吾頭を笥中に盛り、奉じて以て退けと。託して自刎せり。其友因りて奉託して復者に謂つて曰く、此れ北郭子、國の爲の故に死せり。吾れ將に北郭子の爲に死せんとすと。又退きて自刎せり。景公之を聞きて大に駭き、馹に乘りて自ら晏子を追ひ、之に國郊に及び、請ひて之を反さんとす。晏子已むを得ずして反る。北郭子の死を以て己れを白にすと聞くや、大息して嘆じて曰く、嬰の亡する、豈に宜ならずや。亦愈士を知らざること甚しと。

● 馹　驛馬

景公謂晏子

景公、晏子に謂つて曰く、吾れ聞く、高糺と夫子と遊ぶと。寡人請ふ之を見ん

曰。吾聞。高糺與二夫子一遊。寡人請見レ之。晏子對曰。臣聞レ之。爲レ地戰者。不レ能レ成二其王一。爲レ祿仕者。不レ能レ正二其君一。高糺與レ嬰。爲二兄弟一久矣。未三嘗干二嬰之行一。特祿仕之臣也。何足二以補一レ君乎。

と。晏子對へて曰く、臣之を聞く、地の爲に(一)戰ふ者は、其王を成すこと能はず、祿の爲に仕ふる者は、其君を正すこと能はずと。高糺と嬰と兄弟たること久し、未だ嘗て嬰の行を干さず。特に祿仕の臣なり。何ぞ以て君を補ふに足らんやと。

一　土地を貪るために戰ふ

高糺事二晏子一而見レ逐。高糺曰。臣事二夫子一三年。無レ得而卒見レ逐。其說何也。晏子曰。嬰之家俗有レ三。而子無二一焉。糺曰。可レ得聞乎。晏子曰。嬰之家俗。間處從容不レ談

高糺、晏子に事へて逐はる。高糺曰く、臣、夫子に事ふること三年、得ることなくして卒に逐はる。其說何ぞやと。晏子曰く、嬰の家俗三あり。而して子一もなしと。糺曰く、得て聞くべきかと。晏子曰く、嬰の家俗、間處從容として談議せざれば則ち疏す。出でて美を相揚げず、入りて行を相削らざれば、則ち與に通せず。國事論ずることなく、士に驕り知者を慢れば、則ち朝せしめざるなり。此の三つの者は、嬰の家俗なり。今子は是れ一もなし。故に嬰は特に食餽の長に非ざるなり。是の以に辭すと。

議一則疏。出不レ相二揚美一。入不レ相二削行一。則不三與通二國事一無レ論。驕レ士慢二知者一。則不レ朝也。此三者嬰之家俗。今子是無レ一焉。故嬰非二特食餽之長一也。是以辭。

㈠閑居して居て道義を談ぜぬこと　㈡秩祿を無意味に與へる

晏子居二晏桓子之喪一。麤衰斬。苴絰帶。杖。菅屨。食レ粥。居二倚廬一。寢レ苫枕レ艸。其家老曰。非二大夫喪レ父之禮一也。晏子曰。唯卿爲二大夫一。曾子以聞二孔子一。孔子曰。晏子可レ謂二能遠レ害矣。不下以二己之是一駁中人之非上。遜辭以避レ咎。義也夫。

晏子、晏桓子の喪に居る、㈠麤衰斬、㈡苴絰帶、杖、㈢菅屨、粥を食ひ、㈣倚廬に居り、苫に寢ね、艸を枕す。其家老曰く、大夫、父を喪するの禮に非ざるなりと。晏子曰く、唯だ卿を大夫と爲すのみと。曾子以て孔子に聞す。孔子曰く、晏子は能く害を遠ざくと謂ふべし。己れの是を以て人の非を駁せず、遜辭して以て咎を避く。義なるかなと。

㈠喪服　㈡喪の時に褄にまくものと帶　㈢喪にはくわらぐつ　㈣喪主の入る小屋

靈公好二婦人而丈夫飾者一。國人盡服レ之。公使二吏禁一レ之曰。女子而男飾者。裂二其衣一斷二其帶一。裂レ衣斷レ帶。相望而不レ止。晏子見。公問曰。寡人使下吏禁二女子而男子飾一。裂中斷其衣帶上。相望而不レ止者何也。晏子對

卷三　下

雜下第六

靈公、婦人にして丈夫㈠の飾する者を好む。國人盡く之を服す。公、吏をして之を禁ぜしめて曰く、女子にして男飾する者は、其衣を裂き其帶を斷たんと。衣を裂き帶を斷つこと、相望みて止まず㈡。晏子見ゆ。公問ひて曰く、寡人、吏をして女子にして男子の飾するを禁じ、其衣帶を裂斷せしめたり。相望みて止まざる者は何ぞやと。晏子對へて曰く、君之を內㈢に服せしめて、之を外に禁ず。猶ほ牛首を門に懸けて、馬肉を內に賣るがごときなり。公、何の以に內をして服すること勿からしめざる。則ち外敢て爲すこと莫からんと。公曰く、善しと。內をして服すること勿からしめたり。月を踰えて國之を服すること莫し。

㈠ 男子　㈡ しかも男裝のやまざるをいふ　㈢ 宮中

曰。君使レ服二之於内一。而禁二之於外一。猶下懸二牛首于門一。而賣中馬肉於内上也。公何以不レ使二内勿一レ服。則外莫二敢爲一也。公曰。善。使二内勿一レ服。踰レ月而國莫二之服一。

齊人甚好二轂擊相犯一。以爲レ樂。禁レ之不レ止。晏子患レ之。迺爲二新車良馬一。出與レ人相犯也。曰。轂擊者不祥。臣其祭祀不レ順。居處不レ敬乎。下レ車而棄去レ之。然後國人乃不レ爲。故曰。禁レ之以レ制。而身不レ行。民不レ能レ止。故化二其志一。莫レ若レ教也。

齊人甚だ轂擊(一)相犯して、以て樂を爲すを好む。之を禁ずれども止まず。晏子之を患ふ。迺ち新車良馬を爲り、出でて人と相犯す。曰く、轂擊する者は不祥(二)なり。臣其れ祭祀順ならず、居處敬ならざるかと。車を下りて棄てて之を去る。然して後に國人及ち爲さず。故に曰く、之を禁ずるに制を以てし、而も身行はざれば、民止むこと能はずと。故に其志を化するは、教に若くこと莫きなり。

(一)車の轂と轂とを衝突せしむる也　(二)不吉也

景公畋二於梧丘一。夜猶早。公姑坐睡而夢。有二五丈夫一。北二面韋廬一。稱レ無レ

景公、梧丘に畋す。夜猶ほ早し。公姑く坐睡して夢む。五丈夫あり。韋廬に(一)北面して罪なしと稱す。公覺め晏子を召して、其の夢みし所を告ぐ。公曰く、我れ其れ嘗て不辜を(二)殺し、無罪を誅せるかと。晏子對へて曰く、昔者先君靈公畋す。

罪焉。公覺召二晏子一而告二其所レ夢。公曰。我其嘗殺二不辜一。誅二無罪一邪。晏子對曰。昔者先君靈公畋。五丈夫罟而駭レ獸。故殺レ之。斷二其頭一而葬レ之。命曰二五丈夫之丘一。此其地邪。公令二人掘而求一レ之。則五頭同レ穴而存焉。公曰。嘻。令二吏葬一レ之。國人不レ知二其夢一也。曰。君憫二白骨一。而況於二生者一乎。不レ遺二餘力一矣。不レ釋二餘知一矣。故曰。君子之爲レ善易矣。

五丈夫罟して獸を駭かす。故に之を殺し、其頭を斷ちて之を葬る。命けて五丈夫の丘と曰ふ。此れ其地かと。公、人をして掘りて之を求めしむれば、則ち五頭、穴を同じうして存す。公曰く、嘻と。吏をして之を葬らしむ。國人其夢を知らざるなり。曰く、君は白骨を憫む、而るを況んや生者に於てをやと。餘力を遺さず、餘知を釋てず。故に曰く、君子の善を爲すは易しと。

㈠ 倚廬にあらざるか。然らば喪中の假屋　㈡ 罪なきもの

景公爲二路寢之臺一。成而不レ踊焉。栢常騫曰。君爲レ臺甚急。臺成。君何

景公、路寢の臺を爲り、成りて踊らず。栢常騫曰く、君、臺を爲ること甚だ急なり。臺成る。君何の爲にして踊らざると。公曰く、然り。梟あり。昔者鳴く。聲爲さざるなきなり。吾れ之を惡むこと甚し。是の以に踊らずと。栢常騫曰く、

爲而不ㇾ踊焉。公曰。然。有ㇾ梟。昔者鳴。聲無ㇾ不ㇾ爲也。吾惡ㇾ之甚。是以不ㇾ踊焉。栢常騫曰。臣請。禳而去。公曰。何具。對曰。築ニ新室一。爲置ニ白茅一。公使ㇾ爲ㇾ室成。置ニ白茅一焉。栢常騫夜用ㇾ事。明日問ㇾ公曰。今昔聞ニ鳴聲一乎。公曰。一鳴而不ニ復聞一。使ニ人往視ㇾ之。鴞當ㇾ陛。布ㇾ翌伏ㇾ地而死。公曰。子

臣請ふ、禳して去らんと。公曰く、何を具へんと。對へて曰く、新室を築きて、爲に白茅を置かんと。公、室を爲らしめて成り、白茅を置く。栢常騫、夜、事を(二)用ふ。明日公に問ひて曰く、今昔鳴聲を聞きしかと。公曰く、一鳴して復た聞かずと。人をして往きて之を視しむれば、鴞、陛に(三)當り、翌を(四)布き、地に伏して死す。公曰く、子の道此の若く其れ明なり。亦能く寡人が壽を益さんかと。對へて曰く、能くせんと。公曰く、能く幾何を益すか。對へて曰く、天子は九、諸侯は七、大夫は五と。公曰く、子亦徵兆の見あるかと。對へて曰く、壽を得ば地且に動かんとすと。公喜び、百官をして趣かに騫の求むる所を具へしむ。栢常騫出でて晏子に塗に遭ひ、馬前に拜す。騫辭して曰く、君の鴞を禳ひて之を殺すことを爲す、君騫に謂ひて曰く、子の道は此の如く其れ明なり。亦能く寡人が壽を益さんかと。騫曰く、能くせんと。今且つ大祭して、君の爲に壽を請ふ。故に將に往きて以て聞せんとす。晏子曰く、嘻。亦善し。能く君の爲に壽を請へ。然りと雖も、吾れ之を聞く、維だ政と德とを以てして神に順なれば、以て壽を益すべしと爲すと。今徒に祭りて以て壽を益すべきか。然らば則ち福兆見はるゝことあるかと。對へて曰

之道若レ此其明。亦能益二寡人之壽一乎。對曰。能。公曰。能益二幾何一。對曰。天子九。諸侯七。大夫五。

く、壽を得ば、地將に動かんとすと。晏子曰く、騫。昔吾れ維星(二)絕し、樞星(三)散ずるを見たり。地其れ動かん。汝是れを以てかと。栢常騫俯す。閒あり、仰ぎて對へて曰く、然りと。晏子曰く、之を爲して益なく、爲さずして損なし。汝、斂を薄くして民を費すこと毋く、且つ君をして之を知らしむることなかれと。

(一) 上なり、のぼる　(二) 星の名　(三) 星の名

公曰。子亦有二徵兆之見一乎。對曰。得レ壽地且レ動。公喜。令三百官趣具二騫之所一レ求。栢常騫出遭二晏子于塗一。拜二馬前一。騫辭曰。爲下禳二君鴞一而殺上レ之。君謂レ騫曰。子之道若レ此其明也。亦能益二寡人壽一乎。騫曰。能。今且大祭爲レ君請レ壽。故將二往以聞一。晏子曰。嘻。亦善。能爲レ君請レ壽也。雖レ然。吾聞レ之。維以二政與一レ德。而順二乎神一。爲レ可二以益一レ壽。今徒祭可二以益一レ壽乎。然則福兆有レ見乎。對曰。得レ壽地將レ動。晏子曰。騫。昔吾見二維星絕一。樞星散。地其動。汝以レ是乎。栢常騫俯有レ閒。仰而對曰。然。晏子曰。爲レ之無レ益。不レ爲無レ損也。汝薄レ斂毋レ費レ民。且無レ令二君知一レ之。

景公新成二栢寢之臺一。使二師開鼓一レ琴。師開左撫レ宮。右彈レ商曰。室夕。公曰。何以知レ之。

景公新に栢寢の臺を成す。師開をして琴を鼓せしむ。師開、左に宮(一)を撫し、右に商(二)を彈じて曰く、室夕なりと。公曰く、何を以て之を知ると。師開對へて曰く、東方の聲薄く、西方の聲揚ると。公、大匠を召して曰く、室何爲れぞ夕(三)なると。大匠曰く、室を立つるに、宮短を以て之を爲れりと。是に於て司空を召して曰

師開對曰。東方之聲薄。西方之聲揚。公召二大匠一曰。室何爲夕。大匠曰。立レ室以二宮短一爲レ之。於レ是召二司空一曰。立レ宮何爲夕。司空曰。立レ宮以二城短一爲レ之。明日晏子朝レ公。公曰。先君太公。以二營丘之封一立レ城。曷爲夕。晏子對曰。古之立レ國者。南望二南斗一。北戴二樞星一。彼安有二朝夕一哉。然而以二今之夕一者。周之建レ國。國之西方。以尊レ周也。公蹵然曰。古之臣乎。

く、宮を立つるに何爲れぞ夕なると。司空曰く、宮を立つるに、城短を以て之を爲れりと。明日晏子、公に朝す。公曰く、先君太公(四)、營丘(五)の封を以て城を立つ。曷爲れぞ夕なると。晏子對へて曰く、古への國を立つる者、南のかた南斗を望み。北のかた樞星を戴く、彼れ安ぞ朝夕ならんや。然れども今の夕を以てする者は、周の國を建つる、國の西方なるは、以て周を尊べるなりと。公蹵然(六)として曰く、古への臣なるかと。

(一) 宮商角徵羽の五音の一 (二) 五音の一 (三) 陰なるをいふ (四) 齊の祖先太公望呂尙 (五) 封ぜられし地名
(六) つゝしめるさま

景公病レ水。臥十數日。夜夢。與二二日一鬭不レ勝。晏子朝。公曰。夕者夢與二

景公、水を病む。臥すこと十數日。夜夢む。二日と鬭ひて勝たず。晏子朝す。公曰く、夕者夢に二日と鬭ひて、寡人勝たず。我れ其れ死せんかと。晏子對へて曰く、請ふ、夢を占ふ者を召さんと。閨を出で、人をして車を以て夢を占ふ者

二日闘。而寡人不勝。我其死乎。晏子對曰。請召占夢者。出於閨。人以車迎占夢者。至。曰。何爲見召。晏子曰。夜者公夢二日與公闘不勝。公曰。寡人死乎。故請君占夢。是何爲也。占夢者曰。請反其書。晏子曰。毋反書。公所病者陰也。日者陽也。一陰不勝二陽。故病將已。

を迎へしむ。至る。曰く、何爲れぞ召さると。晏子曰く、夜者、公、二日を夢む。公と闘ひて勝たず。公曰く、寡人死せんかと。故に君に請ひて夢を占はんとす。是れ何の爲ぞや。占夢者曰く、請ふ、其書を反せんと。晏子曰く、反書する毋かれ。公病む所の者は陰なり。日は陽なり。一陰、二陽に勝たず。故に病將に已んとするなり。是を以て對へよと。占夢者入る。公曰く、寡人、二日と闘へて勝たざるを夢む。寡人死せんかと。占夢者對へて曰く、公の病む所は陰なり。日は陽なり。一陰は二陽に勝たず。公の病將に已まんとするなりと。居ること三日、公の病大に愈ゆ。公且に占夢者に賜はんとす。占夢者曰く、此れ臣の力に非ず。晏子の臣に敎しなりと。公、晏子を召し、且に之に賜はんとす。晏子曰く、占夢者、占の言を以て對ふ。故に益ありしなり。臣をして之を言はしめば、則ち信ぜられず。此れ占夢の力なり。臣は功なしと。公兩ながら之に賜ひて曰く、晏子が人の功を奪はざるを以てと、占夢者が人の能を蔽はざるを以てなりと。

以レ是對。占夢者入。公曰。寡人夢下與二二日一鬭而不レ勝。寡人死乎。占夢者對曰。公之所レ病陰也。日者陽也。一陰不レ勝二二陽一。公病將レ已。居三日。公病大愈。公且レ賜二占夢者一。占夢者曰。此非二臣之力一。晏子敎レ臣也。公召二晏子一。且レ賜レ之。晏子曰。占夢者以二占之言一對。故有レ益也。使二臣言一レ之。則不レ信矣。此占夢之力也。臣無レ功焉。公兩賜レ之曰。以二晏子不一レ奪二人之功一。以二占夢者不一レ蔽二人之能一。

一 復命書を出す也

景公病レ疽在レ背。高子國子。請レ公曰。職當レ撫レ瘍。高子進而撫レ瘍。公曰。熱乎。曰。熱。熱何如。曰。如レ火。其色何如。曰。如二未レ熟李一。大小何如。曰。如レ豆。墮者何如。曰。如二屨辨一。二

景公、疽を病みて背に在り。高子・國子(一)、公に請ひて曰く、職として當に瘍を撫すべしと。高子進みて瘍を撫す。公曰く、熱するかと。曰く、熱すと。熱何如と。曰く、火の如しと。其色何如と。曰く、未だ熟せざる李の如しと。大小何如と。曰く、豆の如しと。墮つる者何如と。曰く、屨辨の如しと。二子者出づ。晏子見えんと請ふ。公曰く、寡人病あり。衣冠に勝へて、以て出でて夫子を見ること能はず。其れ寡人を辱視(二)せんかと。晏子入る。(三)宰人を呼びて盥を具へ、御者に巾を具へしむ。手を刷して之を溫にし、席を發し薦に傅き、跪きて瘍

子者出。晏子請レ見。公曰。寡人有レ病。不レ能下勝二衣冠一以出見中夫子上。其辱二視寡人一乎。晏子入。呼二宰人一具レ盥。御者具レ巾。刷レ手温レ之。發レ席傳レ薦。跪請レ撫レ瘍。公曰。其熱何如。曰。如レ日。其色何如。曰。如二蒼玉一。大小何如。曰。如レ璧。其墮者何如。曰。如レ珪。晏子出。公曰。吾不レ見二君子一。不レ知二野人之拙一也。

を撫せんと請ふ。公曰く、其熱何如と。曰く、日の如しと。其色何如と。曰く、(四)蒼玉の如しと。大小何如と。曰く、璧の如しと。其墮つる者何如と。曰く、(五)珪の如しと。晏子出づ。公曰く、吾れ君子を見ずんば、野人の拙なるを知らざるなりと。

(一)齊の兩大夫　(二)疾病の意にて、床につきてゐること　(三)食膳を司るもの　(四)蒼玉の誤か　(五)圭に同じ、諸侯の信とする寶石

晏子使レ吳。吳王謂二行人一曰。吾聞。晏嬰蓋北方辯二于辭一。習二于禮一者也。命二儐者一曰。客

晏子吳に使す。吳王、(一)行人に謂ひて曰く、吾れ聞く、晏嬰は、蓋し北方の辭に辯に、禮に習へる者なりと。(二)儐者に命じて曰く、客見えば、則ち天子見んと請ふと稱せよと。明日晏子事あり。行人曰く、天子見えんと請ふと。晏子蹙然たり。行人又曰く、天子見えんと請ふと。晏子蹙然たり。又曰く、天子見えんと請ふと。

見則稱二天子請ㇾ見。明日晏子有ㇾ事。行人曰。天子請ㇾ見。晏子蹵然。行人又曰。天子請ㇾ見。晏子蹵然。又曰。天子請ㇾ見。晏子蹵然者三。曰。臣受二命弊邑之君一。將ㇾ使二於吳王之所一。以二不敏一而迷惑入二於天子之朝一。敢問。吳王惡乎存。然後吳王曰。夫差請ㇾ見。見ㇾ之以二諸侯之禮一。

晏子蹵然たること三たび。曰く、臣、命を弊邑の君に受け、將に吳王の所に使せんとす。不敏なるを以て、迷惑して天子の朝に入れり。敢て問ふ、吳王惡にか存すると。然して後吳王曰く、夫差見えんと請ふと。之を見るに諸侯の禮を以てせり。

㊀ 賓客の接待をなすもの ㊁ 賓客を導き主人を相くる人

晏子使ㇾ楚。以二晏子短一。楚人爲二小門于大門之側一。而延二晏子一。晏子不ㇾ入。曰。使二狗國一者從二狗門一入。今臣使ㇾ楚。不ㇾ

晏子、楚に使す。晏子の短なるを以て、楚人、小門を大門の側に爲りて晏子を延く。晏子入らずして曰く、狗國に使する者は、狗門より入る。今臣、楚に使す。當に此門より入るべからずと。儐者更に道きて大門より入り、楚王に見ゆ。王曰く、齊に人なきかと。晏子對へて曰く、臨淄(一)三百閭(二)、袂を張りて陰を成し、汗を揮ひて雨を成す。肩を比べ、踵を繼ぎて在り。何爲れぞ人なからんと。王曰く、

當㆘從㆓此門㆒入㆖。儐者更道從㆓大門㆒入。見㆓楚王㆒。王曰。齊無㆑人耶。晏子對曰。臨淄三百閭。張㆑袂成㆑陰。揮㆑汗成㆑雨。比㆑肩繼㆑踵而在。何爲無㆑人。王曰。然則子何爲使乎。晏子對曰。齊命㆑使。各有㆑所㆑主。其賢者使㆑使㆓賢王㆒。不肖者使㆑使㆓不肖王㆒。嬰最不肖。故直使㆑楚矣。

然らば則ち子何爲れぞ使するかと。晏子對へて曰く、齊の使を命ずる、各〻主とする所あり。其の賢なる者は、賢王に使せしめ、不肖なる者は、不肖王に使せしむ。嬰は最も不肖なるが故に、直に楚に使せりと。

㊀身體の矮小なる也　㊁齊の地名　㊂里に同じ、二十五家一郭の邑を一閭といふ

晏子將㆑至㆑楚。楚聞㆑之。謂㆓左右㆒曰。晏嬰齊之習㆑辭者也。今方來。吾欲㆑辱㆑之。何以也。左右對曰。爲㆓其來㆒也。臣請縛㆓一人㆒。過㆑王而行。王曰。何

晏子將に楚に至らんとす。楚之を聞き、左右に謂つて曰く、晏嬰は、齊の辭に習へる者なり。今方に來る。吾れ之を辱めんと欲す。何を以てせんと。左右對へて曰く、其の來るを爲すや、臣請ふ、一人を縛し、王を過ぎて行かん。王曰へ、何爲る者ぞと。對へて曰はん、齊人なりと。王曰へ、何に坐すと。曰はん、盜に坐すと。晏子至る。楚王、晏子に酒を賜ふ。酒酣にして吏二り、一人を縛して王に詣る。王曰く、縛する者は曷爲る者ぞと。對へて曰く、齊人なり。盜に坐す

爲者也。對曰。齊人也。王曰。何坐。曰坐レ盜。晏子至。楚王賜二晏子酒一。酒酣吏二。縛二一人一詣レ王。王曰。縛爲曷者也。對曰。齊人也。坐レ盜。王視二晏子一曰。齊人固善レ盜乎。晏子避レ席。對曰。嬰聞レ之。橘生二淮南一則爲レ橘。生二淮北一則爲レ枳。葉徒相似。其實味不レ同。所二以然一者何。水土異也。今民生二長於齊一不レ盜。入レ楚則盜。得レ無三楚之水土。使二民善一レ盜邪。王笑曰。聖人非レ所二與嬉一也。寡人反取レ病焉。

と。王、晏子を視て曰く、齊人固より盜を善くするかと。晏子席を避け、對へて曰く、嬰之を聞く、橘、淮南（二）に生ずれば則ち橘と爲り、淮北に生ずれば則ち枳と爲る。葉徒に相似て、其實味同じからず。然る所以の者は何ぞや。水土異なればなり。今民、齊に生長して盜せず、楚に入れば則ち盜す、楚の水土、民をして盜を善くせしむること無きを得んやと。王笑ひて曰く、聖人は與（三）に嬉する所に非ざるなり。寡人反つて病を取れりと。

㈠ 外交の辭になれてゐること　㈡ 地名、淮水の南の方の地　㈢ ともに戯るゝをいふ

景公使二晏子一於楚一。楚王進レ橘置レ削。晏子

景公、晏子を楚に使せしむ。楚王、橘を進め削（一）を置く。晏子剖かずして並に之を食ふ。楚王曰く、當に剖を去るべしと。晏子對へて曰く、臣之を聞く、人主

不レ剖而並食レ之。楚王曰。當レ去レ剖。晏子對曰。臣聞レ之。賜二人主前一者。瓜桃不レ削。橘柚不レ剖。今者萬乘無二教令一。臣故不二敢剖一。不レ然。臣非レ不レ知也。

の前に賜る者は、瓜桃削せず、橘柚剖せずと。今者萬乘教令なし。臣故に敢へて剖せず。然らざれば、臣知らざるに非ざるなりと。

(一) 小刀にて往昔竹簡の誤字をけづりたるもの　(二) 楚王をいふ　(三) 命令也

景公飲レ酒。田桓子侍。望二見晏子一。而復二於公一曰。請浮二晏子一。公曰。何故也。無宇對曰。晏子衣二緇布之衣。麋鹿之裘。棧軫之車。而駕二駑馬一以朝。是隱二君之賜一也。公曰。諾。晏子坐。酌者

景公、酒を飲む。田桓子侍す。晏子を望見して、公に復して曰く、請ふ、晏子に浮せんと。公曰く、何の故ぞやと。無宇對へて曰く、晏子は、緇布の衣・麋鹿の裘を衣、棧軫の車にして、駑馬を駕して以て朝す。是れ君の賜を隱せるなりと。公曰く、諾と。晏子坐す。酌者、觴を奉じ、之を進めて曰く、君命じて子に浮すと。晏子曰く、何の故ぞやと。田桓子曰く、君之に卿位を賜ひ、以て其身を尊くし、之を百萬に寵し、以て其家を富す。羣臣、其爵の子より尊きは莫く、祿の子より重きは莫し。今子、緇布の衣・麋鹿の裘を衣、棧軫の車にして、駑馬を駕して以て朝す。是れ則ち君の賜を隱せるなり。故に子に浮すと。晏子、席を避け

奉レ觴。進レ之曰。君命浮レ子。晏子曰。何故也。田桓子曰。君賜ニ之卿位一。以尊ニ其身一。寵ニ之百萬一。以富ニ其家一。羣臣其爵

て曰く、請ふ、飲んで而る後に辭(五)せんか。其れ辭して而る後に飲まんかと。公曰く、辭して然して後に飲まんと。晏子曰く、君の卿位を賜ひて、以て其身を尊くす、嬰敢へて顯(六)の爲に受くるに非ざるり。君の令を行はんが爲なり。

(一)罰杯をのますること　(二)黑色の布　(三)車の箱の周圍に設けたる横木　(四)大夫の身分に相當する賜をうけながら質素にして、事をなすをいふ　(五)辭解する也　(六)身を顯貴にする爲めにと也

莫レ尊ニ于子一。祿莫レ重ニ于子一。今子衣ニ緇布之衣。麋鹿之裘一。棧軫之車。而駕ニ駑馬一以朝。是則隱ニ君之賜一也。故浮レ子。晏子避レ席曰。請飲而後辭乎。其辭而後飲乎。公曰。辭然後飲。晏子曰。君之賜ニ卿位一。以尊ニ其身一。嬰非ニ敢爲レ顯受一也。爲レ行ニ君令一也。

寵以ニ百萬一。以富ニ其家一。嬰非ニ敢爲レ富受一也。爲レ通ニ君賜一也。臣聞。古之賢君。有下受ニ厚賜一

寵するに百萬を以てして、以て其家を富すは、嬰敢へて富の爲に受くるに非ざるなり。君の賜を通ぜんが爲なり。臣聞く、古への賢君、厚賜を受けて、其困(一)族を顧みざることあれば、則ち之を過とす。事に臨み職を守り、其任に勝へざれば、則ち之を過とす。君の內隷(二)、臣の父兄、若し離散して野鄙に在る有らば、

而不顧其困族、則過之。臨事守職。不勝其任、則過之。君之內隸。臣之父兄。若有離散在於野鄙、此臣之罪也。君之內隸。臣之所職。若有播之在於四方、此臣之罪也。兵革之不完。戰車之不修。此臣之罪也。若夫弊車駑馬以朝。意者非臣之罪乎。且臣以君之賜、父之黨無不乘車者、母之黨無不足於衣食者、妻之黨無凍餒者、國之閭士、待臣而後擧火者數百家。如此者爲彰君賜乎。爲隱君賜乎。公曰。善。爲我浮無字也。

此れ臣の罪なり。君の內隸、臣の職とする所、若し之を播して四方に在る有らば、此れ臣の罪なり。兵革の完からざる、戰車の修らざる、此れ臣の罪なり。若し夫れ弊車駑馬以て朝す。意者に臣の罪に非ざるか。且つ臣の君の賜を以て、父の黨、車に乘らざる者なく、母の黨、衣食に足らざる者なく、妻の黨、凍餒する者なく、國の閭士、臣を待ちて後に火を擧ぐる者數百家、此の如き者、君の賜を彰すと爲すか、君の賜を隱すと爲すかと。公曰く、善し。我が爲に無字に浮せよと。

㊀困窮せる一族　㊁直屬の臣

田桓子見晏子、獨立於墻陰。曰。子何爲

田桓子、晏子を見れば、獨り墻陰に立つ。曰く、子何爲れぞ獨立して憂へざる。何ぞ四鄕の學士の可なる者を求めて、與に坐せざると。晏子曰く、共に立つ

獨立而不レ憂。何不下求二四鄉之學士可者一而與坐上。晏子曰。共立似二君子一。出レ言而非也。嬰惡得二學士之可者一。而與レ之坐。且君子之難レ得也。若二美山一然。名山既多矣。松柏既茂矣。望レ之相相然盡二目力一。不レ知レ厭。而世有レ所レ美焉。因欲レ登二彼相相之上一。仡仡然不レ知レ厭。小人者與レ此異。若下部婁之未レ登善。登レ之無レ蹊。維有二楚棘一而已。遠望無レ見也。俛就則傷上。嬰惡

こと君子に似て、言を出せば非なり。嬰惡ぞ學士の可なる者を得て、之を坐せん。且つ君子の得難きや、美山の若く然り。名山既に多し。松栢既に茂る。之を望めば(二)相相然として目力を盡して、厭くことを知らず。世、美とする所あり。因りて彼の相相の上に登らんと欲すれば、(三)仡仡然として厭くことを知らず。小人者は此と異なり。(四)部婁の未だ登らずして善けれども、之に登るに蹊なく、維れ(五)楚棘あるのみ、遠く望めば見ることなく、俛して就くときは則ち傷するが若し。嬰惡ぞ能く獨立すること無からん。且つ人何をか憂へん。靜處遠慮し、歲を見ること月の若く、學問厭はず、老の將に至らんとする知らずんば、安ぞ從酒を用ひんと。田桓子曰く、何をか從酒と謂ふと。晏子曰く、客なくして飲む、之を從酒と謂ふ。今子の若き者、晝夜尊を守る。之を從酒と謂ふなりと。

(一) 垣根のかげ　(二) 高くして目立つをいふ　(三) 勇ましく活潑なるさま　(四) 小なる丘　(五) いばら。荊棘

能無獨立ニ焉。且人何憂。靜處遠慮。見レ識若レ月。學問不レ厭。不レ知ニ老之將一レ至。安用ニ從酒一。田桓子曰。何謂ニ從酒一。晏子曰。無レ客而飲。謂ニ之從酒一。今若レ子者。晝夜守レ尊。謂ニ之從酒一也。

欒氏高氏欲レ逐ニ田氏鮑氏一。田氏鮑氏先知而遂攻レ之。高彊曰。先得レ君田鮑安往。遂攻ニ虎門一。二家召ニ晏子一。晏子無レ所レ從也。從者曰。何爲不レ助ニ田鮑一。晏子曰。何善焉其助レ之也。何爲不レ助ニ欒高一。曰。庸愈ニ於彼一乎。門開。公召而入。欒高不レ

(一)欒氏・高氏、田氏・鮑氏を逐はんと欲す。田氏・鮑氏、先づ知りて遂に之を攻む。高彊曰く、先づ君を得ば、田・鮑安に往かんと。遂に(二)虎門を攻む。二家、晏子を召す。晏子從ふ所なきなり。從者曰く、何爲れぞ田・鮑を助けざると。晏子曰く、何を善として其れ之を助けんと。何爲れぞ欒・高を助けざると。曰く、庸ぞ彼に愈らんやと。門開く。公召して入る。欒・高勝たずして出づ。田桓子其家を分たんと欲す。以て晏子に告ぐ。晏子曰く、不可なり。君、法を(三)飾すること能はず。而して羣臣專制す。亂の本なり。今又其家を分ち、其貨を利せんと欲す。是れ(四)制に非ざるなり。子必ず之を(五)公に致せ。且つ嬰之を聞く、禁は政の本なり。讓は德の主なり。欒・高讓らず、以て此禍に至る、愼むこと毋かるべけんや。廉之を(六)公正と謂ひ、讓、之を保德と謂ふ。凡そ血氣ある者、皆爭心あり。怨利孽を生ず。

勝而出。田桓子欲分其家。以告晏子。晏子曰。不可。君不能飾法。而羣臣專制。亂之本也。今又欲分其家利其貨。是非制也。子必致之公。且嬰聞之。禁者政之本也。讓者德之主也。緣高不讓。以至此禍。可毋慎乎。廉之謂公正。讓之謂保德。凡有血氣者。皆有爭心。怨利生孼。維義可以爲長存。且分爭者不勝其禍。辭讓者不失其福。子必勿取。桓子曰。善。盡致之公。而請老于劇。

維だ義以て長存することを爲すべし。且つ分爭する者、其禍に勝たず。辭讓(七)する者、其福を失はず。子必ず取ること勿れと。桓子曰く、善しと。盡く之を公に致して、劇(八)に老いんと請へり。

(一)共に齊の卿大夫 (二)皇居の外門 (三)正しく張るをいふ (四)法也 (五)公室 (六)私欲なき也 (七)辭退して人に讓る也 (八)地名

[illegible]

慶氏亡。分其邑。與晏子邶殿其鄙六十。晏子勿受。子尾曰。富者人之所欲也。何

慶氏亡す。其邑を分ちて、晏子に、邶殿の其鄙(一)六十を與ふ。晏子受くること勿し。子尾(二)曰く、富者は人の欲する所なり。何ぞ獨り欲せざると。晏子對へて曰く、慶氏の邑、欲するところを足せり。故に亡せり。吾邑は欲するところを足さざるなり。之に益すに邶殿を以てせば、迺ち欲するところを足すなり。欲するとこ

獨不レ欲。晏子對曰。慶氏之邑足レ欲。故亡。吾邑不レ足レ欲也。益レ之以二邶殿一。迺足レ欲。足レ欲亡無レ日矣。在レ外不レ得レ宰二吾一邑一。不レ受二邶殿一。非レ惡レ富也。恐レ失レ富也。且夫富如二布帛之有一レ幅焉。爲二之制度一。使レ無レ遷也。夫生厚而用利。于レ是乎。正德以幅レ之。使レ無二黜慢一。謂二之幅利一。利過則爲レ敗。吾不二敢貪一レ多。所レ謂幅也。

ろを足せば、亡することと日なけん。外に在りて吾一邑を宰するを得ず。邶殿を受けざるは、富を惡むに非ざるなり。富を失はんことを恐れてなり。且つ夫れ富は、布帛の幅あるが如し。之が制度を爲し、遷るなからしむ。夫れ生厚くして用利す。是に于てか、正德以て之に幅し、黜慢なからしむ。之を幅利と謂ふ。利過ぐれば則ち敗を爲す。吾れ敢へて多くを貪らず。所謂幅なりと。

(一) 出奔するをいふ　(二) 田舍の領地　(三) はゞ、卽ち、ひろさ　(四) 生產を多くして、日用に便ずるなり

景公祿二晏子一。以二平陰與一レ藁邑一。反市者十一社。晏子辭曰。吾君好レ治二宮室一。民之力

景公、晏子を祿するに、平陰と藁邑とを以てす。反市する者十一社。晏子辭して曰く、吾君、宮室を治むるを好み、民の力弊る。又盤游翫好を好み、以て女子を飾る。民の財竭く。又師を興すを好む。民の死近し。其力を弊し、其財を竭し、其死を近づく。下の其上を疾むこと甚し。此れ嬰の爲に敢へて受けざる所な

弊矣。又好二盤游翫好一。以飾二女子一。民之財竭矣。又好レ興レ師。民之死近矣。弊二其力一。竭二其財一。近二其死一。下之疾二其上一。甚矣。此嬰之所三爲不二敢受一也。公曰。是則可矣。雖レ然君子獨不レ欲二富與レ貴乎。晏子曰。嬰聞。爲二人臣一者。先レ君後レ身。安レ國而度レ家。宗レ君而處レ身。曷爲獨不レ欲二富與レ貴也。公曰。然則曷以祿二夫子一。晏子對曰。君商漁鹽。關市譏而不レ征。耕者十取レ一焉。

りと。公曰く、是れ則ち可なり。然りと雖も、君子獨り富と貴とを欲せざらんやと。晏子曰く、嬰聞く、人臣たる者は、君を先にし身を後にし、國を安くして家を度り、君を宗びて身を處す。曷爲れぞ獨り富と貴とを欲せざらんやと。公曰く、然らば則ち曷を以て夫子を祿せんと。晏子對へて曰く、君の商(六)漁鹽(七)、關市譏(八)して(九)征せず。耕者十に一を取る。刑罰を弛くして、死せん若き者は刑し、刑せん若き者は罰し、罰せん若き者は免す。此三言の若くは、嬰の祿、君の利なりと。公曰く、此三言の者、寡人事なし。請ふ、以て夫子に從はんと。公既に若の三言を行ふ。人をして大國に問はしむ。大國の君曰く、齊安しと。人をして小國の君に問はしむれば、曰く、齊(一〇)我に加へずと。

(一) 反は販也、市をなして、物を販ぐ販なるもの　(二) 二十五家の組合　(三) 遊びありく也　(四) 無用のもてあそびもの　(五) 軍也　(六) 水産物又は鹽等を賣買するもの　(七) 關所と市場　(八) 檢査する也　(九) 税をとらずと也
(一〇) 侵略することなしと也

弛二刑罰一。若レ死者刑。若レ刑者罰。若レ罰者免。若二此三言一者。嬰之祿。君之利也。公曰。此三言者。寡人無レ事焉。請以從二夫子一。公既行二若三言一。使三人問二大國一。大國之君曰。齊安矣。使三人問二小國之君一。曰。齊不二我加一矣。

晏子相レ齊。三年政平民說。梁丘據見二晏子一。中食而肉不レ足。以告二景公一。旦日割レ地。將レ封二晏子一。晏子辭不レ受。曰。富而不レ驕者。未二嘗聞一レ之。貧而不レ恨者。嬰是也。所二以貧而不一レ恨者。以レ善爲レ師也。今封易二嬰之師一。師已輕。封已重矣。請辭

晏子、齊に相たり。三年にして政平にして民說ぶ。梁丘據、晏子に見ゆ。中食にして肉足らず。以て景公に告ぐ。旦日地を割き、將に晏子を封ぜんとす。晏子辭して受けず。曰く、富みて驕らざる者は、未だ嘗て之を聞かず。貧しうして恨みざる者は、嬰是れなり。貧くして恨みざる所以の者は、善を以て師と爲せばなり。今封じて嬰の師を易へば、師已に輕く、封已に重し。請ふ辭せんと。

㊀ 悅に同じ

晏子方レ食。景公使二使者至一。分レ食食レ之。使

晏子食に方りて、景公、使者をして至らしむ。食を分ちて之を食せしむ。使者飽かず。晏子も亦飽かず。使者反りて之を公に言ふ。公曰く、嘻。晏子の家、是

者不レ飽。晏子亦不レ飽。使者反言二之公一。公曰。嘻。晏子之家若レ是其貧也。寡人不レ知。是寡人之過也。使四吏致三千金與二市租一。請以奉二賓客一。晏子辭。三致レ之。終再拜而辭曰。嬰之家不レ貧。以二君之賜一。澤覆二三族一。延及二交遊一。以振二百姓一。君之賜也厚矣。嬰之家不レ貧也。嬰聞レ之。夫厚取二

の若く其れ貧なるか。寡人知らず。是れ寡人の過なりと。吏をして千金と市租(一)とを致さしむ。請ふ、以て賓客に奉ぜよと。晏子辭す。三たび之を致す。終に再拜して辭して曰く、嬰の家は貧ならず。君の賜を以て、澤、三族(二)を覆ひ、延いて交遊(三)に及び、以て百姓を振せり。君の賜や厚し。嬰の家は貧ならざるなり。嬰之を聞く、夫れ厚く之を君に取りて、之を民に施せば、是れ臣、君に代りて民に君たるなり。忠臣は爲さざるなり。厚く之を君に取りて、民に施さざるは、是れ筐篋(四)の藏を爲すなり。仁人爲さざるなり。進んで君に取り、退きて罪を士に得、身死して財、宅人に遷る、是を宰藏(五)と爲すなり。智者は爲さざるなりと。夫れ十總の布、一豆(六)の食、中に足らば免れんと。

(一) 市場より納むる税金 (二) 三つの親族、即ち、父及び父の兄弟、己れ及び己れの兄弟、子。一説に、父族・母族・妻族 (三) 朋友 (四) 筐は竹にてつくりたる四角のはこ。篋は、長方形のはこ (五) 藏をつかさどるもの、宰 (六) たかつきに似たる食器

之君。而施之民。是臣代君君民也。忠臣不為也。厚取之君。而不施於民。是為筐篋之藏也。仁人不為也。進取于君。退得罪于士。身死而財遷於宅人。是為宰藏也。智者不為也。夫十總之布。一豆之食。足於中免矣。

景公謂晏子曰。吾先君桓公。以書社五百封管仲。不辭而受。子辭之何也。晏子曰。嬰聞之。聖人千慮。必有一失。愚人千慮。必有一得。意者管仲之失。而嬰之得者耶。故再拜而不敢受命。

景公、晏子に謂つて曰く、吾先君桓公、書社(一)五百を以て管仲を封ぜしに、辭せずして受けたり。子之を辭するは何ぞやと。晏子曰く、嬰之を聞く、聖人千慮必ず一失(二)あり、愚人千慮必ず一得ありと。意者に管仲の失にして嬰の得なる者か。故に再拜して敢て命を受けずと。

(一) 支那周の制、一書社は、二十五家の地。二十五家を一里とし、これに一社をたて、その戸數と反別とを記したる帳簿を其社にをさむ　(二) 過失、あやまり

晏子相齊。衣十升之布。脫粟之食。五卵

晏子、齊に相たり。十升の布を衣、脫粟(一)の食、五卵苔菜のみ。左右以て公に告ぐ。公之が封邑を爲し、田無宇をして、臺(二)と無鹽とを致さしむ。晏子對へて曰く、

苔菜而已。左右以告ㇾ公。公爲ニ之封邑一。使四田無宇致三臺與ニ無鹽一。晏子對曰。昔吾先君太公。受ニ之營丘一。爲ㇾ地五百里。爲ニ世國長一。自ニ太公一至ニ於公之身一。有ニ數十公矣。苟能說ニ其君一以取ㇾ邑。不ㇾ至ニ公之身一。趣ㇾ齊搏以求ㇾ升。士不ㇾ得ニ容ㇾ足而寓一焉。嬰聞ㇾ之。臣有ㇾ德益ㇾ祿。無ㇾ德退ㇾ祿。惡有下不肖父爲ニ不肖子一。爲ニ封邑一以敗ニ其君之政一者上乎。遂不ㇾ受。

昔吾先君太公、之を營丘に受け、地を爲すこと五百里、世の國長と爲れり。太公より公の身に至るまで、數十公あり。苟も能く其君を說ばして以て邑を取らば、公の身に至らず。齊に趣き、搏ら以て升すことを求めば、士、足を容れて寓するを得ず。嬰之を聞く、臣に德あれば祿を益し、德なければ祿を退くと。惡ぞ不肖の父、不肖の子の爲に、封邑を爲して以て其君の政を敗る者あらんやと。遂に受けず。

(一) もみがらをとりたるのみのこめ、玄米 (二) 地名 (三) 地名 (四) 太公望呂尙

景公賜ニ晏子邑一。晏子辭。田桓子謂ニ晏子一曰。君歡然與ニ之邑一。必不ㇾ受。

景公、晏子に邑を賜ふ。晏子辭す。田桓子、晏子に謂つて曰く、君、歡然として之に邑を與ふ。必ず受けずして以て君をして恨みしむ。何ぞやと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、上に受くるを節する者は、(二)寵、君に長く、居處を儉にする者

以恨君。何也。晏子對曰。嬰聞之。節受于上者。寵長于君。儉居處者。名廣於外。夫長寵廣名。君子之事也。嬰獨庸能已乎。

は、名、外に廣ると。夫れ寵を長じ名も廣む。君子の事なり。嬰獨り庸ぞ能く已まんと。

(一) 君寵を長く受けることを得んと

景公欲更晏子之宅。曰。子之宅近市。湫隘囂塵。不可以居。請更諸爽塏者。晏子辭曰。君之先臣容焉。臣不足以嗣之。於臣侈矣。且小人近市。朝夕得所求。小人之利也。敢煩

景公、晏子の宅を更めんと欲す。曰く、子の宅、市に近し。湫隘囂塵、(一)以て居るべからず。請ふ、諸を爽塏(二)なる者に更めんと。晏子辭して曰く、君の先臣(三)容れられたり。臣以て之を嗣ぐに足らず。臣に於ては侈なり。且つ小人、市に近し、朝夕求むる所を得るは、小人の利なり。敢て里旅を煩さんやと。公笑ひて曰く、子、市に近ければ、貴賤を識るかと。對へて曰く、既に竊に之を利とす。敢て識らざらんやと。公曰く、何れか貴く何れか賤しきと。是の時や、公、刑を繁くして、踊を鬻ぐ者あり。(四)故に對へて曰く、踊は貴くして屨は賤しと。公、愀然として容を改む。公、是れが爲に刑を省けり。君子曰く、仁人の言、其利博きかな。

里旅。公笑曰。子近レ市。識二貴賤一乎。對曰。既竊利レ之。敢不レ識乎。公曰。何貴何賤。是時也。公繁二于刑一。有二鬻レ踊者一。故對曰。踊貴而屨賤。公愀然改レ容。公爲レ是省二于刑一。君子曰。仁人之言。其利博哉。晏子一言而齊侯省レ刑。詩曰。君子如祉。亂庶遄已。其是之謂乎。

晏子一言して、齊侯刑を省く。詩に曰く、(五)君子如し祉せば、(六)亂庶はくは遄に已まんとは、其れ是れの謂かと。

㊀狹く塵多くしてやかましきこと　㊁はれ〴〵としたる高き土地　㊂晏子の父をさす　㊃刑罰にて、足をきられたるものゝはくもの　㊄詩經小雅巧言篇の語　㊅王もし賢者の言を見て、喜んで之を用ひば、また亂すみやかにやむにちかゝらんと也

晏子使レ晉。景公更二其宅一。反則成矣。既拜廼毀レ之。而爲二里室一。皆如二其舊一。則使二宅人反一レ之。曰。諺曰。非二宅是卜一。維隣是卜。二三子先卜レ隣矣。

晏子、晉に使す。景公、其宅を更め、反りしときは則ち成れり。既に拜して廼ち之を毀ち、而して里室を爲る。皆其舊の如し。則ち宅人をして之に反らしむ。且つ諺に曰く、宅を是れ卜するに非ず。維だ隣を是れ卜すと。二三子先づ隣を卜す。卜に違ふは不祥なり。君子、非禮を犯さず、小人、不祥を犯さざるは、古への制なり。吾れ敢へて諸に違はんやと。卒に其舊宅を復せり。公、許さず。陳桓子に因りて以て請ふ。廼ち之を許せり。

違レト不祥。君子不レ犯ニ非禮一。小人不レ犯ニ不祥一。古之制也。吾敢違レ諸乎。卒復ニ其舊宅一。公弗レ許。因ニ陳桓子一以請。乃許レ之。

㊀家族

景公謂ニ晏子一曰。寡人欲ニ朝夕見一。爲ニ夫子一築ニ室於閨內一。可乎。晏子對曰。臣聞レ之。隱而顯、近而結。維至賢耳。如ニ臣者一。飾ニ其容止一。以待ニ承令一。猶恐ニ罪戾一也。今君近レ之。是遠レ之也。請辭。

景公、晏子に謂つて曰く、寡人朝夕に見んと欲す。夫子の爲に、室を閨內に築く、可ならんかと。晏子對へて曰く、臣之を聞く、(一)隱にして顯、(二)近にして結するは、維だ至賢のみと。臣が如きは、其容止を飾りて、以て承令を待つも、猶ほ罪戾を恐るゝなり。今君之に近づくは、是れ之を遠ざくるなり。請ふ、辭せんと。

㊀隱れてゐて、しかも其名のあらはるゝをいふ　㊁絶えず近づきてゐて、しかもその結びのゆるまざるをいふ

景公有ニ愛女一。請レ嫁ニ于晏子一。公乃往。燕ニ晏

景公、愛女あり。晏子に嫁せんと請ふ。公乃ち往きて、晏子の家に燕す。酒を飲みて酣なるに、公、其妻を見て曰く、此れ子の(一)內子かと。晏子對へて曰く、

子之家。飲レ酒酣。公見二其妻一曰。此子之内子耶。晏子對曰。然。是也。公曰。嘻。亦老且惡矣。寡人有レ女。少且姣。請以滿二夫子之宮一。晏子違レ席而對曰。乃此則老且惡。嬰與レ之居故矣。故及二其少而姣一也。且人固以レ壯託二乎老一。姣託二乎惡一。彼嘗託而嬰受レ之矣。君雖レ有レ賜。可四以使三嬰倍二其老一乎。再拜而辭。

然り。是れなりと。公曰く、嘻。亦老いて且つ惡し。寡人、女あり。少くして且つ姣し。請ふ、以て夫子の宮に滿てんと。晏子、席を違りて對へて曰く、乃ち此れ則ち老いて且つ惡し。嬰、之と居るが故なり。故より其の少くして姣しきに及ぶなり。且つ人固より壯を以て老に託し、姣を惡に託す。彼れ嘗て託して、嬰之を受く。君、賜(二)ありと雖も、以て嬰をして其老に倍かしむべけんやと。再拜して辭せり。

(一) 卿大夫の妻をいふ (二) 女を賜ふとも

晏子朝。乘二弊車一。駕二駑馬一。景公見レ之曰。嘻。夫子之祿寡耶。何乘レ不レ任

晏子朝す、弊車に乘り、駑馬を駕す。景公之を見て曰く、嘻。夫子の祿寡きか。何ぞ乘の任へざる甚しきと。晏子對へて曰く、君の賜に賴りて、以て三族を壽するを得、及び國の游士(一)皆生を得たり。臣、煖衣飽食するを得、弊車駑馬、以

之甚也。晏子對曰。賴二君之賜一。得三以壽二三族一。及國游士皆得レ生焉。臣得二煖衣飽食一。弊車駑馬以奉二其身一。於レ臣足矣。晏子出。公使三梁丘據遺二之輅車乘馬一。三返不レ受。公不レ悅。趣召二晏子一。晏子至。公曰。夫子不レ受。寡人亦不レ乘。晏子對曰。君使二臣臨二百官之吏一。臣節二其衣服飲食之養一。以先二國之民一。然猶恐二其侈靡而不一レ顧二其行一也。今輅車乘馬。君乘二之上一。而臣亦乘二之下一。民之無レ義。侈二其衣服飲食一。而不レ顧二其行一者。臣無二以禁一レ之。遂讓不レ受。

て其身を奉ぜば、臣に於て足れりと。晏子出づ。公、梁丘據をして、之に(二)輅車乘馬を遺らしむ。三返して受けず。公悅ばず。趣に晏子を召す。晏子至る。公曰く、夫子受けざれば、寡人も亦乘らずと。晏子對へて曰く、君、臣をして百官の吏に臨ましむ。臣、其衣服飲食の養を節して以て、國の民に先だつ。然れども猶ほ其の(三)侈靡にして、其行を顧みざらんことを恐る。今輅車乘馬、君之に上に乘り、而して臣も亦之に下に乘らば、民の義なき、其の衣服飲食を侈にして、其行を顧みざる者、臣以て之を禁ずること無からんと。遂に讓りて受けず。

(一)浪人也　(二)大車　(三)分に過ぎたるおごり

晏子相二景公一。

晏子、景公に相たり。(一)脫粟の食を食ひ、(二)三弋を炙る。五卵苔菜のみ。公之を聞

食二脱粟之食一。炙二三弋一。五卵苔菜耳矣。公聞レ之。往燕焉。睹二晏子之食一也。公曰。嘻。夫子之家。如レ此其貧乎。而寡人不レ知。寡人之罪也。晏子對曰。以二世之不一レ足也。脱粟之食。飽二士之一乞一也。炙二三弋一士之二乞也。五卵士之三乞也。嬰無レ倍二人之行一。而有二參士之食一。君之賜厚矣。嬰之家不レ貧。再拜而謝。

き、往きて燕す。晏子の食を睹るや、公曰く、嘻。夫子の家、此の如く其れ貧なるか。而も寡人の知らざりしは、寡人の罪なりと。晏子對へて曰く、世の足らざるを以てなり。脱粟の食は、士の一乞を飽かすなり。（二）三弋を炙るは、士の二乞なり。五卵に、士の三乞なり。嬰、人の行に倍することなくして、參士の食なり。君の賜厚し。嬰の家貧ならずと。再拜して謝せり。

㊀ もみがらを取りしのみ　㊁ 弋にて得しもの三　㊂ 三食に同じ

梁丘據謂二晏子一曰。吾至レ死不レ及二夫子一矣。晏子曰。嬰聞レ之。爲者常成。行者常至。嬰

梁丘據、晏子に謂つて曰く、吾れ死に至るまで、夫子に及ばずと。晏子曰く、嬰之を聞く、爲す者は常に成り、行ふ者は常に至ると。嬰は人より異なることあるに非ざるなり。常に爲して置かず、常に行ひて（一）休まざる者、故に及び難きなりと。

非レ有レ異二乎人一也。常爲而不レ置。常行而不レ休者。故難レ及也。

(一) 中止せず

晏子相二景公一。老辭レ邑。公曰。自二吾先君定公一至レ今。用レ世多矣。齊大夫未レ有二老辭レ邑者一矣。今夫子獨辭レ之。是毀二國之故一。棄二寡人一也。不可。晏子對曰。嬰聞。古之事レ君者。稱レ身而食。德厚而受レ祿。德薄則辭レ祿。德

晏子、景公に相たり。老して邑を辭す。公曰く、吾先君定公より、今に至りて世を用ふること多し。齊の大夫、未だ老して邑を辭する者あらず。今夫子獨り之を辭す。是れ國の故を毀り、寡人を棄つるなり。不可なりと。晏子對へて曰く、嬰聞く、古への君に事ふる(二)者は、身を稱りて食ふ。德厚くして祿を受く。德薄きときは則ち祿を辭す。德厚くして祿を受くるは、上を明にする所以なり。德薄くして祿を辭するは、以て下を潔にすべきなりと。嬰老いたり。薄くして能なし。而るに厚く祿を受く、是れ上の明を掩ひ、下の行を汚す。不可なりと。公許さずして曰く、昔吾先君桓公、管仲あり。齊國を恤勞せり。身老す。之を賞するに(三)三歸を以てし、澤、子孫に及べり。今夫子亦た寡人に相たり。夫子の三歸を爲し、

厚受ㇾ祿。所二以．明ㇾ上也。德薄辭ㇾ祿。可二以潔ㇾ下也。嬰老。薄無ㇾ能。而厚受ㇾ祿。是掩二上之明一。汚二下之行一。不可。公不ㇾ許。曰。昔吾先君桓公。有二管仲一。恤二勞齊國一。身老。賞ㇾ之以二三歸一。澤及二子孫一。今夫子亦相二寡人一。欲下爲二夫子三歸一澤至中子孫上。豈不ㇾ可哉。對曰。昔者管子事二桓公一。桓公義高二諸侯一。德備二百姓一。今嬰事ㇾ君也。國僅齊二於諸侯一。怨積二乎百姓一。嬰之罪多矣。而君欲ㇾ賞ㇾ之。豈以二其不肖父其不肖子一。厚受ㇾ賞以傷二國民義一哉。且夫德薄而祿厚。知惛而家富。是彰ㇾ汚而逆ㇾ教也。不可。公不ㇾ許。晏子出。異日朝。得ㇾ間而入ㇾ邑。致二車一乘一而後止。

澤、子孫に至らしめんと欲す。豈に可ならずやと。對へて曰く、昔者管子が桓公に事ふる、桓公義、諸侯に高く、德、百姓に備れり。今嬰が君に事ふるや、國僅に諸侯に齊しく、怨、百姓に積む。嬰の罪多し。而るに君之を賞せんと欲す。豈に其不肖の父と其不肖の子とを以て、厚く賞を受けて、以て國民の義を傷らんや、且つ夫れ德薄くして祿厚く、知惛くして家富むは、是れ汚を彰して敎に逆ふなり。不可なりと。公許さず。晏子出づ。異日朝す。間を得て邑を入れ、車一乘を致して後止む。

㊀ 先例　㊁ 三姓の女を娶ること

晏子病將レ死。其妻曰。夫子無レ欲レ言乎。子曰。吾恐二死而俗變一。謹視二爾家一。毋レ變二爾俗一也。

晏子病將レ死。鑿レ楹納レ書焉。謂二其妻一曰。楹語也。子壯而示レ之。及レ壯發。書之言曰。布帛不レ可レ窮。窮不レ可レ飾。牛馬不レ可レ窮。窮不レ可レ服。士不レ可レ窮。窮不レ可レ任。國不レ可レ窮。窮不レ可レ竊也。

晏子病んで將に死せんとす。其妻曰く、夫子言はんと欲することなきかと。子曰く、吾れ死して俗變せんことを恐る。(一)謹んで爾が家を視て、爾が俗を變ずること毋かれと。

(一) 風俗の變化すること

晏子病んで將に死せんとす。楹を鑿ちて書を納れて、其妻に謂つて曰く、楹の語や、子壯にして之を示せと。壯なるに及びて發す。書の言に曰く、布帛窮すべからず。(一)窮すれば飾るべからず。牛馬窮すべからず。窮すれば服すべからず。士は窮すべからず。窮すれば任ずべからず。國は窮すべからず。窮すれば竊すべからずと。(二)

(一) ゆつとりしすること　(二) 著なり、民の離散して聚する能はざるに至るをいふ

景公飲レ酒。數日而樂。釋二衣冠一。自鼓レ缶。謂二左右一曰。仁人亦樂レ是夫。梁丘據對曰。仁人之耳目亦猶レ人也。夫奚爲獨不レ樂レ此也。公曰。趣レ駕迎二晏子一。晏子朝以至。受レ觴再拜。公曰。寡人甚樂二此樂一。欲下與二夫子一共上

卷四
外篇

景公、酒を飲み、數日にして樂す。衣冠を釋て、自ら缶を鼓す。左右に謂つて曰く、仁人も亦た是を樂むかと。梁丘據對へて曰く、仁人(一)の耳目も亦た猶ほ人のごときなり。夫れ奚爲れぞ獨り此を樂まざらんと。公曰く、駕を趣して晏子を迎へよと。晏子朝して以て至る。觴を受けて再拜す。公曰く、寡人甚だ此樂を樂む。夫子と之を共にせんと欲す。請ふ、禮(二)を去れと。晏子對へて曰く、君の言過てり。羣臣皆禮を去りて以て君に事へんと欲せば、嬰は君子の欲せざらんを恐るゝなり。今齊國(三)五尺の童子、力皆嬰に過ぐ、又能く君に勝つ。然れども敢へて亂せざる者は、禮義を畏れてなり。上若し禮なくば、以て其下を使ふこと無く、下若し禮なくば、以て其上に事ふるなし。夫れ麋鹿(四)は、維だ禮なし。故に父

之。請去禮。晏子對曰。君之言過矣。羣臣皆欲去禮以事君。嬰恐君子之不欲也。今齊國五尺之童子。力皆過嬰。又能勝君。然而不敢亂者。畏禮義也。上若無禮。無以使其下。下若無禮。無以事其上。夫麋鹿維無禮。故父子同麀。人之所貴於禽獸者。以有禮也。嬰聞之。

子、麀を同じうす。人の禽獸より貴き所の者は、禮あるを以てなり。嬰之を聞く、人君禮なくば、以て其邦に臨むことなく、大夫禮なくば、官吏恭ならず。父子禮なくば、其家必ず凶なり。兄弟禮なくば、久しく同じきこと能はずと。(五)詩に曰く、(六)人として禮なくんば、胡ぞ遄に死せざると。故に禮は去るべからざるなりと。公曰く、寡人不敏、無良の左右、寡人を(七)淫蠱して、以て此に至る。請ふ、之を殺さんと。晏子曰く、左右何の罪ぞ。君若し禮なくんば、則ち禮を好む者去り、禮なき者至らん。君若し禮を好まば、則ち禮ある者至り、禮なき者去らんと。公曰く、善し。請ふ、衣を易へ冠を革め、更に命を(八)受けんと。晏子避けて走り、門外に立つ。公、人をして(九)糞灑して、席を改めしめ、衣冠を召して、以て晏子を迎ふ。晏子門に入り、三讓して階に升り、(一〇)三獻を用ふ。酒を嚌み膳を嘗め、再拜して饜くことを告げて出づ。公、下拜して之を門に送り、反りて、酒を(一一)撤し樂を去れと命じて曰く、吾れ以て晏子の教を彰さんと。

人君無レ禮。無ニ以臨ニ其邦一。大夫無レ禮。官吏不レ恭。父子無レ禮。其家必凶。兄弟無レ禮。不レ能ニ久同一。詩曰。人而無レ禮。胡不ニ遄死一。故禮不レ可レ去也。公曰。寡人不敏。無良左右。淫ニ蠱寡人一。以至ニ于此一。請殺レ之。晏子曰。左右何罪。君若無レ禮。則好レ禮者去。無レ禮者至。君若好レ禮。則有レ禮者至。無レ禮者去。公曰。善。請易レ衣革レ冠。更受レ命。晏子避走。立ニ乎門外一。公令ニ人糞灑改レ席。召ニ衣冠一。以迎ニ晏子一。晏子入レ門。三讓升レ階。用ニ三獻一焉。嗛レ酒嘗レ膳。再拜告レ饜而出。公下拜送ニ之門一。反命ニ撤レ酒去レ樂曰。吾以彰ニ晏子之教一也。

(一) はとぎ、酒を盛る、口すぼみの腹大なるかめ。宴會の時、之を打ちて歌の調子をとる (二) 君臣の禮を去り、無禮講にせよと也 (三) 十二三歳の童子、一尺は二歳半也 (四) となかい。鹿の一種 (五) 詩經國風鄘風篇 (六) 人として禮なきはこれ人たるの價値なきものなり、何ぞすみやかに死せずして、空しく世にながらふぞと也 (七) 亂し惑はす也 (八) 教也 (九) 拂ひそゝぎて掃除する也。糞は、拂也 (一〇) 獻は、人に酒をすゝめてさす杯の度數にて、三杯也 (一一) 撤の誤か

景公疥遂痁。期而不レ瘳。諸侯之賓。問レ疾者多在。梁丘據。裔欵言ニ於公一曰。吾事ニ鬼

景公の疥遂に痁なり。期にして瘳えず。諸侯の賓、疾を問ふ者多く在り。梁丘據・裔欵、(一)(二)公に言ひて曰く、吾れ鬼神に事ふること豊にして、先君に于いて加ふりあり。今君疾病して、諸侯の憂を爲す。是れ祝史(三)の罪なり。諸侯知らずして、其れ我を不敬なりと謂はん。君盍ぞ祝固・史嚚を誅して、以て賓に辭せざる

神一豐。于二先君一有レ加矣。今君疾病爲二諸侯憂一。是祝史之罪也。諸侯不レ知。其謂二我不敬一。君盍下誅二于祝固史嚚一。以辭上賓。公說告二晏子一。晏子對曰。日宋之盟。屈建問二范會之德於趙武一。趙武曰。夫子家事治。言二于晉國一竭レ情無レ私。其祝史祭祀。陳レ言不レ愧。其家事無レ猜。其祝史不レ祈。

と。公說びて晏子に告ぐ。晏子對へて曰く、日に宋の盟に、屈建、范會の德を趙武に問ふ。趙武曰く、夫子、家事治り、晉國(四)に言ふこと、情を竭して私なし。其祝史の祭祀には、言を陳ぶること愧ぢず。其家事に(五)猜なく、其祝史祈らずと。建以て康王に語ぐ。康王曰く、神人怨なし。宜なり、夫子の五君を光輔(六)して、以て(七)諸主たることと。公曰く、據と欵と、寡人に謂ふ、能く鬼神に事ふと。故に祝史を誅せんと欲す。子、是語を稱するは何故ぞと。對へて曰く、若し有德の君、外內廢せず。上下怨なく、動きて事に違ふことなし。其祝史信を薦めて、心に愧づることなし。是の以に、鬼神用て饗し、國其福を受く。祝史與る。其の蕃祉(八)老壽なる所以の者は、信君(九)の爲に使はるればなり。其言、鬼神に忠信なればなり。其れ適ま淫君に遇はば、外內頗邪、上下怨疾、動作辟違、欲を從にし私に厭き、臺を高くし池を深くし、鐘を撞き女を舞はし、民力を斬刈し、其聚を輸掠して、以て其違を成し、後人を恤へず、暴虐淫縱、肆に非度を行

建以語康王。康王曰。神人無怨。宜夫子之光輔五君。以爲諸主也。公曰。據與款謂寡人。能事鬼神。故欲誅于祝史。子稱是語。何故。對曰。若有德之君。外内不廢。

ひ、還忌する所なく、謗讟(一一)を思はず、鬼神を憚らず、神怒り民痛めども、心に悛(一〇)むることなし。其祝史、信を薦むれば、是れ罪を言ふなり。其の失を蓋ひ美を數ふれば、是れ矯誣(一二)なり。進退、辭なければ、則ち虛(一三)以て媚(一四)を成す。是の以に鬼神饗せず、其國以て之に禍し、祝史與る。

(一) おこり、瘧 (二) おこりの間日なく發するもの (三) かんぬし、祈禱を司る官吏 (四) 往者也、曩也 (五) 恨み惡むこと (六) 大きく立派に輔くる也 (七) 覇王たるをいふ (八) 福多く長命なるをいふ (九) 信ある君の意也 (一〇) かへりみてつゝしむ也 (一一) 謗に同じ、そしり (一二) いつはりしふる意 (一三) 虛言也 (一四) 神に媚ぶる

上下無怨。動無違事。其祝史薦信。無愧心矣。是以鬼神用饗。國受其福。祝史與焉。其所以蕃祉老壽者。爲信君使也。其言忠信於鬼神。其適遇淫君。外内頗邪。上下怨疾。動作辟違。從欲厭私。高臺深池。撞鐘舞女。斬刈民力。輸掠其聚。以成其違。不恤後人。暴虐淫縱。肆行非度。無所還忌。不思謗讟。不憚鬼神。神怒民痛。無悛於心。其祝史薦信。是言罪也。其蓋失數美。是矯誣也。進退無辭。則虛以成媚。是以鬼神不饗。其國以禍之。祝史與焉。

所以天昏孤

天昏孤疾する所以の者は、暴君の爲に使はるればなり。其言、鬼神の僭嫚すれ

疾一者。爲二暴君一使也。其言僭二嫚于鬼神一。公曰。然則若レ之何。對曰。不レ可レ爲也。山林之木。衡鹿守レ之。澤之萑蒲。舟鮫守レ之。藪之薪蒸。虞侯守レ之。海之鹽蜃。祈望守レ之。縣鄙之人。入從二其政一。偪介之關。暴二征其私一。承嗣大夫。彊易二其賄一。布レ常無レ藝。徵斂無レ度。宮室日更。淫樂不レ違。內

ばなりと。公曰く、然らば則ち之を若何せんと。對へて曰く、爲すべからざるなり、山林の木は、衡鹿(一)之を守り、澤の萑蒲(二)は、舟鮫(三)之を守り、藪の薪蒸は、虞侯(四)之を守り、海の鹽蜃は、祈望(五)之を守る。縣鄙の人、入りて其政に從へば、偪介の關、其私を(六)暴征し、承嗣の大夫、強ひて其賄を易ふ。常を布くこと藝(七)なく、徵斂度なく、宮室日に更り、淫樂違はず。內寵の妾、肆に市に奪ひ、外寵の臣、令を鄙に僭し、私欲養求、給せざれば則ち應ず。民人苦病し、夫婦皆詛ふ。祝、益あらば、詛も亦た損あらん。聊攝以東、姑尤以西、其の人たるや多し。其善祝と雖も、豈に能く億兆人の詛に勝たんや。君若し祝史を誅せんと欲せば、德を修めて後に可なりと。公說び、有司をして政を寬にし、關を毀ち禁を去り、斂を薄くし責を已めしむ。公の疾愈えたり。

(一)山林を司る役人　(二)荻の十分に成長したるもの　(三)澤を司る官　(四)山藪を司る官　(五)海を司る官　(六)私腹を充たすために税をとるをいふ　(七)法令を布くに一定の標準なく

寵之妾。肆奪于市。外寵之臣。僭令於鄙。私欲養求。不給則應。民人苦病。夫婦皆詛。祝有益也。詛亦有損。聊攝以東。姑尤以西。其爲人也。多矣。雖其善祝。豈能勝億兆人之詛。君若欲誅於祝史。修德而後可。公說。使有司寬政。毀關去禁。薄斂已責。公疾愈。

景公飲酒樂。公曰。古而無死。其樂若何。晏子對曰。古而無死。則古之樂也。君何得焉。昔爽鳩氏。始居此地。季萴因之。有逢伯陵因之。蒲姑氏因之。而後太公因之。古若無死。爽鳩氏之樂。非君所願也。

景公、酒を飲みて樂む。公曰く、古へよりして死なくんば、其樂若何と。晏子對へて曰く、古へよりして死なくんば、則ち古への樂や、（一）君何ぞ得ん。昔爽鳩氏、始めて此地に居り、季萴之に因り、有逢伯陵之に因り、蒲姑氏之に因り、而して後太公（二）之に因れり。古へ若し死なくんば、爽鳩氏の樂は、君の願ふ所に非ざるなりと。

㊀君何ぞ之に與るを得ん、樂は古人の獨占に歸すべしと也　㊁公望呂尚

景公至自畋。晏子侍於遄臺。梁丘據造焉。公曰。維據與我和夫。晏

景公、畋（一）より至る。晏子、遄臺（二）に侍す。梁丘據造る。公曰く、維だ據と我と和するかなと。晏子對へて曰く、據も亦た同（三）なり。焉ぞ和たるを得んと。公曰く、和と同と異なるかと。對へて曰く、異なり。和は羹の如し。水火醯醢鹽梅、以て

子對曰。據亦同也。焉得爲和。公曰。和與同異乎。對曰。異。和如羹焉。水火醯醢鹽梅。以烹魚肉。燀之以薪。宰夫和之。齊之以味。濟其不及。以洩其過。君子食之。以平其心。君臣亦然。君所謂可。而有否焉。臣獻其否。以成其可。君所謂否。而有可焉。臣獻其可。以去其否。是

魚肉を烹る。之を燀ぐに薪に以てし、宰夫之を和す。之を齊するに味を以てして其不及を濟し、以て其過ぎたるを洩す。君子之を食ひて、以て其心を平にす。君臣も亦た然り。君の可と謂ふ所にして、而も否あれば、臣其否を獻じて以て其可を成す。君の否と謂ふ所にして可あれば、臣其可を獻じて以て其否を去る。是の以に政平しくして干さず、民に爭心なし。故に詩に曰く、(四)亦た和へる羹あり、(五)既に戒め且つ平げり。奏め鬷めて言ふことなし。時に爭あること靡しと。先王の五味を濟すは、(六)五聲を和するなり。以て其心を平げ、其政を成すなり。聲も亦た味の如し。一氣、二體、三類、四物、五聲、六律、七音、八風、九歌以て相成すなり。(七)清濁小大、(八)短長疾徐、哀樂剛柔、遲速高下、出入周流して、以て相濟すなり。君子之を聽きて、以て其心を平け、心平に徳和す。故に詩に曰く、徳音瑕しからずと。今據は然らず。君の可と謂ふ所にして、據も亦た可と曰ひ、君の否と謂ふ所にして、據も亦た否と曰ふ。水を以て水を濟すが若し。誰れか能く之を

以政平而不ㇾ干。民無ニ爭心一。故詩曰。亦有ニ和羹一。既戒且平。奏鬷無ㇾ言。時靡ㇾ有ㇾ爭。先王之濟ニ五味一。和ニ五聲一也。以平ニ其心一。成ニ其政一也。聲亦如ㇾ味。一氣。二體。三類。四物。五聲。六律。七音八風。九歌以相成也。淸濁小大。短長疾徐。哀樂剛柔。遲速高下。出入周流。以相濟也。君子聽ㇾ之。以平ニ其心一。心平德和。故詩曰。德音不ㇾ瑕。今據不ㇾ然。君所ㇾ謂可。據亦曰ㇾ可。君所ㇾ謂ㇾ否。據亦曰ㇾ否。若ニ以ㇾ水濟ㇾ水。誰能食ㇾ之。若ニ琴瑟之專一一。誰能聽ㇾ之。同之不可也。如ㇾ是。公曰。善。

食はん。琴瑟の專一なるが若し。誰れか能く之を聽かん。同の不可なる是の如しと。公曰く、善しと。

(一) 狩獵也 (二) 地名 (三) 雷同するのみにて、心よりして和合せざるをいふ (四) 詩經商頌烈祖篇 (五) 和は五味をとゝのへたるもの、戒めは、此羹を調ずるに、豫めつゝしむ也。平げりは、よく煮てとゝのへたるをいふ。鬷は、奏也、すゝむるをいふ。即ち、羹を進め致して、禮儀をとり行ふ時、肅敬して物言ふこともなく、われがちにして人と爭ふこともなしと也 (六) 五音にて、宮商角徵羽也 (七) 陰陽に分れぬ元の氣 (八) 陰陽 (九) 五音に、半徵と中間二音を加へたるもの (一〇) 八方の風 (一一) 禹の九功の歌 (一二) 詩經國風豳風篇 (一三) 周公の心事、光明正大なるが故に、公の名譽に於ては終始少しもきずつく所なし。よりてやましからずと也

齊有ニ彗星一。景公使ニ祝禳ㇾ之。晏子諫曰。無ㇾ

齊に彗星あり。景公、祝をして之を禳はしむ。(一)晏子諫めて曰く、益なきなり。秖に誣を取らんのみ。(二)天道は謟せず。其命を貳にせず。若之何して之を禳はん。

益也。祗取ㇾ誣焉。天道不ㇾ諂。不ㇾ貳二其命一。若之何禳ㇾ之也。且天有ㇾ彗。以除二穢德一也。君無二穢德一。又何禳焉。若德之穢。禳ㇾ之何損。詩云。維此文王。小心翼翼。昭事二上帝一。聿懷二多福一。厥德不ㇾ回。以受二方國一。君無ㇾ違ㇾ德。方國將ㇾ至。何患二于彗一。詩曰。我無ㇾ所ㇾ監。夏后及商。用二亂之故一。民卒流亡。若德之回亂。民將二流亡一。祝史之爲。無二能補一也。公說乃止。

且つ天に彗あるは、以て穢德を除するなり。君に穢德なくんば、又何をか禳はん。若し德の穢あらば、之を禳ふとも何ぞ損せん。(三)詩に云ふ、維れ此の文王、小心翼翼、昭に上帝に事へ、聿れ多福を懷せり。(四)厥德回ならず。以て方國を受けたりと。君、德に違ふことなくんば、方國將に至らんとす。何ぞ彗を患へん。(五)詩に曰く、我れ監みる所なし。夏后及び商、亂の故を用て、民卒に流亡すと。若し德の回亂には、民將に流亡せんとす。祝史の爲すこと、能く補するなしと。公說びて乃ち止む。

(一) 祈りてはらふ也 (二) 天道は信ずべきなりと也 (三) 詩經大雅大明篇の語 (四) 小心は、心を收めて放たざる也。翼翼は、敬ひ愼む也。懷は來しうけたりと也。方國は、四方の國。卽ち四方の國の歸服をうけたりと也 (五) 逸詩

景公賞賜及二後宮一。文繡被二臺榭一。菽粟食二鳧鴈一。出而見レ殣。謂二晏子一曰。此何爲而死。晏子對曰。此餧而死。公曰。嘻。寡人之無レ德也甚矣。對曰。君之德著而彰。何爲無レ德也。景公曰。何謂也。對曰。君之德。及三後宮與二臺榭一。君之玩狗。衣以二文繡一。君之鳧鴈。食以二菽粟一。君之營レ內自

景公の賞賜、後宮に及ぶ。文繡、臺榭に被し、菽粟、鳧鴈に食ふ。出でて殣（一）を見る。晏子に謂つて曰く、此れ何の爲にして死せると。晏子對へて曰く、此れ餧ゑて死せりと、公曰く、嘻。寡人の德なきこと甚しと。對へて曰く、君の德、著にして彰、何すれぞ德なからんや。景公曰く、何の謂ぞや。對へて曰く、君の德、後宮と臺榭とに及べり。君の玩狗、衣するに文繡を以てし、君の鳧鴈、食ふに菽粟を以てせり。君の、內を營みて自ら樂むや、延いて從宮の族に及ぶ。何爲れぞ其れ德なからん。願ふに臣願はくは、君に請ふことあらん。君の意の、自ら樂むの心より、推して百姓と之を同じくせば、則ち何の殣か之れ有らん。君此を推さずして、苟（二）も內を營み私を好み、財貨をして、衝（三）して聚る所あり、菽粟幣帛（四）囷府に腐らしめ、惠遍く百姓に加はらず、公の心、萬國に周からざるときは、則ち桀紂の亡せる所以なり。夫れ士民の叛く所以は、之を（五）遍するに由るなり。君如し臣嬰の言を察し、君の盛德を推して、之を天下に公布せば、則ち湯・武も爲すべし。一殣何ぞ恤ふるに足らんや。

樂。延及二後宮之族一。何爲其無ㇾ德。願臣願有ㇾ請二于君一。由二君之意自樂之心一。推而與二百姓一同ㇾ之。則何殣之有。君不ㇾ推ㇾ此。而苟營ㇾ內好ㇾ私。使下財貨偏有ㇾ所ㇾ聚。菽粟幣帛。腐中於囷府上。惠不三遍加二于百姓一。公心不ㇾ周二乎萬國一。則桀紂之所二以亡一也。夫士民之所二以叛一。由ㇾ遍ㇾ之也。君如察二臣嬰之言一。推二君之盛德一。公二布之于天下一。則湯武可ㇾ爲。一殣何足ㇾ恤哉。

㊀餓死者　㊁その心をおしひろむる也　㊂一方にかたよりあつまるをいふ　㊃囷は、圓形の米ぐら。府はたからぐら　㊄偏か、かたよる也。或は原本「由ㇾ不ㇾ遍ㇾ之也」の誤か

景公好ㇾ弋。使二燭鄒主一ㇾ鳥。而亡ㇾ之。公怒。詔ㇾ吏殺ㇾ之。晏子曰。燭鄒有二罪三一。請數ㇾ之以二其罪一。而殺ㇾ之。公曰。可。於ㇾ是召而數二之公前一曰。燭鄒。汝爲二吾君一。主ㇾ鳥而亡ㇾ之。是罪

景公、弋を好み、燭鄒をして鳥を主らしめたり。而して之を亡せり。公怒り、吏に詔して之を殺さしむ。晏子曰く、燭鄒、罪三あり。請ふ、之を數むるに其罪を以てして之を殺さんと。公曰く、可と。是に於て召して之を公の前に數めて曰く、燭鄒、汝、吾君の爲に、鳥を主りて之を亡せり。是れ罪一なり。吾君をして、鳥の故を以て人を殺さしむ。是れ罪二なり。諸侯をして之を聞かしめば、吾君、鳥を重んじて以て士を輕んずと以はん。是れ罪三なりと。燭鄒が罪を數むること已に畢る。之を殺さんと請ふ。公曰く、殺すこと勿れ。寡人、命を

一也。使下吾君以二鳥之故一殺上レ人。是罪二也。使三諸侯聞二之。以二吾君重レ鳥以輕一レ士。是罪三也。數二燭鄒罪一已畢。請レ殺レ之。公曰。勿レ殺。寡人聞レ命矣。

聞けりと。

(一) いぐるみを放ちて鳥をとること

景公登二寗室一。而望見。人有下斷二雍門之橚一者上。公令二吏拘一レ之。顧謂二晏子一。趣誅レ之。晏子默然。不レ對。公曰。雍門之橚。寡人所二甚愛一也。此見レ斷レ之。故使二夫子誅一レ之。默然而不レ應何也。晏子

景公、寗室に登りて望見す。人、雍門の橚を斷つ者あり。公、吏をして之を拘へしむ。顧みて晏子に謂ふ、趣に之を誅せよと。晏子默然として對へず。公曰く、雍門の橚は、寡人が甚だ愛する所なり。此れ之を斷たる。故に夫子をして之を誅せしめんとせしに、默然として應へざるは何ぞやと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、古者人君、出づるときは則ち道を闢くこと十里、畏るゝに非ざるなり。冕前に旒(一)あり、見る所多きを惡むなり。(二)纊紘(三)琉耳は、聞く所多きを惡むなり。大帶重さ半鈞、(四)舃履重さを倍するは、輕を欲せざるなり。刑死の罪、日中の朝、君之を過ぐれば則ち之を赦すと。嬰未だ嘗て人君と爲りて、自ら其民に坐する者を

對曰。嬰聞レ之。古者人君。出則闢レ道十里。非レ畏也。冕前有レ旒。惡レ多レ所レ見也。纊紘琉耳。惡レ多レ所レ聞也。大帶重半鈞。履倍レ重。不レ欲レ輕也。刑死之罪日中之朝。君過レ之則赦レ之。嬰未下嘗聞中爲二人君一。而自坐二其民一者上也。公曰。赦レ之。無レ使二夫子復言一。

聞かざるなりと。公曰く、之を赦せ。夫子をして復た言はしむるなかれと。

㈠冕の前後に垂れたる玉のかざり ㈡綿を入れたる冠のひも ㈢耳をおほふ玉飾 ㈣二重底の重きくつ

景公築二長庲之臺一。晏子侍坐。觴三行。晏子起舞曰。歲已暮矣。而禾不レ穫。忽忽矣。若之何。歲已寒矣。而役不レ罷。惙惙矣。如之何。舞二而涕下沾レ襟。景公慚而爲レ之罷二長庲之役一。

景公、長庲の臺を築く。晏子侍坐す。觴三行、晏子起ちて舞ひて曰く、歲已に暮る。而も禾穫ず。忽忽たり。若之何せん。歲已に寒し。而も役罷まず。惙惙たり。如之何せんと。舞ふこと二たびにして涕下り襟を沾す。景公慚ぢて、之が爲に長庲の役を罷めたり。

㈠ぼんやりとしてゐるさま ㈡うれへかなしむさま

景公與二晏子一。

景公、晏子と曲横の上に立ち、齊國を望見し、晏子に問ひて曰く、後世孰れ

立二曲横之上一。望二見齊國一。問二晏子一曰。後世孰將レ踐二有齊國一者乎。晏子對曰。非三賤臣之所二敢議一也。公曰。胡必然也。得者無レ失。則虞夏常存矣。晏子對曰。臣聞。見レ不レ足。以知レ之者智也。先言而後當者惠也。夫智與レ惠。君子之事。臣奚足二以知レ之乎。雖レ然臣請陳二其爲政一。君强臣

か將に齊國を踐有せんとする者ぞと。晏子對へて曰く、賤臣の敢て議する所に非ざるなりと。公曰く、胡ぞ必ずしも然らん。得しもの失ふこと無きときは、則ち虞・夏常に存せんと。晏子對へて曰く、臣聞く、足らざるを見、以て之を知る者は智なり。先づ言ひて後に當る者は惠なりと。夫れ智と惠とは君子の事、臣奚ぞ以て之を知るに足らんや。然りと雖も、臣請ふ、其爲政を陳べん。君强く臣弱きは、政の本なり。君唱へ臣和するは、教の隆なり。刑罰の君に在るは、民の紀なり。今夫れ田無宇二世、國に功あり。而も利取すれば寡に分ち、公室は之を兼ね、國權之を專にするは、君臣施を易ふ。能く衰ふる無からんや。嬰之を聞く、臣富めば主亡ぶと。是に由りて之を觀れば、其れ無宇の後か。何も無く齊國は田氏の國ならん。嬰老いて公の事を待つこと能はず。公若し世に卽かば、政、公室に在らざらんと。公曰く、然らば則ち奈何と。晏子對へて曰く、維だ禮以て之を已むべし。其の禮に在りては、家施、國に及ばず。民懈らず。貨移らず。工賈

弱。政之本也。君唱臣和。敎之隆也。刑罰在君。民之紀也。今夫田無宇二世有功于國。而利取分寡。公室兼之。國權專之。君臣易施。能無衰乎。嬰聞之。臣富主亡。由是觀之。其無宇之後。無何齊國田氏之國也。嬰老不能待公之事。公若卽世。政不在公室。公曰。然則奈何。晏子對曰。維禮可以已之。其在禮也。家施不及國。民不解。貨不移。工賈不變。士不濫。官不謟。大夫不收公利。公曰。善。今知禮之可以爲國也。對曰。禮之可以爲國也久矣。與天地並立。君令臣忠。父慈子孝。兄愛弟敬。夫和妻柔。姑慈婦聽。禮之經也。君令而不違。臣忠而不二。父慈而敎。子孝而箴。兄愛而友。弟敬而順。夫和而義。妻柔而貞。姑慈而從。婦聽而婉。禮之質也。公曰。善哉。寡

變ぜず。士濫せず。官謟せず。大夫公利を收めずと(三)。公曰く、善し。今禮の以て國を爲むべきを知るなりと。對へて曰く、禮の以て國を爲むべきこと久し。天地と並び立つ。君令し臣忠に、父慈に子孝に、兄愛に弟敬に、夫和し妻柔に、姑慈に婦聽するは、禮の經なり。君令して違はず、臣忠にして二ならず、父慈にして敎、子孝にして箴し、兄愛して友に、弟敬して順に、夫和して義に、妻柔にして貞に、姑慈にして從に、婦聽して婉なるは、禮の質なりと。公曰く、善いかな。寡人迺ち今禮の尙きを知れりと。晏子曰く、夫れ禮は、先王の天下に臨む所以なり。以て其民を爲む。是の故に之を尙ぶと。

(一) 智のさときものなりと也　(二) 子孫也　(三) 官物を私せずと也

人迺今知二禮之尙一也。晏子曰。夫禮先王之所三以臨二天下一也。以爲二其民一。是故尙レ之。

景公宿二於露寢之宮一。夜分聞三西方有二男子哭者一。公悲レ之。明日朝問二於晏子一曰。寡人夜者聞三西方有二男子哭者一。聲甚哀。氣甚悲。是奚爲者也。寡人哀レ之。晏子對曰。西郭徒居。布衣之士。盆成适也。父之孝子。兄之順弟也。又嘗爲二孔子門人一。今其

景公、露寢の宮に宿す。夜分、西方に男子の哭する者あるを聞き、公之を悲む。明日朝にして晏子に問ひて曰く、寡人、夜者西方に男子の哭する者あるを聞く。聲甚だ哀しく氣甚だ悲む。是れ奚爲る者ぞ。寡人之を哀むと。晏子對へて曰く、西郭に徒居する、(一)布衣の士盆成适なり。父の孝子、兄の順弟なり。又嘗て孔子の門人と爲れり。今其母不幸にして死せり。(二)祔柩未だ葬らず。家貧に身孝に子稱(三)なり。力、合晏することを能はざるを恐る。是の以に悲めりと。公曰く、子、寡人の爲に之を弔し、因りて其(四)偏祔の何れの所に在るかを問へと。晏子、命を奉じて往きて弔す。而して偏の在る所を問ふ。盆成适、再拜稽首して起たず。曰く、偏祔(五)、路寢に寄す、地下の臣と爲り、札を擁し筆を摻(六)りて、宮殿中右階の下に給事するを得ん。某日を以て送らんことを願ふ。未だ君の意を得ざるなり。窮困して以て之を圖ること無し。布脣枯舌、焦心熱中す。今君、辱とせずし

母不幸而死。祔柩未葬。家貧身老子孺。恐力不能合祔。是以悲也。公曰。子爲寡人弔之。因問其偏祔何所在。晏子奉命往弔。而問偏之所在。盆成适再拜稽首而不起。曰。偏祔寄于路寢。得爲地下之臣。擁札摻筆。給事宮殿中右階之下。願以某日送未得君之意也。窮困無以圖之。布唇枯舌。焦心熱中。今君不辭而臨之。願君圖之。晏子曰。然此人甚重者也。而恐君不許也。盆成适蹶然曰。凡在君耳。且臣聞之。越王好勇。其民輕死。楚靈王好細腰。其朝多餓死人。子胥忠其君。故天下皆願得以爲子。今爲人子臣。而離散其親戚。孝乎哉。足以爲臣乎。

て之に臨む。願はくは君之を圖れと。晏子曰く、然らば此れ人の甚だ重き者なり、而れども恐らくは君許さじと。盆成适蹶然として曰く、凡べて君に在るのみ。且つ臣之を聞く、越王勇を好んで其民死を輕んじ、楚の靈王、細腰を好んで、其朝に餓死の人多し。子胥其君に忠なり。故に天下皆得て以て子と爲さんことを願へり。今人の子臣となりて、其親戚を離散せば、孝ならんや。以て臣と爲すに足らんや。

㈠無位無官の人、庶人は老人にあらざれば絹布を着ぬよりいふ ㈡母の柩を父のに合して祭るをいふ ㈢孤也 ㈣父の木主也 ㈤君主の正殿 ㈥執也 ㈦腰の細き美人

若此而得レ祔。是生レ臣而安二死母一也。若此而不レ得。則臣請輓二尸車一。而寄二之於國門外。宇溜之下一。身不二敢飲食一。擁レ轅執レ輅。木乾鳥栖。袒レ肉暴レ骸。以望二君愍一レ之。賤臣雖レ愚、竊意。明君哀而不レ忍也。晏子入復二乎公一。公忿然作レ色而怒曰。子何必患二若言一。而教二寡人一乎。晏子對曰。嬰

若し此にして祔することを得ば、是れ臣を生かして死母を安んずるなり。若し此にして得ずんば、則ち臣請ふ、尸車を輓して、之を國門の外、宇溜(一)の下に寄せん。身敢へて飲食せず、轅を擁し輅を執り、木乾鳥栖(二)し、肉を袒し骸を暴し、以て君の之を愍むを望まん。賤臣愚なりと雖も、竊に意ふ、明君哀んで忍びずと。晏子入りて公に復す。公、忿然として色を作して怒りて曰く、子何ぞ必ずしも若きの言を患へて、寡人に敎ふるかと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、忠は危を避けず、(三)愛は惡言なしと。且つ嬰固より以て之を難んず。今君、營處して游觀を爲し、既に人の有を奪ひ、又其葬を禁ぜば、仁に非ざるなり。心を肆にし聽を傲らし、民の憂を恤へずんば、義に非ざるなり。若何ぞ聽くこと勿らんと。因りて盆成适の辭を道ふ。公喟然として大息して曰く、悲しいかな。子復た言ふこと勿れと。迺ち男子の(四)袒免し、女子の髮笄する者、百數を以て、爲に凶門(五)を開きて、以て盆成适を迎へしむ。适、(六)衰絰を脫し、條纓を冠し、墨緣して以て公

聞レ之。忠不レ避レ危。愛無二惡言一。且嬰固以難レ之矣。今君嘗處爲二游觀一。既奪二人有一。又禁二其葬一。非レ仁也。肆レ心傲レ聽。不レ恤二民憂一。非レ義也。若何勿レ聽。因道二盆成适之辭一。公喟然大息曰。悲乎哉。子勿二復言一。迺使二男子祖免。女子髮笄者。以二百數一。爲開二內門一。以迎二盆成适一。脫二衰經一。冠二條纓一。墨緣以見二乎公一。公曰。吾聞レ之。五子不レ滿レ隅。一子可レ滿レ朝。非二迺子一耶。盆成适。于レ是臨レ事不二敢哭一。奉レ事以レ禮。畢出レ門。然後舉レ聲焉。

に見ゆ。公曰く、吾れ之を聞く、五子ありとも隅に滿たしめず、一子ありとも朝に滿たしむべしと。迺き子に非ざるかと。盆成适、是に于て事に臨むに敢へて哭せず、事を奉ずるに禮を以てし、畢へて門を出で、然る後に聲を舉げたり。

(一)軒下の雨溜の落つるところ　(二)枯木の如く立ち、鳥のすむごとくにすみと也　(三)他を愛すれば、謗なしと也　(四)肌をぬぐにて、喪の裝束　(五)凶事に用ふる門　(六)喪服の支度

景公問二晏子一曰。治レ國之患。亦有レ常乎。對曰。佞人讒夫之在二君側一者。好惡二良臣一。而

景公、晏子に問ひて曰く、國を治むるの患は、亦常あるかと。對へて曰く、佞人讒夫の君側に在る者、好んで良臣を惡んで、行ひて小人に與す。此れ國の長患なりと。公曰く、讒佞の人は、則ち誠に善からず。然りと雖も則ち奚ぞ曾て國の常患を爲さんやと。晏子曰く、君以て耳目と爲して、好んで事を總るとき

行與二小人一。此國之長患也。公曰。讒佞之人。則誠不レ善矣。雖レ然則奚曾爲二國常患一乎。晏子曰。君以爲二耳目一而好レ繆レ事。則是君之耳目繆也。夫上亂二君之耳目。下使三羣臣皆失二其職一。豈不二誠足一レ患哉。公曰。如レ是乎。寡人將レ去レ之。晏子曰。公不レ能レ去也。公忿然作レ色。不レ說曰。夫子

は、則ち是に君の耳目繆れるなり。夫れ上、君の耳目を亂し、下、羣臣をして皆其職を失はしむ、豈に誠に患ふるに足らざらんやと。公曰く、是の如くは、寡人將に之を去らんとすと。晏子曰く、公、去ること能はじと。公、忿然として色を作し、說ばずして曰く、夫子何ぞ寡人を小とすること甚しきと。對へて曰く、臣何ぞ敢へて槁せんや。夫れ能く自ら君に周(三)する者は、才能皆常に非ざるなり、夫れ大不誠を中に藏する者は、必ず小誠を外に謹み、以て其大不誠を成す。入りては則ち君の嗜欲を求めて、能く之に順ひ、公、良臣を怨むれば、則ち其往失(四)を見へて之を益す。出でては則ち威を行ひて以て富を取る。夫を何に密近して、大利の爲に變ぜざらん。而も務めて君と至義(五)なる者なり。此れ其知を得難きなりと。公曰く、然らば則ち先聖は奈何と。對へて曰く、先聖の治や、賓客を審見し、聽治留めず。羣臣皆其誠を畢ふるを得。讒諛安ぞ其私を容るゝことを得んと。公曰く、然らば則ち夫子扐(六)せよ。寡人之を止めん。寡人も亦事用ふる勿からん

何小ニ寡人一甚也。對曰。臣何敢槁也。夫能自周ニ於君一者。才能皆非ﾚ常也。夫藏ニ大不誠乎中一者。必謹ニ小誠于外一。以成ニ其大不誠一。入則求ニ君之嗜欲一能順ﾚ之、公怨ニ良民一則具ニ其往失一而益ﾚ之。出則行ﾚ威以取ﾚ富。夫何密近。不下爲ニ大利一變上而務ﾚ與ﾚ君至義者也。此難ﾚ得ニ其知一也。公曰。然則先聖奈何。對曰。先聖之治也。審ﾚ見賓客聽治不ﾚ留羣臣皆得ﾚ畢ニ其誠一。讒諛安得ﾚ容ニ其私一。公曰。然則夫子助寡人止ﾚ之。寡人亦事勿ﾚ用。對曰。讒夫佞人之在ニ君側一者。若ニ社之有ﾚ鼠也。諺言有ﾚ之。曰。社鼠不ﾚ可ニ熏去一。讒佞之人。隱ニ君之威一以自守也。是難ﾚ去焉。

と。對へて曰く、讒夫佞人の君の側に在る者、(七)社の鼠あるが若きなり。諺言に之れあり。曰く、社鼠(八)熏じ去るべからずと。讒佞の人、君の威に隱りて以て自ら守るなり。是れ去り難しと。

(一) 辯舌巧にしてへつらふもの、無きことを有るやうに構へいふもの (二) 絶へざるうれへ (三) 親近する也 (四) 過去の過失 (五) 君側にありては、至義なるごとく務むるものなりと也 (六) はかりよりせよと也 (七) 社に入りて難を逃れ食を求むる鼠にて、君の左右親近をいふ (八) 燻に同じ、いぶして逐ひ去らんとすれば、社をやく患あるをいふ

晏子聘ニ於呉一。呉王問。君子之行何如。晏

晏子、呉に聘す。呉王問ふ、君子の行何如と。晏子對へて曰く、君順なれば之に懐き、政治れば之に歸し、(一)暴君の祿を懐はず、亂國の位に居らず。君子、

子對曰。君順懷レ之。政治歸レ之。不レ懷二暴君之祿一。不レ居二亂國之位一。君子見レ兆則退。不下與二亂國一俱滅上。不下與二暴君一偕亡上。

(一)兆を見るときは則ち退き、亂國と倶に滅せず、暴君と偕に亡せずと。

(一)暴君に事ふるを欲せざるをいふ　(二)亂國のきざし

晏子使レ吳。吳王曰。寡人得レ寄二僻陋蠻夷之鄕一。希レ見レ敎二君子之行一。請私而無レ爲レ罪。晏子蹵然辟レ位。吳王曰。吾聞。齊君蓋賊以慢。野以暴。吾子容焉何甚也。晏子遵而對曰。吾聞レ之。微事不レ通。粗事不レ能者

晏子、呉に使す。呉王曰く、寡人、僻陋蠻夷の鄕に寄ることを得て、君子の行を敎へらるゝこと希なり。請ふ、(一)私して罪を爲すこと無けんと。晏子蹵然として位を辟く。呉王曰く、吾れ聞く、(二)齊君は蓋し賊にして以て(三)慢、野にして以て暴と。吾子の容るゝ何ぞ甚しきと。晏子遵して對へて曰く、吾れ之を聞く、微事通ぜず、(四)粗事能せざる者は必ず勞し、大事得ず、小事爲さざる者は必ず貧し、大なる者人を致すこと能はず、小なる者人の門に至ること能はざる者は必ず困すと。此れ臣の仕ふる所以なり。臣が如き者、豈に能く(五)道を以て人に食む者ならんやと。晏子出づ。王笑つて曰く、嗟乎、今日吾れ晏子を譏れり。譬へば猶ほ(六)倮して(七)高橛する者のごとしと。

必勞。大事不レ得。小事不レ爲者必貧。大者不レ能レ致レ人。小者不レ能レ至ニ人之門一者必困。此臣之所ニ以仕一也。如レ臣者。豈能以レ道食レ人者哉。晏子出。王笑曰。嗟乎。今日吾譏ニ晏子一。譬猶ニ倮而高橛者一也。

(一) かたよりて開けざる、いやしき國 (二) 公の使に私事をなしてなり (三) 人をそこなふ寇 (四) 大事也 (五) 人の道を以て指導して、君の祿を受くるならんや也 (六) 譬の誤か (七) 高きくひ也

仲尼曰。靈公汙。晏子事レ之以ニ整齊一。莊公壯。晏子事レ之以ニ宣武一。景公奢。晏子事レ之以ニ恭儉一。君子也。相ニ三君一而善不レ通レ下。晏子細人也。晏子聞レ之。見ニ仲尼一曰。嬰聞君子有ニ於譏一レ嬰。

仲尼曰く、靈公は汙なり。晏子之に事ふるに整齊を以てせり。莊公は壯なり。晏子之に事ふるに宣武(一)を以てせり。景公は奢なり。晏子之に事ふるに恭儉を以てせり。君子なり。三君に相として、善、下に通ぜす。晏子は細人(二)なりと。晏子之を聞き、仲尼を見て曰く、嬰聞く、君子、嬰を識ることありと。是の以に來見せり。嬰が如き者、豈に能く道を以て人に食む者ならんや。嬰の宗族、嬰を待ちて其先人を祝する者數百家、與び齊國の(三)間士の、嬰を待ちて火を擧ぐる者數百家、臣は此の爲に仕ふる者なり。臣が如き者、豈に能く道を以て人に食む者ならんやと。晏子出づ。仲尼之を送るに、賓客の禮を以てして、其の辱きを再拜せり。

是以來見。如嬰者。豈能以道食人者哉。嬰之宗族。待嬰而祀其先人者數百家。與齊國之間士。待嬰而擧火者數百家。臣爲此仕者也。如臣者。豈能以道食人者哉。嬰子出。仲尼送之以賓客之禮。再拜其辱。反命門弟子曰。救民之姓而不夸。行補三君而不有。晏子果君子也。

反つて門弟子に命じて曰く、民の姓を救ひて夸らず、行、三君を補して有せず。(四)晏子は果して君子なりと。

(一)武をのぶる也　(二)小人　(三)役なきもの　(四)おのが功とせずと也

司馬子期問晏子曰。士亦有不干君不恤民。徒居無爲而取名者乎。晏子對曰。嬰聞之。能足以贍上益民。而不爲者謂之不仁。不仁而取名者。嬰未得聞之也。

司馬子期、晏子に問ひて曰く、士も亦君を干さず、(一)民を恤へず、徒居無爲にして名を取る者あるかと。晏子對へて曰く、嬰之を聞く、能く以て上を贍らしめ、(二)民を益するに足りて、爲さざる者之を不仁と謂ふと。不仁にして名を取る者、嬰未だ之を聞くを得ざるなりと。

(一)迫り求めずと也　(二)足也

高子問二晏子一曰。子事二靈公莊公景公一。皆敬レ子。三君之心一耶。夫子之心三也。晏子對曰。善哉。問レ事レ君。嬰聞。一心可三以事二百君一。三心不レ可三以事二一君一。故三君之心非レ一也。而嬰之心非二三心一也。且嬰之於二靈公一也。盡復而不レ能レ立二之政一。所謂僅全二其四支一。以從二其君一者也。及二

高子、晏子に問ひて曰く、子、靈公・莊公・景公に事ふるに、皆、子を敬せり。三君の心一なるか。夫子の心三なるかと。晏子對へて曰く、善いかな、君に事ふるを問ふこと。嬰聞く、一心以て百君に事ふべし。三心以て一君に事ふべからずと。故に三君の心、一なるに非ざるなり。而して嬰の心は三心に非ざるなり。且つ嬰の靈公に於けるや、盡く復して之が政を立つること能はず。所謂僅に其四支を全うして以て其君に從へる者なり。莊公に及びて、武夫を陳し、勇力を尙び、欲辟(一)、邪に勝てり。而して、嬰、禁ずること能はず。故に退きて野處(二)せり。嬰之を聞く、言の用ひられざる者は、其祿を受けず、其事を治めざる者は其難に與らずと。吾れ莊公に於て之を行へり。今の君、國を輕んじて樂を重んじ、民に薄くして養(三)に厚くし、籍斂(四)、量に過ぎ、使令、任に過ぐ、而して、嬰禁ずる能はず。嬰庸ぞ其の能く身を全うし、以て君に事ふるを知らんやと。

(一) 僻りて邪なる也　(二) 降りて民間に居るをいふ　(三) その身のやしなひ　(四) 租稅

莊公。陳二武夫一。尙二勇力一。欲辟勝二于邪一。而嬰不レ能レ禁。故退而野處。嬰聞レ之。言不レ用者。不レ受二其祿一。不レ治二其事一者。不レ與二其難一。吾於二莊公一行レ之矣。今之君輕レ國而重レ樂。薄二於民一而厚二於養一。藉斂過レ量。使令過レ任。而嬰不レ能レ禁。嬰庸知二其能全レ身以事一レ君乎。

晏子治二東阿一三年。景公召而數レ之曰。吾以レ子爲レ可。而使三子治二東阿一。今子治而亂。子退而自察也。寡人將レ加二大誅於子一。晏子對曰。臣請改レ過易レ行。而治二東阿一。三年不レ治。臣請死レ之。景公許。於レ是明年上計。景公迎而賀レ之曰。甚善矣。

晏子、東阿を治むること三年、景公召して之を數めて(一)曰く、吾れ子を以て可なりとして、子をして東阿を治めしめたり。今子治めて亂る。子退きて自ら察せよ。寡人將に大誅を子に加へんとすと。晏子對へて曰く、臣請ふ、過を改め行を易へて東阿を治めん。三年にして治らずんば、臣請ふ、之に死せんと。景公許す。是に於て明年上計す(二)。景公迎へて之を賀して曰く、甚だ善し、子の東阿を治むることと。晏子對へて曰く、前に臣の東阿を治むるや、屬託(三)行はれず、貨賂至らず、陂池(四)の魚、以て貧民を利せり。此の時に當り、民饑うるなし。君反つて以て臣を罪せり。今臣後に東阿に之くや、屬託行はれ、貨賂至り、賦斂を幷重し(五)、倉庫內るゝこと少く、左右に使事し、陂池の魚、權宗(六)に入る。此の時に當り、饑うる者半に過ぐ。君迺ち反つて迎へて賀せり。臣は愚にして、復た東阿を治むるこ

子之治東阿也。晏子對曰。前臣之治東阿也。屬託不行。貨賂不至。陂池之魚。以利貧民。當此之時。民無饑。君反以罪臣。今臣後之東阿也。屬託行。貨賂至。幷重賦斂。倉庫少內。使事左右。陂池之魚。入于權宗。當此之時。饑者過半矣。君迺反迎而賀。臣愚不能復治東阿。願乞骸骨。避賢者之路。再拜便辟。景公迺下席而謝之曰。子彊復治東阿。東阿者子之東阿也。寡人無復與焉。

と能はず。願はくは骸骨を乞ひて、賢者の路を避けんと。再拜して便辟す。景公迺ち席を下りて之を謝して曰く、子彊めて復た東阿を治めよ。東阿は子の東阿なり。寡人復た與ることなけんと。

㈠責也　㈡治績を上に申上ぐる也　㈢委託したること　㈣陂は堤也　㈤二倍に重くする也　㈥權勢のある家　㈦氣にさはらぬ樣にはいはいといふ也

晏子相景公。其論人也。見賢而進之。不同君所欲。見不善則廢之。不辟君所愛。

晏子の景公に相たる、其の人を論ずるや、賢見て之を進め、君の欲する所に同ぜず。不善を見て、則ち之を廢し、君の愛する所に辟せず。己れを行ひて私なく、直言して諱むことなし。書を納むる者あり。曰く、廢置、君前に周せず、之を專と謂ふ。言を出して、君前に諱まず、之を易と謂ふ。專易の行存するときは、

行レ己而無レ私。直言而無レ諱。有ニ納レ書者一。曰。廢置不レ周ニ於君前一。謂ニ之專一。出レ言不レ諱ニ於君前一。謂ニ之易一。專易之行存。則君臣之道廢矣。吾不レ知ニ晏子之爲ニ忠臣一也。公以爲レ然。晏子入朝。公色不レ悅。故晏子歸備載。使ニ人辭一曰。嬰故老悖無レ能。毋ニ敢服ニ壯者事一。辭而不レ爲レ臣。退而窮處。東畊ニ海濱一。堂下生ニ藜藿一。門外生ニ荊棘一。七年燕魯分爭。百姓惛。而家無レ積。公自治レ國。權輕ニ諸侯一。身弱ニ高國一。公恐。復召ニ晏子一。晏子至。公一歸ニ七年之祿一。而家無レ藏。晏子立。諸侯忌ニ其威一。高國服ニ其政一。燕魯貢職。小國時朝。晏子沒而後衰。

則ち君臣の道廢す。吾れ晏子の忠臣たるを知らざるなりと。公以て然りと爲す。晏子入朝す。公、色悅ばず。故に晏子歸つて備載(三)し、人をして辭せしめて曰く、嬰は故より老悖(四)にして能なし。敢て壯者の事に服すること毋けんと。辭して臣たらず、退きて窮處し、東のかた海濱に畊せり。堂下に藜藿(五)を生じ、門外に荊棘を生ず。七年燕魯分爭し、百姓惛し、而して家に積なし。公自ら國を治むるに、權、諸侯に輕んぜられ、身、高國に弱めらる。公恐れて、復た晏子を召す。晏子至る。公一に七年の祿を歸す。而して家に藏なし。晏子立つ。諸侯其威を忌み、高國其政に服し、燕魯貢職(六)し、小國時(七)に朝す。晏子沒して後衰へたり。

(一) みだりに一致せずと也 (二) おもねりかたよらずと也 (三) 荷物を取揃へて車に載すると也 (四) 年老いて物の理に明ならずと也 (五) あかざや豆の類 (六) 貢をたてまつり、述職せるをいふ (七) 一定の時也

晏子使二高糺一治レ家。三年而辭焉。擯者諫曰。高糺之事二夫子一三年。曾無下以二爵位一而逐上レ之。敢請二其罪一。晏子曰。若夫方立之人。維聖人而已。如レ嬰者。反陋之人也。若夫左嬰右嬰之人。不レ擧二曰維一。將レ不レ正。今此子事レ吾三年。未三嘗弼二吾過一也。吾是以辭レ之。

晏子、高糺をして家を治めしむ。三年にして辭す。(一)擯者諫めて曰く、高糺の、夫子に事ふること三年、曾て爵位を以てすることなくして、之を逐ふ。敢へて其罪を請ふと。晏子曰く、若し夫れ(二)方立の人は、維だ聖人のみ。嬰が如き者は、(三)反陋の人なり。若し夫れ左嬰右嬰の人、(四)曰維を擧げずんば、將に正しからざらんとす。今此子、吾に事ふること三年、未だ嘗て吾過を弼けざるなり。吾れ是の以に之を辭せりと。

(一) 主人をたすけて賓客に接する人　(二) 正道を守る人　(三) 道にそむけるいやしき人　(四) 四の誤か

景公問二大卜一曰。汝之道何能。對曰。臣能動レ地。公召二晏子一而告レ之曰。寡人問二大卜一

景公、大卜に問ひて曰く、汝の道何をか能くすと。對へて曰く、臣能く地を動かすと。公、晏子を召して之に告げて曰く、寡人、大卜に問ひて曰く、汝の道何をか能くすと。對へて曰く、能く地を動かすと。地動かすべきかと。晏子默然として對へず。出でて大卜を見て曰く、昔吾れ鈎星の、四心の間に在るを見たり。

曰、汝之道何能。對曰。能動地。地可動乎。晏子默然不對。出見大卜曰。昔吾見鉤星在四心之間。地其動乎。大卜曰。然。晏子曰。吾言之。恐子死之也。默然不對。恐君之惶也。子言。君臣俱得焉。忠於君者。豈必傷人哉。晏子出。大卜走入見公曰。臣非能動地。地固將動也。陳子陽聞之曰。晏子默而不對者。不欲大卜之死也。往見大卜者。恐君之惶也。晏子仁人也。可謂忠上而惠下也。

地其れ動かんかと。大卜曰く、然りと。晏子曰く、吾れ之を言はば、恐らくは子(一)之に死せん。默然として對へざるは、君の惶を恐れてなり。子言はば、君臣俱に得ん。君に忠なる者、豈に必ずしも人を傷けんやと。晏子出づ。大卜走り入り、公に見えて曰く、臣は能く地を動かすに非ず、地固より將に動かんとするなりと。陳子陽之を聞きて曰く、晏子の默して對へざる者は、大卜の死するを欲せざればなり。往きて大卜を見しものは、君の惶を恐れてなり。晏子は仁人なり。上に忠にして下に惠なりと謂ふべきなりと。

(一)このために君に殺されんと也

景公謂晏子

景公、晏子に謂つて曰く、昔吾が先君桓公、管仲に(二)狐と穀とを予へたり。其

曰。昔吾先君桓公、予二管仲狐與レ穀。其縣十七著二之于帛一、申レ之以レ策。通二之諸侯一。以爲二其子孫賞邑一。寡人不レ足三以辱二而先君一。今爲二夫子賞邑一。通二之子孫一。晏子辭曰。昔聖王論レ功而賞レ賢。賢者得レ之。不肖者失レ之。御レ德修レ禮、無レ有二荒怠一。今事レ君而免二于罪一者。其子孫奚宜レ與焉。若爲二齊國大夫一者。必有二賞邑一。則齊君何以共三其社稷與二諸侯幣帛一。嬰請辭。遂不レ受。

縣十七、之を帛に著け、之を申ぬるに策を以てし、之を諸侯に通じて、以て其子孫の賞邑と爲せり。寡人、以て先君を(二)辱むるに足らず。今夫子の賞邑を爲し、之を子孫に通ぜんと。晏子辭して曰く、昔聖王の、功を論じ賢を賞するに、賢者は之を得、不肖者は之を失へり。德を御し禮を修め、荒怠あることなし。今君に事へて罪に免るゝ者、其子孫奚ぞ宜しく與るべき。若し齊國の大夫たる者、必ず賞邑あらば、則ち齊君は、何を以て其社稷と、諸侯の幣帛とに(三)共せん。嬰請ふ辭せんと。遂に受けず。

(一) 塊名　(二) 原文「而先君」は「吾先君」の誤か　(三) 供也

景公賜二晏子狐之白裘、玄豹之茈一。其貲

景公、晏子に、狐の白裘と玄豹の茈(一)とを賜ふ。其貲千金、梁丘據をして之を致さしむ。晏子辭して受けず。三たび反る。公曰く、寡人此の二あり。將に之を服

千金。使二梁丘據致一レ之。晏子辭而不レ受。三反。公曰。寡人有二此二一。將レ欲服レ之。今夫子不レ受。寡人不二敢服一。與二其閉藏一レ之。豈如レ弊二之身一乎。晏子曰。君就賜。使三嬰修二百官之政一。君服二之上一。而使三嬰服二之于下一。不レ可二以爲一レ教。固辭而不レ受。

せんと欲す。今夫子受けずんば、寡人も敢て服せず。其の閉ぢて之を藏せん與りは、豈に之を身に弊るに如かんやと。晏子曰く、君就きて賜ひ、嬰をして百官の政を修めしむ。君之を上に服して、嬰をして之を下に服せしむ。以て教と爲すべからずと。固辭して受けず。

（一）紫色なる也

仲尼之レ齊見二景公一。景公說レ之。欲三封二之以二爾稽一。以告二晏子一。晏子對曰。不可也。彼浩裾自順。不レ可二以教一。好レ樂綏二

仲尼、齊に之きて景公を見る。景公之を說び、之を封ずるに爾稽を以てせんと欲す。以て晏子に告ぐ。晏子對へて曰く、不可なり。彼れ浩裾自順（一）するは、以て教ふべからず。樂を好みて民を綏んずるは、親しく治めしむべからず。命を立て（二）て事を建つるは、職を守るべからず。葬を厚くして民を破り、國を貧にし喪を久しくし、哀を道とし日を費すは、民を子とせしむべからず。行の難き者内に在り、

於民一。不ㇾ可ㇾ使二親治一。立ㇾ命而建ㇾ事。不ㇾ可ㇾ守ㇾ職。厚ㇾ葬破ㇾ民。貧ㇾ國久ㇾ喪。道ㇾ哀費ㇾ日。不ㇾ可ㇾ使ㇾ子ㇾ民。行ㇾ之難者在ㇾ內。而傳者無二其外一。故異二于服一。勉二于容一。不ㇾ可三以道ㇾ衆而馴二百姓一。自二大賢之滅一。周室之卑一也。威儀加ㇾ多。而民行滋薄。聲樂繁充而世德滋衰。今孔丘盛二聲樂一。以侈ㇾ世。飾二弦

而して傳ふる者其外に無し。故に服を異にして容を勉む。以て衆を道きて百姓を馴すべからず。大賢の滅び、周室の卑しきより、威儀多きを加へて、民行滋す薄く、聲樂繁充して、世德滋す衰ふ。今孔丘、聲樂を盛にして、以て世に侈し、弦歌鼓舞を飾りて、以て徒を聚め、登降の禮、趨翔の節を繁くして、以て衆に觀す。博學以て世に儀すべからず。勞思以て民を補すべからず。(三)壽を兼ぬとも、其敎を殫すこと能はず。當年其禮を究むること能はず。財を積むとも、其樂を贍ること能はず。繁く邪術を飾りて、以て世君を營(四)し、盛に聲樂を爲して、以て其民を淫愚にして以て其敎を示すべからざるなり。以て民を導くべからず。今之を封じて、以て齊國の俗を移さんと欲するは、以て衆を道き民を存する所に非ざるなりと。公曰く、善しと。是に于て、其禮を厚うして、其敎を留め、見て其道を問はず。仲尼迺ち行る。

(一) 地名　(二) 天命　(三) 二倍の生命を有すとも也　(四) 熒に通ず、惑也

歌鼓舞。以聚徒。繁登降之禮。趨翔之節。以觀衆。博學不可以儀世。勞思不可以補民。兼壽不能殫其敎。當年不能究其禮。積財不能贍其樂。繁飾邪術。以營世君。盛爲聲樂。以淫愚其民也。不可以示其敎也。不可以導民。今欲封之以移齊國之俗。非所以道衆存民也。公曰。善。于是厚其禮。而留其敬。見不問其道。仲尼迺行。

景公上路寢。聞哭聲曰。吾若聞哭聲。何爲者也。梁丘據對曰。魯孔丘之徒。鞠語者也。明於禮樂。審於服喪。其母死。葬埋甚厚。服喪三年。哭泣甚疾。公曰。豈不可哉。而色悅之。晏子曰。古者聖人。非不知

景公、路寢に上り、哭聲を聞きて曰く、吾れ哭聲を聞くが若し。何爲る者ぞと。梁丘據對へて曰く、魯の孔丘の徒、鞠語といふ者なり。禮樂に明に、服喪に審(一)なり。其母死す。葬埋甚だ厚く、服喪三年、哭泣すること甚だ疾しと。公曰く、豈に可ならずやと。而して色之を悅ぶ。晏子曰く、古者聖人、能く登降の禮を繁くし、規矩の節を制し、表綴の數を行ひて、以て民を敎ふるを知らざるに非ず。以爲へらく人を煩し是を留むと。故に禮を制して、事に便なるに羨さず。能く干戚(二)を揚げて、鐘鼓竽瑟(三)にして、以て衆を勸すを知らざるに非ざるなり。以爲へらく、財を費し工を留むと。故に樂を制して、民を和するに羨さず。能く世を累ね國を殫して、以て死に奉じ、哭泣哀に處りて、以て持久するを知らざるに非

能禁二登降之禮一。制二規矩之節一。行二表綴之數一。以教レ民。以爲煩レ人留レ是。故制レ禮不レ羨二於便一レ事。非レ不レ知下能揚二干戚一。鐘鼓竽瑟。以勸レ衆也。以爲費レ財留レ工。故制レ樂不レ羨二于和一レ民。非レ不レ知下能累レ世殫レ國。以奉レ死。哭泣處レ哀。以持久上也。而不レ爲者。知下其無レ補二死者一。而深害中生者上。故不二以導一レ民。今品レ人飾レ禮。煩レ事羨レ樂。淫レ民崇レ死。以害レ生。三者聖王之所レ禁也。賢人不レ用。德毀俗流。故三邪得レ行二于世一。是非賢不肖雜。上妄說レ邪。故好惡不レ足二以導一レ衆。此三者路世之政也。事之教也。公曷爲不レ察。聲受而色悅レ之。

ざるなり。而も爲さざる者は、其の死者に補なくして、深く生者を害するを知ればなり。故に以て民を導かず。今、人を品して禮を飾り、事を煩して樂を羨し、民を淫して死を崇び、以て生を害す。三つの者は聖王の禁ずる所なり。賢人用ひられず、德毀れ俗流る。故に三邪、世に行はるゝを得、是非賢不肖雜り、上妄に邪を說ぶ。故に好惡以て衆を導くに足らず。此の三つの者、(四)路世の政なり。事の教なり。公曷爲れぞ察せず、聲受して色之を悅ぶと。

(一) 死者に對する喪服の禮　(二) たてと斧にて、舞樂に用ふ　(三) 竽也、樂器　(四) 衰へたる世

仲尼游レ齊。見二景公一。景公曰。先生奚不レ見二

仲尼、齊に游びて景公に見ゆ。景公曰く、先生奚ぞ寡人が宰を見ざるかと。仲尼對へて曰く、臣聞く、晏子は三君に事へて順を得たりと。是れ三心あるなり。

寡人宰乎。仲尼對曰。臣聞。晏子事三君而得順焉。是有三心。所以不見也。仲尼出。景公以其言告晏子。晏子對曰。不然。嬰爲二心。三君爲一心。故三君皆欲其國之安。是以嬰得順也。嬰聞之。是而非之。非而是之。猶非也。孔丘必據處此一心矣。

見ざる所以なりと。仲尼出づ。景公、其言を以て晏子に告ぐ。晏子對へて曰く、然らず。嬰は二心を爲す。三君は一心たり。故に三君皆其國の安からんことを欲す。是の以に嬰、順を得たるなり。嬰之を聞く、是にして之を非とし、非にして之を是とする、猶ほ非のごときなりと。孔丘必ず此一心に據處せんと。

㊀ 家をつかさどるもの

仲尼之齊。見景公。而不見晏子。子貢曰。見君不見其從政者可乎。仲尼曰。吾聞。晏子事三君而順焉。吾疑

仲尼、齊に之き、景公を見て晏子を見ず。子貢曰く、君を見て、其從政の者を見ざるは可ならんかと。仲尼曰く、吾聞く、晏子は、三君に事へて順なりと。吾れ其の人と爲りを疑ふと。晏子之を聞きて曰く、嬰は則ち齊の世民なり。其行を維せず、其過を識らず。自ら立つこと能はざるなり。嬰之を聞く、幸ありて愛せられ、幸なくして惡まれ、誹謗類を爲し、聲響相應ずるは、行を見て之に從

其爲人。晏子聞之曰。嬰則齊之世民也。不維其行。不識其過。不能自立也。嬰聞之。有幸見愛。無幸見惡。誹譽爲類。聲響相應。見行而從之者也。嬰聞之。以一心事三君者。所以順焉。以三心事一君者。不順焉。今未見嬰之行。而非其順也。嬰聞之。君子獨立不慚于影。

ふ者なりと。嬰之を聞く、一心を以て三君に事ふる者は、順なる所以にして、三心を以て一君に事ふる者は、不順なるなりと。今未だ嬰の行を見ずして、其順を非れるなり。嬰之を聞く、君子は、獨り立ちて影に慚ぢず、獨り寢ねて魂に慚ぢずと。孔子は樹（二）を抜かれ、跡を削られ、自ら以て辱と爲さず。陳・蔡に窮して、自ら以て約と爲さず。人を非りて、其故を得ず。是れ猶ほ澤人（三）の斤斧（四）を非り、山人（五）の網罟を非るがごときなり。之を其口より出して、其困を知らざるなり。始め吾れ望傳（一）して之を貴び、今吾れ望傳して之を疑ふと。仲尼之を聞きて曰く、語に之れ有り、言、爾に發して、遠きに止むべからざるなり。行、身に存して、衆に掩ふべからざるなりと。吾れ竊に晏子を議して中らず。夫の人の過、吾罪幾し、丘聞く、君子、（七）人に過ぐれば以て友と爲し、人に及ばざれば以て師と爲すと。今丘、言を夫子に失して之を譏る。是れ吾師なりと。宰我に因りて謝す。然して仲尼之に見えたり。

獨寢不レ慚二于魂一。孔子拔レ樹削レ跡。不二自以爲レ辱。窮二陳蔡一不二自以爲レ約。非レ人不レ得二其故一。是猶下澤人之非二斤斧一。山人之非中網罟上也。出二之其口一。不レ知二其因一也。始吾望傳而貫レ之。今吾望傳而疑レ之。仲尼聞レ之曰。語有レ之。言發二於爾一。不レ可レ止二於遠一也。行存二於身一。不レ可レ掩二於衆一也。吾竊議二晏子一而不レ中。夫人之過。吾罪幾矣。丘聞。君子過レ人以爲レ友。不レ及レ人以爲レ師。今丘失二言於夫子一。譏レ之。是吾師也。因二宰我一而謝焉。然仲尼見レ之。

㊀ 維持せずにて、正道を操守せずと也 ㊁ 禮を習ひしとき、其傍の樹を拔かれしをいふ ㊂ 低地にある人 ㊃ をのにて、樵夫をいふ ㊄ 山にすむ人 ㊅ あみにて、漁夫をいふ ㊆ おのれが學德の人より過ぐれば、他の人を友とし也

景公出田。寒。故以爲渾。猶顧而問二晏子一曰。若二人之衆一。則有二孔子一焉乎。晏子對曰。有二孔子一焉則無レ有。若舜焉則嬰不レ識。公曰。孔子之不レ

景公出でて田す。（一）寒し。故に以爲らく（二）渾べてなりと。猶ほ顧みて晏子に問ひて曰く、人の衆の若き、則ち孔子あるかと。晏子對へて曰く、孔子あることは、則ち有ること無し。若し舜は、則ち嬰識らずと。公曰く、孔子の舜に逮ばざる（三）間を爲す。曷爲れぞ、孔子あるときは則ち有ること無く、若し舜ならば則ち嬰識らずといふかと。晏子對へて曰く、是れ廼ち孔子の、舜に及ばざる所以なり。孔子は一節を行ふ者なり。民の中に處りて、其の過ぐるを之れ識らる。況んや君

逮レ舜。爲レ間矣。曷爲有二孔子一焉則無レ有。若舜焉則嬰不レ識。晏子對曰。是廼孔子之所二以不一レ逮レ舜。孔子行二一節一者也。盛二民之中一。其過之識。況乎處二君之中一乎。舜者處二民之中一。則自齊二乎士一。處二君子之中一。則齊二乎君子一。上與二聖人一。則固聖人之林也。此廼孔子之所二以不一レ逮レ舜也。

の中に處るをや。舜は、民の中に處るときは、則ち自ら士に齊しく、君子の中に處るときは、則ち君子に齊し。上、聖人と與にするときは、則ち固より聖人の林(四)なり。此れ廼ち孔子の、舜に逮ばざる所以なりと。

(一) 將也　(二) 過の意か　(三) 隔也、へだゝり　(四) 材の誤か

仲尼相レ魯。景公患レ之。謂二晏子一曰。隣國有二聖人一。敵國之憂也。今孔子相レ魯。若何。晏子對曰。君其勿レ憂。彼魯君弱主也。孔子聖相也。君不レ

仲尼、魯に相たり。景公之を患ふ。晏子に謂つて曰く、隣國に聖人有るは、敵國の憂なり。今孔子、魯に相たり。若何と。晏子對へて曰く、君其れ憂ふること勿れ。彼の魯君は弱主なり。孔子は聖相なり。君、如かず、陰に孔子を重んじて、(一)設くるに齊に相とせんと以てせんには。孔子強諫して聽かず。必ず魯に驕りて齊に有らん。君、納るゝこと勿れ。夫れ魯に絕ちて、齊に(二)仕なければ、孔子困せんと。居ること朞年(一)にして、孔子、魯を去りて齊に之く。景公(三)納れず。故に

如陰重孔子。設以相齊。孔子強諫而不聽。必驕魯而有齊。君勿納也。夫絕於魯。無主于齊。孔子困矣。居期年。孔子去魯之齊。景公不納。故困於陳蔡之間。

陳・蔡の間に困せり。

(一) かりになす也 (二) 頼る所 (三) 一年、期は周也

景公問晏子曰。天下有極大乎。晏子對曰。有。足游浮雲。背凌蒼天。尾偃天間。躍啄北海。頸尾咳於天地乎。然而漻漻不知六翮之所在。公曰。天下有極細乎。晏子對曰。有。東海有蟲。巢於蟁睫。再乳再飛。而蟁不為驚。臣嬰不知其名。而東海漁者。命曰

景公、晏子に問ひて曰く、天下に極大あるかと。晏子對へて曰く、有り。足、浮雲に游び、背、蒼天を凌ぎ、尾、天間に偃し、躍りて北海に啄み、頸尾、天地に咳するか。然り而して、漻漻として、六翮の在る所を知らずと。公曰く、天下に極細あるかと。晏子對へて曰く、有り。東海に蟲あり。蟁の睫に巣ひ、再乳し再飛して、蟁、爲に驚かず。臣嬰、其名を知らず。而して東海の漁者、命けて焦冥と曰ふと。

(一) 高く深き也 (二) はね

焦冥。

莊公闔レ門而圖レ莒。國人以爲レ有レ亂也。皆操二長兵一而立二於閭一。公召二睢休相一而問曰。寡人闔レ門而圖レ莒。國人以爲レ有レ亂。皆操二長兵一而立二于衢閭一。奈何。休相對曰。誠無レ亂。而國以爲レ有。則仁人不レ在。請令二于國一。言晏子之在一也。公曰。諾。以

莊公、門を闔ぢて莒(一)を圖る。國人以て亂ありと爲せり。皆長兵(二)を操りて閭に立つ。公、睢休相を召して問ひて曰く、寡人、門を闔ぢて莒を圖る。國人以て亂ありと爲し、皆長兵を操りて衢閭(三)に立つ、奈何と。休相對へて曰く、誠に亂なくして、國以て有りと爲す、則ち仁人の存せざればなり。請ふ、國に令して、晏子(四)の在るを言はんと。公曰く、諾と。以て國に令す。孰れか國に亂ありと謂ふ者ぞ。晏子在りと。然して後皆兵を散じて歸る。君子曰く、夫れ行は務めざるべからざるなり。晏子存して民心安し。此れ一日の爲す所に非ざるなり。前に見て、後に信ずる所以の者なり。是の以に、晏子、人臣の位に立ちて萬民の心を安んずと。

(一)國名　(二)長き武器　(三)里門　(四)晏子のありて善く國を治むるをいふ

令於國。孰謂國有亂者。晏子在焉。然後皆散兵而歸。君子曰。夫行不可不務也。晏子存而民心安。此非一日之所爲也。所以見於前信於後者。是以晏子立人臣之位。而安萬民之心。

景公游於菑。聞晏子死。公乘侈輿。服繁駔驅之。而因爲遲。下車而趨。知不若車之遬。則又乘。比至於國者。四下而趨。行哭而往。伏尸而號曰。子大夫。日夜責寡人。不遺尺寸。寡人猶且淫佚而不收。怨罪重積于百姓。今天降禍

景公、菑(一)に游び、晏子死せりと聞く。公、侈輿に乗り、繁駔(二)を服して之を驅る。而も因りて遲しと爲し、車より下りて趨る。車の遬なるに若かざるを知り、則ち又乘る。國に至る比には、四たび下りて趨る。行く〳〵哭して往き、尸を伏して號びて曰く、子大夫、日夜寡人を責め、尺寸を遺さず。寡人猶ほ且つ淫佚して收めず。怨罪重く百姓に積む。今天、禍を齊に降し、寡人に加へずして夫子に加ふ。齊國の社稷危し。百姓將た誰にか告げんと。晏子死す。景公、玉を操り、晏子に加へて之を哭す。涕、襟を沾す。章子諫めて曰く、禮に非ざるなりと。公曰く、安ぞ禮を用ひんや。昔者、吾れ、夫子と公邑の上に遊ぶ。一日にして三たび聽かず。寡人、今其れ孰れか能く然らんや。吾れ夫子を失はば則ち亡せん。何の禮か之れ有らんと。(三)免して哭し、哀盡きて去れり。

於齊。不加于
寡人。而加于
夫子。齊國之社稷危矣。百姓將誰告夫。晏子死。景公操玉。加於晏子而哭之。涕沾襟。章子
諫曰。非禮也。公曰。安用禮乎。昔者吾與夫子遊於公邑之上。一日而三不聽。寡人今其孰
能然乎。吾失夫子則亡。何禮之有。免而哭。哀盡而去。

(一) 齊の地名　(二) 馬の名　(三) 冠を去り、髮を括る禮

晏子春秋 終

新序敍

古之治天下者。一道德同風俗。蓋九州之廣。萬民之衆。千歲之遠。其教既明。其政既成之後。所守者一道。所傳者一說而已。故詩書之文。歷世數十。作者非一。而言未嘗不相爲終始。化之如此其至也。當是之時。異行者有誅。異言者有禁。防之又如此其備也。故二帝三王之際。及其中間。嘗更衰亂而餘澤未熄之時。百家衆說。未有能出其間者也。及周之末世。先王之教化法度既廢。餘澤既熄。世之治方術者。蓋得其一偏。故人奮其私意。家尚其私學。學者蓋起於中國。皆明其所長。而昧其所短。務其所得。而諱其所失。天下之士。各自爲言而不能相通。世人之不復知夫學之有統。道之有歸也。先王之遺文雖在。皆絀而不講。況至於秦。爲世所大禁哉。漢興。六藝皆得於散絕殘脫之餘。世無復明先王之道。爲衆說之所蔽。闇而不明。鬱而不發。而怪奇可喜之論。各師異見。皆自名家者。誕漫於中國。一切不異於周之末世。其弊至於今尚在也。自斯以來。天下學者。知折衷於聖人。而能純於道德之美者。揚雄氏而止

耳。如向之徒。皆不免爲衆說之蔽。而不知有折衷者也。孟子曰。待文王而後興者凡民也。豪傑之士。雖無文王猶興。漢之士。豈特無明先王之道。以一之者哉。亦其出於是時者。豪傑之士少。故不能特起於流俗之中。絕學之後也。蓋向之序此書。於今最爲近古。雖不能無失。然遠至舜禹。而次及於周秦以來古人之嘉言善行。亦往往而在也。要在愼取之而已。故臣既惜其不可見者。而校其可見者。特詳爲。亦足以知臣之志者。豈好辯哉。蓋臣之不得已也。編校書籍臣曾鞏上。

昔者舜自耕稼陶漁而躬孝友。父瞽瞍頑母嚚。及弟象傲。皆下愚不ㇾ移。舜盡ニ孝道一。以供ニ養瞽瞍一。瞽瞍與ㇾ象。爲ニ浚ㇾ井塗ㇾ廩之謀一。欲ニ以殺ㇾ舜。舜孝益篤。出田則號泣。年五十猶ニ嬰兒慕一。可ㇾ謂ニ至孝一矣。故耕ニ於

新序卷第一

雜事第一

昔者舜自ら耕稼(一)陶漁して躬(二)孝友、父瞽瞍(三)頑に母嚚(四)、及び弟象(五)傲れり。皆下愚にして移らず(六)。舜、孝道を盡し、以て瞽瞍を供養す。瞽瞍と象と、井(七)を浚ひ廩を塗らしむる謀を爲し、以て舜を殺さんと欲す。舜、孝益〻篤し。出田(八)すれば號泣す。年五十、猶ほ嬰兒の慕ふがごとし。至孝と謂ふべし。故に歴山に耕せば、歴山の耕す者畔(九)を讓り、河濱に陶すれば、河濱の陶する者、器苦窳(一〇)せず。雷澤に漁すれば、雷澤の漁する者分均(一一)しくす。立ちて天子と爲るに及びて、天下之に化す。蠻夷率服す。北、渠搜(一二)を發し、南、交阯(一三)を撫し、義を慕はずといふこと莫し。麟鳳(一四)郊に在り。故に孔子曰く、孝弟(一五)の至、神明に通じ、四海に光つとは、舜の謂なりと。孔子、州里(一六)に在り、篤く孝道を行ひ、闕黨に居り、闕黨の子弟、

歴山。歴山之耕者讓ㇾ畔。陶二於河濱一。河濱之陶者。器不二苦窳一。漁二於雷澤一。雷澤之漁者分均。及三立爲二天子一。天下化ㇾ之。蠻夷率服。北發二渠搜一。南撫二交阯一。莫ㇾ不ㇾ慕ㇾ義。麟鳳在ㇾ郊。故孔子曰。孝弟之至。通二於神明一。光二于四海一。舜之謂也。孔子在二州里一。篤行二孝道一。居二於闕黨一。闕黨之子弟

畋漁するに、親ある者に分つこと多きを得たり。孝以て之を化すればなり。是の以に、(一七)七十二子遠方より至り、其德に服從せり。魯に沈猶氏といふ者あり、且に羊に飲ましめて之を飽かしめ、以て市人を欺く。公愼氏妻あり、而して淫なり。愼潰氏奢侈驕佚す。魯市の牛馬を鬻ぐ者、善く賈を(一九)豫す。孔子將に魯の司寇(二〇)たらんとす。沈猶氏敢へて朝に其羊に飲ましめず。公愼氏其妻を出し、愼潰氏境を踰えて徙る。魯の馬牛を鬻ぐもの、賈を豫せず。布正以て之を待てり。(二一)既に司寇と爲る。季孟、(二二)郈費の城を墮ち、齊人侵しゝ所の魯の地を歸せり。(二三)積正の致す所に由るなり。故に曰く、其身正しければ、令せずして行はると。

(一) 穀をうゝる也 (二) 父母に善きを孝といひ、兄弟に善きを友といふ (三) 目しひなり、舜の父、目見ゆ、しかも好惡を分別する能はず。故に時人之を瞽といへり、字を配して瞍といふ、瞍は無目の稱 (四) 愚也 (五) 舜の弟の字、傲慢にして不友なる也 (六) 善に格らざる也 (七) 浚は深也、廩は倉也、即ち父母が舜をして廩を完うせしめ、階を捐て廩を焚き又井を深からしめ、水出づ、從ひて之を揜ひしをいふ (八) 舜が田に耕きて旻天にうたへて號泣せしをいふ (九) 田の界 (一〇) 苦は粗也、窳は病也、粗雜にして破損し易からずと也 (一一) 相均しく分配せりと也 (一二) 戎狄の地名 (一三) 戎狄の地名 (一四) 麟は仁獸、聖主の出づるときに出づ、鳳は靈鳥、仁瑞也、雌を

畋漁。分㆓有㆑親者㆒得㆑多。孝以化㆑之也。是以七十二子。自㆓遠方㆒至。服㆓從其德㆒。魯有㆓沈猶氏者㆒。旦飲㆑羊飽㆑之。以欺㆓市人㆒。公愼氏有㆑妻而淫。愼潰氏奢侈驕佚。魯市之鬻㆓牛馬㆒者善豫㆑賈。孔子將㆑爲㆓魯司寇㆒。沈猶氏不㆔敢朝飮㆓其羊㆒。公愼氏出㆓其妻㆒。愼潰氏踰㆑境而徙。魯之鬻㆓馬牛㆒不㆑豫㆑賈。布正以待㆑之也。既爲㆓司寇㆒。季孟墮㆓郈費之城㆒。齊人歸㆓所㆑侵魯之地㆒。由㆓積正之所㆒㆑致也。故曰。其身正不㆑令而行。

凰といひ、雌を凰といふ　（一五）孝經應感章の文、光は充也　（一六）五家を鄰となし、五鄰を里となし、四里を族となし、五族を黨となし、五黨を州となす　（一七）遜也　（一八）六藝に達せし孔子の弟子　（一九）賈は價也、あたひ、豫すは高價に賣る也　（二〇）邦禁を掌り、姦慝を責め暴亂を刑するをいふ　（二一）其身を正しうして以て物を待ちたるをいふ　（二二）季は季孫斯、孟は仲孫何忌なり、古へ次子に仲と稱し、庶長に孟を稱す　（二三）郈は孟氏の食邑、費は季氏の食邑なり、共に之を王室にをさめしをいふ

孫叔敖。爲㆓嬰兒㆒之時。出遊見㆓兩頭蛇㆒。殺而埋㆑之。歸而泣。其母問㆓其故㆒。叔敖對曰。聞見㆓兩頭之蛇㆒者死。嚮者

孫叔敖、嬰兒たりし時、出遊して兩頭の蛇を見る。殺して之を埋む。歸りて泣く。其母、其故を問ふ。叔敖對へて曰く、聞く、兩頭の蛇を見る者は死すと。嚮者に吾れ之を見る。恐らくは母を去てて、死なんことをと。其母曰く、蛇今安にか在ると。曰く、他人の又見んことを恐れ、殺して之を埋めたりと。其母曰く、吾れ聞く、陰德ある者は、天報ゆるに福を以てすと。汝死せざるなりと。

吾見ㇾ之。恐去ㇾ母而死也。其母曰。蛇今安在。曰恐ニ他人又見ㇾ殺而埋ㇾ之矣。其母曰。吾聞有ニ陰德一者。天報以ㇾ福。汝不ㇾ死也。及ㇾ長爲ニ楚令尹一。未ㇾ治而國人信ニ其仁一也。

長ずるに及びて楚の令尹と爲る。未だ治めざるに、國人其仁を信ぜり。

(一) 姓は蔿、字は艾獵、伯嬴の子、楚の賢士なり　(二) 人の知らざる德を行ふをいふ　(三) 楚の卿

禹之興也。以ニ塗山一。桀之亡也。以ニ末喜一。湯之興也。以ニ有莘一。紂之亡也。以ニ妲己一。文武之興也。以ニ任姒一。幽王之亡也。以ニ褒姒一。是以詩正ニ關雎一。而春秋褒ニ伯姬一也。樊姬楚國之夫人也。

禹の興るや塗山を以てし、桀の亡ぶるや末喜を以てす。湯の興るや有莘を以てし、紂の亡ぶるや妲己を以てす。文・武の興るや任・姒を以てし、幽王の亡ぶるや褒姒を以てす。是の以に、詩は關雎を正とし、而して春秋は伯姬を褒せるなり。樊姬は楚國の夫人なり。楚の莊王、朝を罷むること晏し。其故を問ふ。莊王曰く、今日、賢相と語る。日の晏くるを知らざるなりと。樊姬曰く、賢相をば誰とか爲すと。王曰く、虞丘子たりと。樊姬、口を掩ひて笑ふ。王其故を問ふ。曰く、妾、幸に巾櫛を執りて以て王に侍するを得たり。專貴擅愛を欲せざるに非ざるなり。以爲へらく、王の義を傷らんと。故に進むる所、妾と同位なる者數人なり、

楚莊王罷朝而晏。問其故。莊王曰。今且與賢相語。不知日之晏也。樊姬曰。賢相爲誰。王曰。爲虞丘子。樊姬掩口而笑。王問其故。曰。妾幸得執巾櫛以侍王。非不欲專貴擅愛也。以爲傷王之義。故所進與妾同位者數人矣。今虞丘子爲相數十年。未嘗進一賢。知而不進。是不忠也。不知是不智也。安得爲賢。明日朝。王以樊姬之言告虞丘子。虞丘子稽首曰。如樊姬之言。於是辭位而進孫叔敖。孫叔敖相楚莊王。卒以霸。樊姬與有力焉。

今虞丘子、相たること數十年、未だ嘗て一賢を進めず。知りて進めざるは是れ不忠なり。知らざるは是れ不智なり。安ぞ賢たるを得んやと。明日朝す。王、樊姬の言を以て虞丘子に告ぐ。虞丘子稽首(一三)して曰く、樊姬の言の如しと。是に於て、位を辭して孫叔敖を進む。孫叔敖、楚の莊王に相として、卒に以て霸(一四)たり。樊姬與りて力あり。

(一) 國名、禹の娶る所、女嬌氏をいふ、啓をうむ (二) 夏の桀王の妃、色に美にして德に薄し (三) 湯王の妃 (四) 紂王の妃にて紂王に嬖せられ、その譽むる所は之を貴くし、その憎む所をば之を誅せるをいふ (五) 任は大任にて文王の母、姒は大姒にて武王の母、共に仁にして道に明なり (六) 褒は國名、姒は姓、褒人が育して以て幽王にめあはせしもの (七) 論語に曰く、關雎は樂んで淫せず、哀んで傷らずと。又詩の序に曰く、關雎は后妃の德なりと (八) 魯の宣公の女、成公の妹、宋の恭公に嫁す、淮南子に曰く、宋の伯姬坐燒して死す。春秋之を大とす、その禮を踰えて行かざるを取れるなり (九) 楚の昭王の姬なり (一〇) 名は侶、穆王の子 (一一) 晩也 (一二) 名は鷹 (一三) 首地に至るなり (一四) 諸侯の長也

衛靈公之時。蘧伯玉賢而不レ用。彌子瑕不肖而任レ事。衛大夫史鰌患レ之。數以諫二靈公一而不レ聽。史鰌病且レ死。謂二其子一曰。我即死治二喪於北堂一。吾不レ能下進二蘧伯玉一而退中彌子瑕上。是不レ能レ正レ君也。生不レ能レ正レ君者。死不レ當レ成レ禮。置二尸北堂一。於レ我足矣。史鰌死。靈公往弔。見三喪在二北

衛の靈公の時、蘧伯玉は賢にして用ひられず、彌子瑕は不肖にして事に任せられたり。衛の大夫史鰌之を患へ、數ば以て靈公を諫むれども聽かず。史鰌病んで且に死せんとす。其子に謂つて曰く、我れ即ち死せば、喪を北堂に治めよ。吾れ、蘧伯玉を進めて彌子瑕を退くる能はず。是れ、君を正すこと能はざるなり。生きて君を正すこと能はずんば、死して當に禮を成すべからず。尸を北堂に置かば、我に於て足れりと。史鰌死す。靈公往きて弔す。喪の北堂に在るを見て其故を問ふ。其子具に父の言を以て靈公に對ふ。靈公、蹴然として容を易へ、寤然として位を失ふ。曰く、夫子、生きては則ち賢を進めて不肖を退けんと欲し、死すれども且つ懈らず。又屍を以て諫む、忠にして衰へずと謂ふべしと。是に於て、乃ち蘧伯玉を召して、之を進めて以て卿と爲し、彌子瑕を退け、喪を正堂に徙し、禮を成して後に返れり。衛國以て治る。史鰌、字は子魚、論語に所謂、直なるかな史魚といへる者なり。

堂一。問二其故一。其子具以二父言一對二靈公一。靈公蹴然易レ容。寤然失レ位曰。夫子生則欲三進レ賢而退二不肖一。死且不レ懈。又以レ屍諫。可レ謂二忠而不一レ衰矣。於レ是乃召二蘧伯玉一。而進レ之以爲レ卿。退二彌子瑕一。徙二喪正堂一。成レ禮而後返。衞國以治。史鰌字子魚。論語所謂直哉史魚者也。

(一) 名は元、襄公の庶子　(二) 衞の大夫、名は瑗　(三) 衞の嬖大夫　(四) 鄭玄曰く、不佞にて人の如くならざるをいふ　(五) 恐れて安心し得ぬさま

晉大夫祁奚老。晉君問曰。孰可レ使レ嗣。祁奚對曰。解狐可。君曰。非二子之讎一耶。對曰。君問レ可。非レ問レ讎也。晉遂擧二解狐一。後又問。孰可三以爲二國尉一。祁奚對曰。午也可。君曰。非二子之子一耶。

晉の大夫祁奚老す。(一)晉君問ひて曰く、孰をか嗣たらしむべきと。祁奚對へて曰く、解狐可なりと。君曰く、子が讎に非ずやと。對へて曰く、君可を問ふ、讎を問ふに非ざるなりと。晉遂に解狐を擧げたり。後又問ふ、孰をか以て國尉と爲すべきと。祁奚對へて曰く、午や可なりと。君曰く、子が子に非ずやと。對へて曰く、君、可を問ふ、子を問ふに非ざるなりと。君子謂へらく、祁奚は能く善を擧ぐ。其讎を稱して諂(二)と爲さず、其子を立てて比(三)と爲さず。書に曰く、(四)不偏不黨、王道蕩蕩(五)たりとは、祁奚の謂なり。外擧、仇讎を避けず、內擧、親戚を回せず、至公なりと謂ふべし。唯善、故に能く其類を擧ぐ。(六)詩に曰く、(七)唯其れ

對曰。君問レ可。非レ問レ子也。君子謂。祁奚能擧レ善矣。稱二其讎一不レ爲レ諂。立二其子一不レ爲レ比。書曰。不偏不黨。王道蕩蕩。祁奚之謂也。外擧不レ避二仇讎一。内擧不レ回二親戚一。可レ謂二至公一矣。唯善故能擧二其類一。詩曰。唯其有レ之。是以似レ之。祁奚有焉。

之れあり。是を以て之に似たりと。祁奚有りと。

（一）致仕也、軍尉を辭せしなり　（二）媚也、こびへつらふ也　（三）親近也　（四）周書洪範　（五）不正にして私なき也　（六）詩經小雅裳裳者華篇　（七）たゞ有德の人、能くこれに似る者を擧ぐと也

楚共王有レ疾。召二令尹一曰。常侍筦蘇與レ我處。常忠レ我以レ道。正レ我以レ義。吾與處不レ安也。不レ見不レ思也。雖レ然吾有レ得也。其功不レ細。必厚爵レ之。申侯伯與處。常縱二恣吾一。吾

楚の共王（一）、疾あり。令尹を召して曰く、常侍筦蘇、我と處る、常に我に忠するに道を以てし、我を正すに義を以てす。吾れ與に處りて安んぜざるなり。見ざれども思はざるなり。然りと雖も、吾れ得ることあるなり。其功、細ならず。必ず厚く之を爵せよ。申侯伯與に處る、常に吾を縱恣にす。吾が樂む所の者は、吾に勸めて之を爲し、吾が好む所の者は、吾に先だちて之を服す。吾れ與に處りて之を歡樂す。見ざれば戚戚たり。然りと雖も、吾れ終に得ることなきなり。其過、細ならず。必ず亟（二）に之を遣れと。令尹曰く、諾と。明日王薨ず。令尹

所レ樂者。勸レ吾爲レ之。吾所レ好者。先レ吾服レ之。吾與處歡二樂之一。不レ見戚戚也。雖レ然吾終無レ得也。其過不レ細。必亟遣レ之。令尹曰。諾。明日王薨。令尹即拜二筦蘇一爲二上卿一。而逐二申侯伯一出二之境一。曾子曰。鳥之將レ死。其鳴也哀。人之將レ死。其言也善。言反二其本性一。共王之謂也。故孔子曰。朝聞レ道夕死可矣。於下以開二後嗣一覺中來世上。猶愈二沒レ身不レ寤者一也。

即ち筦蘇を拜して上卿と爲し、而して申侯伯を逐ひて、之を境に出せり。曾子(三)曰く、鳥の將に死せんとする、其の鳴くや哀し。人の將に死せんとする、其の言(四)ふや善しと。言ふこゝろは、其本性に反るなり(五)。共王の謂なり。故に孔子曰く、(六)朝に道を聞かば、夕に死すとも可なりと。以て後嗣を開き、來世を覺すに於て、猶ほ身を沒するまで寤めざる者に愈れり。

(一)名は審、莊王の子　(二)憂ふるさま　(三)字は子輿、孔子の弟子　(四)論語泰伯篇の文　(五)人の性は善なり、その善にかへるをいふ　(六)論語里仁篇の文

昔者魏武侯。謀レ事而當。羣臣莫二能逮一。朝而有二喜色一。吳起進曰。今者

昔者魏の武侯、事を謀りて當り、羣臣、能く逮ぶこと莫し。朝にして喜色あり。(一)吳起進みて曰く、今者、楚の莊王の語を以て聞する者あるかと。武侯曰く、未だし。莊王の語奈何と。吳起曰く、楚の莊王事を謀りて當り、羣臣能く逮ぶこ

有下以二楚莊王之語一聞者上乎。武侯曰。未也。莊王之語奈何。吳起曰。楚莊王謀レ事而當。羣臣莫二能逮一。朝而有二憂色一。申公巫臣進曰。君朝而有二憂色一。何也。莊王曰。吾聞之。諸侯自擇レ師者王。自擇レ友者霸。足レ己而羣臣莫二之若者一亡。今以二不穀之不肖一。而議二於朝一。且羣臣莫二能逮一。吾國其幾二於亡一矣。吾是以有二憂色一也。莊王之所二以憂一。而君獨有二喜色一何也。武侯逡巡而謝曰。天使三夫子振二寡人之過一也。天使三夫子振二寡人之過一也。

と莫し。朝にして憂色あり。申公巫臣(二)進みて曰く、君の朝にして憂色あるは何ぞやと。莊王曰く、吾れ之を聞く、諸侯自ら師を擇ぶ者は王たり。自ら友を擇ぶ者は霸たり。己を足りとして、羣臣之に若く者莫しとするは亡ぶと。今不穀(三)の不肖を以てして、朝に議す。且つ羣臣能く逮ぶこと莫し。吾國其れ亡ぶるに幾からん。吾れ是を以て、憂色あるなりと。莊王の憂ふる所以にして、君獨り喜色あるは何ぞやと。武侯逡巡(四)して謝して曰く、天、夫子をして寡人の過(五)を振はしめしなり。天、夫子をして寡人の過を振はしめしなりと。

(一) 衛の人、嘗て魯に事ふ、魯人之を疑む、去つて魏にゆく、魏以て將となす (二) 楚の縣大夫、皆僭して公と稱す (三) 侯王自ら孤・寡・不穀といふ、穀は善也 (四) 行きて進まざるさま (五) 救也

衛國逐二獻公一。晉悼公謂二師曠一曰。衛人出二其君一。不二亦甚一乎。對曰。或者其君實甚也。夫天生レ民而立二之君一。使レ司二牧之一。無レ使レ失二性一。良君將レ賞二善而除二民患一。愛レ民如レ子。蓋レ之如レ天。容レ之若レ地。民奉二其君一。愛レ之如二父母一。仰レ之如二日月一。敬レ之如二神明一。畏レ之若二雷霆一。夫君神之主也。而民之

一 衛國、獻公(一)を逐ふ。晉の悼公(二)、師曠(三)に謂つて曰く、衛人、其君を出す、亦甚しからずやと。對へて曰く、或は其君實に甚しきならん。夫れ天、民を生じて之が君を立て、之を司牧せしめて、性を失はしむること無からしむ。良君は、將に善を賞して民の患を除かんとす。民を愛すること子の如く、之を蓋ふこと天の如く、之を容るゝこと地の若し。民、其の君を奉じて、之を愛すること父母の如く、之を仰ぐこと日月の如く、之を敬すること神明の如く、之を畏るゝこと、雷霆の若し。夫れ君は神の主なり。而して民の望なり。天の民を愛すること甚し。豈に一人をして、民の上に肆(四)ならしめて、以て其淫を縦にして、天地の性を棄てんや。必ず然らず。若し民の性を困め、神の祀を乏しうし、百姓、望を絶ち、社稷、主なくんば、將た焉ぞ之を用ひんや。去らずして何をか爲さんと。公曰く、善しと。

(一) 名は衎、定公の子、寗殖孫林父、公を逐ふ、公、齊に奔る、事は左傳襄公十四年に在り (二) 名は周、襄公の曾孫 (三) 晉の樂大師、子は子野 (四) 放也

望也。天之愛レ民甚矣。豈使ニ一人肆ニ於民上一。以縱ニ其淫一而棄ニ天地之性一乎。必不レ然矣。若困ニ民之性一。乏ニ神之祀一。百姓絶レ望。社稷無レ主。將焉用レ之。不レ去何爲。公曰善。

趙簡子上ニ羊腸之坂一。羣臣皆偏袒推レ車。而虎會獨擔レ戟行歌。不レ推レ車。簡子曰。寡人上レ坂。羣臣皆推レ車。會獨擔レ戟行歌不レ推レ車。是會爲ニ人臣一侮ニ其主一。爲ニ人臣一侮ニ其主一。其罪何若。虎會對曰。爲ニ人臣一而侮ニ其主一者。死而又死。簡子曰。何

（一）趙簡子、（二）羊腸の坂に上り、羣臣皆偏袒して車を推す。而して虎會獨り戟を擔ひて行く〳〵歌ひ、車を推さず。簡子曰く、寡人、坂に上る。羣臣皆車を推す。會獨り戟を擔ひて行く〳〵歌ひ、車を推さず。是れ會人臣と爲りて其主を侮る。人臣と爲りて其主を侮る。其罪何若と。虎會對へて曰く、人臣と爲りて其主を侮る者は、死にして又死なりと。簡子曰く、何をか死にして又死と謂ふかと。虎會曰く、身死し、妻子又死す。是の若きを死して又死すと謂ふ。君既已に人臣と爲りて其主を侮る者の罪を聞けり。君亦た人君と爲りて、其臣を侮る者を聞けるかと。簡子曰く、人君と爲りて其臣を侮る者は何若と。虎會對へて曰く、人君と爲りて其臣を侮る者は、智者爲に謀らず。辯者爲に使はれず。勇者爲に鬭はず。智者爲に謀らざれば、則ち社稷危く、辯者爲に使はれざれば、則ち使通ぜ

謂二死而又死一。虎會曰。身死妻子又死。若是謂二死而又死一。君既已聞下爲二人臣一而侮二其主一者之罪上矣。君亦聞下爲二人君一而侮二其臣一者上乎。簡子曰。爲二人君一而侮二其臣一者何若。虎會對曰。爲二人君一而侮二其臣一者。智者不二爲謀一。辯者不二爲使一。勇者不二爲鬭一。智者不二爲謀一。則社稷危。辯者不二爲使一。則使不レ通。勇者不二爲鬭一。則邊境侵。簡子曰。善。乃罷二羣臣一不レ推レ車。爲二士大夫一置レ酒。與二羣臣一飮。以二虎會一爲二上客一。

ず。勇者爲に鬭はざれば、則ち邊境侵さると。簡子曰く、善しと。乃ち羣臣を罷めて車を推さざらしめ　士大夫の爲に置酒し、羣臣と飮し、虎會を以て上客と爲せり。

(一) 晉の大夫、名は鞅、景叔の子　(二) 趙の險塞、山形屈折して羊腸の如し　(三) 雙枝を戟といひ、單枝を戈といふ

昔者周舍事二趙簡子一。立二趙簡子之門一。三日三夜。簡子使二人出問一レ之曰。夫子將何以令レ我。周舍曰。願爲二諤諤

昔者周舍、趙簡子に事へ、趙簡子の門に立つこと三日三夜、簡子、人をして出でて之に問はしめて曰く、夫子將た何を以てか我に令せんと。周舍曰く、願はくは諤諤(一)の臣と爲りて、墨筆、牘(二)を操りて君の後に隨ひ、君の過を司りて之を書し、日に記するあらん。月に效あらん。歲に得るあらんと。簡子之を悅び、與に處る。居ること幾何もなくして、周舍死す。簡子厚く之を葬る。三年の後、諸大

之臣。墨筆操牘。隨君之後。司君之過。而書之。日有記也。月有效也。歲有得也。簡子悅之與處。居無幾何而周舍死。簡子厚葬之。三年之後與諸大夫飲。酒酣。簡子泣。諸大夫起而出曰。臣有死罪。而不自知也。簡子曰。大夫反無罪。昔者吾友周舍有言曰。百羊之皮。不如一狐之腋。衆人之唯唯。不如周舍之諤諤。昔紂昏昏而亡。武王諤諤而昌。自周舍之死後。吾未嘗聞君過也。故人君不聞其非。及聞而不改者亡。吾國其幾於亡矣。是以泣也。

夫と飲す。酒酣(三)なり。簡子泣く。諸大夫起ちて出でて曰く、臣、死罪あらん。而も自ら知らざるなりと。簡子曰く、大夫反つて罪なし。昔者吾友周舍言へるあり。曰く、百羊の皮は、一狐の腋に如かず。衆人の唯唯は、周舍の諤諤に如かずと。昔紂は昏昏にして亡び、武王は諤諤にして昌なり。周舍の死より後、吾れ未だ嘗て君の過を聞かざるなり。故に人君、其非を聞かず、聞くに及びて改めざる者は亡ぶ。吾國其れ亡ぶるに幾し。是を以て泣くなりと。

(一) 直言也　(二) 書板也　(三) 醒めず泥醉せざる頃をいふ

魏文侯與士

魏の文侯(一)、士大夫と坐す。問ひて曰く、寡人は何如なる君ぞやと。羣臣皆曰く、

大夫ニ坐。問曰。寡人何如君也。羣臣皆曰。君仁君也。次至ニ翟黄一。曰。君非ニ仁君一也。曰。子何以言レ之。對曰。君伐ニ中山一。不三以封ニ君之弟一。而以封ニ君之長子一。臣以レ此知三君之非ニ仁君一。文侯大怒。而逐ニ翟黄一。黄起而出。次至ニ任座文侯問。寡人何如君也。任座對曰。君仁君也。曰。子何以言レ之。對曰。臣聞レ之。其君仁者其臣直。向翟黄之言直。臣是以知ニ君仁君一也。文侯曰。善。復召ニ翟黄一入。拜爲ニ上卿一。

君は仁君なりと。次いで翟黄に至りて曰く、君は仁君に非ざるなりと。曰く、子、何を以て之を言ふと。對へて曰く、君、中山を伐ち、以て君の弟を封ぜずして、以て君の長子を封ず。臣、此を以て君の仁君に非ざるを知ると。文侯大に怒りて、翟黄を逐ふ。黄、起ちて出づ。次に任座に至る。文侯問ふ、寡人は何如なる君ぞやと。任座對へて曰く、君は仁君なりと。曰く、子何を以てか之を言ふと。對へて曰く、臣之を聞く、其君仁者なれば、其臣直しと。向に翟黄の言直し。臣、是を以て君の仁君なるを知るなりと。文侯曰く、善しと。復た翟黄を召して入れしめ、拜して上卿と爲せり。

(一) 名は都、桓子の孫

中行寅將レ亡。

(一)中行寅、將に亡びんとす。乃ち其(二)太祝を召して、罪を加へんと欲す。曰く、

乃召二其太祝一而欲レ加レ罪焉。曰。子爲二我祝一。犧牲不二肥澤一耶。且齋戒不レ敬耶。使二吾國亡一何也。祝簡對曰。昔者吾先君中行穆子。皮車十乘。不レ憂二其薄一也。憂二德義之不一レ足也。今主君有二革車百乘一。不レ憂二德義之薄一也。唯患二車不一レ足也。夫舟車飾則賦斂厚。賦斂厚則民怨謗詛矣。且君苟以爲二祝有一レ益二於國一乎。則詛亦將爲レ損世亡矣。一人祝レ之。一國詛レ之。一祝不レ勝二萬詛一。國亡不二亦宜一乎。祝其何罪。中行子乃慚。

子、我が祝と爲り、(三)犧牲肥澤ならざるか。且つ、(四)齋戒敬せざるか。吾國をして亡せしむるは何ぞやと。祝簡對へて曰く、昔者吾先君中行穆子、皮車十乘、其薄きを憂へざるなり。德義の足らざるを憂へたり。今主君、(五)革車百乘あり。德義の薄きを憂へずして、唯車の足らざるを患ふるなり。夫れ舟車飾れば、則ち賦斂厚し、賦斂厚ければ則ち民怨み、謗詛す。且つ君苟くも以て祝、國に益ありと爲さば、則ち詛も亦將た損を爲し、世亡ぶ。一人之を祝し、一國之を詛す。一祝は萬詛に勝たず。國の亡ぶる、亦宜ならずや。祝其れ何の罪かあらんと。中行子乃ち慚づ。

(一) 晉の六卿の一、中行文子荀寅なり　(二) 鬼神に事へ、福祥を祈る者　(三) 牛羊豕の色の純なるものにて、神にたてまつるもの　(四) 齋戒潔清ならざるかと也　(五) 革を以て其輪を縵し、其飾を罷め名づけて革車といふ

秦欲伐楚。使使者往觀楚之寶器。楚王聞之。召令尹子西而問焉曰。秦欲觀楚之寶器。吾和氏之璧。隨侯之珠。可以示諸。令尹子西對曰。不知也。召昭奚恤而問焉。昭奚恤對曰。此欲觀吾國得失而圖之。不在寶器。在賢臣。珠玉玩好之物。非寶重者。王遂使昭奚恤

秦、楚を伐たんと欲す。使者をして往きて、楚の寶器を觀しむ。楚王之を聞き、(一)令尹子西を召して問ひて曰く、秦、楚の寶器を觀んと欲す。吾が和氏(二)の璧、(三)隨侯の珠、以て示すべきかと。令尹子西對へて曰く、知らざるなりと。(四)昭奚恤を召して問ふ。昭奚恤對へて曰く、此れ吾國の得失を觀て之を圖らんと欲するなり。寶器にあらず、賢臣に在り。珠玉は(五)玩好の物、寶重なる者に非ずと。王遂に昭奚恤をして之に應ぜしむ。昭奚恤精兵三百人を發し、西門の内に陳し、東面の壇一を爲し、南面の壇四を爲し、西面の壇一を爲す。秦の使者至る。昭奚恤曰く、君は客なり。請ふ、上位に就きて東面せよと。令尹子西南面す。太宗子敖之に次ぎ、葉公子高之に次ぎ、司馬子反之に次ぐ。昭奚恤自ら西面の壇に居る。稱して曰く、客、楚國の寶器を觀んと欲す。楚國の寶とする所の者は賢臣なり。百姓を理め、(六)倉廩を實し、民をして各〻其所を得しむるは、令尹子西此に在り。(七)珪璧を奉じて、諸侯をして(八)忿悁の難を解き、兩國の歡を交さしめて、兵革の憂なから

應之。昭奚恤發精兵三百人。陳於西門之內。爲東面之壇一。爲南面之壇四。爲西面之壇一。秦使者至。昭奚恤曰。君客也。請就上位。東面。令尹子西南面。太宗子敖次之。葉公子高次之。司馬子反次之。昭奚恤自居西面之壇。稱曰。客欲觀楚國之寶器。楚國之所寶

しむるは、太宗子敖此に在り。封彊を守り、境界を謹み、鄰國を侵さず、鄰國にも亦侵されざるは、葉公子高此に在り。師旅を理め、兵戎を整へ、以て彊敵に當り、(九)枹鼓を提げて、以て百萬の衆を動し、使ふ所皆湯火に趨り、白刃を蹈み、萬死を出でて一生の難を顧みざるは、司馬子反此に在り。霸王の餘議(一〇)を懷ひ、治亂の遺風を攝するは、昭奚恤此に在り。唯大國の觀る所のまゝなりと。秦の使者懼然として以て對ふるなし。昭奚恤遂に揖して去る。秦の使者反りて秦君に言ひて曰く、楚に賢臣多し。未だ謀るべからざるなりと。遂に楚を伐たず。詩に(一一)云ふ(一二)、濟濟たる多士(一三)、文王以て寧しと。斯れの謂なり。

(一) 平王の子、昭王の庶兄、令尹公子申也 (二) 本書雜事第五に詳し (三) 隋侯は漢東の國、姫姓の諸侯也。隨侯、大蛇の傷けるを見、藥を以て之をたすく。後、蛇、江中に於て大珠をふくみ、以て之に報ず。因りて隨侯の珠といふ。蓋し明月の珠なり、世以て寶となす (四) 蓋し昭王の子孫ならん、璧を以て好となせるなり (五) 人の玩弄して好む所なるをいふ (六) 穀藏を倉といひ、倉無き處を庾といふ (七) 瑞玉也 (八) 怒也、いかる (九) 鼓を撃つ棒 (一〇) 遺業也 (一一) 詩經大雅文王篇 (一二) 威儀多き也 (一三) 長者多きなり

者賢臣也。理百姓。實倉廩。使民各得其所。令尹子西在此。奉珪璧使諸侯解忿悁之難。交兩國之歡。使無兵革之憂。太宗子敖在此。守封疆。謹境界。不侵鄰國。鄰國亦不見侵。葉公子高在此。理師旅。整兵戎。以當彊敵。提枹鼓以動百萬之衆。所使趨湯火。蹈白刃。出萬死。不顧一生之難。司馬子反在此。懷霸王之餘議。攝治亂之遺風。昭奚恤在此。唯大國之所觀。秦使者懼然無以對。昭奚恤遂揖而去。秦使者反言於秦君曰。楚多賢臣。未可謀也。遂不伐楚。詩云。濟濟多士。文王以寧。斯之謂也。

晉平公欲伐齊。使范昭往觀焉。景公賜之酒。酣。范昭曰。願請君之樽酌。公曰。酌寡人之樽進之於客。范昭已飲。晏子曰。徹樽更之。罇觶具矣。范昭佯醉不悅而起舞。謂太師

晉の平公、齊を伐たんと欲す。范昭をして往きて觀しむ。景公之に酒を賜ひて酣(一)なり。范昭曰く、願はくは、君の樽を請ひて酌まんと。公曰く、寡人の樽を酌して、之を客に進むと。范昭已に飲む。晏子(二)曰く、樽を徹せよと。之が罇觶(三)の具を更む。范昭佯りて醉ひ、悅ばずして起ちて舞ひ、太師に謂つて曰く、能く我が爲に成周の樂を調せよ。吾れ子が爲に之を舞はんと。太師曰く、冥臣(四)習はずと。范昭趨りて出づ。景公、晏子に謂つて曰く、晉は大國なり。使人の來るは將に吾政を觀んとするなり。今子は大國の使者を怒らしむ。將た奈何と。晏子曰く、夫れ范昭の人と爲り、陋にして禮を識らざるに非ざるなり。且つ吾君臣を

曰。能爲レ我調二成周之樂一乎。吾爲レ子舞レ之。太師曰。冥臣不レ習。范昭趨而出。景公謂二晏子一曰。晋大國也。使人來。將レ觀二吾政一也。今子怒二大國之使者一。將柰何。晏子曰。夫范昭之爲レ人。非二陋而不一レ識禮也。且欲レ試二吾君臣一。故絕レ之也。景公謂二太師一曰。子何以不三爲レ客調二成周之樂一乎。太師對曰。夫成周之樂。天子之樂也。若調レ之必人主舞レ之。今范昭人臣也。而欲レ舞二天子之樂一。臣故不レ爲也。范昭歸以告二平公一曰。齊未レ可レ伐也。臣欲レ試二其君一。而晏子識レ之。臣欲レ犯二其禮一。而太師知レ之。仲尼聞レ之曰。夫不レ出二於樽俎之間一。而

試みんと欲してなり。故に之を絕てるなりと。景公、太師に謂つて曰く、子何を以て客の爲に、成周の樂を調せざりしかと。太師對へて曰く、夫れ成周の樂は、天子の樂なり。若し之を調すれば、必ず人主之を舞ふ。今范昭は人臣なり。而るに天子の樂を舞はんと欲す。臣故に爲さざるなりと。范昭歸つて以て平公に告げて曰く、齊は未だ伐つべからざるなり。臣、其君を試みんと欲すれば、晏子之を識れり。臣、其禮を犯さんと欲すれば、太師之を知れりと。仲尼之を聞きて曰く、夫れ、樽俎の間を出でずして、千里の外を知るとは、其れ晏子の謂なり。折衝すと謂ふべし。而して太師其れ與れりと。

㈠名は彪、悼公の子　㈡名は嬰、字は仲、謚は平、桓子の子　㈢酒器、饗者之を用ふ　㈣師曠は盲目なり、故に冥臣といふ

知二千里之外一。其晏子之謂也。可レ謂二折衝一矣。而太師其與焉。

晉平公浮二西河一。中流而歎曰。嗟乎安得二賢士一與二共此樂一者。船人固桑進對曰。君言過矣。夫劍產二于越一。珠產二江漢一。玉產二昆山一。此三寶者。皆無レ足而至。今君苟好レ士。則賢士至矣。平公曰。固桑來。吾門下食客者。三千餘人。朝食不レ足。暮收二市租一。暮食不レ足。朝收二市租一。吾尚可レ謂レ不レ好レ士乎。固桑對曰。今夫鴻鵠高飛沖レ天。然其所レ恃者六翮耳。夫腹下之毳。背上之毛。增二去一把一。飛不レ爲二高下一。不レ知君之食客六翮邪。將

晉の平公、西河に浮び、中流にして歎じて曰く、嗟乎安にか賢士を得て、此樂を與に共にする者あらんと。船人固桑進んで對へて曰く、君の言過てり。夫れ劍は于越（一）に產し、珠は江漢に產し、玉は昆山に產す。此三寶は、皆足なくして至る。今、君苟も士を好まば、則ち賢士至らんと。平公曰く、固桑來れ、吾門下食客なる者三千餘人、朝食足らざれば、暮に市租を收む。暮食足らざれば、朝に市租を收む。吾れ尚ほ士を好まずと謂ふべけんやと。固桑對へて曰く、今夫れ鴻鵠高く飛びて天に沖る（二）。然れども其の恃む所の者は六翮（三）のみ。夫れ腹下の毳（四）、背上の毛、一把を增去して、飛ぶこと高下を爲さず。知らず君の食客は六翮なるか、將た腹背の毳なるかと。平公默然として應へず。

（一）于は發聲にて于越は夷言也　（二）至也　（三）羽莖也　（四）鳥の腹の毛

腹背之毳也。乎公默然而不レ應焉。

楚威王問二於宋玉一曰。先生其有二遺行一邪。何士民衆庶不レ譽之甚也。宋玉對曰。唯然有レ之。願大王寬二其罪一。使レ得レ畢二其辭一。客有下歌二於郢中一者上。其始曰二下里巴人一。國中屬而和者數千人。其爲二陽陵採薇一。國中屬而和者數百人。其爲二陽春白雪一。國中

楚の威王、宋玉(一)に問ひて曰く、先生其れ遺行(二)あるか。何ぞ士民衆庶譽めざるの甚しきと。宋玉對へて曰く、唯然り。之れあらん。願はくは、大王其罪を寬うして、其辭を畢すことを得しめよ。客、郢中(三)に歌ふ者あり。其始を下里巴人と曰ふ。國中屬して和する者數千人。其の陽陵採薇を爲す、國中屬して和する者數百人。其の陽春白雪を爲す。國中屬して和する者數十人のみなり。商を引き角を刻し、雜ふるに流徵を以てするに、國中屬して和する者數人に過ぎず。是れ其曲彌よ高き者は、其和彌よ寡し。故に鳥に鳳あり、魚に鯨あり。鳳鳥上に九千里に擊ち、浮雲を絕ち、蒼天を負ひ、(四)窈冥の上に翺翔す。夫れ糞田の鷃(五)、豈に能く之と天地の高きを斷ぜんや。鯨魚、朝に崑崙の墟(六)を發し、鬐(七)を碣石に暴し、暮に孟諸(八)に宿す。夫れ尺澤(九)の鯢、豈に能く之と江海の大を量らんや。故に獨り鳥に鳳ありて魚に鯨あるのみに非ざるなり。士も亦之を有す。夫れ聖人は、瑰意(一〇)

屬而和者數十人而已也。引ㇾ商刻ㇾ角。雜以二流徵一。國中屬而和者。不ㇾ過二數人一。是其曲彌高者。其和彌寡。故鳥有ㇾ鳳。而魚有ㇾ鯨。鳳鳥上擊二于九千里一。絕二浮雲一。負二蒼天一。翺二翔乎窈冥之上一。夫糞田之鴳。豈能與ㇾ之斷二天地之高一哉。鯨魚朝發二崑崙之虛一。暴二鬐於碣石一。暮宿二於孟諸一。夫尺澤之鯢。豈能與ㇾ之量二江海之大一哉。故非二獨鳥有ㇾ鳳而魚有ㇾ鯨也。士亦有ㇾ之。夫聖人瑰意奇行。超然獨處。世俗之民。又安知二臣之所ㇾ爲哉。

奇行、超然として獨處す。世俗の民、又安ぞ臣の爲す所を知らん。

(一) 郢の人、楚の大、屈原の弟子 (二) 賤棄すべき行 (三) 楚の國都、文王始めて之に都す (四) 絕遠の處 (五) 小鳥、うづらの一種、かやぐき (六) ふもと (七) 海畔の山 (八) 大澤の名 (九) 小なる澤 (一〇) 瑰は大也、奇は美也

晉平公間居。師曠待坐。平公曰。子生無二目眹一。甚矣子之墨墨也。師曠對曰。天下有二五墨墨一。而臣不ㇾ得ㇾ與ㇾ一焉。平公曰。何謂也。師曠曰。

晉の平公間居す。師曠侍坐す。平公曰く、子、生れて目眹(一)なし。甚しいかな、子の墨墨(二)たることと。師曠對へて曰く、天下に五墨墨あり。而して臣、一に與ることを得ずと。平公曰く、何の謂ぞやと。師曠曰く、羣臣、賂を行ひ、以て名譽を采り、百姓侵寃(三)、告訴する所なし。而して君悟らず。此れ一の墨墨なり。忠臣用ひられず。臣の不忠を用ひ、下才高きに處り、不肖、賢に臨み、而して君悟らず。此れ二の墨墨なり。姦臣欺詐(四)、府庫を空虛にし、其少才を以て其惡を覆塞

羣臣行レ賂。以采二名譽一。百姓侵寃。無レ所レ告訴一。而君不レ悟。此一墨墨也。忠臣不レ用。用二臣不忠一。下才處レ高。不肖臨レ賢。而君不レ悟。此二墨墨也。姦臣欺詐。空二虛府庫一。以二其少才一。覆二塞其惡一。賢人逐。姦邪貴。而君不レ悟。此三墨墨也。國貧民罷。上下不レ和。而好レ財用レ兵。嗜欲無レ厭。諂諛之人。容容在レ旁。而君不レ寤。此四墨墨也。至道不レ明。法令不レ行。吏民不レ正。百姓不レ安。而君不レ悟。此五墨墨也。國有二五墨墨一而不レ危者未二之有一也。臣之墨墨。小墨墨耳。何害二乎國家一哉。

し、賢人逐はれ、姦邪貴ばる。而して君悟らず。此れ三の墨墨なり。國貧に民罷れ、上下和せず。而して財を好み兵を用ひて嗜欲厭くことなし。諂諛の人、容容(五)として旁に在り。而して君寤めず。此れ四の墨墨なり。至道明ならず、法令行はれず、吏民正しからず、百姓安からず。而して君悟らず。此れ五の墨墨なり。國に五墨墨ありて、而も危からざる者は、未だ之れあらざるなり。臣の墨墨は、小墨墨のみ。何ぞ國家に害あらんやと。

(一) 目精也、ひとみ　(二) 闇昧なる也　(三) 屈也　(四) 寶藏と武器ぐら　(五) 衆なるさま

趙文子問二於叔向一曰。晉六將軍孰先亡

(一)趙文子、(二)叔向に問ひて曰く、晉の六(三)將軍、孰れか先に亡びんかと。對へて曰く、其れ中行氏ならんかと。文子曰く、何の故に先に亡びんと。對へて曰く、中行氏

乎。對曰。其中行氏乎。文子曰。何故先亡。對曰。中行氏之爲政也。以苛爲察。以欺爲明。以刻爲忠。以計多爲善。以聚斂爲良。譬之其猶鞟革者也。大則大矣。裂之道也。當先亡。

の政を爲すや、苛(四)を以て察と爲し、欺を以て明と爲し、刻を以て忠となし、計多(五)を以て善となし、聚斂を以て良と爲す。之を譬ふるに、其れ猶ほ鞟革(六)のごときなり。大は則ち大なり。裂の道なり。當に先づ亡ぶべしと。

(一) 趙朔の子、武の諡なり (二) 羊舌職の子、肸の字 (三) 韓魏趙范中行知伯也 (四) 細也、煩也 (五) 會計也 (六) 毛を去りし皮

楚莊王既討陳靈公之賊。殺夏徵舒。得夏姬而悅之。將近之。申公巫臣諫曰。此女亂陳國敗其羣臣。嬖女不可近也。莊王從之。令尹

楚の莊王、既に陳の靈公(一)の賊を討ち、夏徵舒(二)を殺し、夏姬(三)を得て之を悅び、將に之を近づけんとす。申公巫臣諫めて曰く、此女は、陳國を亂し、其羣臣を敗れり。嬖女、近づくべからざるなりと。莊王之に從ふ。令尹又取らんと欲す。申公巫臣諫む。令尹、之に從ふ。後、襄尹之を取る。恭王、晉と鄢陵(五)に戰ふに至りて、楚兵敗れ、襄尹死す。其尸反らず(四)。數ば晉に求むれども、與へず。夏姬、請ふ、晉に如きて尸を求めんと。楚方に之を遣る。申公巫臣、將に齊に使せんとす。私

又欲レ取。申公巫臣諫。令尹從レ之。後襄尹取レ之。至三恭王與レ晉戰二于鄢陵一。楚兵敗。襄尹死。其尸不レ反。數求レ晉不レ與。夏姬請レ如レ晉求レ尸。楚方遣レ之。申公巫臣將レ使レ齊。私說二夏姬一與謀。及二夏姬行一而申公巫臣廢二使命一道亡。隨二夏姬一之レ晉。令尹將レ徙二其族一言二之於王一曰。申公巫臣諫二先王一以レ無レ近二夏姬一。今身廢二使命一。與二夏姬一逃之レ晉。是欺二先王一也。請徙二其族一。王曰。申公巫臣爲二先王一謀則忠。自爲謀則不忠。是厚二於先王一而自薄也。何罪二於先王一。遂不レ徙。

に夏姬に說きて與に謀る。夏姬の行くに及びて、申公巫臣、使命を廢して道より亡げ、夏姬に隨ひて晉に之く。令尹、將に其族を徙さんとし、之に王に言ひて曰く、申公巫臣、先王を諫むるに、夏姬を近づくることなきを以てす。今身、使命を廢し、夏姬と逃れて晉に之く。是れ先王を欺けるなり。請ふ、其族を徙さんと。王曰く、申公巫臣、先王の爲に謀れば則ち忠、自ら爲に謀れば則ち不忠。是れ先王に厚くして自ら薄きなり。何ぞ先王に罪あらんやと。遂に徙さず。

㊀ 左傳宣公十年十一年、成公二年に詳なり、靈公名は平國、共公の子 ㊁ 陳の大夫、字は子南、御叔の子也

㊂ 鄭の穆公の少妃、姚子の女、美好たぐひなし ㊃ 楚の襄尹なり ㊄ 鄭の地、事は左傳成公十六年に詳し

昔者唐虞崇舉九賢。布之於位。而海内大康。要荒來賓。麟鳳在郊。商湯用伊尹。而文武用太公閎夭。成王任周召。而海内大治。越裳重譯。祥瑞並降。遂安千載。皆由任賢之功也。無賢臣。雖五帝三王。

卷第二

雜事第二

昔者唐虞(一)、九賢(二)を崇び舉げて、之に位を布く。而して海内大に康く、要荒(三)來賓し、麟鳳、郊に在り。商湯、伊尹(五)を用ひ、而して文・武、太公(六)・閎夭を用ひ、成王(七)、周・召(八)に任じて、海内大(四)に治れり。越裳(九)、譯を重ね、祥瑞(一〇)並び降り、遂に千載を安んず。皆賢に任ずるの功によるなり。賢臣なければ、五帝三王(一一)と雖も、以て興ること能はず。齊の桓公(一二)、管仲(一三)を得て、諸侯に霸たるの榮あり。管仲を失ふときは、危亂の辱あり。虞(一四)は百里奚を用ひずして亡び、秦の繆公(一五)之を用ひて霸たり。楚、伍子胥(一六)を用ひずして破れ、吳の闔廬(一七)、之を用ひて霸たり。夫差(一八)は、徒に子胥を用ひざるのみなるに非ず、又之を殺し、而して國卒に以て亡びたり。燕の昭王(一九)、樂毅を用ひて、弱燕の兵を推し、彊齊の讎を破り、七十城を屠れり。

不能以興。齊桓公得管仲。有霸諸侯之榮。失管仲而有危亂之辱。虞不用百里奚而亡。秦繆公用之而霸。楚不用伍子胥而破。吳闔廬用之而霸。夫差非徒不用子胥也。又殺之。而國卒以亡。燕昭王用樂毅。推弱燕之兵破彊齊之讎。屠七十城。而惠王廢樂毅。更代

而るに惠王は、樂毅を廢し、更め代ふるに騎劫を以す。兵立ろに破れ、七十城を亡へり(二〇)。此れ父之を用ひて子用ひざるなり。其事見るべし。故に闔廬は子胥を用ひて以て興り、夫差は之を殺して以て亡び、昭王は樂毅を用ひて以て勝ち、惠王は之を逐ひて以て敗れたり。此れ的的然として白黑の若し。秦は叔孫通を用ひず、項王は陳平(二一)・韓信を用ひずして皆滅び、漢は之を用ひて大に興れり(二二)。此れ未だ遠からざるなり。夫れ賢を失ふ者は、其禍彼れの如く、賢を用ふる者は、其福此れの如し。人君、賢を求めて以て自ら輔けざる莫し。然して國の以て亂亡する皆は、所謂賢者賢ならざればなり。或は賢者をして之を爲さしめて、不肖者と之を議り、智者をして、之を圖らしめ、愚者と之を謀れば、不肖は賢を嫉み、愚者は智を嫉む。是れ賢者の隔蔽せらるゝ所以なり。千載合はざる所以の者なり。或は不肖は賢を用ふれども、而も久しきこと能はざるなり。或は久しきも、而も終ふる能はざるなり。或は不肖の子、賢父の忠臣を廢するは、其禍敗、一二に錄

以騎劫。兵立破。亡二七十城一。此父用レ之子不レ用。其事可レ見也。故闔廬用二子胥一以興。夫差殺レ之而以亡。昭王用二樂毅一以勝。惠王逐レ之而敗。此的的然若二白黑一。秦不レ用二叔孫通一。項王不レ用二陳平韓信一而皆滅。漢用レ之而大興。此未レ遠也。夫失レ賢者。其禍如レ彼。用レ賢者其福如レ此。人

し難きなり。然れども其要は、己れ不明にして衆口に聽くに在り。譖愬行はれず、斯を明と爲すなり。魏の龐恭、太子と邯鄲に質たり。(一三)魏王に謂つて曰く、今一人來り言ふ、市中に虎ありと。王之を信ぜんかと。王曰く、否と。曰く、二人言はば、王之を信ぜんかと。曰く、寡人疑はんと。曰く、三人言はば、王之を信ぜんかと。曰く、寡人取を信ぜんと。龐恭曰く、夫れ市に虎なきこと明けし。三人言ひて虎と成す。今邯鄲、魏を去ること市よりも遠く、臣を議する者三人に過ぐ。願はくは王之を察せよと。魏王曰く、寡人之を知れりと。龐恭、邯鄲より反るに及び、讒口果して至り、遂に見ゆることを得ず。

(一) 堯は初め唐侯たり。後天子と爲る。陶に都す。故に陶唐といふ、虞は舜の氏、因つて以て天下を有するの號となせり (二) 禹・稷・契・皐陶・倕・伯夷・夔龍・益なり (三) 要服・荒服にて、要服は、王城を去る千五百里の地、荒服は王城を去る二千里の地 (四) 殷の湯王也。契始め商に封ぜらる。湯王は因りて以て天下を有するの號となせり (五) 名は摯、湯王の師にて、後これを臣となせる也 (六) 太公は、太公望呂尚にて、文王の師、姓は姜、名は牙。閎は姓、夭は名 (七) 武王の子、名は誦 (八) 周は、周公旦、諡は文公。召は、召公奭、諡は康公、周と同姓 (九) 交趾の南の國、成王の時、越裳氏、九譯を重ねて來り、白雉を周公に獻ぜり (一〇) めでたき太平の兆 (一一) 五帝

君莫レ不ニ求レ賢以自輔一。然而國以亂亡者。所レ謂賢者不レ賢也。或使ニ賢者爲一レ之。與ニ不肖者一議レ之。使ニ智者圖一レ之。與ニ愚者一謀レ之。不肖嫉レ賢。愚者嫉レ智。是賢者之所ニ以隔蔽一也。所ニ以千載不一レ合者也。或不肖用レ賢而不レ能レ久也。或久而不レ能レ終也。或不肖子廢ニ賢父之忠臣一。其禍敗雖ニ一二錄一也。然其要在ニ於已不明而聽ニ衆口一。譖愬不レ行。斯爲レ明也。魏龐恭與ニ太子一質ニ於邯鄲一。謂ニ魏王一曰。今一人來言市中有レ虎。王信レ之乎。王曰。否。曰。二人言。王信レ之乎。曰。寡人疑矣。曰。三人言。王信レ之乎。曰。寡人信レ之矣。龐恭曰。夫市之無レ虎明矣。三人言而成レ虎。今邯鄲去レ魏遠ニ於市一。議レ臣者過ニ三人一。願王察レ之也。魏王曰。寡人知レ之矣。及下龐恭自ニ邯鄲一反上。讒口果至。遂不レ得レ見。

は、黃帝・顓頊・帝嚳・堯・舜。三王は、禹王・湯王・文王武王　(一二) 名は小白、僖公の子　(一三) 名は夷吾、齊の卿　(一四) もと姬姓なりしが、百里に家せるを以て、因つて氏とす　(一五) 名は任好　(一六) 楚の人、名は員、伍奢の子　(一七) 名は光、諸樊の子　(一八) 吳王夫差、齊を伐たんとす。子胥諫む。王、屬鏤の劍を賜ふ。子胥以て自刎せしをいふ　(一九) 名は午、子噲の子　(二〇) 昭王の子　(二一) 薛の人、秦の二世皇帝の時、亡げて漢王に降れり　(二二) 陳平は戸牖鄕の人、初め楚の項羽に屬せしが、羽その策を用ひざりしかば、亡げて漢に歸せり。韓信は淮陰の人、亦羽に屬せしが、後に漢に歸せり　(二三) 魏の太子也

甘茂下蔡人也。西入レ秦數有レ功。至ニ武王一以爲ニ左丞相一。樗里子爲ニ右

甘茂は、下蔡の人なり。西のかた秦に入りて、數ば功あり。武王(一)に至りて以て左丞相(二)となり、樗里子(三)、右丞相と爲る。樗里子及び公孫子(四)は、皆秦の諸公子なり。其外家は韓なり。數ば韓を攻む。秦の武王、甘茂に謂つて曰く、寡人、車

丞相。樗里子及公孫子。皆秦諸公子也。其外家韓也。數攻韓。秦武王謂甘茂曰。寡人欲容車至周室者。其道乎韓之宜陽。欲使甘茂伐韓取宜陽。以通道至周室。甘茂曰。請約魏與伐韓。令向壽輔行。甘茂既約魏。許。甘茂還至息壤。謂向壽曰。子歸言之王。魏聽臣矣。

を容れて周室に至らんと欲する者は、其れ韓の宜陽に道せんとてなり。甘茂をして、韓を伐ち宜陽を取らしめて、以て道を通じて周室（五）に至らんと欲すと。甘茂曰く、請ふ、魏に約して與に韓を伐たんと。向壽（六）をして輔行（七）たらしむ。甘茂既に魏に約す。許す、甘茂還りて息壤（八）に至り、向壽に謂つて曰く、子、歸りて之を王に言へ、魏は臣に聽せり。然れども願はくは、王、伐つこと勿れと。向壽歸りて以て、王に告ぐ。王甘茂を息壤に迎へて、其故を問ふ。對へて曰く、宜陽は大縣（九）なり。名縣たり。其實は郡なり。今王（一〇）、數險（一一）に倍き、千里を行き、之を攻むること難し。昔者曾參の鄭に處るや、人の曾參と名姓を同じうする者あり。人を殺す。人、其母に告げて曰く、曾參人を殺せりと。其母織りて、自若たり。頃然にして、一人又來りて之を告ぐ。其母曰く、吾が子は人を殺さじと。頃ありて、一人又來り告ぐ、其母、杼を投じて機を下り、墻を踰えて走る。夫れ曾參の賢と、其母の之を信ずることを以てして、然も三人之を疑へば、其母懼る（一二）。今臣の賢や

然願王勿伐也。向壽歸以告王。王迎甘茂於息壤問其故。對曰。宜陽大縣也。名爲縣。其實郡也。今王倍數險行千里。攻之難。昔者曾參之處鄭。人有與曾參同名姓者。殺人。人告其母曰。曾參殺人。其母織自若也。頃然一人又來告之。其母曰。吾子不殺人。有頃一人

曾參に若かず。王の臣を信ずるや、又曾參が母の曾參を信ずるに如かざるなり。臣を疑はしむる者、特り三人のみに非ざるなり。臣恐らくは、大王の杼を投ぜんことをと。魏の文侯、樂羊をして將として中山を攻めしむ。三年しにて之を拔く、(一三)樂羊反りて功を語ぐ。文侯、之に謗書一篋を示す。樂羊再拜稽首して曰く、此れ臣の功に非ざるなり。主君の力なり。今臣は羈旅なり。(一四)樗里子・公孫子二人、韓を挾んで議せば、王必ず之を信ぜん。是れ王、魏を欺きて、臣、韓の怨を受くるなりと。王曰く、寡人聽かざるなりと。宜陽を伐たしむ。五月にして宜陽未だ拔けず、樗里子・公孫子、果して之を爭ふ。武王、甘茂を召して兵を罷めんと欲す。甘茂曰く、息壤は彼に在りと。王曰く、之を有せよと。因りて悉く兵を起し、甘茂をして將として、之を擊たしむ。遂に宜陽を拔く。武王薨ずるに及びて、昭王立つ。樗里子・公孫子之を讒す。甘茂、罪に遇ひて卒に齊に奔る。故に至明に非ずんば、其れ孰れか能く讒を用ふること毋からんや。

又來告。其母投ㇾ杼下ㇾ機。踰ㇾ墻而走。夫以三曾參之賢與二其母信ㇾ之也。然三人疑ㇾ之。其母懼焉。今臣之賢也。不ㇾ若二曾參一。王之信ㇾ臣也。又不ㇾ如三曾參之母之信二曾參一也。疑ㇾ臣者非二特三人一也。臣恐大王投ㇾ杼也。魏文侯令三樂羊將而攻二中山一。三年而拔ㇾ之。樂羊反而語ㇾ功。文侯示二之謗書一篋一。樂羊再拜稽首曰。此非二臣之功一也。主君之力也。今臣羈旅也。樗里子公孫子二人。挾ㇾ韓而議。王必信ㇾ之。是王欺ㇾ魏。而臣受二韓之怨一也。王曰。寡人不ㇾ聽也。使ㇾ伐二宜陽一。五月而宜陽未ㇾ拔。樗里子公孫子果爭ㇾ之。武王召二甘茂一欲ㇾ罷ㇾ兵。甘茂曰。息壤在ㇾ彼。王曰。有ㇾ之。因悉起ㇾ兵。使二甘茂將擊ㇾ之。遂拔二宜陽一。及二武王薨一。昭王立。樗里子公孫子讒ㇾ之。甘茂遇ㇾ罪。卒奔ㇾ齊。故非二至明一。其孰能毋ㇾ用ㇾ讒乎。

(一)名は蕩、惠王の子 (二)丞は承也、相は助也、君命を承けて之を助くる義 (三)名は疾、惠王の異母弟 (四)名は衍 (五)洛邑にて、王城 (六)宣太后の外族 (七)副使 (八)秦の邑 (九)春秋の時、郡は縣に屬す。趙簡子の所謂上大夫は縣を受け、下大夫は郡を受くといへるは是れなり。戰國の時、縣は郡に屬し、所謂上郡十五縣といへる者これなり (一〇)函谷及び三崤五谷をいふ (一一)背也 (一二)其母をして疑はしめしをいふ (一三)樂羊の中山を得、還反りて文侯に報じ、功を貴ぶの色ありしをいふ (一四)羈は寄也、旅は客也、甘茂は齊の人故に羈旅といへるなり

楚王問二羣臣一曰。吾聞北方畏二昭奚恤一。亦誠何如。江乙答曰。虎求二百

楚王、羣臣に問ひて曰く、吾れ聞く、北方は昭奚恤を畏ると。亦誠に何如と。江乙(一)答へて曰く、虎、百獸を求めて之を食ふ。一狐を得たり、狐の曰く、子、敢へて我を食ふこと毋れ。天帝、我をして百獸に長たらしむ(二)。今子、我を食まば、

獸一食レ之。得二一狐一。狐曰。子毋三敢食二我也。天帝令三我長二百獸一。今子食レ我。是逆二帝命一也。以レ我爲二不信一。吾爲レ子先行。子隨二我後一觀。百獸見レ我無レ不レ走。虎以爲然。隨而行。獸見レ之皆走。虎不レ知二獸畏レ己而走一也。以爲畏レ狐也。今王地方五千里。帶甲百萬。而專任二之於昭奚恤一也。北方非レ畏二昭奚恤一也。其實畏二王之甲兵一也。猶二百獸之畏一レ虎。故人臣而見レ畏者。是見二君之威一也。君不レ用則威亡矣。

是れ帝の命に逆るなり。我を以て不信と爲さば、吾れ子が爲に先だちて行かん。子、我が後に隨ひて觀よ。百獸我を見ば、走らざるなけんと。虎以爲へらく、然りと。隨ひて行く。獸之を見て皆走る。虎、獸の己れを畏れて走ることを知らず。以爲へらく、狐を畏るゝなりと。今王、地方五千里、帶甲百萬、而して專ら之を昭奚恤に任ず。北方、昭奚恤を畏るゝに非ざるなり。其實は、王の甲兵を畏るゝなり、猶ほ百獸の虎を畏るゝがごとし。故に人臣にして畏れらるゝ者は、是れ君の威を見すなり。君用ひざれば則ち威亡ぶと。

(一)魏の人　(二)虎は猛物にて、百獸の長たり。

魯君使三宓子

魯君、宓子賤(一)をして單父(二)の宰たらしむ。子賤辭し去るとき、因りて善く書する

賤爲二單父宰一。子賤辭去。因請ㇾ借二善ㇾ書者二人一。使ㇾ書二憲書教品一。魯君予ㇾ之。至二單父一使ㇾ書。子賤從ㇾ旁引二其肘一。書醜則怒ㇾ之。欲二好書一則又引ㇾ之。書者患ㇾ之。請二辭而去一。歸以告二魯君一。魯君曰。子賤苦下吾擾ㇾ之。使ㇾ不ㇾ得ㇾ施二其善政一也。乃命二有司一。無ㇾ得三擅徵二發單父一。單父之化大治。故孔子曰。君子哉子賤。魯無二君子一者。斯安取ㇾ斯。美二其德一也。

者二人を借らんと請ふ。憲書教品を書せしめんとなり。魯君之を予ふ。單父に至りて書せしむ。子賤、旁より其肘を引く。書醜なれば則ち之を怒る。好く書せんと欲すれば則又之を引く。書する者之を患ふ。辭して去らんと請ふ。歸つて以て魯君に告ぐ。魯君曰く、子賤、吾が之を擾りて、其善政を施すことを得ざらしむるを苦みてなり。乃ち有司に命じ、擅に單父に徵發することを得るなからしむ。單父の化大に治る。故に孔子曰く、君子なるかな子賤、魯に君子なかりせば、斯れ安ぞ斯れを取らんと。其德を美めしなり。

㈠魯の人名は不齊　㈡縣の名　㈢胥節也　㈣徵は召也

楚人有下獻二魚楚王一者上。曰。今日漁獲。食ㇾ之

楚人、魚を楚王に獻ずる者あり。曰く、今日漁獲、之を食ふに盡きず、之を賣るに售れず、之を棄つるは又惜し。故に來り獻ぜりと。左右曰く、鄙しいかな辭

不盡。寶之不售。棄之又惜。故來獻也。左右曰。鄙哉辭也。楚王曰。子不知漁者仁人也。蓋聞囷倉粟有餘者。國有餓民。後宮多幽女者。下民多曠夫。餘衍之蓄。聚於府庫者。境內多貧困之民。皆失君人之道。故庖有肥魚。廐有肥馬。民有餓色。是以亡國之君。藏於府庫。寡人聞之久矣。未能行也。漁者知之。其以此諭寡人也。且今行之。於是乃遣

やと。楚王曰く、子は漁者の仁人なるを知らざるなり。蓋し聞く、囷倉の粟餘ある者は、國に餓民あり、後宮に幽女多き者は、下民に曠夫多く、餘衍の蓄の府庫に聚る者は、境内に貧困の民多し。皆人に君たるの道を失ふ、故に庖に肥魚あり、廐に肥馬あり、民に餓色あり、是を以て亡國の君は、府庫に藏むと。寡人之を聞くや久し。未だ行ふこと能はざるなり。漁者之を知れり。其れ此れを以て寡人を諭せり。且つ今之を行はんと。是に於て乃ち使を遣して、鰥寡を恤みて孤獨を存し、倉粟を出し、幣帛を發して不足を振ふ。後宮の御せざる者を罷め去り、出して以て鰥夫に妻す。楚民欣欣として大に悅ぶ。鄰國之に歸す。故に漁者壹たび餘魚を獻じて、楚國之に賴る仁智なりと謂ふべし。

(一) 倉の形の圓なる者を囷といふ　(二) 衍も餘也　(三) 老いて妻なきを鰥といひ、老いて夫なきを寡といふ　(四) 幼にして父なきを孤といひ、老いて子なきを獨といふ

使恤二鰥寡一而存二孤獨一。出二倉粟一發二幣帛一。而振二不足一。罷二去後宮不レ御者一。出以妻二鰥夫一。楚民欣欣大悅。鄰國歸レ之。故漁者壹獻二餘魚一。而楚國賴レ之。可レ謂二仁智一矣。

昔者鄒忌以レ鼓レ琴見二齊宣王一。宣王善レ之。鄒忌曰。夫琴所二以象一レ政也。遂爲レ王言二琴之象レ政狀。及霸王之事一。宣王大悅。與語三日。遂拜以爲レ相。齊有二稷下先生一。喜レ議二政事一。鄒忌既爲二齊相一。稷下先生淳于髡之屬。七十二人皆輕レ忌。以

昔者鄒忌(一)、琴を鼓するを以て齊(二)の宣王に見ゆ。宣王之を喜みす。鄒忌曰く、夫れ琴は、政に象る所以なりと。遂に王の爲に、琴の政に象る狀及び霸王の事を言ふ。宣王大に悅ぶ。與に語ること三日、遂に拜して以て相と爲す。齊に稷下先生といふものあり。喜んで政事を議す。鄒忌既に齊の相と爲る。稷下先生・淳(三)于髡の屬七十二人、皆忌を輕んず。以謂へらく、設くるに辭を以てせば、鄒忌及ぶこと能はじと。乃ち相與に倶に往きて鄒忌を見る。淳于髡の徒禮倨れり。鄒忌の禮卑くす。淳于髡等曰く、狐白の裘、之を補ふに弊羊皮を以てせば何如と。鄒忌曰く、敬んで諾す。請ふ、敢へて賢に雜ふるに、不肖を以てせずと。淳于髡曰く、(四)方内にして員釭ならば如何と。鄒忌曰く、敬んで諾す。請ふ、門内を謹み、敢へて賓客を留めずと。淳于髡等曰く、三人共に一羊を牧(五)ふ。羊、食を得ず、

謂設以レ辭。鄒忌不レ能レ及。乃相與俱往見二鄒忌。淳于髠之徒禮倨。鄒忌之禮卑。淳于髠等曰。狐白之裘。補レ之以二弊羊皮。何如。鄒忌曰。敬諾。請不三敢雜レ賢以二不肖。淳于髠曰。方内而員釭如何。鄒忌曰。敬諾。請三謹門内一不三敢留二賓客。淳于髠等曰。三人共牧二一羊一。羊不レ得レ食。人亦不レ得レ息何如。鄒忌曰。敬諾。減レ吏省レ員。使レ無レ擾レ民也。淳于髠等三稱。鄒忌三

人も亦息を得ず。何如と。鄒忌曰く、敬んで諾す。吏を減じ員を省き、民を擾すことなからしめんと。淳于髠等三稱し、鄒忌三つながら之を知り、響に應ずるが如し。淳于髠等辭屈して去れり。鄒忌の禮倨れり。淳于髠等の禮卑くす。故に(六)干將莫邪を尙ぶ所以の者は、其の立ろに斷つを貴ぶなり。(七)騏驥を貴ぶ所以の者は、其の立ろに至るを爲せばなり。必ず且つ日を歷ること曠久なれば、(八)絲氂も猶ほ能く石を(九)挈ち、駑馬も亦能く遠きを致す。是を以て聰明捷敏は、人の美材なり。(一〇)子貢曰く、(一一)回や、一を聞きて以て十を知ると。敏捷を美めしなり。

(一)名は衍　(二)齊は田氏、仲完の後、宣王は名は辟彊、威王の子　(三)齊の贅壻なり、長け七尺に滿たず、滑稽多辯　(四)方内は、方枘也、員釭は圓鑿なり、圓き穴に四角の枘をいれんとしても入りがたきより、物の齟齬して入りがたきにいふ。釭は空也　(五)養也　(六)干將は吳の人、劍二振を造る。一を干將といひ、一を莫邪といふ　(七)駿馬　(八)十忽を絲となし十絲を毫となし十毫を氂となす　(九)絜也、測也　(一〇)姓は端木、名は賜、字は子貢孔子の門人　(一一)論語公冶長篇の文。回は顏回にて、字は子淵、魯の人、孔子の高弟

知之。如應響。淳于髡等辭屈而去。鄒忘之禮倨。淳于髡等之禮卑。故所以尙干將莫邪者。貴其立斷也。所以貴騏驥者。爲其立至也。必且歷日曠久乎。絲氂猶能挈石。駑馬亦能致遠。是以聰明捷敏。人之美材也。子貢曰。回也聞一以知十。美敏捷也。

昔者燕相得罪於君。將出亡。召門下諸大夫曰。有能從我出者乎。三問。諸大夫莫對。燕相曰。嘻亦有士之不足養也。大夫有進者曰。亦有君之不能養士。安有士之不足養者。凶年饑歲。士糟粕不厭。而君之犬馬。有餘穀粟。隆

昔者燕の相、罪を君に得て、將に出亡せんとす。門下諸大夫を召して曰く、能く我に從ひて出づる者あらんかと。三たび問ふ、諸大夫對ふる莫し。燕の相曰く、嘻、亦士の養ふに足らざることあるなりと。大夫の進む者ありて曰く、亦君の能士を養ふことはざること有るのみ。安ぞ士の養ふに足らざる者あらん。凶年饑歲には、士、糟粕をだも厭かず。而るに君の犬馬、穀粟を餘すあり。隆冬烈寒には、士、短褐(一)完からず、四體蔽はず。而るに君の臺觀(二)、帷幰(三)錦繡風に隨ひて飄飄たり。而して財を弊すは君の輕んずる所なり。死は、士の重ずる所なり。君、君の輕んずる所を施すこと能はずして、而も士の重んずる所を得るを求むるは、亦難からずやと。燕の相、遂に慙ぢて遁逃す。復た敢へて見ず。

(一) 褐は毛布　(二) 觀は登りて以て遠觀すべきもの　(三) 幰は幃也

冬烈寒、士短褐不完。四體不蔽。而君之臺觀帷簾錦繡。隨風飄飄。而弊。財者君之所輕。死者士之所重也。君不能施君之所輕。而求得士之所重。不亦難乎。燕相遂慚遁逃。不復敢見。

晉文公出獵。前驅曰。前有大蛇。高如隄。阻道竟之。文公曰。寡人聞之。諸侯夢惡則修德。大夫夢惡則脩官。士夢惡則脩身。如是而禍不至矣。今寡人有過。天以戒寡人。還車而反。前驅曰。臣聞之。喜者無賞。怒者無刑。今禍福已

晉の文公、出獵す。前驅曰く、前に大蛇あり。高きこと隄の如く、道を阻てて之を竟ふ。文公曰く、寡人之を聞く、諸侯夢惡しければ則ち德を脩む。大夫は夢惡しければ則ち官を脩む。士は夢惡しければ則ち身を脩む。是の如くして禍至らざるなり。今寡人過あり。天以て寡人を戒むと。車を還して反る。前驅曰く、臣之を聞く、喜ぶ者賞なく、怒る者刑なしと。今禍福已に前に在り。變ずべからず。何ぞ遂に之を驅らざると。文公曰く、然らず。夫れ神は道に勝たず、而して妖も亦德に勝たず。禍福未だ發せず。猶ほ化すべきなりと。車を還して反る。宿齋三日、廟に請ひて曰く、孤少にして、犧肥えず、幣厚からず、罪一なり。孤、弋獵を好み、度數なし。罪二なり。孤、賦斂を多くし、刑罰を重くす。罪三なり。請ふ、今より以來は、關市に征なく、澤梁に賦斂なく、罪人を赦し、舊

在レ前矣。不レ可レ變。何不ニ遂驅一レ之。文公曰。不レ然。夫神不レ勝レ道。而妖亦不レ勝レ德。禍福未レ發。猶可レ化也。還レ車反。宿齋三日。請ニ於廟一曰。孤少犧不レ肥。幣不レ厚。罪一也。孤好ニ弋獵一。無ニ度數一。罪二也。孤多ニ賦斂一重ニ刑罰一。罪三也。請自レ今以來者。關市無レ征。澤梁無ニ賦斂一。赦ニ罪人一。舊田半稅。新田不レ稅。行ニ此令一未ニ半旬一。守蚰吏夢天帝殺レ蚰曰。何故當ニ聖君道一爲。而罪當レ死。發夢視レ蚰臭腐矣。謁レ之。文公曰。然。夫神果不レ勝レ道而妖亦不レ勝レ德。奈何其無ニ究レ理而任一レ天也。應レ之以レ德而已。

田は半稅、新田は稅せずと。此令を行ひ、未だ半旬ならずして、守蚰の吏の夢に天帝、蚰を殺して曰く、何の故にか、聖君の道に當ることを爲すか。而か罪、死に當すと。發夢して蚰を視れば、臭腐なり。之を謁す。文公曰く、然らん。夫れ神は果して道に勝たず、而して妖も亦德に勝たず。奈何ぞ其れ理を究めて天に任ずること無からんや。之に應ずるに德を以てするのみと。

㊀ 名は重耳、獻公の子　㊁ 前夜より齋戒する也　㊂ 租稅

梁君出獵。見ニ白鴈羣一。梁君下レ車。彀レ弓欲レ射レ之。道有ニ行者一。梁君謂ニ行者一。

梁君出獵す。白鴈の羣を見る。梁君、車より下り、弓を彀して之を射んと欲す。道に行く者あり。梁君、行者に止れと謂ふ。行く者止らず。白鴈の羣駭す。梁君怒る。行く者を射んと欲す。其御公孫襲、車を下り矢を撫して曰く、君止れ

者止。行者不止。白鴈羣駭。梁君怒。欲射行者。其御公孫襲下車撫矢曰。君止。梁君忿然作色而怒曰。襲不與其君。而顧與他人。何也。公孫襲對曰。昔齊景公之時。天大旱三年。卜之曰。必以人祠乃雨。景公下堂頓首曰。凡吾所以求雨者。爲吾民也。今必使吾以人祠。乃且雨。寡人將自當之。言未卒。而天大雨方千里者何也。爲有德於天而惠

と。梁君、忿然色を作して怒りて曰く、襲は其君に與せずして、顧みて他人に與せるは何ぞやと。公孫襲對へて曰く、昔齊の景公の時、天大に旱すること三年なり。之を卜す。曰く、必ず人を以て祠らば、乃ち雨らんと。景公、堂を下り頓首して曰く、凡そ吾が雨を求むる所以の者は、吾が民の爲なり。今必ず吾をして、人を以て祠らしめば、乃ち且に雨ふらんとす、寡人將に自ら之に當らんとすと。言未だ卒らずして、天大に方千里に雨らす者は何ぞや。天に德ありて、民を惠むが爲なり。今主君、白鴈の故を以てして、人を射んと欲す。襲謂へらく、主君の言、虎狼に異なることなしと。梁君、其手を援きて與に車に上す。歸りて廟門に入る。萬歲を呼んで曰く、幸なるかな。今日や、他人の獵は皆禽獸を得るに、吾獵は善言を得て歸れりと。

(一) 弓を張る也　(二) 龜甲をやきてうらなふ也　(三) 引也

於民上田。今主君以二白鴈之故一。而欲レ射レ人。襲謂二主君一言。無レ異二於虎狼一。梁君援二其手一與上レ車。歸入二廟門一呼二萬歲一曰。幸哉今日也。他人獵皆得二禽獸一。吾獵得二善言一而歸。

武王勝レ殷。得二二虜一而問焉曰。而國有レ妖乎。一虜答曰。吾國有レ妖。晝見レ星而雨レ血。此吾國之妖也。一虜答曰。此則妖也。雖レ然非二其大者一也。吾國之妖。其大者子不レ聽レ父。弟不レ聽レ兄。君令不レ行。此妖之大者也。

武王、殷に勝ち、二虜を得て問ひて曰く、國に妖あるかと。一虜答へて曰く、吾國に妖あり。晝、星を見て血を雨らす。此れ吾國の妖なりと。一虜答へて曰く、此れ則ち妖なり。然りと雖も、其大なる者に非ざるなり。吾國の妖、(一)其大なる者は、子、父に聽かず、弟、兄に聽かず、君の令行はれず。此れ妖の大なる者なりと。

(一) 親に孝に、長を敬し、君に忠なるは、人道の常、常にもとる者は、眞妖なりと

晉文公出田。逐レ獸。碭入二大澤一。迷不レ知レ所レ出。其中有二漁者一。文公謂曰。

晉の文公、出でて田す。(一)獸を逐ふ。碭つて(二)大澤に入る。迷ひて出づる所を知らず。其中に漁者あり。文公謂つて曰く、我は(三)若が君なり。道、安より出づるか。我れ且つ厚く若に賜はんと。漁者曰く、臣願はくは獻ずるあらんと。公曰

我若君也。道安從出。我且厚賜若。漁者曰。臣願有獻。公曰。出澤而受之。於是遂出澤。公令曰。子之所欲以教寡人者何等也。願受之。漁者曰。鴻鵠保河海之中。厭而欲移。徙之小澤。則必有丸繒之憂。黿鼉保深淵。厭而出之淺渚。則必有羅網釣射之憂。今君逐獸。碭

く、澤を出でて之を受けんと。是に於て遂に澤を出づ。公令して曰く、子の以て寡人に教へんと欲する所の者は何等ぞ。願はくは之を受けんと。漁者曰く、鴻鵠河海の中に保んず。厭ひて移らんと欲す。小澤に徙れば、則ち必ず丸繒の憂あり、黿鼉、深淵に保んず。厭ひて淺渚に出づれば、則ち必ず羅網釣射の憂あり。今君獸を逐ひ、碭つて入りて此に至る。何ぞ行くことの太だ遠きやと。文公曰く、善いかなと。從者に謂へらく、漁者の名を記せよと。漁者曰く、君何ぞ名を以てするを爲さんや。君其れ天を尊び地に事へ、社稷を敬し、四國を固め、萬民を慈愛し、賦斂を薄くし、租稅を輕くせば、臣も亦與る。君、社稷を敬せず、四國を固めず、外、禮を諸侯に失し、內、民心に逆ひ、一國流亡せば、漁者、厚賜を得と雖も、保つこと能はざるなりと。遂に辭して受けずして曰く、君亟に國に歸れ。臣も亦吾が漁所に反らんと。

(一) 禽を取る也　(二) 過也　(三) 汝也　(四) 繳を矢に結ぶを繒といふ　(五) 黿は大鼈鼉は鮫に似て大なるもの

入至ㇾ此。何行之太遠也。文公曰。善哉。謂二從者一記二漁者名一。漁者曰。君何以ㇾ名爲。君其尊ㇾ天事ㇾ地。敬二社稷一固二四國一慈二愛萬民一薄二賦斂一輕二租稅一者。臣亦與焉。君不ㇾ敬二社稷一不ㇾ固二四國一外失二禮於諸侯一内逆二民心一。一國流亡。漁者雖ㇾ得二厚賜一不ㇾ能ㇾ保也。遂辭不ㇾ受曰。君亟歸ㇾ國。臣亦反二吾漁所一。

晉文公逐ㇾ麋而失ㇾ之。問二農夫老古一曰。吾麋何在。老古以ㇾ足指曰。如ㇾ是往。公曰。寡人問。子以ㇾ足指何也。老古振ㇾ衣而起曰。一不ㇾ意人君如ㇾ此也。虎豹之居也。厭ㇾ閑而近ㇾ人。故得。魚鼈之居也。厭ㇾ深而之ㇾ淺。

晉の文公、(一)麋を逐ひて之を失ふ。農夫老古に問ひて曰く、吾が麋何にか在ると。老古、(二)足を以て指して曰く、是の如く往けと。公曰く、寡人問ふ、子、足を以て指すは何ぞやと。老古、衣を(三)振へて起ちて曰く、一に意はざりき、人君此の如しとは、虎豹の居や、(四)閑を厭ひて人に近づく。故に得。魚鼈の居や、深を厭ひて淺に之く。故に得。諸侯、衆を厭ひて其國を亡す。(五)詩に云ふ、(六)維れ鵲巢あり、維れ鳩之に居りと。君放にして歸らずんば、人將に之に君たらんとす。是に於て文公恐れて歸る。(七)欒武子に遇ふ。欒武子曰く、獵に獸を得しか。而して悅べる色ありと。文公曰く、寡人、麋を逐ひて之を失ひ、善言を得たり。故に悅色ありと。欒武子曰く、其人安に在るかと。曰く、吾れ未だ與に來らざるなりと。欒武

故得。諸侯叛レ衆而亡二其國一。詩云。維鵲有レ巣、維鳩居レ之。君放不レ歸。人將レ君レ之。於レ是文公恐歸。遇二欒武子一。欒武子曰。獵得レ獸乎。而有二悅色一。文公曰。寡人逐レ麋而失レ之。得二善言一。故有二悅色一。欒武子曰。其人安在乎。曰。吾未二與來一也。欒武子曰。居二上位一而不レ恤二其下一。驕也。緩レ令急レ誅。暴也。取二人之言一而棄二其身一。盜也。文公曰。善。還載二老古一與俱歸。

子曰く、上位に居て、其下を恤まざるは驕なり。令を緩くし誅を急にするは暴なり。人の言を取りて其身を棄つるは盜なりと。文公曰く、善しと。還つて老古を載せて、與に俱に歸る。

(一) 麋の屬 (二) 老古、其質、文公を知る。激して後に之を諫めんと欲す。故に足を以て之を指せる也 (三) 獸也 (四) 穴也 (五) 詩經召南鵲巣篇 (六) 鳩は自ら巣をつくらず、鵲の巣に居るをいふ (七) 名は書、欒盾子

扁鵲見二齊桓侯一。立有レ間。扁鵲曰。君有レ疾。在二腠理一。不レ治將レ恐深。桓侯曰。寡人無レ疾。

扁鵲、齊の桓侯に見ゆ。立つこと間あり。扁鵲曰く、君、疾あり、腠理に在り。治せずんば、將に恐らくは深からんとすと。桓侯曰く、寡人疾なしと。扁鵲出づ。桓侯曰く、醫の利を好むや、疾まざるを治めて、以て功と爲さんと欲すと。居ること十日、扁鵲復た見えて曰く、君の疾、肌膚に在り。治せずん

扁鵲出。桓侯曰、醫之好利也。欲治不疾以爲功。居十日。扁鵲復見曰。君之疾在肌膚不治將深。桓侯不應。扁鵲出。桓侯不悅。居十日。扁鵲復見曰。君之疾在腸胃不治將深。桓侯不應。扁鵲出。桓侯又不悅。居十日。扁鵲復見。望桓侯而還走。桓侯使人問之。扁鵲曰。疾

ば將に深からんとすと。桓侯應ぜず。扁鵲出づ。桓侯悅ばず。居ること十日、扁鵲復た見えて曰く、君の疾、腸胃に在り。治せずんば將に深からんとすと。桓侯應ぜず。扁鵲出づ。桓侯又悅ばず。居ること十日、扁鵲復た見ゆ。桓侯を望みて還り走る。桓侯、人をして之を問はしむ。扁鵲曰く、疾の腠理に在るは湯熨(五)の及ぶ所なり。肌膚に在るは、鍼石の及ぶ所なり。腸胃に在るは、大劑(六)の及ぶ所なり。骨髓に在るは、司命(七)の奈何ともすることなき所なり。今骨髓に在り。臣、是を以て請ふことなきなりと。居ること五日、桓侯の體痛む。人をして扁鵲を索めしむ。扁鵲已に逃げて秦に之く。桓侯遂に死す。故に良醫の疾を治むるや、之を腠理に攻む(八)。此事は皆之を小に治むる者なり。夫れ事の禍福も亦腠理の地あり。故に聖人は蚤く事に從ふ。

(一) 鄭の人、姓は秦、名は越人、齊を過ぐ。齊の桓公之を客とせるなり。名醫 (二) 名は午、田和の子 (三) 屈字の誤、居は居の古文 (四) 皮膚の間 (五) 身體の患部を湯にて溫むること (六) 火劑の誤、酒醪也 (七) 病を司命する意にて醫をいふ (八) 治也

在腠理。湯熨之所及也。在肌膚。鍼石之所及也。在腸胃。火劑之所及也。在骨髓。司命之所無奈何也。今在骨髓。臣是以無請也。居五日。桓侯體痛。使人索扁鵲。扁鵲已逃之秦矣。桓侯遂死。故良醫之治疾也。攻之於腠理。此事皆治之於小者也。夫事之禍福。亦有腠理之地。故聖人蚤從事矣。

莊辛諫楚襄王曰。君王左州侯。右夏侯。從新安君與壽陵君。同軒淫衍侈靡。而忘國政。郢其危矣。王曰。先生老惛歟。妄爲楚國妖歟。莊辛對曰。臣非敢爲楚妖。誠見之也。君王卒近此四子者。則楚必

(一)莊辛、楚の襄王を諫めて曰く、君王、州侯を左にし、夏侯を右にし、新安君と(二)壽陵君とを從へ、軒を同じうして、淫衍侈靡(三)にして國政を忘る。郢は其れ危しと。王曰く、先生老惛せるか(四)、妄に楚國の妖を爲すかと。莊辛對へて曰く、臣は敢へて楚の妖を爲すに非ざるなり。誠に之を見ればなり。君王、卒に此四子なる者を近づけば則ち楚必ず亡びん。辛請ふ、趙に留りて以て之を觀んと。是に於て十月を出でずして、王果して巫山・江漢・鄢郢の地を亡ふ。是に於て王乃ち莊辛を召さしめ、趙より至らしむ。辛至る。王曰く、噫、先生來れるか。寡人、先生の言を用ひざるを以て、此に至れり。之を爲す奈何と。莊辛曰く、君王、辛の言を用ふれば則ち可なり。辛の言を用ひずんば、又將に此より甚しからんとす。庶人稱

亡矣。辛請留於趙以觀之。於是不出二十月。王果亡巫山江漢鄢郢之地。於是王乃使召莊辛。至於趙。辛至。王曰、嘻先生。來耶。寡人以不用先生言。至于此。爲之奈何。莊辛曰。君王用辛言則可。不用辛言。又將甚乎此。庶人有稱曰。亡羊而固牢。未爲遲。見鬼而呼狗。未

するあり。曰く、羊を亡ひて牢を固くす、未だ遅しと爲さず。鬼を見て狗を呼ぶ。未だ晩しと爲さずと。湯・武(五)は百里を以て王たり。桀・紂は天下を以て亡へり。今楚、小なりと雖も、長を絶ち短を繼ぎ、千里を以て數ふ。豈に特に百里のみならんや。且つ君王獨り夫の青蛉(六)を見ずや。六足四翼、天地の間に蜚翔し、蚊虻を求めて之を食ふ。甘露を時として之を飲む。自ら以爲へらく、患なく、民と爭ふなしと。五尺の童子の、絲竿に膠して、之を四仞の上に加へて、下蟲蛾の食と爲るを知らざるのみ。青蛉は猶ほ其小なる者なり。夫れ爵(七)は、俛しては白粒を啄み、仰いで茂樹に棲み、其翼を鼓し、其身を奮ひ、自ら以爲へらく、患なく、民と爭ふなしと。公子王孫、左に彈を把り、右に丸を攝り、操持を定め、參連(八)を審にすることを知らず。故に晝は茂樹に遊びて、夕に酸鹹(九)に和せらる。爵は猶ほ其小なる者なり。

(一) 楚の人　(二) 名は璜、懷王の子　(三) 楚の襄王の佞臣、夏侯・新安君・鄢陵君共に楚の寵幸の臣　(四) 偲は罷也

爲レ晩。湯武以二百里一王。桀紂以二天下一亡。今楚雖レ小。絶レ長繼レ短。以二千里一數。豈特百里哉。且君王獨不レ見二夫蜻蛉一乎。六足四翼。飛二翔乎天地之間一。求二蚊虻一而食レ之。時二甘露一而飲レ之。自以爲レ無レ患。與レ民無レ爭也。不レ知下五尺之童子。膠二絲竿一。加二之乎四仞之上一。而下爲中螻蟻食上已。蜻蛉猶其小者也。夫爵俛啄二白粒一。仰棲二茂樹一。鼓二其翼一。奮二其身一。自以爲レ無レ患。與レ民無レ爭也。不レ知下公子王孫。左把レ彈右攝レ丸。定二操持一。審中參連上。故晝遊二乎茂樹一。夕和二乎酸鹹一。爵猶其小者也。

(五)閑養の圈也　(六)蜻蛉にて、とんぼ　(七)雀　(八)五射の一、前に一矢を放ち後、三矢連續して去るゝ也　(九)調理して食に供せらるゝと也

鴻鵠嬉二遊乎江漢一。息二留乎大沼一。俛啄二鰋鯉一。仰奮二陵衡一。脩二其六翮一而陵二清風一。飄搖高翔。一擧千里。自以爲レ無レ患。與レ民無レ爭也。不レ知下弋者

鴻鵠、江漢に嬉遊し、大沼に息留す。俛して鰋鯉を啄み、仰いで陵衡に奮ふ。其六翮を脩めて清風を陵ぎ、飄搖として高く翔り、一擧千里、自ら以爲へらく、患なく、民と爭ふなしと。弋者、其弓弩を選び、其防禦を脩め、繒繳を其頸に加へ、百仞の上に投じ、纎繳(一一)を引きて微波を揚げ、清風を折きて殞すことを知らず。故に朝に江河に遊びて、暮に鼎俎に調せらる。鴻鵠は猶ほ其小なる者なり。(一二)蔡侯の事故是れなり。蔡侯、南のかた高陵に遊び、北のかた巫山を徑り、(一三)[illegible]

選二其弓弩一。脩二其防翳一。加二繒繳其頸一。投二乎百仞之上一。引二纖繳一揚二微波一。折二清風一而殞上。故朝遊二乎江河一。而暮調二乎鼎俎一。鴻鵠猶其小者也。蔡侯之事故是也。蔡侯南遊二乎高陵一。北徑二乎巫山一。逐二麋麛麏鹿。彍谿子隨。時鳥嬉二遊乎高蔡之囿一。溢滿無レ涯。不下以二國家一爲中事。不レ知下子發受二令宣王一。厄以二淮水一。以二塡巫山一。庚子之朝纓以二朱絲一。臣而奏中之乎宣王上也。蔡侯之事。猶其小者也。今君王之事。遂以左二州侯一。右二夏侯一。從三新安君與二壽陵君一。

鹿を逐ふ。(五)彍谿子隨ふ。時鳥、高蔡の囿に嬉遊す。溢滿涯なし。國家を以て事と爲さず。子發、令を宣王に受け、厄するに淮水を以てし、塡するに巫山を以てし、庚子の朝、(六)纓するに朱絲を以てして、臣をして之を宣王に奏することを知らず。蔡侯の事、猶ほ其小なる者なり。今君王の事、遂に以て州侯を左にし、夏侯を右にし、新安君と壽陵君とを從へ、淫衍侈靡、康樂遊娯、雲夢の中に馳騁し、天下と國家とを以て事と爲さず。(七)穰侯方に秦王と謀り、之を賓ぐに黽厄を以てし、之を黽塞の外に投ずるを知らずと。(八)襄王大に懼れ、(九)形體掉栗して曰く、謹んで令を受けんと。乃ち莊辛を封じて、成陵君と爲して計を用ふ。與に淮北の地十二諸侯を擧げたり。

(一) 陵は菱、衡は草にて共に水草　(二) いぐるみにて射るもの　(三) 蔡の聖侯也　(四) 鹿の屬　(五) 弓の達人　(六) 係累する也　(七) 名は魏冉、秦の昭王の母宣太后の弟　(八) 昭王　(九) 身戦慄する也

淫衍修靡康樂遊娛。馳騁乎雲夢之中。不以天下與國家爲事。不知穰侯方與秦王謀。寘之以龍厄。而投之乎黽塞之外。襄王大懼。形體掉栗曰。謹受令。乃封莊辛爲成陵君而用計焉。與擧淮北之地十二諸侯。

魏文侯出遊。見路人反裘而負芻。文侯曰。胡爲反裘而負芻。對曰。臣愛其毛。文侯曰。若不知其裏盡。而毛無所恃邪。明年東陽上計。錢布十倍。大夫畢賀。文侯曰。此非所以賀我也。譬無異夫路人反裘而負芻也。將愛其毛。不知其裏盡毛無所恃也。今吾田地不加廣。士民不加衆。而錢十倍。必取之士大夫也。吾聞之。下不安者。上不可居也。此所以賀我也。

魏の文侯出遊す。路人の、裘を反して芻を負ふを見る。文侯曰く、胡爲れぞ裘を反して芻を負ふと。對へて曰く、臣、其毛を愛むと。文侯曰く、若は其裏盡きて毛の恃む所なきを知らざるかと。明年東陽、計を上る。錢布十倍す。大夫畢賀す。文侯曰く、此れ我を賀する所以に非ざるなり。譬へば、夫の路人の、裘を反して芻を負ふや、將た其毛を愛んで、其裏盡きて、毛の恃む所なきことを知らざるに異なるなきなり。今吾が田地、廣を加へず、士民、衆を加へず。而も錢十倍す。必ず之を士大夫に取れるならん。吾れ之を聞く、下、安からざる者は、上居るべからざるなりと。此れ我を賀する所以ならんやと。

（一）計會也、議計を會といふ

楚莊王問二於孫叔敖一曰。寡人未レ得レ所三以爲二國是一也。孫叔敖曰。國之有レ是。衆非之所レ惡也。臣恐王之不レ能レ定也。王曰。不レ定獨在レ君乎。亦在レ臣乎。孫叔敖曰。國君驕レ士。曰下士非レ我無中道貴富上。士驕レ君。曰國非レ士無中道安强上。人君或至レ失レ國而不レ悟。士或至二飢寒一而不レ進。君臣不レ合。國是無レ道レ定矣。夏桀殷紂不レ定二國是一。而以下合二其取舍一者上爲レ是。以下不レ合二其取舍一者上爲レ非。故致レ亡而不レ知。莊王曰。善哉。願相國與二諸侯士大夫一共定二國是一。寡人豈敢以二褊國一驕二士民一哉。

楚の莊王(一)、孫叔敖に問ひて曰く、寡人未だ國是を爲す所以を得ざるなりと。孫叔敖曰く、國の是あるは、衆非の惡む所なり。臣恐らくは、王の定む能はざらんことを。王曰く、定らざること、獨り君に在るか。亦臣に在るかと。孫叔敖曰く、國君、士に驕れば、士、我に非ざれば、貴富する道(二)なしと曰ふ。士、君に驕れば、曰く、國、士に非ざれば、安强なる道なしと曰ふ。人君或は國を失ふに至りて悟らず。士或は飢寒に至りて進まず。君臣合はず。國是定る道なし。夏桀・殷紂、國是を定めずして、其取舍を合する者を以て是となし、其取舍を合せざる者を以て非と爲す。故に亡を致して知らずと。莊王曰く、善いかな。願はくは相國、諸侯・士大夫と共に國是を定めよ。寡人豈に敢へて、褊國(三)を以て士民に驕らんやと。

(一) 楚僭號して王を稱す。故にその臣も亦諸侯と稱す　(二) 攸也、ところ　(三) 褊は側也。褊小の國

楚莊王蒞レ政三年。不レ治而好二隱戲一。社稷危。國將レ亡。士慶問二左右羣臣一曰。王蒞レ政三年不レ治。而好二隱戲一。社稷危。國將レ亡。胡不二入諫一。左右曰。子其入矣。士慶入再拜而進曰レ隱。有二大鳥一。來止二南山之陽一。三年不レ蜚不レ鳴。不レ審二其故一。何也。王曰。子其去矣。寡人知レ之矣。士慶曰。臣

楚の莊王、政に蒞むこと（一）三年、治せずして隱戲を好む。社稷危く、國將に亡びんとす。士慶、左右・羣臣に問ひて曰く、王、政に蒞むこと三年にして治せず。而して隱戲を好む。社稷危く、國將に亡びんとす。胡ぞ入りて諫めざると。左右曰く、子、其れ入れと。士慶入り、再拜して進んで隱を曰ふ。大鳥あり、來りて南山の陽に止る。三年蜚ばず、鳴かず。其故を審にせず。何ぞやと。王曰く、子、其れ去れ。寡人之を知れりと。士慶曰く、臣、言ふも亦死し、言はざるも亦死す。願はくは其說を聞かんと。王曰く、此鳥の蜚ばざるは、以て羽翼を長ぜんとてなり。鳴かざるは、以て羣臣の應を觀んとてなり。是鳥蜚ばずと雖も、蜚ばば必ず天に（二）沖らん。鳴かずと雖も、鳴かば必ず人を驚かさんと。士慶、稽首して曰く、願ふ所は、聞かんのみと。王大に士慶の問を悅びて、之を拜して以て令尹と爲し、之に相印を授く。士慶喜んで門を出で、左右を顧みて笑ひて曰く、吾王は（三）成王なりと。（四）中庶子之を聞き、跪きて泣きて曰く、臣、衣冠を倚し、御郞た

言亦死。不レ言亦死。願聞二其說一。王曰。此鳥不レ蜚。以長二羽翼一。不レ鳴以觀二羣臣之慝一。是鳥雖レ不レ蜚。蜚必沖レ天。雖レ不レ鳴。鳴必驚レ人。士慶稽首曰。所レ願聞已。王大悅二士慶之問一。而拜レ之以爲二令尹一。授二之相印一。士慶喜出レ門。顧二左右一笑曰。吾王成王也。中庶子聞レ之跪而泣曰。臣尙二衣冠一。御郞十三年矣。前爲二豪矢一而後爲二藩蔽一。王賜二士慶相印一。而不レ賜レ臣。臣死將レ有レ日矣。王曰。寡人居二泥塗中一。子所下與二寡人一言上者。內不レ及二國家一。外不レ及二諸侯一。如レ子者可レ富而不レ可レ貴也。於レ是乃出二其國寶璧玉一以賜レ之曰。忠信者士之行也。言語者士之道路也。道路不二修治一。士無レ所レ行矣。

ること十三年、前には豪矢(五)と爲り、後には藩蔽となれり。王、士慶に相印を賜ひて、臣に賜はず。臣が死將に日あらんとすと。王曰く、寡人、泥塗の中に居り。子寡人と言ふ所の者は、內、國家に及ばず、外、諸侯に及ばず。子が如き者は、富ましむべくして貴くすべからざるなりと。是に於て乃ち其國寶璧玉を出して以て之に賜ひて曰く、忠信は士の行なり。言語は士の道路なり。道路修治せざればば士行く所なしと。

(一) 臨也　(二) 至也　(三) 全德の王の意、成は成人の成也　(四) 侍御左右の臣　(五) 豪、嚆と通ず。嚆矢は、矢の猛なるもの、かぶらや

靖郭君欲城薛。而客多以諫。君告謁者。無爲客通事。於是有一齊人。曰、臣願一言。過一言。臣請烹。謁者贊客。客曰海大魚。因反走。靖郭君曰、請少進。客曰、否。臣不敢以死戲。靖郭君曰、譆。寡人毋得已。試復道之。客曰、君獨不聞海大魚乎。網弗能止。繳不能牽。碭而失

（一）靖郭君、薛に城かんと欲す。而して客多く以て諫む。君、（二）謁者に告ぐらく、客の爲に事を通ずるなかれと。是に於て一齊人あり。曰く、臣願はくは一言せん。一言を過ぎば、臣請ふ、（三）烹られんと。謁者、客を贊す。客、（四）海大魚と曰ひて、因りて反り走る。靖郭君曰く、請ふ、少しく進めと。客曰く、否、臣敢へて死を以て戲れずと。靖郭君曰く、譆、寡人得ること毋し。試みに復た之を道へと。客曰く、君獨り海大魚を聞かずや。網も止むること能はざるなり。繳も牽くこと能はざるなり。（五）碭つて水を失ひて陸居すれば、則ち螻蟻意を得るなり。且つ夫れ齊も亦君の水なり。君已に齊を有す。奚ぞ薛を以てするを爲さん。君若し齊なくんば、薛に城くとも、猶ほ且つ益なけんと。靖郭君大に悅び、民を罷して薛に城かず。

㊀ 靖郭君田嬰は、齊の威王の少子。宣王の弟。薛に封ぜらる　㊁ 通謁を掌る　㊂ 鼎鑊の誅をうけんと也　㊃ 客が、海大魚を以て一言となせる也　㊄ 離也

水陸居。則螻蟻得レ意焉。且夫齊亦君之水也。君已有レ齊。奚以レ薛爲。君若無レ齊。城レ薛猶且無レ益也。靖郭君大悦。罷レ民弗レ城レ薛也。

齊有二婦人一。極醜無雙。號曰二無鹽女一。其爲レ人也。臼頭深目。長壯大節。昻鼻結喉。肥項少髮。折腰出胷。皮膚若レ漆。行年三十。無レ所二容入一。衒レ嫁不レ售。流棄莫レ執。於レ是乃拂二拭短褐一。自詣二宣王一。願二一見一。謂二謁者一曰。妾齊之不レ售女也。聞二君王

齊に婦人あり。極醜無雙、號して無鹽女と曰ふ。其の人と爲りや、臼頭深目、長壯大節、昻鼻結喉、肥項少髮、折腰出胷、皮膚漆の若し。行年三十、容れ入るゝ所なし。嫁を衒(一)すれども售れず。流棄執る莫し。是に於て乃ち短褐を拂拭して自ら宣王に詣り、一見を願ふ。謁者に謂つて曰く、妾は齊の售れざる女なり。君王の聖德を聞く、願はくは後宮の掃除に備らん。司馬(二)門外に頓首す。唯だ王幸に之を許せと。謁者以て聞す。宣王方に漸臺(三)に置酒す。左右之を聞き、口を掩ひて大に笑はざる莫し。曰く、此れ天下强顏(四)の女子なりと。是に於て宣王乃ち召して之を見る。謂つて曰く、昔先王、寡人の爲に妃匹を取る。皆已に備りて列位あり。寡人今日鄭衞の聲を聽く。嘔吟感傷、激楚(五)の遺風を揚ぐ。今夫人、鄉里の布衣に容れられず。而して萬乘の主を干(六)めんと欲す。亦奇能あるかと。無鹽女對

之聖德。願備後宮之掃除。頓首司馬門外。唯王幸許之。謁者以聞。宣王方置酒於漸臺。左右聞之。莫不掩口而大笑。曰。此天下强顏女子也。於是宣王乃召而見之。謂曰。昔先王爲寡人取妃匹。皆已備有列位矣。寡人今日聽鄭衞之聲。嘔吟感傷。揚激楚之遺風。今夫人不容鄉里布衣。而欲干萬乘之主。亦有奇能乎。無鹽女對曰。無有。直竊慕大王之美義耳。王曰。雖然何喜。良久曰。竊嘗喜隱。王曰。隱固寡人之所願也。試一行之。言未卒。忽然不見矣。宣王大驚。立發隱書而讀之。退而惟之。又不能得。

へて曰く、有ること無し。直ちに竊に大王の美義を慕ふのみと。王曰く、然りと雖も何をか喜むと。良や久しうして曰く、竊に嘗て隱を喜むと。王曰く、隱は固より寡人の願ふ所なり。試みに一たび之を行へと。言未だ卒らざるに、忽然として見えず。宣王大に驚き、立ちどころに、隱書を發して之を讀む。退きて之を惟ふ。又得べからず。

(一) 自ら責る也　(二) 外門也　(三) 池中に設けたる臺　(四) 厚顏也　(五) 曲の名　(六) 犯也、求也　(七) 隱語　(八) 思也

明日復更召而問之。又不以隱對。但揚

明日復た更に召して之を問ふ、又隱を以て對へず。但だ目を揚げ齒を銜み、手を擧げ肘を拊つて曰く、殆いかな。殆いかなと。此の如き者四たびなり。宣王曰

日衡レ齒擧レ手拊レ肘曰。殆哉殆哉。如レ此者四。宣王曰。願遂聞レ命。無鹽女對曰。今大王之君レ國也。西有二衡秦之患一。南有二强楚之讎一。外有二三國之難一。內聚二姦臣一。衆人不レ附。春秋四十。壯男不レ立。不レ務二衆子一。而務二衆婦一。尊レ所レ好而忽レ所レ恃。一旦山陵崩弛。社稷不レ定。此一殆也。漸臺

く、願はくは遂に命を聞かんと。無鹽女對へて曰く、今大王の國に君たるや、西に衡秦(二)の患あり、南に强楚の讎あり、外に三國(三)の難あり。內に姦臣を聚む。衆人附かず。春秋四十、壯男立たず。衆子を務めずして、衆婦を務む。好む所を尊んで恃む所を忽にす。一旦山陵崩弛せば、社稷定らず。此れ一殆なり。漸臺五重、黃金白玉、琅玕(四)龍疏、翡翠珠璣、莫落連飾して、萬民罷極す。此れ二殆なり。賢者山林に伏匿して諂諛(五)左右を强ひ、邪僞本朝に立つ。諫むる者通入を得ず。此れ三殆なり。酒漿流湎、夜を以て朝に續ぎ、女樂俳優、從橫大笑、外、諸侯の禮を脩めず。內、國家の治を秉らず。此れ四殆なり。故に曰く、殆いかな、殆いかなと。是に於て宣王掩然として聲なく、意、黃泉(六)に入るがごとし。忽然として昂し、喟然として嘆じて曰く、痛きかな。無鹽君の言。吾れ今乃ち一たび寡人の殆を聞く。寡人の殆き、幾ど全からずと。是に於て立ちて漸臺を停め、女樂を罷め諂諛を退け、彫琢を去り、兵馬を選び、府庫を實し(七)、四に公門を闢き、直言を招

五重。黃金白玉琅玕龍疏。翡翠珠璣。莫落連飾。萬民罷極。此二殆也。賢者伏ニ匿於山林一。諂諛强ニ於左右一。邪僞立ニ於本朝一。諫者不レ得ニ通入一。此三殆也。酒漿流湎。以レ夜續レ朝。女樂俳優。從橫大笑。外不レ脩ニ諸侯之禮一。內不レ秉ニ國家之治一。此四殆也。故曰。殆哉殆哉。於レ是宣王掩然無レ聲。意入ニ黃泉一。忽然而昂。喟然而嘆曰。痛乎無鹽君之言。吾今乃一聞ニ寡人之殆一。寡人之殆幾不レ全。於レ是立停ニ漸臺一。罷ニ女樂一。退ニ諂諛一。去ニ彫琢一。選ニ兵馬一。實ニ府庫一。四闢ニ公門一。招ニ進直言一。延ニ及側陋一。擇ニ吉日一立ニ太子一。進ニ慈母一顯ニ隱女一。拜ニ無鹽君一爲ニ王后一。而國大安者。醜女之力也。

進し、延きて側陋(八)に及ぶ。吉日を擇びて太子(九)を立て、慈母を進め、隱女(一〇)を顯し、無鹽君を拜して王后と爲せり。而して國の大に安き者は、醜女の力なり。(一一)

(一) 拍也 (二) 衡は橫也。戰國の時、齊・楚・韓・魏・燕・趙を縱となし、秦國を衡となす。秦の地形、東西橫長なるを以てなり (三) 燕・韓・魏 (四) 珠玉に似たる一種の石で、琅玕は、[illegible] (五) 翡翠の、雄の赤きを翡といふ、雌の靑きを翠といふ。璣は珠の圓ならざるもの (六) 地中の泉、土は黃色なるよりいふ。死といふが如し (七) 滿也 (八) 微賤の人 (九) 湣王 (一〇) 貞操にして亂れざるもの (一一) 功也

梁惠王謂孟子曰。寡人有疾。寡人好色。孟子曰。王誠好色。於王何有。王曰。若之何好色可以王。孟子曰。大王好色。詩曰。古公亶父。來朝走馬。率西水滸至於岐下。爰及姜女。聿來相宇。大王愛厥妃。出

巻第三

雑事第三

(一)梁の惠王、(二)孟子に謂つて曰く、寡人疾あり。寡人色を好むと。孟子曰く、王誠に色を好まば、王に於て何かあらんやと。王曰く、之を若何せば、色を好んで以て王たるべきと。孟子曰く、大王は色を好む。(三)詩に曰く、(四)古公亶父、來りて朝に馬を走せ、西水の滸に率つて、岐の下に至り、爰に姜女と聿れ來つて胥宇れりと。大王、厥妃を愛し。出入必ず之を偕にせり。是時に當り、内に怨女なく、外に(五)曠夫なかりき。(六)王若し色を好まば、百姓と之を同じうせば、民は唯だ王の色を好まざるを恐るゝなりと。王曰く、寡人疾あり。(七)寡人勇を好むと。孟子曰く、王若し勇を好まば、王たるに於て何かあらんやと。王曰く、之を若何せば、勇を好んで以て王たるべきと。孟子曰く、(八)詩に曰く、(九)王赫として斯に怒り、爰に其旅を

入必與レ之偕。當二是時一。內無二怨女一外無二曠夫一。王若好レ色。與二百姓一同レ之。民唯恐二王之不一レ好レ色也。王曰。寡人有レ疾。寡人好レ勇。孟子曰。王若好レ勇。於レ王何有。王曰。若レ之何好レ勇可二以王一。孟子曰。詩曰。王赫斯怒。爰整二其旅一。以按二徂旅一。以篤二周祜一。以對二于天下一。此文王之勇也。文王一怒而安二天下之民一。今王亦一怒而安二天下之民一。民唯恐二王之不一レ好レ勇也。

整へて、以て徂く旅を按め以て周の祜を篤うし、以て、天下に對へたりと。此れ文王の勇なり。文王一たび怒りて、天下の民を安んず。今王も亦一たび怒りて、天下の民を安んぜば、民は唯だ王の勇を好まざるを恐るゝなりと。

(一) 孟子には齊の宣王に作る。梁の惠王は魏の惠王なり。その都なる大梁に居る。故に號し梁王といふ。惠王名は罃、武侯の子 (二) 名は軻、字は子輿、鄒の人 (三) 詩經大雅緜の篇 (四) 古公は幽公なり、亶父は字、滸は水涯、率は循也、したがふ。姜女は大姜、有呂氏の妻、古公の妃。胥は相也、宇は居也 (五) 妻なき夫、曠は空也 (六) 大王も亦色を好む、たゞに姜女とともに行ふのみにあらず、偏く一國の男女をして怨曠あることなからしむ。王もし之に則り、百姓と欲を同じうし、曠過時の思なからしめば則ち王の政に於て何の不可あらんと也 (七) 勇を好む疾あるが故に聖賢の爲す所を行ふ能はずと也 (八) 詩經大雅皇矣篇 (九) 王は文王、赫は怒る貌、斯は語也、按は止也 即ち文王赫然としてその羣臣とことごとく怒り、こゝに其師旅を整へて出て、以て却つて阿にゆくの兵衆をとゞめ、以て周家に王たるべきの福を厚うし、以て天下翹周の望に答へたりと也

孫卿與二臨武

(一)孫卿、(二)臨武君と、兵を趙の(三)孝成王の前に議す。王曰く、兵の要を請ひ問ふと。

君議二兵於趙孝成王前一。王曰。請問二兵要一。臨武君對曰。上得二天時一。下得二地利一。後之發。先之至。此用レ兵之要術也。孫卿曰。不レ然。臣之所レ聞古之道。凡戰用レ兵之術。在二於一一レ民。弓矢不レ調。羿不レ能二以中一。六馬不レ和。造父不レ能二以御一レ遠。士民不二親附一。湯武不レ能二以勝一。故善用レ兵者。務

臨武君對へて曰く、上、天の時を得、下、地の利を得、後に之れ發し、先に之れ至る。此れ兵を用ふるの要術なりと。孫卿曰く、然らず。臣の聞く所は、古への道なり。凡そ戰ひて兵を用ふるの術は、民を一にするに在り。弓矢調はざれば、(四)羿も以て中つること能はず。六馬和せざれば、(五)造父も以て遠きに御すること能はず。士民親附せざれば、湯・武も以て勝つこと能はず。故に善く兵を用ふる者は、務めて善く民を附かしむるに在るのみと。臨武君曰く、然らず。夫れ兵の貴ぶ所の者は(六)勢利なと。上ぶ所の者は(七)變詐攻奪なり。善く之を用ふる者は、奄然として從りて出づる所を知る莫し。(八)孫・吳之を用ひて、天下に敵なし。此に由りて之を觀れば、豈に必ずしも民を附かしむるを待たんやと。孫卿曰く、然らず。臣の言ふ所の者は王者の兵、人に君たるの事なり。君の言ふ所の者は勢利なり。上ぶ所の者は變詐攻奪なり。仁人の兵は詐るべからざるなり。彼の詐るべき者は、怠慢なる者なり。(九)落單なる者なり。君臣上下の間、(一〇)渙然として離德ある者あり。

在於善附民而已。臨武君曰。不然。夫兵之所貴者勢利也。所上者變詐攻奪也。善用之者。奄忽焉莫知所從出。孫呉用之。無敵於天下。由此觀之。豈必待附民哉。孫卿曰。不然。臣之所言者。王者之兵。君人之事也。君之所貴者勢利也。所上者變詐攻奪也。仁人之兵

若し桀を以て桀を詐らば、猶ほ幸あらん。若し桀を以て堯を詐らば、之を譬ふるに、卵を以て石に投ずるが若く、指を以て沸を繞すが若く、(一一)羽して烈火を蹈むが若し。(一二)入れば則ち焦没するのみ。夫れ又何ぞ詐るべけんや。故に仁人の兵、鋋は則ち莫邪の利刃の若し。之に嬰るゝ(一三)者斷つ。鋭は則ち莫邪の利鋒の若し。之に當る者は潰ゆ、圜居(一四)にして方止(一五)なる、磐石の若く然り。之に觸るゝ者は、隴種(一六)して退くのみ。夫れ又何ぞ詐るべけんや。故に仁人の兵は、或は(一七)將に三軍力を同じうし、上下心を一にし、臣の君に於けるや、下の上に於けるや、子の父に事ふるが若きなり。弟の兄に事ふるが若きなり。手足の頭目を捍ぎて、胷腹を覆ふが若きなり。詐りて之を襲ひ、先づ驚して後に、之を撃つと一なり。夫れ又何ぞ詐るべけんや。

(一) 漢の宣帝の名は詢なるを以て荀卿を諱みて孫卿といへるなり (二) 蓋し楚の將ならん。姓名詳ならず (三) 名は丹、惠文王の子 (四) 有窮國の君、射を善くせし人 (五) 嬴姓、飛廉の子、御を善くす、周の穆王の臣 (六) 勢を乘り利を爭ふをいふ (七) 敵人をしてその動作を測り知ること能はざらしむるをいふ (八) 孫は呉王闔閭の將孫武、

不レ可レ詐也。彼可レ詐者怠慢者也。落單者也。君臣上下之間。渙然有二離德一者也。若以レ桀詐レ桀。猶有レ幸焉。若以レ桀詐レ堯。譬レ之若二以レ卵投一レ石。若二以レ指撓一レ沸。若三羽蹈二烈火一。入則焦沒耳。夫又何可レ詐也。故仁人之兵。鋋則若二莫邪之利刃一。嬰レ之者斷。銳則若二莫邪之利鋒一。當レ之者潰。圓居而方止。若二磐石一然。觸レ之者隴種而退耳。夫又何可レ詐也。故仁人之兵。或將三軍同レ力。上下一レ心。臣之於レ君也。下之於レ上也。若二子之事一レ父也。若二弟之事一レ兄也。若下手足之捍二頭目一而覆中胸腹上也。詐而襲レ之。與二先驚而後擊一レ之一也。夫又何可レ詐也。

呉は魏の武侯の將呉起 （九）落は路のか、路單は、上下相覆蓋せざるものをいふ （一〇）散亂のかたち （一一）指を熱湯にて爛すをいふ、撓攪は也 （一二）疾也 （一三）觸也 （一四）丘山の移すべからざるがごときをいふ （一五）磐石の拔くべからざるがごときをいふ （一六）遺失也 （一七）或は將には、夫れの誤か

且夫暴亂之君。將誰與至哉。彼其所二與至一者。必其民也。民之親レ我。驩然如二父母一。好レ我。芳如二椒蘭一。反二顧其上一。

且つ夫れ暴亂の君、將た誰れか與に至らんや。彼れ其の與に至る所の者は、必ず其民なり。民の我を親む、驩然として父母の如く、我を好む、芳しきこと椒蘭の如し。其上に反顧するに、（二）灼黥の如く、仇讎の如くなれば、人の情、桀跖と雖も、豈に肯へて其の惡む所の爲にして、其の好む所を賊する者あらんや。是れ猶ほ人の孫子をして、自ら其父母を賊せしむるがごときなり。（三）詩に曰く、武王旆

如ニ灼黥一。如ニ仇讐一。人之情雖ニ桀跖一。豈有下肯爲ニ其所レ惡。而賊ニ其所レ好者上哉。是猶レ使下人之孫子。自賊中其父母上也。詩曰。武王載レ旆。有ニ虔秉レ鉞。如ニ火烈烈一。則莫ニ我敢曷一。此之謂也。孝成王臨武君曰。善。請ニ問王者之兵一。孫卿曰。將率者末事也。臣請列ニ王者之事君レ人之法一。昔者秦魏

を載せ、(三)虔んで鉞を秉ることあり。火の烈烈たるが如くして、則ち我を敢へて曷(四)むること莫しとは、此の謂なりと。孝成王臨武君曰く、善し。王者の兵を請ひ問ふと。孫卿曰く、將率者は末事なり。臣請ふ、王者の事、人に君たるの法を列せん。昔者秦・魏、與國たり。齊・楚約して魏を攻めんと欲す。魏、人をして救を秦に求めしめ、(五)冠蓋相望む。秦の救出でず。魏人に唐且といふ者あり。年九十餘、魏王に謂つて曰く、老臣請ふ、西のかた秦に說き、兵をして臣に先だち出さしめん。可ならんかと。魏王曰く、敬んで諾すと。遂に車を約して之を遣る。且、(六)秦王に見ゆ。秦王曰く、(七)丈人(八)罔然として乃ち遠く至る。此れ甚だ苦めり。魏來りて救を求むること數なり。寡人、魏の急を知れりと。唐且答へて曰く、大王已に魏の急を知りて、救至らず。是れ大王(九)籌筴の臣之を失せり。且つ夫れ魏は一萬乘の國なり。東藩を稱し、冠帶を受け、春秋を祠る者は、秦の强くして以て與とするに足るが爲なり。今齊・楚の兵、已に魏の郊に作り。大王の救至らず。魏

爲二與國一。齊楚約而欲レ攻レ魏。魏使三人求二救於秦一。冠蓋相望秦救不レ出。魏人有二唐且者一。年九十餘。謂二魏王一曰。老臣請西。說レ秦令二兵先レ臣出一可乎。魏王曰。敬諾。遂約レ車而遣レ之。且見二秦王一。秦王曰。丈人罔然乃遠至。此甚苦矣。魏來求レ救數矣。寡人知二魏之急一矣。唐且答曰。大王已知二魏之急一而救不レ至。是大王籌筴之臣失レ之也。且夫魏一萬乘之國也。稱二

急ならば則ち且、地を割きて齊・楚に約せん。王、之を救はんと欲すと雖も、豈に及ぶことあらんや。是れ一萬乘の魏を亡して二敵の齊・楚を強くするなり。竊に以爲へらく、大王籌筴の臣之を失せりと。秦王懼然として悟り、遽に兵を發して之を救ふ。馳騖して往く。齊・楚之を聞き、兵を引きて去る。魏氏、故に復す。唐且一たび說きて、彊秦の筴を定め、魏國の患を解き、齊・楚の兵を散じ、一擧して衝を折き、難を消す。辭の功なり。孔子曰く、(一〇)言語は宰我・子貢と。(一一)故に詩(一二)に曰く、辭之れ集がば民之れ洽はん。辭之れ懌ばば民之れ莫らんと。(一三)唐且辭あり。魏國之に賴る。故に以て已むべからず。

(一)灼黥を畏るゝが如しと也、黥は卽ち墨刑なり、いれずみ　(二)詩經商頌長發篇　(三)敬也　(四)止也　(五)使者のしきりに往來するをいふ　(六)昭王　(七)尊老人の稱　(八)つかれ倦むさまにいふ　(九)謀をなす臣　(一〇)論語先進篇の文　(一一)宰予、字は子我、魯の人。端木賜字は子貢、衞の人、並に口才あり言語を以て名を著す　(一二)詩經大雅板篇　(一三)辭、輯睦すれば則ち民協同し、辭、說懌すれば則ち民安定すと也、莫は猶は定のごとし

東藩一受二冠帶一祠二春秋一者。爲三秦強足二以爲一レ與也。今齊楚之兵。已在二魏郊一矣。大王之救不レ至。魏急則且割レ地而約二齊楚一。王雖レ欲レ救レ之。豈有レ及哉。是亡二一萬乘之魏一。而強二二敵之齊楚一也。竊以爲大王籌筴之臣失レ之矣。秦王懼然而悟。遽發レ兵救レ之。魏驚而往。齊楚聞レ之。引レ兵而去。魏氏復レ故。唐且一說。定二彊秦之筴一。解二魏國之患一。散二齊楚之兵一。一擧而折レ衝消レ難。辭之功也。孔子曰。言語宰我子貢。故詩曰。辭之集矣。民之洽矣。辭之懌矣。民之莫矣。唐且有レ辭。魏國賴レ之。故不レ可二以已一。

燕易王時。國大亂。齊閔王興レ師伐レ燕。屠二燕國一。載二其寶器一而歸。易王死。及三燕國復太子立爲二燕王一。是爲二燕昭王一。昭王賢。卽レ位。卑レ身厚レ幣。以招二賢者一。謂二郭隗一曰。齊因二孤國之亂一。而

燕の易王(一)の時、國大に亂る。齊の閔王(二)、師を興して燕を伐ち、燕國を屠り、其寶器を載せて歸る。易王死し、燕國復し、太子立ちて燕王と爲るに及びて、是を燕の昭王と爲す。昭王賢なり。位に卽き、身を卑くし幣を厚くして、以て賢者を招く。郭隗に謂つて曰く、齊、(三)孤國の亂に因りて、燕を襲ひ破る。孤、極めて知る。燕の小にして力少く、以て報ずるに足らざることを。然れども賢士を得て與に國を共にせば、以て先王の醜を雪がん(四)。孤の願なり。先生、可なる者を視せ。身、之に事ふるを得んと。隗曰く、臣聞く、古への人君、千金を以て千里の馬を求むる者あり。三年まで得ること能はず。(五)涓人、君に言ひて曰く、請ふ、之

襲ニ破燕一。孤極知。燕小力少。不レ足ニ以報一。然得ニ賢士一與共レ國。以雪ニ先王之醜一。孤之願也。先生視ニ可者一。得ニ身事レ之。隗曰。臣聞。古之人君。有下以ニ千金一求ニ千里馬一者上。三年不レ能レ得。涓人言ニ於君一曰。請求レ之。君遣レ之。三月。得ニ千里馬一。馬已死。買ニ其骨五百金一反。以報レ君。君大怒曰。所レ求者

を求めんと。君、之を遣はす。三月にして千里の馬を得たり。馬已に死す。其骨を五百金に買ひて反り、以て君に報ず。君大に怒りて曰く、求むる所の者は生馬なり。安ぞ死馬を用て五百金を捐てんやと。涓人對へて曰く、死馬且ら之を五百金に市(六)ふ。況んや生馬をや。天下必ず王を以て而く馬を市ふと爲して、馬今に至らんと。是に於て朞年ならずして、千里の馬至る者二つなりと。今王誠に必ず士を致さんと欲せば、請ふ、隗より始めよ。隗且ら事はる。況んや隗より賢れる者をや。豈に千里を遠しとせんやと。是に於て昭王、隗の爲に宮を築きて之を師とす。樂毅は魏より往き、(七)鄒衍は齊より往き、(八)劇辛は趙より往き、士爭ひて燕に走す。燕王、死を弔し孤を問ひ、百姓と甘苦を同じうすること二十八年、燕國殷富、士卒樂軼輕戰なり。是に於て遂に樂毅を以て上將軍と爲し、秦・楚・三晉と謀を合せて、以て齊を伐ちしは、樂毅の筴なり。賢を得たるの功なり。

(一) 易王は文公の子、燕噲の父、燕噲、國を其相子之に讓る。而して國大に亂る。齊國之を伐つ。燕の士卒戰はず。

生馬。安用死馬捐五百金。涓人對曰。死馬且市之五百金。況生馬乎。天下必以王爲能市馬。馬今至矣。於是不朞年。千里馬至者二。今王誠欲必致士。請從隗始。隗且見事。況賢於隗者乎。豈遠千里哉。於是昭王爲隗築宮而師之。樂毅自魏往。鄒衍自齊往。劇辛自趙往。士爭走燕。燕王弔死問孤。與百姓同甘苦。二十八年。燕國殷富。士卒樂軼輕戰。於是遂以樂毅爲上將軍。與秦楚三晉。合謀以伐齊。樂毅之策。得賢之功也。

(一)齊遂に之に勝ちしをいふ　(二)名は地、宣王の子　(三)諸侯凶あれば孤といふ　(四)除也　(五)霸者也　(六)買也　(七)齊の人　(八)趙の人

樂毅爲昭王謀。必待諸侯兵。齊乃可伐也。於是乃使樂毅使諸侯。遂合連四國之兵。以伐齊。大破之。閔王亡逃。僅以身脫。匿莒。樂毅

樂毅、昭王の爲に謀るらく、必ず諸侯の兵を待ちて、齊乃ち伐つべしと。是に於て乃ち樂毅をして諸侯に使せしめ、遂に四國の兵を合連して、以て齊を伐ち、大に之を破る。閔王亡逃し、僅に身を以て脫し、莒に匿る。樂毅之を追ふ。遂に七十餘城を屠る。臨淄盡く降る。唯だ莒と卽墨とのみ未だ下らず。盡く復た燕の寶器を收めて歸り、易王の辱を復したり。樂毅謝して諸侯の兵を罷む。而して獨り莒・卽墨を圍む。時に(二)田單、卽墨の令たり。樂毅が善く兵を用ふるを患

追レ之。遂屠二七十餘城一。臨淄盡降。唯莒卽墨未レ下。盡復收二燕寶器一而歸。復二易王之辱一。樂毅謝罷二諸侯之兵一。而獨圍二莒卽墨一。時田單爲二卽墨令一。患二樂毅善用一レ兵。田單不レ能レ詐也。欲レ去レ之。昭王又賢不レ肯レ聽レ讒。會二昭王死。惠王立一。田單使三人讒二之惠王一。惠王使三騎劫代二樂毅一。樂毅

ふ。田單詐ること能はざるなり。之を去らんと欲す。昭王又賢にして肯へて讒を聽かず。昭王死し、惠王立つに會ふ。田單、人をして之を惠王に讒せしむ。惠王、騎劫をして樂毅に代らしむ。樂毅去つて趙に之き、燕に歸らず。騎劫既に將軍と爲る。田單大に喜び、詐を設けて大に燕軍を破り、騎劫を殺し、盡く復た七十餘城を收む。是の時齊の閔公已に死す。田單、太子を莒に得て、立てて齊の襄王と爲す。而して燕の惠王大に慙ぢて自ら悔いらく、樂毅を易へて以て此禍を致せりと。惠王乃ち人を使し、樂毅に書を遺りて曰く、寡人不佞、君の志を奉順すること能はず。故に君、國を捐てて去る。寡人の不肖なること明なり。敢へて其願を謁す。而も君肯へて聽かざるなり。故に使者をして愚志を陳ぜしむ。君誠に之を諭せ。語に曰く、仁あれば輕〻しく絕たず。智あれば輕〻しく怨みずと。君の先王に於ける、世の明かに知る所なり。寡人望むらく、非あらば則ち君之を覆蓋せんと。慮らざりき、君明かに之を棄てんとは。望むらく、過あらば

去之趙。不歸燕。騎劫既爲將軍。田單大喜。設詐大破燕軍。殺騎劫。盡復收七十餘城。是時齊閔公已死。田單得太子於莒。立爲齊襄王。而燕惠王大慙。自悔。易樂毅以致此禍。惠王乃使人。遺樂毅書曰。寡人不佞。不能奉順君志。故君捐國而去。寡人不肖明矣。敢謁其願。而君弗肯聽也。故使使者陳愚志。君誠諭之。語曰。仁不輕絶。智不輕怨。君於先王。世之所明知也。寡人望有非則君覆蓋之。不虞君明棄之也。望有過則君敎誨之。不虞君明罪之也。寡人之罪。百姓弗聞。君微出明怨。以棄寡人。寡人必有罪矣。然恐君之未盡厚矣。諺曰。厚者不損人以自益。仁者不危軀以要名。故覆人之邪者。厚之行也。救人之過者。仁之道也。

則ち君之を敎誨せんと。虞らざりき、君明かに之を罪せんとは。寡人の罪は、百姓聞かず。君出でて怨を明にし、以て寡人を棄つる微くとも、寡人必ず罪あらん。然れども恐らくは君の未だ厚きを盡さざることを。諺に曰く、厚者は人を損して以て自ら益せず。仁者は、軀を危くして以て名を要めずと。故に人の邪を覆ふ者は、厚の行なり。人の過を救ふ者は、仁の道なり。

(一) 齊の諸田氏の疏屬　(二) 圖に同じ、はかる　(三) 出でて稍に之き、以て我に怨あるを明にするなしと雖も人亦之を知ると也

世有覆寡人

世、寡人の邪を覆ひ、寡人の過を救ふあらば、君に非ずんば、惡ぞ之を

之邪一。救中寡人之過上。非レ君惡所レ望レ之。今君厚受二德於先王之成尊一。輕棄二寡人一以快レ心。則覆レ邪救レ過。難レ得二於君一矣。且世有二厚薄一。故施レ異。行有二得失一。故患レ同。今寡人任二不肖之罪一。而君有二失厚之累一。於レ爲レ君擇無レ所レ取。國有二封疆一。猶二家之有一垣墻一。所三以合レ好覆二惡也。室不レ能二相和一。

望む所あらん。今君、厚く德を先王の成尊に受けて、輕〻しく寡人を棄てて以て心を快にす。則ち邪を覆ひ過を救ふこと、君に得難し。且つ世に厚薄あり、故に異を施す。行に得失あり、故に同を患ふ。今寡人、不肖の罪に任じて、君、失厚の累あり。君たるに於て、擇んで取る所なし。國に封疆あるは、猶ほ家の垣墻あるがごとし。好を合せ惡を覆ふ所以なり。室(一)、相和すること能はずんば、鄰家に出で訟ふ、未だ計を通ずと爲さざるなり。怨惡未だ見れずして、明かに之を棄つ、未だ厚を盡すと爲さざるなり。寡人不肖なりと雖も、未だ殷紂の亂に如かざるなり。君、未だ志を得ずと雖も、未だ(二)商容・箕子が累に如かざるなり。然るに内は寡人に盡さず、怨を外に明かにす。恐らくは其の適〻以て高義を傷るに足りて、行に薄きことを。然るに非ずして、苟も以て君の高きを成して、君の義を明かにすべくんば、寡人、惡名と雖も受くるを難らざるなり。本以爲へらく、寡人の薄を明かにせば、而して君、厚きことを得ず。寡人の毀を揚ぐ

出二於鄰家一。未レ爲レ通レ計也。怨惡未レ見。而明棄レ之。未レ爲レ盡レ厚也。寡人雖二不肖一。未レ如二殷紂之亂一也。君雖レ未レ得レ志。未レ如二商容箕子累一也。然不三內盡二寡人一。明二怨於外一。恐其適足三以傷二高義一。而薄二於行一也。非レ然苟可下以成二君之高一明中君之義上。寡人雖二惡名一。不レ難レ受也。本以爲明二寡人之薄一。而君不レ得レ厚。揚二寡人之毀一。而君不レ得レ勞。是一擧而兩失也。義者不下毀レ人以自益上。況傷レ人以自損乎。願君無下以二寡人之不肖一。累中往事之美上。

るは、而して君、勞とすることを得ず。是れ一擧にして兩失なり。義者、人を毀りて以て自ら益さず、況んや人を傷けて以て自ら損せんや。願はくは君、寡人の不肖を以て往事の美を累すことなかれ。

(一) 室家に忿爭あり、決せずんば必ず隣里に告ぐと也　(二) 商容は殷の聖人、紂王の爲に貶退せられしもの

昔者柳下季。爲二理於魯一。三絀而不レ去。或曰可二以去一矣。柳下季曰。苟與レ人異。惡往而不レ絀乎。猶且絀也。寧故

昔者柳下季、(一)理を魯に爲す。(二)三絀して去らず。或ひと曰く、以て去るべしと。柳下季曰く、苟も人と異ならば、(三)惡くに往くとして絀けられざらんや。猶は且つ絀けらる、寧ろ故國ならんのみと。柳下季、絀を以て自ら累さず。(四)故に前業によりて忘れず、去るを以て心と爲さず。故に遠近議なし。寡人の罪、國人知らず。而るに寡人を議する者は天下なり。諺に曰く、仁は輕々しく絶たず。知は功を簡ばず

國耳。柳下季不㆓以㆑紲自累㆒。故自㆓前業㆒不㆑忘。不㆓以㆑去爲㆒㆑心。故遠近無㆑議。寡人之罪。國人不㆑知。而議㆓寡人㆒者天下。諺曰。仁不㆓輕絶㆒。知小㆑簡㆑功。簡㆑功棄㆑大者仇也。輕絶厚㆑利者怨也。仇而棄㆑之。怨而累㆑之。宜㆑在㆑遠者不㆑望㆓之乎君㆒。今寡人無㆑罪。君豈怨㆑之乎。願君捐㆑忿和㆑怒。追㆓順

と。功を簡び大を棄つる者は仇なり。輕〻しく絶ち、利を厚くする者は怨なり。仇として之を棄て、怨んで之を累はす。宜しく遠くに在るべき者、之を君に望まざらんか。今寡人、罪なし。君豈に之を怨みんや。願はくは君、忿を捐て怒を和げ、先王を追順して、以て復た寡人に教へよ。寡人意ふに、君の、余將に心を快くせんとし、以て而(五)の過を成し、先王を顧みず、以て而の惡を明にせんと曰ひて、寡人をして進んで初に循ふことを得ず、退きて過を變ずることを得ざらしむ。此れ君の制する所、唯だ君之を圖れ。此れ寡人の愚志なり。敬んで書を以て之を謁ぐと。樂毅、人をして書を燕王に獻ぜしめて曰く、臣不肖、王命を奉承して、以て左右の心に順ふこと能はず。恐らくは斧鉞(六)の罪に抵り、以て先王の明を傷りて、足下の義を害することあらんことを。故に遁逃し、自ら負ふに不肖の罪を以てして、敢へて辭說するあらず。今王之を數むるに罪を以てす。恐らくは侍御者の、先王の臣を畜ふ(七)所以の理を察せずして、臣の先王に事ふる

先王。以復教寡人。寡人意君之曰余將快心以成而過。不顧先王。以明而惡。使寡人進不得循初。退不得變過。此君所制。唯君圖之。此寡人之愚志。敬以書謁之。樂毅使人獻書燕王曰。臣不肖。不能奉承王命。以順左右之心。恐抵斧鉞之罪。以傷先王之明。有害足下之義。故遁逃自負以不肖之罪。而不敢有辭說。今王數之以罪。恐侍御者不察先王之所以畜臣之理。不白乎臣之所以事先王之心。故不敢不以書對。臣聞賢聖之君。不以祿私親。功多者授之。不以官隨愛。能當者處之。故曰。察能而授官者。成功之君也。論行而結交者。立名之士也。

所以の心を白にせざらんことを。故に敢へて書を以て對へずんばあらず。臣聞く、賢聖の君は、祿を以て親に私せず、功多き者には之を授く。官を以て愛に隨はず。能の當れる者には、之に處らしむ。故に曰く、能を察して官に授くる者は、成功の君なり。行を論じて交を結ぶ者は立名の士なりと。

㈠ 魯の大夫、展無駭の後柳下惠なり。名は獲、字は季禽、邑を柳下に食む、諡して惠と曰ふ ㈡ 吏也、國を治むる也 ㈢ 三たび貶退せられしをいふ ㈣ 心を苦めず ㈤ 汝也 ㈥ 罪を荷ひて身に任ずるを言ふ ㈦ 養也

臣以所學觀先王擧措。有高世主之心。

臣學ぶ所を以て、先王の擧措を觀るに、世主より高き心あり。故に節を魏に假り、身を以て燕に察するを得たり。先王過擧、之を賓客の中に擢で、之を羣臣の

故假二節於魏一。以レ身得レ察二於燕一。先王過擧。擢二之賓客之中一。立二之羣臣之上一。不レ謀二父兄一。以爲二亞卿一。臣自以爲。奉レ令承レ教。可二幸無一レ罪。故受レ命而不レ辭。先王命レ臣曰。我有下積二怨深怒上於齊一。不レ量二輕弱一。欲下以レ齊爲上レ事。臣對曰。夫齊者霸王之餘業。戰勝之遺事。閑二於兵革一。習二於戰攻一。王

上に立て、父兄に謀らず。(一)以て亞卿と爲す。(二)臣自ら以爲へらく、令を奉じ敎を承けて、幸にして罪なかるべしと。故に命を受けて辭せず。老王、臣に命じて曰く、我れ齊に積怨深怒あり。輕弱を量らず、齊を以て事とせんと欲すと。臣對へて曰く、夫れ齊は霸王の餘業、戰勝の遺事、兵革に閑ひ、戰攻に習ふ。王若し之を攻めんと欲せば、必ず天下と之を圖れ。之を圖るは、徑に趙に結ぶに若くは莫し。且つ淮北宋の地は、(三)楚・魏の願なり。趙若し楚・魏に許約して、力を四國に盡して之を攻めば、齊をば大に破るべきなりと。王曰く、善しと。臣乃ち命を受けて符節を具し、南のかた趙に使せり。顧反して、兵を起して齊を攻む。天の道、先王の靈を以て、河北の地、先王に隨ひて之を擧げ、濟上の兵、命を受けて之に勝ち、輕卒銳兵、長驅して齊に至る。齊王遁逃して莒に走り、僅に身を以て免る。珠玉貨寶、車甲珍器、皆收めて燕に入る。

(一) 同姓の君、羣臣也　(二) 次也　(三) 楚は淮北を得んと欲し、魏は宋を得んと欲す、時に皆齊に屬せり

若欲攻之。必與天下圖之。圖之莫若徑結趙。且淮北宋地。楚魏之願也。趙若許約楚魏。盡力四國攻之。齊可大破也。王曰善。臣乃受命具符節。南使趙。顧反起兵攻齊。以天之道。先王之靈。河北之地。隨先王而擧之。濟上之兵。受命而勝之。輕卒銳兵。長驅至齊。齊王遁逃走莒。僅以身免。珠玉貨寶車甲珍器。皆收入燕。

大呂陳於元英。故鼎反於歷室。齊器設於寧臺。薊丘之植。植於汶篁。五伯以來。功業之盛。未有及先王者也。先王以爲快其志。以臣不損令。故裂地而封臣。使比小國諸侯。臣聞賢聖之君。功立不廢。

大呂をば元英に陳ね、故鼎、歷室に反る。齊器、寧臺に設け、薊丘の植、汶篁より植す。五伯以來、功業の盛なる、未だ先王に及ぶ者あらざるなり。先王以爲へらく、其志を快くし、臣を以て令を損せずと。故に地を裂きて臣を封じ、小國の諸侯に比せしむ。臣聞く、賢聖の君は、功立ちて廢せず、故に春秋に著る。蚤知の士は、名成りて毀たず。故に後世に稱せらる。先王の怨を報い醜を雪ぐが若き、萬乘の齊を夷げ、八百年の積を收む。其の羣臣を棄つるの日に及んで、餘令、後嗣の義法を詔げ、執政事に任じ、法令に循ひ、庶孽を順にし、施いて萌隷に及ぶ。皆以て後世を教ふべし。臣聞く、善く作る者は、必ずしも善く成さず。善く始むる者は、必ずしも善く終へずと。昔伍子胥が說、闔閭に聽かれ、吳、迹を遠

故著二於春秋一。蚤知之士。名成而不レ毀。故稱二於後世一。若二先王之報レ怨雪レ醜。夷二萬乘之齊一。收二八百年之積一。及下其棄二羣臣一之日上。餘令詔二後嗣之義法一。執政任レ事。循二法令一順二庶孽一。施及二萌隷一。皆可三以教二後世一。臣聞善作者。不二必善成一。善始者。不二必善終一。昔伍子胥說聽二於闔閭一。吳爲二

して郢に至ることを爲せり。夫差の是とせざるや、之に鴟夷（一一）を賜ひ、之を江に沈む。故に夫差、先論の以て功を立つべきことを計らざるや、子胥を沈めて悔いず。子胥、蚤く王の量を同じうせざることを見ざるや、故に江に入りて化せず。夫れ身を免れて功を全うし、以て先王の迹を明にするは、臣の上計なり。戯辱（一二）の誹に離り（一三）、先王の明を墮すは、臣の大恐なり。不測（一四）の罪に臨み、幸を以て利を爲すは、義の敢へて出でざる所なり。臣聞く、君子は、交を絶つとも惡言なく、去れる臣に惡聲なしと。臣不肖と雖も、數ゝ教を君子に奉ず。臣は侍御者親交の說の、疏遠の行を察せざらんことを恐る。故に敢へて書を以て謝すと。

（一）齊の寶器、鐘の名 （二）燕の宮殿の名 （三）故鼎は齊が得し所の燕の鼎、凡そ鼎は以て休咎を占む。故に之を律曆の室に歸す （四）燕臺 （五）燕の都せしところの地、卽ち燕の薊丘に植ゑしところ也 （六）齊王汶上の竹を植うと也。卽ち燕の疆界、齊の汶水に移るをいふ （七）五霸にて、齊桓・晉文・秦穆・宋襄・楚莊をいふ （八）先見也 （九）新立の君、皆庶孽の亂を患ふ。昭王能く豫め之を順にせるをいふ （一〇）萌は氓に同じ、皁の臣は輿、輿の臣は隷 （一一）馬革を取りて鴟夷をつくる、鴟夷は榼の名、骸骨を斂む （一二）子胥怨恨す。故に江に投ずと雖も神化せず。猶は波濤の神を爲す也 （一三）離罹通ず、遭也、かゝる、あふ （一四）既に不測の罪に臨み、幸に免るゝを以て利

遠ㇾ迹至ㇾ郢。夫差不ㇾ是也。賜二之鴟夷一。沈二之江一。故夫差不ㇾ計二先論之可一以立ㇾ功也。沈二子胥一而不ㇾ悔。子胥不三蚤見二主之不一ㇾ同量也。故入ㇾ江而不ㇾ化。夫免ㇾ身而全ㇾ功。以明二先王之迹一。臣之上計也。離二謗辱之誹一。墮二先王之明一。臣大恐也。臨二不測之罪一。以ㇾ幸爲ㇾ利。義之所ㇾ不二敢出一也。臣聞君子絶ㇾ交無二惡言一。去ㇾ臣無二惡聲一。臣雖二不肖一。數奉二教於君子一。臣恐ㇾ侍御者親交之說。不ㇾ察二疏遠之行一。故敢以ㇾ書謝。

と爲す、今我れ仍ち先王の恩を義とす身は外國に託すと雖も而も心は亦敢へて出でざるをいふ

齊人鄒陽。客二游於梁一。人或讒二之於孝王一。孝王怒。繫而將ㇾ欲ㇾ殺ㇾ之。鄒陽客游。見ㇾ讒自寃。乃從二獄中一上書。其辭曰。臣聞。忠無ㇾ不ㇾ報。信不ㇾ見ㇾ疑。臣常以爲ㇾ然。徒虛語耳。昔者荊軻慕二

齊人鄒陽(一)、梁に客游す。人或は之を孝王に讒す。孝王怒る。繫して將に之を殺さんと欲す。鄒陽客游、讒せられて自ら寃とす。乃ち獄中より上書す。其辭に曰く、臣聞く、忠は報いられざるなく、信は疑はれずと。臣常に以て然りと爲す。徒に虛語のみ。昔者荊軻(二)、燕丹の義を慕ひ、白虹日を貫く。太子之を畏る。(三)衛先生、秦の爲に長平の計を畫して、太白昴に食す。昭王之を疑ふ。夫れ精は天地を變し(四)、而して信は兩主を諭(五)にせず。豈に哀しからずや。今臣、忠を盡し誠を竭し、義を畢して知られんことを願ふ。(六)左右不明、卒に吏訊に從ひ、(七)世に疑はるゝを爲す。是れ荊軻衛先生をして復た起たしむとも、燕・秦悟らざるなり。願は

燕丹之義。白虹貫日。太子畏之。衞先生爲秦畫長平之計。太白食昴。昭王疑之。夫精變天地。而信不諭兩主。豈不哀哉。今臣盡忠竭誠。畢議願知。左右不明。卒從吏訊。爲世所疑。是使荊軻衞先生復起。而燕秦不悟也。願大王熟察之。昔者玉人獻寶。楚王誅之。李斯

くは大王之を熟察せよ。昔者玉人寶を獻ず。楚王之を誅す。(八)李斯忠を竭して、胡亥刑を極む。是を以て箕子(九)は佯狂し、接輿(一〇)は世を避く。此變に遭はんことを恐れてなり。願はくは大王、玉人・李斯の意を熟察して、楚王・胡亥の聽(一一)を後にせよ。臣をして、箕子・接輿が歎ぜし所を爲さしむることなかれ。臣聞く、比干(一二)心を剖かれ、子胥鴟夷せらると。臣始め信ぜず。乃ち今(一三)之を知る。願はくは大王之を熟察して、少しく憐を加へよ。諺に曰く、白頭にして新に、傾蓋にして故なるあり。何となれば則ち知と不知となりと。

(一) 鄒陽吳王濞に事ふ、吳王の說くべからざるを以て去つて梁にゆく、羊勝、公孫詭等之を孝王に讒せし也 (二) 燕の太子名は丹、王喜の子。荊軻は衞の人。燕の太子丹、秦に質たり。始皇之を遇するに禮なし、丹亡げ去る、厚く荊軻を養ひ、西の方秦王を刺さしむ。精誠、天を感ぜしめ白虹之が爲に日を貫きしをいふ (三) 白起、秦の爲に趙を伐ち長平の軍を破り、遂に趙を滅さんと欲す。衞先生を遣し昭王に說き兵糧を益す。應侯の爲に害せらる。事よりて成らず。しかも其精誠、上、天に達す。故に太白、之が爲めに昴を食せし也。昴は趙の分野なり (四) 動也 (五) 明也 (六) 左右不明といふは王を直指するを欲せざるなり (七) 鞫問也 (八) 始皇、李斯を以て丞相となす、始皇崩ず胡亥立つ、李斯を極刑に處せしをいふ (九) 殷の紂王、淫亂止まず、箕子憫る、乃ち佯狂して、奴となりしをいふ

竭忠。胡亥極刑。是以箕子伴狂。接輿避世。恐遭此患也。願大王熟察玉人李斯之意。而後楚王胡亥之聽。無使臣爲箕子接輿所笑。臣聞比干剖心。子胥鴟夷。臣始不信。乃今知之。願大王熟察之。少加憐焉。諺曰。有白頭而新。傾蓋而故。何則。知與不知也。

(一) 楚の賢人、佯狂して世を避けしをいふ　(二) 繆聽を後にせよと也　(三) 比干強く紂王を諫む、紂怒りて曰く、吾れ聞く聖人の心に七竅ありと。比干を剖きて其心を觀しをいふ　(四) 忠にてありながら罪を得るを知ると也

昔者樊於期逃秦之燕。藉荊軻首。以奉丹之事。王奢去齊之魏。臨城自剄。以卻齊而存魏。王奢樊於期非新於齊秦。而故於燕魏也。所以去二國死兩君者。行

昔者樊於期、秦を逃れて燕に之き、荊軻に首を藉して、(一)以て丹の事に奉ぜり。(二)王奢、齊を去りて魏に之き、域に臨みて自剄し、以て齊を卻けて魏を存せり。(三)王奢・樊於期は、齊・秦に新にして、燕・韓に故なるにあらざるなり。一國を去り兩君に死する所以の者は、行、志に合し、義を慕ふこと窮りなければなり。是を以て蘇秦は天下に信ぜられず、燕の尾生たり。(四)白圭は、(五)戰ひて六城を亡し、魏の爲に中山を取れり。何となれば則ち、誠に以て相知るあればなり。蘇秦、燕に相たり。燕人之を燕王に惡す。(六)燕王、劍を按じて怒り、之に食はすに駃騠を以てせ

合二於志一。而慕ㇾ義無ㇾ窮也。是以蘇秦不ㇾ信二於天下一。爲二燕尾生一。白圭戰亡二六城一。爲ㇾ魏取二中山一。何則。誠有二以相知一也。蘇秦相ㇾ燕。燕人惡二之於燕王一。燕王按ㇾ劍而怒。食ㇾ之以二駃騠一。白圭顯二於中山一。中山人惡二之於魏文侯一。投以二夜光之璧一。何則。兩主二臣剖ㇾ心析ㇾ肝相信。豈移二於浮

り。白圭、(七)中山に顯る。中山の人、之を魏の文侯に惡す。(八)投ずるに夜光の璧を以てせり。何となれば則ち、兩主・二臣、心を剖き肝を析きて相信ずればなり。豈に浮辭に移らんや。故に女は善惡となく、宮に居れば妬まれ、士は賢不肖となく、朝に入れば嫉まる。昔者司馬喜、宋に臏せられ、(九)卒に中山に相たり。(一〇)范睢は、魏に拉脇折齒せられて、卒に應侯と爲れり。此二人は、皆必然の畫を信(一一)じ、朋黨の私を捐て、孤獨の交を挾む。故に自ら嫉妬の人に免るゝこと能はざるなり。是を以て申徒狄(一二)は流を蹈んで河に之き、徐衍(一三)は石を負ひて海に入れり。世に容れられざれども、義苟も比周を朝に取り、以て主上の心を移さず。故に百里奚は、食を道路に乞ひ、繆公(一四)、之に委ぬるに政を以てせり。甯戚は牛を車下に飯ふ。而して桓公之に任ずるに國を以てせり。此二人の者は、豈に宦を朝に藉り、譽を左右に假り、然して後二主之を用ひんや。心に感じ行に合ひ、膠漆より堅く、昆弟も離す能はず。豈に衆口に惑されんや。故に偏聽は姦を生じ、獨任は亂

辟一哉。故女無二美惡一、居レ宮見レ妬。士無二賢不肖一、入レ朝見レ嫉。昔司馬喜臏二於宋一、卒相二中山一。范雎拉二脇折三齒於魏一、卒爲二應侯一。此二人者皆信二必然之畫一、捐二朋黨之私一、挾二孤獨之交一。故不レ能三自免二於嫉妬之人一也。是以申徒狄蹈レ流之レ河、徐衍負レ石入レ海。不レ容二於世一、義不下苟取二比周於朝一、以移中主上之心上。故百里奚乞二食於道路一、繆公委レ之以レ政。甯戚飯二牛車下一、而桓公任レ之以レ國。此二人者、豈藉二宦於朝一、假二譽於左右一、然後二主用レ之哉。感二於心一、合二於行一、堅二於膠漆一、昆弟不レ能レ離。豈惑二於衆口一哉。故偏聽生レ姦。獨任成レ亂。

昔魯聽二季孫

を成す。

㊀ 樊於期、秦の將のために讒せらる。走りて燕にゆく。始皇其家を滅し、又之を重購す。燕荊軻を遣し秦王を刺さんと欲す。於期自ら首を刎ね荊軻をしてもたらし往かしめしをいふ　㊁ 假也　㊂ 王奢は齊の臣亡げて魏に至る。其後齊魏を伐つ。奢、城に登り、齊將に謂つて曰く、今君の來る奢を以ての故に過ぎず義苟も生きて以て魏の累を爲さずと。遂に自刎せしをいふ　㊃ 尾生、女子と梁下に期す。女子來らず。水至るも去らず、柱を抱きて死せしをいふ　㊄ 白圭、中山の將となり六城を亡ふ、君之を殺さんと欲す、亡げて魏に入る。文侯厚く之を遇す、還りて中山を拔きしをいふ　㊅ 讒也　㊆ 中山を拔きし功を以て尊顯せらるゝと也　㊇ 文侯、讒者を信ぜずして、更に白圭を親み贈るに夜光の寶玉を以てせりと也　㊈ 臏の刑をうけしをいふ　㊉ 范雎は魏の人。魏の相魏齊、范雎が國の陰事を以て齊に告ぐと疑ひ、乃ち掠笞數百脇を拉き齒を折られしをいふ　⑪ 計也　⑫ 殷の末世の節士　⑬ 周の末世の士　⑭ 比は近周は密、相黨する也

昔魯、季孫の説を聴きて孔子を逐ふ。宋、子冉の計を信じて墨翟を逐ふ。夫れ

之說。逐孔子。宋信子冉之計。逐墨翟。夫以孔墨之辯。而不能自免。何則。衆口鑠金。積毀銷骨。是以秦用由余而霸中國。齊用越人子臧而強威宣。此二國豈拘於俗。牽於世。繫奇偏之辭哉。公聽共觀。垂名當世。故意合則胡越爲兄弟。由余子臧是也。不合則骨肉爲

孔墨の辯を以てして、自ら免るゝこと能はず。何となれば則ち、衆口金を鑠し、積毀骨を銷すればなり。是を以て秦は由余を用ひて中國に霸たり。齊は越人子臧(三)を用ひて威(四)・宣を強くせり。此二國豈に俗に拘り世に牽かれ、奇偏の辭に繫がれんや。公に聽き共に觀、名を當世に垂る。故に意合すれば則ち、胡越兄弟たり。由余・子臧(五)是れなり。合せざれば、則ち骨肉仇讐たり。朱象(六)管蔡是れなり。今人主如し能く齊・秦の明を用ひ、宋・魯の聽を後にせば、則ち、五伯も侔(七)しうするに足らず、三王も比を爲し易きなり。是を以て聖王覺悟して、子之(八)が心を捐(九)て、能く田常の賢を說ばず。比干(一〇)の後を封じ(一一)、孕婦の墓を脩む(一二)。故に功業、天下を覆ふ。何となれば則ち、善を欲すること厭くことなければなり。夫れ晋の文公は、其讐(一三)を親んで諸侯に強霸たり。齊の桓公は、其仇を用ひて天下を一匡せり。何となれば則ち、慈仁殷勤、誠(一四)心に加はる。虛辭を以て借すべからざるなり。

(一) 子罕也 (二) 墨子也、孔子の頃の賢人 (三) 宋の字 (四) 威王、名は因齊、桓公の子。宣王名は辟疆、威王の子 (五) 私なきをいふ (六) 朱は丹朱にて堯の子、管蔡は周公の兄弟、流言を放ちしを以て流されたるもの (七) 等

仇讎、朱象管蔡是也。今人主如能用齊秦之明、後宋魯之聽、則五伯不足侔。三王易爲比也。是以聖王覺悟、捐子之之心、能不說於田常之賢、封比干之後、脩孕婦之墓。故功業覆於天下。何則。欲善無厭也。夫晋文公親其讎、而強霸諸侯。齊桓公用其仇、而一匡天下。何則。慈仁殷勤誠加於心。不可以虛辭借也。

也 (八)燕王噲、其相子之を賢とし燕國土の位を之にゆづる、燕國大に亂れしをいふ (九)宰也 (一〇)陳恒なり (一一)子孫 (一二)殷の紂王姙者を剖きて、其胎産を觀しをいふ (一三)桓仲

至夫秦用商鞅之法、東弱韓魏、立強天下、而卒車裂商君。越用大夫種之謀、擒勁吳、霸中國。卒誅其身。是以孫叔敖三去相而不悔。於陵仲子辭三公、爲人灌

夫れ秦は、商鞅の法を用ひ、東のかた韓・魏を弱くし、強を天下に立つるに至りて、卒に商君を車裂し、越は、大夫種の謀を用ひて、勁呉を擒にし、中國に霸たりしに、卒に(一)其身を誅せり。是を以て(二)孫叔敖、三たび相を去りて悔いず。(三)於陵仲子、三公を辭し、人の爲に園に灌ぐ。今世主誠に能く驕傲の心を去り、可報の意を懷き、心腹を披き、(四)情素を見し、肝膽を(五)墮り、德厚を施し、終に之と窮通して、士に變ずるなくば、則ち(六)桀の狗、堯に吠えしむべく、(七)跖の客、(八)由を刺さしむべし。況んや萬乘の權に因り、聖王の資を假れるをや。然らば則ち(九)刑

閭。今世主誠能去二驕傲之心一。懷二可報之意一。披二心腹一見二情素一。墮二肝膽一施二徳厚一。終與レ之窮通。無レ變二於士一。則桀之狗可レ使レ吠レ堯。跖之客可レ使レ刺レ由。況因二萬乘之權一。假二聖王之資一乎。然則荊軻之沈二七族一。要離燔二妻子一。豈足下爲二大王一道上哉。明月之珠。夜光之璧。以レ闇投二人於道路一。衆

軻の七族を沈めたる、要離(一〇)が妻子を燔ける、豈に大王の爲に道ふに足らんや。明月の珠、夜光の璧、闇を以て人に道路に投ずれば　衆、劍を按じて相眄せざる者なし。何となれば則ち、因なくして前に至ればなり。蟠木(一一)根柢、輪囷(一二)離奇にして(一三)萬乘の器と爲る者は、左右先づ之が容を爲す(一四)を以てなり。故に因なくして前に至れば、隨侯の珠・夜光の璧を出すと雖も、秖(一五)ま以て怨を結ぶに足りて、徳とせられず。故に人の先游(一六)するあれば、則ち枯木朽株を以てすら、功を樹て(一七)ゝ忘れられず。今天下の布衣窮居の士をして、堯・舜の術を蒙り、伊(一八)・管の辯を挾むと雖も、素と根柢の容なくして、精神を竭し、忠信を開き、人主の治を輔けんと欲せしめば、則ち人主は必ず劍を按じて相眄るの迹を襲(一九)はん。是れ布衣をして、枯木朽株の資に當ることを得ざらしむるなり。

(一) 大夫種に劍を賜ひ自殺せしめしをいふ (二) 楚の相 (三) 楚王之を用ひて相と爲さんと欲せしに、之を辭し妻と共に逃れ、人の爲に園に灌せしをいふ (四) 素は心に蓄積する所 (五) 毀也 (六) 夏の桀王 (七) 盜跖、古への大盜 (八) 許由なり賢者 (九) 荊軻、燕の爲に秦王を刺さんとして成らず死す、其七族之に坐して沈沒せられしを

無下不二按レ劍相一眄上者。何則。無レ因至レ前也。蟠木根柢。輪囷離奇。而爲二萬乘器一者。以三左右先爲二之容一也。故無レ因而至レ前。雖レ出二隨侯之珠夜光之璧一。祇足下以結レ怨而不上レ見レ德。故有二人先游一。則以二枯木朽株一。樹レ功而不レ忘。今使下天下布衣窮居之士。雖下蒙二堯舜之術一。挾中伊管之辯上。懷二無根柢之容一。而欲下竭二精神一開二忠信一輔中人主之治上。則人主必襲二按レ劍相眄之迹一矣。是使下布衣不上レ得レ當二枯木朽株之資一也。

いふ 〔一〇〕 呉王が偏りて要離に罪を加へ、其妻子を燒きしをいふ 〔一一〕 蟠木は屈曲の木、根柢は下本也、根 〔一二〕 委曲盤戾なるをいふ 〔一三〕 天子の車輿の屬 〔一四〕 彫刻して飾を加ふるをいふ、形容也 〔一五〕 猶也 〔一六〕 猶納也 〔一七〕 立也 〔一八〕 伊尹と管仲 〔一九〕 陳べ說く也

是以聖王制レ世御レ俗。獨化二於陶鈞之上一。而不レ牽二乎卑亂之言一。不レ惑二乎衆多之口一。故秦皇帝任二中庶子蒙恬之言一。以信二荊軻之說一。故七

是を以て聖王の世を制し、俗を御する、獨り陶鈞〔一〕の上に化して、能く卑亂の言に牽かれず、衆多の口に惑されず、〔二〕故に秦の皇帝は、中庶子・蒙恬の言に任じて、以て荊軻の說を信ず。故に七首竊に發せり。周の文王、〔三〕涇・渭に校獵し、〔四〕呂尚を載せて歸り、以て天下に王たり。秦は、左右を信じて弑せられんとし、周は、〔五〕烏集を用ひて王たり。何となれば則ち、其の能く〔六〕攣拘の語を越え、域外の議に馳せ、獨り昭曠〔七〕の道に觀るを以てなり。今人主、諂諛の辭に沈み、〔八〕帷牆の制に牽かれ

首竊發。周文王校二獵涇渭一。載二呂尙一而歸。以王二天下一。秦信二左右一而弑。周用二烏集一而王。何則。以下其能越二攣拘之語一。馳二域外之議一。獨觀中於昭曠之道上也。今人主沈二於諂諛之辭一。牽二於帷墻之制一。使下不羈之士與二牛驥一同上レ皂。此鮑焦之所下以忿二於世一而不上レ留二於富貴之樂一也。臣聞盛

(九)不羈の士をして、牛驥(一〇)と皂を同じうせしむ。此れ鮑焦(一一)の世を忿りて、富貴の樂に留めざる所以なり。臣聞く、盛飾して以て朝する者は、私を以て義を汚さず、名(一二)號を砥礪する者は、利を以て行を傷らず。故に里に勝母(一三)と名づくれば、曾子入らず。邑に朝歌(一四)と號すれば、墨子車を回すと。今天下寥廓(一五)の士をして、威重の權に籠り、勢位の貴に脇られ、面を回(一六)にし行を汚し、以て諂諛の人に事へ、親近を左右に求めしめば、則ち士は、崛穴巖藪(一七)の中に伏死するあるのみ。安ぞ精神を盡して、闕下に趨く者あらんやと。書、孝王に奏す。孝王立に之を出し、卒に上客と爲せり。

(一) 鈞は陶器をつくる器に附屬せる輪、其輪を回轉して器を作るごとくすと也 (二) 荊軻既に秦に至り、千金の資幣物を持し、厚く秦王の寵臣中庶子蒙嘉におくる。嘉爲に先づ秦王に言つて曰く、燕、國を擧げて内臣とならんと。秦王之を信ぜしに、匕首のあらはれしをいふ (三) 川の名 (四) 文王の師、太公望也 (五) 文王の太公を得しは、舊故あるにあらずして、烏の暴に集りしが如しと也 (六) 淺近也 (七) 昭は明也、曠は廣也 (八) 帷は妾の止る所、牆は臣の居る所 (九) 才識高遠にして、羈係すべからざるをいふ (一〇) 牛馬を飼ふ櫪也 (一一) 周の高節の士 (一二) 名分

飾以朝者。不二以レ私汙レ義。砥二礪名號一者。不二以レ利傷レ行。故里名二勝母一。而曾子不レ入。邑號二朝歌一。墨子回レ車。今使下天下寥廓之士。籠二於威重之權一。脇二於勢位之貴一。回レ面汙レ行。以事二諂諛之人一。求中親近於左右上。則士有レ伏二死堀穴巖藪之中一耳。安有下盡二精神一而趨二闕下一者上哉。書奏二孝王一。孝王立出レ之。卒爲二上客一。

をたつといふもの也 〔一三〕 勝母といふ名の順ならざるを以てなり 〔一四〕 殷紂王、朝歌の音を作る。朝歌は時ならざるが故に車を回すならん 〔一五〕 遼大の度量あるをいふ 〔一六〕 邪也 〔一七〕 堀は、窟に同し。藪は、澤の水なきもの

管仲言二齊桓公一曰。夫墾レ田刱レ邑。闢レ土殖レ穀。盡二地之利一。則臣不レ若二甯戚一。請置以爲二田官一。登降揖讓。進退閑習。臣不レ如二隰朋一。請置以爲二大行一。蚤人晏出。犯二君顏色一。進諫必忠。不レ重二富貴一。不レ避二死亡一。則臣不レ若二

卷第四

雜事第四

管仲、齊の桓公に言ひて曰く、夫れ田を墾き(一)邑を刱め(二)、土を闢き穀を殖し、地の利を盡すは、則ち臣は甯戚に若かず。請ふ、置きて以て田官と爲さん。登降揖讓、進退閑習は、臣は隰朋(三)に如かず。請ふ、置きて以て大行(四)と爲さん。蚤人晏出、君の顏色を犯し、進諫必忠、富貴を重んぜず、死亡を避けざるは、則ち臣は東郭牙(五)に若かず。請ふ、置きて以て諫臣と爲さん。決獄(六)折中、無罪を誣ひず、無辜を殺さざるは、則ち臣は弦寧に若かず。請ふ、置きて以て大理(七)と爲さん。平原廣囿、車は軌(八)を結ばず、士は踵を旋さず、之を鼓して、三軍の士、死を視ること歸するが若くなるは、則ち臣は王子成甫に若かず。請ふ、置きて以て大司馬(九)と爲さん。君如し國を治め兵を強くせんと欲せば、則ち此五子者にして足れり。

東郭牙。請置以爲諫臣。決獄折中。不誣無罪。不殺無辜。則臣不若弦寧。請置以爲大理。平原廣囿。車不結軌。士不旋踵。鼓之而三軍之士。視死若歸。則臣不若王子成甫。請置以爲大司馬。君如欲治國強兵。則此五子者足矣。如欲霸王。則夷吾在此。夫管仲能知人。桓公能任賢。所以九合諸侯。一匡天下。不用兵車。管仲之功也。詩曰。濟濟多士。文王以寧。桓公其似之矣。

如し霸王を欲せば、則ち夷吾此に在りと。夫れ管仲は能く人を知り、桓公は能く賢に任ず。諸侯を九合し、天下を一匡して、兵車を用ひざる所以は、管仲の功なり。詩に曰く、濟濟たる多士、文王以て寧しと。桓公其れ之に似たり。

（一）耕也　（二）造也　（三）齊の莊公の曾孫、甯仲の子、成子也　（四）官名、大賓の禮・大客の儀を掌り、以て諸侯に親む　（五）蓋し鮑叔牙ならん　（六）正也　（七）治獄の官　（八）兩輪の間也　（九）武を主る官、即ち武を以て王を佐け、邦國を平にするもの　（一〇）糾に通ず、收也、をさむ也

有司請吏於齊桓公。桓公曰。以告仲父。有司又請。桓公曰。以告仲父。若是者三。

有司、吏を齊の桓公に請ふ。桓公曰く、以て仲父に告げよと。有司又請ふ。桓公曰く、以て仲父に告げよと。是の若くする者三たび。側に在る者曰く、一も則ち仲父に告げよ。二も則ち仲父に告げよと。易いかな、君たることと。桓公曰く、吾れ未だ仲父を得ずんば則ち難し。已に仲父を得たり。曷爲れぞ其れ易から

在レ側者曰。一則告ニ仲父ー。二則告ニ仲父ー。易哉爲レ君。桓公曰。吾未レ得ニ仲父ー則難。已得ニ仲父ー。曷爲其不レ易也。故王者勞ニ於求レ人。佚ニ於得レ賢。舜擧ニ衆賢ー在レ位。垂ニ衣裳ー恭レ己。無爲而天下治。湯文用ニ伊呂ー。成王用ニ周邵ー。而刑措不レ用。兵偃而不レ動。用ニ衆賢ー也。桓公用ニ管仲ー則小也。故至ニ於霸ー。而不レ能ニ以王ー。故孔子曰。小哉管仲之器。蓋善其遇ニ桓公ー。惜ニ其不レ能ニ以王ー也。至ニ明主ー則不レ然。所レ用大矣。詩曰。濟濟多士。文王以寧。此之謂也。

ざらんやと。故に王者は、人を求むるに勞し、賢を得るに佚す(一)。舜(二)は、衆賢を擧げて位に在らしめ、衣裳を垂れて己を恭しくし、無爲にして天下治れり。湯・文、伊・呂を用ひ、成王、周・邵を用ひて、刑、措(三)きて用ひず、兵偃せて動かざるは、衆賢を用ふればなり。桓公の管仲を用ひしは則ち小なり。故に霸に至りて、以て王たること能はず。故に孔子曰く、(四)小なるかな、管仲の器と。蓋し善く其の桓公に遇せられて、其の以て王たること能はざるを惜めるなり。明主に至りては則ち然らず。用ふる所大なればなり。詩に曰く、濟濟たる多士、文王以て寧しと。此の謂なり。

(一) 安也　(二) 論語に無爲にして治むる者は、其れ舜なるかとあり　(三) 措は置也、民、法を犯さず、故に刑を用ふる所なき也　(四) 論語八佾篇の文

公季成謂二魏文侯一曰。田子方雖二賢人一。然而非二有土之君一也。君常與レ之齊レ禮。假有下賢二於子方一者上。君又何以加レ之。文侯曰。如二子方一者。非三成所二得議一也。子方仁人也。仁人也者。國之寶也。智士也者。國之器也。博通士者也。國之尊也。故國有二仁人一。則羣臣不レ爭。國有二智士一。則無二四隣諸侯之患一。國有二博通之士一。則人主尊。固非二成之所レ議也。公季成自退二於郊一三日請レ罪。

公季成、魏の文侯に謂つて曰く、田子方は賢人なりと雖も、然も有土の君にあらざるなり。君常に之と禮を齊しうす。假し子方より賢れる者あらば、君又何を以てか之に加へんと。文侯曰く、子方の如き者は、成が得て議する所にあらざるなり。子方は仁人なり。仁人は國の寶なり。智士は國の器なり。博通の士は國の尊なり。故に國に仁人あれば、則ち羣臣爭はず。國に智士あれば、則ち四鄰諸侯の患なし。國に博通の士あれば、則ち人主尊し。固より成の議する所にあらざるなりと。公季成、自ら郊より退くこと三日にして、罪を請へり。

一 領土ある君即ち一國君といふ譯にはあらず

魏文侯弟曰二季成一。友曰二翟

魏の文侯の弟を季成と曰ひ、友を翟黃と曰ふ。文侯之を相にせんと欲して、

黃。文侯欲相之而未能決。以問李克。克對曰。君若置相、則問樂商與王孫苟端孰賢。文侯曰善。以王孫苟端爲不肖。翟黃進之。樂商爲賢。季成進之。故相季成。故知人則哲。進賢受上賞。季成以知賢。故文侯以爲相。季成翟黃皆近臣親屬也。以所進者賢別之。故李克之言是也。

未だ決する能はず、以て李克に問ふ。克對へて曰く、君若し相を置てん(一)とならば則ち樂商と王孫苟端と孰れ(二)か賢なると問へと。文侯曰く、善しと。王孫苟端を以て不肖と爲す。翟黃之を進めたり。樂尙を賢と爲す。季成之を進めたり。故に季成を相とせり。故に人(三)を知るは則ち哲なり。賢を進むれば上賞を受く。季成以て賢を知れり。故に文侯以て相と爲せり。季成・翟黃は皆近臣親屬なり。進むる所の者の賢を以て之を別つ。故に李克の言是なり。

(一)立也　(二)誰也　(三)尙書皐陶謨に人を知るは則ち哲とあり。哲は明也

孟嘗君問於白圭曰。魏文侯名過於桓公。而功不及五伯。何也。白

孟嘗君(一)、白圭(二)に問ひて曰く、魏の文侯、名、桓公に過ぎて、功、五伯に及ばざるは何ぞやと。白圭對へて曰く、魏の文侯は子夏を師とし、田子方を友とし、段干木を敬す。此れ名の桓公に過ぐる所以なり。相(三)と卜すれば、則ち成と黃と

圭對曰、魏文侯師二子夏一。友二田子方一。敬二段干木一。此名之所三以過二於桓公一也。卜、相則曰二成與レ黃孰可一。此功之所二以不レ及二五伯一也。以二私愛一妨二公擧一。在レ職者不レ堪二其事一。故功廢。然而名號顯榮者。三士翊レ之也。如相二三士一。則王功成。豈特霸哉。

孰れか可なりと曰ふ。此れ功の五伯に及ばざる所以なり。私愛を以て公擧を妨ぐれば、職に在る者、其事に堪へず。故に功廢す。然り而して名號の顯榮なるは、三士之を翊くればなり。如し三士を相とせば、則ち王功成らん。豈に特り霸のみならんやと。

(一) 名は文、姓は田氏、靖郭君の子　(二) 周の人　(三) 擇也、えらぶ

晉平公問二於叔向一曰。昔者齊桓公九二合諸侯一。一二匡天下一。不レ識其君之力乎。其臣之力乎。叔向對曰。管仲善

晉の平公、叔向に問ひて曰く、昔者齊の桓公、諸侯を九合し、天下を一匡せり。識らず、其君の力か、其臣の力かと。叔向對へて曰く、管仲善く制割し、隰朋善く削縫し、賓胥無善く純緣す。桓公は衣ることを知るのみ。亦其臣の力なりと。師曠侍して曰く、臣請ふ、之を譬ふるに五味を以てせん。管仲は善く之を斷割し、隰朋善く之を煎熬し、賓胥無善し之を齊和す。羹以て熟せり。奉

制割。隰朋善削縫。賓胥無善純緣。桓公知レ衣而已。亦其臣之力也。師曠侍曰。臣請譬レ之以二五味一。管仲善斷二割之一。隰朋善煎二熬之一。賓胥無善齊二和之一。羹以熟矣。奉而進レ之。而君不レ食。誰能彊レ之。亦君之力也。

じて之を進む。而して君食はずんば、誰れか能く之を彊ひんや。亦君の力なりと。

(一) 糾合と同じ、或は曰く九度會合すと

昔者齊桓公與二魯莊公一爲二柯之盟一。魯大夫曹劌。謂二莊公一曰。齊之侵レ魯。至二於城下一。城壞壓レ境。君不レ圖與。莊公曰。嘻寡人之生不レ若レ死。曹劌曰。然則君請當二其君一。臣請當二其臣一。及レ

昔者齊の桓公、魯の莊公、柯の盟を爲す。魯大夫(一)曹劌、莊公に謂つて曰く、齊の魯を侵す、城下に至れり。城壞(二)れて境を壓せり。君、圖らざるかと。莊公曰く、嘻、(三)寡人の生は、死に若かずと。曹劌曰く、然らば則ち君請ふ、其君に當れ。(四)臣請ふ、其臣に當らんと。會するに及び、兩君壇(五)に就き、兩相相揖す。曹劌、劍を手にし刃を拔きて進む。桓公に壇上に迫つて曰く、城壞れ境に壓す。君、(六)圖らざるかと。管仲曰く、然らば則ち君(八)何をか求むると。曹劌曰く、願はくは汶(七)陽の田を請はんと。管仲、桓公に謂つて曰く、君其れ之を許せと。桓公之を許す。曹劌、桓公に盟はんと請ふ。遂に之を盟ふ。(九)已に盟ひて劍を摽(一〇)てて去る。左

會兩君就壇。兩相相揖。曹劌手劍拔刃而進。迫桓公於壇上曰。城壞壓境。君不圖與。管仲曰。然則君何求。曹劌曰。願請汶陽田。管仲謂桓公曰。君其許之。桓公許之。曹劌請盟桓公。遂與之盟。已盟摽劍而去。左右曰。要盟可倍。曹劌可讎。請倍盟而討曹劌。管仲曰。要盟可負。而君不負。曹劌可讎。而君不讎。著信天下矣。遂不倍天下。諸侯翕然而歸之。爲鄄之會。幽之盟。諸侯莫不至焉。爲陽穀之會。貫澤之盟。遠國皆來。

右曰く、要盟(一一)倍くべし。曹劌讎ゆべし(一二)。請ふ、盟に倍きて曹劌を討ぜんと。管仲曰く、要盟負くべきも、而も君負かず。曹劌讎ゆべきも、而も君讎いず。信を天下に著せりと。遂に天下に倍かず。諸侯翕然として之に歸す。(一三)鄄の會・幽の盟を爲す。諸侯至らざる莫し。陽穀(一四)の會・貫澤(一五)の盟を爲す。遠國皆來る。南のかた強楚を伐ち、以て菁茅(一六)の貢を致し、北のかた山戎(一七)を伐ち、燕の爲に路を開く、三たび亡國を存し、一たび絶世を繼ぎ、周室に尊事し、諸侯を九合し、天下を一匡せり。功、三王に次ぎ、五伯の長たりしは、本と信に柯の盟に起れり。

(一)齊の阿邑、柯の盟は、莊公の十三年也　(二)魯の人　(三)自ら齊と讎を爲し、復する能はざるを傷める也　(四)敵する也　(五)土壇三尺、土階三等を壇と爲す。會するに必ず壇ある者は、升降揖讓のためなり　(六)齊桓公　(七)計也、君、齊を侵すの甚しきを計らざるかと也　(八)莊公　(九)諸侯は國にて死すべきにて、邑にて死すべきものならざるが故なり　(一〇)捐也、すつ　(一一)臣のその君を約するを要といふ　(一二)臣を以て君をおびやかすが故なり　(一三)衞の地　(一四)齊の地　(一五)宋の地　(一六)茅の毛刺あるもの　(一七)北狄

南伐二強楚一以致二菁茅之貢一北伐二山戎一爲レ燕開レ路。三存二亡國一一繼二絶世一尊二事周室一九二合諸侯一一二匡天下一功次二三王一爲二五伯長一本信起二乎柯之盟一也。

晉文公伐レ原。與二大夫一期二五日一。五日而原不レ降。文公令レ去レ之。吏曰。原不レ過二三日一將レ降矣。君不レ如レ待レ之。君曰。得レ原失レ信。吾不レ爲也。原人聞レ之曰。有二君義一若レ此。不レ可レ不レ降也。遂降。溫人聞レ之。亦請レ降。故曰。伐レ原而溫降。此之謂也。於レ是諸

晉の文公、(一)原を伐ち、大夫と五日を期す。五日にして原降らず。文公之を去らしむ。吏曰く、原は三日を過ぎずして將に降らんとす。君、之を待つに如かずと。君曰く、原を得て信を失ふ、吾れ爲さずと。原人之を聞きて曰く、君の義あること此の若し。降らずんばあるべからずと。遂に降る。(二)溫人之を聞き、亦降らんと請ふ。故に曰く、原を伐ちて溫降るとは、此の謂なり。是に於て諸侯之に歸す。遂に曹を侵し衞を伐ち、踐土の會●溫の盟を爲せり。後南のかた強楚を破り、周室に尊事し、遂に霸功を成して、上、齊桓に次げり。本と信に原を伐ちしに由れるなり。

(一) 天子が、晉の文公の功を賞し、賜ひし所の田なり。然るに原人猶服せず、故に晉之を伐ちしなり (二) 時に周人、亦溫を以て文公に賜ふ。兩相連って皆叛きしなり。溫は、周の南陽の地

侯歸之。遂使曹伐衞。爲踐土之會。溫之盟。後南破强楚。尊事周室。遂成霸功。上次齊桓。本信由伐原也。

昔者趙之中牟叛。趙襄子率師伐之。圍未合而城自壞者十堵。襄子擊金而退士。軍吏曰。君誅中牟之罪。而城自壞。是天助也。君曷爲去之。襄子曰。吾聞之於叔向曰。君子不乘人於利。不迫人於險。使之城而後攻。中牟聞其義。乃請降。詩曰。王猶允塞。徐方既來。此之謂也。襄子遂滅知氏。并代爲天下彊。本由伐中牟也。

昔者趙の中牟叛す。趙襄子、師を率ゐて之を伐つ。圍未だ合はずして城自ら壞るゝ十堵、(一)襄子、金を撃ちて士を退く。(二)軍吏曰く、君、中牟の罪を誅して、城自ら壞れぬ。是れ天の助なり。君、曷爲れぞ之を去つるかと。襄子曰く、吾れ之を叔向に聞く。曰く、君子は、人に利に乘ぜず、人に險に迫らずと。之をして城かしめて後に攻めしむと。中牟、其義を聞き、乃ち降らんと請ふ。(三)詩に曰く、王の猶允に塞ちて、(四)徐方既に來れりとは、此の謂なり。襄子遂に知氏を滅し、并せ代りて天下の彊と爲れるは、本と中牟を伐ちしに由れるなり。

(一) 一丈を板と爲し、五板を堵となす (二) 軍法、鼓を以て戰ひ、金を以て止む也 (三) 詩經大雅常武篇 (四) 王は宣王、猶は謀也。允は信也。即ち、王、兵を血らず、兵、之に臨むと雖も、猶は信を守り、自ら實滿す。兵未だ陳せずして徐國已に來りて服從を告ぐと也

楚莊王伐レ鄭克レ之。鄭伯肉袒。左執二旄旌一。右執二鸞刀一。以迎二莊王一曰。寡人無良。邊陲之臣。以干二天之禍一。是以使三君王昧焉辱二到弊邑一。君如憐二此喪人一。錫二之不毛之地一。唯君王之命。莊王曰。君之不令臣。交易爲レ言。是以使下寡人得レ見二君之玉面一也。而微至二乎此一。莊王親自手レ旌

楚の莊王、鄭を伐ちて之に克つ。鄭伯肉袒し、左に旄旌を執り、右に鸞刀(一)を執り、以て莊王を迎へて曰く、寡人無良(二)、邊陲の臣、以て天の禍を干す。是を以て君王をして昧焉として、弊邑(三)に辱到せしむ。君如し此喪人を憐み、之に不毛(四)の地を錫ふも、唯だ君王の命のまゝなりと。莊王曰く、君の不令の臣(五)、交易して(六)言(七)を僞す。是を以て寡人をして、君の玉面を見ることを得しめて、微して(八)此に至れりと。莊王親自ら旌を手にして、左右に軍を麾き、還り舍すること七里にして、將に軍せんとす。子重(九)は進みて諫めて曰く、夫れ南郢(一〇)と鄭とは、相去ること數千里。諸大夫死する者數人、斯に役死せる者數百人、今尅ちて有せずんば、無乃民力を失はんかと。莊王曰く、吾れ之を聞けり。古者盂(一一)穿たず、皮蠹せず(一二)、四方に出でずと。是を以て見れば、君子は、禮を重んじて利を賤むなり。其人を要して、其土を要せず。人の從(一三)を告ぐるに赦さざるは不祥なり。吾れ不祥を以て天下に立たば、菑の吾身に及ばんこと(一四)、何れの日といふことか之れあらんや

左右麾レ軍。還舍七里。將レ軍。子重進諫曰。夫南郢之與レ鄭。相去數千里。諸大夫死者數人。厮役死者數百人。今剋而不レ有。無乃失二民力一乎。莊王曰。吾聞レ之。古者盂不レ穿。皮不レ蠧。不レ出二四方一。以レ是見君子重レ禮而賤レ利也。要二其人一。不レ要二其土一。人告レ從而不レ赦。不祥也。吾以二不祥一

と。既にして晉人の鄭を救ふ者至る。戰はんと請ふ。莊王之を許す。將軍子重進んで諫めて曰く、晉は强國なり。道近く力新なり。楚師疲勞す。君請ふ、許すこと勿れと。莊王曰く、不可なり。强き者をば我れ之を避け、弱き者をば我れ之を威せば、是れ寡人以て天下に立つことなきなりと。遂に師を還して以て晉寇を逆ふ。莊王、枹(一五)を援きて之を鼓す。晉師大敗す。晉人來るに、河を渡りて南す。敗れて犇走するに及びて度りて北せんと欲す。卒に舟を爭ふ。而して刃を以て引を擊つ。舟中の指、掬すべし。莊王曰く、嘻、吾兩君の相能からざるなり。百姓何の罪かあると。乃ち師を退けて以て晉の寇を秩す。(一六)詩に曰く、柔なるをも亦茹(一七)れず、剛きをも亦吐かず、鰥寡をも侮らず、强禦をも畏れずとは、莊王の謂なり。

(一) 宗廟割切の刀　(二) 良は善也　(三) 諸侯自ら國を稱して弊邑といふ　(四) 五穀を生ぜざるをいふ、毛は草なり　(五) 令は善也　(六) 往來といふに同じ　(七) 惡言をなす也　(八) 微は、小に喩ふるなり。小語言を積みて以て之ゝに至ると也　(九) 公子嬰齊、莊王の弟　(一〇) 楚の都　(一一) 水を飮む器　穿は敗也　(一二) 求也。蠹は敗也　(一三)

立二乎天下一。當之及二吾身一。何日之有矣。既而晉人之救ㇾ鄭者至。請ㇾ戰。莊王許ㇾ之。將軍子重進諫曰。晉强國也。道近力新。楚師疲勞。君請勿ㇾ許。莊王曰不可。强者我避ㇾ之。弱者我威ㇾ之。是寡人無三以立二乎天下一也。遂還師以逆二晉寇一。莊王援ㇾ枹而鼓ㇾ之。晉師大敗。晉人來渡ㇾ何而南。及二敗犇走一。欲二度而北一。卒爭ㇾ舟。而以ㇾ刃擊ㇾ引。舟中之指可ㇾ掬也。莊王曰。嘻吾兩君之不二相能一也。百姓何罪。乃退ㇾ師以軼晉寇一。詩曰。柔亦不ㇾ茹。剛亦不ㇾ吐。不ㇾ侮二鰥寡一。不ㇾ畏二强禦一。莊王之謂也。

服從也　一四 速なるをいふ　一五 桴に同じ、鼓をうつもの　一六 詩經大雅烝民篇　一七 食也

晉人伐ㇾ楚。三舍不ㇾ止。大夫曰。請擊ㇾ之。莊王曰。先君之時。晉不ㇾ伐ㇾ楚。及二孤之身一而晉伐ㇾ楚。是寡人之過也。如何其辱二諸大夫一也。大夫曰。先君之時。晉不ㇾ伐ㇾ楚。及二臣

晉人、楚を伐つ。三舍にして止らず。大夫曰く、請ふ、之を擊たんと。莊王曰く、先君の時、晉、楚を伐たず。孤の身に及びて、晉、楚を伐つ。是れ寡人の過なり。如何ぞ其れ諸大夫を辱せんやと。大夫曰く、先君の時、晉、楚を伐たず。臣の身に及びて、晉の楚を伐つは、是れ臣の罪なり。請ふ、之を擊たんと。莊王俛し泣きて起ち、諸大夫を拜す。晉人之を聞きて曰く、君臣爭うて過を以て己れに在りと爲す。且つ君、其臣に下ること猶ほ此の如し。所謂上下一心、三軍同力なり。未だ攻むべからざるなりと。乃ち夜、師を還す。孔子之を聞きて曰く、

之身而晉伐楚。是臣之罪也。請擊之。莊王俛泣而起。拜諸大夫。晉人聞之曰。君臣爭以過爲在己。且君下其臣。猶如此。所謂上下一心。三軍同力。未可攻也。乃夜還師。孔子聞之曰。楚莊王霸其有方矣。下士以一言而敵還。以安社稷。其霸不亦宜乎。詩曰。柔遠能邇。以定我王。此之謂也。

楚の莊王、霸たる其れ方あり。士に下りて、一言を以て敵還り、以て社稷を安んず。其の霸たる、亦宜ならずや。詩に(二)曰く、遠きを(三)柔げ邇きを(四)能くし、以て我王を定むとは此の謂なりと。

(一) 一舍は三十里　(二) 詩經大雅民勞篇　(三) 安也　(四) 近也

晉文公將伐鄴。趙衰言所以勝鄴。文公用之而勝鄴。將賞趙衰。趙衰曰。君將賞其末乎。賞其本乎。賞其末

晉の文公、將に鄴を伐たんとす。(一)趙衰、鄴に勝つべき所以を言ふ。文公之を用ひて鄴に勝つ。將に趙衰を賞せんとす。趙衰曰く、君將た其末を賞せんか、其本を賞せんか。其末を賞せんとならば、則ち騎乘の者存す。其本を賞せんとならば則ち臣之を(二)郄虎に聞けりと。公、郄虎を召して曰く、衰、鄴に勝つべき所以を言ふ。遂に勝ちて將に之を賞せんとすれば、蓋し之を子に聞けりと曰ふ。子をば當

則騎乘者存。賞二其本一則臣聞二之郄虎一。公召二郄虎一曰。衰言レ所三以勝二鄭一。遂勝將レ賞レ之。曰三盡聞二之子一。子當レ賞。郄虎對曰。言レ之易。行レ之難。臣言レ之者也。公曰。子無レ辭。郄虎不三敢固辭一。乃受レ賞。

に賞すべしと。郄虎對へて曰く、之を言ふは易く、之を行ふは難し。臣は之を言へる者なりと。公曰く、子、辭するなかれと。郄虎敢へて固辭(三)せず。乃ち賞を受けたり。

(一) 字は子餘、趙夙の弟　(二) 晉の大夫、郤芮の父、郤豹也　(三) 再び辭するを固辭といふ

梁大夫有二宋就者一。嘗爲二邊縣令一與レ楚鄰界。梁之邊亭。與二楚之邊亭一。皆種レ瓜。各有レ數。梁之邊亭人。劬力數灌二其瓜一。瓜美。楚人窳而稀レ灌二其瓜一。瓜惡。楚令因以二梁瓜

梁(一)の大夫に宋就といふ者あり。嘗て邊縣(二)の令と爲る。楚と隣界なり。梁の邊亭と楚の邊亭と、皆瓜を種ゑ、各〻數あり。梁の邊亭の人、劬力して數ば其瓜に灌ぐ。瓜美なり。楚人窳(三)にして、其瓜に灌すること稀なり。瓜惡し。楚の令、因つて梁の瓜の美なるを以て、其亭の瓜の惡を怒る。楚亭の人、心に梁亭の己れに賢れるを惡む。因りて往きて夜竊に梁亭の瓜を搔く。皆死焦せる者あり。梁亭之を覺る。因りて其尉に請ふ。亦竊に往きて楚亭の瓜を報い搔かんと欲すと。尉以て宋就に請ふ。就曰く、惡、是れ何ぞ可ならんや。怨禍を構ふるの道な

之美。怒二其亭瓜之惡一也。楚亭人心惡二梁亭之賢レ已。因往夜竊搔二梁亭之瓜一。皆有二死焦者一矣。梁亭覺レ之。因請二其尉一。亦欲三竊往報二搔楚亭之瓜一。尉以請二宋就一。就曰。惡是何可。構二怨禍一之道也。人惡亦惡。何褊之甚也。若我教レ子。必每暮令下人往竊爲二楚亭一夜善灌中其瓜上。勿レ令レ知

り。人惡しき、亦惡しくす、何ぞ褊(四)の甚しきや。若し我れ子に敎へんか。必ず每暮に人をして往きて、竊に楚亭の爲に、夜善く其瓜に灌がしめよ。知らしむること勿れと。是に於て梁亭、乃ち暮夜每に、竊に楚亭の瓜に灌ぐ。楚亭、旦にして瓜を行る。則ち又皆以て灌せり。瓜日〻に以て美なり。楚亭怪みて之を察れば、則ち乃ち梁亭のなせるなり。楚令之を聞きて大に悅び、因りて具して楚王に以聞す。楚王之を聞き、惄然(五)として愧ぢ、以て意に自ら閔む。吏に告げて曰く、瓜を搔く者を徵さば、他罪あること無きを得んや。此れ梁の陰讓なりと。乃ち謝するに重幣(六)を以てして、交を梁王に請ふ。楚王時に稱すれば、則ち梁王を視して以て信と爲す。故に梁・楚の歡は、宋就より始る。語に曰く、敗を轉じて功と爲し禍に因りて福と爲すと。老子(七)曰く、怨(八)に報ゆるに德を以てすと。此の謂なり。夫れ人既に不善なる、胡ぞ効するに足らんや。

(一) 窺なり、梁に郄せるが故にしかいふ　(二) かたよりたる貌　(三) 傷也、[illegible]たる　(四) 褊也、心狹きをいふ

也。於レ是梁亭乃毎ニ暮夜一。竊灌楚亭之瓜一。楚亭且而行レ瓜。則又皆以灌矣。瓜日以美。楚亭怪而察レ之。則乃梁亭也。楚令聞レ之大悦。因具以ニ聞楚王一。楚王聞レ之怒然愧以意自閔也。告レ吏曰。徵ニ搔瓜者一。得レ無レ有ニ他罪一乎。此梁之陰讓也。乃謝以ニ重幣一而請ニ交於梁王一。楚王時稱。則祝ニ梁王一。以爲レ信。故梁楚之歡由ニ宋就一始。語曰。轉レ敗而爲レ功。因レ禍而爲レ福。老子曰。報レ怨以レ德。此之謂也。夫人既不善。胡足レ効哉。

⑮ 憂ふるさま　⑯ 召也　⑰ 楚の苦縣厲郷曲仁里の人、姓は李、名の耳、字は伯陽、謚して聃といふ。周の主藏の吏　⑱ この語、老子六十三章に出づ

梁嘗有ニ疑獄一。羣臣半以爲當レ罪。半以爲無レ罪。雖ニ梁王一亦疑。梁王曰。陶之朱公。以ニ布衣一富侔レ國。是必有ニ奇智一。乃召ニ朱公一而問曰。梁有ニ疑獄一。獄吏半以爲レ當レ罪。半以

梁に嘗て疑獄あり。羣臣半ば以爲へらく、罪に當すと。半ば以爲へらく、罪なしと。梁王と雖も亦疑ふ。梁王曰く、陶朱公、布衣を以て、富、國に侔し。是れ必ず奇智あらんと。乃ち朱公を召して問ひて曰く、梁に疑獄あり。獄吏半ば以爲へらく、罪に當ると。半ば以爲へらく、罪に當らずと。寡人と雖も亦疑ふ。吾子是を奈何にか決すると。朱公曰く、臣は鄙民なり。當獄を知らず。然りと雖も臣の家に二白璧あり。其色相如けり。其徑相如けり。其澤相如けり。然して其價一は千金、一は五百金と。王曰く、徑と色澤と相如き、一は千金、一は五百金な

爲不レ當レ罪。雖二寡人一亦疑。吾子決二是奈何一。朱公曰。臣鄙民也。不レ知二當獄一。雖レ然臣之家有二二白璧一。其色相如也。其徑相如也。其澤相如也。然其價一者千金。一者五百金。王曰。徑與二色澤一相如也。一者千金。一者五百金。何也。朱公曰。側而視レ之。一者厚倍。是以千金。梁王曰善。故獄疑則從レ去。賞疑則從レ與。梁國大悅。由レ此觀レ之。墻薄則亟壞。繒薄則亟裂。器薄則亟毀。酒薄則亟酸。夫薄而可二以曠日持久一者。殆未レ有也。故有レ國畜レ民。施二政教一者。宜二厚レ之而可一耳。

るは何ぞやと。朱公曰く、側てて之を視れば、一は厚さ倍す。是を以て千金なりと。梁王曰く、善しと。故に獄の疑しきは則ち去つるに從ひ、賞の疑しきは則ち與ふるに從ふ。梁國大に悅ぶ。此に由りて之を觀れば、墻の薄きは則ち亟に壞れ、繒の薄きは則ち亟に裂け、器の薄きは則ち亟に毀れ、酒の薄きは則ち亟に酸し。夫れ薄くして以て曠日持久すべき者は、殆ど未だ有らざるなり。故に國を有し民を畜ひ、政教を施す者は、宜しく之を厚くして可なるべきのみ。

(一) 范蠡なり。字は少伯、越の上將軍、其兄は楚の人。越を去り陶に居り、貲を致し、巨萬を累ぬ。天下よりて陶朱公といひし也　(二) 罪の疑しきはこれ輕くし、功の疑しきはこれ重くする意

楚惠王食二寒

楚の惠王(一)、寒葅を食ひて蛭を得、因りて遂に之を呑む。腹に疾ありて食ふこと

葅一而得レ蛭。因遂呑レ之。腹有レ疾而不レ能レ食。今尹入問曰。王安得二此疾一也。王曰。我食二寒葅一而得レ蛭。念譴レ之而不レ行二其罪一乎。是法廢而威不レ立也。非レ所三以使二國聞一也。譴而行二其誅一乎。則庖宰食監。法皆當レ死。心又不レ忍也。故吾恐二蛭之見一也。因遂呑レ之。令尹避レ席再拜而賀曰。臣聞天道無レ親。惟德是輔。君有二仁德一。天之所レ奉也。病不レ爲レ傷。是夕也。惠王之後蛭出。故其久病。心腹之疾皆愈。天之視聽。不レ可レ不レ察也。

能はず。令尹入りて問ひて曰く、王安ぞ此疾を得たるやと。王曰く、我れ寒葅を食ひて蛭を得たり。念ふに、之を譴めて其罪に行はざらんか、是れ法廢して威立たざるなり。國をして聞かしむる所以に非ざるなり。譴めて其誅を行はんか、則ち庖宰食監、法皆死に當る。心に又忍びざるなり。故に吾れ蛭の見れんことを恐るゝや、因りて遂に之を呑めりと。令尹、席を避け（三）再拜して賀して曰く、臣聞く、（四）天道は親なく、惟だ德を是れ輔くと。君、仁德あり。天の奉ずる所なり。病、傷を爲さずと。是の夕、惠王の後（五）より蛭出づ。故に其の久しく病める心腹の疾皆愈えたり。天の視聽は、察せずんばあるべからざるなり。

（一）名は章、昭王の子　（二）葅は酢菜、陸德明曰く、葅は阻なり、主釀の品、寒溫の間を阻て、爛を得ざらしむと

（三）席を下る也　（四）蔡仲之命の語、今書に、皇天親無しに作る　（五）尻なり

鄭人游二于鄉校一。以議二執政之善否一。然明謂二子產一曰。何不レ毀二鄉校一。子產曰。胡爲。夫人朝夕游焉。以議二執政之善否一。其所レ善者。吾將レ行レ之。其所レ惡者。吾將レ改レ之。是吾師也。如二之何一毀レ之。吾聞爲レ國忠信以損レ怨。不レ聞下作レ威以防上レ怨。譬レ之若レ防レ川也。大決所レ犯傷レ人必多。吾不レ能

鄭人、鄉校(一)に游び、以て執政の善否を議す。然明(二)、子產(三)に謂ひて曰く、何ぞ鄉校を毀たざると。子產曰く、胡すれぞ爲さん。夫れ人朝夕にして游び、以て執政の善否を議す。其の善とする所の者をば、吾れ將に之を行はんとし、其の惡とする所の者をば、吾れ將に之を改めんとす。是れ吾が師なり。之を如何ぞ之を毀たん、吾れ聞く、國を爲むるは、忠信以て怨を損すと。威を作して以て怨を防ぐことを聞かず、之を譬ふるに、川を防ぐが若きなり。大に決すれば、犯傷する所の人必ず多し。吾れ救ふこと能はざるなり。如かず、之を小決して導(四)かしめ、吾れ聞きて之を藥(五)とせんにはと。然明曰く、蔑や、乃ち今吾子の信に事ふべきことを知れり。小人實に不材。若し果して此を行はば、其れ鄭國實に之に賴らん。豈に惟り二三の臣のみならんやと。仲尼、是語を聞くや、曰く、是を以て之を觀れば、人、子產を不仁と謂ふ、吾れ信ぜざるなりと。

(一)鄭の學校　(二)姓は鬷、名は蔑、鄭の平陸の大夫　(三)鄭の大夫、公孫僑なり　(四)通也　(五)治病也

救也。不如小決之使導。吾聞而藥之也。然明曰。蔑也乃今知吾子信可事也。小人實不材。若果行此。其鄭國實賴之。豈惟二三臣。仲尼聞是語也。曰。以是觀之。人謂子產不仁。吾不信也。

桓公與管仲鮑叔甯戚飲酒。桓公謂鮑叔。姑爲寡人祝乎。鮑叔奉酒而起曰。祝吾君。無忘其出而在莒也。使管仲無忘其束縛而從魯也。使甯子無忘其飯牛於車下也。桓公避席再拜曰。寡人與二大夫。皆無忘夫子之言。齊之社稷必不廢矣。此言常思困隘之時。必不驕矣。

桓公、管仲・鮑叔・甯戚(一)と飲酒す。桓公、鮑叔に謂へらく、姑く寡人の爲に祝せんかと。鮑叔、酒を奉じて起ちて曰く、吾君を祝せん。其の出でて莒(二)に在りしを忘るゝ無かれ。管仲をして其の束縛せられて、魯よりせしことを忘るゝ無からしめよ。甯子をして、其の牛を車下に飯ひしことを忘るゝなからしめよと。桓公、席を避け再拜して曰く、寡人と二大夫と、皆夫子の言を忘るゝこと無くんば、齊の社稷、必ず廢せずと。此れ言ふこゝろは、常に困隘の時を思ひて、必ず驕らずとなり。

(一) 齊の大夫、鮑敬叔の子、叔牙也　(二) 己姓の國、桓公の出亡せし國、その上に在りて驕らざらしめんとて也

桓公田至於麥丘。見麥丘邑人、問之。子何爲者也。對曰、麥丘邑人也。公曰、年幾何。對曰、八十有三矣。公曰、美哉壽乎。子其以子壽祝寡人。麥丘邑人曰、祝主君、使主君甚壽。金玉是賤、人爲寶。桓公曰、善哉。至德不孤。善言必再。吾子其復之。麥丘邑人曰、祝主君、使主

桓公、田して麥丘に至る。麥丘の邑人を見て問ふ、子は何する者ぞと。對へて曰く、麥丘の邑人なりと。公曰く、年は幾何ぞと。對へて曰く、八十有三と。公曰く、美なるかな壽や。子其れ子が壽を以て寡人を祝せよと。麥丘の邑人曰く、主君を祝せん。主君をして甚だ壽しからしめん。金玉は是れ賤人寶と爲すと。桓公曰く、善いかな。至德は孤ならず。善言は必ず再びす。吾子其れ之を復せよと。麥丘の邑人曰く、主君を祝せん。主君をして、學ぶを羞づるなく、下問を惡むなく、賢者傍に在り、諫者入を得しめよと。桓公曰く、善なるかな、至德孤ならず、善言は必ず三たびす。吾子一たび之を復せよと。麥丘の邑人曰く、主君を祝せん。主君をして罪を羣臣百姓に得ること無からしめよと。桓公、怫然として色を作して曰く、吾れ之を聞く、子、罪を父に得、臣を君に得ることを。未だ嘗て君の罪を臣より得る者を聞かざるなり。此一言は夫の二言の者の匹に非ざるなり。子之を更めよと。麥丘の邑人、坐拜して起ちて曰く、此一言は、夫の二言の長なり。子、罪を父に得ば、以て姑姉叔父

君無羞學。無惡下問。賢者在傍。諫者得入。桓公曰。善哉。至德不孤。善言必三。吾子一復之。麥丘邑人曰。祝主君。使主君無得罪於羣臣百姓。桓公怫然作色曰。吾聞之。子得罪於父。得臣罪於君。未嘗聞君得罪於臣者也。此一言者。非夫二言者之匹也。子更之。麥丘邑人坐拜而起曰。此一言者。夫二言之長也。子得罪於父。可以因姑姊叔父而解之。父能赦之。臣得罪於君。可以因便辟左右而謝之。君能赦之。昔桀得罪於湯。紂得罪於武王。此則君之得罪於其臣者也。莫爲謝。至今不赦。公曰善。賴國家之福。社稷之靈。使寡人得吾子於此。扶而載之。自御以歸。禮之於朝。封之以麥丘。而斷政焉。

に因りて之を解くべし。父能く之を赦さん。臣、罪を君に得ば、以て便辟左右に因りて之を謝すべし。君能く之を赦さん。昔桀、罪を湯に得、紂、罪を武王に得。此れ則ち君の罪を其臣に得る者なり。謝を爲す莫し。今に至るまで赦さずと。公曰く、善し。國家の福、社稷の靈に頼り、寡人をして吾子を此に得しむと。扶けて之を載せ、自ら御して以て歸り、之を朝に禮し、之を封ずるに麥丘を以てして政を斷ぜしめぬ。

哀公問孔子曰。寡人生於深宮之中。長於婦人之手。寡人未嘗知

（二）哀公、孔子に問ひて曰く、寡人深宮の中に生れ、婦人の手に長ず。寡人、未だ嘗て哀を知らざるなり。未だ嘗て憂を知らざるなり。未だ嘗て勞を知らざるなり。未だ嘗て懼を知らざるなり。未だ嘗て危きを知らざるなりと。孔子、席を

哀也。未ニ嘗知一レ憂也。未ニ嘗知一レ勞也。未ニ嘗知一レ懼也。未ニ嘗知一レ危也。孔子辟レ席曰。吾君之問。乃聖君之問也。丘小人也。何足ニ以言一レ之。哀公曰否。吾子就レ席微ニ吾子一無レ所レ聞レ之矣。孔子就レ席曰。然。君入ニ廟門一升レ自ニ阼階一。仰見ニ榱棟一。俯見ニ几筵一。其器存其人亡。君以レ此思レ哀。則哀將安不レ

辟けて曰く、吾君の問は、乃ち聖君の問なり。丘は小人なり。何ぞ以て之を言ふに足らんと。哀公曰く、否らず。吾子席に就け。吾子微りせば、之を聞く所なしと。孔子、席に就きて曰く、然り。君、廟門に入りて、阼階より升り、仰ぎて(三)榱棟を見、俯して几筵を見る。其器存し其人亡す。君、此を以て哀を思はば、則ち哀將た安ぞ至らざらんや。君、昧爽にして櫛冠、平旦にして朝に聽く。(二)一物の應ぜざる、亂の端なり。君、此を以て憂を思はば、則ち憂將た安ぞ至らざらんや。君、平旦にして朝に聽き、日昃きて退く。諸侯の子孫、必ず君の門廷に在る者あり。君、此を以て勞を思はば、則ち勞將た安ぞ至らざらんや。君、魯の四門を出で、以て魯の四郊を望めば、亡國の墟の列するもの、必ず數あらん。君此を以て、懼を思はば、則ち懼將た安ぞ至らざらんや。丘之を聞く、君は舟なり。庶人は水なり。水は則ち舟を載す。水は則ち舟を覆すと。君、此を以て危を思はば、則ち危き將た安ぞ至らざらんや。夫れ國の柄を執り、民の上

至矣。君昧爽而櫛冠。平旦而聽朝。一物不應。亂之端也。君以此思憂。則憂將安不至矣。君平旦而聽朝。日昃而退。諸侯之子孫。必有在君之門廷者。君以此思勞。則勞將安不至矣。君出魯之四門。以望魯之四郊。亡國之墟列。必有數矣。君以此思懼。則懼將安不至矣。丘聞之。君者舟也。庶人者水也。水則載舟。水則覆舟。君以此思危。則危將安不至矣。夫執國之柄。履民之上。懍乎如以腐索御犇馬。易曰。履虎尾。詩曰。如履薄氷。不亦危乎。哀公再拜曰。寡人雖不敏。請事斯語矣。

を履む。(五)懍乎として腐索を以て、犇馬を御するが如し。(六)易に曰く、(七)虎尾を履むと。(八)詩に曰く、(九)薄氷を履むが如しと。亦危からずやと。哀公再拜して曰く、寡人、不敏と雖も、請ふ斯語を事とせんと。

(一) 名は蔣、定公の子 (二) 榱は屋椽なり、たるき (三) 一物も理を失ふは、亂亡の端をなすと也 (四) 諸侯の子孫の奔亡して魯に至りて仕ふるものをいふ (五) 其所懼畏るべきの甚しきをいふ (六) 易經履卦の彖辭 (七) 其の極めて危きをいへるなり (八) 詩經小雅小旻篇 (九) 陷るを恐るゝ意

昔者齊桓公出遊於野。見亡國故城郭氏之墟。問於野人曰。是爲

昔者齊の桓公、野に出遊す。亡國故城を見る。郭氏の墟なり。野人に問ひて曰く、是を何れの墟と爲すと。野人曰く、是れ郭氏の墟たりと。桓公曰く、郭氏は曷ぞ墟と爲れると。野人曰く、郭氏は善を善とし、惡を惡とせりと。桓公曰

何墟。野人曰。是爲郭氏之墟。桓公曰。郭氏者曷爲墟。野人曰。郭氏者善善而惡惡。桓公曰。善善而惡惡。人之善行也。其所以爲墟者。何也。野人曰。善善而不能行。惡惡而不能去。是以爲墟也。桓公歸以語管仲曰。其人爲誰。桓公曰不知也。管仲曰。君亦一郭氏也。於是桓公招野人而賞焉。

く、善を善とし、惡を惡とするは、人の善行なり。其の墟となりし所以の者何ぞやと。野人曰く、善を善として行ふ能はず、惡を惡として去ること能はず。是を以て墟と爲れるなりと。桓公歸りて以て語る。管仲曰く、其人を誰とか爲すと。桓公曰く知らざるなりと。管仲曰く、君も亦一郭氏なりと(一)。是に於て桓公野人を招きて賞せり。

(一) そんな事では君も亦郭氏と何等異なる所なしと云ふべし

晉文公田於虢。遇一老夫。而問曰。虢之爲虢久矣。子處此故矣。虢亡其有說乎。

晉の文公、虢に田して一老夫に遇ふ(一)。問ひて曰く、虢の虢たること久し。子此に處ること故し。虢の亡ぶる、其れ說あるかと。對へて曰く、虢の君は、斷は則ち能くせず。諫は則ち與すことなし。斷ずること能はず、又人を用ふること能はず。此れ虢の亡びし所以なりと。文公以て田を輟めて歸る。趙衰に遇ひて

對曰。號君斷則不能。諫則無與也。不能斷。又不能用人。此號之所以亡。文公以輟田而歸。過趙衰而告之。趙衰曰。今其人安在。君曰。吾不與之來也。趙衰曰。古之君子。聽其言而用其人。今之君子。聽其言而棄其身。哀哉。晉國之憂也。文公乃召賞之。於是晉國樂納善言。文公卒以霸。

之を告ぐ。趙衰曰く、今其人安にか在ると。君曰く、吾れ之と來らざるなりと。趙衰曰く、古への君子、其言を聽きて其人を用ふ。今の君子、其言を聽きて其身を棄つ。哀しいかな。晉國の憂なりと。文公乃ち召して之を賞せり。是に於て晉國、善言を納るゝことを樂み、文公卒に以て霸たり。

(一) 老人の意

晉平公過九原而歎曰。嗟乎此地之蘊吾良臣多矣。若使死者起也。吾將誰與歸乎。叔向對曰。其趙武乎。

晉の平公、九原(一)を過ぎて歎じて曰く、嗟乎、此地の、吾良臣を蘊む(二)こと多し。若し死者をして起たしめば、吾れ將た誰と與にか歸せんと。叔向對へて曰く、其れ趙武ならんかと。平公曰く、子は、子の師に黨するなりと。對へて曰く、臣敢へて趙武の人と爲りを言はん。立つ、衣に勝へざるが若く、言ふ、口より出でざるが若し。然れども其身、士を白屋(三)の下より擧ぐる者四十六人、皆其意を得たり。

平公曰。子黨ニ於子之師一也。對曰。臣敢言ニ趙武之爲一レ人也。立若レ不レ勝レ衣。言若レ不レ出ニ於口一。然其身擧ニ士於白屋下一者。四十六人。皆得ニ其意一。而公家甚賴レ之。及ニ文子之死一也。四十六人。皆就ニ賓位一。是以レ無ニ私德一也。臣故以爲賢也。平公曰善。夫趙武賢臣也。相レ晉天下無ニ兵革一者九年。春秋曰。晉趙武之力盡得レ人也。

而して公家甚だ之に賴る。文子の死するに及びて、四十六人、皆賓位に就けり。是れ私德なきを以てなり。臣故に以爲へらく、賢なりと。平公曰く、善しと。夫れ趙武は賢臣なり。晉に相として、天下に兵革なき者九年なり。(四)春秋に曰く、晉の趙武の力、盡く人を得たりと。

(一)晉の墓地　(二)積也。死者に人物多くして、生者に少きを歎ずる也　(三)草屋也。庶民をいふ　(四)春秋襄公三十年に在り

葉公諸梁問ニ樂王鮒一曰。晉大夫趙文子。爲レ人何若。對曰。好レ學而受ニ規諫一。葉公曰。

葉公諸梁、樂王鮒に問ひて曰く、昔の大夫趙文子、人と爲り何若と。對へて曰く、學を好んで規諫を受くと。葉公曰く、疑ふらくは未だ之を盡さずと。對へて曰く、學を好むは智なり。規諫を受くるは仁なり。江は汶山より出で、其源甕口の若し。楚國に至れば、其廣さ十里。他の故なし。其下流多ければなり。人とし

疑未ㇾ盡ㇾ之矣。對曰。好ㇾ學智也。受二規諫一仁也。江出二汶山一。其源若二甕口一。至二楚國一。其廣十里。無二他故一。其下流多也。人而好ㇾ學受二規諫一。宜哉其立也。詩曰。其惟哲人。告二之話言一。順ㇾ德之行。此之謂也。

て學を好み規諫を受く。宜なるかな、其の立てることと。詩に曰く、其れ維れ哲人は、之に話言を告ぐれば、德に順ひて之れ行ふと。此の謂なり。

(一) 詩經大雅抑篇　(二) 古への善言なり

鍾子期夜聞二擊ㇾ磬聲者而悲一。旦召問ㇾ之曰。何哉。子之擊ㇾ磬。若ㇾ此之悲也。對曰。臣之父殺ㇾ人而不ㇾ得。臣之母得而爲二公家隷一。臣得而爲二公家一擊ㇾ磬。臣不ㇾ睹二臣之母一。

(一)鍾子期、夜、磬を擊つ聲の者にして悲めるを聞き、旦に召して之に問ひて曰く、何ぞや、子の磬を擊ち、此の若く悲めると。對へて曰く、臣の父、人を殺して得られず。臣の母、得られて公家の隷と爲り、臣は得られて、公家の爲に磬を擊つ。臣、臣の母を睹ざること此に三年なり。昨日市に舍して、之を睹ることを爲せり。意、之を贖はんと欲すれども財なし。身又公家の有なり。是を以て悲むと。鍾子期曰く、悲は心に在るなり。手に在るに非ざるなり。木に非ざるなり。石に非ざるなり。心に悲みて、木石之に應ず。至誠を以ての故なりと。

三年於此矣。昨日爲舍市而睹之。意欲贖之。無財。身又公家之有也。是以悲也。鍾子期曰。悲在心也。非在手也。非木非石也。悲於心而木石應之。以至誠故也。人君苟能至誠動於內。萬民必應而感移。堯舜之誠。感於萬國。動於天地。故荒外從風。鳳麟翔舞。下及微物。咸得其所。易曰。中孚豚魚吉。此之謂也。

人君苟も能く至誠内に動かば、萬民必ず應じて感移す。堯・舜の誠、萬國に感じ、天地を動かす。故に荒外風に從ひ、鳳麟翔り舞ひ、下、微物に及ぶまで、咸な其所を得たり。(三)易に曰く、(四)中孚なれば、(五)豚魚も吉なりと。此の謂なり。

(一)鍾の姓、子は通稱、期は名。楚人鍾儀の族　(二)樂器に用ふる石　(三)易の象の辭。(四)孚は信也　(五)無知のものなれども、至信感ずべきをいふ

勇士一呼。三軍皆辟。士之誠也。昔者楚熊渠子夜行。見寢石。以爲伏虎。關弓射之。滅矢飲羽。下視知石也。

勇士一乎して三軍皆辟くるは、士の誠なり。昔者楚の熊渠子夜行く。寢石を見て以て伏虎と爲す。弓を關きて之を射る。矢を滅して羽を飲む。下視して石なるを知れり。却つて復之を射る。矢摧けて迹なし。熊渠子、其誠心を見して、金石之が爲に開く。況んや人心をや。唱へて和せず、動きて隨はざるは、中に必ず全からざる者あるなり。夫れ席を降らずして天下を匡す者は、之を己れに求むる

却復射之。矢摧無迹。熊渠子見其誠心。而金石為之開。況人心乎。唱而不和。動而不隨。中必有不全者矣。夫不降席而匡天下者。求之己也。孔子曰。其身正不令而行。其身不正。雖令不從。先王之所以拱揖指揮。而四海賓者。誠德之至。已形於外。故詩曰。王猶允塞。徐方既來。此之謂也。

なり。孔子曰く、(一)其身正しければ、令せずして行はれ、其身正しからざれば、令すと雖も従はずと。先王の拱揖指揮して、四海の賓する所以の者は、誠德の至已に外に形るゝなり。故に(二)詩に曰く、王の猶允に塞ちて、徐方既に來れりとは此の謂なり。

(一) 論語子路篇の文　(二) 先に注せり、詩經大雅常武篇

齊有彗星。齊侯使祝禳之。晏子曰。無益也。祇取誣焉。天道不諂。不貳其命。若之何禳之也。且天之有彗。以

齊に彗星あり。齊侯、祝をして之を(一)禳はしむ。晏子曰く、益なきなり。祇だ誣を取るのみなり。天道は(二)諂せず。其命を(三)貳にせず。之を若何ぞ之を禳はんや。且つ天の彗ある、以て穢を除かんとてなり。君に穢德なくんば、又何ぞ禳はんや。若し德の穢る、之を禳ふとも何ぞ益せん。(四)詩に云ふ、維れ此の文王、心を小めて(五)翼翼たり。昭に上帝に事へて、聿れ多福を懐せり。厥德回ならず、以て方國

除ㇾ穢也。君無二穢德一。又何禳焉。若德之穢。禳ㇾ之何益。詩云。惟此文王。小ㇾ心翼翼。昭二事上帝一。聿懷二多福一。厥德不ㇾ回。以受二方國一。君無二逆德一。方國將ㇾ至。何患二於慧一。詩曰。我無ㇾ所ㇾ監。夏后及ㇾ商用二亂之故一。民卒流亡。若德之回亂。民將二流亡一。祝史之爲。無二能補一也。公說乃止。

を受くと。君に違德なくんば、方國將に至らんとす。何ぞ彗を患へん。詩に曰く、我れ監みる所なからんや。(七)夏后と商と亂の故を用つて、民卒に流亡せりと。若し德の回亂せば、民將に流亡せんとす。祝史の爲能く補ふことなきなりと。公說びて乃ち止む。

(一)祭りて之を除かんとせるなり　(二)欺也　(三)疑也　(四)詩經大雅大明篇　(五)逆德は惡德也、回は邪也、即ち文王の德、天人に違はず、故に四方の國之に歸往すと也　(六)逸詩也　(七)夏商の亡びしを追監するに、昏亂を以ての故なりと也

宋景公時。熒惑在ㇾ心。懼召二子韋一而問曰。熒惑在ㇾ心。何也。子韋曰。熒惑天罰也。心

宋の景公の時、熒惑、心に在り。懼れて(二)子韋を召して問ひて曰く、熒惑、心に在り。何ぞやと。子韋曰く、熒惑は天罰なり。心は宋の分野なり。禍、君の身に當らん。然りと雖も宰相に移すべしと。公曰く、宰相は國を治めしむる所なり。而るに移し死せしむるは、(三)不祥なり。寡人請ふ、自ら當らんと。子韋曰く、民に

宋分野也。禍當二君身一。雖レ然可レ移二於宰相一。公曰。宰相所レ使レ治レ國也。而後死焉不祥。寡人請自當也。子韋曰。可レ移二於民一。公曰。民死將誰君乎。寧獨死耳。子韋曰。可レ移二於歲一。公曰。歲饑民餓必死。爲二人君一欲下殺二其民一以自活上。其誰以レ我爲レ君乎。是寡人之命固盡矣。子無二復言一矣。

移すべしと。公曰く、民死せば將た誰にか君たらん。寧ろ獨り死せんのみと。子韋曰く、歲に移すべしと。公曰く、歲饑ゑば、民餓ゑて必ず死す。人君と爲りて、其民を殺して以て自ら活きんと欲せば、其れ誰か我を以て君と爲さんや。是れ寡人の命固に盡くるなり。子、復た言ふことなかれと。子韋還り走り、北面再拜して曰く、臣敢へて君を賀す。天は高きに處りて卑きに聽く。君に仁人の言三あり。天必ず三たび君を賞せん。(三)今夕星必ず舍を徙さん。君、壽を延ぶること、二十一歲ならんと。公曰く、子、何を以て之を知ると。對へて曰く、君に三善あり。故に三賞し、星必ず三舍せん。舍ごとに行くこと七星、星、一年に當る。三七二十一、故に曰く、延壽二十一年ならんと。臣請ふ、陛下に伏して以て之を伺はん。星徙らずんば、臣請ふ、之に死せんと。公曰く、可なりと。是の夕、星三たび舍を徙す。子韋の言の如し。(四)老子曰く、能く國の不祥を受く、是を天下の王と謂ふと。

子韋還走北面再拜曰。臣敢賀君。天之處高而聽卑。君有仁人之言三。天必三賞君。今夕星必徙舍。君延壽二十一歲。公曰。子何以知之。對曰。君有三善。故三賞。星必三舍。舍行七星。星當一年。三七二十一。故曰。延壽二十一年。臣請伏於陛下以伺之。星不徙。臣請死之。公曰。可。是夕也星三徙舍。如子韋言。老子曰。能受國之不祥。是謂天下之王也。

(一) 宋の太史、能く宿度を占ふ者なるが故に之を問ひしなり　(二) 不吉也　(三) 德を以て罪を贖するをいへるなり　(四) 老子第七十八章の言

宋康王時。有爵生鸇於城之陬。使史占之。曰。小而生巨。必霸天下。康王大喜。於是滅滕伐薛。取淮北之地。乃愈自信。欲霸之亟成。故射天笞地。斬社稷而焚之

宋の康王(一)の時、爵ありて鸇を城の陬(二)に生む。史をして之を占はしむ。曰く、小にして巨を生む。必ず天下に霸たらんと。康王大に喜ぶ。是に於て滕を滅し薛を伐ち、淮北の地を取る。乃ち愈よ自ら信ず。霸の亟に成らんことを欲す。故に天を射地に笞ち、社稷を斬りて之を焚きて曰く、威厳、天地鬼神を伏せりと。國老の諫むる者を罵り、無頭の棺(三)を爲り、以て勇あることを示す。傴者の背を剖き、朝涉の脛を鍥る。而して國人大に駭く。齊聞きて之を伐つ。民散じて城守らず。王乃ち兒侯(四)の館に逃れ、遂に病を得て死せり。故に祥を見て不可を爲

曰威嚴伏天地鬼神。罵國老之諫者。爲無頭之棺。以示有勇。剖傴者之背。鍥朝涉之脛。而國人大駭。齊閙而伐之。民散城不守。王乃逃見侯之館。遂得病而死。故見祥而爲不可。祥反爲禍。臣向愚以鴻範傳推之。宋史之占非也。此黑祥傳所謂黑眚者也。猶魯之有鸜鵒。爲黑祥也。屬於不謀其咎急也。鸇者黑色食爵。大於爵。害爵也。攫擊之物。貪叨之類。爵而生鸇者。是宋君且行急暴擊伐貪叨之行。距諫以生大禍。以自害也。故爵生鸇於城陬者。以亡國也。明禍且害國也。康王不悟。遂以滅亡。此其効也。

せば、祥反つて禍を爲す。臣向愚、(五)鴻範傳を以て、之を推すに、宋史の占は非なり。此れ(六)黑祥傳に所謂黑眚といふ者なり。猶ほ魯の鸜鵒あり、黑祥と爲すがごとし。謀らずして其咎急なるに屬す。鸇は黑色にして爵を食ふ。爵より大なり。爵を害す。攫擊の物、貪叨の類なり。爵にして鸇を生むとは、是れ宋の君の、且つ急暴擊伐、貪叨の行を行ひ、諫を距ぎて以て大禍を生じ、以て自ら害するなり。故に爵の、鸇を城陬に生むは、以て國を亡すなり。明なり、禍の且つ國を害すること。康王悟らず。遂に以て滅亡す、此れ其効なり。

(一) 名は偃、辟子の子 (二) 偶也 (三) 冠と通ず (四) 刻也、きる (五) 尚書大傳洪範五行傳に、聽の聰ならざる是を不謀と謂ふといへるをいふなり (六) この事は左傳昭公二十五年に見ゆ

魯哀公問二子夏一曰。必學而後可二以安レ國保レ民乎。子夏曰。不レ學而能安レ國保レ民者。未二嘗聞一也。哀公曰。然則五帝有レ師乎。子夏曰。有二臣聞一。黃帝學二乎大眞一。顓頊學二乎綠圖一。帝嚳學二乎赤松子一。堯學二乎尹壽一。舜

卷第五

雜事第五

魯の哀公、子夏に問ひて曰く、必ず學びて後、以て國を安んじ民を保んずべきかと。子夏曰く、學ばずして能く國を安んじ民を保んずる者は、未だ嘗て聞かざるなりと。哀公曰く、然らば則ち五帝に師あるかと。子夏曰く、臣、聞くあり。黃帝(一)は大眞に學び、顓頊(二)は綠圖(三)に學び、帝嚳(四)は赤松子(五)に學び、堯は尹壽に學び、舜は務成跗に學び、禹は西王國に學び、湯は威子伯に學び、文王は鉸時子斯に學び、武王は郭叔に學び、周公は太公に學び、仲尼(六)は老聃に學べりと。此十一聖人、未だ此師に遭はずんば、則ち功業、天下に著れず、名號千世に傳らず。詩(七)に曰く、愆らず忘れずして、舊章に率(八)ひ由はんと。此の謂なり。夫れ不學なれば、古道に明ならず。而して能く國家を安んずる者は、未だ之れ有らざ

學㆓乎務成跗㆒。禹學㆓乎西王國㆒。湯學㆓乎威子伯㆒。文王學㆓乎鉸時子斯㆒。武王學㆓乎郭叔㆒。周公學㆓乎太公㆒。仲尼學㆓乎老聃㆒。此十一聖人。未㆑遭㆓此師㆒。則功業不㆑著㆓乎天下㆒。名號不㆑傳㆓乎千世㆒。詩曰。不㆑愆不㆑忘。率㆓由舊章㆒。此之謂也。夫不學不㆑明㆓古道㆒。而能安㆓國家㆒者。未之有也。

るなりと。

(一) 少昊の子、姓は公孫、名は軒轅 (二) 黄帝の孫、昌意の子 (三) 老子也 (四) 黄帝の曾孫 (五) 神農の時の雨師、水玉を服し以て神農に教ふ (六) 禮を老聃に問ひしをいふ (七) 詩經大雅假樂篇 (八) 愆は過也 (九) 循也

呂子曰。神農學㆓悉老㆒。黃帝學㆓大眞㆒。顓頊學㆓伯夷父㆒。帝嚳學㆓伯招㆒。帝堯學㆓州文父㆒。帝舜學㆓許由㆒。禹學㆓大成執㆒。湯學㆓小臣㆒。文王武王學㆓太公望周公旦㆒。齊桓公學㆓管

呂子曰く、神農は悉老に學び、黃帝は大眞に學び、顓頊は伯夷父に學び、帝嚳は伯招に學び、帝堯は州文父(一)に學び、帝舜は許由(二)に學び、禹は大成執に學び、湯は小臣(三)に學び、文王・武王は太公望・周公旦に學び、齊の桓公は管夷吾・隰朋に學び、晉の文公は咎犯・隨會に學び、秦の穆公は百里奚(五)・公孫支に學び、楚の莊王は孫叔敖・沈尹竺(四)に學び、吳王闔閭は伍子胥(六)・文之儀に學び、越王勾踐は范蠡・大夫種に學べり。此皆聖王の學ぶ所なり。且つ夫れ天は人を生じて、其耳をして以て聞くべからしむ。其聞を學ばざれば則ち聾(七)に若かず。其目をして以て見るべ

爽吾隰朋。晉文公學二咎犯隨會。秦穆公學二百里奚。公孫支。楚莊王學二孫叔敖沈尹竺。吳王闔閭學二伍子胥文之儀。越王勾踐學二范蠡大夫種。此皆聖王之所レ學也。且夫天生レ人而使二其耳可一レ以聞。不レ學二其聞一則不レ若レ聾。使二其目可一レ以見。不レ學二其見一則不レ若レ盲。使二其口可一レ以言。不レ學二其言一則若レ不レ瘖。使二其心可一レ以智。不レ學二其智一則不レ若レ狂。故凡學非二能益一レ之也。達二天性一也。能全二天之所一レ生而勿レ敗レ之。可レ謂二善學者一矣。

からしむ。其見を學ばざれば則ち盲に若かず。其口をして以て言ふべからしむ。其言を學ばざれば則ち瘖（八）に若かず。其心をして以て智あるべからしむ。其智を學ばざれば則ち狂に若かず。故に凡そ學は、能く之を益すに非ざるなり。天性に達するなり。能く天の生ずる所を全うして、之を敗ること勿きは、善く學べる者と謂ふべしと。

（一）州は名、文父は字にて、子姓　（二）字は武仲、堯舜皆之を師とす　（三）伊尹をいふ　（四）咎犯、姓は狐、名は偃。字は子犯、孤突の子。隨會字は季、盤は武子　（五）秦の大夫。子桑也　（六）文は氏、之儀は名　（七）聞く所なき也　（八）瘂也、おし

湯見二祝レ網者一。置二四面一。其祝曰。從レ天墜者。

湯、網を祝する者（一）を見るに、四面を置く。其祝に曰く、天より墜つる者、地より出づる者、四方より來る者、皆吾が網に離れ（二）と。湯曰く、嘻、之を盡すなり。

從ㇾ地出者。從二四方一來者。皆離二吾網一。湯曰。嘻盡ㇾ之矣。非ㇾ桀其孰爲ㇾ此。湯乃解二其三面一。置二其一面一。更敎二之祝一曰。昔蛛蝥作ㇾ網。今之人循序。欲ㇾ左者左。欲ㇾ右者右。欲ㇾ高者高。欲ㇾ下者下。吾取二其犯ㇾ命者一。漢南之國聞ㇾ之曰。湯之德及二禽獸一矣。四十國歸ㇾ之。人置二四面一。未二必得一ㇾ鳥。湯去二三面一。置二其一面一。以網二四十國一。非二徒網一ㇾ鳥也。

桀に非ずんば、其れ孰(四)れか此を爲さんと。湯乃ち其三面を解き、其一面を置け、更めて之に祝を敎へて曰く、昔蛛蝥(五)、網を作る。今の人循序す。左せんと欲する者は左せよ。右せんと欲する者は右せよ。高からんと欲する者は高かれ。下らんと欲する者は下れ。吾れ其の命を犯す者を取らんと。(六)漢南の國、之を聞きて曰く、湯の德、禽獸に及べりと。四十國之に歸す。人、四面を置きて、未だ必ずしも鳥を得ず。湯、三面を去り、其一面を置きて、以て四十國を網す。(七)徒に鳥を網するのみに非ざるなり。

(一) 鳥のかゝるのことの多からんを天に祈る也 (二) 設也 (三) 羅也、かゝる (四) 誰也 (五) くも (六) 漢水の南の國 (七) 但也

周文王作二靈

周の文王、靈臺(一)を作る。池沼(二)を爲るに及びて、地を掘りて死人の骨を得たり。吏、

臺一。及レ爲ニ池沼一。掘レ地得ニ死人之骨一。吏以ニ聞於文王一。文王曰。更葬レ之。吏曰。此無レ主矣。文王曰。有ニ天下一者。天下之主也。有ニ一國一者。一國之主也。寡人固其主。又安求レ主。遂令下吏以ニ衣棺一更葬上レ之。天下聞レ之皆曰。文王賢矣。澤及ニ枯骨一。又況於レ人乎。或得レ寶以危レ國。文王得ニ朽骨一。以喩ニ其意一。而天下歸レ心焉。

文王に以聞す。文王曰く、更めて之を葬れと。吏曰く、此れ主なしと。文王曰く、天下を有つ者は天下の主なり。一國を有つ者は一國の主なり。寡人固より其主なり。又安ぞ主を求めんやと。遂に吏をして、衣棺を以て更めて之を葬らしむ。天下之を聞き、皆曰く、文王は賢なり。澤、枯骨(三)に及ぶ、又況んや人に於てや。或は寶を得て以て國を危くするに、文王は朽骨を得て、以て其意を喩して、天下心を歸すと。

(一) 神の精明なるを靈といひ、四方にして高き者を臺といふ (二) 沼は池也 (三) 骨の肉あるを骴といひ、無きを枯といふ

管仲傅ニ齊公子糾一。鮑叔傅ニ公子小白一。齊

管仲、齊の公子糾(一)に傅たり。鮑叔、公子小白に傅たり。齊の公孫無知、襄公(二)を殺す。公子糾は魯に奔り、小白は莒に奔る。齊人、無知を誅し、公子糾を魯に

公孫無知殺二襄公一。公子糺奔レ魯。小白奔レ莒。齊人誅二無知一。迎二公子糺於魯一。公子糺與二小白一爭レ入。管仲射二小白一。中二其帶鈎一。小白佯死。遂先入。是爲二齊桓公一。公子糺死。管仲奔レ魯。桓公立國定。使三人迎二管仲於魯一。遂立以爲二仲父一。委レ國而聽レ之。九二合諸侯一。一二匡天下一。爲二五伯長一。里

迎ふ。公子糺、小白と入らんことを爭ふ。管仲、小白を射て其帶鈎(三)に中つ。小白佯りて死す。遂に先に入る。是を齊の桓公と爲す。公子糺死す。管仲、魯に奔る。桓公立ちて國定る。人をして管仲を魯に迎へしむ。遂に立てて以て仲父と爲す。國を委ねて之に聽き、諸侯を九合し、天下を一匡し、五伯(四)の長と爲る。里鳧須は、晉の公子重耳の府を守る者なり。公子重耳の晉を出亡するや、里鳧須、其寶貨を竊みて逃る。公子重耳、國に反り立ちて君と爲る。里鳧須、門に造りて見えんことを願ふ。文公、沐に方る。其謁者(五)復す。文公、握髪して之に應じて曰く、吾(六)が鳧須かと。曰く、然りと。鳧須に謂つて曰へ、若(七)猶ほ面目を以てして、復び我を見ること有らんやと。謁者、里鳧須に謂ふ。鳧須對へて曰く、臣之を聞く、沐する者、其心覆ると。心覆る者は言悖る、君意ふに沐するか。何ぞ悖れるやと。謁者復す。文公之を見て曰く、若、我貨寶を竊みて逃る。我れ謂へらく、汝猶ほ面目ありて我を見るかと。汝が曰く、君何ぞ悖れると。是れ何

鳧須晉公子重耳之守府者也。公子重耳出亡於晉。里鳧須竊其寶貨而逃。公子重耳反國。立爲君。里鳧須造門願見。文公方沐。其謁者復。文公握髮而應之曰。吾鳧須邪。曰。然。謁鳧須曰。若猶有以面目而復見我乎。謁者謂里鳧須。鳧須對曰。臣聞之。沐者其心覆。

ぞやと。鳧須曰く、然り。君の國に反る。國の半自ら安んぜざるなり。君、寧ろ國の半を棄てんか。其れ寧ろ全晉を有たんかと。文公曰く、何の謂ぞやと。鳧須曰く、罪を君に得たる者、鳧須より大なるは莫し。君、鳧須を赦せと謂ひて、顯はに出して以て右と爲せば(八)、鳧須の罪の重きが如も、君猶ほ之を赦せり。況んや鳧須より輕きこと有る者をやと。文公曰く、命を聞きつと。遂に之を赦せり。明日出でて國を行る(九)に右たらしむ。翕然(一〇)として晉國皆安し。語に曰く、桓公、其賊に任じ、而して文公、其盜を用ひたりと。故に曰く、明主(一一)は、計に任じて怒に任ぜず。闇主は、怒に任じて計に任ぜず。計の怒に勝つ者は強く、怒の計に勝つ者は亡ぶと。此の謂なり。

(一) 小白の庶兄　(二) 齊の襄公位に卽き、公孫無知を憎み、其祿を收む。無知よろこばず襄公を殺しゝをいふ　(三) 帶がね　(四) 伯は覇也　(五) 謁は告也　(六) 鳧須罪あり、宜しく來り見るべからず、其の來る所の者は當に他の鳧須なるべし、故に吾がといへるにて深く責むる意なり　(七) 汝也　(八) 車右也、驂乘、そへのり　(九) 徇也　(一〇) 安定の意　(一一) 荀子哀公篇に見ゆ

心罷者言悖。君意沐邪。何悖也。謁者復。文公見レ之曰。若竊ニ我貨寶一而逃。我謂汝猶有ニ面目一而見レ我邪。汝曰君何悖也。是何也。鳧須曰。然。君反レ國。國之半不ニ自安一也。君寧棄ニ國之半一乎。其寧有ニ全晉一乎。文公曰。何謂也。鳧須曰。得ニ罪於君一者。莫レ大ニ於鳧須一矣。君謂レ赦ニ鳧須一。顯出以爲レ右。如ニ鳧須之罪重一也。君猶赦レ之。況有レ輕ニ於鳧須一者乎。文公曰。聞レ命矣。遂赦レ之。明日出行國使レ爲レ右。翁然晉國皆安。語曰。桓公任ニ其賊一。而文公用ニ其盜一。故曰。明主任レ計不レ任レ怒。闇主任レ怒不レ任レ計。計勝レ怒者强。怒勝レ計者亡。此之謂也。

甯戚欲レ干ニ齊桓公一。窮困無ニ以自進一。於レ是爲ニ商旅一。賃レ車以適レ齊。暮宿ニ於郭門之外一。桓公郊ニ迎客一。夜開レ門辟ニ賃レ車者一。執レ火甚盛。從者甚衆。甯戚飯ニ牛於車下一。望ニ桓公一而悲。擊ニ牛角一

甯戚、齊の桓公に干めん(一)と欲す。窮困以て自ら進むこと無し。是に於て商旅と爲り、車を賃して以て齊に適く。暮に郭門の外に宿す。桓公、客を郊迎す。夜、門を開きて、車を賃する者を辟らしむ。(二)火を執ること甚だ盛に、從者甚だ衆し。甯戚、牛を車下に飯ひ、桓公を望みて悲しむ。牛角を擊ち、疾く商歌す。桓公之を聞き、其僕の手を執りて曰く、異なるかな、此の歌ふ者、常人に非ざるなりと。後車に命じて之を載せしむ。桓公反り至る。從者以て請ふ、桓公曰く、之に衣冠を賜へ。將に之を見んとすと。甯戚見ゆ。桓公に説くに境内を合せんことを以てす。明日復た見る。桓公に説くに天下を爲むる(三)を以てす。桓公大に説

疾商歌。桓公聞レ之執二其僕之手一曰。異哉此歌者。非二常人一也。命二後車一載レ之。桓公反至。從者以請。桓公曰。賜二之衣冠一將レ見レ之。甯戚見。説二桓公一以レ合二境內一。明日復見。説二桓公一以レ爲二天下一。桓公大說。將レ任レ之。羣臣爭レ之曰。客衛人。去レ齊五百里不レ遠。不レ若レ使二人問一レ之。固賢人也。任レ之未レ晩也。桓公曰。不レ然。問レ之恐其有二小惡一。以二其小惡一。忘二人之大美一。此人主所三以失二天下之士一也。且人固難レ全。權用二其長者一。遂舉大用レ之。而授レ之以爲レ卿。當二此舉一也。桓公得レ之矣。所二以霸一也。

ぶ。將に之を任ひんとす。羣臣之を爭ひて曰く、客は衛人なり。齊を去ること五百里にして遠からず。若かず、人をして之を問はしめんには。固に賢人ならば、之に任ぜんこと未だ晩からざるなりと。桓公曰く、然らず。之を問はば恐らくは其れ小惡あらん。其小惡を以て人の大美を忘るゝは、此れ人主の、天下の士を失ふ所以なり。且つ人固より全かり難し、權りに其長ずる者を用ひんと。遂に舉げて大に之を用ふ。而して之に授けて以て卿と爲す。此舉に當りてや、桓公之を得たり。霸たりし所以なり。

㈠ 祿を求むる也　㈡ 炬火也　㈢ 治也　㈣ 用也

齊桓公見二小

齊の桓公、(一)小臣稷を見んとす。一日に三たび至りて見ることを得ざるなり。

臣稷。一日三至。不レ得レ見也。從者曰。萬乘之主。布衣之士。一日三至而不レ得レ見。亦可二以止一矣。桓公曰。不レ然。士之傲二爵祿一者。固輕二其主一。其主傲二霸王一者。亦輕二其士一。縱夫子傲二爵祿一。吾庸敢傲二霸王一乎。五往而後得レ見。天下聞レ之皆曰。桓公猶下二布衣之士一。而況國君乎。於レ是相率而朝。靡レ有レ不レ至。桓公所下以九二合諸侯一。一中匡天下上者。過レ士於レ是也。詩云。有二覺德行一。四國順レ之。桓公其以レ之矣。

從者曰く、萬乘の主にして、布衣の士を一日三至して、見ることを得ず。亦以て止むべしと。桓公曰く、然らず。士の爵祿に傲る者は、(二)固より其主を輕んず。其主の霸王に傲る者は、亦其士を輕んず。縱ひ夫子、爵祿に傲るとも、吾れ庸ぞ敢へて霸王に傲らんやと。五往して後、見ることを得たり。天下之を聞き、皆曰く、桓公は猶ほ布衣の士に下る。而るを況んや國君をやと。是に於て相率ゐて朝す。至らざるある靡し。桓公の、諸侯を九合し天下を一匡せる所以の者は、士を過すること是に於てすればなり。(三)詩に云ふ、(四)覺たる德行あり、四國之に順ふと。桓公、其れ之を以てせり。

(一) 桓公の時の處士　(二) 傲也、輕んずる也　(三) 詩經大雅抑篇　(四) 覺は直也、卽ち人君の政を爲す、賢人を得るより強きはなし。賢人を得ば則ち天下其俗に敎化す。大德の行はるゝあれば則ち天下其政に順從する也

魏文侯過二段干木之閭一而軾。其僕曰。君何爲軾。曰。此非二段干木之閭一乎。段干木蓋賢者也。吾安敢不レ軾。且吾聞段干木未四嘗肯三以レ己易二寡人一也。吾安敢高レ之。段干木光二乎德一。寡人光二乎地一。段干木富二乎義一。寡人富二乎財一。地不レ如レ德。財不レ如レ義。寡人當レ事レ之者也。遂致二祿百

魏の文侯、段干木の閭に過りて軾す。其僕曰く、君、何爲れぞ軾すると。曰く、此れ段干木の閭に非ずや。段干木は蓋し賢者なり。吾れ安ぞ敢へて軾せざらんや。且つ吾れ聞く、段干木は、未だ嘗て己れを以て寡人を易ることを肯ぜざるなり。吾れ安ぞ敢へて之に高ぶらんや。段干木は、德に光れり。寡人は地に光れり。段干木は義に富めり。寡人は財に富めり。地は德に如かず。財は義に如かず。寡人當に之に事ふべき者なりと。遂に祿百萬を致し、而して時に往きて之を問ふ。國人皆喜ぶ。相與に之を誦して曰く、吾君、正を好む。段干木之れ敬せらるゝ。吾君、忠を好む、段干木之れ隆めらる。居ること幾何もなく、秦、兵を興して魏を攻めんと欲す。司馬唐且、秦君を諫めて曰く、段干木は賢者なり。而して魏之を禮す。天下聞かざる莫し。無乃兵を加ふべからずと。秦君以て然りと爲す。乃ち兵を案じて、輟めて魏を攻めず。文侯は善く兵を用ひたりと謂ふべし。夫れ君子は善く兵を用ふるなり。其形を見さずして、攻むること已に

萬而時往問之。國人皆喜。相與誦之曰。吾君好正。段干木之敬。吾君好忠。段干木之隆。居無幾何。秦興兵欲攻魏。司馬唐且諫秦君曰。段干木賢者也。而魏禮之。天下莫不聞。無乃不可加兵乎。秦君以爲然。乃案兵而輟不攻魏。文侯可謂善用兵矣。夫君子善用兵也。不見其形而攻已成。其此之謂也。野人之用兵。鼓聲則似雷。號呼則動地。塵氣充天。流矢如雨。扶傷舉死。履腸涉血。無罪之民。其死者已量於澤矣。而國之存亡。主之死生。猶未可知也。其離仁義亦遠矣。

成るとは、其れ此れの謂なり。野人の兵を用ふるや、鼓聲は則ち雷に似、號呼は則ち地を動かす。塵氣天に充ち、流矢雨の如く、傷を扶け死を舉げ、腸を履み血を涉り、無罪の民、其死する者、已に澤に量る。而して國の存亡、主の死生、猶ほ未だ知るべからざるなり。其の仁義を離ること亦遠し。

(一) 里也　(二) 軾は車前の横木、敬する所あれば則ち伏して之による　(三) 高也　(四) 簡公也

秦昭王問孫卿曰。儒無益於人之國。孫卿曰。儒者法先王。隆禮義。謹乎臣子。而

秦の昭王、孫卿に問ひて曰く、儒、人の國に益なしと。孫卿曰く、儒は、先王に法り、禮儀を隆くし、臣子に謹みて、能く其上を貴ぶことを致むる者なり。人主之を用ふれば、則ち進んで本朝に在り。置きて用ひざれば、則ち退きて百姓に編す。而して敵必ず順下を爲すなり。窮困凍餒と雖も、必ず邪道を以て食を爲

能致レ貴二其上一者也。人主用レ之。則進在二本朝一。置而不レ用。則退編二百姓一。而歛必為二順下一矣。雖二窮困凍餒一。必不下以二邪道一為上レ食。無二置錐之地一。而明下於持二社稷一之大計上。叫呼而莫二之能應一。然而通下乎裁二萬物一。養二百姓一之經紀上。勢在二人上一。則王公之才也。在二人下一則社稷之臣。國君之寶

さず。置錐の地なくして、而も社稷を持するの大計に明なり。叫呼して之に能く應ふること莫し。然れども萬物を裁し、百姓を養ふの經紀に通ず。勢、人上に在れば、則ち王公の才なり。人下に在れば、則ち社稷の臣なり。國君の寶なり。窮閭漏屋に隱ると雖も、人之を貴ばざる莫し。道誠に存すればなり。仲尼、魯の司寇と爲るや、沈猶氏敢へて朝に其羊に飲ましめず。公愼氏は其妻を出し、愼潰氏は境を踰えて走り、魯の牛馬を鬻ぐや、賈を豫せず。布正以て之を待てばなり。闕黨に居り、闕黨の子弟、罔罟の分、親ある者多くを取る。孝悌以て之を化すればなり。儒者、本朝に在れば則ち美政、下位に在れば則ち美俗、儒の人の下を爲すや是の如きなりと。王曰く、然らば則ち其の人の上を爲すは何如と。孫卿對へて曰く、其の人と爲りや廣大なり。志意、內に定り、禮節、朝に脩り、法則度量、官に正しく、忠信愛利、下に形はる。一不義を行ひ、一の無罪を殺して、天下を得とも爲さざるなり。若し義、人に信ぜられ、四海に通ずれば、則ち

也。雖隱於窮閻漏屋、人莫不貴之。道誠存也。仲尼為魯司寇、沈猶氏不敢朝飲其羊、公慎氏出其妻、愼潰氏踰境而走。魯之鬻牛馬不豫賈。布正以待之也。居於闕黨、闕黨之子弟、罔罟分、有親者取多。孝悌以化之也。儒者在本朝則美政。在下位則美俗。儒之為人下如是矣。王曰、然則其為人上何如。孫卿對曰、其為人也廣大矣。志意定乎內、禮節脩乎朝、法則度量正乎官、忠信愛利形乎下。行一不義、殺一無罪、而得天下不為也。若義信乎人矣、通於四海、則天下之外、應之而懷之。是何也。則貴名白而天下治也。故近者謌謳而樂之、遠者竭走而趨之、四海之內若一家、通達之屬、莫不從服。夫是之謂人師。詩曰、自西自東、自南自北、無思不服。此之謂也。夫其為人下也如彼、為人上也如此、何為其無益人之國乎。昭

天下の外、之に應じて之を懷ふ。是れ何ぞや。則ち名白(六)を貴びて天下治ればなり。故に近き者は謌謳して之を樂み、遠き者は竭走(七)して之に趨く。四海の内一家の若く、通達(八)の屬、從服せざる莫し。夫れ是を之れ人の師と謂ふ(九)。詩に曰く(一〇)、西より東より、南より北より、思うて服せざるなしとは、此の謂なり。夫れ其の人の下と爲るや彼の如く、人の上と爲るや此の如し。何爲れぞ其れ人の國に益なからんやと。昭王曰く、善しと。

(一) 極也 (二) 立錐に同じ、狹き土地 (三) 窮閻は窮僻の處、閻は里門也、漏屋は弊屋の雨を漏すもの (四) 百官也 (五) 見也 (六) 名は儒名、白は明顯のかたち (七) 顚倒也、遠き者は顚倒してゆくと也 (八) 舟車の至る所、人力の通ずる所をいふ (九) 儒者の功此の如し、故に以て人の師長たるべしと也 (一〇) 詩經大雅文王有聲篇

王曰。善。

田贊衣二儒衣一而見二荊王一。荊王曰。先生之衣。何其惡也。贊對曰。衣又有二惡レ此者一。荊王曰。可二得而聞一邪。對曰。甲惡二於此一。王曰。何謂也。對曰。冬日則寒。夏日則熱。衣無下惡二於甲一者上矣。贊貧。故衣惡也。今大王萬乘之主也。富厚無レ敵。而好衣レ人以レ甲。臣

(一)田贊、儒衣を衣て荊王を見る。荊王曰く、先生の衣、何ぞ其れ惡しきと。贊對へて曰く、衣又此より惡しき者ありと。荊王曰く、得て聞くべきかと。對へて曰く、(二)甲は此より惡しと。王曰く、何の謂ぞやと。對へて曰く、冬日は則ち寒く、夏日は則ち熱し。衣、甲より惡しき者なし。贊貧し、故に衣惡しきなり。今大王は萬乘の主なり。富厚敵なし、而るに好んで人に衣するに甲を以てす。臣竊に大王の爲に取らざるなり。意者に其れ義と爲すか。甲兵の事、人の首を析き、人の腹を刳り、人の城郭を隳ち、人の子女を係ぐ。其名尤も甚だ榮ならず。意者に其れ貴と爲すか。苟も人を害せんと慮らば、人も亦必ず之を害せんと慮る。苟も人を危くせんと慮らば、人も亦必ず之を危くせんと慮る。其れ貴人は甚だ之を安んぜず。(三)二者、大王の爲に取るなしと。荊王以て應ふるなし。(四)昔衞の靈公、陣を問ふ。孔子、俎豆を言ふ。兵を賤みて禮を貴べるなり。夫れ儒服は、先王の

竊爲二大王一不レ取也。意者爲二其義一耶。甲兵之事。析二人之首一。刳二人之腹一。墮二人城郭一。係二人子女一。其名尤甚不レ榮。意者爲二其貴一邪。苟慮レ害レ人。人亦必慮レ害レ之。苟慮レ危レ人。人亦必慮レ危レ之。其貴人甚不レ安レ之。二者爲二大王一無レ取焉。荊王無二以應一也。昔衞靈公問レ陣。孔子言二俎豆一賤レ兵而貴レ禮也。夫儒服先王之服也。而荊王之惡レ之。兵者國之凶器也。而荊王喜レ之。所下以屈二於田贊一而危中其國上也。故春秋曰。善爲レ國者不レ師。此之謂也。

服なり。而も荊王之を惡む。兵は、國の凶器なり、而も荊王之を喜ぶ。田贊に屈せられて、其國を危くする所以なり。故に春秋に曰く、善く國を爲むる者は師せずと。此の謂なり。

(一)齊の人　(二)錯也。(三)害と危と也　(四)論語に曰く、衞の靈公、陳を孔子に問ふ。孔子對へて曰く、俎豆の事は、則ち嘗て之を聞く、軍旅の事は、未だ之を學ばざるなりと。明日遂に行るとあるといへるなり

哀公問二於孔子一曰。寡人聞レ之。東益レ宅不祥。信有レ之乎。孔子曰。不祥有レ五。而東益

哀公、孔子に問ひて曰く、寡人之を聞く、東に宅(一)を益すは不祥なりと。信に之れあるかと。孔子曰く、不祥五あり、而して東に益すは與らず。夫れ人を損して己れを益すは、身の不祥(二)なり。老を棄てて幼を取るは、家の不祥(三)なり。賢を釋てて不肖を用ふるは、國の不祥(四)なり。老者教へず、幼者學ばざるは、俗の不祥(五)な

不與焉。夫損人而益己。身之不祥也。棄老取幼。家之不祥也。釋賢用不肖。國之不祥也。老者不教。幼者不學。俗之不祥也。聖人伏匿。天下之不祥也。故不祥有五。而東益不與焉。詩曰。各敬爾儀。天命不又。未聞東益之與為命也。

り。聖人伏匿するは、天下の不祥(六)なり。故に不祥五あり、而も東に益すは與らず。詩(七)に曰く、各々(八)爾の儀を敬め。天命又せずと。未だ東に益すの、命たるに與るを聞かざるなりと。

(一)廣也　(二)身に怨を聚むるが故なり　(三)家道和せざるが故也　(四)變亂の生ずるが故也　(五)風俗の薄惡に流るゝが故なり　(六)愚者の權をほしいまゝにするが故なり　(七)詩經小雅小宛篇　(八)おの〳〵威儀を敬慎せよ。天命の去る所、復た來らずと也

顔淵侍魯定公于臺。東野畢御馬于臺下。定公曰。善哉東野畢之御。顔淵曰。善則善矣。雖然。其馬將失。定

顔淵、魯の定公に臺に侍す。東野畢(一)、馬を臺下に御す。定公曰く、善いかな、東野畢の御たることと。顔淵曰く、善は則ち善なり。然りと雖も、其馬將に失はんとすと。定公悦ばず。以て左右に告げて曰く、吾れ之を聞く、君子は人を讒せずと。君子も亦人を讒するかと。顔淵悦ばず。階を歴して去る。須臾にして馬敗る。聞す。定公、(二)席を蹴えて起ちて曰く、趣に駕せよ。顔淵に請はんと。顔淵

公不レ悦。以告二左右一曰。吾聞レ之。君子不レ讒レ人。君子亦讒レ人乎。顏淵不レ悦。歴レ階而去。須臾馬敗。聞矣。定公蹴席而起曰。趨駕。請二顏淵一。顏淵至。定公曰。向寡人曰。善哉東野畢御也。吾子曰。善則善矣。雖レ然。其馬將レ失矣。不レ識君子何以知レ之也。顏淵曰。臣以レ政知レ之。昔者舜工二

至る。定公曰く、向に寡人曰く、善いかな、東野畢の御たることと。吾子曰く、善は則ち善なり。然りと雖も其馬將に失はんとすと。識らず、君子何を以て之を知れりやと。顏淵曰く、臣は政を以て之を知る。昔者舜は、人を使ふに工なり。造父は、馬を使ふに工なり。舜は、其民を窮せず、造父は、其馬を盡さず。是を以て舜に失民なく、造父に失馬なし。今東野畢の御たるや、車に上り轡を執り御體正し、周旋歩驟、朝禮畢せり。險を歷、遠を致して、馬力殫く。然れども求めて已まず。是を以て其失を知れるなりと。定公曰く、善し。少しく進むべきかと。顏淵曰く、獸窮すれば則ち觸す、鳥窮すれば則ち喙み、人窮すれば則ち詐る。古へより今に及ぶまで、其下を窮することありて、能く危きことなき者は、未だ之れあらざるなり。(三)詩に曰く、(四)轡を執ること組の如く、兩驂舞ふが如しと。善御の謂なりと。定公曰く、善いかな。寡人の過なりと。

(一) 東野は複姓、畢は名 (二) 節を失ひてふむ也 (三) 詩經鄭風大叔于田篇 (四) 組の如くとは、組を織るがごとし也。兩驂は傍に在る馬なり、即ちそへうま和諧して節に中るをいふ

於使人。造父工於使馬。舜不窮於其民。造父不盡其馬。是以舜無失民。造父無失馬。今東野畢之御也。上車執轡。御體正矣。周旋步驟。朝禮畢矣。歷險致遠。而馬力殫矣。然求不已。是以知其失也。定公曰。善。可少進與。顏淵曰。獸窮則觸。鳥窮則啄。人窮則詐。自古及今。有窮其下。能無危者。未之有也。詩曰。執轡如組。兩驂如舞。善御之謂也。定公曰。善哉。寡人之過也。

孔子北之山戎氏。有婦人哭於路者。其哭甚哀。孔子立輿而問曰。曷爲哭哀至於此也。婦人對曰。往年虎食我夫。今虎食我子。是以哀也。孔子曰。嘻若是則曷爲不去也。曰。其政平。其吏

孔子、北のかた山戎氏に之く。婦人の路に哭する者あり。其哭する甚だ哀し。孔子、輿に立ちて問ひて曰く、曷爲れぞ哭哀して此に至るやと。婦人對へて曰く、往年虎、我夫を食ふ。今虎、我子を食ふ。是を以て哀むなりと。孔子曰く、嘻是の若くならば則ち曷爲れぞ去らざると。曰く、其政平しく、其吏苛ならず。吾れ是を以て去る能はざるなりと。孔子、子貢を顧みて曰く、弟子之を記せ。夫れ政の平しからずして吏の苛なる、乃ち虎狼より甚し。詩に曰く、(一)(二)喪饑饉を降して四の國を斬り伐つと。夫れ政の平ならざるや、乃ち四の國を斬り伐つ、而るを況んや二人をや。其の去らざる、宜なるかなと。

(一) 詩經小雅雨無正篇　(二) 喪は死也

不レ苟。吾以レ是不レ能レ去也。孔子顧二子貢一曰。弟子記レ之。夫政之不レ平而吏苛。乃甚二於虎狼一矣。詩曰。降二喪饑饉一。斬二伐四國一。夫政不レ平也。乃斬二伐四國一。而况二人乎。其不レ去宜哉。

魏文侯問二李克一曰。吳之所二以亡一者何也。李克對曰。數戰數勝。文侯曰。數戰數勝。國之福也。其所二以亡一何也。李克曰。數戰則民疲。數勝則主驕。以二驕主一治二疲民一。此其所二以亡一也。是故好レ戰窮レ兵。未レ有二不レ亡者一也。

魏の文侯、李克に問ひて曰く、吳の亡びし所以の者は何ぞやと。李克對へて曰く、數ば戰ひ數ば勝てばなりと。文侯曰く、數ば戰ひ數ば勝つは、國の福なり。其の亡びし所以は何ぞやと。李克曰く、數ば戰へば則ち民疲れ、數ば勝てば則ち主驕る。驕主を以て(一)疲民を治む。此れ其の亡びし所以なり。是の故に戰を好み兵を窮して、未だ亡びざる者あらざるなりと。

㊀ 弊疲した民

趙襄子問二於王子維一曰。吳之所二以亡一者。何也。對曰。吳君恡而不レ忍。

趙襄子、王子維に問ひて曰く、吳の亡びし所以の者何ぞやと。對へて曰く、吳君、(一)恡にして忍びずと。襄子曰く、宜なるかな、吳の亡びしこと。恡なれば則ち賢を賞すること能はず。忍びざれば則ち姦を罰すること能はず。賢者をば賞

襄子曰。宜哉與之亡也。夫則不レ能レ賞レ賢。不レ忍則不レ能レ罰レ姦。賢者不レ賞。有罪不レ能レ罰。不レ亡何待。

せず。有罪をば罰すること能はずんば、亡びずして何をか待たんやと。

㊀ 吝の俗字

孔子侍二坐於季孫一。季孫之宰通曰。君使二人假一レ馬。其與レ之乎。孔子曰。吾聞取二於臣一。謂二之取一。不レ曰レ假。季孫悟。告レ宰曰。自レ今以來君有レ取。謂二之取一。無レ曰レ假。故孔子正二假レ馬之名一。而君臣之義定矣。論語曰。必也正レ名。詩曰。無二易由一レ言。無レ曰レ苟矣。可レ不レ愼乎。

孔子、季孫に侍坐す。季孫の宰通じて曰く、君、人をして馬を假らしむ。其れ之を與へんかと。孔子曰く、吾れ聞く、臣に取るをば、之を取ると謂ひて、假ると曰はずと。季孫悟る。宰に告げて曰く、今より以來、君取るあらば、之を取ると謂ひて、假ると曰ふこと無かれと。故に孔子、馬を假るの名を正して、君臣の義定る。㊀論語に曰く、必ずや名を正しうせんと。㊁詩に曰く、易く言に由ることなかれ。苟もすと曰ふことなかれと。愼まざるべけんや。

㊀ 子路篇の文　㊁ 詩經大雅抑篇

君子曰。天子居二闉闕之中一。帷帳之內。廣廈之下。旃茵之上。不レ出二襜幄一。而知二天下一者。以レ有二賢左右一也。故獨視不レ如二與レ衆視之明一也。獨聽不レ如二與レ衆聽之聰一也。

君子曰く、天子、闉闕(一)の中、帷帳の內、廣廈(二)の下、旃茵(三)の上に居て、襜幄(四)を出でず。而も天下を知る者は、賢左右あるを以てなり。故に獨り視るは、衆と視るの明に如かざるなり。獨り聽くと、衆と聽くの聰に如かざるなり。

(一) 闉は曲城、闕は門觀也　(二) 廈は屋也　(三) 旃は氈と通ず、毛氈也　(四) 車の四方に垂るゝまく

晉平公問二於叔向一曰。國家之患孰爲レ大。對曰。大臣重レ祿而不二極諫一。近臣畏レ罰而不二敢言一。下情不二上通一。此患之大者也。公曰。善。於レ是令レ國曰。欲レ進二善言一。謁者不レ通。罪當レ死。

晉の平公、叔向に問ひて曰く、國家の患、孰れをか大なりと爲すと。對へて曰く、大臣、祿を重んじて極諫せざる、近臣、罰を畏れて敢言せざる、下情の上通せざる。此れ患の大なる者なりと。公曰く、善しと。是に於て國に令して曰く、善言を進めんと欲して、謁者(一)通ぜざるは、罪、死に當すと。

(一) 取次ぎの者

楚人有善相人。所言無遺策。聞於國。莊王見而問於情。對曰。臣非能相人。能觀人之交也。布衣也。其交皆孝悌篤謹畏令。如此者。其家必日益。身必日安。此所謂吉人也。官事君者也。其交皆誠信有好善。如此者。事君日益。官職日益。此所謂吉士也。主明臣賢。左右

楚人に、善く人を相するものあり。言ふ所、遺策なし。(一) 國に聞ゆ。莊王、見て情を問ふ。對へて曰く、臣は能く人を相するに非ず、能く人の交りを觀るなり。布衣や、其交り皆孝悌篤謹にして令を畏る。此の如き者は、其家必ず日に益し(二)、身必ず日に安し。此れ所謂吉人(三)なり。君に官事する者や、其交り皆誠信にして善を好むあり。此の如き者は、君に事ふること日に益し、官職日に益す。此れ所謂吉士なり。主明に臣賢にして、左右に忠多し。主に失あれば、皆敢へて分爭正諫す。此の如き者、國日に安く主日に尊く、天下日に富む。此れ之を吉士と謂ふなり。臣は能く人を相するに非ず、能く人の交りを觀るなりと。莊王曰く、善しと。是に於て乃ち四方の士を招聘し、夙夜懈らず。遂に孫叔敖・將軍子重の屬を得て、以て卿相に備へ、遂に霸功を成せり。詩に曰く、濟濟たる多士、文王以て寧しとは、此の謂なり。

(一) 失策也、遺[illegible]也、遺は失也　(二) 富也　(三) 善人也

多レ忠。主有レ失。皆敢分爭正諫。如レ此者國日安。主日尊。天下日富。此之謂二吉士一也。臣非二能相一人能觀二人之交一也。莊王曰。善。於レ是乃招二聘四方之士一。夙夜不レ懈。遂得二孫叔敖將軍子重之屬一。以備二卿相一。遂成二霸功一。詩曰。濟濟多士。文王以寧。此之謂也

齊閔王亡居レ衞。晝日步走。謂二公玉丹一曰。我已亡矣。而不レ知二其故一。吾所二以亡一者。其何哉。公玉丹對曰。臣以レ王爲二已知一レ之矣。王故尙未レ之知一邪。王之所二以亡一者。以レ賢也。以二天下之主一。皆不肖而惡二王之賢一也。因相與合レ兵而攻レ王。此王

(一)齊の閔王亡して衞に居り。晝日步走す。公玉丹(二)に謂つて曰く、我已に亡せり。而も其故を知らず。吾が亡せる所以の者、其れ何ぞやと。公玉丹對へて曰く、臣は、王を以て已に之を知れりと爲せり。王故に尙ほ未だ之を知らざるか。王の亡せる所以の者は、賢を以てなり。天下の主皆不肖にして、王の賢を惡むを以てなり。因つて相與に兵を合せて王を攻む。此れ王の亡せし所以なりと。閔王、慨然として太息して曰く、賢は固に是の若く其れ苦しきかと。丹又閔王に謂つて曰く、古人天下を辭して憂色なき者あり。臣は其聲を聞き(三)、王に於て其實を見る。王、名は東帝と稱し、實は天下を有つ。國を去り衞に居り。容貌充盈(四)、顏色發揚(五)國を重んずる意なしと。王曰く、甚だ善し。丹は、寡人が國を去りて衞に居りしより、帶の三益せるを知れりと。遂に以て自ら賢なりとし、驕盈止まず。閔王、

之所㆓以亡㆒也。閔王慨然太息曰。賢固若㆑是其苦邪。丹又謂㆓閔王㆒曰。古人有㆘辭㆑天下㆙無㆓憂色㆒者㆖。臣聞㆓其聲㆒於㆑王見㆓其實㆒。王名稱㆓東帝㆒。實有㆓天下㆒。去㆑國居㆑衞。容貌充盈。顏色發揚。無㆓重㆑國之意㆒。王曰。甚善。丹知㆘寡人自去㆑國而居㆖㆑衞也。帶三益㆖矣。遂以自賢。驕盈不㆑止。閔王亡㆓走衞㆒。衞君避㆑宮舍㆑之。稱㆑臣而供具。閔王不㆑遜。衞人侵㆑之。閔王去走㆓鄒魯㆒。有㆓驕色㆒。鄒魯不㆑納。遂走㆑莒。楚使㆓淖齒將㆑兵救㆒㆑齊。因相㆓閔王㆒。淖齒擢㆓閔王之筋㆒而懸㆓

衞に亡走す。衞君、宮を避けて之を舍し、臣を稱して供具す。閔王不遜なり。衞人之を侵す。閔王去つて鄒魯に走る。驕色あり。鄒魯納れず。遂に莒に走る。楚、淖齒(六)をして兵に將として、齊を救はしむ。因りて閔王に相たり。淖齒、閔王の筋を擢きて之を廟の梁に懸け、宿昔(七)にして之を殺す。而して燕と共に齊地を分けたり。悲しいかな、閔王大齊の國に臨み、地方數千里、然り而して兵は諸侯に敗られ、地は燕昭に奪はれ、宗廟喪亡、社稷祀らず、宮室空虛、身の亡して逃竄せること、徒隷より甚し。尙ほ亡せる所以を知らず。甚だ痛むべきなり。猶ほ自ら以て賢なりと爲す。豈に哀しからずや。

(一) 燕秦楚晉、連合して齊を伐ちしかば、出亡して衞にゆき、鄒魯に走りしをいふ。亡は出奔也　(二) 閔王の臣
(三) 名也　(四) 行ふ所の實也　(五) 光明也　(六) 楚の將、楚、齊を救はしむ、因りて之に相たり　(七) 昨夜、昔は夜也

之廟梁一。宿昔而殺レ之。而與レ燕共分二齊地一。悲夫。閔王臨二大齊之國一。地方數千里。然而兵敗二於諸侯一。地奪二於燕昭一。宗廟喪亡。社稷不レ祀。宮室空虛。身亡逃竄甚二於徒隸一。尚不レ知レ所二以亡一。甚可レ痛也。鄭自以爲レ賢。豈不レ哀哉。

公玉丹徒隸之中而道レ之。諂佞甚矣。閔王不レ覺。追而善レ之。以レ辱爲レ榮。以レ憂爲レ樂。其亡晩矣。而卒見レ殺。先レ是靖郭君殘二賊其百姓一害二傷其羣臣一。國人將二背叛共逐一レ之。其御知レ之。豫裝齎レ食。及二亂作一。靖郭君出亡。至二於野一而饑。其御出二

公玉丹、徒隷の中にして之を道ふ、諂佞甚し。閔王覺らず、追うて之を善みす。辱を以て榮と爲し、憂を以て樂と爲す、其の亡ぶるや晩し。而して卒に殺さる。是より先、靖郭君、其百姓を殘賊し、其羣臣を害傷す。國人將に背叛して共に之を逐はんとす。其御之を知る。豫め裝ひて食を齎らす。亂作るに及び、靖郭君出亡す。野に至りて饑う。其御裝ひし所の食を出して之を進む。靖郭君曰く、何を以て之を知りて食を齎せると。對へて曰く、君の暴虐、其臣下の謀久しと。靖郭君怒りて食はずして曰く、吾が賢至りて聞ゆるを以てす。何をか暴虐と謂ふと。其御懼れて曰く、臣が言過てり。君は實に賢なり。唯羣臣不肖、共に賢を害せりと。然して後靖郭君悦び、然して後に食へり。故に齊の閔王・靖郭君は死亡に至ると雖も、身を終ふるまで、諭らざる者なり。悲しいかな。

所レ裝食一進レ之。靖郭君曰。何以知レ之而齎レ食。對曰。君之暴虐。其臣下之謀久矣。靖郭君怒不レ食曰。以二吾賢至一聞一也。何謂二暴虐一。其御懼曰。臣言過也。君實賢。唯羣臣不肖。共害レ賢。然後靖郭君悅。然後食。故齊閔王靖郭君。雖レ至二死亡一。終レ身不レ諭者也。悲夫。宋昭王出亡。至二於鄙一。喟然嘆曰。吾知三所二以亡一矣。吾朝臣千人。發レ政擧レ吏。無下不レ曰二吾君聖一者上。侍御數百人。被レ服以立。無下不レ曰二吾君麗一者上。內外不レ聞二吾過一。是以至レ此。由二宋君一觀レ之。人主之所下以離二國家一失中社稷上者。諂諛者衆也。故宋昭亡而能悟。蓋得レ反レ國云。

宋の昭王出亡す。鄙に至り、(二)喟然として嘆じて曰く、吾れ亡せる所以を知れり。吾が朝臣千人、政を發し吏を擧ぐ。吾君聖なりと曰はざる者なし。侍御數百人、服を被て以て立ち、吾君麗なりと曰はざる者なし。內外、吾過を聞かず。是を以て此に至れりと。宋君に由りて之を觀れば、人主の、國家を離れ、社稷を失ふ所以の者は、諂諛の者衆ければなり。故に宋昭は、亡して能く悟り、蓋し國に反るを得たりと云ふ。

(一) 待也　(二) 歎聲

秦二世胡亥之爲二公子一也。昆弟數人詔

秦の二世胡亥の公子と爲るや、昆弟數人、詔して置酒し、羣臣を饗し、諸子を召く。諸子に食を賜ふ。先づ罷む。胡亥、階を下りて、羣臣陳履の狀を視る。

置酒。饗二羣臣一。召二諸子一。諸子賜レ食。先罷。胡亥下レ堦視二羣臣陳履狀一。善者因行踐敗而去。諸子聞二見之一者。莫レ不二太息一。及二二世卽一レ位。皆知二天下必棄一レ之也。故二世惑二於趙高一。輕二大臣一。不レ顧二下民一。是以陳勝奮二臂於關東一。閻樂作二亂於望夷一。閻樂趙高之壻也。爲二咸陽令一。詐爲レ逐レ賊

善き者は、因つて行く〳〵踐敗して去る。諸子の之を聞見する者、太息せざる莫し、二世、位に卽くに及んで、皆天下の必ず之を棄つることを知れり。故に二世は、趙高に惑ひ、大臣を輕んじ、下民を顧みず。是を以て(一)陳勝、臂を關東に奮ひ、閻樂、亂を望夷(二)に作せり。閻樂は、趙高の壻なり。咸陽の令と爲る。詐りて賊を逐ふ爲して、吏卒を將ゐる、望夷宮に入り、攻めて二世を射、就きて二世を數め、刃を加へんと欲す。二世懼る。入りて將に自殺せんとす。一宦者(三)あり、之に從ふ。二世謂つて曰く、何の謂にして此に至れると。宦者曰く、此を知ること久しと。二世曰く、子何ぞ早く言はざると。對へて曰く、臣は言はざるを以ての故に此に至るを得たり。臣をして言はしめば、死するや久しと。然して後二世喟然として之を悔い、遂に自殺せり。

(一) 字は渉、陽城の人、二世の六年に兵を蘄に起せり (二) 望夷宮にて、長陵の西北、長平觀道の東に在り。故事の處これなり。涇水に臨みて之を作る、以て北夷を望みしなり (三) 奄人卽ち宮内官

將吏卒。入望夷宮。攻射二世。就數二世。欲加刃。二世懼。入將自殺。有一宦者從之。二世謂曰。何謂至於此也。宦者曰。知此久矣。二世曰。子何不早言。對曰。臣以不言故得至於此。使臣言死久矣。然後二世喟然悔之。遂自殺。

齊侯問於晏子曰。忠臣之事君也。何若。對曰。有難不死。出亡不送。君曰。列地而與之。疏爵而貴之。君有難不死。出亡不送。可謂忠乎。對曰。言而見用。終身無難。臣奚死焉。諫而見從。終身不亡。臣奚送焉。若言不見用。有難而死。是妄死也。諫不見從。出亡而送。是詐僞也。故忠臣也者。能盡善與君。而不能與陷於難。

齊侯、晏子に問ひて曰く、忠臣の君に事ふるや何若と。對へて曰く、難ありとも死せず。出亡すとも送らずと。君曰く、地を列(一)して之に與へ、爵を疏(二)ちて之を貴くす。君に難ありて死せず、出亡すとも送らず、忠と謂ふべけんやと。對へて曰く、言ひて用ひらるれば、身を終るまで難なけん。臣奚ぞ死せんや。諫めて從はれば、身を終ふるまで亡せず。臣奚ぞ送らんや。若き言用ひられず、難ありて死するは、是れ妄死なり。諫めて從はれず、出亡して送る。是れ詐僞なり。故に忠臣は、能く善を盡して君と與にし、而して與に難に陷る能はずと。

㊀ 裂也、土地を裂く意　㊁ 分也

宋玉因ニ其友一以見ニ於楚襄王一。襄王待レ之無ニ以異一。宋玉讓ニ其友一。其友曰。夫薑桂因レ地而生。不ニ因レ地而辛一。婦人因レ媒而嫁。不ニ因レ媒而親一。子之事レ王未耳。何怨ニ於我一。宋玉曰。不レ然。昔者齊有ニ良兎一。曰ニ東郭鋑一。蓋一旦而走ニ五百里一。於レ是齊有ニ良狗一。曰ニ韓盧一。亦一旦而走ニ五百里一。使ニ

宋玉、其友に因り、以て楚の襄王に見ゆ。襄王之を待つに、以て異なるなし、宋玉、其友を讓む。其友曰く、夫れ薑桂は地に因りて生じ、地に因りて辛からず。婦人は媒に因りて嫁し、媒に因りて親しからず。子の王に事ふる、未だしきのみ。何ぞ我を怨みんやと。宋玉曰く、然らず。昔者齊に良兎あり。(一)東郭鋑と曰ふ。蓋し一旦にして五百里を走る。是に於て齊に良狗あり。(二)韓盧と曰ふ。亦一旦にして五百里を走る。之をして遙に見て指屬せしむれば、則ち韓盧と雖も衆兎の塵に及ばず。若し迹を躡みて緤を縱てば、則ち東郭鋑と雖も、亦離るゝ能はず。今子の臣を屬するや、迹を躡みて縱緤するか、遙に見て指屬するか。(三)詩に曰く、(四)將に安んじ將に樂めば、我を棄てて遺るゝが如しとは、此の謂なりと。其友人曰く、(五)僕人過てるあり、僕人過てるありと。

(一) 戰國策齊策に、東郭逡は海内の狡兎也とあり (二) 獵犬の名 (三) 詩經小雅谷風篇 (四) 天下俗薄く朋友の道絕ゆるをいふ。遺るゝが如しとは、忽然として省存せずと也 (五) 自謙の辭

之遙見而指麾。則雖韓盧不及衆兔之塵。若躡迹而縱緤。則雖東郭䨲亦不能離。今子之屬臣也躡迹而縱緤與。遙見而指麾與。詩曰。將安將樂。棄我如遺。此之謂也。其友人曰。僕人有過。僕人有過。

宋玉事楚襄王。而不見察。意氣不得。形於顏色。或謂曰。先生何談說之不揚。計畫之疑也。宋玉曰。不然。子獨不見夫玄蝯乎。當其居桂林之中。峻葉之上。從容游戲。超騰往來。龍興而鳥集。悲嘯長吟。當此之時。雖羿逢蒙。不得

宋玉、楚の襄王に事へて察せられず。意氣得ず。顏色に形る。或と謂つて曰く、先生、何ぞ談說の揚らざる。計畫の疑はしきかと。宋玉曰く、然らず。子獨り夫の玄蝯を見ざるか。其の桂林の中・峻葉の上に居るに當り、從容游戲し、超騰往來、龍のごとく興りて鳥のごとく集り、悲嘯長吟す。此の時に當りて羿逢蒙と雖も、目を正しうして視るを得ざるなり其。の枳棘の中に在るに及びて、恐懼して掉慄し、危視して蹟行す。衆人皆意を得たり。此れ皮筋、急を加へて體益す短きに非ざるなり。勢に處すること不便の故なり。夫れ勢に處りて不便なり。豈に以て功を量り能を校ぶべけんや。(三)詩に云はずや。彼の四つの牡に駕すれば、四つの牡項領たりと。夫れ久しく駕して、長く項領を行ふことを得ず。亦宜べならずや。(四)易に曰く、(五)臀に膚なし。其の行くこと趦趄たりとは、此の謂なり

正レ目而視一也。及三其在二枳棘之中一也。恐懼而掉慄。危視而蹟行。衆人皆得レ意焉。此皮筋非レ加レ急而體益短一也。處レ勢不便故也。夫處レ勢不便。豈可二以量レ功校一能哉。詩不レ云乎。駕二彼四牡一。四牡項領。夫久駕而長不レ得レ行二項領一。不二亦宜一乎。易曰。臀無レ膚。其行趑趄。此之謂也。

と。

㈠懼るゝ也　㈡詩經小雅節南山篇　㈢項は大也　㈣易の夬の爻の辭　㈤臀に膚なし、居安んぜず。進まんとしてすゝむ能はずと也

田饒事二魯哀公一而不レ見レ察。田饒謂二魯哀公一曰。臣將二去レ君而鴻鵠擧一矣。哀公曰。何謂也。田饒曰。君獨不レ見二夫雞一乎。頭戴レ冠者文也。足傅レ

田饒、魯の哀公に事へて察せられず。田饒、魯の哀公に謂つて曰く、臣將に君を去て鴻鵠のごとく擧らんとすと。哀公曰く、何の謂ぞやと。田饒曰く、君獨り夫の雞を見ざるか。頭に冠を戴く者は文なり。足に距を傅くる者は武なり。敵の前に在りて敢鬭する者は勇なり。食を見て相呼ぶは仁なり。夜を守りて時を失はざるは信なり。雞に此五者ありと雖も、君猶ほ日に瀹て(一)之を食ふ。何となれば則ち其の從りて來る所近きを以てなり。夫れ鴻鵠は一擧千里、君の園池

距者武也。敵在レ前敢鬬者勇也。見レ食相呼仁也。守レ夜不レ失レ時信也。雞雖レ有二此五者一。君猶日淪而食レ之。何則以下其所二從來一近上也。夫鴻鵠一擧千里。止二君園池一。食二君魚鼈一。啄二君黍粟一。無二此五者一。君猶貴レ之。以下其所二從來一遠上也。臣請鴻鵠擧矣。哀公曰止。吾書二子之言一也。田饒曰。臣聞食二其食一者。不レ毀二其器一。陰二其樹一者。不レ折二其枝一。有レ士不レ用。何書二其言一爲。遂去

に止り、君の魚鼈を食ひ、君の黍粟を啄み、此五者なけれども、君猶ほ之を貴ぶは、其の從りて來る所遠きを以てなり。臣請ふ、鴻鵠のごとく擧らんと。哀公曰く、止め。吾れ子の言を書せんと。田饒曰く、臣聞く、其食を食ふ者は、其器を毀たず。其樹に蔭する者は、其枝を折らずと。士あれども用ひず。何ぞ其言を書することを爲さんと。遂に去て燕に之く。燕、立てて以て相と爲す。三年燕の政太平、國に盜賊なし。哀公之を聞き、慨然として太息し、之が爲に寢を避くること三月、上服を(二)抽損して曰く、其前を愼まずして其後を悔ゆ、何ぞ復た得べけんや。(三)詩に曰く、(四)逝きて將に汝を去けて、彼の樂土に適かんとす。彼の樂土に適き、爰に我所を得んと。春秋に曰く、(五)少より君に長ずれば、則ち君之を輕んずと。此の謂なりと。

(一) 煮也 (二) 抽は除也 (三) 詩經魏風碩鼠篇 (四) 逝は往也。樂土は有德の國 (五) 穀梁傳僖公二年の文

之燕。燕立以爲相。三年。燕之政太平。國無盜賊。哀公聞之。慨然太息。爲之避寢三月。抽損上服。曰。不愼其前。而悔其後。何可復得。詩曰。逝將去汝。適彼樂土。適彼樂土。爰得我所。春秋曰。少長於君。則君輕之。此之謂也。

子張見魯哀公。七日而哀公不禮。託僕夫而去。曰。臣聞君好士。故不遠千里之外。犯霜露。冒塵垢。百舍重趼。不敢休息。以見君。七日而君不禮。君之好士也。有似葉公子高之好龍也。葉公子高好龍。鉤以寫龍。鑿以寫龍。屋室

子張(一)、魯の哀公に見ゆ。七日にして哀公禮せず。僕夫に託して去る。曰く、臣聞く、君は士を好むと。故に千里の外を遠しとせず、霜露を犯し、塵垢を冒し(二)、百舍重趼(三)、敢へて休息せず、以て君を見る。七日にして君禮せず。君の士を好むや、葉公子高(四)の、龍を好むに似たるあり。葉公子高、龍を好み、鉤して以て龍を寫し、鑿して以て龍を寫し、屋室雕文以て龍を寫す。是に於て夫の龍聞きて之に下り、頭を牖に窺ひ、尾を堂に拖く。葉公之を見、棄てて還り走る。其魂魄を失ひ、五色主なし。是れ葉公、龍を好めるに非ざるなり。夫の龍に似て龍に非ざる者を好めるなり。今臣、君、士を好むと聞く。故に千里の外を遠しとせず、以て君を見る。七日にして禮せず。君、士を好むるに非ざるなり。夫の士に似て士に非ざる者を好めるなり。詩(五)に曰く、中心(六)に之を藏む、何れの日か之

雕文以寫レ龍。於レ是夫龍聞而下レ之。窺二頭於牖一。拖二尾於堂一。葉公見レ之棄而還走。失二其魂魄一。五色無レ主。是葉公非レ好レ龍也。好二夫似レ龍而非レ龍者一也。今臣聞二君好一レ士。故不レ遠二千里之外一以見レ君。七日不レ禮。君非レ好レ士也。好二夫似レ士而非レ士者一也。詩曰。中心藏レ之。何日忘レ之。敢託而去。

を忘れんと。敢へて託して去れり。

（一）顓孫師字は子張、陳の人　（二）繭也　（三）足に厚皮ある也　（四）見るを求むるの心切なるをいふ　（五）詩經小雅隰桑篇　（六）我心に此君子を善みす。又誠に忘るゝ能はずと也

昔者楚丘先生行年七十。披裘帶索。往見二孟嘗君一。欲レ趨不レ能レ進。孟嘗君曰。先生老矣。春秋高矣。何以教レ之。楚丘先生曰。噫將レ我而老

昔者楚丘先生、行年七十、披裘帶索、往きて孟嘗君を見る。趨らんと欲して、進むこと能はず。孟嘗君曰く、先生老いたり。春秋高し。何を以てか之に教へんと。楚丘先生曰く、噫、我を將て老とするか。噫、將た我をして車を追ひて馬を赴かしむるか。（一）石を投じて（二）超距せんか。麋鹿を逐ひて豹虎を搏たんか。吾れ已に死せり。何ぞ老ゆるに暇あらんや。噫、將た我をして正辭を出し、諸侯に當らしめんか。嫌疑を決して猶豫を定めんか。吾れ始めて壯なり。何の老か之れあら

乎。噫將使二我追レ車而赴レ馬乎。投レ石而超距乎。逐二麋鹿一而搏二豹虎一乎。吾已死矣。何暇レ老哉。噫將使下我出二正辭一而當中諸侯上乎。決二嫌疑一而定二猶豫一乎。吾始壯矣。何老之有。孟嘗君逡巡避レ席。面有二愧色一。詩曰。老夫灌灌。小子蹻蹻。言下老夫欲レ盡二其謀一。而少者驕而不レ受也。秦穆公所三以敗二其師一。殷紂所三以亡二天下一也。故書曰。黄髮之言。則無レ所レ愆。詩曰。壽胥與試。美下用二老人之言一。以安上國也。

んやと。孟嘗君、逡巡席を避け、面に愧色あり。詩に曰く(三)、老夫は灌灌(四)たり。小子は蹻蹻たりとは、老夫其謀を盡さんと欲す、而も少者驕りて受けざるを言へるなり。秦の穆公の其師を敗りし所以、殷紂の天下を亡しゝ所以なり。故に書に曰く(五)、黄髮(六)の言は、則ち愆る所なしと。詩に曰く(七)、壽きもの胥與(八)に試ひられんと。老人の言を用ひて、以て國を安んずるを美めたるなり。

(一) 石を以て人に投ずる也 (二) 跳躍に同じ、をどりはぬる也 (三) 詩經大雅板篇 (四) 灌灌は誠をつくす也、蹻蹻は驕色あるなり (五) 書經周書秦誓篇 (六) 老人をいふ、髮落ちて更に黄を生ずる者 (七) 詩經魯頌閟宮篇 (八) 相也

齊有二閭丘邛一。年十八。道遮二宣王一曰。家貧

齊に閭丘邛(一)といふものあり。年十八、道、宣王を遮りて曰く、家貧しく親老ゆ。願はくは小仕を得んと。宣王曰く、子、年尚ほ稚し。未だ可ならざるなり

親老。願得二小仕一。宣王曰。子年尚稚。未レ可也。閭丘邛對曰。不レ然。昔有二顓頊一。行年十二而治二天下一。秦項橐七歳爲二聖人師一。由レ此觀レ之。邛不肖耳。年不レ稚矣。宣王曰。未レ有二咫角驂駒而能服レ重致レ遠者一也。由レ此觀レ之。夫士亦華髮墮顚而後可レ用耳。閭丘邛曰。不レ然。夫尺有レ所レ短。

と。閭丘邛對へて曰く、然らず。昔顓頊あり。行年十二にして天下を治む。秦の項橐、七歳にして聖人の師と爲れり。此に由りて之を觀れば、邛は不肖のみ。年は稚ならずと。宣王曰く、未だ咫角の驂駒にして、能く重を服し遠を致す者はあらざるなり。此に由りて之を觀れば、夫の士も亦華髮墮顚にして後用ふべきのみと。閭丘邛曰く、然らず。夫れ尺も短き所あり。寸も長き所あり。騏驎綠驥は、天下の俊馬なり。之をして狸鼬と、釜竈の間に試みしめば、其疾きこと、未だ必ずしも能く狸鼬に過ぎざるなり。黃鵠白鶴は、一擧千里なり。之をして燕服翼と、之を堂廡の下、廬室の間に試みしめば、其便、未だ必ずしも能く燕服翼に過ぎざるなり。辟閭巨闕は、天下の利器なり。石を擊つに缺かず。石を刺すに銼けず。之をして管槀と目を決し、眯を出さしむれば、其便、未だ必ずしも能く管槀に過ぎざるなり。此に由りて之を觀れば、華髮墮顚は、邛と何を以てか異ならんや。宣王曰く、善し。子、善言あり。何ぞ寡人を見るの晩きやと。邛

寸有レ所レ長。驊騮綠驥。天下之俊馬也。使下之與二狸鼬一試中於釜竈之間上。其疾未三必能過二狸鼬一也。黃鵠白鶴。一擧千里。使三之與二燕服翼一試二之堂廡之下。盧室之間一。其便未三必能過二燕服翼一也。辟閭巨闕。天下之利器也。擊レ石不レ缺。刺レ石不レ銼。使下之與二管稾一決レ目出上レ眯。其便未下必能過二管稾一也上。由レ此觀レ之。鬢髮墮顚。與レ卬何以異哉。宣王曰。善。子有二善言一。何見二寡人一之晩也。卬對曰。夫雞豚讙嗷。卽奪二鐘鼓之音一。雲霞充咽。則奪二日月之明一。讒人在レ側。是以見晩也。詩曰。聽レ言則對。譖言則退。庸得レ進乎。宣王拊レ軾曰。寡人有レ過。遂載與レ之俱歸而用焉。故孔子曰。後生可レ畏。安知二來者之不一レ如レ今。此之謂也。

對へて曰く、夫れ雞豚讙嗷(一二)すれば、卽ち鐘鼓の音を奪ふ。雲霞充咽すれば、則ち日月の明を奪ふ。讒人側に在り。是を以て見ること晩きなり。詩(一三)に曰く、言(一四)を聽くときは、則ち對ふれども、譖言すれば則ち退くと。庸ぞ進むことを得んやと。宣王、軾を拊ちて曰く、寡人、過ありと。遂に載せて之と倶に歸りて用ひたり。故に孔子曰く、後生畏るべし(一五)。安ぞ來者の今に如かざることを知らんやとは、此の謂なり。

（一）閭丘は複姓卬は名　（二）年七歲にして孔子を窮難す、之が爲に孔子の師となれるをいふ　（三）白首をいふ　（四）周の穆王の駿馬の名　（五）狸は野猫、鼬はいたち　（六）仙鼠の名　（七）廡は堂下の周屋　（八）古への良劍の名　（九）摧也　（一〇）筆也　（一一）目をくらますもの　（一二）かまびすしき也　（一三）詩經小雅雨無正篇　（一四）言を以て人を進退するをいふ　（一五）論語子罕篇は文

荊人卞和得二玉璞一而獻二之荊厲王一。使二玉尹相一レ之。曰石也。王以レ和爲レ謾。而斷二其左足一。厲王薨。武王卽レ位。和復奉二玉璞一而獻二之武王一。武王使二玉尹相一レ之。曰石也。又以爲レ謾。而斷二其右足一。武王薨。共王卽レ位。和乃奉二玉璞一。而哭二於荊山中一。三日三夜。泣盡而繼レ之以レ血。共王聞レ之。

(一)荊人卞和、玉璞を得たり。而して之を荊の厲王に獻ず。玉尹をして之を相せしむ。曰く、石なりと。王、和を以て謾ると爲し、其左足を斷つ。厲王薨じて、(二)武王位に卽く。和復た玉璞を奉じて、之を武王に獻ず。武王、玉尹をして之を相せしむ。曰く、石なりと。又以て謾ると爲し、其右足を斷つ。武王薨ず。共王位に卽く。和乃ち玉璞を奉じて、荊山(三)の中に哭すること三日三夜、泣盡きて之に繼ぐに血を以てす。共王之を聞き、人をして問はしめて曰く、天下に刑せらるる者衆し。子、刑せられて何ぞ哭するの悲しきやと。對へて曰く、寶玉なり。而も之を名づけて石と曰ふ。貞士(四)なり。而も之を戮するに謾を以てす。此れ臣の悲む所以なりと。共王曰く、惜しいかな、吾が先王の聽。石を剖くを難んじて人の足を斬るを易んず。夫れ死せる者は生くべからず、斷てる者は屬ぐべからず。何ぞ聽の殊なるやと。乃ち人をして其璞を理(五)めしめしに、寶を得たり。故に之を名づけて和氏(六)の璧と曰ふ。故に曰く、珠玉は人主の貴ぶ所なり。和、寶を獻

使ニ人問レ之曰。天下刑之者衆矣。子刑何哭之悲也。對曰。寶玉而名レ之曰レ石。貞士而戮レ之以レ謾。此臣之所ニ以悲一也。共王曰。惜矣吾先王之聽。難レ剖石而易レ斬ニ人之足一。夫死者不レ可レ生。斷者不レ可レ屬。何聽之殊也。乃使ニ人理ニ其璞一而得レ寶。焉故名レ之曰ニ和氏之璧一。故曰。珠玉者。人主之所レ貴也。和雖レ獻ニ寶而美一。未レ爲ニ玉尹用一也。進レ寶且若レ彼之難也。況進ニ賢人一乎。賢人與ニ姦臣一。猶ニ仇讎一也。於ニ庸君意一不レ合。夫欲レ使ニ姦臣進ニ其讎於不レ合意之君一。其難萬ニ倍於和氏之璧一。又無レ斷ニ兩足一之臣。以推ニ其難一。猶レ拔レ山也。千歲一合若レ繼レ踵。然後霸王之君興焉。其賢而不レ用。不レ可ニ勝載一。故有道者之不レ戮也。宜ニ白玉之璞未ヒ獻耳。

じて美なりと雖も、未だ玉尹に用ひらるゝを爲さざるなり。寶を進むるすら、且つ彼の若く難し、況んや賢人を進むるをや。賢人と姦臣とは、猶ほ仇讎のごとし。庸君の意に於て合はず。夫れ姦臣をして、其讎を意に合はざるの君に進めしめんと欲する、其の難きこと、和氏の璧に萬倍す。又兩足を斷つなきの臣、以て其難を推すに、猶ほ山を拔くがごときなり。千歲一合、踵を繼ぐが若し。然して後霸王の君興る。其の賢にして用ひられざる、勝げて載すべからず。故に有道者の戮せられざる。宜しく白玉の璞の、未だ獻ぜざるべきのみ。

㊀ 荊は楚也、卞は楚邑の名 ㊁ 名は熊通、霄敖の子 ㊂ 詐也 ㊃ 正士也 ㊄ 玉の未だ磨かざるもの ㊅ 純白夜光の玉也

桀作瑤臺。罷民力。殫民財。爲酒池糟隄。縱靡靡之樂。一鼓而牛飲者三千人。羣臣相持歌曰。江水沛沛兮。舟楫敗兮。我王廢兮。趣歸薄兮。薄亦大兮。又曰。樂兮樂兮。四牡蹻兮。六轡沃兮。去不善而從

巻第六

刺奢第六

桀、瑤臺を作り、民力を罷らし、民財を殫し、酒池糟隄を爲り、靡靡の樂を縱にす。一鼓にして牛飲する者三千人、羣臣相持して歌ひて曰く、江水沛沛たり。舟楫敗れぬ。我王廢せられぬ。趣に薄に歸せん。薄も亦大なりと。又曰く、樂しいかな、樂しいかな。四の牡蹻たり。六の轡沃たり。不善を去つて善に從ふ。何ぞ樂しからざらんやと。伊尹、天命の至れるを知り、觴を擧げて桀に告げて曰く、君王、臣の言を聽かず。亡びんこと日なけんと。桀、拍然として作ち、啞然として笑ひて曰く、子、何ぞ妖言するや。吾の天下を有する、天の日あるが如きなり。日亡ぶることあらんや。日亡びば吾も亦亡びんと。是に於て履を接して趣き、遂に湯に適く。湯、立てて相と爲す。故に伊尹、官を去てて殷

善。何不レ樂兮。伊尹知二天命之至一。擧レ觴而告レ桀曰。君王不レ聽二臣之言一。亡無レ日矣。桀拍然而作。啞然而笑曰。子何妖言。吾有二天下一。如二天之有レ日也。日有レ亡乎。日亡吾亦亡矣。於レ是接レ履而趣。遂適レ湯。湯立爲レ相。故伊尹去レ官入レ殷。殷王而夏亡。

に入り、殷、王となりて、夏、亡びたり。

（一）玉を以て臺を作りしなり、土木の美を極めしなり （二）無也 （三）やぶれ亂るゝさま （四）大歡を擧げしなり （五）尚書大傳湯誓に、夏人、酒を飲み、醉ふ者、醉はざる者を持ち、醉はざる者、醉ふ者を持ち、相和して、歌ひて曰く、盍ぞ薄に歸せざる、盍ぞ薄に歸せざる、薄亦大ならずやに作る （六）浩大なるさま （七）他書多く亳につくる、湯の都 （八）驕なり、おごる （九）みづ／＼しくうるはしき也 （一〇）手をうつをいふ （一一）笑語の聲也 （一二）不祥の言を放つをいふ （一三）夏の誤か

紂爲二鹿臺一。七年而成。其大三里。高千尺。臨二望雲雨一。作二炮烙之刑一。戮二無辜一。奪二民力一。寃暴施二於百姓一。慘毒加二於

紂、鹿臺（一）を爲り、七年にして成る。其大さ三里、高さ千尺、雲雨を臨望し、炮（二）烙の刑を作し、無辜を戮し、民力を奪ひ、寃暴をば百姓に施し、慘毒（三）、大臣に加はり、天下之に叛き、文王に臣たらんことを願ふ。周の師至るに及び、令、左右に行はれず。悲しいかな。是時に當り、匹夫たらんことを求むとも、得べからざるなり。紂自ら之を取れるなり。

大臣。天下叛レ之。願レ臣二文王一。及二周師至一。令不レ行二於左右一。悲夫。當二是時一。求レ為二匹夫一。不レ可レ得也。紂自取レ之也。

㈠ 臺の名、朝歌の城中に在りしもの ㈡ 紂、炮烙の法をつくり銅柱に膏り、炭火の上に加へ、罪あるものをして其上を行かしめ、輙ち炭中に墮つを見て、妲己と共に樂みしもの ㈢ 憯は痛也

魏王將レ起二中天臺一。令曰。敢諫者死。許綰負レ操レ鍤入曰。聞大王將レ起二中天臺一。臣願加二一力一。王曰。子何力有レ加。綰曰。雖レ無レ力能商レ臺。王曰。若何。曰。臣聞天與レ地相去。萬五千里。今王因而半レ之。當レ起二七千五

魏王將に中天臺を起さんとす。令して曰く、敢へて諫むる者は死せんと。許綰負ひて鍤を操り、入りて曰く、聞く、大王將に中天臺を起さんとすと。臣願はくは一力を加へんと。王曰く、子、何の力か加ふる有らんと。綰曰く、力なしと雖も能く臺を商らんと。王曰く、若何と。曰く、臣聞く、天と地と相去る萬五千里。今王因りて之を半にす。當に七千五百里の臺を起すべし。高きこと既に是の如くは、其趾須らく方八千里なるべし。王の地を盡して、以て臺趾を爲るに足らず。古者堯舜の諸侯を建つるや、地方五千里なり。王必ず此臺を起さんとならば、先づ兵を以て諸侯を伐ち、盡く其地を有せよ。猶ほ足らずんば、又四夷を伐て。方八千里を得ば、乃ち以て臺趾を爲るに足る。林木の積、人徒の衆、倉廩

百里之臺。高既如是。其趾須方八千里。盡王之地。不足以爲臺趾。古者堯舜建諸侯。地方五千里。王必起此臺。先以兵伐諸侯。盡有其地。猶不足。又伐四夷。得方八千里。乃足以爲臺趾。林木之積。人徒之衆。倉廩之儲。數以萬億。度八千里之外。當定農畝之地。足以奉給王之臺者。臺具以備。乃可以作。魏王默然無以應。乃罷起臺。

の儲、數、萬億を以てす。八千里の外に度りて、當に農畝の地、以て王の臺に奉給するに足る者を定むべし。臺具以に備り、乃ち以て作るべしと。魏王、默然として以て應ふるなし。乃ち臺を起すことを罷めたり。

(一) 數也　(二) 度也、はかる　(三) 基也、もとゐ　(四) 已也、すでに

衞靈公以天寒鑿池。宛春諫曰。天寒起役。恐傷民。公曰。天寒乎。宛春曰。君衣狐裘。坐熊席。隩隅有竈。是以

衞の靈公、天寒を以て池を鑿つ。宛春諫めて曰く、天寒くして役を起す、恐らくは民を傷らんと。公曰く、天寒きかと。宛春曰く、君、狐裘を衣、熊席に坐し、隩隅に竈あり。是を以て寒からず。今民、弊を衣て補せず、履決して苴せず。君は則ち寒からず。民は誠に寒しと。公曰く、善しと。役を罷めしむ。左右諫めて曰く、君、池を鑿ちて天の寒きを知らず。宛春の知を以てして役を罷

不レ寒。今民衣レ弊不レ補。履決不レ苴。君則不レ寒。民誠寒矣。公曰。善。令レ罷レ役。左右諫曰。君鑿レ池不レ知二天寒一。以二宛春知一而罷レ役。是德歸二宛春一。怨歸二於君一。公曰。不レ然。宛春魯國之匹夫。吾擧レ之。民未レ有レ見焉。今將令二民以レ此見一レ之。且春也有レ善。寡人有二春之善一。非二寡人之善一與。靈公論二宛春一。可レ謂レ知二君之道一矣。

む。是れ德は宛春に歸し、怨は君に歸せんと。公曰く、然らず。宛春は魯國の匹夫なり。吾れ之を擧ひたり。(三)民未だ見ることあらず。今將に此をして民を以て之を見しめんとするなり。且つ春や善あれば、寡人に春の善あり。寡人の善に非ずやと。靈公の宛春を論ずる、君の道を知れりと謂ふべし。

㊀ 病也　㊁ 履中の草也　㊂ 用也

齊宣王爲二大室一。大蓋百畝。堂上三百戶。以二齊國之大一具レ之。三年而未レ能レ成。羣臣莫二敢諫者一。香居問二宣王一曰。

齊の宣王、大室を爲る。(一)大蓋百畝、堂上三百戶、齊國の大を以て之を具し、三年にして未だ成す能はず。羣臣敢へて諫むる者莫し。香居、宣王に問ひて曰く、荊王、先王の禮樂を釋てて淫樂を爲す。敢へて問ふ。荊邦、主ありと爲すかと。王曰く、主なしと爲すと。(二)敢へて問ふ、荊邦、(三)臣ありと爲すかと。王曰く、臣なしと爲すや。居曰く、今王、大室を爲る。三年にして成すこと能はず。而も羣臣

荊王釋ニ先王之禮樂一而爲ニ淫樂一。敢問荊邦爲レ有レ主乎。王曰。爲レ無レ主。敢問。荊邦爲レ有レ臣乎。王曰。爲レ無レ臣。居曰。今王爲ニ大室一。三年不レ能レ成。而羣臣莫ニ敢諫者一。敢問。王爲レ有レ臣乎。王曰。爲レ無レ臣。香居曰。臣請避矣。趨而出。王曰。香子留。何諫ニ寡人一之晩也。遽召ニ尙書一曰。書レ之。寡人不肖。好爲ニ大室一。香子止ニ寡人一。

敢へて諫むる者莫し。敢へて問ふ、王、臣ありと爲すかと。王曰く、臣なしと爲すと。香居曰く、臣請ふ避らんと。趨りて出る。王曰く、香子留れ。何ぞ寡人を諫むるの晩きやと。遽に(四)尙書を召して曰く、之を書せ、寡人不肖、好んで大室を爲る。香子、寡人を止めたりと。

(一) 其下百畝を蓋ふと也　(二) 賢主也　(三) 賢臣也　(四) 大也

趙襄子飮酒。五日五夜。不レ廢レ酒。謂ニ侍者一曰。我誠邦士也。夫飮酒五日五夜矣。而

趙襄子、飮酒す。五日五夜、酒を廢せず。侍者に謂つて曰く、我は誠に邦士なり。夫れ飮酒すること五日五夜なり。而も殊に病まずと。優莫(一)曰く、君之を勉めよ。紂に及ばざること二日のみ。紂は七日七夜、今君は五日と。襄子懼る。優莫に謂つて曰く、然らば則ち吾は亡びんかと。優莫曰く、亡びずと。襄子曰

殊不レ病。優莫曰。君勉レ之。不レ及レ紂二日耳。紂七日七夜。今君五日。襄子懼。謂二優莫一曰。然則吾亡乎。優莫曰。不レ亡。襄子曰。不レ及レ紂二日耳。不レ亡何待。優莫曰。桀紂之亡也。遇二湯武一。今天下盡桀也。而君紂也。桀紂並レ世。焉能相亡。然亦殆矣。

く、紂に及ばざること二日のみ。亡びずして何をか待たんやと。優莫曰く、桀・紂の亡ぶるや、湯・武に遇へばなり。今天下盡く桀なり。而して君は紂なり。桀・紂、世を並ぶ、焉ぞ能く相亡びんや。然れども、亦殆しと。

一 俳優也

齊景公飲酒而樂。釋二衣冠一自鼓レ缶。謂二侍者一曰。仁人亦樂レ是夫。梁丘子曰。仁人耳目亦猶レ人也。奚爲獨不レ樂レ此也。公曰。速駕迎二晏子一。晏

齊の景公、飲酒して樂し、衣冠を釋てて、自ら缶を鼓す。侍者に謂つて曰く、仁人も亦是を樂むかと。梁丘子曰く、仁人の耳目も亦猶ほ人のごときなり。奚爲れぞ獨り此を樂まざらんやと。公曰く、速に駕して晏子を迎へよと。晏子、朝服して以て至る。公曰く、寡人甚だ此樂を樂む。願はくは夫子と之を共にせん。請ふ、禮を去てよと。晏子對へて曰く、君の言過てり。齊國五尺の童子も、力は盡く嬰に勝ち、而して又君に勝つ。敢へて亂さざる所以の者は、禮を畏るれば

子朝服以至。公曰。寡人甚樂二此樂一也。願與二夫子一共レ之。請去レ禮。晏子對曰。君之言過矣。齊國五尺之童子。力盡勝レ嬰。而又勝レ君。所三以不二敢亂一者。畏レ禮也。上若無レ禮。無三以使二其下一。下若無レ禮。無三以事二其上一。夫麋鹿唯無レ禮。故父子同レ麀。人之所三以貴二於禽獸一者。以レ有レ禮也。詩曰。人而無レ禮。胡不二遄死一。故禮不レ可レ去也。公曰。寡人無二良左右一。淫二湎寡人一。以至二於此一。請殺レ之。晏子曰。左右何罪。君若好レ禮。左右有レ禮者至。無レ禮者去。君若惡レ禮。

なり。上若し禮なくんば、以て其下を使ふことなし。下若し禮なくんば、以て其上に事ふるなし。夫の麋鹿は、唯だ禮なし、故に父子、麀(三)を同じくす。人の禽獸より貴き所以の者は、禮あるを以てなり。(四)詩に曰く、人にして禮なくんば、胡ぞ遄(五)に死せざると。故に禮は去つべからざるなりと。公曰く、寡人に良左右なく、寡人を淫湎し、以て此に至れり。請ふ、之を殺さんと。晏子曰く、左右何の罪かあらん。君若し禮を好まば、左右に禮ある者至り、禮なき者去らん。君若し禮を惡まば、亦將に之の如けんと。公曰く、善し。請ふ、衣冠を革め、更めて命を受けんと。乃ち酒を廢し、而して尊(六)を更め、朝服して坐す。觴、三行す。晏子、趨り出づ。

(一) 瓦器、酒漿を盛るものにて秦人之を鼓して以て歌を節するもの (二) 一尺は二歳半 (三) 鹿の牝、めじか (四) 詩經鄘風相鼠篇 (五) 速也 (六) 樽也、酒器

亦將如之。公曰、善。請革衣冠。更受命。乃廢酒、而更尊朝服而坐、觴三行、晏子趨出、

魏文侯見箕季。其墻壞而不築。文侯曰。何爲不築、對曰。不時。其墻枉而不端。問曰。何不端。曰。固然。從者食其園之桃。箕季禁之、少焉日晏、進糲餐之食。瓜瓠之羹、文侯出。其僕曰。君亦無得於箕季矣。曩者進食、臣竊窺之、糲餐之食瓜瓠之

魏の文侯、箕季を見る。其墻壞れて築かず。文侯曰く、何爲れぞ築かざると。對へて曰く、時ならずと。其墻枉りて端しからずと。問ひて曰く、何ぞ端ならざると。曰く、固より然りと。從者、其園の桃を食ふ。箕季之を禁ずと。少くして日晏れぬ。糲餐の食・瓜瓠の羹を進む。文侯出づ。其僕曰く、君も亦箕季より得ることなし。曩に食を進む。臣竊に之を窺ふに、糲餐の食・瓜瓠の羹なりと。文侯曰く、吾れ何ぞ季より得ることなからんや。吾れ季を一見して四を得たり。其墻壞れて築かず。時を待つと云ふ者は、我に教ふるに、農時を奪ふなかれとなり。墻枉りて端しからず。對へて曰く、固より然りとは、是れ我に教ふるに、封疆を侵すことなかれとなり。從者園桃を食ふ。箕季之を禁ず。豈桃を愛しむならんや、是れ我を教ふるに下上を侵す無れとなり。我に食ましむるに糲餐を以てする者は、季豈に五味を具ふるを能はざらんや。我に教ふるに、多く百姓より斂むるなかれ、

夔。文侯曰。吾何無レ得ニ於季一也。吾一ニ見季一而得レ四焉。其墻壞不レ築。云レ待レ時者。教レ我無レ奪ニ農時一也。墻枉不レ端。對曰。固然者。是教レ我無レ使ニ封疆一也。從者食ニ園桃一。箕季禁レ之。豈愛レ桃哉。是教レ我下無レ使レ上也。食レ我以ニ糲餐一者。季豈不レ能レ具ニ五味一哉。教レ我無三多斂ニ於百姓一。以省ニ飲食之養一也。

以て飲食の養を省けとなりと。

(一) 直也、正也 (二) 一斛の粟を舂きて七斗の米とするを糲といふ、粗飯也、餐は小飯也

士尹池爲レ荊使ニ於宋一。司城子罕止而觴レ之。南家之墻擁ニ於前一而不レ直。西家之潦經ニ其宮一而不レ止。士尹池問ニ其故一。司城子罕曰。南家工人也。爲レ鞔者也。吾將レ徙レ之。

(一)士尹池、荊の爲に宋に使す。(二)司城子罕、止めて之に(三)觴す。南家の墻、前に擁して直からず。西家の潦、其宮を經て止らず。士尹池、其故を問ふ。司城子罕(四)曰く、南家は工人なり。(五)鞔を爲る者なり。吾れ將に之を徙さんとすれば、其父曰く、吾れ鞔を爲るを恃んで、(六)已に三世を食す。今徙らば、是れ宋邦の鞔を求むる者、吾が處を知らざるなり。(七)吾れ將に食はざらんとす。願はくは相國の吾が食はざるを憂へんことをと。是が爲の故に、吾れ徙さず。西家高く、吾が宮卑し。潦の吾が宮を經るや利、是が爲の故に禁ぜざるなりと。士尹池歸る。荊、適に兵

其父曰。吾恃爲觀。已食三世矣。今從是宋邦之求觀者。不知吾處也。吾將不食。願相國之憂吾不食也。爲是故吾不從。西家高。吾宮卑。潦之經吾宮也利。爲是故不禁也。士尹池歸荊適興兵欲攻宋。士尹池諫於王曰。宋不可攻也。其主賢其相仁。賢者得民。仁者能用人。攻之無功。爲天下笑。楚釋宋而攻鄭。孔子聞之曰。夫修之廟堂之上。而折衝於千里之外者。司城子罕之謂也。

を興して、宋を攻めんと欲す。士尹池、王を諫めて曰く、宋は攻むべからざるなり。其主は賢に、(八)其相は仁なり。(九)賢者は民を得、(一〇)仁者は能く人を用ふ。(一一)之を攻めて功なけん。天下の笑と爲らんと。楚、宋を釋きて鄭を攻む。孔子之を聞きて曰く、夫れ之を廟堂の上に修めて、千里の外に折衝する者は、司城子罕の謂なりと。

(一) 士は工の誤、工尹は楚の官、百工を掌る官 (二) 司城は、司空の卿官、宋の武公、名は司空、故に改めて司城となせり、子は罕樂喜也 (三) 觴は衎也、工尹池に酒を飲ましめし也 (四) 抱也、南家の[illegible]の子罕の地を抱くを謂ふ也 (五) 履也、履をつくる工 (六) 履をつくるによりて三世衣食せりと也 (七) 履賣れざるが故に、衣食の資なしと也 (八) 君也 (九) 子罕 (一〇) 民の歡心を得と也 (一一) 人之が用をなすと也

魯孟獻子聘於晉。宣子觴之。三徙。鍾石

魯の孟獻子、晉に聘す。宣子之に觴す。三たび徙る。鍾石の懸、(一三)移さずして具す。獻子曰く、富めるかな、家と。宣子曰く、子の家は、我が家の富めるに孰

之懸。不レ移而具。獻子曰。富哉家。宣子曰。子之家孰二與我家富一。獻子曰。吾家甚貧。惟有二二士一。曰二顏回茲無靈一者。使二吾邦家安平。百姓和協一。惟此二者耳。吾盡二於此一矣。客出。宣子曰。彼君子也。以レ養レ賢爲レ富。我鄙人也。以二鍾石金玉一爲レ富。孔子曰。孟獻子之富。可レ著二於春秋一。

與ぞと。獻子曰く、吾が家は甚だ貧し。惟だ二士あるのみ。顏回・(三)茲無靈と曰ふ者なり。吾が邦家をして安平に百姓をして和協ならしむ。惟だ此二者のみ。吾れ此に盡きたりと。客出づ、宣子曰く、彼は君子なり。賢を養ふを以て富めりと爲す。我は鄙人なり。鍾石金玉を以て富めりと爲すと。孔子曰く、孟獻子の富は、春秋に著すべし。

(一) 魯の大夫、仲孫蔑、穀の子　(二) 樂架也　(三) 茲無は複姓、魯の大夫

鄒穆公有レ令。食二鳧鴈一必以レ粃。無レ得レ以レ粟。於レ是倉無レ粃。而求レ易二於民一。二石粟而得二

鄒の穆公令あり。鳧鴈に食ましむるに、必ず粃を以てし、(一)粟を以てするを得るなかれと。是に於て倉に粃なし。而して民に易へんことを求む。二石の粟にして一石の粃を得たり。吏、以て費と爲す、請ふ、粟を以て之に食ましめんと。穆公曰く、去れ。汝の知る所に非ざるなり。夫れ百姓、牛を飽かしめて耕し、背を

一石粃。吏以爲贄。請以粟食之。穆公曰。去。非汝所知也。夫百姓飽牛而耕。暴背而耘。勤而不惰者。豈爲鳥獸哉。粟米人之上食。奈何其以養鳥。且爾知小計。不知大會。周諺曰。囊漏貯中。而獨不聞歟。夫君者民之父母。取倉之粟。移之於民。此非吾之粟乎。鳥苟食鄒之粃。不害鄒之粟也。粟之在倉。與在民。於我何擇。鄒民聞之。皆知私積與公家爲一體也。此之謂知富邦。

暴して耘り、勤めて惰らざる者は、豈に鳥獸の爲ならんや。粟米は人の上食、奈何ぞ其れ以て鳥を養はんや。且つ爾は、小計を知つて大會(二)を知らず。周の諺に曰く、囊(三)、貯中に漏ると。而して獨り聞かざるか。夫れ君は民の父母なり。倉の粟を取りて、之を民に移す。此れ吾の粟に非ずや。鳥苟も鄒の粃を食ひ、鄒の粟を害せざるなり。粟の倉に在ると、民に在ると、我に於て何ぞ擇ばんと。鄒民之を聞き、皆私積(四)と公家と一體たるを知れり。此れ之を邦を富すことを知ると謂ふ。

(一) 悉して粟を成さざるもの、しひな　(二) 會は計也　(三) 漏ると雖も外に出でずと也　(四) 私に蓄積せるもの

堯治二天下一。伯成子高爲二諸侯一焉。堯授レ舜。舜授レ禹。伯成子高辭レ爲二諸侯一而耕。禹往見レ之則耕在レ野。禹趨就二下位一而問焉曰。昔者堯治二天下一。吾子立爲二諸侯一焉。堯授レ舜。吾子猶存焉。及二吾在レ位。子辭二諸侯一而

巻第七

節士第七

堯、天下を治む。伯成子高、諸侯たり。堯は舜に授け、舜は禹に授く。伯成子高、諸侯たるを辭して耕す。禹往きて之を見れば、則ち耕して野に在り。禹、趨せて、下位に就きて問ひて曰く、昔者堯の天下を治むるや、吾子立ちて諸侯と爲れり。堯、舜に授く、吾子猶ほ存せり。吾れの位に在るに及び、子の、諸侯を辭して耕すは、何の故ぞと。伯成子高曰く、昔堯の天下を治むるや、天下を擧げて之を他人に傳へ、至無欲なり。賢を擇びて之に其位を與へしは、至公なり。至無欲・至公の行を以て、天下に示す。故に賞せずして民勸み、罰せずして民畏る。舜も亦猶ほ然り。今君、賞罰す、而るに民に欲ありて且つ私多し。是れ君の懐く所の者は私なり。百姓之を知る。貪爭の端、此より始らん。德、此より衰

耕。何故。伯成子高曰。昔堯之治天下。擧天下而傳之他人。至無欲也。擇賢而與之其位。至公也。以至無欲至公之行示天下。故不賞而民勸。不罰而民畏。舜亦猶然。今君賞罰。而民欲且多私。是君之所懷者私也。百姓知之。貪爭之端。自此始矣。德自此衰。刑自此繁矣。吾不忍見。以是處野也。今君又何求而見我。君行矣。無留吾事。耕而不顧。書曰。旁施象刑維明。及禹不能。春秋曰。五帝不告誓。信厚也。

へん。刑、此より繁からん。吾れ見るに忍びず。是を以て野に處るなり。今君又何を求めて我を見る。君、行れ。吾が事を留むるなかれと。耕して顧みず。書に(二)曰く、(三)旁く、象刑を施して、維れ明にせよと。禹に及びて能はず。(四)春秋に曰く、五帝は、告誓せずと。信厚ければなり。

(一) 孟子に云ふ、禹に至りて德衰ふと　(二) 書經虞書益稷篇　(三) 旁を書經には方につくり、まさにとよむ、卽ち其叙をつゝしみて象刑を施し、之を徵して功罪を明白にせよと也、唐虞の象刑、墨を犯す者は幪を蒙り、劓を犯す者は其衣を赭にし、臏を犯す者は墨幪を以てし、大辟を犯す者は布衣にして領なし、象刑は衣服によつて恥辱を與ふる刑法　(四) 穀梁傳隱公八年の文、告誓は尚書の大誓七誥、卽ち五帝の世、道化淳備、誥誓をまたずして、信おのづから著ると也

桀爲酒池。足以運舟。糟丘足以望七里。

桀、酒池を爲る。以て舟を運ぶに足る。糟丘は以て七里を望むに足る。一鼓して牛飲する者三千人、關龍逢進み諫めて曰く、人君と爲りて、身、禮義を行ひ、

一鼓而牛飲者三千人。關龍逢進諫曰。爲二人君一身行二禮義一。愛レ民節レ財。故國安而身壽也。今君用レ財若レ無レ盡。用レ人若レ恐レ不レ能レ死。不レ革天禍心降。而誅必至矣。君其革レ之。立而不レ去レ朝。桀因囚二拘之一。君子聞レ之曰。末レ之命矣夫。

民を愛し財を節す。故に國安くして身壽し。今君の財を用ふる、盡くること無きが若く、人を用ふる、死する能はざるを恐るゝが若くす。革めずんば、天の禍必ず降りて、誅必ず至らん。君、其れ之を革めよと。立ちて朝を去らず。桀因りて之を囚拘す。君子之を聞きて曰く、之を末みす(一)、命なるかなと。

(一) 蔑也、無也

紂作二炮烙之刑一。王子比干曰。主暴不レ諫。非二忠臣一也。畏レ死不レ言。非二勇士一也。見レ過則諫。不レ用則死。忠之至也。遂進諫三日不レ

紂、炮烙の刑を作る。王子比干曰く、主の暴を諫めざるは、忠臣に非ざるなり。死を畏れて言はざるは、勇士に非ざるなり。過を見ば則ち諫め、用ひずば則ち死す、忠の至なりと。遂に進諫すること三日、朝を去らず。紂、因りて之を殺せり。(一)詩に曰く、(二)昊天太だ憮なり。予愼に辜なしと。無辜にして死す、亦哀しからずや。

(一) 詩經小雅巧言篇 (二) 王甚だ敖慢 我誠に罪なし、而るに我を罪せりと也

去レ朝。紂因而殺レ之。詩曰。昊天太憮。予愼無レ辜。無辜而死。不二亦哀一哉。

曹公子喜時字子臧。曹宣公子也。宣公與二諸侯一伐レ秦。卒二於師一。曹人使二子臧迎一レ喪。使下公子負芻與二太子一留守上。負芻殺二太子一而自立。子臧見二負芻之當一レ主也。宣公既葬。子臧將レ亡。國人皆從レ之。負芻立。是爲二曹成公。成公懼告レ罪。且請二子臧一。子臧乃

曹の公子喜時(一)、字は子臧、曹の宣公(二)の子なり。宣公、諸侯と秦を伐つ。師に卒す。曹人、子臧をして喪を迎へしむ。公子負芻をして、太子と留守たらしむ。負芻、太子を殺して自立す。子臧、負芻の當に主たるべきを見るや、宣公既に葬り、子臧、將に亡せんとす。國人皆之に從ふ。負芻立つ。是を曹の成公と爲す。成公、懼れて罪を告げ、且つ子臧を請ふ。子臧乃ち反る、成公遂に君と爲る。其後晉侯(四)、諸侯を會す。曹の成公を執へて、之を京師に歸る。將に子臧を周の天子に見えしめて、之を立てんとす。子臧曰く、前記に之あり、(五)聖は節を達す。次は(六)節を守る。下は(七)節を失はずと。君と爲るは、吾が節に非ざるなり。聖たること能はずと雖も、敢へて守を失はんやと。遂に亡げて宋に奔る。曹人數ば請ふ。晉侯謂ふ、子臧、國に反れ。吾れ、爾が君を歸らんと。是に於て子臧、(八)曹に反る。晉乃ち天子に言つて、成公を曹に歸る。子臧遂に國を以て成公に致す。成公、君

反。成公遂爲レ君。其後晉侯會二諸侯一。執二曹成公一。歸二之京師上。將下見二子臧於周天子一而立上レ之。子臧曰。前記有レ之。聖達レ節。次守レ節。下不レ失レ節。爲レ君非二吾節一也。雖レ不レ能レ聖。敢失レ守乎。遂亡奔レ宋。曹人數請。晉侯謂。子臧反レ國。吾歸二爾君一。於レ是子臧反レ國。晉乃言二天子一歸二成公於曹上。子臧遂以レ國致二成公一。成公爲レ君。子臧不レ出。曹國乃安。子臧讓二千乘之國一。可レ謂レ賢矣。故春秋賢而褒二其後一。

と爲る。子臧出でず。曹國乃ち安し。子臧、千乘の國を讓る、賢と謂ふべし。故に春秋に、賢として其後を褒せり。(九)

(一) 諸侯の子を公子といふ　(二) 名は盧、文公の子　(三) 宣公の庶子　(四) 成公の三年に、晉の厲公曹を伐ち、成公を虜とせしをいふ　(五) 聖人は天命に應じ、常禮に拘らずと也　(六) 賢者をいふ　(七) 節を失ふの誤か、愚者をいふ　(八) 宋より還りしをいふ　(九) 出でて仕へず也

延陵季子者吳王之子也。嫡同母昆弟四人。長曰レ過。次曰二餘祭一。次曰二夷昧一。次曰レ札。札卽季子。最小而賢。兄

(一)延陵の季子は、吳王の子なり。嫡同母昆弟四人。長を過と曰ひ、次を餘祭と曰ひ、次を夷昧と曰ひ、次を札と曰ふ。札は卽ち季子なり。最も小にして賢なり。兄弟皆之を愛す。既に喪を除す。將に季子を立てんとす。季子辭して曰く、曹の宣公の卒するや、諸侯と曹人と、曹君を義とせず、將に子臧を立てんとす。子臧之を去る。遂に爲らず、以て曹君を成せり。(四)君子曰く、能く節を守ると。君

弟皆愛レ之。既除レ喪。將レ立二季子一。季子辭曰。曹宣公之卒也。諸侯與二曹人一。不レ義二曹君一。將レ立二子臧一。子臧去レ之。遂不レ爲也。以成二曹君一。君子曰。能守レ節矣。君義嗣也。誰敢干レ君。有レ國非二吾節一也。札雖二不才一。願附二子臧一以無レ失レ節。固立レ之。棄二其室一而耕。乃舍レ之。過曰。今若レ是作。而與二季子一。季子必不レ受。請無レ與レ子而與レ弟。弟兄迭爲レ君。而致二諸侯乎季子一。皆曰。諾。故諸其爲レ君者。皆輕レ死爲レ勇。飲食必祝曰。天若有二吾國一。必疾有レ禍二予身一。故過也死。餘祭立。餘祭死。夷昧立。夷昧卒。而國宜レ之二季子一也。

は義嗣(五)なり。誰か敢へて君を干さん。國を有するは、吾節に非ざるなり。札、不才と雖も、願はくは子臧に附し、以て節を失ふことなからんと。固く之を立つ。其室を棄てて耕す。乃ち之を舍けり。過曰く、今、是の若きを作す。而るを季子に與へば、季子必ず受けず。請ふ。子に與ふることなくして弟に與へん。弟兄迭に君と爲りて、諸侯を季子に致さんと。皆曰く、諾と。故に諸〻の其の君と爲る者、皆死を輕じて勇を爲す。飲食に必ず祝して(六)曰く、天若し吾國を有たんとならば、必ず疾く予が身に禍あらしめよと。故に過や死して、餘祭立ち、餘祭死して夷昧立ち、夷昧死して、國宜しく季子に之くべきなり。

(一) 季札、延陵に封ぜらる、故に號して延陵の季子といふ、子は男子の美稱 (二) 左傳には諸樊と稱す、過は其名にて諸樊はその號 (三) 曹君は公子負芻なり、義とせずとは太子を殺して自立せしが故なり (四) 左丘明が作る所の史の評、仲尼の語にて、君子は仲尼をさせるなり (五) 諸樊は適子、故に義嗣といふ (六) 祭祀するなり

季子使而未レ還。僚者長子之庶兄也。自立爲二吳王一。季子使而還。至則君二事之一。過之子曰二王子光一。號曰二闔閭一。不レ悅曰。先君之所レ爲。不レ與子而與レ弟者。凡爲二季子一也。將從二先君之命一。則國宜レ之二季子一也。如不三從二先君之命一而與レ子。我宜レ當レ立者也。僚惡得レ爲レ君。於レ是使二專諸刺一レ

季子使して未だ還らず。僚は長子の庶兄なり。自立して吳王と爲る。季子使して還る。至れば則ち之に君として事ふ。過の子を王子光と曰ふ。號して闔閭と曰ふ。悅ばずして曰く、先君の爲す所、子に與へずして弟に與ふる者は、凡そ季子が爲なり。將た先君の命に從はば、則ち國宜しく季子に之くべきなり。如し先君の命に從はずして、子に與ふるは、我れ宜しく當に立つべき者なり。僚惡ぞ君たるを得んと。是に於て專諸をして僚を刺さしめて、國を季子に致さんとす。季子曰く、爾我君を殺す、吾れ、爾に國を受く。是れ吾と爾と亂を爲すなり。爾、我兄を殺し、吾又爾を殺さば、是れ父子兄弟相殺すなり。身を終ふるまで已むこと無けんと。去つて延陵(一)に之き、身を終ふるまで、吳國に入らず。故に號して延陵の季子と曰ふ。君子、其の國を受けざるを以て義と爲し、其の殺さざるを以て仁と爲せり。是を以て春秋に、季子を賢として之を尊貴せり。

(一) 吳の下邑

僚而致二國乎季子一。季子曰。爾殺二我君一。吾受二爾國一。是吾與レ爾爲レ亂也。爾殺二我兄一。吾又殺レ爾。是父子兄弟相殺。終レ身無レ已也。去而之二延陵一。終レ身不レ入二吳國一。故號曰二延陵季子一。君子以二其不一レ受レ國爲レ義。以二其不一レ殺爲レ仁。是以春秋賢二季子一而尊二貴之一也。

延陵季子將二西聘一レ晉。帶二寶劍一。以過二徐君一。徐君觀レ劍不レ言而色欲レ之。延陵季子爲レ有二上國之使一。未レ獻也。然其心許レ之矣。致二使於晉一。故反則徐君死二於楚一。於レ是脫レ劍致二之嗣君一。從者止レ之曰。此吳國之寶。非レ所二以贈一也。延陵季子曰。吾

(一)延陵の季子、將に西のかた晉に聘せんとす。寶劍を帶び、以て徐君に過ぎる。徐君(二)、劍を觀て言はず、而も色之を欲す。延陵の季子、上國(三)の使あるが爲に、未だ獻ぜざるなり。然れども其心に之を許せり。使を晉に致す。故に反れば則ち徐君、楚に死せり。是に於て劍を脫きて、之を嗣君に致す。從者之を止めて曰く、此れ吳國の寶、贈る所以に非ざるなりと。延陵の季子曰く、吾れ之を贈るに非ざるなり。先日吾れ來る。徐君、吾劍を觀る。言はずして其色之を欲す。吾れ上國の使あるが爲に、未だ獻ぜざるなり。然りと雖も、吾心に之を許せり。今死して進めざるは、是れ心を欺くなり。劍を愛んで心を僞るは、廉者は爲さずと。遂に劍を脫ぎて之を嗣君に致せり。嗣君曰く、先君、命なし。孤敢へて劍を受けずと。是に於て季子、劍を以て徐君の墓樹に帶して去る。徐人嘉して、之を

非レ贈レ之也。先日吾來。徐君觀二吾劍一。不レ言而其色欲レ之。吾爲レ有二上國之使一。未レ獻也。雖レ然吾心許レ之矣。今死而不レ進。是欺レ心也。愛レ劍僞レ心。廉者不レ爲也。遂脱レ劍致二之嗣君一。嗣君曰。先君無レ命。孤不二敢受一レ劍。於レ是季子以レ劍帶二徐君墓樹一而去。徐人嘉而歌レ之曰。延陵季子兮不レ忘レ故。脱二千金之劍一兮帶二丘墓一。

歌ひて曰く、延陵の季子、故を忘れず、千金の劍を脱して、丘墓に帶ばしむと。

㊀呉王餘祭の四年に、季札をして諸侯に使せしめしにて、即ち魯の襄公の二十九年なり　㊁諸夏即ち中國

許悼公疾レ瘧。飲二藥毒一而死。太子止自責レ不レ嘗レ藥。不レ立二其位一。與二其弟緯一。專哭泣啜二䬸粥一。嗌不レ容レ粒。痛二己之不一レ嘗レ藥。未レ逾レ年而死。故春秋義レ之。

許の悼公、瘧を疾み、藥毒を飲んで死す。太子止、自ら藥を嘗めざるを責めて、其位に立たず。其弟緯と、專ら哭泣し、㊁䬸粥を啜り、嗌、粒を容れず。己が藥を嘗めざるを痛む。未だ年を逾えずして死す。故に春秋に之を義とせり。

㊀名は買、厲公の子　㊁䬸は饘に同じ、こきかゆ、粥はうすきかゆ

衞宣公之子。伋也壽也朔也。伋前母子

衞の宣公の子、伋なり、壽なり、朔なり。伋は前母の子なり。壽と朔とは、後母の子なり。壽の母、朔と謀り、太子伋を殺して、壽を立てんと欲するや、人を

也。壽與朔後母子也。壽之母與朔謀。欲殺太子伋而立壽也。使人與伋乘舟於河中。將沈而殺之。壽知不能止也。因與之同舟。舟人不得殺。伋方乘舟時。伋傳母恐其死也。閔而作詩。二子乘舟之詩是也。其詩曰。二子乘舟。汎汎其景。願言思子。中心養養。於是壽閔

して伋と、舟に河中に乘らしめ、將に沈めて之を殺さんとす。壽、知れども止むること能はざるなり。因りて之と舟を同じうす。舟人、殺すことを得ず。伋、乘舟の時に方りて、伋が傅母、其死を恐るゝや、閔んで詩を作る。二子乘舟の詩是れなり。其詩に曰く、二子、舟に乘る。汎汎たる其れ景あり。願に言れ子を思ふ。中心養養たりと。是に於て壽、其兄の且に害せられんとするを閔みて、憂思の詩を作る。黍離の詩是れなり。其詩に曰く、行き邁くこと靡靡たり。中心搖搖たり。我を知る者は、我心憂ふと謂ふ。我を知らざる者は、我れ何を求むと謂ふ。悠悠たる蒼天、此れ何人ぞやと。又伋をして齊に之かしむ。將に盜をして、載旌を見て、要して之を殺さしめんとす。壽、伋を止む。伋曰く、父の命を棄つるは、子の道に非ざるなり。不可なりと。壽又之と偕に行く。壽が母、知りて止むること能はざるなり。因りて之に戒めて曰く、壽、前を爲すことなかれと。壽又前たり。伋が旌を竊みて以て先行す。幾ど齊に及ばんとす。盜見て之を殺

其兄之且ㇾ見ㇾ害。作二憂思之詩一。黍離之詩是也。其詩曰。行邁靡靡。中心搖搖。知ㇾ我者。謂二我心憂一。不ㇾ知ㇾ我者。謂二我何求一。悠悠蒼天。此何人哉。又使二伋之一ㇾ齊。將ㇾ使下盗見二載旌一要而殺上ㇾ之。壽止ㇾ伋。伋曰。棄二父之命一。非二子道一也。不可。壽又與ㇾ之偕行。壽之母知不ㇾ能ㇾ止也。因戒ㇾ之曰。壽無ㇾ爲ㇾ前也。壽又爲ㇾ前。竊二伋旌一以先行。幾及ㇾ齊矣。盗見而殺ㇾ之。伋至見二壽之死一。痛二其代ㇾ己死一。涕泣悲哀。遂載二其屍一還。至ㇾ境而自殺。兄弟倶死。故君子義二此二人一。而傷二宣公之聽ㇾ讒也。

す。伋至りて、壽が死を見、其の己れに代りて死するを痛み、涕泣悲哀、遂に其屍を載せて還り、境に至りて自殺す。兄弟倶に死す。故に君子は、此二人を義として、宣公の讒を聽けるを傷めり。

(一) 詩經邶風二子乘舟の序に曰く、二子乘舟は伋・壽を思ふなり、衛の宣公の二子、爭ひて相爲に死す、國人傷みて之を思ひ、是詩を作るとあり (二) 猶也 (三) 定る所を知らざるを憂ふるなり (四) 詩經王風黍離の詩 (五) 行也 (六) 遲遲に同じ (七) 憂のうつたふる所なきをいふ (八) 我の情を知る者の意 (九) 我が久しく留りて、去らざるを怪むなり (一〇) 遠き意 (一一) 遠きに據りて之を視れば蒼々然たるが故にしかいふ

魯宣公者。魯文公之弟也。文公薨。文公之子子赤立。爲二魯侯一。宣公

魯の宣公は、魯の文公の弟なり。文公薨ず。文公の子子赤立ちて魯侯と爲る。宣公、子赤を殺して之が國を奪ひ、立ちて魯侯と爲る。公子肸は、宣公の同母弟なり。宣公、子赤を殺す。而して肸之を非とす。宣公之に祿を與ふ。則ち曰く、

殺二子赤一而奪二之國一立爲魯侯。公子肹者。宣公之同母弟也。宣公殺二子赤一而肹非レ之。宣公與二之祿一則曰。我足矣。何以二兄之食一爲哉。織レ屨而食。終レ身不レ食二宣公之食一。其仁恩厚矣。其守節固矣。故春秋美而貴レ之。

我れ足れり。何ぞ兄の食を以てするを爲さんやと。屨を織りて食ふ。身を終ふるまで、宣公の食を食はず。其仁恩厚し。其守節固し。故に春秋に、美として之を貴べり。

(一) 名は偃

晉獻公太子之至二靈臺一。蛇繞二左輪一。御曰。太子下拜。吾聞。國君之子。蛇繞二左輪一者速得レ國。太子遂不レ行返二乎舍一。御人見二太子一。太子曰。吾

晉の獻公(一)の太子の靈臺(二)に至るや、蛇、左輪を繞る。御曰く、太子下りて拜せよ。吾れ聞く、國君の子、蛇、左輪を繞る者は、速に國を得んと。太子遂に行かずして舍に返る。御人、太子に見ゆ。太子曰く、吾れ聞く、人の子たる者は、和を盡して君に順ふ。私欲を行はず。恭嚴、命を承け、君の安に逆はずと。今吾れ國を得ば、是れ君、安を失ふなり。國の利を見て、君の安を忘るゝは、子の道に非ざるなり。國を得ることを聞きて、其聲を拜するは、君の欲に非ざるな

聞爲二人子一者。盡レ和順レ君。不レ行二私欲一。恭嚴承レ命。不レ逆二君安一。今吾得レ國。是君失レ安也。見二國之利一。而忘二君安一。非二子道一也。聞レ得レ國而拜二其聲一。非二君欲一也。廢二子道一不孝。逆二君欲一不忠。而使二我行一レ之。殆欲二吾國之危一明也。拔レ劒將レ死。御止レ之曰。夫禨祥妖孽。天之道也。恭嚴承レ命。人之行

り。子の道を廢せば不孝、君の欲に逆へば不忠、而も我をして之を行はしむ。殆ど吾國の危を欲すること明けしと。劍を拔きて、將に死せんとす。御之を止めて曰く、夫れ禨祥妖孽は、天の道なり。恭嚴、命を承くるは、人の行なり。祥を拜し孽を戒むるは、禮なり。嚴恭、命を承く、身を以て君を恨みざるは、孝なり。今太子禠を見て拜せず、禮を失す。身を殺して君を恨む、孝を失す。僻心に從つて正行を秉つるは、臣が聞く所に非ずと。太子曰く、然らず。我れ國を得るは、君の孽なり。君の孽を拜するは、禮と謂ふべからず。禨祥を見て、君の安を忘るゝは、國の賊なり。賊心を懷いて以て君に事ふるは、孝と謂ふべからず。僞意を挾みて以て天下を御し、賊心を懷いて以て君に事ふるは、邪の大なる者なり。我をして之を行はしむ。是れ國の危を欲すること明けしと。遂に劍に伏して死せり。君子曰く、晉の太子の徒御、之をして虵祥を拜せしむ。猶ほ之を惡む。自殺に至りては、國を欲するを疑はれんが爲なり。己の國を欲せず、以て

也。拜祥戒孽。禮也。嚴恭承命。不以身恨君。孝也。今太子見禍不拜。失禮。殺身恨君。失孝。從僻心。棄正行。非臣之所聞也。太子曰。不然。我得國君之孽也。拜君之孽。不可謂禮。見禨祥而忘君之安。國之賊也。懷賊心以事君。不可謂孝。挾偽意以御天下。懷賊心以事君。邪之大者也。而使我行之。是欲國之危明也。遂伏劍而死。君子曰。晉太子徒御使之拜蛇祥。猶惡之。至於自殺者。爲見疑於欲國也。己之不欲國。以安君亦以明矣。爲一愚御過言之故。至於身死。廢子道。絕祭祀。不可謂孝。可謂遠嫌一節之士也。

君を安んずる、亦以て明けし。一愚御の過つて之を言ふが爲の故に、身死するに至り、子道を廢し、祭祀を絕つ、孝と謂ふべからず。嫌を遠ざくる一節の士と謂ふべきなり。

(一) 名は詭諸、武公の子 (二) 京兆鄠縣に在り、周の故墟 (三) 禨も亦祥也

申包胥者楚人也。吳敗楚兵於柏舉。遂入郢。昭王出亡在隨。申包胥不受命而

申包胥は、楚人なり。吳、楚の兵を柏舉(一)に敗る。遂に郢に入る。昭王出亡して隨(二)に在り。申包胥、命を受けずして、秦に赴きて師を乞ひて曰く、吳、無道の行を爲す。封豕長蛇(三)のごとく天下を蠶食す。上國より楚に始る。寡君、社稷を失し、草莽に越在(四)す。下臣をして急を告げしめて曰く、吳は夷狄なり。夷狄の求、

赴二於秦一乞レ師曰。吳爲二無道一行。封豕長蛇。蠶二食天下一。從二上國一始二於楚一。寡君失二社稷一。越二在草莽一。使二下臣告一レ急曰。吳夷狄也。夷狄之求無レ厭。滅レ楚則西與レ君接レ境。若隣二於君一。疆場之患也。逮二吳之未一レ定。君其圖レ之。若得二君之靈一。存二撫楚國一。世以事レ君。秦伯使レ辭焉。曰。寡君聞レ命矣。

厭くことなし。(六)楚を滅せば則ち西のかた君と境を接せん。若し君に隣せば、疆場の患なり。吳の未だ定らざるに逮びて、君其れ之を圖れ。若し君の靈を得て、楚國を存撫せば、世々以て君に事へんと。秦伯辭せしめて曰く、寡君、命を聞く、子其れ(七)館に就け。將に圖りて子に告げんと。對へて曰く、寡君、草莽に越在す。未だ休する所を獲ず。下臣何ぞ敢へて安に卽かんと。庭牆に倚りて立ち、哭して日夜聲を絶たず。水漿口に入らざること七日七夜。秦の哀公、爲に無衣の詩を賦す。言ふ、兵今出づと。包胥九たび頓首して坐す。秦の哀公曰く、楚の臣あること此の若くにてすら亡ぶ。吾の臣なきこと此の若し。吾の亡びんこと日なけん。是に於て、乃ち師を出して楚を救ふ。申包胥、秦の師を以て楚に至る。秦の大夫子滿・子虎、車五百乘を帥ゐる。子滿曰く、吾れ未だ吳の道を知らずと。(八)楚人をして先んぜしむ。吳人と戰ひて之に會す。大に吳の師を敗る。吳の師旣に退く。昭王、國に復りて、賞、包胥より始む。包胥曰く、君を輔け、國を安んずるは、

子其就館。將圖而告子。對曰。寡君越在草莽。未獲所休。下臣何敢即安。倚於庭牆而立。哭日夜不絕聲。水漿不入口七日七夜。秦哀公爲賦無衣之詩。言兵今出。包胥九頓首而坐。秦哀公曰。楚有臣若此而亡。吾無臣若此。吾亡無日矣。於是乃出師救楚。申包胥以秦師至楚。秦大夫子滿子虎帥車五百乘。子滿曰。吾未知吳道。使楚人先與吳人戰而會之。大敗吳師。吳師既退。昭王復國。而賞始於包胥。包胥曰。輔君安國。非爲身也。救急除害。非爲名也。功成而受賞。是賣勇也。君既定。又何求焉。遂逃賞終身不見。君子曰。申子之不受命赴秦。忠矣。七日七夜不絕聲。厚矣。不受賞。不伐矣。然賞所以勸善也。辭賞亦非常法也。

身の爲に非ざるなり。急を救ひ害を除くは、名の爲に非ざるなり。功成りて賞を受くるは、是れ勇を賣るなり。君既に定む、又何をか求めんと。遂に賞を逃れ、身を終ふるまで見えず。君子曰く、申子が命を受けずして秦に赴けるは忠なり。七日七夜、聲を絕たざるは厚し。賞を受けざるは伐らざるなり。然れども、賞は善を勸むる所以なり。賞を辭するは、亦常法に非ざるなりと。

㊀ 姓は公孫、申に封ぜらる、故に申包胥といふ、楚の大夫 ㊁ 楚の地 ㊂ 封は大也。吳の貪害なること、蛇豕の如しと也 ㊃ 蠶の桑葉を食ひ、漸く進んで必ず盡すがごとく、土地を侵略するをいふ ㊄ 禱は濕也 ㊅ 吳が楚を有すれば則ち秦と隣すと也 ㊆ 撫み存するをいふ ㊇ 法術也

齊崔杼者。齊

齊の崔杼は、齊の相なり。莊公を弑す。太史を止めて、君の弑及び賊を書く

之相也。弑二莊公一。止二太史一無レ書二君弑及賊一。太史不レ聽。遂書レ賊曰。崔杼弑二其君一。崔子殺レ之。其弟又嗣書レ之。崔子又殺レ之。死者二人。其弟又嗣復書レ之。乃舍レ之。南史氏是其族也。聞二太史盡死一。執レ簡以往。將二復書一レ之。聞二既書一矣。乃還。君子曰。古之良史。

ことなからしむ。太史聽かず。遂に賊を書して曰く、崔杼、其君を弑すと。崔子之を殺す。其弟又嗣ぎ(一)て之を書す。崔子又之を殺す。死する者二人。其弟又嗣ぎて復た之を書す。乃ち之を舍す。南史氏は是れ其族なり。太史盡く死すと聞きて、乃ち簡を執りて以て往く。將に復た之を書かんとす。既に書せりと聞きて、乃ち還る。君子曰く、古への良史なりと。

(一) 續也

齊攻レ魯求二岑鼎一。魯君載二岑鼎一往。齊侯不レ信而反レ之。以爲非也。使三人告二魯君一。柳下

齊、魯を攻めて岑鼎(一)を求む。魯君、岑鼎を載せて往く。齊侯、信ぜずして之を反す。以爲へらく非なりと。人をして、魯君に告げしむ。柳下惠以て是と爲す。(二)因りて之を受けんと請ふ。魯君に請ひ柳下惠に請ふ。柳下惠對へて曰く、君の以て岑鼎と爲さんと欲するや、以て國を免れんとなり。臣亦此に國あり。臣の國を

惠以爲㆑是。因請㆑受㆑之。請㆓魯君㆒請㆓於柳下惠㆒。柳下惠對曰君之欲㆔以爲㆓岑鼎㆒也。以免㆑國也。臣亦有㆑國㆓於此㆒。破㆓臣之國㆒。以免㆓君之國㆒。此臣所㆑難也。魯君乃以㆓眞岑鼎㆒往。柳下惠可㆑謂㆑守㆑信矣。非㆔獨存㆓己之國㆒也。又存㆓魯君之國㆒。信之於㆑人重矣。猶㆓輿之輗軏㆒也。故孔子曰。大車無㆑輗。小車無㆑軏。其何以行㆑之哉。此之謂也。

破り、以て君の國を免るゝは、此れ臣の難しとする所なりと。魯君乃ち眞の岑鼎を以て往く。柳下惠は信を守ると謂ふべし。獨り己が國を存するのみに非ず、又魯君の國を存す。信の人に於けるや重し。猶ほ輿の輗軏のごときなり。故に孔子曰く、(三)大車に輗なく、小車に軏なくんば、其れ何を以て之を行らんやとは、此の謂なり。

(一) 讒鼎也、所謂讒を疾むの鼎　(二) 反は還也、岑鼎にあらずとなしゝが故に還せし也　(三) 大車は牛車、輗は轅端の横木、以て軛を縛す。小車は駟馬の車、軏は轅端上曲、衡に鉤す、大車は平地載任の車、小車は兵車・田車・乘車也

宋人有㆑得㆑玉者。獻㆓諸司城子罕㆒。子罕不㆑受。獻㆑玉者曰。以示㆓玉人㆒。玉

宋人、玉を得る者あり。諸を司城子罕に獻ず。子罕受けず。玉を獻る者曰く、(一)以て玉人に示す。玉人以て寶と爲す。故に敢へて之を獻ずと。子罕曰く、我は不貪を以て寶と爲す。爾は玉を以て寶と爲す。若し我に與へば、皆寶を喪ふなり。若

人以爲寶。故敦獻之。子罕曰。我以不貪爲寶。爾以玉爲寶。若與我者。皆喪寶也。不若人有其寶。故宋國之長者曰。子罕非無寶也。所寶者異也。今以百金與搏黍。以示兒子。兒子必取搏黍矣。以和氏之璧與百金。以示鄙人。鄙人必取百金矣。以和氏之璧與道德之至言。以示賢者。賢者必取至言矣。其知彌精。其取彌精。其知彌觕其取彌觕。

かず、人ごとに其寶を有せんにはと。故に宋國の長者の曰く、子罕は、寶を無みするには非ざるなり。寶とする所の者異なるなりと。今百金と搏黍とを以て、以て兒子に示さば、兒子は必ず搏黍を取らん。和氏の璧と百金とを以て、以て鄙人に示さば、鄙人は必ず百金を取らん。和氏の璧と道德の至言とを以て、以て賢者に示さば、賢者は必ず至言を取らん。其知彌よ精しくして、其取ること彌よ精し。其知彌よ觕くして、其取ること彌よ觕し。子罕の、寶とする所の者至れり。昔者魚を鄭の相に餽る者あり、鄭の相受けず、或ひと鄭相に謂つて曰く、子は魚を嗜む。何の故に受けざると。對へて曰く、吾は魚を嗜むを以ての故に、魚を受けず。魚を受けば祿を失ふ。以て魚を食ふことなし。受けざれば祿を得、身を終ふるまで魚を食ふと。

(一) 能く玉を治むるもの (二) 搏は團也 (三) 小兒 (四) 微妙也 (五) 粗也

子罕之所寳者至矣。昔者有餽魚於鄭相者。鄭相不受。或謂鄭相曰。子嗜魚。何故不受。對曰。吾以嗜魚故不受魚。受魚失祿。無以食魚。不受得祿。終身食魚。

原憲居魯。環堵之室。茨以生蒿。蓬戶甕牖。揉桑以爲樞。上漏下濕。匡坐而弦歌。子贛聞之。乘肥馬。衣輕裘。中紺而表素。軒車不容巷。往見原憲。原憲冠桑葉冠。杖藜杖而應門。正冠則纓絕。振襟則肘見。納履則踵決。子贛曰。嘻

原憲、魯に居り。環堵の室、茨くに生蒿を以てし、蓬戶甕牖、桑を揉めて以て樞と爲し、上漏下濕、匡坐して弦歌す。子贛之を聞き、肥馬に乘り、輕裘を衣、紺を中にし素を表にし、軒車、巷に容らず。往きて原憲を見る。原憲、桑葉冠を冠り、藜杖を杖きて應門す。冠を正せば則ち纓絕え、襟を振へば則ち肘見え、履を納るれば則ち踵決す。子贛曰く、嘻、先生何ぞ病ふると。原憲仰ぎて之に應へて曰く、憲之を聞く、財なき之を貧と謂ふ、學んで行ふこと能はざる、之を病と謂ふ、憲は貧なり。病に非ざるなり。若し夫れ世を希みて行ひ、比周して交り、學以て人の爲にし、敎以て己が爲にし、仁義の慝、輿馬の飾は、憲、之を爲すに忍びざるなりと。子贛逡巡して愧づる色あり、辭せずして去る。原憲、杖を曳き履を拖き、行く〳〵商頌を歌ひて反る。聲、天地に滿ち、金石より出づ

先生何病也。原憲仰而應レ之曰。憲聞レ之。無レ財之謂レ貧。學而不レ能レ行之謂レ病。憲貧也。非レ病也。若夫希レ世而行。比周而交。學以爲レ人。敎以爲レ己。仁義之慝。輿馬之飾。憲不レ忍レ爲也。子貢逡巡。而有二愧色一。不レ辭而去。原憲曳レ杖拖レ履。行歌二商頌一而反。聲滿二天地一。如レ出二金石一。天子不レ得而臣一也。諸侯不レ得而友一也。故養レ志者忘レ身。身且不レ愛。孰能累レ之。詩曰。我心匪レ石。不レ可レ轉也。我心匪レ席。不レ可レ卷也。此之謂也。

るが如し。天子も得て臣とせざるなり。諸侯も得て友とせざるなり。故に志を養ふ者は身を忘る。身すら且つ愛せず、孰れか能く之を累さん。(七)詩に曰く、(八)我心石に匪ず、轉ずべからざるなり。我心、席に匪ず、卷くべからざるなりとは、此の謂なり。

(一) 魯の人、孔子の弟子 (二) 堵は長さ一丈、面に一堵を環らすこと方一丈と爲す。故に環堵といふ。其小なるをいへるなり (三) 茅を以て屋を蓋ふを茨といふ (四) 蓬を編みて戸となし甕を破りて牖となす也、貧家也 (五) 窶也 (六) 曳也 (七) 詩經鄘風柏舟篇 (八) 己れの心志の堅牢なるをいふ也

晏子之レ晉。見下披レ裘負レ芻息二於途一者上。以爲君子也。使二人問一焉曰。曷爲

晏子、晉に之く。裘を披き芻を負ひ、途に息ふ者を見る。以爲へらく、君子なりと。人をして問はしめて曰く、曷爲れぞ此に至ると。對へて曰く、齊人之を纍(一)す。吾名を越石甫と曰ふと。晏子曰く、嘻と。遽に左驂を解きて以て之を贖ひ

而至レ此。對曰。齊人纍レ之。吾名曰二越石甫一。晏子曰。嘻。遽解二左驂一以贖レ之。載而與歸。至レ舍不レ辭而入。越石甫怒而請レ絕。晏子使二人應一レ之曰。嬰未三嘗得二交也。今免二子於患一。吾於レ子猶未レ可邪。越石甫曰。吾聞君子詘二乎不一レ知己。而信二乎知レ己者一。吾是以請レ絕也。晏子乃出見レ之曰。向也見二客之容一。而今也見二客之意一。嬰聞察レ實者不レ留レ聲。觀レ行者不レ幾レ辭。嬰可二

載せて輿に歸り、舍に至り、辭せずして入る。越石甫怒りて、絕たんと請ふ。晏子、人をして之に應へしめて曰く、嬰は未だ嘗て交を得ざるなり。今子を患に免れしむ。吾の子に於ける、猶ほ未だ可ならざるかと。越石甫曰く、吾れ聞く、君子は、己を知らざるに詘み、己を知る者に信ぶと。吾れ是を以て絕たんと請へるなりと。晏子、乃ち出でて之を見て曰く、向に客の容を見、而して今や客の意を見たり。嬰聞く、實を察る者は聲を留めず、行を觀る者は辭を幾らずと。嬰は辭を以てして棄つることなかるべけんやと。越石甫曰く、夫子之を禮せば、敢へて敬從せざらんやと。晏子遂に以て上客と爲す。俗人の功あるは則ち德とし、德あれば則ち驕る。晏子、功あり。人を厄に免れしめて、反つて詘して之に下る。其の俗を去ること亦遠し。此れ功を全うするの道なり。

○纍、繫也、罪目にかゝれるをいふ

以レ辭而無レ棄乎。越石甫曰。夫子禮レ之。敢不レ欲レ從。晏子遂以爲二上客一。俗人之有レ功則德。德則驕。晏子有レ功。免二人於厄一。而反詘レ下之。其去レ俗亦遠矣。此全功之道也。

子列子窮。容貌有二饑色一。容有下言二於鄭子陽一者上。曰。子列子禦寇。蓋有道之士也。居二君之國一而窮。君無乃爲レ不レ好レ士乎。子陽令三官遺二之粟數十乘一。子列子出見二使者一再拜而辭。使者去。子列子入。其妻望而拊レ心曰。聞爲二有道者妻子一。

(一)子列子、窮す。容貌に饑色あり。容の、鄭子陽に言へる者あり。曰く、子列子禦寇は、蓋し有道の士なり。君の國に居て窮す。君無乃士を好まざるを爲すかと。(二)子陽、官をして、之に粟數十乘を遺らしむ。子列子出でて使者を見、再拜して辭す。使者去る。子列子入る。其妻望みて心を拊ちて曰く、聞く、有道者の妻子と爲れば、皆佚樂を得と。今妻子皆(三)饑色あり。君過ちて先生に遺る。先生又辭す。豈に命に非ざらんやと。子列子笑ひて、之に謂つて曰く、君は自ら我を知る者に非ざるなり。人の言を以てして我を知れり。人の言を以てして我に粟を遺れるを以なり。其の我を罪するや、又將に人の言を以てせんとせん。此れ吾が受けざる所以なり。且つ人の養を受けて、其難に死せざるは不義なり。其の難に死するは、是れ無道の人に死するなり。義ならんやと。其後、民果して難を作し、子陽

皆得二佚樂一。今妻子皆有二饑色一矣。君過而遺二先生一。先生又辭。豈非レ命也哉。子列子笑而謂レ之曰。君非二自知一レ我者也。以二人之言一而知レ我。以二人之言一而遺二我粟一也。其罪レ我也。又將レ以二人之言一。此吾所三以不二受也。且受二人之養一。不レ死二其難一。不義也。死二其難一。是死二無道之人一。義哉。其後民果作レ難。殺二子陽一。子列子之見レ微除二不義一遠矣。且子列子內有二饑寒之憂一。猶不二苟取一。見レ得思レ義。見レ利思レ害。況其在二富貴一乎。故子列子通二乎性命之情一。可レ謂二能守一レ節矣。

を殺す。子列子の微を見て、不義を除くこと遠し。且つ子列子は、內に饑寒の憂あり。猶ほ苟も取らず。得を見て義を思ひ、利を見て害を思ふ。況んや其の富貴に在るをや。故に子列子は、性命の情に通ず。能く節を守ると謂ふべし。(四)

(一) 鄭の人、鄭の穆公と時を同じうす。其學は黃帝、老子に本づく。號して道家といふ。姓は列、名は禦寇　(二) 鄭の相　(三) 怨責する也　(四) 貧にして能く其取る所を守るをいへるなり

屈原者名平。楚之同姓大夫。有二博通之知。清潔之行一。懷王用レ之。秦欲下吞二滅諸侯一。

屈原は、名は平、楚の同姓の大夫、博通の知・淸潔の行あり。(一)懷王之を用ふ。秦、諸侯を呑滅し、天下を幷兼せんと欲す。屈原楚の爲に、東のかた齊に使し、以て强黨を結ぶ。秦國之を患ふ。(二)張儀をして楚に之かしむ。楚の貴臣上官大夫靳尙の屬に貨し、上は令尹子蘭・(三)司馬子椒に及ぼし、內は夫人鄭袖に賂ひ、共

幷兼天下。屈原爲楚東使於齊。以結强黨。秦國患之。使張儀之楚。貨楚貴臣上官大夫靳尙之屬。上及令尹子蘭。司馬子椒。內賂夫人鄭袖。共譖屈原。屈原遂放於外。乃作離騷。張儀因使楚絕齊。許謝地六百里。懷王信左右之姦謀。聽張儀之邪說。遂絕强齊之大輔。楚既絕齊。而秦欺以六里。懷王大怒。擧兵伐秦。大戰者數。秦兵大敗楚師。斬首數萬級。秦使人願以漢中地謝。懷王不聽。願得張儀而甘心焉。張儀曰。以一儀而易漢中地。何愛儀。請行。遂至楚。楚因之。上官大夫之屬。共言之王。王歸之。

に屈原を譖す。屈原遂に外に放たる。乃ち離騷(四)を作る。張儀因りて、楚をして齊を絕たしむ。地六百里を謝とするを許す。懷王、左右の姦謀を信じ、張儀が邪說を聽き、遂に强齊の大輔を絕つ。楚既に齊を絕つ。而るに秦は欺くに六里を以てす。懷王大に怒りて、兵を擧げて秦を伐つ。大に戰ふこと數たび、秦の兵大に楚師を敗り、首を斬ること數萬級。秦、人をして漢中の地を以て謝せんと願はしむ。懷王聽かず。願はくは張儀を得て、甘心せんと。張儀曰く、一儀を以て漢中の地に易ふ、何ぞ儀を愛まん。請ふ、行かんと。遂に楚に至る。楚之を囚ふ。上官大夫の屬、共に之を王に言ふ。王、之を歸す。

(一) 名は熊槐、成王の子 (二) 魏の人、縱橫家、張子十篇をあらはす (三) 懷王の子 (四) 屈原の名作、おのが憂にあひたる次第を作れる辭賦

是時懷王悔下不レ用二屈原之策一以至二於此一上。於レ是復用二屈原一。屈原使レ齊還。聞二張儀已去一。大爲レ王言二張儀之罪一。懷王使二人追一レ之不レ及。後秦嫁二女于楚一。與二懷王一歡。爲二藍田之會一。屈原以爲秦不レ可レ信。願勿レ會。羣臣皆以爲レ可レ會。懷王遂會。果見二囚拘一。客二死於秦一。爲二天下笑一。懷王子頃

是の時懷王、屈原の策を用ひずして、以て此に至れるを悔ゆ。是に於て復た屈原を用ふ。屈原、齊に使して還る。張儀已に去ると聞き、大に王の爲に張儀の罪を言ふ。懷王、人をして之を追はしめしに及ばず。後に秦、女を楚に嫁し、懷王と歡す。藍田(一)の會を爲す。屈原以爲へらく、秦は信ずべからず。願はくは會する勿れと。羣臣皆以爲へらく、會すべしと。懷王遂に會す。果して囚拘せられ、秦に客死し、天下の笑となれり。懷王の子、頃襄王(二)も亦羣臣の諂の懷王を誤らしめしを知れども、其罪を察せず、反つて讒謗の口を聽き、復た屈原を放つ。屈原、闇王亂俗(三)、汶汶嘿嘿として、是を以て非と爲し、淸を以て濁と爲すことを疾みて、世を見るに忍びず。將に自ら淵に投ぜんとす。漁父之を止む。屈原曰く、世皆醉へり(四)、我獨り醒む(五)。世皆濁れり(六)、我獨り淸む(七)。吾れ獨り之を聞く、新に浴する者は必ず衣を振ひ、新に沐する者は、必ず冠を彈くと。又惡ぞ能く其泠泠を以て、更に世の嘿嘿たる者を事とせんや。吾れ寧ろ淵に投じて死せんと。遂

襄王亦知三羣臣諂誤二懷王一。不レ察二其罪一。反聽二羣讒之口一。復放二屈原一。屈原疾下闇王亂俗。汶汶嘿嘿。以レ是爲レ非。以レ淸爲も濁。不レ忍レ見二于世一。將三自投二於淵一。漁父止レ之。屈原曰。世皆醉。我獨醒。世皆濁。我獨淸。吾獨聞レ之。新浴者必振レ衣。新沐者必彈レ冠。又惡能以二其泠泠一更事二世之嘿嘿者一哉。吾寧投レ淵而死。遂自投二湘水汨羅之中一而死。

に自ら湘水汨羅の中に投じて死せり。(八)

(一) 所謂武關の會也 (二) 名は橫 (三) 汶汶は昏暗不明なる也。嘿嘿は默默也 (四) 財賄に惑へるをいふ (五) 廉潔自ら守る也 (六) 貪鄙なる也 (七) おのれ忠潔なる也 (八) 原文の而死の二字一に死の一字に作る

楚昭王有レ士曰二石奢一。其爲レ人也。公正而好レ義。王使レ爲レ理。於レ是廷有二殺レ人者一。石奢追レ之則其父也。遂反二於廷一曰。殺レ人者僕之父也。以レ父成レ政不レ孝。不レ行二君法一不レ忠。

楚の(一)昭王に士あり、石奢と曰ふ。其の人と爲りや、公正にして義を好む。王、(二)理たらしむ。是に於て、廷に人を殺す者あり。石奢之を追へば則ち其父なり。遂に廷に反りて曰く、人を殺せる者は、僕が父なり。父を以て政を成すは孝ならず。君の法を行はずんば忠ならず。罪を弛め法を廢して、其辜に伏するは、僕の守る所なり。斧鑕に伏するは、命、君に在りと。君曰く、追ひて及ばず、庸て罪あらんや。子其れ(三)事を治めよと。石奢曰く、其父に私せずんば孝に非ざるなり。君の法を行はずば忠に非ざるなり。死罪を以てして生く、廉に非ざるなり。君之

弛ㇾ罪廢ㇾ法而伏二其辜一。僕之所ㇾ守也。伏二斧鑕一命在ㇾ君。君曰。追而不ㇾ及。庸有ㇾ罪乎。子其治ㇾ事矣。石奢曰。不ㇾ私二其父一。非ㇾ孝也。不ㇾ行二君法一。非ㇾ忠也。以二死罪一生。非ㇾ廉也。君赦ㇾ之。上之惠也。臣不ㇾ敢失ㇾ法。下之行也。遂不ㇾ離二鈇鑕一。刎頸而死二于廷中一。君子聞ㇾ之曰。貞夫法哉。孔子曰。子爲ㇾ父隱。父爲ㇾ子隱。直在二其中一矣。詩曰。彼已之子。邦之司直。石子之謂也。

を赦すは、上の惠なり。臣敢へて法を失はざるは、下の行なりと。遂に鈇鑕を離れず、刎頸して廷中に死せり。君子之を聞きて曰く、貞なるかな、法やと。孔子曰く、子は父の爲に隱し、父は子の爲に隱す。直、其中に在りと。(四)詩に曰く、彼の之の子、邦の司直とは、石子の謂なり。

(一)名は珍、平王の子　(二)獄官也　(三)職事也　(四)詩經鄭風羔裘篇　(五)司は主也

晉文公反ㇾ國。李離爲二大理一。過殺二不辜一。自繫曰。臣之罪當ㇾ死。文公令ㇾ之曰。官有二上下一。罰有二輕重一。是下吏之罪

晉の文公國に反る。李離、大理と爲る。過つて不辜を殺す。自繫して曰く、臣の罪、死に當ると。文公之を令して曰く、官に上下あり、罰に輕重あり。是れ下吏の非なり。子が過に非ざるなりと。李離曰く、臣は、官に居て長たれども、下と位を讓らず、祿を受くること多しとなせども、下と利を分たず。過ち聽きて無辜を殺し、下に委して死を畏るゝは、義に非ざるなり。臣が罪、死に當

也。非二子之過一也。李離曰。臣居レ官爲レ長。不二與レ下讓一レ位。受レ祿爲レ多。不二與レ下分一レ利。過聽殺二無辜一。委レ下畏レ死。非レ義也。臣之罪當レ死矣。文公曰。子必自以爲レ有レ罪。則寡人亦有レ過矣。李離曰。君量レ能而授レ官。臣奉レ職而任レ事。臣受二印綬一之日。君命曰。必以二仁義一輔レ政。寧過二於生一。無レ失二於殺一。臣受レ命不レ稱。壅レ惠蔽レ恩。如二臣之罪一乃當レ死。君何過之有。且理有レ法。失生即生。失殺即死。君以レ臣爲二能聽レ微決一レ疑。故任レ臣以レ理。

ると。文公曰く、子必ず自ら以て罪ありと爲さば、則ち寡人も亦過ありと。李離曰く、君は能を量りて官を授け、臣は職を奉じて事に任ず。臣が印綬を受けし日、君命じて曰く、必ず仁義を以て政を輔け、寧ろ生に過つとも、殺に失つなかれと。臣命を受くること稱はず。惠を壅ぎ恩を蔽ふ。臣が罪の如きは、乃ち死に當す。君に何の過が之れ有らん。且つ理に法あり。失生は即ち生き、失殺は即ち死す。君、臣を以て能く微を聽き疑を決すと爲す、故に臣に任ずるに理を以てせり。

● 綬は受也、印環をつる〻紐なり

今離刻深不レ顧二仁義一。信二文墨一不レ察二是非一。

今離、刻深にして、仁義を顧みず。文墨を信じて、是非を察せず。他の辭を聽きて、事實を精しうせず。無罪を掠服し、百姓をして怨みしむ。天下之を聞かば

聽他辭。不精事實。掠服無罪。使百姓怨。天下聞之。必議吾君。諸侯聞之。必輕吾國。怨積於百姓。惡揚於天下。權輕於諸侯。如臣之罪。是當重死。文公曰。吾聞之也。直而不枉。不可與往。方而不圓。不可與長存。願子以此聽寡人也。李離曰。君以所私害公法。殺無罪而

必ず吾君を議せん。諸侯之を聞かば、必ず吾國を輕んぜん。怨、百姓に積み、惡、天下に揚げ、權、諸侯に輕し。臣が罪の如きは、是れ當に重死すべしと。文公曰く、吾れ之を聞く、直にして枉らずんば、與に往くべからず、方にして圓ならずんば、與に長く存すべからずと。願はくは子、此を以て寡人に聽けと。李離曰く、君、所私を以て公法を害し、無罪を殺して當死を生かす。二つの者は、國に教ふる所以に非ざるなり。離敢へて命を受けずと。文公曰く、子獨り管仲が人臣たるを聞かずや。身辱められて君肆なり。行汚れて覇成れりと。李離曰く、臣に管仲の賢なくして、辱汙の名あり。覇王の功なくして、鉤を射るの累あり。夫れ無能以て官に臨み、籍汙以て人を治む。君之に法を加ふるに忍びずと雖も、臣も亦敢へて官を汙し治を亂して、以て生きず。臣、命を聞けりと。遂に劒に伏して死せり。

一　死罪に當れるものを死罪に行はず

生ニ當死ー。二者非ㇾ所三以教ニ於國ー也。離不ニ敢受ヒ命。文公曰。子獨不ㇾ聞三管仲之爲ニ人臣ー邪。身辱而君肆。行汙而霸成。李離曰。臣無ニ管仲之賢ー而有ニ辱汙之名ー。無ニ霸王之功ー而有ニ射鉤之累ー。夫無能以臨ㇾ官。籍汙以治ㇾ人。君雖ㇾ不ㇾ忍ㇾ加ニ之於法ー。臣亦不ニ敢汙ㇾ官亂ㇾ治以生ー。臣聞ㇾ命矣。遂伏ㇾ劍而死。

晉文公反ㇾ國。酌ニ士大夫酒ー。召ニ咎犯ー而將ㇾ之。召ニ艾陵ー而相ㇾ之。授ニ田百萬ー。介子推無ㇾ爵。齒而就ㇾ位。觴三行。介子推奉ㇾ觴而起曰。有ㇾ龍矯矯。將失ニ其所ー。有ㇾ蛇從ㇾ之。周ニ流天下ー。龍既入ニ深淵ー。得ニ其安所ー。蛇脂盡乾。

晉の文公、國に反り、士大夫に酒を酌す。咎犯を召して之を將とし、艾陵を召して之を相とす。田百萬を授く。介子推に爵なし。齒して位に就く。觴三行す。介子推、觴を奉じて起ちて曰く、龍あり、矯矯たり。將に其所を失す。蛇あり、之に從ふ。天下に周流す。龍既に深淵に入り、其安所を得たり。蛇脂盡く乾く、獨り甘雨を得ず。此れ何の謂ぞと。文公曰く、嘻、是れ寡人の過なり。吾れ子が爲に爵せん。旦の朝を待て。吾れ子が爲に田せん。河の東陽の間と。介子推曰く、推聞く、君子の道は、謁して位を得ば、道士は居らざるなり。爭ひて財を得ば、廉士は受けずと。文公曰く、我をして國に反るを得しめしものは子なり。吾れ將に以て子が名を成さんとすと。介子推曰く、推聞く、君子の道

獨不レ得二甘雨一。此何謂也。文公曰。嘻是寡人之過也。吾爲レ子爵與。待二旦之朝一也。吾爲レ子田與。河東陽之間。介子推曰。推聞。君子之道。謁而得レ位。道士不レ居也。爭而得レ財。廉士不レ受也。文公曰。使二我得一レ反レ國者子也。吾將以成二子之名一。介子推曰。推聞君子之道。爲二人子一而不レ能レ承二其父一者。則不三敢當二其後一。爲二人臣一而不レ見レ祭二於其君一者。則不三敢立二於其朝一。然推亦無レ索二於天下一矣。遂去而之二介山之上一。文公使二人求一レ之不レ得。爲レ之避レ寢三月。號呼朞年。詩曰。逝將去レ汝。適二彼樂郊一。適二彼樂郊一。誰之永號。此之謂也。文

は人の子と爲りて、其父に承くること能はざる者は、則ち敢へて其後に當らず。人の臣となりて、其君に祭せられざる者は、則ち敢へて其朝に立たずと。然れども、推も亦天下に索むることなしと。遂に去りて、介山の上に之く。文公、人をして之を求めしむ。得ず、之が爲に寢を避くること三月、號呼すること朞年なり。(四)詩に曰く、逝きて將に汝を去て、彼の樂郊に適かん。彼の樂郊に適かん。誰か之れ永ひ號ばんとは、此の謂なり。(五)文公之を待つに、肯へて出でず、之を求むるに得ること能はず。以謂へらく、其山を焚かば、宜しく出づべしと。其山を焚くに及びて、遂に出でずして焚死せり。

(一) 文公の微臣 (二) 高く翔る貌、龍は文公にたとふ (三) 蛇に同じ、自らにたとふ (四) 詩經魏風碩鼠篇 (五) 歌也

公待レ之不ニ肯出一。求レ之不レ能レ得。以謂焚ニ其山一宜レ出。及レ焚ニ其山一。遂不レ出而焚死。

申徒狄非ニ其世一。將ニ自投ニ於河一。崔嘉聞而止レ之曰。吾聞。聖人仁士之於ニ天地之間一。民之父母也。今爲レ濡レ足之故。不レ救ニ溺人一。可乎。申徒狄曰。不レ然。昔者桀殺ニ關龍逢一。紂殺ニ王子比干一。而亡ニ天下一。呉殺ニ子胥一。陳殺ニ洩冶一而滅ニ其國一。故亡レ國殘レ家。非ニ聖智一也。不レ用故也。遂負レ右沈ニ於河一。君子聞レ之曰。廉矣乎。如ニ仁與ヒ智吾未レ見也。詩曰。天實爲レ之。謂ニ之何一哉。此之謂也。

申徒狄、其世を非とす。將に自ら河に投ぜんとす。崔嘉、聞きて之を止めて曰く、吾れ聞く、聖人・仁士の天地の間に於ける、民の父母なりと。今足を濡すが爲の故に、溺人を救はざるは可ならんやと。申徒狄曰く、然らず。昔者桀、關龍逢を殺し、紂、王子比干を殺して、天下を亡へり。呉は子胥を殺し、陳は洩冶を殺して、其國を滅せり。故に國を亡し家を殘ふは、聖智を非とし、用ひざるが故なりと。遂に石を負ひて河に沈む。君子之を聞きて曰く、廉なるかな。仁と智との如きは吾れ未だ見ざるなりと。(一)詩に曰く、(二)天實に之を爲す、之を何とか謂はんやとは、此の謂なり。

(一) 詩經邶風北門篇　(二) 自ら之を天下に決歸するをいふ

齊大饑。黔敖爲ニ食於路一。以待ニ饑者一而食レ之。有ニ餓者一蒙レ袂接レ履。貿貿然來。黔敖左奉レ食右執レ飲曰。嗟來食。餓者揚ニ其目一而視レ之曰。予唯不レ食ニ嗟來之食一。以至ニ於此一也。從而謝焉。終不レ食而死。曾子聞レ之曰。微與。其嗟也可レ去。其謝也可レ食。

齊、大に饑う。黔敖、食を路に爲し、以て饑者を待ちて之を食ふ。餓うる者あり、(一)袂を蒙り履を接し、(二)(三)貿貿然として來る。黔敖、左に食を奉じ、右に飲を執りて曰く、嗟、來りて食へと。餓ゑし者、其目を揚げて之を視て曰く、予は唯だ嗟來の食を食はず、以て此に至れるなりと。(五)從ひて謝す。終に食はずして死せり(四)曾子之を聞きて曰く、(六)微かれ。其嗟なるや、去るべし。其謝なるや、食ふべしと。

(一)見らるゝを欲せざる也　(二)力のつかれてはく能はざるをいふ　(三)目明ならざる貌　(四)非禮の態度にて食物を進むること　(五)就きて其非禮を謝す　(六)無也。その狂狷なるを止むる辭

東方有レ士曰ニ袁族目一。將有レ所レ適。而饑ニ於道一。孤父之盜丘人也。見レ之

東方に士あり、袁族目と曰ふ。將に適く所あらんとして、道に饑う。(一)孤父の盜丘といふ人、之を見、壺餐を下して以て之に與ふ。袁族目、三餔して能く視、仰いで問いて曰く、子は誰ぞと。曰く、我は孤父の盜丘といふ人なりと。袁族目

下二壺餐一以與レ之。爰族目三餔而能視。仰而問焉曰。子誰也。曰。我孤父之盜丘人也。爰族目曰。譆汝乃盜也。何爲而食レ我。以二吾不ヒ食也。兩手據レ地而歐レ之不レ出。喀喀然遂伏レ地而死。縣名爲二勝母一。曾子不レ入。邑號二朝歌一。墨子回レ車。故孔子席不レ正不レ坐。割不レ正不レ食。不レ飮二盜泉之水一。積レ正也。族目不レ食而死。潔之至也。

曰く、譆、汝は乃ち盜なり。何爲れぞ我に食はすに、吾が食はざるを以てするかと。兩手、地に據りて之を歐くに出でず。喀喀然として、遂に地に伏して死せり。縣の名を勝母と爲せば、曾子入らず、邑を朝歌と號すれば、墨子、車を回す。故に孔子は、(三)席正しからざれば坐せず。割く正しからざれば食はず。(四)盜泉の水を飮まざるは、正を積むなり。族目の食はずして死せるは、潔の至なり。

(一) 列子・呂氏春秋には、孤父の人丘につくる (二) 吐く聲 (三) 論語鄕黨篇の語 (四) 孔子、盜泉を過ぎる。渴せり。飮まず。其名を惡みし也

鮑焦衣弊膚見。挈レ畚將レ蔬。遇二子贛於道一。子贛曰。吾子何以至レ此也。

鮑焦、衣弊れ膚見ゆ。(一)畚を挈げ(二)蔬を將ち、子贛に道に遇ふ。子贛曰く、吾子は、何を以て此に至れると。焦曰く、天下の、德教を遺るゝ者衆し。吾れ何を以て、此に至らざらん。吾れ之を聞く、世、己を知らず、而るに之を行ひて已まざ

焦曰。天下之遺二德敎一者衆矣。吾何以不レ至二於此一也。吾聞レ之。世不二已知一。而行レ之不レ已者。是爽レ行也。上不二己知一。而干レ之不レ止者。是毀レ廉也。行爽廉毀。然且不レ舍。惑二於利一者也。子贛曰。吾聞レ之。非二其世一者。不レ生二其利一。汙二其君一者。不レ履二其土一。今吾子汙二其君一。而履二其土一。非二其世一而將二

る者は、是れ行に爽へるなり。上、己を知らず、而るに之を干めて止まらざる者は、是れ廉を毀るなり。行(三)爽ひ廉毀るれども、然も且つ舍かざるは、利に惑へる者なりと。子贛曰く、吾れ之を聞く、其世を非とする者は、其利に生きず、其君を汙とする者は、其土を履まずと。今吾子、其君を汙として其土を履み、其世を非りて其蔬を將つ、此れ誰が有ぞやと。鮑焦曰く、嗚呼吾れ聞く、賢者は進むことを重んじて退くことを輕んじ、廉者は醜を易りて死を輕んずと。乃ち其蔬を弃てて立ち、洛水の上に(四)槁死す。君子之を聞きて曰く、廉なるかな、剛や。夫れ山銳ければ則ち高からず、水狹ければ則ち深からず。行の特なる者は、其德厚からず。志、天地と(五)疑る者は、其の人と爲り不祥なりと。鮑子は不祥なりと謂ふべし。其節度淺深、適至して止む。詩に曰く、已んぬるかな。天實に之を爲す。之を何とか謂ふやと。

(一) もつて　(二) 取也　(三) 爽は差也、たがふ　(四) 枯也　(五) 擬と通ず

其蔬一。此誰之有哉。鮑焦曰。嗚呼。吾聞。賢者重レ進而輕レ退。廉者易レ醜而輕レ死。乃弃ニ其蔬一而立。槁ニ死於洛水之上一。君子聞レ之、曰。廉夫剛哉。夫山銳則不レ高。水狹則不レ深。行特者其德不レ厚。志與ニ天地一疑者。其爲レ人不祥。鮑子可レ謂ニ不祥一矣。其節度淺深。適至而止矣。詩曰。已焉哉。天實爲レ之。謂ニ之何一哉。

公孫杵臼程嬰者。晉大夫趙朔客也。晉趙穿弒ニ靈公一。趙盾時爲ニ貴大夫一。亡不レ出レ境。還不レ討レ賊。故春秋責レ之。以レ盾爲レ弒レ君。屠岸賈者。幸ニ於靈公一。晉景公時賈爲ニ司寇一。欲レ討ニ靈公之賊一。盾已死。欲レ誅ニ盾之子

公孫杵臼程嬰は、晉の大夫趙朔の客なり。晉の趙穿、靈公を弑す。趙盾時に貴大夫たり。亡げて境を出でず、還りて賊を討たず。故に春秋に之を責め、盾を以て君を弑すと爲す。屠岸賈といふ者、靈公に幸せらる。晉の景公の時に、賈、司寇たり。靈公の賊を討たんと欲す。盾已に死す。盾が子趙朔を誅せんと欲して、偏く諸將に告げて曰く、盾は知らずと雖も、猶ほ首賊たり。賊臣、君を弑す、子孫の朝に在るは、何を以て罪を懲さん。請ふ、之を誅せんと。韓厥曰く、靈公の賊に遇ひしとき、趙盾、外に在り。吾が先君以て罪なしと爲す。故に誅せず。今諸君將に妄に誅す。妄に誅する、之を亂臣と謂ふ、大事ありて、君聞かず、是れ君を無みするなりと。屠岸賈聽かず、韓厥、趙朔に告げ、趣に亡げしむ。趙朔肯

趙朔。偏告諸將曰。盾雖不知。猶爲首賊。賊臣弑君。子孫在朝。何以懲罪。請誅之。韓厥曰。靈公遇賊。趙盾在外。吾先君以爲無罪。故不誅。今諸君將妄誅。妄誅謂之亂臣。有大事君不聞。是無君也。屠岸賈不聽。韓厥告趙朔。趣亡。趙朔不肯曰。子必不絶趙祀。予死不恨。

ぜずして曰く、子必ず趙祀を絶たずんば、予死すとも恨みずと。韓厥許諾す。疾と稱して出でず、賈請はずして、擅に諸將と趙氏を下宮に攻め、趙朔・趙同(二)趙括・趙嬰齊を殺し、皆其族を滅す。趙朔が妻は、成公の姊なり。(三)遺腹あり。公宮に走りは匿る。公孫杵臼、程嬰に謂ふ。胡ぞ死せざると。嬰曰く、朔の妻に遺腹あり。若し幸にして男たらば、吾れ之を奉ぜん。即し女たらば、吾れ徐に死せんのみと。何もなくして、朔が妻免す。(四)男を生めり。屠岸賈之を聞き、宮に索む。朔が妻、兒を袴中に置き、祝して曰く、趙宗滅びんか。若號け、即し滅びずんば、若聲くことなかれと。索むるに及びて、兒竟に聲くなし。已に脱す。程嬰、杵臼に謂つて曰く、今一索して得ずとも、後に必ず且つ之を復せん。奈何と。杵臼曰く、孤を立つると死すると、孰れか難きと。嬰曰く、孤を立つる亦難きのみと。杵臼曰く、趙氏の先君、子を遇すること厚し。子は強ひて其難き者を爲せよ。吾は其易き者を爲さん。吾れ請ふ、先づ死せんと。

韓厥許諾。稱疾不出。賈不請而擅與諸將攻趙氏於下宮。殺趙朔趙同趙括趙嬰齊。皆滅其族。趙朔妻成公姊。有遺腹。走公宮匿。公孫杵臼謂程嬰。胡不死。嬰曰。朔之妻有遺腹。若幸而男。吾奉之。卽女也。吾徐死耳。無何而朔妻免。生男。屠岸賈聞之。索於宮。朔妻置兒袴中。祝曰。趙宗滅乎若號。卽不滅乎若無聲。及索兒竟無聲。已脫。程嬰謂杵臼曰。今一索不得。後必且復之。奈何。杵臼曰。立孤與死孰難。嬰曰。立孤亦難耳。杵臼曰。趙氏先君遇子厚。子强爲其難者。吾爲其易者。吾請先死。而二人謀取他嬰兒。負以文褓。匿山中。嬰謂諸將曰。嬰不肖不能立孤。誰能與吾千金。吾告趙氏孤處。諸將皆喜許之。發師隨嬰攻杵臼。杵臼曰。小人哉程嬰。

㊀ 韓厥の玄孫、子鎭の子、獻子也 ㊁ 趙括・趙嬰齊は、共に趙盾の異母弟 ㊂ 父歿して後生るゝをいふ ㊃ 娩と通ず、子を生む也

而して二人謀りて、他の嬰兒を取りて、負ふに文褓を以てし、山中に匿る。嬰、諸將に謂つて曰く、嬰不肖、孤を立つること能はず。誰か能く吾に千金を與へん。吾れ趙氏の孤の處を告げんと。諸將皆喜んで之を許す。師を發して、嬰に隨つて杵臼を攻む。杵臼曰く、小人なるかな、程嬰。下宮の難に死すること能はず。我と謀りて趙氏の孤兒を匿す。今又之を賣る。縱ひ孤兒を立つること能はずとも、之を賣るに忍びんや。抱いて天に呼ばんか。趙氏の孤兒、何の罪かある。請ふ、之を活して獨り杵臼を殺せと。諸將許さず。遂に幷せて杵臼と兒とを殺す。諸將

下宮之難。不レ能レ死。與レ我謀匿二趙氏孤兒一。今又寶レ之。縱不レ能レ立二孤兒一。忍レ寶レ之乎。抱而呼レ天乎。趙氏孤兒何罪。請活レ之獨殺二杵臼一也。諸將不レ許。遂幷殺二杵臼與レ兒。諸將以爲趙氏孤兒已死。皆喜。然趙氏眞孤兒乃在。程嬰卒與俱匿二山中一。居十五年。晉景公病。卜レ之。大業之冑者爲レ祟。景公問二韓厥一。韓厥知二趙孤存一。乃曰。大業之後在レ晉。絕レ祀者。其趙氏乎。夫自二中行衍一。皆嬴姓也。中行衍。人面鳥喙。降佐二帝大戊一。及二周天子一。皆有二明德一。下及二幽厲無道一。而叔帶去レ周適レ晉。事二先君繆侯一。至二于成公一。世有二立功一。未二嘗絕一レ祀。今及二吾君一。獨滅レ之。趙宗國人哀レ之。故見二龜筴一。唯君圖レ之。

以爲へらく、趙氏の孤兒已に死すと。皆喜ぶ。然れども、趙氏の眞の孤兒は乃ち在り。程嬰卒に與に俱に山中に匿る。居ること十五年、晉の景公(二)病む。之を卜すれば、大業の冑なる者、祟を爲すと。景公、韓厥に問ふ。韓厥、趙の孤の存するを知り、乃ち曰く、大業の後、晉に在り。祀を絕つ者は、夫れ趙氏か。夫れ中行衍より、皆嬴姓なり。中行衍は、人面鳥喙(三)、(四)降りて帝大戊を佐く。周の天子に及び、皆明德あり。下、幽厲が無道に及びて、叔帶、周を去りて晉に適き、先君繆侯に事へ、成公に至る。世〻立功あり。未だ嘗て祀を絕たず。今吾君に及びて、獨り之を滅す。趙宗をば、國人之を哀む。故に龜筴に見る。唯だ君之を圖れと。

(一) 模樣ある小兒の衣服　(二) 名は據、成公の子　(三) 喙に同じ、くちばし　(四) 嬴氏、秦と祖を同じうす。中衍に至り、帝大戊の御となる

景公問。趙尚有二後子孫一乎。韓厥具以レ實告。景公乃與二韓厥一謀立二趙孤兒一。召匿二之宮中一。諸將入問レ病。景公因二韓厥之衆一。以脅二諸將一。而見二趙孤兒一。孤兒名武。諸將不レ得レ已乃曰。昔下宮之難。屠岸賈爲レ之。矯以二君命一。幷命二羣臣一。非レ然。孰敢作レ難。微二君之病一。羣臣固將レ請レ立二趙後一。

景公問ふ、趙は尚ほ後の子孫あるかと。韓厥、具に實を以て告ぐ。景公乃ち韓厥と謀りて、趙の孤兒を立てんとし、召して之を宮中に匿す。諸將入りて病を問ふ。景公、韓厥の衆に因りて、以て諸將を脅して、趙の孤兒を見しむ。孤兒名は武。諸將、已むことを得ずして、乃ち曰く、昔下宮の難に、屠岸賈之を爲せり。矯りて君命を以て、幷せて羣臣に命ず。然るに非ずんば、孰か敢へて難を作さん。君の病微くとも、羣臣固より將に趙の後を立つるを請はんとす。今君、命あり。羣臣之を願ふと。是に於て、趙氏を召し、程嬰遍く諸將を拜す。遂に俱に程嬰趙氏と、屠岸賈を攻めて、其族を滅す。復た趙氏に田邑を與ふること、故の如し。趙武、冠して成人と爲る。程嬰乃ち大夫を辭す。趙武に謂つて曰く、昔下宮の難に、皆能く死せり。我れ死すること能はざるに非ず。趙氏の後を立てんことを思ひてなり。今子旣に立ちて成人と爲れり。趙宗、故に復せり。我れ將た趙孟と、公孫杵臼とに報ぜざらんやと。趙武號泣し、固く請ひて曰く、武願はくは筋骨を苦

今君有レ命。羣臣願レ之。於レ是召二趙氏一。程嬰徧拜二諸將一。遂俱與二程嬰趙氏一攻二屠岸賈一。滅二其族一。復與二趙氏田邑一如レ故。趙武冠爲二成人一。程嬰乃辭二大夫一。謂二趙武一曰。昔下宮之難。皆能死。我非レ不レ能レ死。思レ立二趙氏後一。今子既立爲二成人一。趙宗復レ故。我將レ不レ報二趙孟與二公孫杵臼一。趙武號泣。固請曰。武願苦二筋骨一以報レ子至レ死。而子忍二棄レ我死一乎。程嬰曰。不可。彼以レ我爲二能成一レ事。故皆先レ我死。今我不二下報一レ之。是以二我事一爲レ不レ成也。遂自殺。趙武服レ衰三年。爲二祭邑一。春秋祠レ之。世不レ絕。君子曰。程嬰公孫杵臼。可レ謂二信交厚士一矣。嬰之自殺下報亦過矣。

めて、以て子に報じて死に至らん。而るを子、我を棄てて死するに忍びんやと。程嬰曰く、不可なり。彼、我を以て能く事を成すと爲す。故に皆我に先だちて死せり。今我れ下、之に報ぜずんば、是れ我事を以て、成さずと爲さんと。遂に自殺す。趙武、衰に服すること三年、祭邑を爲りて、春秋に之を祠る。世々絕えず。君子曰く、程嬰・公孫杵臼は、信交の厚士と謂ふべし。嬰が自殺下報は、亦過てり。

(一) 趙盾也　(二) 喪服を着て喪に服する也

吳有レ士。曰二張胥鄒。譚夫吾一。前交而後絕。

吳に士あり、張胥鄒・譚夫吾と曰ふ。前に交りて後に絕ゆ。張胥鄒罪あり。拘はれて將に死せんとす。譚夫吾、徒を合して之を取り、出でて道に至りて、後

張胥鄙有レ罪。拘將レ死。譚夫吾合レ徒而取レ之。出至二於道一。而後乃知二其夫吾一也。輟レ行而辭曰。義不レ同二於子一。故前交而後絶。吾聞レ之。君子不二爲レ危易一レ行。今吾從レ子。是安則肆レ志。危則易レ行也。與二吾因レ子而生一。不レ若反拘而死。闔閭聞レ之。令二吏釋一レ之。張胥鄙曰。吾義不レ同二於譚夫吾一。

に乃ち其の夫吾なるを知るや、行を輟めて辭して曰く、義、子に同じからず、故に前に交りて後に絶てり。吾れ之を聞く、君子は危きが爲に行を易へずと。今吾れ子に從はば、是れ安には則ち志を肆にし、危には則ち行を易ふるなり。吾れ子に因りて生きんよりは、若かず、反つて拘へられて死せんにはと。闔閭之を聞き、吏をして之を釋さしむ。張胥鄙曰く、吾れ義、譚夫吾に同じからず。故に其任を受けず。今吏、是を以て我を出せば、譚夫吾を以ての故に免れしなり。吾れ庸ぞ遽に之を受けんやと。遂に墻に觸れて死せり。譚夫吾之を聞きて曰く、我れ任じて受けざるは佞なり。知らずして之を出すは愚なり。佞は以て士に接すべからず。愚は以て君に事ふべからず。吾が行虛し。人、吾力を以て生くるを惡む。吾も亦此を以て世に立つことを恥づと。乃ち頸を絶ちて死せり。君子曰く、譚夫吾は、其れ以て士を失せり。張胥鄙も亦未だ得たりと爲さざるなり。剛勇と謂ふべし。未だ節を得たりと謂ふべからざるなり。

故不レ受二其任一矣。今吏以レ是出レ我。以二譚夫吾一故免也。吾庸遽受レ之乎。遂觸レ墻而死。譚夫吾聞レ之曰。我任而不レ受。佞也。不レ知而出レ之。愚也。佞不レ可二以接一レ士。愚不レ可二以事一レ君。吾行虛矣。人惡下以二吾力一生上。吾亦恥三以レ此立二於世一。乃絕レ頸而死。君子曰。譚夫吾其以失レ士矣。張胥鄙亦未レ爲レ得也。可レ謂二剛勇一矣。未レ可レ謂レ得レ節也。

一、故也、意のまゝに振舞ふをいふ

蘇武者故右將軍平陵侯蘇建子也孝武皇帝時以レ武爲二移中監一。使二匈奴一。是時匈奴使者數降レ漢故匈奴亦欲二降レ武以取レ當。單于使二貴人故漢人衞律說一レ武。武不レ從。乃設以二

蘇武は故の右將軍平陵侯蘇建が子なり。(一)孝武皇帝の時に、武を以て移中監と爲す。(二)匈奴に使す。是の時に、匈奴の使者、數ば漢に降る。故に匈奴も亦武を降して、以て當を取らんと欲す。單于、貴人故の漢人衞律(三)をして、武に說かしむ。武從はず、乃ち設くるに、貴爵・重祿・尊位を以てす。終に聽かず。是に於て、律絕えて(四)飲食を與へず。武數日降らず。又盛暑に當りて、旃厚衣を以て幷束し、三日曝す。武が心意愈〻堅し、終に屈撓せず、稱して曰く、臣の君に事ふるは、子の父に事ふるが由きなり。子は父の爲に死し、恨むる所なしと。節を守りて移らず。鐵鉞湯鑊(五)の誅ありと雖も、而も懼れざるなり。尊官顯位も、而も榮

貴爵重祿尊位。終不聽於是。律絕不與飲食。武數日不降。又當盛暑。以旃厚衣幷束三日暴。武心意愈堅。終不屈撓。稱曰。臣事君由子事父也。子爲父死。無所恨。守節不移。雖有鐵鉞湯鑊之誅。而不懼也。尊官顯位而不榮也。匈奴亦由此重之。武留十餘歲。竟不降下。可謂守節臣矣。詩云。我心匪石。不可轉也。我心匪席。不可卷也。蘇武之謂也。匈奴紿言武死。其後漢聞武在。使使者求武。匈奴欲慕義歸武。漢尊武以爲典屬國。顯異於他臣也。

とせざるなり。匈奴も亦此に由りて之を重んず。武、留ること十餘歲、竟に降下せず。守節の臣と謂ふべし。詩に云ふ、(六)我心、石に匪ず、轉がすべからず。我心、席に匪ず、卷くべからずとは、蘇武の謂なり。匈奴紿き言ふ、武死すと。其後、漢、武在りと聞きて、使者をして武を求めしむ。匈奴、義を慕はんと欲して武を歸す。漢、(七)武を尊んで、以て典屬國(八)と爲し、他臣に顯異せり。

㊀蘇建は杜陵の人、武字は子卿、建の中子 ㊁移中は厩の名、之が監たりし也 ㊂父はもと長水胡の人、律生れて漢に生ぜし也 ㊃武を幽して大窖中に置きし也 ㊄鼎の大にして足なきを鑊といふ ㊅前に注せり ㊆漢の宣帝位につき、武を尊んで一日と十五日とに朝せしめ、號して祭酒と稱し甚だ之を寵せり ㊇蠻夷屬國をつかさどる官

陳恆弑二簡公一而盟。盟者皆完二其家一。不レ盟者殺レ之。石他人曰。昔之事二其君一者。皆得二其君一而事レ之。今謂二他人一曰。舍二而君一而事レ我。他人不レ能。雖レ然不レ盟則殺二父母一也。從而盟。是無二君臣之禮一也。生二於亂世一。不レ得二正行一。劫二於暴上一。不レ得二道義一。故雖レ盟不下以二父母之死一。不レ如三退而自殺以禮二其君一。乃自殺。

巻第八

義勇第八

(一)陳恆、(二)簡公を弑して盟ふ。盟ふ者は皆其家を完うし、盟はざる者は之を殺す。石他人曰く、昔の其君に事ふる者は、皆其君を得て之に事ふ。今他人に謂つて曰く、而の君を舍てて我に事へよと。他人は能はず。然りと雖も、盟はざれば則ち父母を殺すと。從つて盟はば、是れ君臣の禮を無みするなり。亂世に生れて正行を得ず。暴上に劫されて、道義を得ず。故に盟ふに、父母の死を以てせずと雖も、退きて自殺し、以て其君を禮せんには如かずと。乃ち自殺せり。

(一) 字は子常、諡は成子、田乞の子 (二) 名は壬、悼公の子

陳恒弑君。使勇士六人劫子淵棲。子淵棲曰。子之欲與我。以我爲知乎。臣弑君非知也。以我爲仁乎。見利而背君。非仁也。以我爲勇乎。劫我以兵。懼而與子。非勇也。使吾無此三者與。何補於子。若吾有此三者。終不從子矣。乃舍之。

陳恒、君を弑せんとし、勇士六人をして、子淵棲を劫さしむ。子淵棲曰く、子の我を與せんと欲するは、我を以て知と爲すか。臣、君を弑するは、知に非ざるなり。我を以て仁と爲すか。利を見て君に背くは、仁に非ざるなり。我を以て勇と爲すか、我を劫すに兵を以てす、懼れて子に與するは勇に非ざるなり。吾をして此三者なからしめんか、何ぞ子に補あらん。若し吾に此三者あらば、終に子に從はずと。乃ち之を舍せり。

㊀兵器

宋閔公臣長萬。以勇力聞。萬與魯戰。師敗爲魯所獲。囚之宮中。數月歸之宋。宋

宋の閔公の臣長萬、勇力を以て聞ゆ。萬、魯と戰ひ、師敗れ、魯に獲られたり。之を宮中に囚ふ。數月にして之を宋に歸す。宋の閔公博す。婦人、側に在り。公、萬に謂つて曰く、魯君は、寡人の美に孰與ぞと。萬曰く、魯君は美なり。天下の諸侯は、唯だ魯君のみ。宜なり。其の君たるやと。閔公、婦人に矜る。妬ん

閔公博。婦人在側。公謂萬曰。魯君孰與寡人美。萬曰。魯君美。天下諸侯。唯魯君耳。宜其爲君也。閔公矜婦人。妬因言曰。爾魯之囚虜。爾何知。萬怒。遂搏閔公頰。齒落於口。絕吭而死。仇牧聞君死。趨而至。遇萬於門。攜劍而叱之。萬臂擊仇牧而殺之。齒著於門闔。仇牧可謂不畏彊禦矣。趨君之難。顧不旋踵。

で因つて言つて曰く、爾は魯の囚虜、爾何をか知らんと。萬怒る。遂に閔公の頰を搏つ。齒、口より落ち、吭を絕ちて死す。仇牧、君の死を聞き、趨りて至り、萬に門に遇ふ。劍を攜へて之を叱す。萬、臂にて仇牧を擊ちて之を殺す。齒、門闔に著く。仇牧は、彊禦を畏れずと謂ふべし。君の難に趨くに、顧みて踵を旋さず。

(一) 名は捷、莊公の子　(二) 氏は南宮、名は萬、宋の卿　(三) 闔は扉なり、とびら

崔杼弒莊公。令士大夫盟者。皆脫劍而入。言不疾。指不至血者死。所殺十人。次

崔杼、莊公を弒す。士大夫の盟ふ者をして、皆劍を脫して入らしむ。言疾からず、指、血に至らざる者は死す。殺す所十人、次いで晏子に及ぶ。晏子、杯血を奉じ、天を仰いで歎じて曰く、惡なるかな、崔子將に無道を爲して、其君を弒すと。盟ふ者皆之を視る。崔杼、晏子に謂つて曰く、子、我に與せば、我れ、子と國

及二晏子一。晏子奉二杯血一仰レ天歎曰。惡乎崔子將爲二無道一殺二其君一。盟者皆視レ之。崔杼謂二晏子一曰。子與レ我。我與レ子分レ國。子不二吾與一。吾將殺レ子。直兵將推レ之。曲兵將勾レ之。唯子圖レ之。晏子曰。嬰聞。回以レ利。而背二其君一者。非レ仁也。劫以レ刃。而失二其志一者。非レ勇也。詩云。愷悌君子。求レ福不レ回。嬰可レ謂レ不レ回矣。直兵推レ之。曲兵鈎レ之。嬰不二之回一也。崔子舍レ之。晏子趨出。授レ

を分たん。子、我に與せずんば、吾れ將に子を殺さん。直兵將に之を推し、(一)曲兵將に之を勾す。唯だ子之を圖れと。晏子曰く、嬰聞く、回(二)に利を以てして、其君に背く者は、仁に非ざるなり。劫すに刃を以てして、其志を失ふ者は、勇に非ざるなりと。(三)詩に云ふ、(四)愷悌の君子は、福を求むるに回ならずと。嬰は、回ならずと謂ふべし。直兵之を推し、曲兵之を鈎せよ。嬰は之れ回にせざるなりと。崔子之を舍せり。晏子趨り出づ。綏を授けて乘る。其僕將に馳せんとす。晏子、其手を拊ちて曰く、虎豹、山林に在り。其命、庖廚に在り。馳すとも生を益さず。緩くすとも死を益さずと。之を按ずるに節を成し、然る後に之を去る。(五)詩に云ふ、彼の之の子。命を舍てて渝らず(六)とは、晏子の謂なり。

(一) 直は矛也、ほこ　(二) 曲は戟也、ほこ　(三) 詩經大雅旱麓篇　(四) 樂易の君子は、福を求むるに邪道を以てせず、天性に順ひ、正直を以て大福を受くと也　(五) 詩經鄭風羔裘篇　(六) 渝は變也

綏而乘。其僕將馳。晏子撫其手曰。虎豹在山林。其命在庖廚。馳不益生。緩不益死。按之成節。然後去之。詩云。彼已之子。舍命不渝。晏子之謂也。

佛肸以中牟叛。置鼎於庭。致士大夫曰。與我者受邑。不與我者烹。大夫皆從之。至於田卑。田卑中牟之邑人也。曰義死不避斧鉞之罪。義窮不受軒冕之服。無義而生。不仁而富。不如烹。褰衣將就鼎。佛肸脫屨而生之。趙氏聞

佛肸、中牟を以て叛く。鼎を庭に置き、士大夫を致して曰く、我に與する者は邑を受け、吾に與せざる者は烹んと。大夫皆之に從ふ。田卑に至る。田卑は、中牟の邑人なり。曰く、義には死すとも斧鉞の罪を避けず、義には、窮すとも軒冕の服を受けず。義なくして生き、仁ならずして富むは、烹らるゝに如かずと。衣を褰げて將に鼎に就かんとす。佛肸、屨を脫して之を生せり。趙氏、其の叛くを聞くや、攻めて之を取り、田卑、與するを肯せずと聞くや、求めて之を賞す。田卑曰く、不可なり。一人擧りて、萬夫首を俛すは、智者は爲さゞるなり。一人を賞して、以て萬夫を慙むるは、義者は取らざるなり。我れ賞を受けて中牟の士をして恥を懷かしむるは義ならず。賞を辭して從つて處りて、行を以て人に臨むと曰ふは道ならず。吾れ去らんと。遂に南のかた楚に之けり。

● 晉の大夫、趙簡子の邑宰

其叛也。攻而取之。聞田卑不肯與也。求而賞之。田卑曰。不可也。一人擧而萬夫俛首。智者不爲也。賞一人以慙萬夫。義者不取也。我受賞。使中牟之士懷恥不義。辭賞從處曰。以行臨人不道。吾去矣。遂南之楚。

楚太子建以費無極之讒見逐。建有子曰勝。在外。子西召勝使治白。號曰白公。勝怨楚逐其父。將弑惠王及子西。欲得易甲。陳士勒兵。以示易甲曰。與我無患不富貴。不吾與則此是也。易甲笑曰。嘗言吾義矣。吾子忘之乎。立

楚の太子建(一)、費無極(二)の讒を以て逐はる。建に子あり、勝と曰ふ。外に在り。(三)子西、勝を召し、白(四)を治めしむ。號して白公(五)と曰ふ。勝、楚の其父を逐ふを怨み、將に惠王及び子西を弑せんとす。(六)易甲を得んと欲し、士を陳し兵を勒して、以て易甲に示して曰く、我に與せば、富貴ならざるを患ふるなく、吾に與せざれば則ち此是れなりと。易甲笑ひて曰く、嘗て吾を義なりと言へり。吾子之を忘れしか。立ろに天下を得とも、義ならざるは、吾れ取らざるなり。吾を威すに兵を以てすとも、義ならざるは吾は從はざるなり。今子將に子が君を弑せんとして、我をして子に從はしむ。吾が前義に非ざるなり。子、吾に告ぐるに利を以てし、我を威すに兵を以てすと雖も、吾は爲すに忍びざるなり。子は子が威を行へば、則ち吾も亦吾義を明にするを得。子に逆ふに兵を以てするは爭なり。子に應ずるに

得二天下一。不レ義吾不レ取也。威レ吾以レ兵。不レ義吾不レ從也。今子將レ弑二子之君一。而使二我從一レ子。非二吾前義一也。子雖下告レ我以レ利威上レ我以レ兵。吾不レ忍レ爲也。子行二子之威一。則吾亦得レ明二吾義一也。逆レ子以レ兵。爭也。應レ子以レ辭。鄙也。吾聞士立レ義不レ爭。行レ死不レ鄙。拱而待レ兵。顏色不レ變也。

(七)辭を以てするは鄙なり。吾れ聞く、士は義を立てて、爭はず、(八)死を行ひて鄙せずと。拱して兵を待ち、顏色變ぜず。

(一)字は子木　(二)楚の大夫　(三)太子建の弟、勝の叔父　(四)楚の邑の名　(五)楚の邑の大夫は、皆公と稱す
(六)人の名　(七)名也　(八)死に臨むに同じ

白公勝將レ弑二楚惠王一。王出亡。令尹司馬皆死。拔レ劍而屬二之於屈廬一曰。子與レ我。將レ舍レ子。子不レ與レ我。必殺レ子。廬曰。子殺二叔父一。而求二福於廬一。

白公勝、將に楚の惠王を弑せんとす。王、出亡す。令尹司馬皆死す。劍を拔きて、之を屈廬に屬して曰く、子、我に與せば、將に子を舍さん。子、我に與せずんば、必ず子を殺さんと。廬曰く、子、叔父を殺して、福を廬に求む。可ならんや。吾れ聞く、(一)知命の士は、利を見て動かず。死に臨んで恐れずと。人臣たる者は、時の生くべくは、則ち生き、時の死すべくは則ち死す。是を人臣の禮と謂ふ。故に上は天命を知り、下は臣道を知る。其れ劫すべきあらんや。子

也。可乎。吾聞知命之士。見レ利不レ動。臨レ死不レ恐。爲二人臣一者。時生則生。時死則死。是謂二人臣之禮一。故上知二天命一。下知二臣道一。其有レ可レ劫乎。子胡不レ推レ之。白公勝乃内二其劍一。

胡ぞ之を推さざると。白公勝乃ち其劍を内れたり。

㊀ 天命を知れる士

白公勝既殺二令尹司馬一。欲下立二王子閭一以爲中王上。王子閭不レ肯。劫レ之以レ刃。王子閭曰。王孫輔二相楚國一。匡二正王室一。而后自庇焉。閭之願也。今子假レ威以暴二王室一。殺伐以亂二國家一。吾雖レ

白公勝既に令尹司馬を殺し、王子閭を立て、以て王と爲さんと欲す。王子閭肯ぜず。之を刦すに刃を以てす。王子閭曰く、王孫、楚國を輔相し、王室を匡正し、而して后に自庇す。閭が願なり。今子、威を假りて以て王室を暴し、殺伐以て國家を亂る。吾れ死すと雖も、子に從はざるなりと。白公勝曰く、楚國の重は、天下に有るなし。天以て子に與ふ。子何ぞ受けざると。王子閭曰く、吾れ聞く、天下を辭する者は、其利を輕んずるに非ざるなり。諸侯と爲らざる者は、其位を惡むに非ざるなり。以て其行を絜くせんとなりと。今吾れ國を見て主を忘るゝは、仁ならざるなり。白刃に刦されて義

死不二子從一也。白公勝曰。楚國之重。天下無レ有。天以與レ子。子何不レ受也。王子閭曰。吾聞辭二天下一者。非レ輕二其利一也。以明二其德一也。不レ爲二諸侯一者。非レ惡二其位一也。以絜二其行一也。今吾見レ國而忘レ主。不レ仁也。劫二白刃一而失レ義。不レ勇也。子雖レ告レ我以レ利。威レ我以レ兵。吾不レ爲也。白公強レ之。不レ可。遂殺レ之。葉公高率レ衆誅二白公一。而反二惠王於國一。

を失ふは、勇ならざるなり。子、我に告ぐるに利を以てし、我を威すに兵を以てすと雖も、吾れ爲さざるなりと。白公之を強ふ。可かず。遂に之を殺せり。葉公高、衆を率ゐて白公を誅し、而して惠王を國に反せり。

(一) 自分自身に庇護す

白公之難。楚人有二莊善者一。辭二其母一將二往死一レ之。其母曰。棄二其親一而死二其君一。可レ謂レ義乎。莊善曰。吾聞事レ君者。內二

白公の難に、楚人に莊善といふ者あり。其母に辭し、將に往きて之に死せんとす。其母曰く、其親を棄てて其君に死す、義と謂ふべけんやと。莊善曰く、吾れ聞く、君に事ふる者は、其祿を內にして其身を外にすと。今母を養ふ所以の者は君の祿なり。身安ぞ死するなきを得んやと。遂に辭して行る。公門に至る比、三たび車中に廢す。其僕曰く、子、懼るゝかと。曰く、懼ると。既に懼るれば何

其祿ニ而外ニ其身一。今所ニ以養レ母者。君之祿也。身安得レ無レ死乎。遂辭而行。比レ至ニ公門一。三廢ニ車中一。其僕曰。子懼矣。曰。懼。既懼何不レ返。莊善曰。懼者吾私也。死レ義吾公也。聞君子不ニ以レ私害レ公。及ニ公門一刎レ頸而死。君子曰。好レ義乎哉。

ぞ返らざると。莊善曰く、懼るゝは吾が私なり。義に死するは吾が公なり。聞く、君子は、私を以て公を害せずと。公門に及び、頸を刎ねて死せり。君子曰く、義を好めるかなと。

● わかれをつげて

齊崔杼弑ニ莊公一也。有ニ陳不占者一。聞ニ君難一將レ赴レ之。比レ去。餐則失レ匕。上レ車失レ軾。御者曰。怯如レ是。去有レ益乎。不占曰。死レ君義也。無レ勇私也。不ニ

齊の崔杼、莊公を弑す。陳不占といふ者あり。君の難を聞き、將に之に赴かんとす。去る比、餐すれば則ち匕(一)を失し、車に上れば軾を失す。御者曰く、怯なること是の如し。去(二)く。益あらんやと。不占曰く、君に死するは義なり。勇なきは私なり。私を以て公を害せずと。遂に往く。戰鬪の聲を聞き、恐駭して死す。人曰く、不占は、仁者の勇と謂ふべしと。

(一) さじ (二) 行也

以レ私害レ公。遂往。聞ニ戰鬪之聲一。恐駭而死。人曰。不占可レ謂ニ仁者之勇一也。

知伯嚚之時。有レ士曰ニ長兒子魚一。絕ニ知伯一而去レ之。三年將ニ東之レ越。而道聞ニ知伯嚚之見レ殺也。謂レ御曰。還レ車。反吾將レ死レ之。御曰。夫子絕ニ知伯一而去レ之三年矣。今反死レ之。是絕屬無レ別也。長兒子魚曰。不レ然。吾聞仁者無ニ餘愛一。忠臣無ニ餘祿一。吾聞ニ知伯之死而動吾心一。餘祿之加ニ於我一者。至レ今尚存。吾將往依レ之。反而死。

知伯嚚の時、士あり、長兒子魚と曰ふ。知伯を絕ちて之を去る。三年にして將に東のかた越に之かんとす。而して道に知伯嚚が殺さると聞くや、御に謂つて曰く、車を還せ。反つて吾れ將に之に死せんと。御曰く、夫子、知伯を絕つて之を去ること三年、今反つて之に死す、是れ絕と屬と別なきなりと。長兒子魚曰く、然らず。吾れ聞く、仁者は餘愛なく、忠臣は餘祿なしと。吾れ知伯の死を聞きて吾心を動かす。餘祿の我に加ふるもの、今に至りて尚ほ存す。吾れ將に往きて之に依らんと。反つて死せり。

一 車の御者

衞懿公有レ臣

衞の懿公に臣あり、弘演と曰ふ。遠く使して未だ還らず。狄人、衞を攻む。其

曰ニ弘演一。遠使未レ還。狄人攻レ衞。其民曰。君之所レ與ニ祿位一者鶴也。所レ富者宮人也。君使ニ宮人與レ鶴戰一。余焉能戰。遂潰而去。狄人追及ニ懿公於滎澤一殺レ之。盡食ニ其肉一。獨舍ニ其肝一。弘演至。報ニ使於肝一畢。呼レ天而號。盡レ哀而止。曰。臣請爲レ表。因自刺ニ其腹一。内ニ懿公之肝一而死。齊桓公聞レ之曰。衞之亡也以ニ無道一。今有レ臣若レ此。不レ可レ不レ存。於レ是救ニ衞於楚丘一。

民曰く、君の祿位を與ふる所の者は鶴なり。富す所の者は宮人なり。君、宮人と鶴とをして戰はしめよ。余焉ぞ能く戰はんと。遂に潰え(二)て去れり。狄人、追ひて懿公に滎澤に及びて之を殺し、盡く其肉を食ひ、獨り其肝を舍つ。弘演至りて、使を肝に報じ畢り、天を呼んで號び、哀を盡して止む。曰く、臣請ふ、表を爲さんと。因りて自ら其腹を刺し、懿公の肝を内れて死せり。齊の桓公之を聞きて曰く、衞の亡びしは、無道を以てなり。今、臣あること此の若し。存せざるべからずと。是に於て、衞を楚丘に救へり。

(一) 名は赤、惠公の子　(二) 衆の散じて流移すること、積水の潰ゆるがごとし、自ら壞るゝの象也

芊尹文者荊之歐ニ鹿彘一者也。司馬子期

芊尹文(一)は、荊の鹿彘を歐る者なり。司馬子期(二)、雲夢に獵す。旗の長を載せて地に拖く。芊尹文、劍を拔き、諸袗(三)に齊して之を斷つ。貳車、弓を韔(四)に抽き、矢

獵ニ於雲夢、載ニ旗之長ー拖レ地。芊尹文拔レ劍。齊ニ諸軫ー而斷レ之。貳車抽ニ弓於韔、援ニ矢於箭ー。引而未レ發也。司馬子期伏レ軾而問曰。吾有レ罪ニ於夫子ー乎。對曰。臣以ニ君旗拽レ地故也。國君之旗齊ニ於軫ー。大夫之旗齊ニ於軾ー。今子荊國有名大夫。而滅ニ三等ー。文之斷也。不ニ亦可ー乎。子期悅。載之ニ王所ー。王曰。吾聞有下斷ニ子之旗ー者上。其人安在、吾將レ殺レ之。子期以ニ文之言ー告。王悅。使ニ文爲ニ江南令ー。而大治。

を箭(五)に援き、引きて未だ發せざるなり。司馬子期、軾に伏して問ひて曰く、吾れ、夫子に罪あるかと。對へて曰く、臣、君の旗の地に拽くを以ての故なり。國君の旗は、軫に齊す。大夫の旗は、軾に齊す。今子は荊國有名の大夫にして、三(六)等を滅す。文が斷つや、亦可ならずやと。子期悅び、載せて王の所に之く。王曰く、吾れ聞く、子が旗を斷つ者ありと。其人安に在る。吾れ將に之を殺さんとすと。子期、文の言を以て告ぐ。王悅び、文をして江南の令たらしむ。而して大に治れり。

(一) 虞の人、山澤を掌る者　(二) 楚の平王の子、子西の弟、公子結、大司馬なり　(三) 軫は車の後の横木、王の旗は、游軫に至る、故にきりて之をとゝのへしなり　(四) 弓室也　(五) 盛し所箭也　(六) 禮に天子の旗は九刃、地に曳く、諸侯は七刃、軫に齊す。大夫は五刃、較に齊す。士は三刃、首に齊す

卞莊子好レ勇。養レ母。戰而三北。交遊非レ之。國君辱レ之。及二母死一。三年冬與レ魯戰。卞莊子請從。見二於魯將軍一曰。初與レ母處。是以三北。今母死。請塞レ責而神有レ所レ歸。遂赴レ敵。獲二一甲首一而獻レ之。曰。此塞二一北一。又入獲二一甲首一而獻レ之。曰。此塞二再北一。又入獲二一甲首一而獻レ之。曰。此塞二三北一。將軍曰。毋レ沒二爾家一宜レ止レ之。請爲二兄弟一。莊子曰。三北以養レ母也。是子道也。今

卞莊子(一)、勇を好む。母を養ひ、戰ひて三たび北ぐ。交遊之を非る。國君之を辱む。母の死に及び、三年の冬、魯と戰はんとす。卞莊子請ひて從ふ。魯の將軍を見て曰く、初め母と處る、是を以て三たび北げたり。今母死す。請ふ、責を塞ぎて神の歸する所あらんと。遂に敵に赴く。一甲首(二)を獲て之を獻ず。曰く、此れ一北を塞ぐと。又入りて一甲首を獲て之を獻ず。曰く、此れ再北を塞ぐと。又入り、一甲首を獲て之を獻ず。曰く、此れ三北を塞ぐと。將軍曰く、爾が家を沒ること毋れ。宜しく之を止むべし。請ふ、兄弟と爲らんと。莊子曰く、三北は以て母を養へるなり。是れ子の道なり。今士節小しく具りて責を塞げり。吾れ之を聞く、節士は、以て生を辱めずと。遂に敵に反り、十人を殺して死せり。君子曰く、三北又責を塞げり。世を滅し家を斷つ、孝に於て終へざるなりと。

(一) 卞邑の大夫　(二) 甲を被る者の首

士節小具。而塞責矣。吾聞之。節士不以辱生。遂反敵。殺二十人而死。君子曰。三北又塞責。滅世斷家。於孝不終也。

齊桓公時。江國黃國小國也。在江淮之間。近楚。楚大國也。數侵伐欲滅取之。江人黃人患楚。齊桓公方存亡繼絕。救危扶傾。尊周室。攘夷狄。爲陽穀之會。貫澤之盟。與諸侯將伐楚。江人黃人。慕桓公

卷第九

善謀上第九

齊の桓公の時、江國・黃國は小國なり。江淮の間に在り。楚に近し。楚は大國なり。數ば侵伐して之を滅取せんと欲す。江人・黃人、楚を患ふ。齊の桓公、方に亡を存し絕を繼ぎ、危を救ひ傾を扶け、周室を尊び、夷狄を攘ひ、陽穀の會・貫澤の盟を爲す。諸侯と將に楚を伐たんとす。江人・黃人、桓公の義を慕ひ、來りて貫澤に會盟す。管仲曰く、江・黃は、齊に遠くして楚に近し。楚は、利の爲の國なり。若し伐ちて救ふこと能はずんば、以て諸侯に宗たること無し。(一)受くべからずと。桓公、聽かず。遂に之と盟ふ。管仲死す。(二)楚人、江を伐ち黃を滅す。桓公、救ふこと能はず。君子之を閔む。是の後、桓公は信壞れ德衰へ、諸侯附かず。遂に陵遲して(三)復た興すこと能はず。夫れ仁智の謀は、事に卽くに漸

之義一。來會二盟於貫澤一。管仲曰。江黃遠レ齊而近レ楚。楚爲レ利之國也。若伐而不レ能レ救。無三以宗二諸侯一。不レ可レ受也。桓公不レ聽。遂與レ之盟。管仲死。楚人伐レ江滅レ黃。桓公不レ能レ救。君子閔レ之。是後桓公信壞德衰。諸侯不レ附。遂陵遲不レ能二復興一。夫仁智之謀。即レ事有レ漸。力所レ不レ能レ救。未レ可三以受二其質一。桓公受レ之過也。管仲可レ謂二善謀一矣。詩云。曾是莫レ聽。大命以傾。此之謂也。

あり、力の救ふこと能はざる所は、未だ以て其質(四)を受くべからず。桓公の之を受けしは過なり。管仲は、善く謀ると謂ふべし。詩に云ふ(五)、曾ち是れ聽くこと莫し。大命(六)以て傾けりと。此れの謂なり。

(一)主也、諸侯の之を主とするを謂ふ　(二)魯の僖公十五年なり　(三)衰ふること、丘陵の逶遲漸く卑下なるがごときをいふ　(四)贄に同じ。贄として、公侯伯子男は玉を執り、諸侯の世子、附庸、孤卿は帛を執るなり　(五)詩經大雅蕩篇　(六)大命は、天下を保つの命なり。即ち殷人舊臣の舊法を用ひざるによりて、此禍亂を致せるなり。今老成の舊臣、共に先王の舊法をはかるべき者なしと雖も、なほ其常法は、のこりて循ひ用ひらるべし。然れども之を聽き用ふる者あることなし。こゝを以て大命傾き墜らんとして、救ひとゞめられずと也

晉文公之時。周襄王有二弟太叔之難一。出

晉の文公の時、周の襄王(一)に、弟太叔の難あり。出亡して鄭に居り、入ることを得ず。難を魯に晉に秦に告げしむ。其明年春、秦伯、河上に師して、將に王を

亡居二於鄭一。不レ得レ入。使レ告二難于魯于晉于秦一。其明年春。秦伯師二于河上一。將レ納レ王。狐偃言二於晉文公一曰。求二諸侯一莫レ如レ勤レ王。且大義也。諸侯信レ之。繼二文之業一。而信宣二於諸侯一。今爲レ可矣。卜偃卜レ之曰。吉。遇下黃帝戰二於阪泉一之兆上。公曰。吾不レ堪也。對曰。周禮未レ改。今之王。古之帝也。

納れんとす。狐偃、晉の文公に言ひて曰く、諸侯を求むるは、(二)王を勤むるに如くは莫し。且つ大義なり。諸侯之を信ず。文の業を繼ぎて、信を諸侯に宣ぶるは、(三)今を可と爲すと。卜偃之を卜ひて曰く、(四)吉。黃帝、阪泉に戰ふの兆に遇ふと。公曰く、(五)吾れ堪へざるなりと。對へて曰く、周の禮未だ改らず。(六)今の王は、古への帝なりと。公曰く、之を筮せよと。之を筮す。(七)大有の睽に之くに遇ふ。曰く、吉。(八)公用て天子に享せらるの卦に遇ふ。戰克ちて王享せらる。吉、孰れか大ならん。且つ是の卦や、天、澤と爲りて以て日に當る。天子、心を降して以て公を迎ふ。亦可ならずや。(九)大有、睽を去りて復す。亦其所なりと。(一一)晉侯、秦の師を辭して下り、三月甲辰、(一〇)陽樊に次す。右師は(一二)溫を圍み、左師は王を逆ふ。夏四月丁巳、王、王城に入る。大叔を溫に取りて、之を隰城に殺す。戊午、晉侯、王に朝す。(一三)王、享醴、之に侑を命じ、之に陽樊・溫原・攢茅の田を予ふ。晉は是に於て、始めて(一四)南陽の地を開く。其後三年、文公遂に再び諸侯を會し、以て天子に朝す。

公曰。筮之。筮之。遇大有之睽。曰。吉。遇公用享于天子之卦。戰克而王享。吉孰大焉。且是卦也。天爲澤以當日。天子降心以迎公。不亦可乎。大有去睽而復。亦其所也。晉侯辭秦師而下。三月甲辰。次于陽樊。右師圍溫。左師逆王。夏四月丁巳。王入于王城。取大叔于溫。

天子、之に弓矢秬鬯（一五）を錫ひて、以て方伯と爲す。晉の文公の命是れなり。卒に覇道を成せるは、狐偃が謀なり。夫れ秦魯皆疑ふ。晉、狐偃の善謀ありて、以て覇功を成せり。故に、謀帷幄（一六）に得れば、則ち功、天下に施すとは、狐偃の謂なり。

（一）名は鄭、惠王の子。即ち初め惠后、王子帶を立てんと欲す。故に狄を以て狄人を開く。狄人遂に周に入り、襄王、鄭に出奔せしをいふ（二）王を國に納るゝを勸むる也（三）文公が、平王の侯伯となり、周室を匡輔するは、今を可となすと也（四）黄帝が、神農の後姜氏と、阪泉の野に戰ひ、之に勝てり。今其兆を得しが故に、以て吉となす也（五）文公自ら此兆に當るとなす。故に堪へずといへるなり（六）周德衰ふと雖も、其命未だ改らず。今の周王は自ら帝兆に當る也（七）大有は乾下離上にて有つ所の大なるなり。睽は兌下離上にて假合相交らざるも背くに至らざるなり。即ち、大有の九三變じて睽となるをいふ（八）大有の九三爻の辭なり。三たび三公となりて位を得、變じて兌となる。兌を說と爲す。位を得て說ぶ。故に能く王の爲に宴饗せらると也。兌は說也。即ちよろこぶの義也（九）乾を天と爲し、兌を澤と爲す。乾變じて兌と爲りて上、離に當る。離を日と爲す。日の天に在る、澤を乘れて澤に在り。天子、上に在り。說心、下に在り。是れ心を降し、公を逆ふるの象なりと也（一〇）睽卦を去り、還つて大有に復す。亦天子心を降すの象あり。乾は尊く離は卑し。尊を降して卑に下る。亦其義也と也（一一）秦師を辭讓して還らしめし也。流れに順ふが故に下ると曰ふ（一二）大叔の溫に在るが故なり（一三）既に饗醴を行ひて醴酒を設け、之に加ふるに幣帛を以てし、以て歡を助けし也。宥は助也（一四）晉の山南河北に在り、故に南陽といふ（一五）諸侯は、天子より弓矢を賜り、然して後征伐を專する也。秬は黑黍、鬯は香酒、神を降す所以のも

而殺之于隰城。戊午。晉侯朝王。王享醴命之侑。予之陽樊溫原攢茅之田。晉於是始開南陽之地。其後三年。文公遂再會諸侯。以朝天子。天子錫之弓矢秬鬯。以爲方伯。晉文公之命是也。卒成霸道。狐偃之謀也。夫秦晉皆疑。晉有狐偃之善謀。以成霸功。故謀得於帷幄。則功施於天下。狐偃之謂也。

の 一六 幄は也

虞虢皆小國也。虞有夏陽之阻塞。虞虢共守之。晉不能禽也。故晉獻公欲伐虞虢。荀息曰。君胡不以屈產之乘與垂棘之璧。假道於虞。公曰。此晉國之寶也。彼受吾璧。不借

（一）虞虢は、皆小國なり。虞に（二）夏陽の阻塞あり。虞・虢共に之を守り、晉、禽する能はざるなり。故に晉の獻公、虞虢を伐たんと欲す。（三）荀息曰く、君胡ぞ（四）屈產の乘と、垂棘の璧とを以て、道を虞に假らざると。公曰く、此れ晉國の寶なり。彼れ、吾が璧を受けて、吾に道を借さずんば、則ち之を如何すべきと。荀息曰く、此れ小の大國に事ふる所以なり。彼れ、吾に道を借さずんば、必ず敢へて吾幣を受けず。吾幣を受けて、吾に道を借さば、則ち是れ、我れ之を中府に取りて、之を外府に置き、之を中廐に取りて、之を外廐に置くなりと。公曰く、（五）宮之奇存す。必ず受けしめざるなりと。荀息曰く、宮之奇、知は固に知なり。然りと雖

吾道一。則如レ之何。荀息曰。此小之所三以事二大國一也。彼不レ借二吾道一。必不三敢受二吾幣一。受二吾幣一而借二吾道一。則是我取二之中府一。置二之外府一。取二之中廐一。置二之外廐一。公曰。宮之奇存焉。必不レ使レ受也。荀息曰。宮之奇。知固知矣。雖レ然其爲レ人也。通心而懦。又少長二於君一。通心則其言之略。懦

も、其の人と爲りや、通心にして懦く(六)、又少しく君より長ず。通心は則ち其言を之れ略し、懦は則ち強諫する能はず。少しく君より長ぜば、則ち君之を輕んず。且つ夫れ玩好は、耳目の前に在りて、患(七)は、一國の後に在り。中知以上は、乃ち能く之を慮る。臣、虞君を料るに、中知の下なりと。公遂に道を借りて虢を伐たんとす。宮之奇諫めて曰く、晉の使者、其幣重く其辭卑し。必ず虞に便ならず。語に曰く、脣亡ぶれば則ち齒寒しと。故に虞・虢の相救ふは、賜を相爲すには非ざるなり。今日虢を亡して明日虞を亡さんと。公、聽かず。遂に其幣を受けて、之に道を借す。旋歸して四年、反つて虞を取る。荀息、馬を牽き璧を抱いて前んで曰く、臣の謀如何と。獻公曰く、璧は則ち猶ほ是のごとし。而るに吾馬の齒加長せりと。晉の獻公、荀息が謀を用ひて虞を禽へ・虞は、宮之奇が謀を用ひずして亡びたり。故に荀息は、霸王の佐に非ず、戰國幷兼の臣なり。宮之奇が若きは、則ち忠臣の謀と謂ふべし。

則不レ能二強諫一。少長二於君一。則君輕レ之。且夫玩好在二耳目之前一。而患在二一國之後一。中知以上。乃能慮レ之。臣料二虞君一。中知之下也。公遂借レ道而伐レ虢。宮之奇諫曰。晉之使者。其幣重。其辭卑。必不レ便二於虞一。諺曰。脣亡則齒寒矣。故虞虢之相救。非三相二爲賜一也。今日亡レ虢。而明日亡レ虞矣。公不レ聽。遂受二其幣一。而借二之道一。旋歸四年。反取レ虞。荀息牽レ馬抱レ璧而前曰。臣之謀如何。獻公曰。璧則猶レ是。而吾馬之齒加長矣。晉獻公用二荀息之謀一而禽レ虞。虞不レ用二宮之奇謀一而亡。故荀息非二霸王之佐一。戰國幷兼之臣也。若二宮之奇一。則可レ謂二忠臣之謀一也。

(一)虞は晉の南に在り。虢は虞の南に在り　(二)虢の邑　(三)荀叔之　(四)屈の地、良馬を生じ、垂棘、美玉を出す、故に以て名を爲す。四馬を乘と爲す。晉より虢に適く、途、虞より出づ、故に道を借るといへるなり　(五)虞の忠臣　(六)弱也　(七)親んで之に狎るれば必ず其言を輕んずと也

晉文公秦穆公共圍レ鄭。以三其無レ禮。而附二於楚一。鄭大夫佚之狐言二於鄭君一曰。若使三燭之武見二秦君一。圍必解。鄭

晉の文公・秦の穆公、共に鄭を圍む。其の禮なくして楚に附せるを以てなり。鄭の大夫佚之狐、鄭君に言ひて曰く、若し燭之武をして、秦君に見えしめば、圍必ず解けんと。(一)鄭君之に從ふ。(二)燭之武を召して、之を使ふ。辭して曰く、臣の壯なるや、猶ほ人に如かず。今老いたり。能く爲すことなしと。鄭君曰く、吾れ蚤く子を用ふること能はず。今急ありて子を求む、是れ寡人の過なり。然れども鄭

君從レ之。召二燭之武一使レ之。辭曰。臣之壯也。猶不レ如レ人。今老矣。無二能爲一也。鄭君曰。吾不レ能二蚤用一レ子。今急而求レ子。是寡人之過也。然鄭亡。子亦有レ不レ利焉。燭之武許諾。夜出見二秦君一曰。秦晉圍レ鄭。鄭知レ亡矣。若亡而有レ益二於君一。敢以煩二執事一。鄭在二晉之東一。秦在二晉之西一。越レ晉而取レ

亡びば、子も亦利ならざることありと。燭之武許諾す。夜出でて秦君に見えて曰く、秦・晉、鄭を圍む。鄭は亡ぶるを知る。若し亡びて君に益あらば、敢へて以て執事(三)を煩さん。鄭は晉の東に在り。秦は晉の西に在り。晉を越えて(四)鄭を取るは君、其難きを知るなり。焉ぞ鄭を亡して以て晉を陪す(五)を用ひん。晉は秦の隣なり。隣の强は、君の憂なり。若し鄭を舍てて以て東道の主となり、行李(七)の往來に其資糧を共せば、亦害する所なけん。且つ君、晉君(六)を立て、晉君、君に焦瑕を許す。朝に入るを得て、夕に版を設けて畫界す、君の知る所なり。夫れ晉は、何の厭くことか之れ有らん。既に東のかた鄭を取らば、又其西境を廣めんと欲す。秦を闕かずして將た焉ぞ之を取らん。秦を闕きて晉を利す、願はくは君之を圖れと。秦の兵說びて兵を引きて還る。晉の咎犯(八)、之を擊たんと請ふ。文公曰く、不可なり。夫の人(九)の力微りせば、鄭を斃ること能はず。人の力に因りて以て之を斃るは、仁ならず。其の與する所を失ふは、知ならず。亂(一〇)を以て整に易ふるは、

鄭。君知其難也。焉用亡鄭以陪晉。晉秦之隣也。隣之强。君之憂也。若舍鄭以爲東道主。行李之往來。共其資糧。亦無所害。且君立晉君。晉君許君焦瑕。朝得入。而夕設版。而晝界焉。君之所知也。夫晉何厭之有。既東取鄭。又欲廣其西境。不闕秦將焉取之。闕秦而利晉。願君圖之。秦兵說。引兵而還。晉咎犯請擊之。文公曰。不可。微夫人之力。不能弊鄭。因人之力以弊之。不仁。失其所與。不知。以亂易整。不武。吾其還矣。亦去。鄭圍遂解。燭之武可謂善謀。一言存鄭而安秦。鄭君不蚤用善謀。所以削國也。困而覺焉。所以得存。

武ならず。吾れ其れ還らんと。亦去る。鄭の圍遂に解く。燭之武は善謀なりと謂ふべし。一言、鄭を存して秦を安んず。鄭君、蚤く善謀を用ひず、國を削られし所以なり。困んで覺る、存を得し所以なり。

(一) 文公諱 (二) 鄭の大夫 (三) 秦を謂ふ也 (四) もし鄭を得て以て秦の邊邑と爲さば、則ち晉を越えて保ち難しと也 (五) 猶也 (六) 築內者 (七) 使人、聘問を通ずる者 (八) 秦を擊たんと請ふ也 (九) 秦の穆公をいふ (一〇) 秦晉和整し、而も還つて相攻め、更に亂をなすは武ならずと也

楚靈王即位。欲爲霸會諸侯。使椒舉如晉求諸侯。椒舉致命曰。寡

(一)楚の靈王、位に卽き、霸と爲りて諸侯を會せんと欲し、椒舉をして、晉に如きて諸侯を求めしむ。椒舉、命を致して曰く、寡君、舉をして曰はしむ。君、惠賜あり。(三)宋に盟ふ。曰く、晉・楚の從、交々相見んと。(四)歲の易らざるを以てす。寡

君使ニ擧曰。君有ニ惠賜盟ニ于宋。曰。晉楚之從交相見也。以ニ歲之不レ易。寡人願結ニ驩於二三君。使ニ擧請レ間。君若苟無ニ四方之虞。則願假レ寵以請ニ於諸侯。晉君欲レ勿レ許。司馬侯曰。不可。楚王方侈。天其或者欲下盈ニ其心。以厚ニ其毒。而降中之罰上。未レ可レ知也。其使レ能レ終。亦未レ可レ知也。唯

人願はくは、驩(五)を二三君に結ばんと。擧をして間を請はしむ。君(六)若し苟も四方の虞なくば、則ち願はくは寵を假りて以て諸侯に請はんと。晉侯(七)、許す勿らんと欲す。司馬侯(八)曰く、不可なり。楚王方に侈る。天其れ或は其心を盈たしめ(九)以て其毒を厚くして、之が罰を降さんと欲するやも、未だ知るべからざるなり。其の終を能くせしむるも、亦未だ知るべからざるなり。唯だ天の相(一〇)くる所、與に爭ふべからず。君其れ之を許せ。德を修めて以て其歸を待て、若し德に歸せば、吾れ猶ほ將に之に事へんとす。況んや諸侯をや。若し淫虐に適せば、楚將に之を(一一)棄てんとせん。吾れ誰と與にか爭はんと。公曰く、晉に三つの不殆あり。其れ何の敵か之れ有らん。國險にして馬多し。齊(一二)・楚、難多し。是の三者あり。何に繇つて濟らざらんと。對へて曰く、馬と險とを恃みて、隣の難を虞るは、是れ三殆(一三)なり。四嶽(一四)・三塗、陽城・大室、荊山・終南は、九州の險なり。是れ姓(一五)を一にせず。冀の北土は、馬の生ずる所なり。興國なし。險と馬とを恃む、以て固と爲すに足

天所レ相。不レ可二與爭一。君其許レ之。修レ德以待二其歸一。若歸二於德一。吾猶將レ事レ之。況諸侯乎。若適二淫虐一。楚將レ棄レ之。吾誰與爭。公曰。晉有二三不殆一。其何敵之有。國險而多レ馬。齊楚多レ難。有二是三者一。何嚮而不レ濟。對曰。恃二馬與一レ險。而虞二鄰之難一。是三殆也。四嶽三塗。陽城大室。荊山終南。九州之險也。是不レ一レ姓。冀之北土。馬之所レ生也。無二興國一焉。恃二險與一レ馬。不レ足二以爲一レ固也。從レ古以然。

らざるなり。古へより以て然り。

(一)名は圉、共王の子　(二)子胥の祖父、伍擧なり　(三)宋の盟は、襄公二十七年に在り　(四)難あるを言へるなり　(五)諸侯を得て、事を謀り闕を補はんと欲する也　(六)虞は度也、君の威寵を借り、以て諸侯を致さんと欲すと也　(七)平公也　(八)女叔齊也　(九)濟也　(一〇)助也　(一一)以て君と爲さざるをいふ　(一二)篡弑の難多きことをいふ　(一三)危也　(一四)岱山・華山・衡山・恒山をいふ。三塗は大行・轘轅・崤澠也　(一五)是れ天下の至險なりと雖も德なきもの、之を恃みて次から次と亡びしをいふ

是以先王務二德音一。以享二神人一。不レ聞三其務二險與一レ馬也。或多難以固二其國一。開二其疆土一。或無難以喪二其國一。失二其守

是を以て先王は、德音を務めて、以て神人を享す。(一)其の險と馬とを務むるを聞かざるなり。或は多難以て其國を固くし、其疆土を開き、或は無難以て其國を喪ひ、其守宇を失す。(二)若何ぞ難を虞れん。齊に仲孫の難ありて、(三)桓公を獲、今に至るまで之に賴れり。晉に里克の難ありて(四)文公を獲、是を以て盟主たり。衞・邢は無難なれども、狄亦之を喪せり。故に人の難は、虞るべからざるなり。此の三者を

宇一。若何虞レ難。齊有二仲孫之難一。而獲二桓公一。至レ今頼レ之。晉有二里克之難一。而獲二文公一。是以爲二盟主一。衞邢無難。狄亦喪レ之。故人之難。不レ可レ虞也。恃二此三者一。而不レ脩二政德一。亡於不レ暇。有何能濟。君其許レ之。紂作二淫虐一。文王惠和。殷是以貫。周是以興。夫豈爭二諸侯一哉。乃許レ楚。靈王遂爲二申之會一。與二諸侯一伐レ吳。起二章華之臺一。爲二乾谿之役一。百姓罷勞。怨二懟於下一。羣臣倍二畔於上一。公子棄疾作レ亂。靈王亡逃。卒死二於野一。故曰。晉不レ頓二一戟一。而楚人自亡。司馬侯之謀也。

恃みて、政德を脩めずば、亡ぶ於(五)に暇あらず。有た何ぞ能く濟さん。君其れ之を許せ。紂、淫虐を作して、文王惠和なり。殷、是を以て貫ち(六)、周、是を以て興る。夫れ豈に諸侯を爭はんやと。乃ち楚に許せり。靈王遂に申の會を爲し、諸侯と吳を伐ち、章華の臺を起し、乾谿の役(七)を爲す。百姓罷勞、下に怨懟(八)し、羣臣、上に倍畔す。公子棄疾(九)、亂を作す。靈王亡逃し、卒に野に死せり。故に曰く、晉は一戟を頓らずして、楚人自ら亡ぶと。司馬侯が謀なり。

㈠ 享は通也。卽ち、民を治め神に事へ、人神をして通説せしむ。故に以て神人を享すといへるなり ㈡ 四嶽を守るを失ふと也 ㈢ 公孫無知也 ㈣ 丕鄭也 ㈤ 安也 ㈥ 阻に同じ、あつ ㈦ 左傳昭公の十二年に詳なり ㈧ 懟は怨也 ㈨ 共王の子、平王熊居也

楚平王殺伍

楚の平王、伍子胥が父を殺す。子胥出亡し、(一)弓を挾んで干む。闔閭之を大とし、

子胥之父一。子胥出亡。挾レ弓而干。闔閭大レ之。甚勇レ之。爲レ是而欲三興レ師伐二楚。子胥諫曰。不可。臣聞レ之。君子不下爲二匹夫一興上レ師。且事レ君猶レ事レ父也。虧二君之義一。復二父之讎一。臣不レ爲也。於レ是止。蔡昭公朝二於楚一。有二美裘一。楚令尹囊瓦求レ之。昭公不レ予。於レ是拘二昭公於郢一。數年而后歸レ之。昭

甚だ之を勇とす。是が爲に、師を興し楚を伐たんと欲す。子胥諫めて曰く、不可なり。臣之を聞く、君子は、匹夫の爲に師を興さずと。且つ君に事ふるは、猶ほ父に事ふるがごときなり。君の義を虧きて父の讎を復すは、臣爲さずと。是に於て止む。蔡の昭公、楚に朝す。美裘あり。楚の令尹囊瓦(二)、之を求む。昭公予へず。是に於て、昭公を郢に拘ふる數年にして后に之を歸す。昭公、漢水を濟り、璧を沈めて曰く、諸侯、楚を伐つ者あらば、寡人請ふ、前列と爲らんと。楚人之を聞きて怒る。是に於て師を興して蔡を伐つ。蔡、救を吳に請ふ。子胥諫めて曰く、蔡は罪あるに非ざるなり。楚人、無道なり。君若し中國を憂ふるの心あらば、則ち此時の若き、可なりと。是に於て、師を興して楚を伐つ。遂に楚人を栢擧に敗りて、霸道を成せるは、子胥が謀なり。故に春秋に美として、之を褒せり。

(一) 弓を挾むとは、格意を懷くなり。禮に、天子は彫弓、諸侯は彤弓、大夫は嬰弓、士は盧弓と。禮を待たずして見ゆるを干といふ。闔閭に因りて以て讎を復せんことを求めし也 (二) 子囊の孫、子常也

公濟二漢水一。沈レ璧曰。諸侯有レ伐レ楚者一。寡人請爲二前列一。楚人聞レ之怒。於レ是興レ師伐レ蔡。蔡請二救于吳一。子胥諫曰。蔡非レ有レ罪也。楚人無道也。君若有下憂二中國一之心上。則若二此時一可矣。於レ是興レ師伐レ楚。遂敗二楚人於栢擧一。而成二霸道一。子胥之謀也。故春秋美而襃レ之。

秦孝公欲レ用二衞鞅之言一。更爲二嚴刑峻法一。易二古三代之制度一。恐大臣不レ從。於レ是召二衞鞅甘龍杜摯三大夫一御二於君一。慮二世事之變一。計二正法之本一。使レ民之道一。君曰。代レ位不レ亡二社稷一。君之道也。錯レ法務明二主長一。臣之行也。今吾欲二更レ法以教レ

秦の孝公(一)、衞鞅(二)の言を用ひんと欲し、更に嚴刑峻法を僞り、古三代の制度を易ふ。恐らくは大臣從はざらんと。是に於て、衞鞅・甘龍(三)・杜摯三大夫を召き、君に御せしめ、世事の變を慮り、法を正すの本、民を使ふの道を計る。君曰く、位を代へて、社稷を亡はざるは、君の道なり。法を錯きて、務めて主の長を明にするは、臣の行なり。今吾れ法を更めて、以て民を教へんと欲す。吾れ恐らくは、天下の我を議せんことをと。公孫鞅曰く、臣聞く、疑行は名なく、疑事は功なしと。君亟に法を變ふるの慮を定め、之を行ひて疑殆するなかれ。天下の議を顧ることなかれ。且つ夫れ人に高きの行ある者は、固より非を世に負ふ。獨知の慮あるものは、必ず民に驁せらる。語に曰く、愚者は成事に暗く、知者は未萌を見ると。民は與に始を慮るべからず、與に成功を樂むべし。郭偃(四)が法に曰く、

民。吾恐天下之議レ我也。公孫鞅曰。臣聞。疑行無レ名。疑事無レ功。君亟定二變レ法之慮一。行レ之無二疑殆一。無レ顧二天下之議一。且夫有二高レ人之行一者。固負二非於世一。有二獨知之慮一者。必見レ謷二於民一。語曰。愚者暗二成事一。知者見二未萌一。民不レ可二與慮一レ始。可三與樂二成功一。郭偃之法曰。論二至德一者。不レ和二於俗一。成二大功一者。不レ謀二於衆一。

至德を論ずる者は、俗に和せず、大功を成す者は、衆に謀らずと。

(一) 名は渠梁、獻公の子　(二) 衞の庶孽子公子、姓は公孫氏、刑名の學を好む　(三) 甘龍は孝公の臣、姓は甘、名は龍なり　(四) 卜偃也

法者所二以愛一レ民也。禮者所二以便一レ事也。是以聖人苟可二以治一レ國。不レ法二其故一。苟可二以利一レ民。不レ循二其禮一。孝公曰。善。甘龍曰。不レ然。臣聞。聖人不二易レ民而敎一。知者不二變レ法而

法は民を愛する所以なり。禮は事に便なる所以なり。是の以に聖人苟も以て國を治むべければ、其故に法らず。苟も以て民を利すべければ、其禮に循はずと。孝公曰く、善しと。甘龍曰く、然らず。臣聞く、聖人は民を易へて敎へず。知者は法を變じて治めず。民に因りて敎ふる者は、勞せずして功成り、法に據りて治むる者は、吏習ひて民之を安んずと。今君、法を變じて故に循はず、禮を更めて以て民を敎ふ。臣恐らくは、天下の君を議せんことを。願はくは、君、孰ら之を慮れと。公孫鞅曰く、子が言ふ所の者は、世俗の知る所なり、常人は習ふ所

治。因民而教者。不勞而功成。據法而治者。吏習而民安之。今君變法不循故。更禮以教民。臣恐天下之議君。願君孰慮之。公孫鞅曰。子之所言者。世俗之所知也。常人安於所習。學者溺於所聞。此兩者所以居官而守法也。非所與論於典法之外也。三代不同道而王。五霸不同法而霸。知者作法。而愚者制焉。賢者更禮。不肖者拘焉。拘禮之人。不足與言事。制法之人。不足與論治。君無疑矣。杜摯曰。利不百不變法。功不什不易器。爾聞之。法古無過。循禮無邪。君其圖之。公孫鞅曰。前世不同教。何古之法。帝王者不相復。何禮之循。

に安んじ、學者は聞く所に溺る。此の兩者は、官に居て法を守る所以なり。與に典法の外を論ずる所に非ざるなり。三代は、道を同じうせずして王たり。五霸は、法を同じうせずして霸たり。知者は法を作りて、愚者は制せらる。賢者は禮を更へ、不肖者は拘せらる。禮に拘せらるゝ人は、與に事を言ふに足らず。法に制せらるゝ人は、與に治を論ずるに足らず。君、疑ふことなかれと。杜摯曰く、利百ならざれば、法を變せず。功、什ならざれば器を易へず。兩つながら之を聞き、古へに法れば過なし。禮に循へば邪なし。君其れ之を圖れと。公孫鞅曰く、前世、教を同じうせず。何ぞ古への法のみならんや。帝王は相復びせず。何ぞ禮のみ之れ循はん。

● 弊を救ひ政を爲すの術、爲す所、苟も以て國を强うすべくんば、則ち必ずしも故事に法るを要せずと也

伏犧神農。教而不誅。黃帝堯舜。誅而不怒。及至文武。各當其時而立法。因事而制禮。禮法兩定。制令各宜。甲兵器備。各便其用。臣故曰。治世不一道。便國不必古。故湯武之王也。不循古。殷夏之滅也。不易禮。然則反古者。未可非也。循禮者。未足多也。君無疑矣。孝公

伏犧・神農は、教へて誅せず。黃帝堯舜は、誅して怒らず。文・武に至るに及び、各ゝ其時に當りて法を立つ。事に因りて禮を制す。禮法兩つながら定り、制令各ゝ宜しく、甲兵器備り、各ゝ其用に便なり。臣故に曰く、世を治むる道を一にせず、國に便なれば、古へを必せずと。故に湯・武の王たるや、古へに循はず、殷・夏の滅するや、禮を易へず。然らば則ち、古へに反する者は、未だ非とすべからず、禮に循ふ者も未だ多とするに足らざるなり。君、疑ふことなかれと。孝公曰く、善し。吾れ聞く、窮鄕は怪多く、曲學は辯多く、愚者の笑は、知者哀み、狂夫の樂は、賢者憂ふ。世に拘せらるゝの議は、人心疑はずと。是に於て孝公、龍・摯の善謀に違ひ、遂に衞鞅が過言に從ふ。法、嚴にして酷、刑、深にして必、之を守るに公を以てす。當時强を取り、遂に鞅を封じて商君と爲す。孝公死するに及び、國人、商君を怨み、之を車裂するに至る。其患流漸して始皇に至り、赤衣、路に塞り、羣盜、山に滿ち、卒に以て亂亡せり。削刻恩なきの致

曰。善。吾聞。窮鄕多怪。曲學多辯。愚者之笑。知者哀焉。狂夫之樂。賢者憂焉。拘世之議。人心不疑矣。於是孝公遵龍摯之善謀。遂從衞鞅之過言。法嚴而酷。刑深而必。守之以公。當時取強。遂封鞅爲商君。及孝公死。國人怨商君。至於車裂之。其患流漸至始皇。赤衣塞路。羣盜滿山。卒以亂亡。削刻無恩之所致也。三代積德而王。齊桓繼絶而霸。秦夏嚴暴而亡。漢王垂仁而帝。故仁恩謀之本也。

す所なり。三代は徳を積んで王たり。齊桓は絶を繼ぎて霸たり。秦と夏とは、嚴暴にして亡び、漢王は仁を垂れて帝たり。故に仁恩は謀の本なり。

㊀必ずしも更に法を作ることもせず　㊁罪人の服、卽ち赭衣也

秦惠王時蜀亂。國人相攻擊。告急於秦。惠王欲發兵伐蜀。以爲道險峽難至。而韓人來侵秦。秦惠王欲先伐韓。恐蜀亂。先伐蜀。恐韓

秦の惠王の時に、蜀亂る。國人相攻撃し、急を秦に告ぐ。惠王、兵を發して蜀を伐たんと欲す。以爲へらく、道險峽にして至り難しと。而るに韓人來りて秦を侵す。秦の惠王、先づ韓を伐たんと欲せば、恐らくは蜀亂れん。先づ蜀を伐たば、恐らくは韓、秦の弊を襲はんと。猶與して未だ決せず。(一)司馬錯、張子と惠王の前に爭論す。司馬錯、蜀を伐たんと欲す。張子曰く、韓を伐つに如かずと。王曰く、請ふ、其說を聞かんと。對へて曰く、魏を親み楚を善くし、兵を三川に

襲二秦之弊一。猶與未レ決。司馬錯與二張子一爭二論於惠王之前一。司馬錯欲レ伐レ蜀。張子曰。不レ如レ伐レ韓。王曰。請聞二其說一。對曰。親レ魏善レ楚。下二兵三川一。塞二什谷之口一。當二屯留之道一。魏絕二南陽一。楚臨二南鄭一。秦攻二新城宜陽一。以臨二二周之郊一。誅二周王之罪一。侵二楚魏之地一。周自知レ不レ救。九鼎寶器必

下し、什谷の口を塞ぎ、(三)屯留の道に當り、魏は南陽を絕ち、楚は南鄭に臨み、秦は新城宜陽を攻め、以て(四)二周の郊に臨み、周王の罪を(五)誅ち、楚・魏の地を侵さば、周は自ら救はざるを知り、(六)九鼎・寶器必ず出でん。九鼎に據り、(七)圖籍を按じ、天子を挾んで以て天下に令せば、敢へて聽かざること莫けん。此れ王業なり。今夫れ蜀は、西僻の國にして、戎狄の倫なり。兵を弊し衆を勞して、以て名を成すに足らず。其地を得て、以て利を爲すに足らず。臣聞く、名を爭ふ者は(八)朝に於てし、利を爭ふ者は市に於てすと。今三川・周室は、天下の朝市なり。而るに王爭はず。顧みて夷狄を爭ふ、王を去ること遠しと。司馬錯曰く、然らず。臣之を聞く、富を欲する者は、務めて其地を廣くし、强を欲する者は、務めて其民を富し、王を欲する者は、務めて其德を博くす。三資の者備りて、王之に隨ふと。今王は地小に民貧なり。故に臣願はくは、先づ事に易に從はん。

㊀秦の人 ㊁三川は宜陽也。下は兵を出す也 ㊂上黨に屬す ㊃東周と西周と也 ㊄討也 ㊅九鼎・寶

出。據九鼎。按圖籍。挾天子。以令於天下。莫敢不聽。此王業也。今夫蜀西僻之國。而戎狄之倫也。弊兵勞衆。不足以成名。得其地。不足以爲利。臣聞。爭名者於朝。爭利者於市。今三川周室。天下之朝市也。而王不爭焉。顧爭於戎狄。去王遠矣。司馬錯曰。不然。臣聞之。欲富者。務廣其地。欲強者。務富其民。欲王者。務博其德。三資者備。而王隨之矣。今王地小民貧。故臣願先從事於易。

器を愛惜せずして出すにいたらんと也　(七)土地の地圖と人民及び位殿の籍をいふ　(八)辟遠の地は、以て覇王の名を成すに足らずと也

夫蜀西僻之國。而戎狄之長也。有桀紂之亂。以秦攻之。譬如以豺狼逐羣羊也。得其地。足以廣國。取其財。足以富民。繕兵不傷衆。而服焉。服一國。而天下不以

夫れ蜀は、西僻の國にして、戎狄の長なり。桀・紂の亂あり、秦を以て之を攻むるは、譬へば豺狼を以て羣羊を逐ふが如し。其地を得て、以て國を廣むるに足り、其財を取りて、以て民を富すに足る。兵を繕ふに、衆を傷らずして服す。一國を服して、天下以て暴と爲さず。利、西海を盡して、諸侯以て貪と爲さず。是れ我れ一擧して、名實附するなり。又暴を禁じ亂を止すの名あり。今韓を攻めて天子を劫すは、悪名なり。而して未だ必ずしも利あらざるなり。不義の名ありて、天下の欲せざる所を攻むるは危し。臣請ふ、其故を謁さん。周は、天下の宗室な

爲レ暴。利盡二西海一。而諸侯不二以爲一レ貪。是我一擧。而名實附也。又有二禁レ暴正レ亂之名一。今攻レ韓劫二天子一惡名也。而未二必利一也。有二不義之名一。而攻二天下所一レ不レ欲。危矣。臣請謁二其故一。周天下之宗室也。齊韓之與國也。周自知レ失二九鼎一。韓自知レ亡二三川一。將二二國幷レ力合レ謀。以因二乎齊趙一。而求二解乎楚魏一。以レ鼎予レ楚。以レ地予レ魏。王不レ能レ止。此臣所レ謂危也。不レ如二伐レ蜀完一。秦惠王曰。善。寡人請聽レ子。卒起レ兵伐レ蜀。十月取レ之。遂定レ蜀。蜀王更レ號爲レ侯。而使二陳叔相一レ蜀。蜀既屬レ秦。秦日益強。富厚而制二諸侯一。司馬錯之謀也。

り。齊は、韓の與國なり。周自ら九鼎を失ふことを知り、韓自ら三川を亡ふことを知り、將に二國、力を幷せ謀を合せ、以て齊・趙に因りて、解を楚・魏に求め、鼎を以て楚に予へ、地を以て魏に予へん。鼎を以て楚に予へ、地を以て魏に予へば、王、止む能はず。此れ臣の所謂危なり。蜀を伐つの完きに如かずと。秦の惠王曰く、善し。寡人請ふ、子に聽かんと。卒に兵を起して蜀を伐ち、十月にして之を取り、遂に蜀を定む。蜀王、號を更めて侯と爲して、陳叔をして蜀に相たらしむ。蜀既に秦に屬す。秦日に益々強く、富厚(七)にして諸侯を制せしむ、司馬錯の謀なり。

(一) 補也　(二) 蜀川をいふ。海は珍藏の聚生する所なればなり　(三) 名は其德を傳むるといひ、實は土地の財寶を得るをいふ　(四) 白也　(五) 宗は尊也　(六) 秦兵を免るゝをいふ　(七) 厚は大也

楚使二黄歇於秦一。秦昭王使三白起攻二韓魏一。韓魏服二事秦一。昭王方令下白起與二韓魏一共伐上楚。黄歇適至。聞二其計一。是時秦已使三白起攻レ楚取二數縣一。楚頃襄王東徙。黄歇上二書於秦昭王一。欲下使二秦遠交一楚。而攻二韓魏一以解上楚。其書曰。天下莫レ强二於秦楚一。今聞王欲レ伐レ楚。此猶二兩虎相與

楚、黄歇を秦に使せしむ。秦の昭王、白起をして韓・魏を攻めしむ。韓・魏、秦に服事す。(一)昭王方に白起をして韓・魏と共に楚を伐たしむ。黄歇適ま至り、其計を聞く。是の時、秦已に白起をして、楚を攻めて數縣を取らしむ。楚の頃襄王東に徙る。黄歇、書を秦の昭王に上り、秦をして遠く楚に交はらしめて、韓・魏を攻めて以て楚を解かんと欲す。其の書に曰く、天下、秦・楚より强きは莫し。今聞く、王、楚を伐たんと欲すと。此れ猶ほ兩虎の相與に鬪ふがごとし。兩虎相與に鬪はば、駑犬、其弊を受くるなり。楚に善くするには如かず。臣請ふ、其說を言はん。臣之を聞く、物至れば、則ち反す。(二)冬夏是れなり。(三)致高は則ち危し。累棊是れなりと。今大國の地、天下に徧くして、其二垂を有す。(四)此れ生民より以來、萬乘の地、未だ嘗て有らざるなり。今王、盛橋をして、(五)事を韓に守たしむ。(六)盛橋、其地を以て秦に入らば、是れ王、甲を用ひず、威を信さずして、百里の地を得るなり。王は、能なりと謂ふべし。

闘一。兩虎相與闘。而駑犬受二其弊一也。不レ如レ善レ楚。臣請言二其說一。臣聞レ之。物至則反。冬夏是也。致高則危。累棊是也。今大國之地偏二天下一。有二其二垂一。此從二生民一以來。萬乘之地。未二嘗有一也。今王使三盛橋守二事於韓一。盛橋以二其地一入レ秦。是王不レ用レ甲。不レ信レ威。而得二百里之地一也。王可レ謂レ能矣。

(一) 春申君也。楚の人、名は歇、姓は黃氏、遊學博聞、楚の頃襄王に事ふ。周の考烈王元年相と爲り、春申君に封ぜらる (二) 至は極也、極れば則ち反るなり。冬至は陰の極、夏至は陽の極なり (三) 致高は、物を取り之を物上に置くをいふ (四) 垂は邊陲也、東西を極むるをいふ (五) 秦の人 (六) 待といふに同じ

王又擧レ甲而攻レ魏。杜二大梁之門一。擧二河內一。攻二燕酸棗虛桃一入レ邢。魏之兵雲翔。而不二敢救一。王之功亦多矣。王休レ甲息レ衆。二年而復レ之。有下取二滿衍首垣一。以臨二仁平丘一黃

王又、甲を擧げて魏を攻め、大梁(一)の門を杜ぎ、河內を擧げ(二)、燕・酸・棗・虛・桃を攻め、邢に入る。魏の兵、(三)雲のごとく翔りて、敢へて救はず。王の功亦多し。王、甲を休め衆を息め、二年にして之を復し、滿衍首垣を取りて、以て仁平丘に臨むことあらば、黃濟陽は城を甄して、魏氏服せん。王又、濮歷の北を割き、之を秦齊の要に注し、楚・趙の背を絕たば、天下は五合六聚して、敢へて相救はず、王の威も亦單なり。王若し能く功を持し威を守り、(四)戰功の心を挾んで、仁義の地を(五)(六)肥くし、後患なからしめば、三王は四にするに足らず、五伯は六にするに足ら

濟陽甄ㇾ城而魏氏服。王又割ニ濮歴之北一。注ニ之秦齊之要一。絶ニ楚趙之背一。天下五合六聚。而不ニ敢相救一。王之威亦單矣。王若能持ㇾ功守ㇾ威。挾ニ戰功之心一。而肥ニ仁義之地一。使ㇾ無ニ後患一。三王不ㇾ足ㇾ四。五伯不ㇾ足ㇾ六也。王若負ニ人徒之衆。兵革之彊一。乘ニ毀ㇾ魏之威一。而欲ニ以ㇾ力臣ニ天下之主一。臣恐其有ニ後患一也。詩曰。靡ㇾ不ㇾ有ㇾ初。鮮ニ克有ㇾ終。易曰。狐涉ㇾ水。濡ニ其尾一。此言ニ始之易。終之難一也。何以知ニ其然一也。

ざるなり。王若し人徒の衆・兵革の彊を負み、(七)魏を毀つの威に乘じて、力を以て天下の主を臣にせんと欲せば、臣恐らくは其の後患あらんことを。詩に曰く、(八)(九)初あらざること靡し。克く終あること鮮しと。易に曰く、(一〇)狐、(一一)水を渉り、其尾を濡すと。此れ始の易く、終の難きを言へるなり。何を以て其の然るを知る。

(一)魏の惠王の都する所　(二)得るに同じ　(三)散ずる也　(四)延也、大也、即ち、王威の諸國に延被して大なるをいふ　(五)道に同じ　(六)厚也。即ち、厚く仁義の道を宣べば、即ち天下皆之を仰ぐと也　(七)恃也　(八)詩經大雅蕩篇　(九)天の命を民に賦するの初は、不善あることなし。然れどもその氣質をうくること同じからざるによりて、善道を以て自ら終るもの少しと也　(一〇)周易未濟彖の辭　(一一)小狐、大川を渉ること能はず。能く渉ると雖も、而も餘力なし。將に渡らんとして其尾を濡し、力こゝに渇き、終に續く能はずと也

智伯見ニ伐ㇾ趙之利一。不ㇾ知ニ楡次之禍一。吳見ニ

(一)智伯は、趙を伐つの利を見て、(二)楡次の禍を知らず。吳は齊を伐つの便を見て、(三)干遂の敗を知らず。此の二國は、大功なきに非ざるなり。利に前に沒して

伐レ齊之便。而不レ知二干遂之敗。此二國者。非レ無二大功一也。沒二利於前。而易二患於後一也。吳之親レ越也。從而伐レ齊。既勝二齊人艾陵一。爲二越人所一レ禽二於三渚之浦一。知伯之信二韓魏一也。從而伐レ趙。攻二晉陽之城。勝有レ日矣。韓魏畔レ之殺二知伯瑤於鑿臺之上。今王妬二楚之不一レ毀也。而忘三毀レ楚

患を後に易へたるなり。吳の越を親むや、從ひて齊を伐つ。既に齊人に艾陵(四)に勝ち、越人に三渚の浦(五)に禽にせられたり。知伯の、韓・魏を信ずるや、從ひて趙を伐つ。晉陽の城を攻め、勝つこと日あり。韓・魏之に畔き、知伯瑤を鑿臺の上に殺せり。今王、楚の毀たざるを妬みて、楚を毀つの韓・魏を強くするを忘れたるなり。臣、王の爲に慮りて取らざるなり。詩(六)に曰く、大武(七)、宅を遠くして渉らずと。此に從りて之を觀れば、楚國は援なり。鄰國は敵なり。詩(八)に曰く、躍躍(九)たる毚しき兎も、犬に遇ひて之に獲らる。他人志あり、予之を忖度すと。今王、中道(一〇)にして、韓・魏の王を善みするを信ず。此れ吳の越を親むなり。臣之を聞く、敵は假すべからず。時は失ふべからずと。臣恐らくは、韓・魏の辭を卑くし患を除きて、實は大國を欺かんことを。何となれば則ち王は、重世の德韓・魏に無くして、累世の怨(一一)あり。

㊀ 知伯は襄子　㊁ 人太原に屬す。知伯の弊られしところ　㊂ 吳の敗れしところの地名　㊃ 齊の地　㊄ 水

之强ニ韓魏一也。臣爲レ王慮而不レ取也。詩曰。大武遠レ宅而不レ渉。從レ此觀レ之。楚國援也。鄰國敵也。詩曰。躍躍毚兎。遇レ犬獲レ之。他人有レ志。予忖ニ度之一。今王中道而信ニ韓魏之善一レ王也。此呉之親レ越也。臣聞レ之。敵不レ可レ假。時不レ可レ失。臣恐韓魏卑レ辭除レ患。而實欺ニ大國一也。何則王無ニ重世之德於韓魏一。而有ニ累世之怨一焉。

邊なり、即ち千隧をいふ ㈥ 逸詩 ㈦ 武は足跡、宅は居といふに同じ 即ち、地の遠きに居る者は、大足ありと雖も、之に渉らずと也。一説、威武を大なる者は、遠く之を安定し、必ずしも其地に渉らずと也 ㈧ 詩經小雅巧言篇 ㈨ 躍躍は走る貌。毚兎は狡兎也。即ち、兎善く走ると雖も、或は時に犬に遇ひ、犬能く之を得。人心は知り難し。或は忖度すべしと也 ㈩ 半途に同じ ㈪ 秦を云ふ

夫韓魏父子兄弟。接レ踵而死ニ于秦一者。將ニ十世一矣。本國殘。社稷壞。宗廟隳。刳レ腹絶レ腸。折レ頸摺レ頤。身首分離。暴ニ骨草澤一。頭顱僵仆。相ニ望于境一。係レ臣束レ子。爲ニ羣虜一者。相ニ

夫れ韓・魏の父子兄弟、踵を接して秦に死する者、將に十世ならんとす。本國殘はれ、社稷壞れ、宗廟隳たれ、腹を刳り腸を絶ち、頞を折り頤を摺り、身首分離し、骨を草澤に暴し、頭顱僵れ仆し、境に相望む。臣を係ぎ子を束ねて羣虜と爲る者、路に相及べり。鬼神㈡潢洋として、㈢食する所なし。民は生を聊んぜず。㈣族類離散流亡して、僕妾と爲る者、海内に盈つ。故に韓・魏の亡びざるは、秦の社稷の憂なり。今王、之を資して與に楚を攻めんとす。亦過たずや。且つ王、楚を攻めば、將た惡にか兵を出さん。王、將た路を仇讎の韓・魏に藉らんか。兵を出

及於路。鬼神潰洋無レ所レ食。民不レ聊レ生。族類離散流亡。爲二僕妾一者。盈二海内一矣。故韓魏之不レ亡。秦社稷之憂也。今王齎レ之與攻レ楚。不二亦過一乎。且王攻レ楚。將惡出レ兵。王將藉二路於仇讎之韓魏一乎。出レ兵之日。而王憂二其不一レ反也。是王以レ兵資二於仇讎之韓魏一也。王若不レ借二路於仇

すの日にして、王其の反(四)らざらんことを憂ふるなり。是れ王、兵を以て仇讎の韓・魏に資するなり。王、若し路を仇讎の韓・魏に借らずんば、必ず隨水の右壤を攻めん。此れ皆廣川大水、山林谿谷、不食(五)の地なり。王之を有すと雖も、地を得と爲さず。是れ王、楚を毀つの名ありて、地を得るの實なきなり。且つ王、楚を攻むるの日、四國必ず悉(六)く兵を起して、以て王に應ず。秦楚の兵、構(七)して離れずんば、韓・魏氏、將に兵を出して、留方與銍胡陵碭蕭相を攻めんとせん。故に宋必ず盡きん。齊人南面(八)せば、泗北必ず擧る。此れ皆平原四達膏腴の地なり。而して獨り攻めしむ。王、楚を破りて、以て韓・魏を中國に肥くして、齊を勁くす。韓・魏の彊、以て秦を枝(九)ふに足る。齊は南は、泗水を以て境と爲す。東は海を負ひ、北は河に倚りて後患なし。

(一) 浩蕩に同じ、人に著かざる貌 (二) 人の之が爲に依るなしと也 (三) 類也 (四) 還也 (五) 墾耕せざる地の意
(六) 秦趙韓魏也 (七) 連也 (八) 南面して楚を攻むるをいふ (九) 支也、さゝふ

隷之韓魏一。必攻二隨水右壤一。此皆廣川大水。山林谿谷。不食之地也。王雖レ有レ之。不レ爲レ得レ地。是有三王毀レ楚之名一。而無二得レ地之實一也。且王攻レ楚之日。四國必悉起レ兵。以應レ王。秦楚之兵。構而不レ離。韓魏氏將三出レ兵而攻二留方與銍胡陵碭蕭相一。故宋必盡。齊人南面。泗北必舉。此皆平原四達膏腴之地也。而使二獨攻一。王破レ楚以肥二韓魏於中國一。而勁レ齊。韓魏之彊。足三以枝二於秦一。齊南以二泗水一爲レ境。東負レ海。北倚レ河。而無二後患一。

天下之國。莫レ彊二於齊魏一。齊魏得レ地保レ利。而詳二事下吏一。一年之後。爲レ帝未レ能。其於レ禁二王之爲一レ帝有レ餘矣。夫以二王壤土之博。人徒之衆。兵革之彊。一舉レ事而樹二怨於楚一。出二令韓魏一。

天下の國は、齊・魏より彊きは莫し。齊・魏、地を得、利を保ちて、下吏に詳り事へば、一年の後、帝たること未だ能はず。其の王の帝たるを禁ずるに於て、餘あらん。夫れ王の壤土の博き、人徒の衆き、兵革の彊きを以て、一たび事を擧げて、怨を楚に樹て、令を韓・魏に出し、帝の重きを齊に歸す。是れ王の失計なり。臣、王の爲に慮るに、楚に善くするに若くは莫し。秦・楚合して一と爲りて、以て韓に臨まば、韓は必ず手を拱せん。王、之に施すに東山の險を以てし、帶ぶるに曲河の利を以てせば、韓は必ず關内の侯と爲らん。是の若くにして、王、十萬を以て鄭を伐たば、梁氏は寒心せん。許・鄢陵は、城に嬰して、上蔡・召陵は往來せ

歸二帝重齊一。是王失計也。臣爲レ王慮。莫レ若レ善レ楚。秦楚合爲レ一。而以臨レ韓。韓必供レ手。王施レ之以二東山之險一。帶以二曲河之利一。韓必爲二關内之侯一。若レ是而王以二十萬一伐レ鄭。梁氏寒心。許鄢陵嬰レ城。而上蔡召陵不二往來一也。如レ此而魏亦關内侯。王一善レ楚。而關内兩萬乘之王。注入二地於齊一。齊於右壤可二拱レ手而取一也。王之地一桎二兩海一。要二約天下一。是燕趙無二齊楚一。齊楚無二燕趙一。然後危二動燕趙一。直搖二齊楚一。此四國者。不レ待レ痛而服也。昭王曰。善。於レ是乃止二白起一。謝二韓魏一。發レ使賂レ楚。約爲二與國一。黄歇受レ約歸レ楚。解二弱楚之禍一。全二彊秦之兵一。黄歇之謀也。

ざるなり。此の如くにして、魏も亦關内侯たらん。王、一たび楚に善くして、關内に兩の萬乘の王あり。注して地に齊に入れば、齊の右壤、手を拱して取るべきなり。王の地、一に兩海に桎し、天下を要約せん、是れ燕・趙に齊・楚なく、齊・楚に燕・趙なし。然して後に、燕趙を危動し、直に齊・楚を搖せば、此四國は痛を待たずして服せんと。昭王曰く、善しと。是に於て、乃ち白起を止め、韓・魏に謝し、使を發して楚に賂ひ、約して與國と爲り、黄歇、約を受けて楚に歸り弱楚の禍を解き、彊秦の兵を全うせり。黄歇が謀なり。

(一) 史記「出」を「遲」(スナハチ)に作る、史記に準ずれば、本文は「出令三韓魏歸二帝重齊一」と訓ずべきか

秦趙戰二於長

秦・趙、長平に戰ひ、趙勝たず、(一)都尉を亡ふ。趙王、樓昌と虞卿とを召し

平一。趙不レ勝。亡二一都尉一。趙王召三樓昌與二虞卿一曰。軍戰不レ勝。尉宛係死。寡人將三束レ甲赴二之。樓昌曰。無レ益也。不レ如發二重寶使一而爲レ構。虞卿曰。昌言レ構者。以爲不レ構軍必破也。而制レ構者在レ秦。且王之論レ秦也。欲レ破二王之軍一乎。不邪。王曰。秦不レ遺二餘力一矣。必且レ破二趙軍一。虞卿曰。王聽レ

て曰く、軍戰勝たず、尉宛係死す。寡人、將に甲を束ねて之に赴かんとすと。樓昌曰く、益なきなり。如かず、重寶使を發して構（二）を爲さんにはと。虞卿曰く、昌が構を言ふ者、以爲へらく、構せずんば、軍必ず破れんと。而して構（三）を制する者は秦に在り。且つ王の秦を論ずるや、王の軍を破らんと欲するか、不らざるかと。王曰く、秦は餘力を遺さず、必ず且に趙軍を破らんとせんと。虞卿曰く、王、臣に聽かば、使を發して重寶を出し、以て楚・魏に附せ。楚・魏、王の重寶を欲せば、必ず吾が使を內れん。吾が使、楚・魏に入らば、秦必ず天下を疑はん。恐らくは、天下の合從して、必ず心を一にすと。此の如くんば則ち、構乃ち爲すべしと。趙王聽かず。平陽君と構を爲し、鄭朱を發して秦に入らしむ。秦、之を內る。趙王、虞卿を召して曰く、寡人、平陽君をして、構を秦に爲さしむ。秦已に鄭朱を內る。虞卿以て如何と爲すと。對へて曰く、王構を得ず、軍必ず破れん。天下の戰勝を賀する者、皆秦に在り。鄭朱は貴人なり。而るに秦に入らば、秦王（四）、應侯

臣。發レ使出二重寶一以附二楚魏一。楚魏欲二王之重寶一。必內二吾使一。吾使入二楚魏一。秦必疑二天下之合從一。必一レ心。如レ此則構乃可レ爲也。趙王不レ聽。與二平陽君一爲レ構。發二鄭朱一入レ秦。秦內レ之。趙王召二虞卿一曰。寡人使三平陽君爲二構秦一。秦已內二鄭朱一矣。虞卿以爲二如何一。對曰。王不レ得レ構。軍必破矣。天下之賀二戰勝一者。皆在レ秦。鄭朱貴人也。而入レ秦。秦王與二應侯一。必顯重以示二天下一。楚魏以レ趙爲レ構。必不レ救レ王。則構不レ可レ得也。應侯果顯二鄭朱一。以示下天下賀二戰勝一者上。終不レ肯レ構。長平大敗。遂圍二邯鄲一。爲二天下笑一。不レ從二虞卿之謀一也。

と、必ず顯重して以て天下に示さん。楚・魏、趙を以て構を爲す、必ず王を救はずんば、則ち構、得べからざるなりと。應侯果して鄭朱を顯し、以て天下の戰勝を賀する者に示す。終に構を肯ぜず。長平大敗す。遂に邯鄲を圍まれ、天下の笑を爲せり。虞卿が謀に從はざればなり。

㊀軍尉也　㊁構・講と通ず、和也　㊂定也　㊃昭王也

秦既解二圍邯鄲一。而趙王入朝。使三趙郝約二事於秦一。割二六縣一而構。虞卿

秦既に圍を邯鄲に解きて、趙王入朝す。趙郝をして、事を秦に約せしむ。六縣を割きて構せんと。虞卿、趙王に謂つて曰く、秦の王を攻むるや、倦んで歸らんか。亡ろ其力尚ほ能く之を進むも、王を愛して攻めざるかと。王曰く、秦の我を攻む

謂二趙王一曰。秦之攻レ王也。倦而歸乎。亡其力尚能進レ之。愛レ王而不レ攻乎。王曰。秦之攻レ我也。不レ遺二餘力一矣。必以レ倦歸也。虞卿曰。秦以二其力一攻二其所レ不レ能レ取。倦而歸。王又攻二其力之所レ不レ能レ取以送レ之。是助レ秦自攻也。來年秦復攻レ王。王無レ救矣。王以二虞卿之言一告。趙郝曰。虞卿能量二秦力之所レ至乎。誠知二秦力之所レ不レ進。此彈丸之地不レ予。令三秦來年復攻二

るや、餘力を遺さず。必ず倦を以て歸らんと。虞卿曰く、秦、其力を以て、其の取る能はざる所を攻めて、倦んで歸る。王又其の力の取ること能はざる所を攻めて以て之を送る。是れ秦を助けて自ら攻むるなり。來年、秦復び王を攻めば、王救ふことなからんと。王、虞卿が言を以て告ぐ。趙郝曰く、虞卿、能く秦の力の至る所を量るか。誠に秦の力の進まざる所を知らば、此の彈丸の地も予へず。秦をして來年復び王を攻めしむ。王、其内を割きて構することなきを得んやと。王曰く、請ふ、子に聽きて割かん。子能く來年、秦の復び攻めざるを必せんやと。趙郝曰く、此れ臣〔一〕が敢へて任ずる所に非ざるなり。他日三晉の、秦に交ること相若けり。今秦、韓・魏に善みして王を攻む、王の秦に事ふる所以の者、必ず韓魏に如かざるなり。

〔一〕臣の力に及ばざる所なり

於王一。王得ㇾ無下割二其內一而構上乎。王曰。請聽ㇾ子割矣。子能必三來年秦之不二復攻一乎。趙郝曰。此非三臣所二敢任一也。他日三晉之交二於秦一相若也。今秦善二韓魏一而攻ㇾ王。王所二以事ㇾ秦者。必不ㇾ如二韓魏一也。

今臣之爲二足下一解二負ㇾ親之攻一。開ㇾ關通ㇾ幣。齊二交韓魏一。至二來年一而獨取二攻於秦一。王之所二以事ㇾ秦。必在二韓魏之後一也。此非三臣之所二敢任一也。王以告二虞卿一。虞卿對曰。郝言不ㇾ構。來年秦復攻ㇾ王。王得下無中復割二其內一而構上乎。今構郝又不ㇾ能ㇾ必三

今臣が足下の爲に、親に負くの攻を解き、關を開き幣を通じ、交を韓・魏に齊しうせん。來年に至りて、獨り攻むることを秦に取る、王の秦に事ふる所以は、必ず韓・魏の後に在らん。此れ臣が敢へて任ずる所に非ざるなりと。王以て虞卿に告ぐ。虞卿對へて曰く、郝云ふ、構せずんば、來年秦復た王を攻めん。王、復た其內を割きて構ずることなきを得んやと。今構ずとも、郝は又秦の復た攻めざるを必すること能はず。割くと雖も何の益あらん。來年復た攻めば、又其の力の取ること能はざる所を割きて以て構ず、此れ自ら盡くるの術なり。構ずるなきに如かず。秦は善く攻むと雖も、六縣を取ること能はず。趙は守る能はずと雖も、亦六城を失はず。秦倦みて歸らば、兵必ず疲れん。我れ五縣を以て天下を收め、以て罷秦を攻む、是れ我れ之を天下に失して、償を秦に取るなり。吾國尚ほ利あ

秦之不ニ復攻一也。雖レ割何益。來年復攻。又割ニ其力之所レ不レ能取以構。此自盡之術也。不レ如レ無レ構。秦雖ニ善攻一。不レ能レ取ニ六縣一。趙雖レ不レ能レ守。亦不レ失ニ六城一。秦倦而歸。兵必疲。我以ニ五縣一收ニ天下一。以攻ニ罷秦一。是我失ニ於天下一。而取ニ償於秦一也。吾國尚利。孰ニ與坐而割レ地。自弱以强レ秦。今郝曰。秦善ニ韓魏一而攻レ趙者。必王之事レ秦不レ如ニ韓魏一也。是使下王歲以ニ六城一事上レ秦也。坐而地盡。來年秦復來割。王將レ予レ之乎。不レ予是棄ニ前功一而挑ニ秦禍一也。予レ之即無ニ地而給一レ之。

り。坐して地を割き、自ら弱くして以て秦を強くすると孰與ぞ。今郝曰ふ、秦の韓・魏に善くして趙を攻むる者は、必ず王の秦に事ふること、韓・魏に如かざればなりと。是れ王をして歲に六城を以て秦に事へしむるなり。坐して地盡く。來年秦復た來りて割かんとせば、王將に之に予へんとするか。予へずんば、是れ前功を棄てて秦の禍を挑むなり。之に予へば、即ち地の之に給する無けん。(二)

(一) 閑所 (二) 供給すべき地なきに至らん

語曰。彊者善攻。而弱者不レ能レ守。今坐而聽レ秦。秦兵不レ弊。而多得レ地。

語に曰く、彊者は善く攻めて、弱者は守る能はずと。今坐して秦に聽かば、秦の兵弊えずして、多く地を得ん。是れ秦を彊くして、趙を弱くするなり。益〻彊きの秦を以て、愈〻弱きの趙を割く、(二)兵計固より止まず。且つ王の地は盡くるこ

是彊ㇾ秦而弱ㇾ趙也。以ㇾ益彊之秦一而割ㇾ愈弱之趙一。兵計固不ㇾ止矣。且王之地有ㇾ盡。而秦之求無ㇾ已。以ㇾ有ㇾ盡之地一。給ㇾ無ㇾ已之求一。其勢必無ㇾ趙矣。計未ㇾ定。樓緩從ㇾ秦來。趙王與ㇾ樓緩一計ㇾ之曰。予ㇾ秦地一與ㇾ無ㇾ予孰吉。緩辭讓曰。此非ㇾ臣之所ㇾ能知一也。王曰。雖ㇾ然試言ㇾ公之私一。樓緩對

とありて、秦の求は已むことなし。盡くるあるの地を以て、已むなきの求に給す、其勢必ず趙を無くせんと。計未だ定らざるに、樓緩、秦より來る。趙王、樓緩と之を計りて曰く、秦に地を予ふると、予ふること無きと、孰れか吉なると。緩、辭讓して曰く、此れ臣が能く知る所に非ざるなりと。王曰く、然りと雖も、試に公の私(二)を言へと。樓緩對へて曰く、亦夫の公父文伯(三)の母を聞きしか。公父文伯、魯に仕へて病死す。女子の、房中に自殺する者二人。其母之を聞き、肯へて哭せざるなり。其相室(四)曰く、焉ぞ子死して哭せざる者あらんやと。其母曰く、孔子は賢人なり。魯に逐はれて、是人(五)隨はざるなり。今死して、婦人爲に自殺する者二人。是の若き者は、必ず其の長者に於けるや薄くして、婦人に於けるや厚からんと。故に母として言へば、是れ賢母たり。妻として言へば、是れ必ず妬婦たるを免れず。故に其言は一なり。言ふ者異なれば、則ち人心變ず。

(一) 史記「其計故不ㇾ止矣」に作る　(二) 私心也　(三) 魯の大夫、公父穆伯の子、公父歜也　(四) 傅母の類をいふ　(五)

曰。亦聞二夫公父文伯母一乎。公父文伯仕二於魯一。病死。女子爲レ自殺二於房中一者二人。其母聞レ之。不二肯哭一也。其相室曰。焉有二子死而不レ哭者一乎。其母曰。孔子賢人也。逐二於魯一而是人不レ隨也。今死而婦人爲自殺者二人。若レ是者必其於二長者一薄。而於二婦人一厚也。故從レ母言。是爲二賢母一。從レ妻言。是必不レ免レ爲二妬婦一。故其言一也。言者異。則人心變矣。

あのが子を是人といへるは、之を子とせざるなり

今臣新從レ秦來。而言レ勿レ予。則非レ計也。言レ予レ之。恐王以二臣爲一レ秦也。故不二敢對一。使下臣得中爲二大王一計上。不レ如レ予レ之。王曰。諾。虞卿聞レ之曰。此飾說也。王愼勿レ予。樓緩聞レ之往見レ王。王又以二

今臣新に秦より來る。而して予ふる勿れと言へば、則ち計に非ざるなり。之を予へよと言へば、恐らくは王の、臣、秦の爲にすと以はんことを。故に敢へて對へず。臣をして、大臣の爲に計るを得しめば、之を予ふるに如かずと。王曰く、諾と。虞卿之を聞きて曰く、此れ飾說なり。王、愼んで予ふる勿れと。樓緩之を聞き、往きて王に見ゆ。王又虞卿の言を以て、樓緩に告ぐ。樓緩對へて曰く、然らず。虞卿は、其一を得て其二を得ず。夫れ秦趙、難を構へて、天下皆說ぶは何ぞや。曰く、吾れ且に彊に因りて、弱に乘ぜんとすと。今趙の兵、秦に困む。天下の戰勝を賀する者、必ず盡く秦に在らん。故に亟に地を割きて和を

虞卿之言一告二樓緩一。樓緩對曰。不レ然。虞卿得二其一一。不レ得二其二一。夫秦趙構レ難。而天下皆說何也。曰。吾且二因レ彊而乘上レ弱矣。今趙兵困二於秦一。天下之賀二戰勝一者。必盡在二於秦一矣。故不レ如下亟割レ地爲レ和。以疑二天下一。而慰中秦之心上。不レ然天下將因二秦之怒一。乘二趙之弊一。而瓜二分之一。趙見レ亡何秦之圖乎。故曰。虞卿得二其一不レ得二其二一。願王以レ此決レ之。勿二復計一也。虞卿聞レ之。往見レ王曰。危哉。樓子之所三以爲二秦者。是愈疑二天下一。而何慰二秦之心一哉。獨不レ言レ示二天下弱一乎。且臣言レ勿レ予。非二固勿一レ予而已一也。

爲し、以て天下を疑はしめて、秦の心を慰むるには如かず。然らずんば、天下將に秦の怒に因り、趙の弊に乘じて、之を瓜分せん。(三)趙亡さるれば、何の秦を之れ圖らんや。故に曰く、虞卿は、其一を得て、其二を得ずと。願はくは王、此を以て之を決し、復び計ること勿れと。虞卿之を聞き、往きて王に見えて曰く、危いかな。樓子の秦の爲にする所以の者、是れ愈よ天下を疑はしめん。而して何ぞ秦の心を慰せんや。獨り天下に弱を示すと言はざらんや。且つ臣が予ふる勿れと言ふは、固く予ふること勿くして已むに非ざるなり。

(一) 鐍は、飾に同じ (二) 陵に同じ、しのぐ也 (三) 其地を分つこと、破瓜のごとくするをいふ

秦索二六城於

秦は、六城を王に索む。而るに王、六城を以て齊に賂へ。齊は秦の深讎なり。王

王一。而王以二六城一賂レ齊。齊秦之深讎也。得二王之六城一。幷レ力而西擊レ秦。齊之聽レ王。不レ待二辭之畢一也。則是王失二之於齊一。而取二償於秦一也。而齊趙之讎。可二以報一矣。而示三天下有二能爲一也。王以レ此爲レ發レ聲。兵未レ窺二於境一。臣見二秦之重賂。而反構一於王一也。從レ秦爲レ構。韓魏聞レ之。必盡重レ王。

の六城を得ば、力を幷せて、西のかた秦を擊たん。齊の王に聽くこと、辭の畢るを待たざるなり。則ち是れ王、之を齊に失ひて、償ひを秦に取るなり。而して齊・趙の讎、以て報ずべし。而して天下に能く爲すことあるを示すなり。王、此を以て聲を發するを爲さば、兵未だ境を窺はざるに、臣は、秦の重賂して、反つて王に構するを見ん。秦に從ひて構を爲さば、韓・魏之を聞きて、必ず盡く王を重んぜん。王を重んぜば、必ず重寶を出して、以て王に先んぜん。則ち是れ王一擧して、三國の親を結びて、秦と道を易ふるなりと。(一)趙王曰く、善しと。卽ち虞卿を發して、東のかた、齊王(二)に見え、之と秦を謀る。虞卿の謀行はれて、趙、霸たり。是れ存亡の樞機(三)なり。樞機の發は、間、踵を旋らすに及ばず。是の故に、虞卿一言して、秦を之れ震慴せしめ、風に趨き、馳指して構を請ふ。故に善謀の臣は、其の國に於ける、豈に重からずや。虞卿微りせば、趙は以て亡びん。

(一) 地位を易ふる意　(二) 王建也　(三) 極めて大切なるをいふ。樞は戸樞、機は弩牙

重王必出重寶以先於王。則是王一擧而結三國之親。而與秦易道也。趙王曰。善。卽發謀卿。東見齊王。與之謀秦。虞卿之謀行而趙霸。此存亡之樞機。樞機之發。間不及旋踵。是故虞卿一言。而秦之震懼。趙風馳指而請構。故善謀之臣。其於國豈不重哉。微虞卿趙以亡矣。

魏請爲從。趙孝成王召虞卿謀。過平原君。平原君曰。願卿之論從也。虞卿入見。王曰。魏請爲從。對曰。魏過。王曰。寡人固未之許。對曰。王過。王曰。魏請從。卿曰。魏過。寡人未之許。又曰。寡人過。然則從終

魏、從を爲さんと請ふ。趙の孝成王、虞卿を召して謀る。平原君に過る。平原君曰く、願はくは卿の從を論ぜんことをと。虞卿入りて見ゆ。王曰く、魏、從を爲さんと請ふと。對へて曰く、魏過てりと。王曰く、寡人固より未だ之を許さずと。對へて曰く、王、過てりと。王曰く、魏、從を請ふと。卿曰く、魏過てりと。寡人夫だ之を許さざるなりと、又曰ふ、寡人過てりと。然らば則ち從終に可ならざるかと。對へて曰く、臣聞く、小國の大國に與ける、從事するなり。利あれば大國、福を受け、敗あれば小國、禍を受く。今魏、小を以て其禍を請ひ、而して王は大を以て其福を辭す。臣故に曰く、王は過てり。魏も亦過りてと。竊に以爲へらく、從便なりと。王曰く、善しと。乃ち魏に合して從を爲せ

り。虞卿をして久しく趙に用ひられしめば、趙必ず霸たらん。虞卿、魏齊が事を以て、侯を棄て相を捐てて歸るに會ひて用ひられず。趙旋ち亡びたり。

㊀魏齊の魏の相、應侯と仇なり、秦之を求むること急なり。乃ち虞卿に抵る。虞卿、相印を棄てて、乃ち齊と間行し、亡げて梁に歸りしをいふ

不レ可邪。對曰。臣聞。小國之與二大國一從事也。有レ利大國受レ禍。有レ敗小國受レ禍。今魏以レ小請二其禍一。而王以レ大辭二其禍一。臣故曰。王過。魏亦過。竊以爲從便。王曰。善。乃合レ魏爲レ從。使三虞卿久用二於趙一。趙必霸。會下虞卿以二魏齊之事一棄レ侯捐レ相而歸上不レ用。趙旋亡。

沛公與二項籍一俱受二令於楚懷王一曰。先入二咸陽一者王レ之。沛公將下從二武關一入上。至二南陽一守戰。南陽守齮。保二宛城一。堅守不レ下。沛公引レ兵圍レ宛三匝。南陽守欲二自殺一。其舍人陳恢止レ之曰。死未レ晩也。於レ是恢乃踰レ城

卷第十

善謀下第十

沛公、項籍と俱に、令を楚の懷王に受く。(一)曰く、先づ咸陽に入らん者は、之を王とせんと。沛公は將に武關より入らんとす。南陽に至りて守戰す。南陽の守齮、宛城(二)を保し、堅く守りて下らず。沛公、兵を引きて宛を圍むこと三匝(三)、南陽の守、自殺せんと欲す。其舍人陳恢、之を止めて曰く、死未だ晩からざるなりと。是に於て、恢乃ち城を踰えて(四)、沛公に見えて曰く、臣聞く、足下約す、先づ咸陽に入らん者は、之に王たらんと。今足下、兵を留めて盡日宛を圍む。宛は大郡の都なり。連城數十、人民衆く蓄積多し。其吏民自ら以爲へらく、降らば而ち死せん(五)と。故に皆堅守して城に乘る(六)。足下之を攻む。死傷者必ず多からん。死者未だ收めず。傷者未だ瘳えず。足下、日を曠しうせば、則ち事留らん。兵を引い

見二沛公一曰。臣聞足下約。先入二咸陽一者王レ之。今足下留レ兵。盡日圍レ宛。宛大郡之都也。連城數十。人民衆。蓄積多。其吏民自以爲降而死。故皆堅守乘レ城。足下攻レ之。死傷者必多。死者未レ收。傷者未レ瘳。足下曠レ日則事留。引レ兵而去。宛完二繕弊甲一。砥二礪凋兵一。而隨二足下之後一。足下前則失二咸陽之約一。後有二強宛之患一。竊爲二足下一危レ之。爲二足下一計者。莫レ如下約二宛守一降封レ之。因使レ止守一。引二其甲卒一。與レ之西擊二諸城未レ下者一。聞レ聲爭開レ門而待二足下一。通行無レ所レ累。沛公曰。善。乃以二宛守一爲二殷侯一。封二陳恢千戶一。引レ兵西無レ不レ下者。遂先入二咸陽一。陳恢之謀也。

て去らば、宛、弊甲を完繕し、凋兵を砥礪して、足下の後に隨はん。足下、前には則ち咸陽の約を失し、後には強宛の患あり。竊に足下の爲に之を危む。足下の爲に計るには、宛の守に約して、降らば之を封じ、因つて止つて守らしめ、其甲卒を引ゐて、之と西して、諸城の未だ下らざる者を擊ち、聲を聞きて爭ひて門を開きて足下を待ち、通行に累さるゝ所なきに如くは莫けんと。沛公曰く、善しと。乃ち宛の守を以て殷侯と爲し、陳恢を千戸に封じ、兵を引ゐて西するに、下らざる者なし。遂に先づ咸陽に入りしは、陳恢の謀なり。

(一) 項梁が楚の懷王の孫心を求め立てゝを以て、懷王となしゝなり　(二) 宛は南陽の縣　(三) 匝は圍也、かこみ
(四) 親近左右の通稱なり、後遂に以て司屬の官號となせり　(五) 則に同じ　(六) 登也、城に上りて守るをいふ

漢王既用二滕公蕭何之言一。擢拜二韓信一爲二上將軍一。引二信上坐一。王問曰。丞相數言二將軍一。將軍何以教二寡人計策一。信謝。因問レ王曰。今東向爭二權天下一。豈非二項王一耶。曰然。大王自斷。勇仁悍强。孰二與項王一。漢王默然。良久曰。不レ如也。信再拜賀曰。唯信亦以爲大王不レ如也。然臣嘗事レ楚。請言二項王爲一レ人。項王喑噁叱咤。千人皆廢。然不レ能三任二屬賢將一。此匹夫之勇耳。

漢王、既に滕公(一)・蕭何の言を用ひ、擢でて韓信を拜し、上將軍と爲し、信を上坐に引く。王問ひて曰く、丞相數ば將軍を言ふ。將軍何を以て、寡人に計策を敎へんと。信、謝す。因つて王に問ひて曰く、今東に向ひて、權を天下に爭ふは、豈に項王に非ずやと。曰く、然りと。大王自ら斷ずるに、勇仁悍强(二)、項王に孰與(三)ぞと。漢王、默然たり。良久しうして曰く、如かざるなりと。信、再拜して賀して曰く、唯だ信も亦以爲へらく、大王は如かずと。然れども、臣嘗て楚に事ふ。請ふ、項王の人と爲りを言はん。項王、(四)喑噁叱咤すれば、千人皆廢(五)す。然も賢將に任屬(六)すること能はず。此れ匹夫の勇のみ。

(一) 滕公は夏侯嬰なり、嬰、滕の令となりて事を奉ず故に滕公と號す、蕭何は沛の人、相國たり (二) 悍は勇也 (三) 與は如也 (四) 喑噁は怒氣をふくむ也、叱咤は發怒の聲 (五) 伏也 (六) 屬は委也

項王見レ人恭謹。言語呴呴。人疾病。涕泣分二食飲一。至レ使三人有レ功當二封爵一。印刓綬弊。忍不レ能レ與。此所レ謂婦人之仁。項王雖下霸二天下一而臣中諸侯上。不レ居二關中一都二彭城一。又背二義帝約一而以二親愛一王。諸侯不平。諸侯之見三項王遷二逐義帝江南一。亦皆歸逐二其主一。自王二善地一。項王所レ過。無レ不二

項王、人を見る恭謹、言語呴呴(一)、人の疾病あるときは、涕泣して食飲を分つ。人の功ありて、當に封爵すべからしむるに至りては、印刓れ綬弊るれども、忍びて與ふること能はず。此れ所謂婦人の仁なり。項王、天下に霸となりて、諸侯を臣とすと雖も、關中に居らずして、彭城に都す。又(二)義帝の約に背きて、親愛を以て王とす。諸侯不平なり。諸侯が、項王の義帝を江南に遷し逐ふを見て、亦皆歸りて其主を逐ひ、自ら善地に王たり。項王の過ぎる所、殘滅せざるなし。怨多くして百姓附かず。特に威に劫され、强ひて服するのみ。名は(三)霸王たりと雖も、實は天下の心を失へり。故に曰く、其强は弱めしめ易しと。今大王誠に其道に反り、天下の武勇に任ぜは、(四)何か誅せざらん。天下の城邑を以て功臣を封ぜば、何か服せざらん。義兵を以て、東歸を思ふの士を從へば、(五)何か散ぜざらん。

(一) 筋の立ちて亂れざる也　(二) 漢の元年十月、沛公先づ咸陽に入る。項羽後れて至る。羽、人をして還りて懷王に報ぜしむ。懷王曰く、約の如くせよと。羽怒る、乃ち佯りて懷王を尊び、義帝となし、實は其命を用ひざりしをいふ　(三) 羽自ら西楚の霸王と號せしをいふ　(四) 誅し得ざる所なしと也　(五) 敵の散敗せざるなきをいふ

殘滅一。多レ怨百姓不レ附。特劫二於威一。強服耳。名雖レ爲二霸王一。實失二天下之心一。故曰。其強易レ弱。今大王誠反二其道一。任二天下武勇一。何不レ誅。以二天下城邑一封二功臣一。何不レ服。以二義兵一從中思二東歸一之士上。何不レ散。

且三秦王爲二秦將一。秦弟子數歲所二殺亡一。不レ可二勝計一。又欺二其衆一降二諸侯一。至二新安一。項王詐坑二秦降卒二十餘萬人一。唯獨邯欣翳脫。秦父兄怨二此三人一。痛入二骨髓一。今楚強以レ威王二此三人一。秦民莫レ愛。大王之入二武關一。秋毫無レ所レ害。除二秦苛

且つ三秦(一)の王は、秦の將たり。秦の弟子の數歲に殺亡する所、勝げて計るべからず。又其衆を欺きて、諸侯に降れり。新安に至り、項王詐つて、秦の降卒二十餘萬人を坑にす。唯だ獨り邯・欣・翳のみ脫せり(二)。秦の父兄、此三人を怨み、痛み骨髓に入る。今楚強ひて威を以て、此三人を王とす、秦民、愛すること莫し。大王の武關に入る、秋毫も害する所なし。秦の苛法を除き、秦と法三章(三)を約す。且つ秦の民、大王の秦に王たるを得ると欲せざる者なし。諸侯の約に於て、大王は當に關中に王たるべし。民、戶(四)ごとに之を知る。大王の、職を失ひて蜀に之くや、民、恨みざる者なし。今大王、擧して東せば、三秦は、檄(五)を傳へて定むべきなりと。是に於て、漢王喜ぶ。自ら以爲へらく、信を得しこと晩しと。遂に信が計を聽き、諸將の擊つ所を部署せり(六)。八月、漢王東に出で、秦の民、漢王に歸

法一。與レ秦約二法三章一。且秦民無下不レ欲レ得二大王王一レ秦者上。於二諸侯約一。大王當レ王二關中一。民戸知レ之。大王失レ職之レ蜀。民無二不レ恨者一。今大王擧而東。三秦可二傳レ徼而定一也。於レ是漢王喜。自以爲レ得レ信晩。遂聽二信計一。部二署諸將所一レ擊。八月漢王東出民。秦歸二漢王一。遂誅二三秦王一。定二其地一。收二諸侯兵一。討二項王一。定二帝業一。韓信之謀也。

す。遂に三秦の王を誅して、其地を定め、諸侯の兵を收めて項王を討ち、帝業を定めしは、韓信が謀なり。

(一) 漢の元年、項羽、章邯を立てて雍王となし、司馬欣を塞王となし、董翳を翟王となし、號して三秦といへり (二) [illegible]也 (三) 人を殺す者は死せしめ、人を傷け又盜むは、罪に抵るの三章なり (四) 家家皆知るをいふ (五) 徼[illegible]也 徼を傳へて定むべしとは、兵は用ふるに足らざるをいへるなり (六) 分ちて役に置くなり

趙地亂。武臣張耳陳餘。定二趙地一。立二武臣一爲二趙王一。張耳爲レ相。陳餘爲二將軍一。趙王間出。爲二燕軍所一レ得。燕囚レ之。欲二

趙の地亂る。(一)武臣・張耳・陳餘、趙地を定む。武臣を立て、趙王と爲し、張耳を相と爲し、陳餘を將軍と爲す。趙王間出して(二)燕軍の得る所と爲り、燕之を囚ふ。(三)與に其地を三分して、乃ち王を歸さんと欲す。使者、燕に至れば輒ち之を殺し、以て固く地を求む。張耳・陳餘之を患ふ。(四)廝養の卒あり、其舍中の人に謝して曰く、吾れ公の爲に燕に說き、趙王と載りて歸らんと。舍中の人皆之を笑ひて

與三下分其地上乃歸レ王。使者至レ燕輒殺レ之。以固求レ地。張耳陳餘患レ之。有二廝養卒一謝二其舍中人一曰。吾爲レ公說レ燕。與二趙王一載歸。舍中人皆笑レ之曰。使者往十輩死。若何以能得レ王。廝養卒曰。非二若所レ知。乃洗沐往見。張耳陳餘遣行。見二燕王一。燕王問レ之。對曰。賤人希見二長者一。願復請二一卮酒一。已飲。又問レ之。復曰。賤人希見二長者一。願復請二一卮酒一。與二之酒一。卒曰。王知二臣何欲一。燕王曰。欲レ得二而王一耳。卒曰。君知二張耳陳餘何人一也。燕王曰。賢人也。曰。君知二其意何欲一。曰欲レ得二其王一耳。

曰く、使者往くこと十輩にして死す。若(七)何を以てか能く王を得んと。廝養の卒曰く、若が知る所に非ずと。乃ち洗沐して往きて見ゆ。張耳・陳餘遣り行る。燕王に見ゆ。燕王之を問ふ、對へて曰く、賤人希に長者に見ゆ。願はくは復た一卮酒を請はんと。已に飲す、又之に問ふ。復曰く、賤人希に長者に見ゆ。願はくは復一卮酒を請ふと。(八)之に酒を與ふ。卒曰く、王、臣は何をか欲すると知ると。燕王曰く、(九)而が王を得んと欲するのみと。卒曰く、君は、張耳・陳餘を何人と知るかと。燕王曰く、賢人なりと。曰く、君は、其意何を欲すと知ると。曰く、其王を得んと欲するのみと。

(一) 武臣は陳の人、張耳・陳餘は皆大梁の人 (二) 間隙に乘じて微に出づるをいふ (三) 之を要約し、趙地を割きて燕に輸り、以て和解せしめんとするなり (四) 廝は薪を取る者養は食を調進するもの (五) 舍宿する所の主人をいふ (六) 辭を以て相告ぐるを謝といふ (七) 汝也 (八) 角にてつくれる杯、四升を受く (九) 汝也

趙卒笑曰。君未レ知二兩人所一レ欲也。夫武臣張耳陳餘。杖二馬策一。下二趙數十城一。此亦各欲二南面而王一。豈爲二卿相一哉。夫臣與レ主豈可二同日道一哉。顧其勢始定。未二敢三分而王一。且以二長少一。先立二武臣一爲レ王。以持二趙心一。今趙地已服二此兩人一。亦欲二分レ趙而王一。時未レ可耳。今君囚二趙王一。此兩

趙卒笑ひて曰く、君は未だ兩人の欲する所を知らざるなり。夫れ武臣・張耳・陳餘は、(一)馬策を杖きて、趙の數十城を下す。此れ亦各〻南面して王たらんと欲す。豈に卿相を爲さんや。夫れ臣と主とは、豈に同日にして道ふべけんや。(二)顧ふに其勢始めて定る。未だ敢へて三分して王たらず。且つ長少を以て先づ武臣を立てて王と爲し、以て趙の心を持せん。今趙の地、已に此の兩人に服す。亦趙を分ちて王たらんと欲すれども、時未だ可ならざるのみ。今君、趙王を囚ふ。此の兩人、名は趙王を求むと爲せども、實は燕の之を殺さんことを欲す。此の兩人、趙を分ちて自立せば、夫れ一趙を以てすら、尚ほ燕を(三)易る。況んや兩の賢主、(四)左提右挈、直義を執りて、以て不直の弱燕を責めば、滅すると日無けんと。燕王以て然りと爲し、乃ち趙王を遣る。養卒、御と爲りて歸る。遂に國に反るを得て、復た立てて王と爲せるは、趙卒の謀なり。

(一) 武器を用ひずして馬策するのみなるをいふ　(二) 思念也　(三) 輕也　(四) 相扶持するをいふ

人名爲レ求ニ趙王一。實欲ニ燕殺一レ之。此兩人分レ趙自立。夫以ニ一趙一尙易レ燕。況兩賢王。左提右挈。執ニ直義一而以責ニ不直之弱燕一。滅無レ日矣。燕王以爲レ然。乃遣ニ趙王一。養卒爲レ御而歸。遂得レ反レ國。復立爲レ王。趙卒之謀也。

酈食其號ニ酈生一。說ニ漢王一。臣聞レ之。知ニ天之天一者。王事可レ成。不レ知ニ天之天一者。王事不レ可レ成。王者以レ民爲レ天。而民。以レ食爲レ天。夫廒倉天下轉輸久矣。臣聞。其下乃有ニ藏粟一甚多。楚人拔ニ滎陽一。不ニ堅守ニ廒倉一。乃引而東。令ニ謫過卒分守ニ成皐一。

（一）酈食其、酈生と號し、漢王に說く。臣之を聞く、（二）天の天を知る者は、王事成るべし。天の天を知らざる者は、王事成るべからずと。王は者民を以て天と爲し、民は食を以て天と爲す。夫れ（三）廒倉は、天下の轉輸久し。臣聞く、其下に乃ち藏粟あり。甚だ多しと。楚人、滎陽を拔ひ、堅く廒倉を守らず。乃ち引きて東す。（四）謫過の卒をして、分れて（五）成皐を守らしむ。此れ乃ち天の漢を資くる所以。方に今楚は、取り易し。而るを（六）漢、反つて却きて自ら其便を奪ふ。臣竊に以爲へらく、過てりと。且つ兩雄は倶に立たず。楚・漢久しく相持して決せず。百姓騷動し、海內搖蕩し、農夫は耒を釋て、工女は機を下る。天下の心、未だ定る所あらざるなり。願はくは陛下急に復た兵を進めて、滎陽を收取し、廒倉の粟に據り、成皐の險を塞ぎ、（七）太行の路を杜ぎ、（八）蜚狐の口を距ぎ、白馬の津を守りて、以て諸侯に形制の

此乃天所以資漢。方今楚易取。而漢反卻自奪其便。臣竊以爲過矣。且兩雄不俱立。楚漢久相持不決。百姓騷動。海內搖蕩。農夫釋耒。工女下機。天下之心。未有所定也。願陛下急復進兵。收取滎陽。據敖倉之粟。塞成皐之險。杜太行之路。距蜚狐之口。守白馬之津。以示諸侯形制之勢。則天下知所歸矣。漢王曰。善。乃從其計。復守敖倉。卒糧食不盡。以擒項氏。其後吳楚反。將軍竇嬰周亞夫。復據敖倉。塞成皐。如前。以破吳楚。皆酈生之謀也。

勢を示さば、則ち天下歸する所を知らんと。漢王曰く、善しと。乃ち其計畫に從ひ、復た敖倉を守り、卒に糧食盡きずして、以て項氏を擒にせり。其後吳・楚の反するや、將軍竇嬰(九)周亞夫、復た敖倉に據り、成皐を塞ぐこと前の如くにして、以て吳・楚を破れり。皆酈生が謀なり。

❶ 陳留高陽の人 ❷ 管子に出づ ❸ 今鄭州滎陽縣石門の東に在り、北は汴水に臨み、南、三皇山を帶ぶ、秦の始皇の時、倉を敖山の上に置く、故に、之を名づけて敖倉といふ ❹ 卒の罪あるをいふ ❺ 汜水縣の山 ❻ 敖倉の粟を取らずといふは、是れ漢自ら其便利を奪ふなりと也 ❼ 山の名、河內野王の北、上黨の南に在り ❽ 代郡の西南に在り ❾ 竇嬰は、孝文后の從兄の子、周亞夫は周勃の子

酈生說漢王曰。方今燕趙已復。唯齊未

酈生、漢王に說きて曰く、方に今、燕趙已に復す。唯だ齊のみ未だ下らず。今(一)田廣、千里の齊に據り、田閒、二十萬の軍に歷城に據り、諸田の宗強、海を負

下。今田横據ニ千里之齊一。田間據ニ二十萬之軍於歴城一。諸田宗强。負レ海阻レ河。濟南近レ楚。民多ニ變詐一。陛下雖レ遣ニ數十萬師一。未レ可下以ニ歳月一下上也。臣請。奉ニ明詔一說ニ齊王一。令レ稱ニ東藩一於レ是使三酈生食其說ニ齊王一曰。王知ニ天下之所一レ歸乎。王曰。不レ知也。曰。王知ニ天下之所レ歸。則齊國可ニ得而有一也。若不レ知ニ天下所レ歸。則齊國未レ可レ保也。齊王曰。天下何歸。曰歸ニ漢王一。曰先生何以言レ之。曰漢王與ニ項王一戮レ力。西面擊レ秦。約先入ニ咸陽一者王レ之。漢王先入ニ咸陽一。項王倍レ約不レ與。而王ニ漢中一。項王遷ニ殺義帝一。

ひ河を阻み、濟南は楚に近くして、民に變詐多し。陛下、數十萬の師を遣ると雖も、未だ歳月を以て下すべからざるなり。臣請ふ、明詔を奉じて齊王に說き、東藩と稱せしめんと。是に於て、酈生食其をして、齊王に說かしむ。曰く、王は、天下の歸する所を知るかと。王曰く、知らざるなりと。曰く、王、天下の歸する所を知らば、則ち齊國は得て有つべきなり。若し天下の歸する所を知らずば、則ち齊國は未だ保つべからざるなりと。齊王曰く、天下に何にか歸せんと。曰く、漢王に歸せんと。曰く、先生何を以て之を言ふと。漢王、項王と力を戮せ、西面して秦を擊つ。約す、先づ咸陽に入る者は、之を王たらんと。漢王先づ咸陽に入る。項王、約を倍きて與へず。而して漢中に王とす。項王、義帝を遷殺す。

● 田横、田榮の子廣を立て齊王と爲し、橫之に相として國政を專にせり

漢王起二蜀漢之兵一。擊二三秦一出レ關而責二義帝之處一。收二天下之兵一。立二諸侯之後一。降城即以侯二其將一。得レ賂即以予二其士一。與二天下一同二其利一。豪桀賢才。皆樂レ爲二其用一。諸侯之兵。四面而至。蜀漢之粟。方レ船而下。項王有二倍レ約之名。殺下義帝上之實一。於二人之功一無レ所レ記。於二人之過一無レ所レ忘。戰

漢王、蜀漢の兵を起し、三秦を擊ち、關を出でて義帝の處を責む。天下の兵を收め、諸侯の後を立て、降城は卽ち以て其將を侯とし、賂を得ば卽ち以て其士に予へ、天下と其利を同じうせり。豪桀賢才、皆樂んで其用を爲す。諸侯の兵、四面して至る。蜀漢の粟、船を方べて下る。項王は、約に倍くの名、義帝を殺するの實あり。人の功に於て記する所なし。人の過に於て忘るゝ所なし。戰勝てども其賞を得ず。城を拔けども其封を得ず。項氏に非ずんば、得て事を用ふること莫し。人の爲に印を刻み、刓るれども授くること能はず。城を攻めて賂を得、財を積みても賞すること能はず。天下之に畔き、賢才之を怨む。而も之が用を爲すこと莫し。故に天下の事、漢王に歸せんこと、坐して策るべきなり。夫れ漢王蜀漢を發し、三秦を定め、西河の外を涉り、上黨の兵に乘じ、井陘を下りて、成安を誅し、北魏を破りて、三十二城を擧す。此れ蚩尤が兵にて、人の力にあらざるなり。今已に敖倉の粟に據り、成皐の險を塞ぎ、白馬の津を守り、太行の阪

勝而不得其賞。拔城而不得其封。非項氏莫得用事。爲人刻印。刓而不能授。攻城得賂。積財而不能賞。天下畔之。賢才怨之。而莫爲之用。故天下之事。歸於漢王。可坐而策也。夫漢王發蜀漢。定三秦。涉西河之外。乘上黨之兵。下井陘。誅成安。破北魏。擧三十二城。此蚩之兵。非人之力也。今已據厫倉之粟。塞成皐之險。守白馬之津。杜太行之阪。距蜚狐之口。天下後服者先亡矣。王疾下漢王。齊國社稷。可得而保也。不下漢王。危亡可立而待也。田橫以爲然。卽聽酈生。罷歷下兵。戰守之備。與酈

を杜ぎ、蜚狐の口を距ぐ。天下の後に服する者は、先に亡びん。王疾く漢王に下らば、齊國の社稷は、得て保つべきなり。漢王に下らずんば、危亡、立ちて待つべしと。田橫以て然りと爲す。卽ち酈生に聽きて、歷下の兵、戰守の備を罷む。酈生と日(四)に縱酒す。此れ酈生の謀なり。齊人蒯通、韓信に說きて、足下詔を受けて齊を擊ち、何の故に止る。三軍の衆に將として、一(五)豎儒の功に如かざる、齊の備なきに因りて、之を擊つべしと曰ふ。韓信之に從ふ。(六)酈生は田橫の害する所と爲り、(七)後に信通も亦其所を得ざるは、不仁に由るなり。

(一) 併也　(二) 項羽、爵賞を吝みて舊惡を念ふをいふ　(三) 黄帝の率ゐし神兵　(四) 日々意をほしいまゝにして酒を飲む也　(五) 其賤劣無智童豎の如きをいふ　(六) 田廣、信の兵至るを聞き乃ち以爲へらく、酈生おのれを賣ると遂に之を烹しなり　(七) 漢の十一年に、呂后武士をして信を縛し、之を斬らしむ。信曰く吾悔ゆらく、蒯通の計を用ひざること。乃ち齊に詔して蒯通を捕へしめしをいふ

生一日縦酒。此酈生之謀也。及丁齊人蒯通說二韓信一曰丙足下受レ詔撃レ齊。何故止。將二三軍之衆一。不レ如二一豎儒之功一。可乙因二齊無一レ備撃甲レ之。韓信從レ之。酈生爲二田横所一レ害。後信通亦不レ得二其所一。由二不仁一也。

漢三年。項羽急圍二漢王滎陽一。漢王恐憂。與二酈生一謀レ撓二楚權一。酈生曰。昔湯伐レ桀。封二其後於杞一。武王伐レ紂。封二其後於宋一。今秦無レ德棄レ義。侵二伐諸侯社稷一。滅二六國之後一。使レ無二立錐之地一。陛下誠復立二六國後一。畢授レ印已。此君臣百姓。必皆

漢の三年、項羽急に漢王を滎陽に圍む。漢王、恐憂す。酈生と、楚の權を撓むるを謀る。酈生曰く、昔湯、桀を伐ちて、其後を杞に封じ、武王、紂を伐ちて、其後を宋に封ぜり。今秦は、德なくして義を棄つ。諸侯の社稷を侵伐し、六國の後を滅して、立錐の地なからしむ。陛下、誠に復た六國の後を立て、畢く印を授けんのみ。此れ君臣百姓、必ず皆陛下の德を戴きて、風に嚮ひ義を慕ひ、臣妾たるを願はざる莫し。德義已に行はれ、陛下南嚮して霸を稱せば、楚は必ず衽を斂めて朝せんと。漢王曰く、善し。趣に印を刻み、先生因りて行きて之を佩びしめよと。酈先生未だ行かず。張良、外より謁を求む。漢王、食に方る。曰く、子房前め、客、我が爲に楚權を撓めんことを計る者あり。具に食其の言を以て、之に告げて曰く、其れ子房が意に於て如何と。良曰く、誰か陛下の爲に此

戴二陛下德一。莫レ不二嚮レ風慕一レ義。願レ爲二臣妾一。德義已行。陛下南嚮稱レ霸。楚必斂レ衽而朝。漢王曰。善。趣刻レ印。先生因行佩レ之矣。酈先生未レ行。張良從レ外來レ謁。漢王方レ食曰。子房前。客有下爲レ我計レ撓二楚權一者上。具以二食其言一告レ之曰。其於二子房意一如何。良曰。誰爲二陛下一畫二此計一者。陛下事去矣。

計を畫せる者ぞ。陛下の事去れりと。

(一) 弱也　(二) 衣襟也　(三) 六國に授與して帶びしめよと也

漢王曰。何哉。良對曰。臣請。借二前箸一而籌レ之。曰。昔湯伐レ桀。而封二其後於杞一者。斯能制二桀之死命一也。陛下能制二項籍之死命一乎。曰未レ能也。其不可一也。武王伐レ紂。而封二其後於宋一

漢王曰く、何ぞやと。良對へて曰く、臣請ふ、前箸(一)を借りて之を籌らん。曰く、昔湯、桀を伐ちて、其後を杞に封ぜし者は、斯れ能く桀が死命を制すればなり。陛下能く項籍の死命を制せんかと。曰く、未だ能はずと。其不可なる一なり。武王、紂を伐ちて、其後を宋に封ぜし者は、斯れ能く紂の頭を得たればなり。今陛下能く項籍が頭を得んかと。曰く、未だ能はざるなりと。其不可なる二なり。武王殷に入り、商容(二)が閭(三)を表し、箕子が門に軾し、比干が墓を封ず。今陛下能く聖人の墓を封し、賢人の閭を表し、智者の門に軾するかと。曰く、未だ能くせざるなりと。其不可なる三なり。鉅橋(四)の粟を發し、鹿臺の錢を散じて、以て貧窮に

者。斯能得紂之頭也。今陛下能得項籍之頭乎。曰未能也。其不可二矣。武王入殷。表商容之閭、軾箕子之門、封比干之墓。今陛下能封聖人之墓、表賢人之閭、軾智者之門乎。曰未能也。其不可三矣。發鉅橋之粟、散鹿臺之錢、以賜貧羸。今陛下能散府庫、以賜貧羸乎。曰未能也。其不可四矣。殷事已畢。偃革爲軒。倒載干戈、以示天下不復用兵。

賜ふ。今陛下能く府庫を散じて、以て貧羸に賜ふかと。曰く、未だ能くせざるなりと。其不可なる四なり。殷の事已に畢りて、(五)革を偃せて(六)軒と爲し、干戈を倒し載せて、以て天下に復た兵を用ひざるを示せり。

(一)食する所の箸を求め借りて指畫に用ひんと也　(二)殷の賢人也　(三)之を崇異するなり　(四)倉の名、周の武王の發散して以て疲民を賑はせしもの　(五)兵車　(六)朱軒也、即ち武備をふせて禮樂を治むるをいふ

今陛下能偃革。倒載干戈乎。曰未能也。其不可五也。休馬於華山之陽、以示無

今陛下能く革を偃せ、干戈を倒載せんかと。曰く、未だ能はずと。其不可なる五なり。馬を(一)華山の陽に休め、以て用ふる所なきを示す。今陛下能く馬を休めて用ふる所無きかと。曰く、未だ能はずと。其不可なる六なり。牛を(二)桃林に休めて、以て復た糧に輸さざるを示す。今陛下能く牛を休めて、復た糧を輸さざるかと。

所レ用。今陛下能休レ馬無レ所レ用乎。曰未レ能也。其不可六也。休二牛於桃林一。以示レ不二復輸レ糧。今陛下能休レ牛不二復輸レ糧乎。曰未レ能也。其不可七矣。且夫天下游士。捐二其親戚一。棄二墳墓一。去二故舊一。從二陛下一游者。皆日夜望二尺寸之地一。今復立二韓魏燕趙齊楚之後一。其王皆復立。游士各歸事二其主一。從二其親戚一。反二其故舊墳墓一。陛下誰與取二天下一乎。其不可八也。且夫楚惟無レ強。六國復撓而從レ之。陛下焉得而臣レ之乎。誠用二客之計一。陛下之事去

曰く、未だ能はざるなりと。其不可なる七なり。且つ夫れ天下の游士、其親戚を捐て、墳墓を棄て、故舊を去りて、陛下に從ひて游ぶ者は、皆日夜、尺寸の地を望みてなり。今復た韓・魏・燕・趙・齊・楚の後を立て、其王皆復た立たば、游士各ゝ歸りて其主に事へ、其親戚に從ひ、其故舊墳墓に反らば、陛下誰と與に天下を取るか。其不可なる八なり。且つ夫れ楚のみ惟り強きは無し。(三)六國復た撓くして之に從はば、陛下焉ぞ得て之を臣とせんや。誠に客の計を用ひば、陛下の事去ると。漢王、食を輟め(四)哺を吐き(五)罵りて曰く、豎儒幾ど乃公の事を敗らんとすと。趣に印を銷さしめ、止めて使せしめず。遂に天下の兵を幷せて、項籍を誅し、海内を定めしは、張子房が謀なり。

(一) 華陰の南に在り、西嶽なり (二) 野の名 (三) 楚の強きこと六國に比なきをいふ、原文「無レ強」は「無レ強レ焉」の略と考ふべし (四) 止也 (五) 食の口中に在るもの、哺を吐きとは憤怒の甚しきなり

矣。漢王輟レ食吐レ哺罵曰、豎儒幾敗二乃公事一。令二趣銷一レ印止、不レ使。遂幷二天下之兵一、誅二項籍一、定二海内一。張子房之謀也。

漢五年。追擊二項王陽夏南一。止レ軍與二淮陰侯韓信建成侯彭越一期會而擊レ楚。軍至二固陵一。不レ會。楚擊二漢軍一大破レ之。漢王復入レ壁。深レ塹而守レ之。謂二張子房一曰。諸侯不レ從レ約。奈何。對曰。楚兵且レ破。而未レ有二分地一。其不レ至固宜。君王能與共二天

漢の五年、追ひて項王を陽夏の南に擊つ。軍を止め、淮陰侯韓信・建成侯彭越と、期會して楚を擊たんとす。軍、固陵に至る。會せず。楚、漢軍を擊ちて大に之を破る。漢王復た壁に入り、塹を深うして之を守り、張子房に謂つて曰く、諸侯、約に從はず。奈何せんと。對へて曰く、楚の兵且に破れんとして、未だ分地あらず。其の至らざること固に宜べなり。君王能く與に天下に共にせば、今立ろに致すべきなり。則ち能くせずんば、事未だ知るべからざるなり。君王能く陳より以東、海に傳るまで、盡く韓信に與へ、睢陽より以北、穀城に至るまで、盡く彭越に與へて、各をして自ら戰を爲さしめば、則ち楚は敗り易しと。漢王乃ち使者をして、韓信・彭越に告げしめて曰く、力を幷せて楚を擊て。楚已に破れば、陳より以東海に傳るまでは、齊王に與へん。睢陽より以北穀城までは、彭

下。今可立致也。則不能事未可知也。君王能自陳以東傳海。盡與韓信。睢陽以北至穀城。盡與彭越。使各自爲戰。則楚易敗也。漢王乃使使者告韓信彭越曰。并力擊楚。楚已破。自陳以東傳海。與齊王。睢陽以北穀城。與彭相國。使者至。韓信彭越皆喜。報曰。請今進兵。韓信乃從齊行。彭越兵自梁至。諸侯來會。遂破楚軍于垓下。追項王誅之於淮津。二君之功。張子房之謀也。

相國に與へんと。使者至る。韓信・彭越皆喜び、報じて曰く、請ふ、今兵を進めんと。韓信は乃ち齊より行き、彭越が兵は、梁より至る。諸侯來會し、遂に楚軍を垓下に破り、項王を追うて、之を淮津に誅せしは、二君の功、張子房の謀なり。

(一) 昌邑の人、字は仲 (二) 共に天下の地を有し、割きて之を封ぜよと也 (三) 至也

漢六年正月。封功臣。張子房未嘗有戰鬪之功。高皇帝曰。運籌策帷幄之中。決勝千里之外。子房功也。子

漢の六年正月、功臣を封ず。張子房、未だ嘗て戰鬪の功あらず。高皇帝曰く、(一)籌策を(二)帷幄の中に運らし、勝つことを千里の外に決するは、子房が功なり。子房自ら齊の三萬戸を擇べと。良曰く、始め臣、(三)下邳より起りて、上と留に會す。此れ天、臣を以て陛下に授けしなり。陛下、臣が計を用ひ、幸にして時に中る。臣願はくは、留に封ぜられんこと足れり。敢へて齊の三萬戸に當らずと。乃ち良を

房自擇齊三萬戶。良曰。始臣起下邳。與上會留。此天以臣授陛下。陛下用臣計。幸而時中。臣願封留足矣。不敢當齊三萬戶。乃封良爲留侯。及蕭何等。其餘功臣皆未封。羣臣自疑。恐不得封。咸不自安。有搖動之心。於是高皇帝在雒陽南宮。上登見羣臣。往往相與坐沙中語。上曰。此何語。留侯曰。陛下不知乎。謀反耳。上曰。天下屬安。何故而反。留侯曰。陛下起布衣。與此屬定天下。陛下已爲天子。而所封皆蕭曹故人。所誅皆平生怨仇。

封じて留侯と爲せり。蕭何等に及び、其餘の功臣、皆未だ封ぜられず。羣臣自ら疑ひ、恐らくは封を得ずと。咸自ら安んぜず。搖動の心あり。是に於て、高皇帝、雒陽の南宮に在りて、臺に上りて羣臣を見れば、往往に相與に沙中に坐して語す。上曰く、此れ何をか語ると。留侯曰く、陛下知らざるか。謀反するのみと。曰上く、天下屬ろ安し。何の故に反すると。留侯曰く、陛下、布衣より起り、此屬と天下を定む。陛下は已に天子と爲りて、封ずる所は皆蕭曹の故人、誅する所は皆平生の怨仇なり。

㊀謀也　㊁たれまく將軍の居　㊂縣名、東海に屬す

今軍吏計功

今軍吏、功を計りて、天下を以てするに、以て徧く封ずるに足らず。此屬陛下の

以二天下一不レ足二以偏封一。此屬畏下陛下不レ能二盡封一上。又見レ疑二平生過失一及レ誅。故卽聚謀反耳。上乃憂曰。爲將奈何。留侯曰。上平生所レ憎。羣臣所二共知一。誰最甚者。上曰。雍齒與レ我有レ故。數窘二辱我一。欲レ殺レ之。爲二其功多一。故不レ忍。留侯曰。今急先封二雍齒一。以示二羣臣一。羣臣見二雍齒得レ封。卽人人自堅矣。於レ是上置酒。封二雍齒一爲二什方侯一。而急詔趣二丞相御史一。定レ功行レ封。

盡く封ずること能はず。又平生の過失を疑はれて、誅に及ばんことを畏る。故に卽ち聚りて謀反するのみと。上乃ち憂へて曰く、爲す、將に奈何せんと。留侯曰く、上の平生憎む所、羣臣の共に知る所は、誰か最も甚しき者ぞと。上曰く、雍齒、我と故なり。（一）數ば我を窘辱す。之を殺さんと欲すれども、其功多きが爲の故に、忍びずと。留侯曰く、今急に先づ雍齒を封じて、以て羣臣に示せ。羣臣、雍齒の封を得るを見ば、卽ち人人自ら堅からんと。是に於て、上置酒し、雍齒を封じて什方侯（二）と爲す。而して急に、詔して、（三）丞相御史に趣して、功を定め封を行ふ。羣臣、酒を罷む。皆喜びて曰く、雍齒だも且つ侯たり。我屬、患なしと。倍畔の心を還し、邪道の謀を銷せり。國家安寧に、累世、患なからしめし者は、張子房の謀なり。

（一）毎に勇力を以て高祖を困辱せし也　（二）縣の名、廣漢に屬す　（三）宰相と近侍の官

羣臣罷レ酒。皆喜曰。雍齒且侯。我屬無レ患矣。還二倍畔之心一。銷二邪道之謀一。使二國家安寧累世無一レ患者。張子房之謀也。

高皇帝五年。齊人婁敬戍二隴西一。過二雒陽一。脫二輅輓一。見二齊人虞將軍一曰。臣願見レ上。言二便宜事一。虞將軍欲レ與二鮮衣一。婁敬曰。臣衣レ帛衣レ帛見。衣レ褐衣レ褐見。不二敢易一。虞將軍入言レ上。上召見賜レ食。已而問。敬對曰。陛下都二雒陽一。豈欲下與二周室一比上

高皇帝の五年、齊人婁敬、隴西に戍たり。雒陽を過ぐ。(一)輅輓を脫して、齊人虞將軍を見て曰く、臣願はくは、上に見えて、便宜の事を言はんと。虞將軍、(二)鮮衣を與へんと欲す。婁敬曰く、臣、帛を衣ば、帛を衣て見えん。褐を衣ば、褐を衣て見えん。敢へて易はらずと。虞將軍、入りて上に言ふ。上、召して見て食を賜ふ。已にして問ふ。敬對へて曰く、陛下、雒陽に都せば、豈に周室と隆を比せんと欲するかと。上曰く、然りと。敬曰く、陛下の天下を取ること、周室と異なり。周の先は、后稷よりす。堯、之を邰に封じ、德を積み善を累ね、十餘世にして、公劉、桀を避けて(三)邠に居り、大王、狄の伐を以て邠を去り、(四)馬箠を杖き、岐に居り、國人爭ひて之に歸す。文王の西伯と爲るに及び、(五)虞・芮の訟を斷じ、始めて命を受く。(七)呂望・伯夷、海濱より來り歸す。武王、紂を伐ちしに、(六)期せずして孟津の上

隆哉。上曰。然。敬曰。陛下取二天下一。與二周室一異。周之先自二后稷一。堯封二之邰一。積レ德累レ善。十餘世。公劉避レ桀居レ豳。大王以二狄伐一去レ邠。杖二馬策一居レ岐。國人爭歸レ之。及三文王爲二西伯一。斷二虞芮訟一。始受レ命。呂望伯夷。自二海濱一來歸レ之。武王伐レ紂。不レ期而會二孟津上一。八百諸侯。滅レ殷。成王即レ位。周君之屬傅相。乃營二成周雒邑一。以爲天下中。諸侯四方納二貢職一。道里均矣。

に會するもの、八百諸侯あり。殷を滅せり。成王、位に即き、周公の屬、傅相す。乃ち成周を雒邑に營む。以爲へらく、天下の中にして、諸侯の四方より貢職を納るゝに、道里均しと。

㈠ 輅は、木を胸に當てて車を引くもの。輓は引也、ひく ㈡ 美服也 ㈢ 豳に同じ、公劉の邑せし地 ㈣ 他に携持する所なきを示す也 ㈤ 二國、田を爭ひ、文王の德を見て、自ら退きしをいふ ㈥ 天子の命を天より受くと也 ㈦ 呂望は、太公望。伯夷は孤竹君の子

有レ德則易二以王一。無レ德則易二以亡一。凡居レ此者。欲レ令二周務レ德以致一レ人。不レ欲下恃二險阻一令中

德あるは則ち以て王たり易く、德なきは則ち以て亡び易し。凡そ此に居る者は、周をして德を務めて、以て人を致さしめんと欲す。險阻を恃みて、後世をして驕奢して、以て民を虐せしめんことを欲せず。周の衰ふるに及びて、分れて兩つと爲れり。天下、朝すること莫けれども、周、制すること能はず。德の薄きに非

後世驕奢以
虐ㇾ民。及二周之
衰一。分爲ㇾ兩。天
下莫ㇾ朝。周不ㇾ
能ㇾ制。非二德薄一。
形勢弱也。今
陛下起ㇾ豐。擊ㇾ
沛。收二卒三千
人一。以ㇾ之徑往。
卷二蜀漢一。定二三
秦一。與二項羽一大
戰七十。小戰
四十。使三天下
民。肝腦塗ㇾ地。
父子暴二骨中
野一。不ㇾ可二勝數一。
哭泣之聲未ㇾ
絕。傷夷者未ㇾ
起。而欲ㇾ比二隆
成康周公之

ず。形勢弱ければなり。今陛下、豐より起り、沛を擊ち、卒三千人を收め、之を以て徑(二)に往き、蜀漢を卷き、三秦を定め、項羽と大戰七十、小戰四十、天下の民をして、肝腦地に塗れ、父子をして、骨を中野に暴さしむること、勝げて數ふべからず。哭泣の聲未だ絕えず。(三)傷夷の者未だ起たず。而も隆を成・康・周公の時に比せんと欲す。臣竊に以爲へらく、侔(四)しからずと。且つ夫れ秦の地は、山を被り、河を帶び、(五)四塞以て固を爲す。卒然に急あらば、百萬の衆、具ふべし。秦の故資に因らば、甚だ美なる膏腴の地、此を天府(六)と謂ふ。陛下、關に入りて都せば、山東は亂ると雖も、秦の故地は全くして有つべし。夫れ人と鬭ひて、其亢(七)を搤へ、其背を拊(八)たずんば、未だ全く勝たざるなり。

(一) 西周と東周と也　(二) 直也　(三) 夷は創也、きず　(四) 等也、ひとし　(五) 函谷・武關・散關・蕭關の四塞あるをいふ　(六) 財物の聚る所、之を府と謂ふ。言は、關中の地、物產頗多、戰ふに備ふべきが故に、天府と稱せるなり　(七) 喉也、のど　(八) 從へ拊つ也

時、臣竊以爲不侯矣。且夫秦地被山帶河。四塞以爲固。卒然有急。百萬之衆可具。因秦之故資。甚美膏腴之地。此謂天府。陛下入關而都。山東雖亂。秦故地可全而有也。夫與人鬬。而不搤其亢拊其背。未全勝也。

高皇帝疑問左右。大臣皆山東人。多勸上都雒陽。東有成皐。西有肴澠。倍河海。嚮伊洛。其固亦足恃。且周王數百年。秦二世而亡。不如都周。留侯張子房曰。雒陽雖有此固。國中小不過數百里。田地狹。四面受敵。此非用武之

高皇帝疑ひて左右に問ふ。大臣は皆山東の人、多く上に雒陽に都することを勸む。東に成皐あり、西に肴澠(一)あり。河海を倍にし、伊洛に嚮ふ。其固きこと亦恃むに足れり。且つ周は、王たること數百年、秦は二世にして亡びたり。周に都するに如かずと。留侯張子房曰く、雒陽は、此の固ありと雖も、國中小にして數百里に過ぎず。田地狹く、四面に敵を受く。此れ武を用ふるの國に非ず。夫れ關中は、肴函(二)を左にし、隴蜀(三)を右にし、沃野(四)千里、南に巴蜀の饒あり。北に故苑の利あり。三面を阻て、一隅を守り、東に向ひて諸侯を制す。諸侯安定ならば、河渭より天下に漕輓し、西のかた京師に給せん。諸侯變あらば、流に順ひて下り、以て委輸するに足れり。此れ所謂金城千里(五)、天府の國なり。婁敬が說是なりと。

(一) 肴山と澠池　(二) 殽山と函谷關　(三) 隴山の南、蜀の岷山に連る、故に隴蜀を右にしといへるなり　(四) 沃は

國。夫關中左ニ肴函。右ニ隴蜀。沃野千里。南有ニ巴蜀之饒。北有ニ故宛之利。阻ニ三面。守ニ一隅。東向制ニ諸侯。諸侯安定。河渭漕ニ輓天下。西給ニ京師。諸侯有レ變。從レ流而下。足ニ以委輸。此所レ謂金城千里。天府之國也。婁敬説是也。

漑灌也、其土皆漑灌の利あり、故に沃野といふ (九) 秦の四塞の固は、金城の如しと也

於レ是高皇帝即日駕西都ニ關中。由レ是國家安寧。雖ニ彭越陳豨盧綰之謀。九江燕代之兵。及吳楚之難。關東之兵雖ニ百萬之師。猶不レ能ニ以爲レ害者。由下保ニ仁德之惠一守中關中之固上

是に於て、高皇帝卽日に駕して、西のかた關中に都す。是に由りて、國家安寧なり。(二)彭越・陳豨・盧綰の謀、九江・燕・代の兵及び吳・楚の難と雖も、關東の兵、百萬の師と雖も、猶ほ以て害を爲すこと能はざる者は、仁德の惠を保ち、關中の固を守るに由るなり。國以て永く安きは、婁敬・張子房の謀なり。上、曰く、本、秦の地に都せよと言ひし者は婁敬なり。(三)婁は乃ち劉なりと。姓を劉氏と賜ひ拜して郎中と爲す。號して奉春君と曰ふ。後卒に建春侯と爲る。留侯張子房、漢已に定るに於て、性、疾多し。卽ち導引して穀を食はず。門を杜ぢて出でざること歲餘。上、太子を廢し、戚氏夫人が子、趙王如意を立てんと欲す。大臣多く

也。國以永安。婁敬張子房之謀也。上曰。本言㆑都㆓秦地㆒者婁敬也。婁者乃劉也。賜㆓姓劉氏㆒。拜爲㆓郎中㆒。號曰㆓奉春君㆒。後卒爲㆓建信侯㆒。留侯張子房。於㆓漢已定㆒。性多㆑疾。卽導引不㆑食㆑穀。杜㆑門不㆑出。歲餘。上欲㆘廢㆓太子㆒立㆗戚氏夫人子趙王如意㆖。大臣多爭。未㆑能㆑得㆓堅決者㆒也。呂后恐不㆑知㆑所㆑爲。人或謂㆓呂后㆒曰。留侯善畫㆓計策㆒。上信㆓用之㆒。后召乃使㆔建成侯呂澤劫㆓留侯㆒曰。君常爲㆑上計。今日欲㆑易㆓太子㆒。君安得㆓高㆑枕臥㆒。

爭へども、未だ能く堅決する者を得ること能はず。呂后（三）恐れて爲す所を知らず。人或ひは、呂后に謂つて曰く、留侯は善く計策を畫す。上之を信用すと。呂后乃ち建成侯呂澤（四）をして、留侯を劫さしめて曰く、君常に上の爲に計る。（五）今日に太子を易へんと欲す。君安ぞ枕を高うして臥することを得ると。

㊀ 漢の十年乃ち彭越を囚ふ。陳豨は宛朐の人、七年に反す。盧綰は豐の人、亡げて匈奴に入る。九江は黥布をいふ。燕は盧綰、代は韓王信の封國　㊁ 劉は音鏤、劉・鏤・婁、音相通ず　㊂ 高祖微時の妃なり　㊃ 呂后の長兄　㊄ 日々に之を易へんと欲すと也

留侯曰。始上數在㆓困急之中㆒。幸用㆑臣。今天下安定。以㆑愛㆑幼欲㆑易㆓太

留侯曰く、始め上數ば困急の中に在りて、幸に臣を用ひたり。今天下安定なり。幼を愛するを以て太子を易へんと欲す。骨肉の間は、臣等百餘人と雖も、何の益あらんと。呂澤強ひて要めて曰く、我が爲に畫計せよと。留侯

子。骨肉間雖二臣等百餘人一何益。呂澤強要曰。爲我畫計。留侯曰。此難下以二口舌一爭上也。顧上有二所不能致者一。天下有二四人一。園公。綺里季。夏黃公。角里先生。此四人者。年老矣。皆以三上慢二侮士一。故逃二匿山中一。義不レ爲二漢臣一。然上高二此四人一。公誠能無レ愛二金玉璧帛一。令下太子爲レ書卑レ

曰く、此れ口舌を以て爭ひ難きなり。顧ふに上も致すこと能はざる所の者あらん。天下に四人あり。園公・綺里季・夏黃公・角里先生なり。此四人は年老いたり。皆上の士を慢侮するを以ての故に、山中に逃匿し、義、漢の臣と爲らず。然れども、上、此四人を高しとす。公誠に能く金玉璧帛を愛むこと無くして、太子をして書を爲り辭を卑くし、安車を以て之を迎へしめ因て辯士をして固く請はしめば、宜しく來るべし。來らば以て客と爲して、時時從へて入朝し、上をして之を見しめよ。上之を見ば、卽ち必ず異んで之を問はん。之を問ひて、上、此四人なることを知らば、亦一助ならんと。是に於て、呂后、澤に令して、人をして太子の書を奉じ辭を卑くし、禮を厚くして四人を迎へしむ。四人至りて、呂澤が所に舍す。十二年に至り、上、黥布が軍を破りてより歸り、疾益〻甚し。愈〻太子を易へんと欲す。留侯諫むれども聽かず。疾に因りて事を視ず。大傅叔孫通稱說し、古へを引き、死を以て太子を爭ふ。上、佯りて之を許し、猶ほ之を易へんと欲す。燕に

辭。以二安車一迎ゃ之。因使二辯士一固請。宜ㇾ來。來以爲ㇾ客。時時從入朝。令二上見一ㇾ之。上見ㇾ之即必異問ㇾ之。問ㇾ之上知二此四人一。亦一助也。於ㇾ是呂后令ㇾ澤使三人奉二太子書一。卑ㇾ辭厚ㇾ禮。迎二四人一。四人至。舍二呂澤所一。至二十二年一。上從ㇾ破二黥布軍一歸、疾益甚。愈欲ㇾ易二太子一。留侯諫不ㇾ聽。因ㇾ疾不ㇾ視ㇾ事。大傅叔孫通稱說引ㇾ古以ㇾ死爭二太子一。上佯許ㇾ之。猶欲ㇾ易ㇾ之。及ㇾ燕置酒。太子侍。四人者從二太子一。

及び置酒し、太子侍す。四人の者、太子に從ふ。

● 所謂商山の四皓也

皆年八十有餘。鬚眉皓白。衣冠甚偉。上怪而問曰。何爲者。四人前對。各言二其姓名一。上乃驚曰。吾求ㇾ公數歲。公避二逃我一。今公何自從二吾兒一游乎。四人皆對曰。陛下

皆年八十有餘、鬚眉皓白、衣冠甚だ偉なり。上、怪みて問ひて曰く、何爲る者ぞと。四人前みて對ふ。各ゝ其姓名を言ふ。上乃ち驚きて曰く、吾れ公を求むること數歲。公、我を避け逃る。今公何ぞ自ら吾が兒に從ひて游ぶかと。四人皆對へて曰く、陛下、士を輕んじて善く罵る。臣等、義、辱められず。故に恐れて亡匿せり。聞く、太子、人の子と爲りて孝に、仁にして士を敬愛すと。天下、頸を延べて、太子の爲に死を願はざる者莫し。故に來れるのみと。上曰く、公を煩す。幸に卒に太子を調護せよと。四人、壽を爲す。已に畢りて起ち去る。上、之

輕士善罵。臣等義不辱。故恐而亡匿。聞太子爲人仁孝。仁敬愛士。天下莫不延頸願爲太子死者。故來耳。上曰。煩公幸卒調護太子。四人爲壽。已畢起去。上目送之。召戚夫人指示四人者曰。爲欲易之。彼四人輔之。羽翼已成。難動矣。呂氏眞而主矣。戚夫人泣下。上曰。爲我楚舞。吾爲若楚歌。歌曰。鴻鵠高蜚。一擧千里。羽翮已就。橫絕四海。橫絕四海。當可奈何。雖有矰繳。尙安所施。歌數闋。戚夫人噓唏流涕。上起去罷酒。竟不易太子者。留侯召四人之謀也。

を目送す。戚夫人を召して、四人の者を指示して曰く、爲に之を易へんと欲す。彼の四人之を輔く。羽翼已に成れり。動し難し。呂氏は眞に而(三)が主なりと。戚夫人泣(四)下る。上曰く、我が爲に楚舞せよ。吾れ、若(五)が爲に楚歌(六)せんと。歌ひて曰く、鴻鵠高く蜚び、一擧千里、羽翮(七)已に就(八)りて、四海に橫絕(九)す。四海に橫絕す。當に奈何すべき。矰繳(一〇)ありと雖も、尙ほ安ぞ施す所あらんと。歌ふこと、數闋(一一)。戚夫人、噓唏流涕す。上、起ち去り、酒を罷む。竟に太子を易へざる者は留侯、四人を召くの謀なり。

(一) これ四皓といふ所以なり　(二) 調は、之を和平するを謂ひ、護は、之を保安するをいふ。擁護といふに同じ　(三) 汝也　(四) 涕也　(五) 汝也　(六) 楚人の歌　(七) 翮は翼也　(八) 成也　(九) 絕は飛びて直に度るをいふ　(一〇) 繳は、弋射なり、いぐるみ。矰はその矢　(一一) 闋は終也、曲の終るをいふ、卽ち數曲の意

漢十一年。九江黥布反。高皇帝疾。欲レ使ニ太子往擊一レ之。是時園公。綺里季。夏黃公。甪里先生。已侍ニ太子一。聞三太子將擊ニ黥布一。四人相謂曰。凡來者。將以存ニ太子一。太子將レ兵事危矣。乃說ニ建成侯一曰。太子將兵。有レ功則位不レ益。無レ功從レ此受レ禍矣。且太子所ニ與俱一諸將。皆嘗與レ上

漢の十一年、九江の黥布反す。高皇帝疾む。太子をして往きて之を擊たしめんと欲す。是の時、園公・綺里季・夏黃公・甪里先生、已に太子に侍す。太子の、將として黥布を擊つと聞き、四人相謂つて曰く、凡そ來れる者は、將に以て太子を存せんとてなり。太子、兵に將たらば、事危しと。乃ち建成侯に說きて曰く、太子の兵に將たる、功ありとも則ち位益さず。功なくんば、此れより禍を受けん。且つ太子の與に俱にする所の諸將は、皆嘗て上と天下を定めし梟將なり。乃ち太子をして之に將たらしめば、此れ羊をして狼に將たらしむるに異なることなきなり。皆肯へて用を爲し力を盡さず。其の功なきこと必せり。臣聞く、母の愛せらるゝ者は、子を抱くと。今戚夫人日夜侍御す。趙王常に居て、前に抱かる。上終に不肖の子を、愛子の上に居らしめざること、明けし。其の太子の位に代ること必せり。君何ぞ急に呂后に謂つて、間を承けて、上の爲に泣きて言はしめざる。黥布は天下の猛將、善く兵を用ふ。諸將は皆陛下の故等倫なり。乃ち太子をして此屬に將

定天下梟將也。乃使太子將之。此無異使羊將狼也。皆不肯爲用盡力。其無功必矣。臣聞。母愛者抱子。今戚夫人日夜侍御。趙王常居抱前。上終不使不肖子居愛子上明乎。其代太子位必矣。君何不急請呂后承間爲上泣言、鯨布天下猛將善用兵。諸將皆陛下故等倫。乃令太子將此屬無異使羊將狼。莫爲用。且使布聞之。即鼓行而西耳。上雖疾臥護之。諸將不敢不盡力。雖苦強爲妻子計。載輜車臥而行。

たらしむ。羊をして狼に將たらしむるに異なること無く、用を爲すこと莫けん。且つ布をして之を聞かしめば、即ち鼓行して西せんのみ。上、疾むと雖も、臥して之を護せば、諸將敢へて力を盡さずんばあらず。苦しと雖も、強ひて妻子の爲に計り、輜車に載せ、臥して行けと。

㊀ 太子は嗣君、貴已に極る。更に功を立つと雖も、位の加益するなしと也 ㊁ 最も勇健なるをいふ ㊂ 韓非子備内篇に在り ㊃ 間隙の時也 ㊄ 皆は皆同等のものなりと也 ㊅ 鼓をうちて行き、拒ぐる所なきをいふ ㊆ 衣車也

於是呂澤立夜見呂后。呂后承間爲上泣而言。如四

是に於て、呂澤立ろに夜、呂后に見ゆ。呂后、間を承けて、上の爲に泣きて言ふ。四人の意の如し。上曰く、吾れ惟ふに豎子、故に遣るに足らず。㊇乃公自ら行

人意。上曰。吾惟豎子。故不レ足レ遣。乃公自行耳。於レ是上自將東。羣臣居守。皆送至二覇上一。留侯疾。強起至二曲郵一。見レ上曰。臣宜レ從。疾甚。楚人剽疾。願上無下與二楚人一爭上レ鋒。因說レ上曰。令下太子爲二將軍一監中關中諸侯兵上。上謂二子房一。雖レ疾強起臥而傅二太子一。是時叔孫通已爲二太子太傅一。留侯行二少傅事一。漢遂誅二黥布一。太子安寧國家晏然。此四公子之謀也。

かんのみと。是に於て、上自ら將として東す。羣臣、居守す。皆送りて覇上に至る。留侯疾めり。強ひて起ちて、曲郵に至る。上に見えて曰く、臣宜しく從ふべし。疾甚し。楚人は剽疾なり。願はくは、上、楚人と鋒を爭ふことなかれと。因りて上に說きて曰く、太子をして、將軍と爲して、關中諸侯の兵を監せしめんと。上、子房に謂へらく、疾むと雖も強ひて起ち、臥して太子に傅たれと。是時、叔孫通已に太子の太傅たり。留侯、少傅の事を行ふ。漢遂に黥布を誅し、太子は安寧に、國家晏然たるは、此の四公子の謀なり。

❶ 思也 ❷ 自稱の語、おれ

齊悼惠王者。孝惠皇帝兄也。二年。悼惠

齊の悼惠王は、(一)孝惠皇帝の兄なり。(二)二年、悼惠王入朝す。孝惠皇帝、悼惠王と讌飮す。(三)乃ち家人の禮を行ひ、席を同じうす。呂太后怒り、乃ち(四)鴆酒を進む。

王入朝。孝惠皇帝與二悼惠王讌飲。乃行二家人禮一同レ席。呂太后怒。乃進二鴆酒一。孝惠皇帝知。欲二代飲一之。乃止。悼惠王懼。不レ得レ出レ城。上レ車太息。內史參乘。怪問二其故一。悼惠王具以レ狀語二內史一。內史曰。王寧亡二十城一邪。將亡二齊國一也。悼惠王曰。得レ全レ身而已。何敢愛レ城哉。內史曰。啓

孝惠皇帝知りて、代りて之を飮まんと欲す。乃ち止む。悼惠王懼れて、城を出づるを得ず。車に上りて太息す。(五)內史參乘す。怪みて其故を問ふ。悼惠王、具に狀を以て內史に語ぐ。內史曰く、王寧ろ十城を亡はんか、將た齊國を亡はんかと。悼惠王曰く、身を全うすることを得んのみ、何ぞ敢へて城を愛せんやと。內史曰く、魯の元(六)公主は、太后の女、大王の弟なり。大王は、封國七十餘城あり。而るに魯の元公主は、湯沐の邑少し。大王誠に十城を獻じて、魯の元公主の湯沐の邑と爲さば、內に親親の恩あり、外に太后に順ふの意あり。太后必ず大に喜ばん。是れ十城を亡ひて六十城を得るなりと。悼惠王曰く、善しと。(七)鄭に至りて上奏し、十城を獻じて魯の元公主の湯沐の邑と爲す。太后果して大に悅び、邑を受けて厚く悼惠王に賜ひて、之を國に歸し、遂に齊を安んぜしは、內史の謀なり。

㊀ 高祖の長庶男　㊁ 諱は盈　㊂ 齊王は兄なるを以て、君臣の禮を爲さず、自ら亢敵すること、家人の、兄弟

元公主。太后之女。大王之弟也。大王封國七十餘城。而魯元公主。湯沐邑少。大王誠獻二十城一。爲二魯元公主湯沐邑一內有二親親之恩一。外有下順二太后一之意上。太后必大喜。是亡二十城一而得二六十城一也。悼惠王曰。善。至レ邸上奏。獻二十城一爲二魯元公主湯沐邑一。太后果大悅。受レ邑厚賜二悼惠王一。而歸二之國一。遂安レ齊。內史之謀也。

の鴆を行ふが如くなりし故に、太后怒りし也 (四) 鴆鳥は黑身赤目、其羽を以て中酒を攪すれば、之を飲むもの直ちに死すと (五) 悼惠王の官 (六) 惠帝の姉にして、其最長なるを以ての故に、元と號す。元は長也。漢の制、女を公主と曰ひ、儀、諸侯に比す。姉妹を長公主と曰ひ、儀、諸侯王に比す (七) その賦税を以て、湯沐の具を供する者をいふ (八) 漢の法、諸侯は各邸第を京師に立てしなり

孝武皇帝時。大行王恢。數言下擊二匈奴一之便上。可三以除二邊境之害一。欲レ絕二和親之約一。御史大夫韓安國。以爲兵不レ可レ動。孝武皇帝召二羣臣一而

孝武皇帝の時、大行王恢(一)、數ば匈奴を擊つの便を言ふ。以て邊境の害を除くべしと。和親の約を絕たんと欲す。御史大夫韓安國(二)以爲へらく、兵動かすべからずと。孝武皇帝、羣臣を召して問ひて曰く、朕、子女を飾りて以て單于に配す。幣帛文錦、之を賂ふこと甚だ厚し。今單于、命に逆ひ加慢し、侵盜已むなく、邊郡數ば驚く。朕甚だ之を閔ふ。今兵を擧げて以て匈奴を攻めんと欲す。如何と。大行臣恢、再拜稽首して曰く、善し。陛下言はずとも、臣固より之を謀さん。臣

問曰。朕飾子女。以配單于。幣帛文錦。賂之甚厚。今單于逆命加慢。侵盜無已。邊郡數驚。朕甚閔之。今欲擧兵以攻匈奴。如何。大行臣恢再拜稽首曰。善。陛下不言。臣固謂之。臣聞。全代之時。北未嘗不有彊胡之敵。內連中國之兵也。然尙得養老長幼。樹種以時。倉廩常實。守禦之備具。匈奴不敢輕侵也。今以陛下之威。海內爲一家。天下同任。遣子弟乘邊守塞。轉粟輓輸。以爲之備。而匈奴侵盜不休者無他。不痛之患也。臣以爲擊之便。御史大夫臣安國稽首再拜曰。不然。

聞く、全代の時、北のかた未だ嘗て彊胡の敵ありて、內、中國の兵を連ねずんばあらざるなり。然れども尙ほ老を養ひ幼を長じ、(三)樹種、時を以てし、倉廩常に實ち、守禦の備具りて、匈奴敢へて輕々しく侵さざることを得たり。今陛下の威を以て、海內一家と爲り、天下任(四)を同じうし、子弟を遣りて、邊に乘り塞(五)を守り、粟を轉じて輓輸(六)し、以て之が備を爲して、而も匈奴の侵盜休まざる者は、他なし、(七)痛めざるの患なり。臣以爲へらく、之を擊つは便なりと。御史大夫臣安國、稽首再拜して曰く、然らず。

(二) 藩の人、しばしば、邊吏となり、胡洲の事を習知す　(八) 字は長孺、梁の成安の人　(三) 樹は殖也　(四) 任は猶と通ず、保也。卽ち風俗を同じうするなり　(五) 登也、其城に登りて備守するなり　(六) 輓は車を引く也　(七) 威を示して恐懼せしめざるが爲なりと也

臣聞高皇帝嘗圍ニ於平城一。匈奴至而投レ鞍。高ニ於城一者數所。平城之厄七日不レ食。天下歎レ之。及ニ解レ圍反レ位。無ニ忿怨之色一。雖レ得ニ天下一。而不レ報ニ平城之怨一者。非レ以ニ力不レ能也。夫聖人以ニ天下一爲レ度者也。不下以ニ己之私怒。傷中天下之公義上。故遣ニ劉敬。結爲ニ和親一。至レ今爲ニ五世利一。孝文

臣聞く、高皇帝嘗て平城に圍まる。匈奴至りて鞍を投ず。城より高き者數所、平城の厄、七日食はず。天下之を歎く。圍(一)を解き位に反るに及び、忿怨の色なし。天下を得と雖も、而も平城の怨を報いざる者は、力の能はざるを以てするに非ざるなり。夫れ聖人は、天下(二)を以て度と爲す者なり。己が私怒を以て、天下の公義を傷らず。故に劉敬を遣り、結んで和親を爲し、今に至るまで、五世(三)の利を爲せり。孝文皇帝、嘗て一たび天下の精兵を嘗谿・廣武に屯す。尺寸の功なし。天下の黔(四)首、約要の民、憂へざる者なし。孝文皇帝、兵の宿むべからざるを悟り、乃ち和親の約を爲す。今に至りて、後世の利を爲せり。臣以爲へらく、兩主の迹、以て効と爲すに足れりと。臣故に曰く、擊つこと勿れ。便なりと。

大行曰く、然らず。夫れ形を明にする者、分は則ち事に過ぎず。動を察する者、用は則ち利を失はず。靜を審にする者、恬なれば則ち患に免る。高帝、堅(五)を被、鋭を執りて、以て天下の害を除き、矢石を蒙り、風雨に沾ひ、(六)行ること幾

皇帝嘗一屯ニ天下之精兵於脊谿廣武一。無ニ尺寸之功一。天下黔首。約要之民。無ㇾ不ㇾ憂者一。孝文皇帝悟ニ兵之不ㇾ可ㇾ宿也。乃爲ニ和親之約一。至ㇾ今爲ニ後世利一。臣以爲兩主之迹。足ニ以爲ㇾ効。臣故曰。勿ㇾ擊。便。大行曰。不ㇾ然。夫明ニ於形一者。分則不ㇾ過ニ於事一。察ニ於動一者。用則不ㇾ失ニ於利一。審ニ於靜一者。恬則免ニ於患一。高帝被ㇾ堅執ㇾ鋭。以除ニ天下之害一。蒙ニ矢石一。沾ニ風雨一。行幾十年。伏尸滿ㇾ澤。積首若ㇾ山。死者什七。存者什三。行者垂ㇾ泣。而倪ニ於兵一。

夫以ニ天下末力厭ㇾ事之民一。而蒙ニ匈奴飽佚一。其勢不ㇾ便。故結ニ和親之約一者。所三以休ニ天下之民一。高皇帝明ニ於形一。

十年、伏尸、澤に滿ち、積首、山の若し。死する者、什が七、存する者、什が三、行く者、泣を垂れて兵を倪む。(七)

(一) 其馬を解脱し、閑暇を示すなり、其穀を投積して營壘の如くせしをいふ (二) 天下の人心に隨ひ、その度量を寛大にすと也 (三) 高祖・孝惠・孝文・孝景・孝武也 (四) 始皇二十六年に、民を改めて黔首といふやうにせし也、黔は黧黑也 (五) 甲冑を着け利き武器を持ちてと也 (六) 睨也 (七) 邪視也

夫れ天下の末力、事に厭ふの民を以て、匈奴の飽佚を蒙る。其勢、便ならず。故に和親の約を結ぶ者は、天下の民を休する所以なり。高皇帝、形に明にして以て事を分つ。動靜の時に通ず。蓋し五帝は、樂を相同じうせず。三王、禮に相襲(一)らざる者は、故らに相反するに非ざるなり。各々世の宜しきに因りてなり。教は時と變じ、備は敵と化す。一を守りて易らざるは、以て民を子とするに足ら

而以分レ事。通ニ於動靜之時一。蓋五帝不三相ニ同樂一。三王不三相ニ襲禮一者。非ニ故相反一也。各因ニ世之宜一也。敎與レ時變。備與レ敵化。守レ一而不レ易。不レ足ニ以子一レ民。今匈奴縱レ意日久矣。侵盜無レ已。係ニ虜人民一。戍卒死傷。中國道路。槥車相望。此仁人之所レ哀也。臣故曰。擊レ之便。御史大夫曰。不レ然。臣聞レ之。利不レ什不レ易レ業。功不レ百不レ變レ常。是故古之人君。謀レ事必就レ聖。發レ政必擇レ語。重レ作レ事也。自ニ三氏之盛一。遠方夷狄。不レ與ニ正朔服色一。非ニ威不一レ能レ制。非ニ強不一レ能レ服也。以爲遠方絕域。不收之民。不レ足ニ以煩一ニ中國一也。

ず。今匈奴、意を縱にすること日に久し。侵盗已むことなく、人民を係虜し、戍卒死傷し、中國の道路に、槥車(二)相望む。此れ仁人の哀む所なり。臣故に曰ふ、之を擊つこと便なりと。御史大夫曰く、然らず。臣之を聞く。利、什ならざれば業を易へず、功、百ならざれば、常を變ぜずと。是の故に、古への人君は、事を謀るに必ず聖に就き、政を發するに必ず語を擇ぶと。事を作すと重んずるなり。三氏の盛なるより、遠方夷狄、正朔服色に與らず。威、制する能はざるに非ず。強ひて服すること能はざるにあらざるなり。以爲へらく、遠方絕域、不收(三)の民は、以て中國を煩すに足らずと。

(一) 因也 (二) 小棺なり。軍に從ひて死する者、槥を以て其喪を送致す。槥を載する車、道に相望むとは、其多きをいへるなり (三) 收を一に牧につくる。即ち牧養すべからざる民をいふ

且匈奴者。輕疾悍亟之兵也。畜牧爲レ業。弧弓射獵。逐レ獸隨レ草。居處無レ常。難二得而制一也。至不レ及レ圖。去不レ可レ追。來若二風雨一。解若二收電一。今使下邊鄙久廢二耕織之業一。以支中匈奴常事上。其勢不レ權。臣故曰。勿レ擊爲レ便。大行曰。不レ然。夫神蛟濟二於淵一。而鳳鳥乘二於風一。聖人因二於時一。昔者秦

且つ匈奴は、輕疾悍亟(一)の兵なり。畜牧を業と爲す。弧弓(二)射獵し、獸を逐ひ草に隨ひ、居處常なし。得て制し難きなり。至るとも圖に及ばず、去るとも追ふべからず。來ること風雨の若く、解くこと收電の若し。今邊鄙をして、久しく耕織の業を廢して、以て匈奴の常事を支へしむ。其勢、(三)權しからざるなり。臣故に曰ふ、擊つこと勿きを便と爲すと。大行曰く、然らず。夫れ神蛟(四)は淵に濟りて、鳳鳥は風に乘じ、聖人は時に因る。昔者秦の繆公、雍郊に都す。地方三百里。時の變を知り、攻めて西戎を取り、地を辟くこと千里。國を幷すこと十二、隴西北地是れなり。其後蒙恬(五)、秦の爲に胡を侵し、河を以て境と爲し、石を累ねて城と爲し、木を積みて塞と爲す。匈奴敢へて馬に北河に飲はず。(六)烽燧を置きて、然して後に敢て馬を牧ふ。

(一) 亟は、急也　(二) 木を以つくるを弧といひ、角を以てつくるを弓といふ　(三) 輕重の等しからざるをいふ　(四) 蛟は龍の角なきを蛟といふ　(五) 其先は齊人也。秦の天下を幷せし後、蒙恬をして、三十萬衆に將として、北のかた戎狄を逐はしめし也　(六) 晝は燧をやき、夜は烽をあげて、寇の來るを報ぜしなり

繆公都二雍郊一。地方三百里。知二時之變一。攻取二西戎一。辟レ地千里。幷レ國十二。隴西北地是也。其後蒙恬爲レ秦侵レ胡。以レ河爲レ境。累レ石爲レ城。積レ木爲レ塞。匈奴不三敢飮二馬北河一。置二烽燧一。然後敢牧レ馬。

夫匈奴可二以レ力服一也。不レ可二以レ仁畜一也。今以二中國之大。萬倍之資一。遣二百分之一一。以攻二匈奴一。譬如下以二千石之弩一。射レ癰潰レ疽。必不レ留レ行矣。則北發二月氏一。可二得臣一也。臣故曰。擊レ之便。御史大夫曰。不レ然。臣聞。善戰者。以レ飽待レ飢。安行定舍。以

夫れ匈奴は、力を以て服すべきなり。仁を以て畜ふべからざるなり。今中國の大、萬倍の資を以て、百分の一を遣り、以て匈奴を攻むるは、譬へば、千石の弩を以て、癰を射、疽を潰すが如し。必ず行を留めず、則ち北、月氏に發し、(一)得て臣とすべきなり。臣故に曰ふ、之を擊つは便なりと。御史大夫曰く、然らず。臣聞く、善く戰ふ者は、飽を以て飢を待ち、安行定舍、(二)以て其勞を待ち、整治德を施して、以て其亂を待ち、兵を按じ衆を奮ひて深く入り、國を伐ち城を墮つと。故に常に坐して敵國を役す。此れ聖人の兵なり。夫れ衝風(三)の衰ふるや、毛羽を起すこと能はず。強弩の末力、魯縞(四)に入ること能はず。盛の衰あるは、猶ほ朝の必ず暮るゝがごときなり。

(一) 徵召也。卽ち、その威聲の盛なる、北は月氏よりして、皆徵召して臣とすべしと也 (二) 舍は、止息也、宿泊する也 (三) 疾風の衝突するもの (四) 繒の精白なるものを縞といふ、魯縞は特に薄きを以て有名なり

待其勞。整治施德。以待其亂。按兵奮衆深入。伐國墮城。故常坐而役敵國。此聖人之兵也。失衡風之衰也。不能起毛羽。強弩之末力。不能入魯縞。盛之有衰也。猶朝之必暮也。

今卷甲而輕擧。深入而長驅。雖以爲功。夫橫行則中絕。從行則迫脅。徐則後利。疾則糧乏。不至千里。人馬絕。飢勞以遇敵。正遺人獲也。意者有他詭妙。可以擒之。則臣不知。不然。未見深入之利也。臣故曰。勿擊之便。大行曰。不

今甲を卷きて輕擧し、深く入りて長驅すとも、以て功を爲し難からん。夫れ橫行は則ち中絕し、從行は迫脅す。徐なれば則ち利に後れ、疾なれば則ち糧乏し。千里に至らざるに人馬絕え、飢勞以て敵に遇はば、正に人に獲を遺すなり。意者に他の詭妙ありて、以て之を擒にすべくば、則ち臣知らず。然らずんば、未だ深く入るの利を見ざるなり。臣故に曰く、之を擊つこと勿きは便なりと。大行曰く、然らず。夫れ草木の霜霧に中る、風を以て過ぐべからず。淸水明鏡は、形を以て遁るべからず。通方の人は、文を以て亂るべからず。今臣が之を擊てと言ふ者は固より發して深く入るに非ざるなり。將に單于の欲に順因し、誘ひて之を邊に致し、吾は輕卒銳士を伏して、以て之を待ち、陰に險阻に遮りて、以て之れ備へんとす。吾が勢以に成らば、或は其左に當り、或は其右に當り、或は其前に當

然。夫草木之中ニ霜露一。不レ可ニ以レ風過一。清水明鏡。不レ可ニ以レ形遯一也。通方之人。不レ可ニ以レ文亂一。今臣言レ擊レ之者。固非ニ發而深入一也。將下順ニ因單于之欲一。誘而致中之邊上。吾伏ニ輕卒鋭士一以待レ之。陰遮ニ險阻一以備レ之。吾勢以成。或當ニ其左一。或當ニ其右一。或當ニ其前一。或當ニ其後一。單于可レ擒。百全必取。臣以爲レ擊レ之便。於レ是遂從ニ大行之言一。

り、或は其後に當らば、單于、擒にすべく、百全必ず取らん。臣以爲へらく、之を擊てば便なりと。是に於て、遂に大行の言に從ふ。

(一) 敵の虜獲となる也 (二) 風のために直ちに落葉すと也 (三) 美醜みなあらはると也 (四) 方は道也

孝武皇帝自將レ師。伏ニ兵於馬邑一。誘ニ致單于一。單于既入レ塞。道覺レ之。奔走而去。其後交レ兵接レ刃。結レ怨連レ禍。相攻擊十年。兵凋民勞。百姓空

孝武皇帝、自ら師に將として、兵を馬邑に伏せ、單于を誘き致す。單于既に塞に入る。道に之を覺りて、奔走して去る。其後、兵を交へ刃を接し、怨を結び禍を連ね、相攻擊すること十年、兵凋み民勞れ、百姓空虛にして、道殣(二)相望み、檣車相屬し、寇盜山に滿ち、天下搖動す。孝武皇帝、後に之を悔ゆ。御史大夫桑弘羊、輪臺に佃せんことを請ふ。詔して卻けて曰く、當今の務は、務めて暴を禁じ、賦を擅にするを止むるに在り。今乃ち遠く西に佃す、民を慰むる

虛。道殣相望。轞車相屬。寇盜滿ㇾ山。天下搖動。孝武皇帝後悔ㇾ之。御史大夫桑弘羊請ㇾ佃二輪臺一。詔卻曰。當今之務。務在二禁ㇾ暴止ㇾ擅ㇾ賦。今乃遠西佃。非三所二以慰ㇾ民也。朕不ㇾ忍ㇾ聞。封二丞相一。號曰二富民侯一。遂不三復言二兵事一。國家以寧。繼嗣以定。從二韓安國之爲本謀一也。

所以に非ざるなり。朕、聞くに忍びずと。丞相を封じ、號して富民侯と曰ふ。遂に復た兵事を言はず。國家以て寧く、繼嗣以て定れるは、韓安國の本謀に從りてなり。

㊀ 道路に餓死するもの也。殣は餓死也

孝武皇帝時。中大夫主父偃爲ㇾ策曰。古諸侯不ㇾ過二百里一。強弱之形易ㇾ制也。今諸侯或連城數十。地方千里。緩則驕易ㇾ爲二淫亂一。急則阻二

孝武皇帝の時、中大夫主父偃(二)、策を爲して曰く、古への諸侯、百里に過ぎず。強弱の形、制し易きなり。今の諸侯、或は連城數十、地方千里、緩なれば則ち驕りて、淫亂を爲し易く、急なれば則ち其強を阻みて合從し、以て京師に逆するを謀る。今法を以て之を割かば、即ち逆節萠起せん。前日の晁錯(三)是れなり。今諸侯の子弟、或は十數、而して適嗣代りて立つ。餘は骨肉と雖も、尺地の封なし。則ち仁孝の道宣べず。願はくは陛下、諸侯をして恩を推し子弟を分ち、地を

其強而合從。謀以逆京師。今以法割之。即逆節萌起。前日鼂錯是也。今諸侯子弟或十數。而適嗣代立。餘雖骨肉。無尺地之封。則仁孝之道不宣。顧陛下令諸侯得推恩分子弟。以地侯之。彼人人喜得所願。上以德施。實封其國。而稍自消弱矣。於是上從其計。因關馬及弩不得出。絕遊說之路。重附益諸侯之法。急誅謀其君之罪。諸侯王遂以弱。而合從之事絕矣。主父偃之謀也。

以て之を侯とするを得しめよ。彼れ人人、願ふ所を得しを喜ばん。上は德を以て施し、實は其國を封じて、稍〻自ら消弱せんと。是に於て、上、(三)其計に從ふ。關馬及び弩の出づるを得ざるに因りて、遊說の路を絕ち、諸侯を附益するの法を重くし、其君を(四)詿誤するの罪を急にせり。諸侯王遂に以て弱くして、合從の事絕えしは、主父偃の謀なり。

(一) 齊の臨菑の人、長短縱橫の術を學べり (二) 潁川の人、申商刑名の學を學ぶ、性、悄直刻深 (三) 元年に諸侯王をして、分ちて子弟を封ぜしめし也 (四) 詿も亦誤なり

新序 終

大正十四年四月十日印刷
大正十四年四月十三日發行

漢文叢書
晏氏春秋新序

編輯者　東京府下大久保町西大久保二百三十六番地　塚本哲三

發行兼印刷者　東京市神田區錦町一丁目十九番地　三浦理

印刷所　東京市神田區錦町三丁目九番地　有朋堂印刷部

發行所　東京市神田區錦町一丁目十九番地　有朋堂書店

大正十四年四月十日印刷
大正十四年四月十三日發行

定價 [illegible]

不許複製

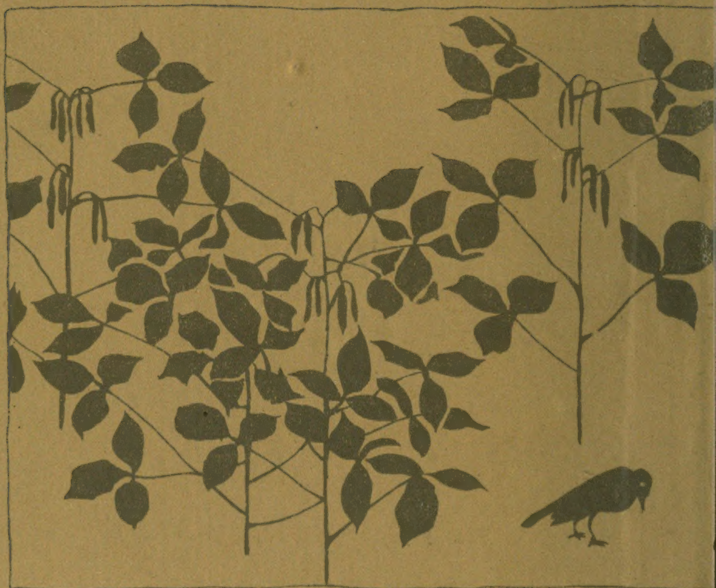
編輯者 塚本哲三
東京府下大久保[illegible]三百三十六番地

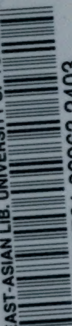
發行者兼印刷者 三浦理
東京市神田區錦町一丁目十九番地

印刷所 有朋堂印刷部
東京市神田區錦町三丁目九番地

發行所 有朋堂書店
東京市神田區錦町一丁目十九番地






EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 02963 2403